

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
設置者	コリツダガクカホジシ カサワダガク 国立大学法人 金沢大学								
大学の名称	カサワダガク 金沢大学 (Kanazawa University)								
大学本部の位置	石川県金沢市角間町								
大学の目的	金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	文理融合型のカリキュラム編成の下、プログラミング、制御工学等における基礎的な技術と、Society5.0に代表される現代社会における数理・データサイエンスや産業、金融などに係る知見により、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	融合学域 [College of Transdisciplinary Sciences for Innovation] スマート創成科学類 [School of Smart Technology and Innovation] 計	4	20 20	3年次 20 3年次 20	120 120	学士（学術） [Bachelor of Arts and Sciences]	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	石川県金沢市角間町	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>【学士課程】</p> <p>融合学域 観光デザイン学類（入学定員5）（令和5年4月）</p> <p>人間社会学域 地域創造学類（入学定員△5）（令和5年4月）</p> <p>理工学域 <u>数物科学類〔定員減〕（入学定員△4）（令和5年4月）</u> <u>物質化学類〔定員減〕（入学定員△1）（令和5年4月）</u> <u>機械工学類〔定員減〕（入学定員△3）（令和5年4月）</u> <u>フロンティア工学類〔定員減〕（入学定員△4）（令和5年4月）</u> <u>電子情報通信学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和5年4月）</u> <u>地球社会基盤学類〔定員減〕（入学定員△4）（令和5年4月）</u> <u>生命理工学類〔定員減〕（入学定員△2）（令和5年4月）</u></p> <p>医薬保健学域 医学類〔収容定員変更〕（臨時定員増（12名）を維持）（令和4年9月意見伺い） 保健学類 <u>看護学専攻〔定員減〕（3年次編入学定員△4）（令和5年4月）</u> <u>診療放射線技術学専攻〔定員減〕（3年次編入学定員△3）（令和5年4月）</u> <u>検査技術科学専攻〔定員減〕（3年次編入学定員△3）（令和5年4月）</u></p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	融合学域スマート創成科学類	講義	演習	実験・実習	計				
		215科目	95科目	23科目	333科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	融合学域 スマート創成科学類	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人
		計	11 (11)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	99 (99)
			11 (11)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	— (—)
既設分	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	融合学域 先導学類	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任 人	
		14 (14)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	90 (90)	
観光デザイン学類		8 (9)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	16 (17)	0 (0)	110 (110)	

教 員 組 織 の 概 要	既 員	人間社会学域									
		人文学類	26 (26)	15 (15)	3 (3)	3 (3)	47 (47)	0 (0)	83 (83)		
		法学類	12 (12)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	74 (74)		
		経済学類	11 (11)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	86 (86)		
		学校教育学類共同教員養成課程	26 (26)	20 (20)	2 (2)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	108 (108)		
		地域創造学類	7 (7)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	81 (81)		
	設 置	組 織	理工学域								
			数物科学類	21 (21)	12 (12)	1 (1)	12 (12)	46 (46)	0 (0)	78 (78)	
			物質化学類	14 (14)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	35 (35)	0 (0)	87 (87)	
			機械工学類	15 (15)	16 (16)	1 (1)	6 (6)	38 (38)	0 (0)	227 (227)	
			フロンティア工学類	11 (11)	9 (9)	1 (1)	11 (11)	32 (32)	0 (0)	190 (190)	
			電子情報通信学類	13 (13)	16 (16)	1 (1)	1 (1)	31 (31)	0 (0)	207 (207)	
			地球社会基盤学類	15 (15)	14 (14)	1 (1)	7 (7)	37 (37)	0 (0)	101 (101)	
			生命理工学類	8 (8)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	26 (26)	0 (0)	227 (227)	
			分	概	医薬保健学域						
					医学類	53 (53)	48 (48)	10 (10)	43 (43)	154 (154)	0 (0)
	薬学類	12 (12)			13 (13)	0 (0)	16 (16)	41 (41)	0 (0)	81 (81)	
	医薬科学類	4 (4)			3 (3)	2 (2)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	192 (192)	
	保健学類	32 (32)			20 (20)	0 (0)	31 (31)	83 (83)	0 (0)	77 (77)	
		計	312 (313)	249 (249)	35 (35)	152 (152)	748 (749)	0 (0)	— (—)		
		合 計	323 (324)	253 (253)	38 (38)	155 (155)	769 (770)	0 (0)	— (—)		
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員		431 (431)	437 (437)	868 (868)						
	技 術 職 員		1,107 (1,107)	186 (186)	1,293 (1,293)						
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)	3 (3)	13 (13)						
	そ の 他 の 職 員		5 (5)	539 (539)	544 (544)						
	計		1,553 (1,553)	1,165 (1,165)	2,718 (2,718)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	校 舎 敷 地	730,408 m ²	0 m ²	0 m ²	730,408 m ²						
	運 動 場 用 地	115,740 m ²	0 m ²	0 m ²	115,740 m ²						
	小 計	846,148 m ²	0 m ²	0 m ²	846,148 m ²						
	そ の 他	1,717,530 m ²	0 m ²	0 m ²	1,717,530 m ²						
	合 計	2,563,678 m ²	0 m ²	0 m ²	2,563,678 m ²						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計							
	284,135 m ² (284,135 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	284,135 m ² (284,135 m ²)							
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設						
	162室	208室	1,180室	11室 (補助職員0人)	8室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数							
	融合学域 スマート創成科学類			21 室							

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学類単位で特定不能のため、大学全体の数量	
		冊	冊	種	種					
		電子ジャーナル 〔うち外国書〕								
	融合学域 スマート創成科学類	1,928,196 [680,849] (1,928,196 [680,849])	34,760 [12,152] (34,760 [12,152])	10,888 [9,388] (10,888 [9,388])	8,372 (8,372)	9,633 (9,633)	212 (212)			
	計	1,928,196 [680,849] (1,928,196 [680,849])	34,760 [12,152] (34,760 [12,152])	10,888 [9,388] (10,888 [9,388])	8,372 (8,372)	9,633 (9,633)	212 (212)			
図書館		面積 19,794 m ²		閲覧座席数 2,185		収納可能冊数 1,640,536			大学全体	
体育館		面積 6,295 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 可動屋根付プール (1,193m ²)		弓道場 (162m ²)				
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		共同研究費等	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
		図書購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	設備購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既設大学の 状況	大学の名称		金沢大学							
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
			年	人	年次人	人		倍		
	融合学域							1.08		石川県金沢市角間町
	先導学類		4	55	—	110	学士(学術)	1.06	令和3年度	
	観光デザイン科学類		4	15	—	15	学士(学術)	1.20	令和4年度	
	人間社会学域							1.02		石川県金沢市角間町
	人文学類		4	138	—	569	学士(文学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△4)
	法学類		4	150	3年次10	670	学士(法学)	1.01	平成20年度	令和4年度入学定員減(△3) 令和3年度入学定員減(△10) 令和4年度入学定員減(△10)
	経済学類		4	131	—	532	学士(経済学)	1.01	平成20年度	令和3年度入学定員減(△4)
	学校教育学類共同教員養成課程		4	85	—	85	学士(教育学)	1.02	令和4年度	
	地域創造学類		4	88	—	356	学士(地域創造学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
	国際学類		4	81	—	330	学士(国際学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2) 令和4年度入学定員減(△2)
	学校教育学類		4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成20年度	令和4年度より学生募集停止
	理工学域							1.02		石川県金沢市角間町
数物科学類		4	82	3年次5	342	学士(理学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)	
物質化学類		4	79	3年次4	328	学士(理学又は工学)	1.04	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)	
機械工学類		4	97	3年次10	414	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
フロンティア工学類		4	107	3年次5	444	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
電子情報通信学類		4	78	3年次7	330	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
地球社会基盤学類		4	98	3年次7	410	学士(理学又は工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
生命理工学類		4	58	3年次2	238	学士(理学又は工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△1)	
機械工学類		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
電子情報学類		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
環境デザイン学類		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	

既 設 大 学 の 状 況	医薬保健学域						1.01				
	医学類	6	112	2年次 5	697	学士（医学）	1.00	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1	令和3年度入学生定員増（30）	
	薬学類	6	65	—	270	学士（薬学）	1.04	平成20年度	石川県金沢市角間町		
	医薬科学類	4	18	—	36	学士（生命医科学又は創薬科学）	1.05	令和3年度	同上		
	保健学類						1.01	平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80		
	看護学専攻	4	79	3年次 4	338	学士（看護学）	1.00				令和3年度入学生定員減（△1）
	診療放射線技術学専攻	4	40	3年次 3	170	学士（保健学）	1.01				
	検査技術科学専攻	4	40	3年次 3	170	学士（保健学）	1.01				
	理学療法学専攻	4	15	3年次 5	80	学士（保健学）	1.09				令和3年度入学生定員減（△5）
	作業療法学専攻	4	15	3年次 5	80	学士（保健学）	1.05				令和3年度入学生定員減（△5）
	創薬科学類	4	—	—	—	学士（創薬科学）	—			令和3年度より学生募集停止	
	人間社会環境研究科								石川県金沢市角間町		
	人文学専攻 （博士前期課程）	2	23	—	46	修士（文学又は学術）	0.82	平成24年度			
	経済学専攻 （博士前期課程）	2	6	—	12	修士（経済学、経営学又は学術）	1.50	平成24年度			
	地域創造学専攻 （博士前期課程）	2	14	—	28	修士（地域創造学又は学術）	1.28	平成24年度			
	国際学専攻 （博士前期課程）	2	10	—	20	修士（国際学又は学術）	0.55	平成24年度			
	人間社会環境学専攻 （博士後期課程）	3	12	—	36	博士（社会環境学、文学、法学、政治学、経済学又は学術）	1.08	平成18年度			
	法学・政治学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（法学又は政治学）	—	平成24年度		令和2年度より学生募集停止	

既 設 大 学 等 の 状 況	自然科学研究科								石川県金沢市角間町	
	数物科学専攻									
	(博士前期課程)	2	59	—	115	修士(理学又は学術)	1.04	平成24年度		令和4年度入学定員増(3)
	(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(理学又は学術)	0.57	平成16年度		
	物質化学専攻									
	(博士前期課程)	2	63	—	120	修士(理学,工学又は学術)	1.04	平成24年度		令和4年度入学定員増(6)
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(理学,工学又は学術)	0.44	平成26年度		
	機械科学専攻									
	(博士前期課程)	2	72	—	72	修士(工学又は学術)	0.90	平成24年度		
	フロンティア工学専攻									
	(博士前期課程)	2	83	—	83	修士(工学又は学術)	1.08	平成24年度		
	電子情報通信学専攻									
	(博士前期課程)	2	63	—	63	修士(工学又は学術)	1.03	平成24年度		
	地球社会基盤学専攻									
	(博士前期課程)	2	69	—	69	修士(工学又は学術)	0.81	平成24年度		
	生命理工学専攻									
	(博士前期課程)	2	41	—	41	修士(工学又は学術)	0.92	平成24年度		
	機械科学専攻									
	(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士(工学又は学術)	0.44	平成26年度		
電子情報科学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	18	—	54	博士(工学又は学術)	0.42	平成16年度			
環境デザイン学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(工学又は学術)	0.83	平成26年度			
自然システム学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学,工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(理学,工学又は学術)	0.44	平成26年度			
	医薬保健学総合研究科									
	医科学専攻									
	(修士課程)	2	15	—	30	修士(医科学)	0.93	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	
	医学専攻									
	(博士課程)	4	64	—	256	博士(医学)	1.02	平成28年度	同上	
	薬学専攻									
	(博士課程)	4	4	—	16	博士(薬学又は学術)	0.81	平成24年度	石川県金沢市角間町	
	創薬科学専攻									
	(博士前期課程)	2	38	—	76	修士(創薬科学)	0.99	平成24年度	同上	
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(創薬科学又は学術)	1.06	平成24年度		

既 設 大 学 の 状 況	保健学専攻 (博士前期課程)	2	70	—	140	修士(保健学)	0.75	平成24年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士(保健学)	0.81	平成24年度		
	脳医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成28年度より学生募集停止
	がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	循環医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	環境医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	医学系研究科 がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止
	循環医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学, 医薬学又は学術)	—	平成13年度		平成24年度より学生募集停止
	環境医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学又は学術)	—	平成13年度		平成24年度より学生募集停止
	先進予防医学研究科 先進予防医学共同専攻 (博士課程)	4	12	—	48	博士(医学)	0.95	平成28年度	石川県金沢市宝町13-1	
新 学 術 創 成 研 究 科	融合科学共同専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(融合科学)	1.03	平成30年度	石川県金沢市角間町	
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(融合科学, 理学又は工学)	0.18	令和2年度		
	ナノ生命科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士(ナノ科学)	1.66	令和2年度		
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(ナノ科学)	1.44	令和2年度		
法 学 研 究 科	法学・政治学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(法学又は政治学)	0.45	令和2年度	石川県金沢市角間町	
	法務専攻 (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士(専門職)	0.73	平成16年度		
教 職 実 践 研 究 科	教職実践高度化専攻 (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士(専門職)	0.96	平成28年度	石川県金沢市角間町	

附属施設の概要	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、幼稚園教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地3,717㎡ 建物925㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、小学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,757㎡ 建物7,545㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、中学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地26,470㎡ 建物7,524㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、高等普通教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、本学学生で高等学校教員となることを志望するものに教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,932㎡ 建物6,273㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、特別支援学校の教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市東兼六町2-10 設置年月：昭和39年4月 規模等：土地10,517㎡ 建物4,813㎡</p>
	<p>名称：金沢大学附属病院 目的：医学の教育、研究及び診療を行う。 所在地：石川県金沢市宝町13-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地68,957㎡ 建物89,936㎡</p>
	<p>名称：金沢大学附属図書館 目的：教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供する。 所在地：石川県金沢市角間町（中央図書館及び自然科学系図書館） 石川県金沢市宝町13-1（医学図書館） 石川県金沢市小立野5-11-80（保健学類図書館） 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地12,302㎡ 建物19,793㎡</p>
	<p>名称：金沢大学がん進展制御研究所 目的：全国共同利用・共同研究拠点として唯一のがん研究に特化した拠点としての活動を推進するとともに、大学院医薬保健学総合研究科大学院生の研究指導の協力をを行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地3,353㎡ 建物5,035㎡</p>
	<p>名称：金沢大学医薬保健学域薬学類附属薬用植物園 目的：薬学生教育の場として、生薬や薬用植物に対する知識を深めるため、薬用植物の観察、栽培、収穫などの実習を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地21,766㎡ 建物150㎡</p>
	<p>名称：金沢大学ナノ生命科学研究所 目的：革新的ナノ計測技術を発展させるための技術開発と、それらの技術を用いた様々な生命現象の根本的な理解を目指す新学問領域「ナノプローブ生命科学」を創出するとともに、大学院新学術創成研究科大学院生の研究指導の協力をを行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：平成29年10月 規模等：土地2,938㎡ 建物6,840㎡</p>

名 称	：金沢大学理工学域能登海洋水産センター
目 的	：海洋生物資源の基礎及び応用研究を行う学生及び研究者の拠点として、 海に隣接した滞在型の教育研究環境を提供するとともに、水産資源確保 技術の高度化のための研究を推進する。
所 在 地	：石川県鳳珠郡能都町字越坂11-4-1
設置年月	：平成31年4月
規 模 等	：土地6,822㎡ 建物2,300㎡

金沢大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	転学 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	転学 定員	変更の事由
金沢大学				金沢大学				
融合学域				融合学域				
先導学類	55	3年次25	270	先導学類	55	3年次25	270	
観光デザイン学類	15	3年次15	90	観光デザイン学類	20	3年次15	110	定員変更(入学定員5)
				スマート創成科学類	20	3年次20	120	
人間社会学域				人間社会学域				
人文学類	138	-	552	人文学類	138	-	552	
法学類	150	-	600	法学類	150	-	600	
経済学類	131	-	524	経済学類	131	-	524	
学校教育学類共同教員養成課程	85	-	340	学校教育学類共同教員養成課程	85	-	340	
地域創造学類	88	-	352	地域創造学類	83	-	332	定員変更(入学定員Δ5)
国際学類	81	-	324	国際学類	81	-	324	
理工学域				理工学域				
数物科学類	82	3年次5	338	数物科学類	78	3年次5	322	定員変更(入学定員Δ4)
物質化学類	79	3年次4	324	物質化学類	78	3年次4	320	定員変更(入学定員Δ1)
機械工学類	97	3年次10	408	機械工学類	94	3年次10	396	定員変更(入学定員Δ3)
フロンティア工学類	107	3年次5	438	フロンティア工学類	103	3年次5	422	定員変更(入学定員Δ4)
電子情報通信学類	78	3年次7	326	電子情報通信学類	76	3年次7	318	定員変更(入学定員Δ2)
地球社会基盤学類	98	3年次7	406	地球社会基盤学類	94	3年次7	390	定員変更(入学定員Δ4)
生命理工学類	58	3年次2	236	生命理工学類	56	3年次2	228	定員変更(入学定員Δ2)
医薬保健学域				医薬保健学域				
医学類	112	2年次5	637	医学類	112	2年次5	637	収容定員変更(意見伺い予定) (臨時定員増(12名)を維持(令和5年度))
薬学類	65	-	390	薬学類	65	-	390	
医薬科学類	18	-	72	医薬科学類	18	-	72	
保健学類	189	3年次20	796	保健学類	189	3年次10	776	
看護学専攻	79	3年次4	324	看護学専攻	79	-	316	定員変更(編入学定員Δ4)
診療放射線技術学専攻	40	3年次3	166	診療放射線技術学専攻	40	-	160	定員変更(編入学定員Δ3)
検査技術科学専攻	40	3年次3	166	検査技術科学専攻	40	-	160	定員変更(編入学定員Δ3)
理学療法学専攻	15	3年次5	70	理学療法学専攻	15	3年次5	70	
作業療法学専攻	15	3年次5	70	作業療法学専攻	15	3年次5	70	
計	1,726	2年次5 3年次 100	7,423	計	1,726	2年次5 3年次 110	7,443	
人間社会環境研究科				人間社会環境研究科				
人文学専攻(M)	23	-	46	人文学専攻(M)	23	-	46	
経済学専攻(M)	6	-	12	経済学専攻(M)	6	-	12	
地域創造学専攻(M)	14	-	28	地域創造学専攻(M)	14	-	28	
国際学専攻(M)	10	-	20	国際学専攻(M)	10	-	20	
人間社会環境学専攻(D)	12	-	36	人間社会環境学専攻(D)	12	-	36	
自然科学研究科				自然科学研究科				
数物科学専攻(M)	59	-	118	数物科学専攻(M)	59	-	118	
数物科学専攻(D)	15	-	45	数物科学専攻(D)	15	-	45	
物質化学専攻(M)	63	-	126	物質化学専攻(M)	63	-	126	
物質化学専攻(D)	14	-	42	物質化学専攻(D)	14	-	42	
機械科学専攻(D)	25	-	75	機械科学専攻(D)	25	-	75	
電子情報科学専攻(D)	18	-	54	電子情報科学専攻(D)	18	-	54	
環境デザイン学専攻(D)	10	-	30	環境デザイン学専攻(D)	10	-	30	
自然システム学専攻(D)	21	-	63	自然システム学専攻(D)	21	-	63	
機械科学専攻(M)	72	-	144	機械科学専攻(M)	72	-	144	
フロンティア工学専攻(M)	83	-	166	フロンティア工学専攻(M)	83	-	166	
電子情報通信学専攻(M)	63	-	126	電子情報通信学専攻(M)	63	-	126	
地球社会基盤学専攻(M)	69	-	138	地球社会基盤学専攻(M)	69	-	138	
生命理工学専攻(M)	41	-	82	生命理工学専攻(M)	41	-	82	
医薬保健学総合研究科				医薬保健学総合研究科				
医科学専攻(M)	15	-	30	医科学専攻(M)	15	-	30	
医学専攻(D)	64	-	256	医学専攻(D)	64	-	256	
薬学専攻(D)	4	-	16	薬学専攻(D)	4	-	16	
創薬科学専攻(M)	38	-	76	創薬科学専攻(M)	38	-	76	
創薬科学専攻(D)	11	-	33	創薬科学専攻(D)	11	-	33	
保健学専攻(M)	70	-	140	保健学専攻(M)	70	-	140	
保健学専攻(D)	25	-	75	保健学専攻(D)	25	-	75	
新学術創成研究科				新学術創成研究科				
融合科学共同専攻(M)	14	-	28	融合科学共同専攻(M)	14	-	28	
融合科学共同専攻(D)	14	-	42	融合科学共同専攻(D)	14	-	42	
ナノ生命科学専攻(M)	6	-	12	ナノ生命科学専攻(M)	6	-	12	
ナノ生命科学専攻(D)	6	-	18	ナノ生命科学専攻(D)	6	-	18	
先進予防医学研究科				先進予防医学研究科				
先進予防医学共同専攻(D)	12	-	48	先進予防医学共同専攻(D)	12	-	48	
法学研究科				法学研究科				
法学・政治学専攻(M)	8	-	16	法学・政治学専攻(M)	8	-	16	
法務専攻(P)	15	-	45	法務専攻(P)	15	-	45	
教職実践研究科				教職実践研究科				
教職実践高度化専攻(P)	15	-	30	教職実践高度化専攻(P)	15	-	30	
計	935	-	2,216	計	935	-	2,216	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設了学部等の学年進行情況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
融合学域 先導学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係 工学関係 保健衛生学関係	融合学域先導学類	23	14	融合学域 スマート創成科学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 工学関係	融合学域観光デザイン学類	1	1
									人間社会学域地域創造学類	2	1
									理工学域機械工学類	1	1
									理工学域フロンティア工学類	6	5
									医薬保健学域保健学類	1	0
			計						23	14	計
融合学域 観光デザイン学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係	融合学域観光デザイン学類	16	8	融合学域 先導学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係 工学関係 保健衛生学関係	融合学域先導学類	23	14
			融合学域スマート創成科学類	1	1						
			計	17	9				計	23	14
人間社会学域 地域創造学類	学士 (地域創造学)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係	人間社会学域地域創造学類	16	7	融合学域 観光デザイン学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係	融合学域観光デザイン学類	17	9
			融合学域スマート創成科学類	2	1						
			計	17	8				計	17	9
理工学域 機械工学類	学士 (工学)	工学関係	理工学域機械工学類	38	15	人間社会学域 地域創造学類	学士 (地域創造学)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係	人間社会学域地域創造学類	16	7
			融合学域スマート創成科学類	1	1						
			計	39	16				計	16	7
理工学域 フロンティア工学類	学士 (医学)	工学関係	理工学域機械工学類	32	11	理工学域 機械工学類	学士 (工学)	工学関係	理工学域機械工学類	38	15
			融合学域スマート創成科学類	6	5						
			計	38	16				計	38	15
医薬保健学域 保健学類	学士 (看護学, 保健学)	保健衛生学関係	医薬保健学域保健学類	83	32	理工学域 フロンティア工学類	学士 (医学)	工学関係	理工学域機械工学類	32	11
			融合学域スマート創成科学類	1	0						
			計	84	32				計	32	11
(以下、設置前後の状況が一致するため省略)						医薬保健学域 保健学類	学士 (看護学, 保健学)	保健衛生学関係	医薬保健学域保健学類	83	32
計	83	32	計	83	32						

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和24年5月	法文学部法学科・文学科 設置	法学, 文学	設置認可(学部)
	工学部機械工学科, 電気工学科 設置	工学	設置認可(学部)
昭和40年4月	法文学部経済学科 設置	経済学	設置認可(学科)
昭和55年4月	文学部行動科学科・史学科・文学科, 法学部法学科, 経済学部経済学科 設置	文学, 法学, 経済学	設置認可(学部)
平成8年4月	工学部機能機械工学科, 人間・機械工学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成12年4月	工学部電気電子システム工学科, 情報システム工学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成20年4月	人間社会学域経済学類, 地域創造学類 設置	文学, 法学, 経済学, 社会学・社会福祉学, 体育	設置届出(学部)
	理工学域機械工学類, 電子情報学類 設置	工学	設置届出(学部)
平成30年4月	理工学域フロンティア工学類 設置	工学	設置届出(学科)
令和3年4月	融合学域先導学類 設置	経済学, 社会学・社会福祉学, 工学, 保健衛生学	認可届出(学部)
令和4年4月	融合学域観光デザイン学類 設置	社会学・社会福祉学	設置届出(学科)
令和5年4月	融合学域スマート創成科学類 設置	社会学・社会福祉学, 工学	設置届出(学科)

教育課程等の概要															
（融合学域スマート創成科学類）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1						
	データサイエンス基礎	1①	1			○						1			
	地域概論	1②	1			○								兼2 共同	
	小計（3科目）	—	3	0	0	—			1	0	0	1	0	兼2 —	
GS科目 共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る）	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	1			○							兼1	
	2群（自己を鍛える）	哲学（自我論）	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		健康科学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	1			○							兼2 共同	
	3群（観を表現する）	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	1					○					兼1	
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		芸術と自己表現	1①・②・③・④	1			○							兼1	
	4群（世界とつながる）	スポーツ科学	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	1			○							兼1	
		日本史・日本文化	1②・③・④	1			○							兼3	
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		異文化体験A	1②・④	1					○					兼1 集中	
		異文化体験B	1②・④	2					○					兼1 集中	
		異文化体験C	1②・④	3					○					兼1 集中	
		異文化体験D	1②・④	4					○					兼1 集中	
		異文化体験E	1②・④	5					○					兼1 集中	
		異文化体験F	1②・④	6					○					兼1 集中	
		異文化体験G	1②・④	7					○					兼1 集中	
	5群（未来の課題に取り組む）	異文化体験H	1②・④	8					○					兼1 集中	
		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		環境学とESD	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		生活と社会保障	1①・②・③・④	1			○					1		兼1	
		現代社会と人権	1①・②・③・④	1			○							兼1	
		6群（新しい社会を生きる）	インテグレート科学	1①・②・③・④	1			○							兼1
			AI入門	1①・②・③・④	1			○				1			兼1
	情報の科学		1①・②・③・④	1			○							兼1	
	デザイン思考入門		1①・②・③・④	1			○							兼1	
	論理学と数学の基礎		1①・②・③・④	1			○							兼1	
	小計（38科目）	—	0	66	0	—			0	0	1	1	0	兼32 —	
GS言語科目（英語）	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1	
	TOEIC準備（演習）	2①・②・③・④	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④	1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○									兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○									兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1	
	上級読解 I A	1①		1		○									兼1	
	上級読解 I B	1②		1		○									兼1	
	上級読解 II A	1③		1		○									兼1	
	上級読解 II B	1④		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
小計 (26科目)	—	10	16	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼7	—	
基礎科目	微分積分学 I A	1①		1		○									兼1	
	微分積分学 I B	1②		1		○									兼1	
	微分積分学 II A	1③		1		○									兼1	
	微分積分学 II B	1④		1		○									兼1	
	線形代数学 I A	1①		1		○									兼1	
	線形代数学 I B	1②		1		○									兼1	
	線形代数学 II A	1③		1		○									兼1	
	線形代数学 II B	1④		1		○									兼1	
	統計数学A	1③		1		○									兼1	
	統計数学B	1④		1		○									兼1	
	物理学 I A	1①		1		○									兼1	
	物理学 I B	1②		1		○									兼1	
	物理学 II A	1③		1		○									兼1	
	物理学 II B	1④		1		○									兼1	
	化学 I A	1①		1		○									兼1	
	化学 I B	1②		1		○									兼1	
	化学 II A	1③		1		○									兼1	
	化学 II B	1④		1		○									兼1	
小計 (18科目)	—	0	18	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	—	
初習言語科目	ドイツ語 A 1-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 1-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 2-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 2-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 3-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 3-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 4-1	1①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語 A 4-2	1②・④		1		○									兼1	
	ドイツ語 B-1	2①		1		○									兼1	
	ドイツ語 B-2	2②		1		○									兼1	
	ドイツ語 C-1	2①・③		1		○									兼1	
	ドイツ語 C-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語 A 1-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語 A 1-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語 A 2-1	1①		1		○									兼1	
	フランス語 A 2-2	1②		1		○									兼1	
	フランス語 A 3-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語 A 3-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語 A 4-1	1③		1		○									兼1	
	フランス語 A 4-2	1④		1		○									兼1	
	フランス語 B-1	2①・③		1		○									兼1	
	フランス語 B-2	2②・④		1		○									兼1	
	フランス語 C-1	2③		1		○									兼1	
	フランス語 C-2	2④		1		○									兼1	
ロシア語 A 1-1	1①		1		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A1-2		1			○								兼1	
		ロシア語A2-1		1			○								兼1	
		ロシア語A2-2		1			○								兼1	
		ロシア語A3-1		1			○								兼1	
		ロシア語A3-2		1			○								兼1	
		ロシア語A4-1		1			○								兼1	
		ロシア語A4-2		1			○								兼1	
		ロシア語B-1		2①・③		1		○								兼1
		ロシア語B-2		2②・④		1		○								兼1
		ロシア語C-1		2①・③		1		○								兼1
		ロシア語C-2		2②・④		1		○								兼1
		中国語A1-1		1①		1		○								兼1
		中国語A1-2		1②		1		○								兼1
		中国語A2-1		1①		1		○								兼1
		中国語A2-2		1②		1		○								兼1
		中国語A3-1		1③		1		○								兼1
		中国語A3-2		1④		1		○								兼1
		中国語A4-1		1③		1		○								兼1
		中国語A4-2		1④		1		○								兼1
		中国語B-1		2①・③		1		○								兼1
		中国語B-2		2②・④		1		○								兼1
		中国語C-1		2③		1		○								兼1
		中国語C-2		2④		1		○								兼1
		スペイン語A1-1		1①		1		○								兼1
		スペイン語A1-2		1②		1		○								兼1
		スペイン語A2-1		1①		1		○								兼1
		スペイン語A2-2		1②		1		○								兼1
		スペイン語A3-1		1③		1		○								兼1
		スペイン語A3-2		1④		1		○								兼1
		スペイン語A4-1		1③		1		○								兼1
		スペイン語A4-2		1④		1		○								兼1
		スペイン語B-1		2①		1		○								兼1
	スペイン語B-2		2②		1		○								兼1	
	スペイン語C-1		2③		1		○								兼1	
	スペイン語C-2		2④		1		○								兼1	
	日本語A1-1		1①		1		○								兼1	
	日本語A1-2		1②		1		○								兼1	
	日本語A2-1		1①		1		○								兼1	
	日本語A2-2		1②		1		○								兼1	
	日本語A3-1		1③		1		○								兼1	
	日本語A3-2		1④		1		○								兼1	
	日本語A4-1		1③		1		○								兼1	
	日本語A4-2		1④		1		○								兼1	
	小計(68科目)		—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
	自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2		○								兼1	
		石川県の市町	1①～②		2		○								兼1	
		健康論実践D	1④		1				○						兼1	
		健康論実践E	1④		1				○						兼1	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1		○								兼1	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1		○								兼1	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○								兼1	
		シェルスクリプト言語論1	1①～②		2		○								兼1	
		シェルスクリプト言語論2	1③～④		2		○								兼1	
		地元学A(地域資源調査)	1①		1		○								兼1	
		地元学B(聞き書き)	1②		1		○								兼1	
		シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○							兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	香りと日本文化	1③	1		○									兼1	集中
		心と体の健康A	1③	1		○									兼1	
		心と体の健康B	1④	1		○									兼1	
		未来デザインプラクティス	1①・②・④	1				○							兼1	
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1		○									兼1	
		金沢の歴史と文化	1③～④	2			○								兼1	
		日本の伝統芸能	1②	1			○								兼1	
		地域創造学特別講義C	1③	1			○								兼1	
		地域創造学特別講義D	1④	1			○								兼1	
		日本国憲法概説	1③	2			○								兼1	
		日本史要説	2①～②	2			○								兼1	
		東洋史要説	2③～④	2			○								兼1	
		ソーシャルビジネス概論	1①	1			○								兼1	
		行政学の基礎	1①	2			○								兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 春編	1①	1				○							兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 秋編	1③	1				○							兼1	
		コーヒーと社会	1③	1			○								兼1	
		コーヒーと科学	1④	1			○								兼1	
		能登・地域活性化演習Ⅰ	1②	1			○								兼1	
		能登・地域活性化演習Ⅱ	1②	1			○								兼1	
		地学実験	1②～③	2					○						兼1	
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1	
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1	集中
		地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①	1			○								兼1	
		地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②	1			○								兼1	
		ローカルキャリアデザインⅠ	1②	1			○								兼1	
		ローカルキャリアデザインⅡ	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1	
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1	
		Society 5.0 概論A	1①	1			○								兼1	
		Society 5.0 概論B	1②	1			○								兼1	
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○								兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1	
		小計(67科目)	—	0	80	0	—				0	0	0	0	0	兼33
共通教育科目計(220科目)		—	13	248	0	—			1	0	1	1	0	兼78	—	
専門教育科目	学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1			○		1							
		プレゼン・ディベート論	1②	1			○		1							
		デザイン思考	1②	1			○				1					
		イノベーション基礎	1③	1			○								兼1	
		数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2				○					1		兼1	
		小計(5科目)	—	6	0	0	—			2	0	1	1	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
語学領域 科目	学域GS言語科目Ⅰ／海外実践英語	2①・②	1			○									兼1	
	学域GS言語科目Ⅱ／時事・学術英語	3①・②	1			○									兼1	
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		兼1	
実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1			○			1							
	アントレプレナー演習Ⅰ	2①	1				○		1							
	産業DX・PBL演習Ⅰ	2①	1				○					1				
	社会調査法	2①		1		○			1						兼1	
	数理学探求	2①		1		○									兼1	
	アントレプレナー演習Ⅱ	2②	1				○		1							
	産業DX・PBL演習Ⅱ	2②	1				○					1				
	データ解析演習	2②		1			○								兼2 共同	
	地方創生に見る社会課題	2②		1		○					1					
	スマートデバイス演習	2③		1		○				1						
	北陸地域創生と社会学	2③		1		○			1						兼1 共同	
	数理・データサイエンス・AI実践	2③		1		○						1				
	プログラミングスキル	2③		1		○									兼1	
	Webサイト設計基礎	2④		1		○									兼1	
	データ駆動型社会と産業	2④		1		○						1			兼1 共同	
	プログラミングスキル実践	3①		1		○			1							
	アプリ開発	3②		1		○									兼1	
小計(17科目)	—	5	12	0	—			4	1	1	2	0		兼7		
専門基礎科目	テクノロジー基礎	1④		1		○			1						兼4 オムニバス	
	ファイナンス基礎	1④		1		○									兼1	
	ロボットイノベーション	2①		1		○				1						
	スマート創成化学とバイオロジー	2①		1		○			1	1					オムニバス	
	技術社会と倫理	2①		1		○			1							
	フィンテック基礎とビジネス応用	2①		1		○					1				兼1	
	マーケティング論	2①		2		○					1					
	北陸技術経営論	2①	1			○					1					
	AIと未来の社会学	2②	1			○				1		1			共同	
	未来エネルギー創成	2②		1		○						1			兼1 共同	
	超スマートシティとSociety 5.0	2②	1			○			1							
	社会変動と労働生産性	2③		1		○									兼1	
	世界の課題と技術トレンド	2③		1		○			1							
	SDGs基礎	2③		1		○									兼1	
	IoT技術	2③	1			○									兼1	
	金融工学	2③		1		○									兼1	
	情報科学応用	2③		1		○			1							
	社会と工学における最適化	2③		1		○									兼1	
	数理行動モデル基礎	2④		1		○					1					
	スマートシステム制御	2④		1		○			1							
北陸の都市・農村・文化	2④		1		○			1						兼1 共同		
北陸の農林水産・製造業	2④		1		○			1						兼1 共同		
消費生活論	2④		1		○			2								
コンピュータとデジタル回路	3①		1		○									兼1		
イノベーション・マネジメント	3④		1		○									兼1		
小計(25科目)	—	4	22	0	—			7	2	2	2	0		兼10		
専門科目	学知科目	先端医学	2④		1		○								兼1	
		未来医科学	2④		1		○								兼1	
		QOLとWell-being	2④		1		○			1						
		人間拡張とライフ	3①		1		○			1	1				オムニバス	
		地域の居住空間デザイン	3①		1		○					1				
		ヒューマンインターフェース	3①		1		○								兼2 共同	
		生活デザイン論	3②		1		○								兼1	
		超高齢社会と科学技術	3②		1		○				1					
		地域包括ケアと地方創生	3②		1		○						1			兼1 共同
		生活行動とアクティビティ	3②		1		○			1						
未来型ヘルスケアシステム	3③		1		○						1			兼1 共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	スマートライフコアエリア	人間工学	3③		1		○				1						
		健康スポーツ栄養学	3③		1		○			1							
		スマートウエルネス	3③		1		○				1						
		レギュラトリーサイエンス	3④		1		○				1						
		AI・IoT健康福祉学	3④		1		○						1			兼1	共同
		フィジカル・ブレイン接続	3④		1		○							1		兼1	
	ヘルステック	3④		1		○					1						
	スマート産業コアエリア	スマート産業論	2③		1		○				1						
		消費者行動と社会	2③		1		○					1					
		実践データサイエンス	2④		1		○									兼1	
		画像認識と機械学習	3①		1		○				1						
		スマートセンシング	3①		1		○				1						
		カーボンニュートラル技術	3①		1		○				1						
		統計的学習理論	3②		1		○					1					
		デジタル生産工学	3②		1		○				1						
		知的財産法	3②		2		○									兼1	
		スマートシステム制御応用	3③		1		○				1						
		スマート資金とビジネス応用	3③		1		○									兼1	
		自律ロボット	3③		1		○					1					
		産業とユニバーサルデザイン	3③		1		○						1				
		拡張・リアリティ空間デザイン	3③		1		○									兼1	
	次世代情報通信	3④		1		○					1						
	エネルギーハーベスティング	3④		1		○					1						
	コンピュータと電子回路	3④		1		○									兼1		
	生産者の社会責任	4①		1		○					1						
	スマート社会コアエリア	SDGs実践	2④		1		○									兼1	
		実践スマートシティ論	2④		1		○				1		1				オムニバス
		ナショナルレジリエンス	3①		1		○							1			
		Web・クチコミ社会動向分析	3①		1		○									兼1	
		デジタルエコノミーと地域展開	3①		1		○									兼1	
		都市・地域工学	3②		1		○									兼1	
		スマートモビリティと自動運転	3②		1		○				1						
		都市・交通デザイン	3②		1		○						1				
		社会システム工学	3②		1		○									兼1	
		エビデンスベース政策論	3②		1		○							1			
		ソーシャルイノベーション	3③		1		○									兼1	
社会的合意形成論		3③		1		○					1						
デジタルツインと危機管理		3③		1		○							1				
低炭素社会		3④		1		○					1						
スマートサプライチェーン		3④		1		○						1					
スマートインフラマネジメント		3④		1		○									兼1		
ネットワーク・メカニズムデザイン	3④		1		○									兼2	共同		
フューチャーデザイン	3④		1		○					1							
小計 (54科目)	—	0	55	0	—				10	4	3	3	0	兼19			
鍛練科目	北陸産業インターンシップ I	3②～③	1					○		1							
	北陸産業インターンシップ II	3②～③		1				○		1							
	スマート創成プロジェクト鍛練 I	4①～②		1				○		11	4	3	3				
	スマート創成プロジェクト鍛練 II	4①～②		1				○		11	4	3	3				
	海外実践留学	3③～④		1				○							兼1		
	国際インターンシップ	3③～④		1				○							兼1		
	数理・データサイエンス・AI鍛練	4①		1				○							兼1		
小計 (7科目)	—	1	6	0	—				11	4	3	3	0	兼3			
確立科目	融合研究	4①～④		8				○		1							
	融合演習	4①～④		8				○		1							
	融合試験	4①～④		8				○		1							
	小計 (3科目)	—	0	24	0	—				3	0	0	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
合計 (333科目)		—	31	367	0	—			11	4	3	3	0	兼99
学位又は称号		学士 (学術)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係, 工学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>【卒業要件】 以下の要件を満たし、合計124単位以上（融合試験履修者は130単位以上）を修得した者。 ・共通教育科目において導入科目から3単位、GS科目に配置する1群から5群の各群から2単位以上、6群から3単位を含む計15単位、GS言語科目から8単位、基礎科目から8単位を含め、計36単位以上を修得。 ・専門教育科目において学域GS科目6単位、学域GS言語科目2単位、実践科目から必修5単位を含め13単位、基盤科目から必修4単位を含め19単位、学知科目から26単位（同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む）、鍛練科目から必修1単位を含め4単位、確立科目から8単位を含め、計88単位以上（融合試験履修者は94単位以上）を修得。</p> <p>【履修方法】 本学類では、学生が取り組む未来の科学を創成するための課題は多様、かつ、広範囲となることから、学生は自らが設定する社会課題に必要な知見、技術を偏りなく学ぶようにするため、卒業要件を科目区分ごとに工学と社会学の両方の授業科目を必ず履修するよう設定しており、学生は工学及び社会学の両方から体系的に履修する仕組みとなっている。また、複数回、指導教員と面談し、「学びの計画書」を作成しながら授業科目を履修する。具体的には、共通教育科目の履修を終え、実践科目や基盤科目の履修を開始する1年次第4クォーターから2年次第2クォーターの段階で、自らの課題設定にあった基礎的な科目を工学、社会学の両方を偏りなく学ぶことができるように「学びの計画書Ⅰ」を作成し、授業科目を履修する。その後、2年次の第4クォーターから3年次の第1クォーターにかけ、より専門的な授業科目である、学知科目及び鍛練科目を学ぶにあたり、履修指導を受けて「学びの計画書Ⅱ」を作成し、必要に応じて、新たな分野の基礎的な知見を養うバックキャスト型学修等の指導を受け、必要な授業科目を履修する。3年次第4クォーターから4年次第2クォーターにかけて卒業研究・演習に関する指導を受けるとともに、異なる分野の専門家や起業家からの指導も受ける。</p>						1 学年の学期区分		4 期						
						1 学期の授業期間		8 週						
						1 時限の授業時間		90 分						

教育課程等の概要														
(【既設】融合学域先導学類)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					
	データサイエンス基礎	1①	1			○			1					
	地域概論	1②	1			○			2					
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			4	0	0	0	0	—
共通教育科目 GS科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○			1				
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○							兼1
	2群(自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○							兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○			1				兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○							兼2
		細胞・分子生物学 エクササイズ&スポーツ実技	1①・②・③・④		1		○		○					兼1
	3群(表現・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○							兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○							兼1
		スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
	4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○							兼1
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○							兼3
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○					1		兼1
		異文化体験A	1②・④		1				○					兼1
		異文化体験B	1②・④		2				○					兼1
		異文化体験C	1②・④		3				○					兼1
		異文化体験D	1②・④		4				○					兼1
		異文化体験E	1②・④		5				○					兼1
		異文化体験F	1②・④		6				○					兼1
		異文化体験G	1②・④		7				○					兼1
異文化体験H		1②・④		8				○					兼1	
5群(未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	環境学とESD	1①・②・③・④		1		○			1					
	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○							兼1	
6群(新しい社会を生きる)	インテグレート科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	AI入門	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○					1		兼2	
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	小計(38科目)	—	0	66	0	—			1	2	0	1	0	兼32
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○							兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○							兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○							兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○							兼1	
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○							兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
GS言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○									兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○									兼1		
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1		
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1		
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1		
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1		
	上級読解I A	1①		1		○									兼1		
	上級読解I B	1②		1		○									兼1		
	上級読解II A	1③		1		○									兼1		
	上級読解II B	1④		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1		
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1		
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
	小計(26科目)	—		10	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
	基礎科目	微分積分学I A	1①		1		○									兼1	
		微分積分学I B	1②		1		○									兼1	
		微分積分学II A	1③		1		○									兼1	
微分積分学II B		1④		1		○									兼1		
線形代数学I A		1①		1		○									兼1		
線形代数学I B		1②		1		○									兼1		
線形代数学II A		1③		1		○									兼1		
線形代数学II B		1④		1		○									兼1		
物理学I A		1①		1		○									兼1		
物理学I B		1②		1		○									兼1		
物理学II A		1③		1		○									兼1		
物理学II B		1④		1		○									兼1		
化学I A		1①		1		○									兼1		
化学I B		1②		1		○									兼1		
化学II A	1③		1		○									兼1			
化学II B	1④		1		○									兼1			
小計(16科目)	—		0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—	
初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1			○								兼1		
	ドイツ語A1-2	1②・④		1			○								兼1		
	ドイツ語A2-1	1①・③		1			○								兼1		
	ドイツ語A2-2	1②・④		1			○								兼1		
	ドイツ語A3-1	1①・③		1			○								兼1		
	ドイツ語A3-2	1②・④		1			○								兼1		
	ドイツ語A4-1	1①・③		1			○								兼1		
	ドイツ語A4-2	1②・④		1			○								兼1		
	ドイツ語B-1	2①		1			○								兼1		
	ドイツ語B-2	2②		1			○								兼1		
	ドイツ語C-1	2①・③		1			○								兼1		
	ドイツ語C-2	2②・④		1			○								兼1		
	フランス語A1-1	1①		1			○								兼1		
	フランス語A1-2	1②		1			○								兼1		
	フランス語A2-1	1①		1			○								兼1		
	フランス語A2-2	1②		1			○								兼1		
	フランス語A3-1	1③		1			○								兼1		
	フランス語A3-2	1④		1			○								兼1		
	フランス語A4-1	1③		1			○								兼1		
	フランス語A4-2	1④		1			○								兼1		
	フランス語B-1	2①・③		1			○								兼1		
	フランス語B-2	2②・④		1			○								兼1		
	フランス語C-1	2③		1			○								兼1		
フランス語C-2	2④		1			○								兼1			
ロシア語A1-1	1①		1			○								兼1			
ロシア語A1-2	1②		1			○								兼1			
ロシア語A2-1	1①		1			○								兼1			
ロシア語A2-2	1②		1			○								兼1			
ロシア語A3-1	1③		1			○								兼1			
ロシア語A3-2	1④		1			○								兼1			
ロシア語A4-1	1③		1			○								兼1			
ロシア語A4-2	1④		1			○								兼1			
ロシア語B-1	2①・③		1			○								兼1			
ロシア語B-2	2②・④		1			○								兼1			
ロシア語C-1	2①・③		1			○								兼1			
ロシア語C-2	2②・④		1			○								兼1			
中国語A1-1	1①		1			○								兼1			
中国語A1-2	1②		1			○								兼1			
中国語A2-1	1①		1			○								兼1			
中国語A2-2	1②		1			○								兼1			
中国語A3-1	1③		1			○								兼1			
中国語A3-2	1④		1			○								兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-1	1③		1			○								兼1	
	中国語A4-2	1④		1			○								兼1	
	中国語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	中国語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	中国語C-1	2③		1			○								兼1	
	中国語C-2	2④		1			○								兼1	
	朝鮮語A1-1	1①		1			○								兼1	
	朝鮮語A1-2	1②		1			○								兼1	
	朝鮮語A2-1	1①		1			○								兼1	
	朝鮮語A2-2	1②		1			○								兼1	
	朝鮮語A3-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A3-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	朝鮮語C-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④		1			○								兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A3-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A3-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語A4-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A4-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語B-1	2①		1			○								兼1	
	スペイン語B-2	2②		1			○								兼1	
	スペイン語C-1	2③		1			○								兼1	
	スペイン語C-2	2④		1			○								兼1	
	日本語A1-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A1-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A2-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A2-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A3-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A3-2	1④		1			○								兼1	
	日本語A4-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A4-2	1④		1			○								兼1	
	小計(80科目)		—	0	80	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2		○									兼1
	石川県の市町	1①～②		2		○									兼1
	健康論実践D	1④		1				○							兼1
	健康論実践E	1④		1				○							兼1
	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1		○									兼1
	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1		○									兼1
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論 1	1①～②		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論 2	1③～④		2		○									兼1
	地元学A (地域資源調査)	1①		1		○									兼1
	地元学B (聞き書き)	1②		1		○									兼1
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○								兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 1	1①		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 2	1②		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 3	1③		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 4	1④		1		○				1					
	香りと日本文化	1③		1		○									兼1
	心と体の健康A	1③		1		○									兼1
	心と体の健康B	1④		1		○									兼1
	未来デザインプラクティス	1①・②・④		1					○						兼1 集中
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1		○									兼1
	金沢の歴史と文化	1③～④		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1②		1		○									兼1
	地域創造学特別講義C	1③		1		○									兼1
	地域創造学特別講義D	1④		1		○									兼1
	日本国憲法概説	1③		2		○									兼1
	日本史要説	2①～②		2		○									兼1
	東洋史要説	2③～④		2		○									兼1
	ソーシャルビジネス概論	1①		1		○									兼1
	行政学の基礎	1①		2		○									兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1			○								兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1			○								兼1
	コーヒーと社会	1③		1		○									兼1
	コーヒーと科学	1④		1		○									兼1
	能登・地域活性化演習Ⅰ	1②		1		○									兼1
	能登・地域活性化演習Ⅱ	1②		1		○									兼1
	地学実験	1②～③		2					○						兼1
	生物学実験	1①～②		2					○						兼1
	海洋生化学演習	1①		2			○								兼1 集中
	地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①		1		○									兼1
	地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②		1		○									兼1
	ローカルキャリアデザインⅠ	1②		1		○									兼1
	ローカルキャリアデザインⅡ	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説Ⅰ	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説Ⅱ	1④		1		○									兼1
	Pythonデータ分析入門	1②		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習A	1③		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習B	1④		1		○									兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③		1					○						兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④		1					○						兼1
動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①		1		○									兼1	
動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②		1		○									兼1	
Society 5.0 概論A	1①		1		○									兼1	
Society 5.0 概論B	1②		1		○									兼1	
英語セミナー	1①・②・③・④		1		○									兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	1③		1			○								兼1	
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	1④		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③		1			○								兼1	
ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1④		1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1			○								兼1
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○								兼1
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1
		小計(67科目)	—	0	80	0	—			2	0	0	0	0	兼31
	共通教育科目計(230科目)	—	13	258	0	—			6	2	0	1	0	兼76	—
専門教育科目	学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1			○		2	1					共同
		ブレゼン・ディベート論	1②	1			○		2	1					共同
		イノベーション基礎	1③	1			○		1						
		数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2				○	2						オムニバス
		デザイン思考	1②	1			○		1			1			共同
		小計(5科目)	—	6	0	0	—		6	1	0	1	0	—	
	語学	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	2①・②	1			○			1					
		学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語	3①・②	1			○			1					
	小計(2科目)	—	2	0	0	—		0	1	0	0	0	—		
	実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1			○		1						
		アントレプレナー演習Ⅰ	2①	2				○	1			1			共同
		アントレプレナー演習Ⅱ	2②	2				○	1			1			共同
		デザイン思考演習	1③	1				○	1			1			共同
		アントレプレナーインターンシップ	2④	2					1			1			共同
		アントレプレナーコンテスト/リーダー養成	3②	1				○							兼1
		アントレプレナーコンテスト/実践リーダー	4②	1				○							兼1
	小計(7科目)	—	10	0	0	—		3	0	0	1	0	兼1		
	社会循環コアエリア	AIと未来社会	2②	1			○			1					
		シェアリングエコノミー	2④	1			○								兼1
		現代社会を知る	2①	1			○		3			1			兼1
		社会変動と労働生産性	2②	1			○		1	1		1			兼4
		フィンテック基礎とビジネス応用	2①	1			○								兼1
		超スマートシティと Society5.0	2②	1			○		1						兼2
		消費生活論	2④	1			○		1						
		倫理学	2③	1			○			1					
		ファイナンス基礎	1④	1			○								兼1
		世界共創コアエリア	異文化理解とキャリア開発	2③	1			○					1		
国際世界と特許			2③	1			○		1						
グローバルイノベーション			2④	1			○			1		1			オムニバス
ダイバーシティ促進			2①	1			○					1			兼1
国際協力体制			2②	1			○			1					兼4
人の流動と定着	2②		1			○								兼1	
ビジネスと政治	2④		1			○		1							
SDGs基礎	2③		1			○			1						
マーケティング基礎	2①	1			○		1								
科学創発コアエリア	社会的な視点から見る医療	2③	1			○		3						オムニバス	
	生命科学的な視点から見る医療	2④	1			○		3						オムニバス	
	未来医科学	2④	1			○		1							
	人工知能	2①	1			○			1						
	世界の課題と技術トレンド	2③	1			○			1						
	IoT技術	2③	1			○			1						
	数理統計学基礎	2③	1			○								兼1	
	世界変革技術論	2①	1			○		1	1					兼1	
	テクノロジー基礎	1④	1			○		1	1		2			兼1	
小計(27科目)	—	0	27	0	—		10	6	0	3	0	兼16			

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 専門科目	マーケティング論	3①		2		○			1								
	経営管理論	3①		2		○										兼1	
	国際経営論	3③		2		○										兼1	
	管理会計論	3③		2		○										兼1	
	ESG投資	3②		1		○										兼1	
	生活デザイン論	3②		1		○			1								
	創業支援論	3①		1		○			1								
	知的財産法	3②		2		○			1								
	イノベーション・マネジメント	3④		1		○			1								オムニバス
	需要予測	3①		1		○			2								
	情報ネットワーク	3①		1		○											兼1
	データベース論	3③		1		○				1							兼1
	プレジジョンメディスン	3③		1		○											兼1
	テクノロジーと医療・健康・介護	3③		1		○			1								兼1
	ブランニング最適化	3③		1		○											兼1
	比較制度論	3③		1		○			1								
	地域政策論	3③		1		○			1								
	生活環境学	3②		1		○			1								
	心理学概論	3①		1		○											兼1
	公共政策論	3①		2		○											兼1
	レギュラトリーサイエンス	3④		1		○			1				1				共同
	未来型ヘルスケアシステム	3③		1		○			1								
	都市・交通デザイン	3②		1		○			1								
	プロジェクト・マネジメント	3①		1		○			1								
	超高齢化社会と科学技術	3②		1		○			1								
	地域包括ケアと地方創生	3②		1		○			1								
	経営戦略論	3②		2		○											兼1
	医療制度改革と医療経済	3①		2		○			2				1				オムニバス
	アプリ開発	3②		1		○				1							
	機械学習	3③		1		○			1								
	先導数学	2④		2		○											兼1
	データサイエンス実践	2④		1		○											兼1
	先端医学	2④		1		○			1								
	AI・IoT健康福祉学	3④		1		○			1								
	センシング論	3①		2		○											兼1
	マテリアル科学	3②		1		○							1				兼1
	光学技術論	3③		1		○											兼1
	フィジカル・ブレイン接続	3④		1		○			1								
	コンピュータとデジタル回路	3①		1		○			1								
	コンピュータと電子回路	3④		1		○			1								
	地球環境論	3③		1		○											兼1
	環境基礎科学	3④		1		○			1				1				オムニバス
	プログラミングスキル	2④		1		○			1								
	SDGs実践	2④		1		○				1							
小計 (44科目)		—	0	54	0			—	13	2	0	2	0			兼14	
鍛練科目	学術考究	4①		1		○			2	1						共同	
	潜在課題探査分析	4①		1			○			1		1				共同	
	先導プロジェクト演習	3①～③	2				○		14	5							
	海外実践留学	3③～④		1				○		1							
	国際インターンシップ	3③～④		1				○	1								
小計 (5科目)		—	2	4	0			—	14	6	0	1	0			—	
確立科目	先導研究	4①～④		8				○	2							共同	
	先導演習	4①～④		8				○	1								
	先導試験	4①～④		8				○	1								
	小計 (3科目)		—	0	24	0			—	4	0	0	0	0		—	
合計 (323科目)			—	33	367	0			—	14	6	0	3	0		兼97	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（学術）		学位又は学科の分野			経済学関係，社会学・社会福祉学関係，工学関係，保健衛生学関係（看護関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の要件を満たし，合計124単位以上（先導試験履修者は130単位以上）を修得した者。 ・ 共通教育科目において導入科目から3単位，GS科目に配置する1～5群の科目群から各2単位以上及び6群の科目群から3単位を含む15単位，GS言語科目から8単位，基礎科目又は初習言語科目から8単位を含め，計36単位以上を修得。 ・ 専門教育科目において学域GS科目から6単位，学域GS言語科目から2単位，実践科目から10単位，コア科目に配置する3コアエリアのうち，同一エリアからの8単位以上かつ残る2コアエリアから各1単位以上を含む18単位，学知科目から30単位，鍛練科目から4単位，確立科目から8単位を含め，計88単位以上を修得（先導試験履修者は94単位以上）。						1 学年の学期区分			4 期					
						1 学期の授業期間			8 週					
						1 時限の授業時間			90 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(【既設】融合学域観光デザイン学類)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○				1					兼2 共同
	データサイエンス基礎	1①	1			○						1			
	地域概論	1②	1			○									
	小計 (3科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼2 —	
GS科目 共通教育科目	1群 (自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○				1				兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1
	2群 (自己を鍛える)	哲学 (自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2 共同
	3群 (親を表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○						兼2
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1
	4群 (世界とつながる)	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○								兼1
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○								兼3
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○								兼1
		異文化体験A	1②・④		1				○						兼1 集中
		異文化体験B	1②・④		2				○						兼1 集中
		異文化体験C	1②・④		3				○						兼1 集中
		異文化体験D	1②・④		4				○						兼1 集中
		異文化体験E	1②・④		5				○						兼1 集中
		異文化体験F	1②・④		6				○						兼1 集中
		異文化体験G	1②・④		7				○						兼1 集中
		異文化体験H	1②・④		8				○						兼1 集中
		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1			○							兼1
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1			○							兼1	
	5群 (未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○								兼1
		環境学とESD	1①・②・③・④		1		○								兼1
		生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○								兼1
		現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○								兼1
	6群 (新しい社会を生きる)	インテグレート科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		A I 入門	1①・②・③・④		1		○								兼1
		情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼1
		論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1
小計 (38科目)	—	—	0	66	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33 —	
GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1	
	TOEIC準備 (演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○									兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○									兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1	
	上級読解 I A	1①		1		○									兼1	
	上級読解 I B	1②		1		○									兼1	
	上級読解 II A	1③		1		○									兼1	
	上級読解 II B	1④		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
小計 (26科目)		—	10	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
基礎科目	微分積分学 I A	1①		1		○									兼1	
	微分積分学 I B	1②		1		○									兼1	
	微分積分学 II A	1③		1		○									兼1	
	微分積分学 II B	1④		1		○									兼1	
	線形代数学 I A	1①		1		○									兼1	
	線形代数学 I B	1②		1		○									兼1	
	線形代数学 II A	1③		1		○									兼1	
	線形代数学 II B	1④		1		○									兼1	
	物理学 I A	1①		1		○									兼1	
	物理学 I B	1②		1		○									兼1	
	物理学 II A	1③		1		○									兼1	
	物理学 II B	1④		1		○									兼1	
	化学 I A	1①		1		○									兼1	
	化学 I B	1②		1		○									兼1	
	化学 II A	1③		1		○									兼1	
	化学 II B	1④		1		○									兼1	
小計 (16科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—
初習言語科目	ドイツ語 A 1-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 1-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 2-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 2-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 3-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 3-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 4-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 4-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 B-1	2①		1			○								兼1	
	ドイツ語 B-2	2②		1			○								兼1	
	ドイツ語 C-1	2①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 C-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語 A 1-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語 A 1-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語 A 2-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語 A 2-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語 A 3-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語 A 3-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語 A 4-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語 A 4-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語 B-1	2①・③		1			○								兼1	
	フランス語 B-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語 C-1	2③		1			○								兼1	
	フランス語 C-2	2④		1			○								兼1	
ロシア語 A 1-1	1①		1			○								兼1		
ロシア語 A 1-2	1②		1			○								兼1		
ロシア語 A 2-1	1①		1			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A2-2	1②	1			○								兼1		
		ロシア語A3-1	1③	1			○								兼1		
		ロシア語A3-2	1④	1			○								兼1		
		ロシア語A4-1	1③	1			○								兼1		
		ロシア語A4-2	1④	1			○								兼1		
		ロシア語B-1	2①・③	1			○								兼1		
		ロシア語B-2	2②・④	1			○								兼1		
		ロシア語C-1	2①・③	1			○								兼1		
		ロシア語C-2	2②・④	1			○								兼1		
		中国語A1-1	1①	1			○								兼1		
		中国語A1-2	1②	1			○								兼1		
		中国語A2-1	1①	1			○								兼1		
		中国語A2-2	1②	1			○								兼1		
		中国語A3-1	1③	1			○								兼1		
		中国語A3-2	1④	1			○								兼1		
		中国語A4-1	1③	1			○								兼1		
		中国語A4-2	1④	1			○								兼1		
		中国語B-1	2①・③	1			○								兼1		
		中国語B-2	2②・④	1			○								兼1		
		中国語C-1	2③	1			○								兼1		
		中国語C-2	2④	1			○								兼1		
		朝鮮語A1-1	1①	1			○								兼1		
		朝鮮語A1-2	1②	1			○								兼1		
		朝鮮語A2-1	1①	1			○								兼1		
		朝鮮語A2-2	1②	1			○								兼1		
		朝鮮語A3-1	1③	1			○								兼1		
		朝鮮語A3-2	1④	1			○								兼1		
		朝鮮語A4-1	1③	1			○								兼1		
		朝鮮語A4-2	1④	1			○								兼1		
		朝鮮語B-1	2①・③	1			○								兼1		
		朝鮮語B-2	2②・④	1			○								兼1		
		朝鮮語C-1	2①・③	1			○								兼1		
		朝鮮語C-2	2②・④	1			○								兼1		
		スペイン語A1-1	1①	1			○								兼1		
		スペイン語A1-2	1②	1			○								兼1		
		スペイン語A2-1	1①	1			○								兼1		
		スペイン語A2-2	1②	1			○								兼1		
		スペイン語A3-1	1③	1			○								兼1		
		スペイン語A3-2	1④	1			○								兼1		
		スペイン語A4-1	1③	1			○								兼1		
		スペイン語A4-2	1④	1			○								兼1		
		スペイン語B-1	2①	1			○								兼1		
		スペイン語B-2	2②	1			○								兼1		
		スペイン語C-1	2③	1			○								兼1		
		スペイン語C-2	2④	1			○								兼1		
		日本語A1-1	1①	1			○				1					兼1	
		日本語A1-2	1②	1			○				1					兼1	
		日本語A2-1	1①	1			○				1					兼1	
		日本語A2-2	1②	1			○				1					兼1	
		日本語A3-1	1③	1			○				1					兼1	
		日本語A3-2	1④	1			○				1					兼1	
		日本語A4-1	1③	1			○				1					兼1	
		日本語A4-2	1④	1			○				1					兼1	
		小計(80科目)		—	0	80	0	—			1	0	0	0	0	兼9	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	自由履修科目	石川県の行政		2		○									兼1
		石川県の市町	1①～②	2		○									兼1
		健康論実践D	1④	1				○							兼1
		健康論実践E	1④	1					○						兼1
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③	1			○								兼1
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④	1			○								兼1
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④	2			○								兼1
		シュルスクリプト言語論 1	1①～②	2			○								兼1
		シュルスクリプト言語論 2	1③～④	2			○								兼1
		地元学A (地域資源調査)	1①	1			○								兼1
		地元学B (聞き書き)	1②	1			○								兼1
		シュルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	1				○							兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	1			○								兼1
		香りと日本文化	1③	1			○								兼1
		心と体の健康A	1③	1			○								兼1
		心と体の健康B	1④	1			○								兼1
		未来デザインプラクティス	1⑩・②・④	1					○						兼1
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1			○								兼1
		金沢の歴史と文化	1③～④	2			○								兼1
		日本の伝統芸能	1②	1			○								兼1
		地域創造学特別講義C	1③	1			○								兼1
		地域創造学特別講義D	1④	1			○								兼1
		日本国憲法概説	1③	2			○								兼1
		日本史要説	2①～②	2			○								兼1
		東洋史要説	2③～④	2			○								兼1
		ソーシャルビジネス概論	1①	1			○								兼1
		行政学の基礎	1①	2			○								兼1
		ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	1				○							兼1
		ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	1				○							兼1
		コーヒーと社会	1③	1			○								兼1
		コーヒーと科学	1④	1			○								兼1
		能登・地域活性化演習Ⅰ	1②	1			○								兼1
		能登・地域活性化演習Ⅱ	1②	1			○								兼1
		地学実験	1②～③	2					○						兼1
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1
		地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①	1			○								兼1
		地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②	1			○								兼1
		ローカルキャリアデザインⅠ	1②	1			○								兼1
		ローカルキャリアデザインⅡ	1③	1			○								兼1
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○								兼1
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1
動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1		
動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1		
Society 5.0概論A	1①	1			○								兼1		
Society 5.0概論B	1②	1			○								兼1		
英語セミナー	1⑩・②・③・④	1			○								兼1		
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1		
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1		
ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1		

集中

集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1					○						兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1					○						兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1					○						兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1					○						兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1					○						兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1					○						兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1					○						兼1	
		小計(67科目)	—	0	80	0			—		0	0	0	0	0	0
共通教育科目計(230科目)		—	13	258	0			—	1	1	0	0	0	0	兼80	—
学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1					○							共同	
	プレゼン・ディベート論	1②	1					○							共同	
	イノベーション基礎	1③	1			○								兼1	共同	
	数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2					○				1		兼1	共同	
	デザイン思考	1④	1					○						兼2	共同	
小計(5科目)	—	6	0	0			—	1	2	0	1	0	兼4			
語GS学域科目	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	2①・②	1					○							兼1	
	学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語	3①・②	1					○							兼1	
	小計(2科目)	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	兼1		
実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1					○							兼1	共同
	アントレプレナー演習Ⅰ	2①	1					○							兼1	共同
	アントレプレナー演習Ⅱ	2②	1					○							兼1	共同
	観光DX・PBL演習Ⅰ	2①	1					○							兼1	共同
	観光DX・PBL演習Ⅱ	2②	1					○							兼1	共同
	観光調査法	2②		1				○				1				
	ワークショップデザイン演習	2②		2				○			1					
	観光データ解析演習	2③		1				○				2				共同
	形態・色彩デザイン論	2③		1				○							兼1	
	ビジネスプラン作成演習	2③		1				○			1					
	地理情報システム演習	2④		1				○							兼1	
	プログラミングスキル	2④		1				○			1					
	アプリ開発	3②		1				○			1					
	創生インターンシップ	2③・④		1								1				
	観光プロジェクト演習Ⅰ	2①～②		1						○	9	5				共同
	観光プロジェクト演習Ⅱ	2③～④		1						○	9	5				共同
	観光プロジェクト演習Ⅲ	3①～②		1						○	9	5				共同
	観光プロジェクト演習Ⅳ	3③～④		1						○	9	5				共同
小計(18科目)	—	5	14	0			—	9	5	0	2	0	兼4			
基盤科目	ホスピタリティ概論	1④		1				○							兼1	
	ファイナンス基礎	1④		1				○			1					
	テクノロジー基礎	1④		1				○							兼5	オムニバス
	観光デザイン学基礎	2①		2				○		4	3		3		兼3	オムニバス
	世界変革技術論	2①		1				○					1		兼2	オムニバス
	人工知能	2①		1				○							兼1	
	フィンテック基礎とビジネス応用	2①		1				○				1				
	マーケティング基礎	2①		1				○							兼1	
	超スマートシティとSociety 5.0	2②		1				○				1			兼2	オムニバス
	観光倫理学	2②		1				○							兼1	
	観光の公衆衛生学	2②		1				○			1					
	観光法制度論	2②		1				○							兼1	
	異文化理解とキャリア開発	2③		1				○							兼1	
	SDGs基礎	2③		1				○							兼1	
	数理統計学基礎	2③		1				○					1			
	北陸観光産業論	2③		1				○				2				共同
	日本の工芸とデザイン	2③		1				○			1					
	金融工学	2③		1				○				1				
	交流ネットワーク工学	2④		1				○							兼1	
	ダイバーシティ促進	2④		1				○						1		
	北陸の都市・農村・文化	2④		1				○							兼1	
	北陸の農林水産・製造業	2④		1				○							兼1	
	シェアリングエコノミー	2④		1				○			1					
	観光地域ビジネス論	2④		1				○			1					
	数理行動モデル基礎	2④		1				○					1			
小計(25科目)	—	2	24	0			—	5	4	0	3	0	兼14			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	共感デザインコアエリア	エンタテインメントマネジメント論	2③	1		○									兼1
		SDGs実践	2④	1		○									兼1
		文化観光論	2④	1		○									兼1
		文化と消費社会	2④	1		○									兼1
		持続的な観光	3①	1		○				1					
		伝統文化変容論	3①	1		○									兼1
		比較地域発展論	3①	1		○									兼1
		グローバルブランディング論	3①	1		○				1					
		ヘリテージ・インタープリテーション	3①	2		○					1				
		無形文化遺産論	3②	1		○					1				
		文化と地域経済	3②	1		○									兼1
		生活デザイン論	3②	1		○									兼1
		国際プロジェクトマネジメント・評価法	3②	1		○					1				
		自然観光論	3②	1		○									兼1
		観光資源開発論	3③	1		○					1				
		資源活用と環境共生	3③	2		○									兼1
		人間工学	3③	1		○									兼1
		観光資源マネジメント論	3④	1		○					1				
		実践ブランディング	3④	2		○									兼1
	関係デザインコアエリア	IoT技術	2③	1		○									兼1
		データサイエンス実践	2④	1		○									
		行動経済学	2④	1		○					1			1	
		Web・クチコミ社会動向分析	3①	1		○					1				
		観光データ解析応用	3①	1		○							2		共同
		観光産業DX発展	3①	1		○					1				
		情報政策論	3①	2		○									兼1
		グローバル・アクセシビリティ論	3②	1		○					1				
		都市・交通デザイン	3②	1		○									兼1
		時空間データ解析	3②	1		○									兼1
		知的財産法	3②	2		○									兼1
		統計的意思決定論	3②	2		○									兼1
		交通工学	3③	1		○									兼1
		観光VR・XR	3③	1		○					1				
		国際メディア分析論	3③	1		○					1				
		国際コンフリクト・マネジメント	3③	1		○					1				
	ブランニング最適化	3③	1		○									兼1	
	データベース論	3③	1		○									兼1	
	需要予測	3④	1		○								1		
	共創デザインコアエリア	観光地経営論	2③	1		○					1				兼1
		地域観光政策論	2④	1		○									
		環境と観光	2④	1		○					1				
		観光開発・計画論	2④	1		○					1				
		地域社会学	2④	1		○					1				
		景観デザイン学	3①	1		○					1				
		工業デザイン	3①	1		○									兼1
		イベント経営論	3①	1		○									兼1
		地域マネジメント論	3①	1		○									兼1
		コミュニティ・デザイン論	3①	1		○					1				
		リノベーション論	3②	1		○									兼1
		社会システム工学	3②	1		○					1				
		都市計画	3②	1		○					1				
		ソーシャル・ビジネス論	3②	2		○									兼1
		パブリックスペース論	3②	1		○					1				
	計画プロセス	3③	1		○					1					
	観光社会学	3③	1		○					1					
	地域居住論	3④	1		○									兼1	
	ホスピタリティ・マネジメント	3④	1		○									兼1	
小計(57科目)	—	0	64	0	—				8	5	0	3	0	兼21	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	鍛練科目	観光ビジネス実践A	3①～④	1				○	1						
		観光ビジネス実践B	3①～④	2				○	1						
		観光ビジネス実践C	3①～④	4				○	1						
		観光実践留学A	3①～④	1				○	1						
		観光実践留学B	3①～④	2				○	1						
		観光実践留学C	3①～④	4				○	1						
		国際インターンシップA	3①～④	1				○		1					
		国際インターンシップB	3①～④	2				○		1					
		国際インターンシップC	3①～④	4				○		1					
	小計(9科目)	—	0	21	0	—			2	1	0	0	0	兼0	
	確立科目	融合研究	4①～④		8			○			1				
		融合演習	4①～④		8			○			1				
		融合試験	4①～④		8			○		1					
		小計(3科目)	—	0	24	0	—			1	2	0	0	0	兼0
合計(349科目)		—	28	405	0	—			9	5	0	3	0	兼108	
学位又は称号		学士(学術)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
以下の要件を満たし、合計124単位以上(融合試験履修者は130単位以上)を修得した者。 ・共通教育科目において導入科目から3単位、GS科目に配置する1群から5群の各群から2単位以上、6群から3単位を含む計15単位、GS言語科目から8単位(日本人学生の場合は日本語を除く必修8単位、留学生の場合は日本語の必修2単位を含む8単位)、基礎科目又は初習言語科目(1言語)から8単位を含め、計36単位以上を修得。 ・専門教育科目において学域GS科目6単位、学域GS言語科目2単位、実践科目から必修5単位を含め13単位、基盤科目から必修2単位を含め19単位、学知科目から26単位(同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む)、鍛練科目から4単位、確立科目から8単位を含め、計88単位以上(融合試験履修者は94単位以上)を修得。								1学年の学期区分		4期					
								1学期の授業期間		8週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(【既設】人間社会学域地域創造学類)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○				1					
	データサイエンス基礎	1①	1			○				1					
	地域概論	1①	1			○			1						
	小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	1	2	0	0	0	—	
GS科目 共通教育科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史的アプローチ	1①・②・③・④		1		○								兼1
	グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○									兼1
	2群(自己を知り、自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1
	パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	健康科学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○									兼2
	エクササイズ&スポーツ実技	1①・②・③・④		1				○							兼2
	3群(考え・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1
	価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○									兼1
	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○									兼1
	4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○								兼1
	日本史・日本文化	1②・③・④		1		○									兼3
	異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○									兼1
	異文化体験A	1②・④		1				○							兼1
	異文化体験B	1②・④		2				○							兼1
	異文化体験C	1②・④		3				○							兼1
	異文化体験D	1②・④		4				○							兼1
	異文化体験E	1②・④		5				○							兼1
	異文化体験F	1②・④		6				○							兼1
	異文化体験G	1②・④		7				○							兼1
	異文化体験H	1②・④		8				○							兼1
	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1			○								兼1
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1			○								兼1
	5群(未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1
	統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1			○								兼1
	環境学とESD	1①・②・③・④		1			○								兼1
	生活と社会保障	1①・②・③・④		1			○								兼1
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1			○								兼1
	6群(新しい社会を生きる)	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	AI入門	1①・②・③・④		1			○								兼1
	情報の科学	1①・②・③・④		1			○								兼1
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1			○								兼2
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1			○								兼1
小計(38科目)	—	—	0	66	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼34	—
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1	
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1			○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
G S 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○									兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○									兼1		
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1		
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1		
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1		
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1		
	上級読解I A	1①		1		○									兼1		
	上級読解I B	1②		1		○									兼1		
	上級読解II A	1③		1		○									兼1		
	上級読解II B	1④		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1		
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1		
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
	小計 (26科目)	—	—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
	共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1			○								兼1	
		ドイツ語A1-2	1②・④		1			○								兼1	
		ドイツ語A2-1	1①・③		1			○								兼1	
ドイツ語A2-2		1②・④		1			○								兼1		
ドイツ語A3-1		1①・③		1			○								兼1		
ドイツ語A3-2		1②・④		1			○								兼1		
ドイツ語A4-1		1①・③		1			○								兼1		
ドイツ語A4-2		1②・④		1			○								兼1		
ドイツ語B-1		2①		1			○								兼1		
ドイツ語B-2		2②		1			○								兼1		
ドイツ語C-1		2①・③		1			○								兼1		
ドイツ語C-2		2②・④		1			○								兼1		
フランス語A1-1		1①		1			○								兼1		
フランス語A1-2		1②		1			○								兼1		
フランス語A2-1		1①		1			○								兼1		
フランス語A2-2		1②		1			○								兼1		
フランス語A3-1		1③		1			○								兼1		
フランス語A3-2		1④		1			○								兼1		
フランス語A4-1		1③		1			○								兼1		
フランス語A4-2		1④		1			○								兼1		
フランス語B-1		2①・③		1			○								兼1		
フランス語B-2		2②・④		1			○								兼1		
フランス語C-1		2③		1			○								兼1		
フランス語C-2		2④		1			○								兼1		
ロシア語A1-1		1①		1			○								兼1		
ロシア語A1-2		1②		1			○								兼1		
ロシア語A2-1		1①		1			○								兼1		
ロシア語A2-2		1②		1			○								兼1		
ロシア語A3-1		1③		1			○								兼1		
ロシア語A3-2		1④		1			○								兼1		
ロシア語A4-1		1③		1			○								兼1		
ロシア語A4-2		1④		1			○								兼1		
ロシア語B-1	2①・③		1			○								兼1			
ロシア語B-2	2②・④		1			○								兼1			
ロシア語C-1	2①・③		1			○								兼1			
ロシア語C-2	2②・④		1			○								兼1			
中国語A1-1	1①		1			○								兼1			
中国語A1-2	1②		1			○								兼1			
中国語A2-1	1①		1			○								兼1			
中国語A2-2	1②		1			○								兼1			
中国語A3-1	1③		1			○								兼1			
中国語A3-2	1④		1			○								兼1			
中国語A4-1	1③		1			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	初習言語科目	中国語A 4-2	1④	1				○								兼1	
		中国語B-1	2①・③	1					○							兼1	
		中国語B-2	2②・④	1					○							兼1	
		中国語C-1	2③	1					○							兼1	
		中国語C-2	2④	1					○							兼1	
		朝鮮語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		朝鮮語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		朝鮮語A 2-1	1①	1					○							兼1	
		朝鮮語A 2-2	1②	1					○							兼1	
		朝鮮語A 3-1	1③	1					○							兼1	
		朝鮮語A 3-2	1④	1					○							兼1	
		朝鮮語A 4-1	1③	1					○							兼1	
		朝鮮語A 4-2	1④	1					○							兼1	
		朝鮮語B-1	2①・③	1					○							兼1	
		朝鮮語B-2	2②・④	1					○							兼1	
		朝鮮語C-1	2①・③	1					○							兼1	
		朝鮮語C-2	2②・④	1					○							兼1	
		ギリシア語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		ギリシア語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		ギリシア語A 2-1	1③	1					○							兼1	
		ギリシア語A 2-2	1④	1					○							兼1	
		ギリシア語A 3-1	2①	1					○							兼1	
		ギリシア語A 3-2	2②	1					○							兼1	
		ギリシア語A 4-1	2③	1					○							兼1	
		ギリシア語A 4-2	2④	1					○							兼1	
		ギリシア語B-1	3①	1					○							兼1	
		ギリシア語B-2	3②	1					○							兼1	
		ギリシア語C-1	3③	1					○							兼1	
		ギリシア語C-2	3④	1					○							兼1	
		ラテン語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		ラテン語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		ラテン語A 2-1	1③	1					○							兼1	
		ラテン語A 2-2	1④	1					○							兼1	
		ラテン語A 3-1	2①	1					○							兼1	
		ラテン語A 3-2	2②	1					○							兼1	
		ラテン語A 4-1	2③	1					○							兼1	
		ラテン語A 4-2	2④	1					○							兼1	
		ラテン語B-1	3①	1					○							兼1	
		ラテン語B-2	3②	1					○							兼1	
		ラテン語C-1	3③	1					○							兼1	
		ラテン語C-2	3④	1					○							兼1	
		スペイン語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		スペイン語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		スペイン語A 2-1	1①	1					○							兼1	
		スペイン語A 2-2	1②	1					○							兼1	
		スペイン語A 3-1	1③	1					○							兼1	
スペイン語A 3-2	1④	1					○							兼1			
スペイン語A 4-1	1③	1					○							兼1			
スペイン語A 4-2	1④	1					○							兼1			
スペイン語B-1	2①	1					○							兼1			
スペイン語B-2	2②	1					○							兼1			
スペイン語C-1	2③	1					○							兼1			
スペイン語C-2	2④	1					○							兼1			
	小計 (96科目)	—	0	96	0		—			0	0	0	0	0	兼11	—	
自由履修科目	アントレプレナーシップ I	1③		1			○								兼1		
	石川県の行政	1③~④		2			○								兼1		
	石川県の市町	1①~②		2			○								兼1		
	健康論実践D	1④		1					○						兼1		
	健康論実践E	1④		1					○						兼1		
	現代社会における保険の制度と役割 I	1③		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	現代社会における保険の制度と役割II	1④	1		○									兼1	集中
		実践アントレプレナー学	1③	1		○									兼1	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④	2		○									兼1	
		シェルスクリプト言語論	1③～④	2		○									兼1	
		地元学A（地域資源調査）	1①	1		○			1						兼1	
		地元学B（聞き書き）	1②	1		○									兼1	
		シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	1			○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	1			○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	1			○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	1			○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	1			○								兼1	
		香りと日本文化	1③	1			○								兼1	
		心と体の健康A	1③	1			○								兼1	
		心と体の健康B	1④	1			○								兼1	
		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	1					○						兼1	
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1			○								兼1	
		金沢の歴史と文化	1③～④	2			○								兼1	
		日本の伝統芸能	1②	1			○								兼1	
		地域創造学特別講義C	1③	1			○				1				兼1	
		地域創造学特別講義D	1④	1			○								兼1	
		日本国憲法概説	1③	2			○								兼1	
		日本史要説	2①～②	2			○								兼1	
		東洋史要説	2③～④	2			○								兼1	
		異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	1			○								兼1	
		行政学の基礎	1①	2			○								兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 春編	1①	1				○							兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 秋編	1③	1				○							兼1	
		コーヒーと社会	1③	1			○								兼1	
		コーヒーと科学	1④	1			○								兼1	
		地学実験	1②～③	2					○						兼1	
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1	
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1	
		英国諸島の地史 I	1②	1			○								兼1	
		英国諸島の地史 II	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説 I	1③	1			○								兼1	
		環境動態学概説 II	1④	1			○								兼1	
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1	
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1	
		コンピュータグラフィクス演習 I	1③	1					○						兼1	
		コンピュータグラフィクス演習 II	1④	1					○						兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1	
		プログラミング演習 I	1③	1					○						兼1	
		プログラミング演習 II	1④	1					○						兼1	
		Society 5.0 概論	1③～④	2			○								兼1	
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○								兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1	
		ドイツ語A（充実クラスⅠ-1）	1③	1				○							兼1	
ドイツ語A（充実クラスⅠ-2）	1④	1				○							兼1			
ドイツ語A（充実クラスⅡ-1）	1③	1				○							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A (充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		フランス語A (充実クラスⅠ-1)	1③	1			○								兼1	
		フランス語A (充実クラスⅠ-2)	1④	1			○								兼1	
		フランス語A (充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1	
		フランス語A (充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		中国語A (充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1	
		中国語A (充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		小計 (65科目)	—	0	78	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼30	—
共通教育科目計 (228科目)		—	13	256	0	—	—	2	2	0	0	0	兼72	—		
専門教育科目	初學者	アカデミックスキル	1①・②・③	1				○		2	2					
		プレゼン・ディベート論	1②・③・④	1				○		2	2					
	学域俯瞰科目	大学・学問論	1③		1		○								兼1	
		ジェンダーと教育	1③・④		1		○								兼3 オムニバス	
		異文化理解1	1③		1		○								兼2 オムニバス	
		異文化理解2	1④		1		○								兼2 オムニバス	
		文学概論1	1③		1		○								兼2 オムニバス	
		文学概論2	1④		1		○								兼2 オムニバス	
		世界遺産学	1④		1		○								兼6 オムニバス	
		ルールリテラシー	1③		1		○								兼1	
		人文社会科学における法	1④		1		○								兼4 オムニバス	
		イメージの比較文化学	1③		1		○								兼1	
		防災学入門	1①		2		○				1				兼1 オムニバス	
		現代日本の文化と社会	2①		1		○								兼1	
		教育の制度と経営	3①		2		○								兼1	
	生徒の生活と進路の指導論	3③		2		○								兼1		
	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	1③		1		○								兼1
			国際経済の理論とデータ	2①		1		○								兼1
			国際貿易の理論とデータ	2①		1		○								兼1
			データの活用に向けた線形代数学入門	2①		2		○								兼1
			情報処理	2④		1		○								兼1
			計量政治分析実習	3③		2				○						兼1
			ビジネス・データ分析 (ビジネス・データ・サイエンス)	1①		1		○								兼1
			統計データ分析の基本 (多変量解析)	1②		1		○								兼1
			データで考える日本の未来 (データサイエンス)	1③		1		○								兼1
			統計ソフトRによるビッグデータ分析	1③		1		○								兼1
			金融リテラシー	1④		1		○								兼1
白書の講読と議論	1④		1		○								兼1			
地域課題解決と政策立案のための統計 データ分析: EBPM (根拠に基づく政策 立案)	1④		1		○								兼1			
統計学技能 I	1・2・3・4 ①・②・③・④		2		○				1							
統計学技能 II	1・2・3・4 ①・②・③・④		3		○				1							
小計 (31科目)	—	2	37	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼27			
語学S域	学域GS言語科目	学域GS言語科目 I	2・3・4①・③	1			○			1	3					
		学域GS言語科目 II	2・3・4③・④	1			○			1	2	1				
		小計 (2科目)	—	2	0	0	—	—	2	5	1	0	0			
専門基礎科目	地域創造学	地域創造学 I	1①	1			○			3	3	1			オムニバス	
		地域創造学 II	1②	1			○			3	2	1			オムニバス	
		地域創造学 III	1③	1			○			3	3	1			オムニバス	
		地域創造学 IV	1④	1			○			4	1	2			オムニバス	
		学類英語演習	2①	1				○		1						
		地域創造体験実習 A	1①		1				○	1						
		地域創造体験実習 B	1③		1				○	1						
		地域創造体験実習 C	1④		1				○	1						
		地域創造学特別講義 A	1①		1		○			1						
		地域創造学特別講義 B	1②		1		○			1						
		地域創造学特別講義 C	1③		1		○			1						
		地域創造学特別講義 D	1④		1		○			1						
		地域創造インターンシップ	1①・②・③・④		1				○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	地域創造インターンシップ	1①・2②・3③・4④		2				○	1							
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		1				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		2				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		3				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		4				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		5				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		6				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		7				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		8				○	1							集中
	小計(22科目)	—	5	46	0		—		10	9	2	0	0			
専門教育科目	福祉マネジメントコース	社会保障論	2①～②		2			○				1				
		地域福祉論	2①～②		2			○		5	1	1				オムニバス
		高齢者福祉論	2①～②		2			○				1				
		介護保険制度論	2③～④		2			○		1						
		障害者福祉論	2①		2			○								兼1
		現代社会と貧困	2④		2			○		1	1	1				オムニバス
		保健医療論	2③～④		2			○		1						
		社会福祉行政論	2③		1			○				1				
		福祉計画論	2④		1			○				1				
		雇用政策論	2②		1			○			1					
		権利擁護と成年後見制度	2①～②		2			○		1						
		家族支援論	2④		2			○								兼1
		人権論 I	2①		1			○		1						
		人権論 II	2②		1			○		1						
		現代社会学 A I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 A II	2②		1			○		1						隔年
		現代社会学 B I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 B II	2②		1			○		1						隔年
		現代社会学 C I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 C II	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 D I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 D II	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 E I	2③		1			○		1						隔年
		現代社会学 E II	2④		1			○		1						隔年
		社会システム論	2①		1			○		1						
		現代社会論	2②		1			○		1						
		コミュニティ論	2④		1			○		1						
		社会政策論	2③～④		2			○				1				
		基礎社会統計学 I	2①		1			○								兼1
		基礎社会統計学 II	2②		1			○								兼1
		発展社会統計学 I	2③		1			○								兼1
		発展社会統計学 II	2④		1			○								兼1
		労使関係法	3①		2			○								兼1
		対人コミュニケーション演習 I	2①		1				○		1					
		対人コミュニケーション演習 II	2②		1				○		1					
		社会政策論基礎演習	2④		1				○			1				
		医療・福祉社会学基礎演習	2①		1				○		1					
		公共社会学基礎演習	2①		1				○		1					
		国際障害学基礎演習	2②		1				○		1					
		地域社会学基礎演習	2②		1				○		1					
		社会保障論基礎演習	2②		1				○			1				
		社会福祉学基礎演習	2②		1				○		1					
		福祉マネジメント演習	3①～④		4				○		4	1	1			
	小計(43科目)	—	4	53	0		—		5	1	1	0	0	兼4		
環境共生コース	環境共生基礎実習 A	2①	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 B	2②	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 C	2③	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 D	2②	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎論	2①	2				○		2	5					共同	
	環境共生応用演習	3①～④	4					○	2	4					兼2	
	環境共生応用実習	3①～④	4					○	2	4					兼1	
	環境と経済基礎演習 I	2③		1				○	1							
環境と経済基礎演習 II	2④		1				○	1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	専門科目 環境共生コース	食環境文献講読Ⅰ	2③	1		○			1							
		食環境文献講読Ⅱ	2④	1		○			1							
		自然環境文献講読Ⅰ	2③	1		○				1						
		自然環境文献講読Ⅱ	2④	1		○				1						
		資源活用・流通文献講読Ⅰ	2①	1		○				1						
		資源活用・流通文献講読Ⅱ	2②	1		○				1						
		生態系サービス英語文献講読Ⅰ	2③	1		○				1						
		生態系サービス英語文献講読Ⅱ	2④	1		○				1						
		環境政策論基礎演習Ⅰ	2①	1				○			1					
		環境政策論基礎演習Ⅱ	2②	1				○			1					
		コミュニケーション理論	2②	2			○				1					
		地誌学演習Ⅰ	2③	1					○							兼1
		地誌学演習Ⅱ	2④	1					○							兼1
		環境経済論Ⅰ	2・3①	1			○				1					隔年
		環境経済論Ⅱ	2・3②	1			○				1					隔年
		農業経済論Ⅰ	2・3①	1			○				1					隔年
		農業経済論Ⅱ	2・3②	1			○				1					隔年
		環境経済政策論Ⅰ	2・3③	1			○				1					隔年
		環境経済政策論Ⅱ	2・3④	1			○				1					隔年
		農業政策論Ⅰ	2・3③	1			○				1					隔年
		農業政策論Ⅱ	2・3④	1			○				1					隔年
		栄養生理学	3①	2			○				1					
		食環境学	2③	2			○				1					
		自然環境基礎論	2②	2			○					1				
		自然環境と社会	2④	2			○					1				
		自然環境論A	2③	1			○					1				
		自然環境論B	2③	1			○					1				
		自然地理学A	2①	1			○					1				
		自然地理学B	2②	1			○					1				
		自然地理学C	2③	1			○					1				
		自然地理学D	2④	1			○					1				
		防災・減災と地理学	2③	2			○					1				
		流通・消費論	2②	2			○					1				
		地域資源活用論	2③	2			○					1				
		農村計画論Ⅰ	2①	1			○					1				
		農村計画論Ⅱ	2②	1			○					1				
		生態系サービス基礎論	2②	2			○					1				
		環境形成戦略論	2③	2			○					1				
		環境思想Ⅰ	2③	1			○					1				
		環境思想Ⅱ	2④	1			○					1				
		環境政策論Ⅰ	2②	1			○									兼1
		環境政策論Ⅱ	2②	1			○									兼1
		環境教育	2①	2			○					1				
		環境コミュニケーション	2③	2			○					1				
		社会環境論Ⅰ	2①	1			○									兼1
		社会環境論Ⅱ	2②	1			○									兼1
		地域マネジメント論 (ローカル・コモンズ創生論)	2④	2			○									兼1
		ソーシャル・ビジネス論	2②	2			○					1				
		ソーシャル・ビジネス論演習	2④	2					○			1				
		地域体験実習A	2④	1						○		1				
		地域体験実習B	2④	1						○		1				
		地域体験実習C	2④	1						○		1				
		地域体験実習D	2④	1						○		1				
		小計(62科目)		—	14	70	0			—	2	6	0	0	0	兼5
		地域プランニングコース	地域学原論	2①	2			○			1					
			地域計画論Ⅰ	2②	1			○				1				
			地域計画論Ⅱ	2②	1			○				1				
			地域居住論	2③	1			○								兼1
			景観論	2④	1			○								兼1
			地域スポーツ論Ⅰ	2①	1			○				1				
			地域スポーツ論Ⅱ	2①	1			○				1				
			地域政策論AⅠ	2①	1			○						1		
地域政策論AⅡ	2②		1			○						1				
比較地域経済論	2③			2		○								兼1		
地域経済学	2④		2		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
専門教育科目	地域プランニングコース	地方財政論	2①	2		○											兼1 兼1			
		地方財政分析論	3②	2		○														
		人口地理学Ⅰ	2③	1		○				1										
		人口地理学Ⅱ	2④	1		○				1										
		都市地理学A	2・3③	2		○				1								隔年		
		都市地理学B	2・3③	2		○				1								隔年		
		農村地理学	2・3④	2		○												隔年		
		地域地理学	2③	2		○												兼1 兼1		
		スポーツ社会学A	2③	1		○					1									
		スポーツ社会学B	2④	1		○					1									
		スポーツ経営学Ⅰ	2②	1		○					1									
		スポーツ経営学Ⅱ	2③	1		○					1									
		地域政策論BⅠ	2③	1		○							1							
		地域政策論BⅡ	2④	1		○							1							
		リスクコミュニケーション	2②	2		○						1								
		地域社会のリスクガバナンス	2①	2		○						1								
		都市計画A	3①	1		○												兼2		
		都市計画B	3②	1		○												共同		
		景観デザイン学A	3①	1		○												兼2		
		景観デザイン学B	3②	1		○												共同		
		交通計画	3①	1		○												兼2		
		道路政策論	3②	1		○												共同		
		ミクロ経済学基礎	3③	1		○												兼1		
		都市経済学	3④	1		○												兼1		
		地域分析実習Ⅰ	2①	1														兼2		
		地域分析実習Ⅱ	2②	1						○								共同		
		まちづくりインターンシップ	2①～④	4	4							2		1				共同		
		地域計画論演習	2③	1						○			1							
		地域居住論演習	2④	1						○			1							
		スポーツ政策論演習	2③	1						○			1							
		スポーツ産業論演習	2④	1						○			1							
		地域政策論演習	2②	1						○				1						
		リスクコミュニケーション演習	2④	1						○			1							
		海外地域プランニング演習	2④	1						○			1							
		地域プランニング演習	3①～④	4	4					○			2		1			兼3		
		小計(46科目)	—	—	18	45	0			—		3	3	1	0	0		兼11		
		観光学・文化継承コース	観光学・文化継承コース	観光論Ⅰ	2①	1		○						1						
				観光論Ⅱ	2②	1		○							1					
				観光調査・研究法概説Ⅰ	2①	1		○							3					オムニバス
				観光調査・研究法概説Ⅱ	2②	1		○							3					オムニバス
				北陸観光産業論	2③	1		○							2					共同
				観光政策論Ⅰ	2③	1		○							1					
				観光政策論Ⅱ	2④	1		○							1					
				地域経営論Ⅰ	2①	1		○							1					
				地域経営論Ⅱ	2②	1		○							1					
				地域文化論Ⅰ	2③	1		○							1					
地域文化論Ⅱ	2④			1		○							1							
観光地域論Ⅰ	2③			1		○							1							
観光地域論Ⅱ	2④			1		○							1							
コミュニティ・デザイン論Ⅰ	2①			1		○							1							
コミュニティ・デザイン論Ⅱ	2②			1		○							1							
都市計画A	3①			1		○												兼2		
都市計画B	3②			1		○												共同		
景観デザイン学A	3①			1		○												兼2		
景観デザイン学B	3②			1		○												共同		
交通計画	3①			1		○												兼2		
道路政策論	3②			1		○												共同		
ミクロ経済学基礎	3③			1		○												兼2		
都市経済学	3④			1		○												兼1		
地域資源活用論	2③			2		○							1							
環境コミュニケーション	2③	2		○							1									
自然環境基礎論	2②	2		○							1									
国際経済学ⅠE	2③	1		○												兼1				
国際経済学ⅡE	2④	1		○												兼1				
国際貿易論ⅠE	2③	1		○												兼1				
国際貿易論ⅡE	2④	1		○												兼1				
国際開発論ⅠE	2①	1		○												兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	観光学・文化継承コース	国際開発論 2 E	2②		1		○								兼1
		地域経営論演習 I	2③	1				○			1				
		地域経営論演習 II	2④	1				○			1				
		地域文化論演習 I	2③	1				○			1				
		地域文化論演習 II	2④	1				○			1				
		コミュニティ・デザイン演習 I	2③	1				○			1				
		コミュニティ・デザイン演習 II	2④	1				○			1				
		観光学・文化継承論演習	3①～④	4				○			3				
		観光学インターンシップ	2①～④	4							3				
		文化人類学実習	3①～④		4						1				
		コミュニティ・デザイン実習	3①～④		4						1				
	地域経営論実習	3①～④		4						1					
	小計 (43科目)	—	20	41	0		—		0	6	0	0	0	兼8	
	全コース	卒業演習	4①～④	4				○		8	7	3			
卒業研究		4①～④	6				○		8	7	3				
小計 (2科目)		—	10	0	0		8		8	7	3	0	0		
合計 (479科目)		—	88	548	0		—		8	7	3	0	0	兼114	
学位又は称号		学士 (地域創造学)			学位又は学科の分野			社会学・社会学関係, 経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>卒業要件:</p> <p>共通教育科目36単位以上 (共通教育科目には、導入科目:3単位, G S 科目:1群から5群の各群から2単位を含む12単位及び6群の科目群から3単位, G S 言語科目:8単位, 初修言語科目:1言語8単位を含む。), 専門教育科目88単位以上 (専門教育科目には、学域G S 科目:8単位, 学域G S 言語科目:2単位, 専門基礎科目:5単位, 専門科目:68単位を含む。), 合計124単位以上を修得しなければならない。</p> <p>専門教育科目のうち、学域G S 科目は、初学者科目2単位, データサイエンス応用系科目から2単位を含み、学域俯瞰科目及びデータサイエンス応用系科目から6単位以上, 合計8単位以上を含まなければならない。</p> <p>加えて、専門科目68単位のうち、学類コア科目として、人権論I, 人権論II, 環境思想I, 環境思想II, 地域学原論から4単位, 自然環境基礎論, 地域文化論I, 地域文化論II, 社会保障論から4単位, 環境経済論I, 環境経済論II, 農業経済論I, 農業経済論II, 地域福祉論, 地域計画論I, 地域計画論IIから4単位, 農村計画論I, 農村計画論II, 保健医療論, 地域経営論I, 地域経営論II, コミュニティ・デザイン論I, コミュニティ・デザイン論II, 地域居住論, 地域スポーツ論I, 地域スポーツ論II, 地域政策論A I, 地域政策論A IIから4単位, 合計16単位以上を含まなければならない。</p> <p>さらに福祉マネジメントコースにおいては、上記の福祉マネジメントコースの必修科目すべてと社会保障論, 地域福祉論, 高齢者福祉論, 介護保険制度論, 障害者福祉論, 現代社会と貧困, 保健医療論, 社会福祉行政論, 福祉計画論, 雇用政策論, 権利擁護と成年後見制度, 家族支援論, 人権論I, 人権論II, 現代社会学A I, 現代社会学A II, 現代社会学B I, 現代社会学B II, 現代社会学C I, 現代社会学C II, 現代社会学D I, 現代社会学D II, 現代社会学E I, 現代社会学E II, 社会システム論, 現代社会学論, コミュニティ論, 社会政策論から17単位以上, 社会政策論基礎演習, 医療・福祉社会学基礎演習, 公共社会学基礎演習, 国際障害学基礎演習, 地域社会学基礎演習, 社会保障論基礎演習, 社会学基礎演習から3単位以上を修得しなければならない。</p> <p>環境共生コースにおいては、上記の環境共生コースの必修科目すべてと環境と経済基礎演習I, 環境と経済基礎演習II, 食環境文献講読I, 食環境文献講読II, 自然環境文献講読I, 自然環境文献講読II, 資源活用・流通文献講読I, 資源活用・流通文献講読II, 生態系サービス英語文献講読I, 生態系サービス英語文献講読II, 環境政策論基礎演習I, 環境政策論基礎演習II, コミュニケーション理論, 地誌学演習I, 地誌学演習II, 環境経済論I, 環境経済論II, 農業経済論I, 農業経済論II, 環境経済政策論I, 環境経済政策論II, 農業政策論I, 農業政策論II, 栄養生理学, 食環境学, 自然環境基礎論, 自然環境と社会, 自然環境論A, 自然環境論B, 自然地理学A, 自然地理学B, 自然地理学C, 自然地理学D, 防災・減災と地理学, 流通・消費論, 地域資源活用論, 農村計画論I, 農村計画論II, 生態系サービス基礎論, 環境形成戦略論, 環境思想I, 環境思想II, 環境政策論I, 環境政策論II, 環境教育, 環境コミュニケーション, 社会環境論I, 社会環境論II, 地域マネジメント論(ローカル・コモンズ創生論), ソーシャル・ビジネス論, ソーシャル・ビジネス論演習, 地域体験実習A, 地域体験実習B, 地域体験実習C, 地域体験実習Dから14単位以上を修得しなければならない。</p> <p>地域プランニングコースにおいては、上記の地域プランニングコースの必修科目すべてと比較地域経済論, 地域経済学, 地方財政論, 地方財政分析論, 人口地理学I, 人口地理学II, 都市地理学A, 都市地理学B, 農村地理学, 地域地理学, スポーツ社会学A, スポーツ社会学B, スポーツ経営学I, スポーツ経営学II, 地域政策論B I, 地域政策論B II, リスクコミュニケーション, 地域社会のリスクガバナンス, 都市計画A, 都市計画B, 景観デザイン学A, 景観デザイン学B, 交通計画, 道路政策論, ミクロ経済学基礎, 都市経済学, 地域分析実習I, 地域分析実習IIから8単位以上, 地域計画論演習, 地域居住論演習, スポーツ政策論演習, スポーツ産業論演習, 地域政策論演習, リスクコミュニケーション演習から2単位以上を修得しなければならない。</p> <p>観光学・文化継承コースにおいては、上記の観光学・文化継承コースの必修科目すべてと文化人類学実習, コミュニティ・デザイン実習, 地域経営論実習から4単位以上を修得しなければならない。</p>							1 学年の学期区分		4 期						
							1 学期の授業期間		8 週						
							1 時限の授業時間		90 分						
履修科目の登録の上限:12単位 (クォーター)															

教育課程等の概要																
〔【既設】理工学域フロンティア工学類〕																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1	1				兼8	オムニバス 共同	
	データサイエンス基礎	1①	1			○				1				兼2		
	地域概論	1②	1			○				1				兼1	共同	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			1	3	0	0	0	兼11	—	
G S 科目 共通教育科目	1 群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	2 群(自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2	共同
		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○						兼1	
	3 群(価値観を表現・する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	4 群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○								兼1	
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○								兼3	共同
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		異文化体験A	1②・④		1				○						兼1	集中
		異文化体験B	1②・④		2				○						兼1	集中
		異文化体験C	1②・④		3				○						兼1	集中
		異文化体験D	1②・④		4				○						兼1	集中
		異文化体験E	1②・④		5				○						兼1	集中
		異文化体験F	1②・④		6				○						兼1	集中
異文化体験G		1②・④		7				○						兼1	集中	
	異文化体験H	1②・④		8				○						兼1	集中	
5 群(未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	環境学とESD	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○								兼1		
6 群(新しい社会を生きる)	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	AI入門	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	小計(38科目)	—	0	66	0	—			0	0	0	0	0	兼34	—	
G S 言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1		
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1		
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1		
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1		
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1		
G S 言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○								兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○								兼1		
	講義の聴解A	1①・③		1		○								兼1		
	講義の聴解B	1②・④		1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
GS言語科目 (日本語)	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1		
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1		
	上級読解I A	1①		1		○									兼1		
	上級読解I B	1②		1		○									兼1		
	上級読解II A	1③		1		○									兼1		
	上級読解II B	1④		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1		
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1		
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
	小計 (26科目)	—	—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
	基礎科目	微分積分学I A	1①		1		○									兼1	
		微分積分学I B	1②		1		○									兼1	
		微分積分学II A	1③		1		○									兼1	
微分積分学II B		1④		1		○									兼1		
線形代数学I A		1①		1		○									兼1		
線形代数学I B		1②		1		○									兼1		
線形代数学II A		1③		1		○									兼1		
線形代数学II B		1④		1		○									兼1		
物理学I A		1①		1		○									兼1		
物理学I B		1②		1		○									兼1		
物理学II A		1③		1		○									兼1		
物理学II B		1④		1		○									兼1		
化学I A		1①		1		○									兼2	オムニバス	
化学I B		1②		1		○				1					兼1	オムニバス	
化学II A		1③		1		○									兼1	オムニバス	
化学II B		1④		1		○				1					兼1	オムニバス	
小計 (16科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼7	—		
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A 1-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A 1-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A 2-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A 2-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A 3-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A 3-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A 4-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A 4-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語B-1	2①		1				○							兼1		
	ドイツ語B-2	2②		1				○							兼1		
	ドイツ語C-1	2①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語C-2	2②・④		1				○							兼1		
	フランス語A 1-1	1①		1				○							兼1		
	フランス語A 1-2	1②		1				○							兼1		
	フランス語A 2-1	1①		1				○							兼1		
	フランス語A 2-2	1②		1				○							兼1		
	フランス語A 3-1	1③		1				○							兼1		
	フランス語A 3-2	1④		1				○							兼1		
	フランス語A 4-1	1③		1				○							兼1		
	フランス語A 4-2	1④		1				○							兼1		
	フランス語B-1	2①・③		1				○							兼1		
	フランス語B-2	2②・④		1				○							兼1		
	フランス語C-1	2③		1				○							兼1		
	フランス語C-2	2④		1				○							兼1		
	ロシア語A 1-1	1①		1				○							兼1		
	ロシア語A 1-2	1②		1				○							兼1		
	ロシア語A 2-1	1①		1				○							兼1		
	ロシア語A 2-2	1②		1				○							兼1		
ロシア語A 3-1	1③		1				○							兼1			
ロシア語A 3-2	1④		1				○							兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A4-1	1③		1				○							兼1
	ロシア語A4-2	1④		1				○							兼1
	ロシア語B-1	2①・③		1				○							兼1
	ロシア語B-2	2②・④		1				○							兼1
	ロシア語C-1	2①・③		1				○							兼1
	ロシア語C-2	2②・④		1				○							兼1
	中国語A1-1	1①		1				○							兼1
	中国語A1-2	1②		1				○							兼1
	中国語A2-1	1①		1				○							兼1
	中国語A2-2	1②		1				○							兼1
	中国語A3-1	1③		1				○							兼1
	中国語A3-2	1④		1				○							兼1
	中国語A4-1	1③		1				○							兼1
	中国語A4-2	1④		1				○							兼1
	中国語B-1	2①・③		1				○							兼1
	中国語B-2	2②・④		1				○							兼1
	中国語C-1	2③		1				○							兼1
	中国語C-2	2④		1				○							兼1
	朝鮮語A1-1	1①		1				○							兼1
	朝鮮語A1-2	1②		1				○							兼1
	朝鮮語A2-1	1①		1				○							兼1
	朝鮮語A2-2	1②		1				○							兼1
	朝鮮語A3-1	1③		1				○							兼1
	朝鮮語A3-2	1④		1				○							兼1
	朝鮮語A4-1	1③		1				○							兼1
	朝鮮語A4-2	1④		1				○							兼1
	朝鮮語B-1	2①・③		1				○							兼1
	朝鮮語B-2	2②・④		1				○							兼1
	朝鮮語C-1	2①・③		1				○							兼1
	朝鮮語C-2	2②・④		1				○							兼1
	ギリシア語A1-1	1①		1				○							兼1
	ギリシア語A1-2	1②		1				○							兼1
	ギリシア語A2-1	1③		1				○							兼1
	ギリシア語A2-2	1④		1				○							兼1
	ギリシア語A3-1	2①		1				○							兼1
	ギリシア語A3-2	2②		1				○							兼1
	ギリシア語A4-1	2③		1				○							兼1
	ギリシア語A4-2	2④		1				○							兼1
	ギリシア語B-1	3①		1				○							兼1
	ギリシア語B-2	3②		1				○							兼1
	ギリシア語C-1	3③		1				○							兼1
	ギリシア語C-2	3④		1				○							兼1
	ラテン語A1-1	1①		1				○							兼1
	ラテン語A1-2	1②		1				○							兼1
	ラテン語A2-1	1③		1				○							兼1
	ラテン語A2-2	1④		1				○							兼1
	ラテン語A3-1	2①		1				○							兼1
	ラテン語A3-2	2②		1				○							兼1
	ラテン語A4-1	2③		1				○							兼1
	ラテン語A4-2	2④		1				○							兼1
ラテン語B-1	3①		1				○							兼1	
ラテン語B-2	3②		1				○							兼1	
ラテン語C-1	3③		1				○							兼1	
ラテン語C-2	3④		1				○							兼1	
スペイン語A1-1	1①		1				○							兼1	
スペイン語A1-2	1②		1				○							兼1	
スペイン語A2-1	1①		1				○							兼1	
スペイン語A2-2	1②		1				○							兼1	
スペイン語A3-1	1③		1				○							兼1	
スペイン語A3-2	1④		1				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習言語科目	スペイン語A 4-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A 4-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語B-1	2①		1			○								兼1	
	スペイン語B-2	2②		1			○								兼1	
	スペイン語C-1	2③		1			○								兼1	
	スペイン語C-2	2④		1			○								兼1	
	日本語A 1-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A 1-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A 2-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A 2-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A 3-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A 3-2	1④		1			○								兼1	
	日本語A 4-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A 4-2	1④		1			○								兼1	
小計 (104科目)	—	—	0	104	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼12	—
共通教育科目 自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2			○								兼1	
	石川県の市町	1①～②		2			○								兼1	
	健康論実践D	1④		1					○						兼1	
	健康論実践E	1④		1					○						兼1	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1			○								兼1	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1			○								兼1	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論1	1①～②		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論2	1③～④		2			○								兼1	
	地元学A (地域資源調査)	1①		1			○								兼1	
	地元学B (聞き書き)	1②		1			○								兼1	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1				○							兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1			○								兼1	
	香りと日本文化	1③		1			○								兼1	
	心と体の健康A	1③		1			○								兼1	
	心と体の健康B	1④		1			○								兼1	
	未来デザインプラクティス	1①・②・④		1					○						兼1	集中
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1			○								兼1	
	金沢の歴史と文化	1③～④		2			○								兼1	
	日本の伝統芸能	1②		1			○								兼1	
	地域創造学特別講義C	1③		1			○								兼1	
	地域創造学特別講義D	1④		1			○								兼1	
	日本国憲法概説	1③		2			○								兼1	
	日本史要説	2①～②		2			○								兼1	
	東洋史要説	2③～④		2			○								兼1	
	ソーシャルビジネス概論	1		1											兼1	
	行政学の基礎	1①		2			○								兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1				○							兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1				○							兼1	
	コーヒーと社会	1③		1			○								兼1	
	コーヒーと科学	1④		1			○								兼1	
	能登・地域活性化演習Ⅰ	1②		1			○								兼1	
	能登・地域活性化演習Ⅱ	1②		1			○								兼1	
	地学実験	1②～③		2					○						兼1	
	生物学実験	1①～②		2					○						兼1	
	海洋生化学演習	1①		2				○							兼1	集中
	地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①		1			○								兼1	
地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②		1			○								兼1		
ローカルキャリアデザインⅠ	1②		1			○								兼1		
ローカルキャリアデザインⅡ	1③		1			○								兼1		
環境動態学概説Ⅰ	1③		1			○								兼1		
環境動態学概説Ⅱ	1④		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	自由履修科目	Pythonデータ分析入門	1②	1		○									兼1			
		プレゼンテーション演習A	1③	1		○									兼1			
		プレゼンテーション演習B	1④	1		○									兼1			
		コンピュータグラフィクス演習 I	1③	1				○							兼1			
		コンピュータグラフィクス演習 II	1④	1				○							兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習 A	1①	1			○								兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	1②	1			○								兼1			
		Society 5.0 概論A	1①	1			○								兼1			
		Society 5.0 概論B	1②	1			○								兼1			
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○								兼1			
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1					○						兼1			
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1					○	○					兼1			
		ドイツ語A (充実クラスI-1)	1③	1					○	○					兼1			
		ドイツ語A (充実クラスI-2)	1④	1					○	○					兼1			
		ドイツ語A (充実クラスII-1)	1③	1					○	○					兼1			
		ドイツ語A (充実クラスII-2)	1④	1					○	○					兼1			
		フランス語A (充実クラスI-1)	1③	1					○	○					兼1			
		フランス語A (充実クラスI-2)	1④	1					○	○					兼1			
		フランス語A (充実クラスII-1)	1③	1					○	○					兼1			
		フランス語A (充実クラスII-2)	1④	1					○	○					兼1			
		中国語A (充実クラスII-1)	1③	1					○	○					兼1			
		中国語A (充実クラスII-2)	1④	1					○	○					兼1			
		小計 (67科目)		—	0	80	0		—			0	0	0	0	0	兼34	—
		共通教育科目計 (254科目)		—	13	282	0		—			2	3	0	0	0	兼93	—
		専門科目	学域俯瞰科目	アントレプレナーシップ論	1①~④	1			○						1			
数学物理学基礎演習A	1③			1				○							兼3	共同		
数学物理学基礎演習B	1④			1					○						兼3	共同		
物質化学概論A	2①			1				○							兼3	共同		
物質化学概論B	2②			1				○							兼4	共同		
先端テクノロジー概論A	1③			1				○				1		1	兼4	オムニバス		
先端テクノロジー概論B	1④			1				○				1		1	兼5	共同		
数学物理基礎リテラシー	2①~②			1				○							兼3	オムニバス		
インフラストラクチャー概論	2①			1						○					兼1			
地球の科学	2②			1						○					兼1			
生物科学概論A	1①			1				○							兼8	オムニバス		
生物科学概論B	1②			1				○							兼8	オムニバス		
学域GS科目	データサイエンス応用系科目			情報・計算科学基礎	1③	2				○							兼4	共同
			データサイエンス演習	2②	1					○						兼3	オムニバス	
			ケモインフォマティクス演習	1③	1						○					兼3	オムニバス	
			確率・統計解析A	3③	1				○							兼1		
			確率・統計解析B	3④	1				○							兼1		
			信頼性工学A	2③	1				○					1				
			信頼性工学B	2④	1				○					1				
			プログラミング演習	2①~②	1						○				1			
			確率・統計及び演習	2③~④	1						○						兼1	
			確率・統計学基礎	2③	1					○							兼1	
			データサイエンス実践	2④	1					○							兼1	
			地球惑星データ解析A	2③	1					○							兼1	
地球惑星データ解析B	2④		1					○							兼1			
者初科学	アカデミックスキル	1①	1						○				1		兼3	共同		
	プレゼン・ディベート論	1②	1						○				1		兼3	共同		
小計 (31科目)		—	3	29	0		—			0	0	1	3	0	兼48			
学域GS科目	学域GS言語科目 I (理工系英語 I)	2①	1				○								兼1			
	学域GS言語科目 II (理工系英語 II)	2②	1				○								兼1			
小計 (2科目)		—	2	0	0		—			0	0	0	0	0	兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	学域共通科目	計算科学	1④	2		○									兼3	共同 オムニバス オムニバス 集中 集中	
		工業力学	2①～②	2		○									兼1		
		計算機リテラシーA	2①	1		○									兼2		
		計算機リテラシーB	2②	1		○									兼2		
		生命理工学概論A	1③	1		○									兼7		
		生命理工学概論B	1④	1		○									兼7		
		国際研修A	1・2・3・4①②③④	1					○	1							
		国際研修B	1・2・3・4①②③④	2					○	1							
		小計(8科目)	—	0	11	0			—	1	0	0	0	0	兼20		
	専門基礎科目Ⅰ	微分方程式及び演習	1③～④		2		○									兼4	
		フーリエ解析及び演習	2①～②		2		○									兼1	
		ベクトル解析及び演習	2①～②		2				○							兼1	
		複素解析及び演習	2③～④		2				○							兼4	
		小計(4科目)	—	0	8	0			—	0	0	0	0	0	兼5		
	専門基礎科目Ⅱ	電気回路A	2①		1		○						1			共同	
		電気回路B	2②		1		○						1				
		材料力学Ⅰ及び演習	2①～②		2		○			2	1						
		プロセス工学A	2①		1		○			1							
		プロセス工学B	2②		1		○			1							
		小計(5科目)	—	0	6	0			—	3	1	0	2	0			
	コアプログラム(電子機械)	科実 目ア 実践	機械工学設計製図基礎(ME)	2③	2			○								兼1	
			小計(1科目)	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	兼1	
		コア 科目 Ⅰ	材料力学ⅡA(ME)	2③		1				○							兼1
			材料力学ⅡB(ME)	2④		1				○							兼1
振動工学Ⅰ及び演習(ME)			2③～④		2					1						兼1	
流れ学Ⅰ及び演習(ME)			2③～④		2											兼1	
熱力学Ⅰ及び演習(ME)			2③～④		2											兼1	
		小計(5科目)	—	0	8	0			—	1	0	0	0	0	兼4		
コア 科目 Ⅱ		基礎加工学A	2③		1											兼1	
		基礎加工学B	2④		1				○							兼1	
		制御工学ⅠA(ME)	2③		1		○			1							
		制御工学ⅠB(ME)	2④		1		○			1							
		数値解析A	2③		1		○									兼1	
	数値解析B	2④		1		○									兼1		
	メカトロニクスA	3①		1		○				1							
	メカトロニクスB	3②		1		○				1							
	電子回路概論A	3①		1		○				1							
	電子回路概論B	3②		1		○				1							
電気回路C	3③		1		○						1						
電気回路D	3④		1		○						1						
技術社会と倫理	4③		1		○									兼1			
	小計(13科目)	—	0	13	0			—	2	1	0	1	0	兼4			
コアプログラム(機械)	科実 目ア 実践	機械工学設計製図基礎(BH)	2③～④	2			○								兼1		
		小計(1科目)	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	兼1		
	コア 科目 Ⅰ	振動工学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○				1					兼1	
		流れ学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○									兼1	
		熱力学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○									兼1	
		材料力学ⅡA(BH)	2③		1		○			1							
		材料力学ⅡB(BH)	2④		1		○			1							
		信頼性工学A	2③		1		○						1				
		信頼性工学B	2④		1		○		○				1				
		小計(7科目)	—	0	10	0			—	1	1	0	1	0	兼2		
	コア 科目 Ⅱ	材料工学A(BH)	2③		1											兼1	
		材料工学B(BH)	2④		1											兼1	
		加工学A	2③		1											兼1	
加工学B		2④		1											兼1		
制御工学ⅠA(BH)		2③		1						1							
制御工学ⅠB(BH)		2④		1				○		1							
機械設計工学A		2③		1		○			1								
機械設計工学B		2④		1		○			1								
技術社会と倫理	4③		1		○									兼1			
	小計(9科目)	—	0	9	0			—	1	1	0	0	0	兼4			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	実践科目 ア	プロセス工学実験	2③～④	1			○				1						
		プロセス工学演習	2③～④	1			○				1						
		小計 (2科目)	—	2	0	0	—			0	2	0	0	0			
	コアプログラム (化学工学)	実践科目 コ	統計解析A	2③		1		○				1					
			統計解析B	2④		1		○				1					
			プロセス工学数学A	2③		1						1					
			プロセス工学数学B	2④		1						1					
			伝熱工学A	2③		1					1						
			伝熱工学B	2④		1					1						
			流体工学A	2③		1											兼1
			流体工学B	2④		1											兼1
			熱力学A	2③		1											兼1
			熱力学B	2④		1						1					
			物理化学A	2③		1					1						
			物理化学B	2④		1					1						
			化学反応速度論A	2③		1					1						
			化学反応速度論B	2④		1					1						
			プロセス工学量論A	2③		1			○						1		
			プロセス工学量論B	2④		1			○			1					
			プロセス制御A	2③		1			○			1					
			プロセス制御B	2④		1			○			1					
単位操作A			2③		1			○			1						
単位操作B			2④		1			○			1						
工学における倫理と法	4①～②			2				○								兼1	
小計 (21科目)	—	0	22	0	—			4	3	0	1	0		兼3			
専門科目	実践科目 コ	電子情報基礎実験	2③～④	2			○			1			2		共同		
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—		1	0	0	2	0				
		コアプログラム (電子情報)	実践科目 コ	統計解析A	2③		1		○				1				
	統計解析B			2④		1		○				1					
	パターン認識A			2③		1			○					1			
	パターン認識B			2④		1			○					1			
	電気回路C			2③		1			○					1			
	電気回路D			2④		1			○					1			
	電子回路 I			2③		2				○		1					
	電子回路 II			2④		2				○		1					
	電気磁気学及び演習A			3①		1											兼1
	電気磁気学及び演習B			3②		1											兼1
	電気磁気学及び演習C			3③		1											兼1
	電気磁気学及び演習D			3④		1											兼1
	論理回路A			2③		1								1			
	論理回路B			2④		1					○			1			
	通信工学A			2③		1			○			1					
	通信工学B			2④		1			○			1					
	システム制御基礎A			2③		1			○				1				
	システム制御基礎B			2④		1			○				1				
	振動工学			2③～④		2			○			1					
工学における倫理と法	4①～②				2			○								兼1	
小計 (20科目)	—	0		24	0	—			3	2	1	2	0		兼3		
実践科目	実践科目 コ	知能ロボティクス基礎実験	3①～②	1			○			1					兼3 共同		
		機械工作実習 (ME)	3①～②	1											兼4 共同		
		機械設計演習A	3①～②	1						1	1		1		兼4 共同		
		機械設計演習B	3②		1					1	1		1		兼4 共同		
		応用プログラミング技術	3③～④		2					2	2		1		兼1 共同		
		小計 (5科目)	—	3	3	0	—		3	3	0	1	0		兼8		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
フロンティアプログラム (知能ロボティクス)	振動工学ⅡA(ME)	3①		1						1								
	振動工学ⅡB(ME)	3②		1						1								
	航空宇宙工学A	3①		1						1						兼2	オムニバス	
	航空宇宙工学B	3②		1						1						兼2	オムニバス	
	制御工学ⅡA(ME)	3①		1						1								
	制御工学ⅡB(ME)	3②		1						1								
	熱力学ⅡA(ME)	3①		1												兼1		
	熱力学ⅡB(ME)	3②		1												兼1		
	機械設計学	3①		2						1	1						共同	
	信号処理A	3①		1								1						
	信号処理B	3②		1								1						
	計測工学A	3③		1												兼1		
	計測工学B	3④		1												兼1		
	確率・統計解析A	3③		1												兼1		
	確率・統計解析B	3④		1												兼1		
	ロボット工学A	3①		1						3	1						オムニバス	
	ロボット工学B	3②		1						3	1						オムニバス	
	パターン認識A	3③		1									1					
	パターン認識B	3④		1									1					
	画像処理A	3③		1									1					
	画像処理B	3④		1									1					
	流れ学ⅡA(ME)	4①		1				○									兼1	
	流れ学ⅡB(ME)	4②		1				○									兼1	
	アルゴリズムとデータ構造A	4①		1				○									兼1	
	アルゴリズムとデータ構造B	4②		1				○									兼1	
	通信工学A	4③		1				○		1								
	通信工学B	4④		1				○		1								
	機械学習A	4③		1				○									兼1	
	機械学習B	4④		1					○								兼1	
小計(29科目)	—	—	0	30	0			—		6	2	1	1	0	兼8			
専門科目	実践科目																	
	バイオメカトロニクス基礎実験	3①～②	1													兼1		
	機械工作実習(BH)	3①～②	1								1							
	数値解析及びプログラミング演習A	3①		1				○		1								
	数値解析及びプログラミング演習B	3②		1				○		1								
創造デザイン実習	3①～②	2					○		2			1			兼1	共同		
小計(5科目)	—	—	4	2	0			—		3	1	0	1	0	兼2			
フロンティアプログラム (バイオメカトロニクス)	専門科目																	
	人体科学A	3①	1					○		1								
	人体科学B	3②	1					○		1								
	振動工学ⅡA(BH)	3①		1				○		1								
	振動工学ⅡB(BH)	3②		1				○		1								
	流れ学ⅡA(BH)	3①		1				○								兼1		
	流れ学ⅡB(BH)	3②		1				○								兼1		
	伝熱学A	3①		1				○								兼1		
	伝熱学B	3②		1				○								兼1		
	人間工学A	3③		1				○			1							
	人間工学B	3④		1				○			1							
	生体計測A	3③		1				○			1							
	生体計測B	3④		1				○			1							
	制御工学ⅡA(BH)	3①		1				○			1							
	制御工学ⅡB(BH)	3②		1				○			1							
	ロボット工学A	3①		1				○		3	1						オムニバス	
	ロボット工学B	3②		1				○		3	1						オムニバス	
	パターン認識A	3③		1				○					1					
	パターン認識B	3④		1				○					1					
	画像処理A	3③		1				○					1					
	画像処理B	3④		1				○					1					
	生体材料工学A	3①		1						1								
	生体材料工学B	3②		1						1								
	構造解析学A	3③		1													兼1	
	構造解析学B	3④		1													兼1	
	知的生産システムA	3③		1													兼1	
	知的生産システムB	3④		1													兼1	
	工業デザインA	4①		1													兼1	
工業デザインB	4②		1													兼1		
小計(28科目)	—	—	2	26	0			—		7	3	0	1	0	兼4			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
実践科目	マテリアルプロセス実験	3①～②	1					○	1			2		共同
	マテリアルプロセス創成	3①～②	1					○	4	4				共同
	小計 (2科目)	—	2	0	0			—	4	4	0	2	0	
専門科目 フロンティアプログラム（マテリアルデザイン）	無機材料	3①～②		2				○						兼2 共同
	生体材料工学A	3①		1				○	1					
	生体材料工学B	3②		1				○	1					
	プラスチック成形加工A	3③		1				○						兼1
	プラスチック成形加工B	3④		1				○						兼1
	反応工学A	3①		1				○		1				
	反応工学B	3②		1				○		1				
	結晶工学A	3①		1				○	1					
	結晶工学B	3②		1			○		1					
	微粒子工学A	3①		1				○	1					
	微粒子工学B	3②		1				○	1					
	マテリアルシミュレーションA	3①		1				○	1					
	マテリアルシミュレーションB	3②		1				○	1					
	環境安全工学A	3①		1				○						兼1
	環境安全工学B	3②		1				○		1				
	分離工学A	3①		1				○		1				
	分離工学B	3②		1				○		1				
	有機化学	3①～②		2				○						兼1
	表面科学A	3③		1				○	1	1				共同・集中
	表面科学B	3④		1				○	1	1				共同・集中
	ナノ粒子工学A	3③		1				○	1					
	ナノ粒子工学B	3④		1				○	1					
	高分子材料物性A	3③		1				○	1					
	高分子材料物性B	3④		1				○	1					
	プラズマ工学A	3③		1				○						兼1
	プラズマ工学B	3④		1				○						兼1
	金属材料A	3③		1				○						兼1
	金属材料B	3④		1				○						兼1
	小計 (28科目)	—	0	30	0			—	5	3	0	0	0	兼7
科実目録	計測制御実験	3①～②	2				○		1	1	1			共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0			—	1	1	1	0	0	
専門科目 フロンティアプログラム（計測制御システムデザイン）	電気電子計測A	3①		1			○		1					
	電気電子計測B	3②		1			○		1					
	システム制御A	3①		1				○		1				
	システム制御B	3②		1				○		1				
	システム制御C	3③		1			○		1					
	システム制御D	3④		1			○		1					
	デジタル制御A	3③		1			○		1					
	デジタル制御B	3④		1			○		1					
	システム最適化A	3①		1			○		1					
	システム最適化B	3②		1			○		1					
	数値シミュレーションA	3①		1			○							兼1
	数値シミュレーションB	3②		1			○							兼1
	信号処理A	3①		1			○				1			
	信号処理B	3②		1			○				1			
	計算機アーキテクチャA	3①		1			○				1			
	計算機アーキテクチャB	3②		1			○				1			
	アルゴリズムとデータ構造A	3①		1				○						兼1
	アルゴリズムとデータ構造B	3②		1				○						兼1
	画像処理A	3③		1			○					1		
	画像処理B	3④		1			○					1		
	オペレーティングシステムA	3①		1			○							兼1
	オペレーティングシステムB	3②		1				○						兼1
	情報ネットワークA	3①		1				○						兼1
	情報ネットワークB	3②		1				○						兼1
	小計 (24科目)	—	0	24	0			—	2	1	1	1	0	兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	フロンティアプログラム（ヒューマン・エコシステム） 専門科目	材料設計学A	3①	1		○										兼1	
		材料設計学B	3②	1		○										兼1	
		人間工学A	3③	1		○				1							
		人間工学B	3④	1		○				1							
		生体計測A	3③	1		○				1							
		生体計測B	3④	1		○				1							
		生物工学A	3③	1		○				1							
		生物工学B	3④	1		○				1							
		熱力学ⅡA(BH)	3①	1		○										兼1	
		熱力学ⅡB(BH)	3②	1		○										兼1	
		物質循環工学A	3③	1		○										兼1	
		物質循環工学B	3④	1		○										兼1	
		エネルギー・環境工学A	3③	1		○										兼1	
		エネルギー・環境工学B	3④	1		○										兼1	
		エネルギー変換工学A	3③	1		○										兼1	
		エネルギー変換工学B	3④	1		○										兼1	
		バイオテクノロジーA	3③	1		○					1						
		バイオテクノロジーB	3④	1		○					1						
		環境安全工学A	3①	1		○										兼1	
		環境安全工学B	3②	1					○			1					
		高分子材料物性A	3③	1				○			1						
		高分子材料物性B	3④	1				○			1						
		電気化学	3③～④	2				○									兼1
		工業デザインA	4①	1				○									兼1
		工業デザインB	4②	1				○									兼1
	小計（25科目）	—	0	26	0		—			3	4	0	0	0		兼9	
	専門科目	科実目録	計測プログラミング及び演習	3③～④	2			○				1					
小計（1科目）			—	2	0	0		—		0	1	0	0	0			
専門科目	フロンティアプログラム（ナノセンシング） 専門科目	電気電子計測A	3①	1		○			1								
		電気電子計測B	3②	1		○			1								
		分離工学A	3①	1		○					1						
		分離工学B	3②	1		○					1						
		量子物理学	3①～②	2		○										兼1	
		計測標準学A	3③	1		○					1						
		計測標準学B	3④	1							1						
		マイクロSCOPIE A	3③	1									1				
		マイクロSCOPIE B	3④	1									1				
		スペクトロSCOPIE A	3③	1							1						
		スペクトロSCOPIE B	3④	1							1						
		バイオアナリシスA	3③	1							1						
		バイオアナリシスB	3④	1							1						
		ナノ粒子工学A	3③	1				○			1						
		ナノ粒子工学B	3④	1				○			1						
		センサ工学A	3③	1				○			1						
		センサ工学B	3④	1				○			1						
		環境計測A	3③	1				○				1					
		環境計測B	3④	1				○				1					
		表面科学A	3③	1				○				1					
		表面科学B	3④	1				○				1					
小計（21科目）	—	0	22	0		—			3	4	0	1	0		兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目Ⅰ	材料工学A(ME)	2③			1			○							兼1
	材料工学B(ME)	2④			1			○							兼1
	機構運動学A	2③			1	○									兼1
	機構運動学B	2④			1	○									兼1
	伝熱工学A	3③			1	○									兼1
	伝熱工学B	3④			1	○									兼1
	応用数理解析A	3③			1	○									兼1
	応用数理解析B	3④			1	○									兼1
	レーザー工学A	3③			1	○									兼1
	レーザー工学B	3④			1	○									兼1
	機械材料学ⅠA	3①			1	○									兼1
	機械材料学ⅠB	3②			1	○									兼1
	企業開放講義	3③～④			1	○									兼1
小計(13科目)	—	0	0	13	—			0	0	0	0	0		兼9	
発展科目Ⅱ	材料設計学A	3①			1										兼1
	材料設計学B	3②			1										兼1
	熱力学ⅡA(BH)	3①			1										兼1
	熱力学ⅡB(BH)	3②			1										兼1
	生物工学A	3③			1				1						
	生物工学B	3④			1				1						
	企業開放講義	3③～④			1										兼1
	物質循環工学A	3③			1										兼1
	物質循環工学B	3④			1										兼1
	応用伝熱学A	3③			1										兼1
	応用伝熱学B	3④			1										兼1
	エネルギー・環境工学A	3③			1				1						兼1 共同
	エネルギー・環境工学B	3④			1				1						兼1 共同
小計(13科目)	—	0	0	13	—			2	0	0	0	0		兼6	
発展科目Ⅲ	人体科学A	3①			1				1						
	人体科学B	3②			1				1						
	振動工学ⅡA(BH)	3①			1				1						
	振動工学ⅡB(BH)	3②			1				1						
	流れ学ⅡA(BH)	3①			1										兼1
	流れ学ⅡB(BH)	3②			1										兼1
	伝熱学A	3①			1										兼1
	伝熱学B	3②			1										兼1
	制御工学ⅡA(BH)	3①			1					1					
	制御工学ⅡB(BH)	3②			1					1					
	企業開放講義	3③～④			1										兼1
	応用伝熱学A	3③			1										兼1
	応用伝熱学B	3④			1										兼1
小計(13科目)	—	0	0	13	—			3	1	0	0	0		兼3	
フロンティア総合科目	フロンティアプロジェクトA	3③		1					16	10	1	11			兼3 共同
	フロンティアプロジェクトB	3④		1					16	10	1	11			兼3 共同
	学外技術体験実習A	3①～②・③～④		1					3	1					共同
	学外技術体験実習B	3①～②・③～④		2					3	1					共同
	海外技術体験実習	3①～②・③～④		2					1						
	卒業プロジェクト	4通	8						16	10	1	11			兼3 共同
	小計(6科目)	—	8	7	0	—			16	10	1	11	0		兼3
教職科目	工業概論	4①～②		2						1					兼12 オムニバス
	職業指導第1	3③～④		2											兼1
	職業指導第2	4①～②		2											兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	1	0	0	0		兼13
合計(347科目)		—	49	598	39	—			16	10	1	11	0		兼190

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業要件：卒業に必要な単位数124単位以上 共通教育科目46単位以上（導入科目：4単位，GS科目：各群から3単位計15単位，GS言語科目：8単位，自由履修科目3単位以上，基礎科目16単位） 専門基礎科目および専門科目あわせて78単位以上 コアプログラム1つとフロンティアプログラム1つ※を修得しなければならない ※コアプログラム修了要件 16単位以上 フロンティアプログラム修了要件 18単位以上 ※卒業プロジェクト着手要件 全修得単位数 108単位以上 うち，共通教育科目 46単位以上 専門教育科目 62単位以上							1 学年の学期区分			4 期				
							1 学期の授業期間			8 週				
							1 時限の授業時間			90 分				

授 業 科 目 の 概 要 (融合学域スマート創成科学類)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
導入科目	大学・社会生活論	<p>本授業では、大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを通じて、以下を学修目標として取り組む。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける。</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する。</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、修学期間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようになる。</p>		
	データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>		
	地域概論	<p>本授業の目標は、本学の各学類の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、修学期間の学修をデザインできるようにすることを通じて、次の学修成果の獲得を目指す。</p> <p>①学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>②自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようにすること。</p> <p>④石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>	共同	
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る） GS科目	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状况を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあって、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の社会学	<p>身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問的世界に触れる。この授業においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を活かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会学の重要な語句や視点について説明できる。 ・社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 ・日常生活の中での経験を、社会的な視点から分析できる。 ・新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。 	
		ケーススタディによる応用倫理学	<p>個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。</p> <p>応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	1群 (自己の立ち位置を知る)	地球生物圏と人間 地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。 具体的には、以下について学ぶ。 ・地球システムにおける人類の位置づけ ・地球での様々な出来事とプレートテクトニクスとの関連 ・地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） ・水と大気の動きをと人間社会への影響 ・地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 ・種の共存と生物群集の成立のしくみ ・生物集団の進化の仕組み及び種の形成 ・遺伝情報学、分子系統学	
		哲学（自我論）	〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。 本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。	
		パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。 本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。	
		グローバル時代の文学	グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地域の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地域の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。 具体的な学修目標は以下のとおり。 ①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。 ②世界各地域の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。 ③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。	
		健康科学	我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。 本授業では、健康を守る身体のメカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に着け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常活動、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。	
		細胞・分子生物学	私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS科目	2群 自己を知り鍛え、自己を鍛え、自己を鍛える	エクササイズ&スポーツ実技 心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。	
	3群 (考え・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング 日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。 本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的なく思考・表現の能力を高めることを目的とする。	
		価値と情動の認知科学 行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する＜認知・行動＞の仕組みに関する理解が必要となる。 本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。	
		芸術と自己表現 人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。 本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。	
	スポーツ科学	本授業では、保健体育の意義や、身体の理(ことわり)と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	
	4群 (世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化 グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。 本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさと変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。 自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を獲得することを目的とする。	
		日本史・日本文化 現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。 本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視点で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群（世界とつながる）	異文化間コミュニケーション	グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。 本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。 偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。	
			異文化体験A	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 45時間相当の留学を対象とする。	
			異文化体験B	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 90時間相当の留学を対象とする。	
			異文化体験C	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 135時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験D	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 180時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験E	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 225時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	4群 (世界とつながる)	異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。		
		グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。		
		グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。		
	5群 (未来の課題に取り組む)	GS科目	科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	
			統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
		環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。		
		生活と社会保障	日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。 本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。		
	現代社会と人権	未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていこうと、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。 本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 科目 6 群 (新しい社会を生きる)	インテグレート科学	物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。 本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。	
	A I 入門	Artificial Intelligence (AI, 人工知能) とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術 (コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理) の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。	
	情報の科学	世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していく必要がある。 本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。	
	デザイン思考入門	高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス (共感、問題定義、アイデア創造、試作、テスト) について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。	
	論理学と数学の基礎	数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。 本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。 学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。	
G S 言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	授業は英語で行われる。 TOEICのリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。 TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3 及び4対応。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。	
	TOEIC準備 II	授業は英語で行われる。 TOEICのリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。 TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。 読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身に付けるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。	
	TOEIC準備 III	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I, II で伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I, II で学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。	

共通教育科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目(英語)	TOEIC準備Ⅳ	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備Ⅰ～Ⅲを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備Ⅰ～Ⅲで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	
	TOEIC準備(演習)	<p>TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用語の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic PurposesⅠ	<p>このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。</p> <p>文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由と例えを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic PurposesⅡ	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。</p> <p>学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。</p> <p>有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。</p>	
	English for Academic PurposesⅢ	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、EAPⅠとEAPⅡで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題を分析する。</p> <p>このコースは主にサマリーライティング(要約文章の作成)と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。</p> <p>学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。</p> <p>ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。</p>	
	English for Academic PurposesⅣ	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術を用いながらさらに発展させ、学術的テーマが現代社会の課題について小論文を書く。</p> <p>与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。</p> <p>与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるようになる。</p> <p>書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。</p> <p>アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。</p>	
	English for Academic Purposes(Retake)	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。</p> <p>学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目（日本語）	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	口頭発表A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	口頭発表B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	
	上級読解 I A	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	上級読解 I B	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	上級読解 II A	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
上級読解 II B	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したりする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング(論証と演繹)を通じて、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術(存在文の扱い方、消去法、背理法)について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	アカデミック・ライティングA	日本の大学で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に付けることを目的とする。	
	アカデミック・ライティングB	日本の大学で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に付けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
基礎科目	微分積分学ⅠA	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。求積法や多変数関数の微分法などいくつかの基本的な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	微分積分学ⅠB	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。グリーン定理やガウスの発散公式等さらに高度な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	微分積分学ⅡA	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができることを目的とする	
	微分積分学ⅡB	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができることを目的とする。	
共通教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目	線形代数学ⅠA	線形代数学は複雑な自然現象を数学的に理解したり、多数の情報を同時に扱うための手段として大きな役割を果たしている。 本授業では、行列とベクトルの基本概念の理解から始める。次に行列の計算と連立一次方程式を解く方法を学ぶ。 線形代数学に対する理解を深めることを目的とする。	
	線形代数学ⅠB	連立一次方程式で表される関係は、日常生活から高度の学問的議論の対象に至るまで、現象を数理的にとらえようとする時、最も基本的なものとして普遍的に現れる。 連立一次方程式がいつ解けるのか、そのために必要な階数や行列式や逆行列について学ぶ。 線形代数学に対する理解をさらに深めることを目的とする。	
	線形代数学ⅡA	本授業では、連立一次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探求する。 鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本的概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。 ベクトルの学びを中心に論理的な思考法を涵養することを目的とする。	
	線形代数学ⅡB	本授業では、連立一次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探求する。 鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本的概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。 ベクトルや行列を発展させた学びにより、具体的な計算方法の習熟や論理的な思考法を涵養することを目的とする。	
	統計数学A	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学の基本的部分である確率分布や正規分布、母平均などの理論を講義することで、統計の考え方を理解し、統計的方法を修得することを目的とする。	
	統計数学B	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。 本授業では、統計学のカイ二乗検定や多重比較の方法を講義することで、統計の実践的スキルや発展的な統計的方法を修得することを目的とする。	
	物理学ⅠA	本授業では、ニュートンの運動の法則や運動量の保存等古典力学的現象について学ぶことにより、それらの現象を支配している法則に関する知見を修得することを目的とする。	
	物理学ⅠB	本授業では、空間とベクトルや力学的エネルギーの保存等について学ぶことで、ベクトルや微分・積分などの数学的手法を用いて現象を記述・解析する手法を修得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	物理学ⅡA	<p>数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。</p> <p>本授業では、力学・電磁気学と並び重要な分野である熱力学・統計力学について講義することで、気体の熱力学、分子運動論や気相・液相間の転移等について、基本的な理解を得ることを目的とする。</p>	
	物理学ⅡB	<p>数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。</p> <p>本授業では、20世紀に革新を遂げた現代物理学の基礎、相対性理論と量子力学の理解に必要な数学的知識を、振動と波動を通して授け、それらについての基礎的知識を学ぶことで、振動と波動の基本概念や量子力学の基礎的知識を得ることを目的とする。</p>	
	化学ⅠA	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>気体や分子といった身近なものを題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。</p>	
	化学ⅠB	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学結合やエントロピーといった発展的な原理を題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。</p>	
	化学ⅡA	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業では、平衡、動力学等を学ぶとともに、新素材、生体物質、測定法などの最新の基礎知識も修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。</p>	
	化学ⅡB	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業で典型元素や核化学等の知識を修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。</p>	
初習言語科目	ドイツ語A1-1	<p>文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。</p> <p>文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語A1-2	<p>本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。</p> <p>最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを旨とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A 2-1	<p>初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。</p> <p>基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。</p> <p>授業で取り上げる内容は下記の通り。</p> <p>ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介</p>	
	ドイツ語A 2-2	<p>初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。</p> <p>基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。</p> <p>本授業で取り上げる内容は下記の通り。</p> <p>趣味に関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-1	<p>ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。</p> <p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生活の描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-2	<p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等</p>	
	ドイツ語A 4-1	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語A 4-2	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語B-1	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。 	
	ドイツ語B-2	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。 	
	ドイツ語C-1	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングを行う。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。</p>	
	ドイツ語C-2	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングを行う。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。</p>	
	フランス語A1-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir, 数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。</p>	
	フランス語A1-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	フランス語A 2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	フランス語A 2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	フランス語A 3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFD/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFD/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語A 4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	フランス語B-1	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどのようなものが体得することを目指す。	
	フランス語B-2	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。	
	フランス語C-1	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。 将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。	
	フランス語C-2	総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。 フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びつき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉強、仕事に必要なDELF/DALFの上の級に合格する態勢についても考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯のスパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。	
	ロシア語A1-1	ロシア語ネイティブの教員が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。	
	ロシア語A1-2	ロシア語ネイティブの教員が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの教員が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラル・スピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分で行える。 	
	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	
	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるように、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。 発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。 疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	
	中国語A2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいかから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。 発音練習、常用表現、国籍を尋ねる トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」「どこで食事をしますか」</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語A2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいかから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。 交通手段を尋ねる、距離を表現する、日にち・月の表現 「お箸どうぞ」、「疲れたら休もう」、「北京は人も車も多い」</p>	
	中国語A3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。 結果補語、助動詞、疑問視の応用表現、方向補語、進行表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語、比較表現、受身表現、使役表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲めません」 「午後に病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り</p> <p>「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」</p> <p>スピーチ、暗唱などの練習を行う。</p>	
	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等 作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中両国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語C-2	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する。 中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。 生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇） 中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。</p>	
	スペイン語A1-1	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tenen/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</p>	
	スペイン語A1-2	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</p>	
	スペイン語A2-1	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等</p>	
	スペイン語A2-2	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等</p>	
	スペイン語A3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習する。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な個人情報他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	スペイン語A3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習する。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	スペイン語A4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> アルファベットを見て正しく発音することができる。 自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年次の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	スペイン語C-2	DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。 聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	
		日本語A1-1	本授業は日本語レベルが初学者一初級前半の留学生対象の日本語科目で、日常生活で使われる日本語の基礎的な文法と語彙を学び、日本語で基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。	
		日本語A1-2	文法を中心として日本語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じて日本語の文や表現に触れることで、日本語初級文法の基礎的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A2-1	文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使える日本語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。	
		日本語A2-2	これまでに学んだ知識を応用して、現実的な場面で使える日本語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えず日本語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、研究室などで最低限の会話ができるようになることを目指す。	
		日本語A3-1	本授業は日本語レベルが初学者一初級前半の留学生対象の日本語科目で、日常生活で使われる日本語の基礎的な文法と語彙を学び、日本語で基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。	
		日本語A3-2	日本語の会話ができ、かつ日本語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A4-1	日本語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつ日本語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A4-2	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。日本語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、日本文化に触れ、視野を広げる。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、日本語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、日本語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
		石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
		健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
		健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割 I	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割 II	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society 5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society 5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
		シェルスクリプト言語論 I	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10, macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>「POSIX環境におけるシェルスクリプト」によるプログラミング手法を通して、パソコン操作の基本から、情報科学に関する基礎知識を学ぶとともに、シェルスクリプトを使った実習によって、ビッグデータ処理やIoT機器を操作などの作業ができるようになることを目的とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	シェルスクリプト言語論Ⅱ	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10, macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようにすること目的とする。</p>	
	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	<p>近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現する。</p> <p>本授業では、「ものグラミング」のもとで、手で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	<p>「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。</p> <p>本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	<p>本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	<p>情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。</p> <p>本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイピング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	イノベーションを起こして、起業家になろう4	<p>少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。</p> <p>本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。</p>	
	香りと日本文化	<p>日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。</p> <p>本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。</p>	
	心と体の健康A	<p>社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。</p> <p>本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。</p> <p>人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	心と体の健康B	<p>社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体の関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。</p> <p>本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。</p> <p>人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	未来デザインプラクティス	<p>将来、地球温暖化などの全世界的な課題を解決するためのプロジェクトや、地域をより良くするための様々な取り組みに参加する際に、自ら自分たちの“未来をデザイン”し、効果的なプロジェクトを企画し、チームのリーダーやメンバーに提案（プレゼン）し、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいくことが想定される。</p> <p>本授業は、その“プラクティス”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とする。</p>	
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	<p>本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。</p>	
	金沢の歴史と文化	<p>金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではなくさまざまな役割を担っている。</p> <p>本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。</p>	
	日本の伝統芸能	<p>本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	地域創造学特別講義C	<p>労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。</p> <p>本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。</p>	
	地域創造学特別講義D	<p>本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。</p> <p>本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。</p>	
	日本国憲法概説	<p>本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。</p>	
	日本史要説	<p>本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。</p>	
	東洋史要説	<p>本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。</p>	
	ソーシャルビジネス概論	<p>本授業では、ソーシャルイノベーションの創出について体系的な理解を促進するとともに、ソーシャルビジネスの基礎知識を教授する。</p> <p>ソーシャルビジネスとは、社会的な課題の解決をビジネスに結び付けて持続性を維持する事業である。ソーシャルビジネスの概要について理解するとともに、自身のキャリア形成のためにその意義を学修しながら、ソーシャルビジネスの実現可能性について議論する。</p>	
	行政学の基礎	<p>本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。</p>	
	ゼミ／角間の里山づくり春編	<p>本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。</p>	
	ゼミ／角間の里山づくり秋編	<p>本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する。	
	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	能登・地域活性化演習Ⅰ	本授業では、能登地域における様々な社会課題についてフィールドワークを通じて学修し、里山里海を維持しつつ持続可能な社会構築の可能性を探求し、能登地域の里山里海の実態を把握するとともに、地域課題を解決すべくソーシャルイノベーション創出の実現性を教授することで、能登地域の里山里海の実態を理解し、持続可能な社会基盤の構築に向けて様々なステークホルダーからの視点を踏まえ、自分なりの考えを構築することを目的とする。	
	能登・地域活性化演習Ⅱ	本授業では、能登地域における様々な社会課題について学修し、課題解決に向けた自らの考えを構築することを主題とする。 能登地域における様々な社会課題について網羅的な理解を促進するとともに、解決に向けた基礎知識を教授することで、能登地域における様々な社会課題を理解し、その解決に向けた自分なりのアイデアを構築することを目的とする。	
	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	
	海洋生化学演習	生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。 本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといふ姿勢を習得させることを目的とする。	
	地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	地域の各界で活躍するリーダーの取り組み、考え方や見方を理解すること、現在社会で起きている問題等を理解し地方創生人材として活躍するイメージを形成すること、講師の活動を知る・覚えるだけの教育ではなく、主体として自ら学ぶ姿勢を育成することを目的とする。 本授業は、信州大学と富山大学、金沢大学との連携・交流型で実施し受講者をグループに分け、グループごとのワークショップ形式で授業を進める。	
	地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	地域社会を牽引しているトップリーダーの語りから地域の未来を理解し社会が求める人材像について考えること、地域の魅力、地域社会の今後の可能性について考え、地方創生に対する新たな視点を獲得すること、学生同士が意見を交換するワークショップを通じて、自らの社会との関わり方について考えることを目的とする。 本授業は、信州大学と富山大学、金沢大学との連携・交流型で実施し受講者をグループに分け、グループごとのワークショップ形式で授業を進める。	
	ローカルキャリアデザインⅠ	ローカルキャリアデザインは、「地域で働く」「地域に暮らす」ことに焦点を当て、地域にある人や組織に貢献する取り組みを体験的に学修することを通じて、どのように地域で働きたいか、生きたいかをデザインすることを授業目標としている。地域での働き方を理解しつつ、受講者の自己成長にも重点をおいて開講される演習科目であり、「ローカルキャリアデザインⅠ」では学生と地域を繋ぐ企画づくりを中心に学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	ローカルキャリアデザインⅡ	ローカルキャリアデザインは、「地域で働く」「地域に暮らす」ことに焦点を当て、地域にある人や組織に貢献する取り組みを体験的に学修することを通じて、どのように地域で働きたいか、生きたいかをデザインすることを授業目標としている。地域での働き方を理解しつつ、受講者の自己成長にも重点をおいて開講される演習科目であり、「ローカルキャリアデザインⅡ」では開講科目では学生と地域を繋ぐ企画運営を中心に学修する。	
	環境動態学概説Ⅰ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにもなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義とおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学概説Ⅰ」ではプレート・テクトニクスとそれにもなう自然災害問題を主に扱う。</p>	
	環境動態学概説Ⅱ	<p>本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにもなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義とおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。</p> <p>「環境動態学概説Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に扱う。</p>	
	Pythonデータ分析入門	<p>近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。</p> <p>解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。</p> <p>本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
	プレゼンテーション演習A	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。</p>	
プレゼンテーション演習B	<p>現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。</p> <p>本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィクス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィクスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィクスの基礎やアピアランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィクス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィクスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学ぶ。</p>	
	Society 5.0概論A	<p>日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、Society 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety 5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。「Society 5.0概論A」では日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、説明できることを目標とする。</p>	
	Society 5.0概論B	<p>日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、Society 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety 5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。「Society 5.0概論B」ではSociety 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを説明できることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることを目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容についてドイツ語で話し合い、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容についてドイツ語で話し合い、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A（充実クラス I－1）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等</p>	
	フランス語A（充実クラス I－2）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等</p>	
	フランス語A（充実クラス II－1）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	フランス語A（充実クラス II－2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語A（充実クラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課す。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	
	中国語A（充実クラスⅡ－2）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等</p>	
専門教育科目	アカデミックスキル	<p>入学者に対し、大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学修への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学修に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学修デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。</p> <p>①自ら課題を発見し、それを調べて、まとめることで、学修デザイン能力と論理的な思考力を向上させる。</p> <p>②ディスカッションやプレゼンテーションを学修することで、自己表現能力を向上させる。</p> <p>③他者とのディスカッション、レポートの作成等を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる。</p>	
	プレゼン・ディベート論	<p>アカデミックスキルの内容を踏まえ、調査・研究を展開するとともに、成果をいかに効果的に発表し議論するか、という視点を導入して演習を行う。学生は、本授業を通して、発表・討論に必要な技術・能力を習得出来ることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下の能力の向上を図る。</p> <p>①他者との議論やプレゼンテーションを通じて自己表現能力を向上させる。</p> <p>②ディスカッションやレポートの作成を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる。</p> <p>③教員の指導や文献調査等を通じて、論理的な思考力や実証力を向上させる。</p>	
	イノベーション基礎	<p>「経済の発展は、経済の循環とは性質を異にするもので、そこには循環に見られる連続的な均衡状態はなく、非連続的・断絶的な様相を呈する」という前提のもと、いかに現在の社会経済においてイノベーション創出が重要であるかを受講者全員で認識する。その上で、顧客創造、新市場開拓、市場拡大、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS言語科目	数理・データサイエンス基礎及び演習	数理・データサイエンス・AIの基礎的な内容について修得するため、データサイエンス数理、アンケート調査設計とデータの集計、データの構造や要因の特定、統計的仮説検定等から学修する。 データサイエンス数理についてしっかりと学んだ上で、関心のある問題についてのアンケート調査及びその調査票を設計し、実際にアンケート調査を実施する。そして、Python もしくはエクセルなどを用いて、収集したデータを集計し、その構造を分析する。さらに、対象とした問題に関連する要因を特定したり、問題の仮説を統計的に検定したりすることで、データの総合的な分析を行う。その上で、分析結果をパワーポイントを用いて発表し、受講者同士で互いに議論し、AI等の最新知見にも触れる。	共同
		デザイン思考	現在の産業界のテクノロジー（情報・通信、材料等）を例に、設定する課題に対してのアプローチ法やコミュニティデザイン、情報デザインの基礎的な思考法や発想法を身につける。STEAM教育の概要やArtとの関係にも言及する。	
		学域GS言語科目Ⅰ／海外実践英語	The goal of this course is for students to improve general English skills including reading, writing, discussing, and presenting. This course will focus on group work and activities by analyzing and researching a topic in order to improve reading and writing. It will also focus on discussions in class in order to complete presentation assignments. 読む、書く、議論する、発表するなどの英語能力を伸ばすことを目標とする。授業では、グループワークとアクティビティを通じて、トピックを分析・調査し、リーディング、ライティングの能力を向上させる。また、プレゼンテーションの課題を完成させるために、授業の中でのディスカッションにも力を入れる。	
		学域GS言語科目Ⅱ／時事・学術英語	This course aims to provide students with the writing skills they need to write a dissertation. It is practical, providing students with the opportunity to develop drafts which they will then polish. We will explore the process of written communication across a range of genres in contexts with appropriate English grammar. 学術論文を書くために必要なライティングスキルを身に付けることを目標とする。実践的に学生に草稿を作成させ、それを磨き上げる。時事等、幅広いジャンルにわたる内容について、適切な英文法を用い、文章によるコミュニケーションのプロセスを探究する。所定の英語検定試験における単位認定要件のスコアクリアも課す。	
専門基礎科目	実践科目	アントレプレナー基礎	地域や企業の方々による話題提供を通して、「イノベーションとは」から始めて、産学官連携、知的財産と特許、さらにベンチャー育成と企業化等を理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。座学と集中型演習で構成し、座学においては「アントレプレナーの勧め」「アイデア、課題への気づき・見つけ方」「資金、財務、法務」等を学び、合宿では同じ志を有する他者との交流を図ると共に、地域住民との交流や社会活動を通じて地域社会の中における自身の在り方、就業観を養う。	
		アントレプレナー演習Ⅰ	アントレプレナーの基礎となる「課題発見・問題設定能力」の涵養について学ぶ。具体的には、身近な技術などの足元の課題を見つけ、その解決に向けた問題設定の能力構築を進めていく。そのため課題発見の方法や相互のピアレビューを通じた課題や問題の「挟り方」について各種手法を交えながら深掘する。さらに「伝える力」の涵養を通じて、今後のアントレプレナーとしての成長を目指した学修を行う。	
		産業DX・PBL演習Ⅰ	北陸の地域産業におけるDX化の検討を中心とする演習を行い、多人数が同時に討論やグループワークができるVR学習空間の作成や、空間スキャナーを用いて文化財や史跡等のデータを3Dコンテンツ化するVR教材の作成を行う。なお、3Dコンテンツ化の作成では、Unity Academic Alliance による Unity プラットフォームを用いる学修も行う。また、演習でも産業界の知見も伺い、我が国のデジタル化推進に資するデータ収集・理解等の実践も学ぶ。	
		アントレプレナー演習Ⅱ	複数の分野にわたるケーススタディを通じた演習を行う。アントレプレナー演習Ⅰで学んだ「課題発見・問題設定能力」を前提に、本演習では、「つなぐ力」と「システムメイキング」の涵養を目指し、具体的な事例を通じて方法論を体得するとともに、技術やノウハウの組合せ、持続可能なシステムメイキングについて、具体的な事例を演習のなかで活用しながら、その方法論の体得を目指す。アントレプレナーとして未来の科学を創成する力について、実践を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 実践科目	産業DX・PBL演習Ⅱ	TIMSAC（時系列データ解析プログラムパッケージ）とAIモデルを用いて、RESAS（地域経済分析システム）に集積されている出入国・地域間の人の流出入の時系列と経済指標のビッグデータによる動態予測を中心とする演習を行い、動態予測に用いるニューラルネットワークシミュレーターを開発する学修も行う。また、演習でも産業界の知見も伺い、社会のDXの急進に資するデータの関係性の読み取りや産業等の高付加価値化等の実践も学ぶ。	
	社会調査法	社会現象やヒトの行動モデルの分析にあたっては調査を行いデータを取得することが不可欠である。どのような調査法があるかを知り、それぞれについてデータを取得・分析する方法や、その際に留意すべき点は何かを学ぶ。調査法には、大きく分けて、質的調査と、量的調査がある。調査に用いられる方法を重点的に学び、併せて調査に不可欠なインフォームド・コンセントや個人情報保護についても学ぶ。	
	数理科学探求	スマート創成科学類で必要な数理科学の基本について、学生を主体とするアクティブラーニングの形式で探求する。スマートシティにおける数理科学、STEAM教育との関連、数理・データサイエンス・AIのスキルセット等についても学ぶ。	
	データ解析演習	一般に公開されているデータを用い、統計ソフトを使用してデータ解析を行う。分析結果を視覚化し、考察を加える。他の学生と、分析結果に基づいて議論する。 主に統計ソフト等を用いて社会学分野で使用される分析手法を学ぶ。また、アンケートで取得したデータについて、基本統計量の確認から、二変量の関係性、多変量解析まで学ぶ。標本と母集団、統計的仮説検定の考え方、バイアスや交絡、信頼性・妥当性についても学ぶ。	共同
	地方創生に見る社会課題	現代日本において「地方創生」が政策課題となってきた歴史的背景と政策動向について理解した上で、スマート技術を活用して地方創生の取り組みを深化させる多様な方向性について、国内外の先行事例を踏まえて検討する。地域の伝統、特性を伸長し、新たな取り組みによる社会変動、活性化施策を探る。	
	スマートデバイス演習	ThingSpeakなどのIoT向けのクラウドサービスを使って、デバイスから送られるセンサデータの収集やPythonやMATLABを用いたデータ解析や、スマートフォンなどのデバイスを動作させるなどの一連のプログラミングを行う演習を通して、クラウドコンピューティングを用いる通信機器やデジタル家電などのスマートデバイスの基礎を学ぶ。	
	北陸地域創生と社会学	北陸の地域的特質を踏まえ、各自自治体で取り組まれているまちづくりや地域プロジェクトの取り組み、社会現象や因果関係を踏まえた分析から学ぶ。 特にコンパクトシティや「小さな拠点」形成など、都市空間の再設計と多機能拠点構築の考え方、社会福祉政策等について、構造や機能も多角的に実例を交えて考察する。	共同
	数理・データサイエンス・AI実践	現実世界のデータが何を指し示しているのかを理解できるようになるために、数理・統計の基礎的理解とともに、データの処理と可視化、データ管理と加工、データのモデリングと評価（教師あり学習としての回帰分析や教師なし学習としてのクラスタリング、深層学習・ニューラルネットなど）の数理・データサイエンス・AIのスキルを身につける学修を行う。	
	プログラミングスキル	SNS やビッグデータだけでなく、今後IoT が広がることで、ビジネスにはこれまで以上にプログラミングスキルが求められる。プログラミングスキルはエンジニアだけでなく、ベンチャービジネスの立ち上げの際に自分でプログラミングを行う必要に迫られたり、マーケティングや営業担当者などもサービスを理解し、改善したりするうえでプログラミング知識が必要となる。Python によるプログラミングの基礎を習得するとともに、プログラミングスキルを身に付ける。そして、アプリ作成、機械学習・ディープラーニング、Web API やスクレイピングによるデータ収集のための基礎も学修する。	
	Webサイト設計基礎	現在、インターネットを介して情報を提示する際にWebサイトが欠かすことができない上に、情報の提示の仕方はより一層重要になっている。この授業では、Webサイトの仕組みを理解することとどのようにWebサイトを構築することが情報の伝達に効果的であるのかを学修する。加えて、検索エンジン最適化やページランクの仕組みについても理解し、HTML（ハイパーテキストマークアップランゲージ）やCSS（カスケードスタイルシート）の基本についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践科目	データ駆動型社会と産業	社会のあらゆる分野において様々なデータ（事実）を意思決定（駆動）に活用する動きが急進している。実世界（Physical）の多様なデータを収集し、サイバー空間（Cyber）の処理技術を駆使して分析し、創出した価値を社会や産業界に展開する連環（System）を学修する。また、製造業・農林水産業、モビリティ、スマートハウス、医療・健康、インフラ等へのIoTやビッグデータの実践的な活用、Society 5.0へのCPSの社会実装も学び、産業DXから地方創生への波及にも言及する。	共同
		プログラミングスキル実践	プログラミングスキルの活用を目指して、Python によるプログラミングの技術の習熟のために、アプリ作成、機械学習・ディープラーニング、Web API やスクレイピングによるデータ収集などを行うプログラムの実践を学修する。	
		アプリ開発	現在、スマホなしでは生活すること自体が難しいほどスマホは社会に深く浸透している。様々なビジネス、事業やプロジェクトでも、スマホを活用する場面は非常に多く、ビジネス展開においてスマホ活用は重要な要素であり、可能性を広げるカギとなりうる。スマホを活用したビジネスや事業展開、プロジェクト、さらには、研究などを今後行うことができるように、スマホのアプリのデザイン（設計・プログラミング）を行う。Python(QPython)をスマホにインストールし、簡単なアプリを作成できるよう学修する。	
	基盤科目	テクノロジー基礎	現在新たに普及しつつある新技術や最先端のシステム、また、現在研究中のものやプロトタイプが試験運用されているものの中では、数多くの最先端テクノロジーが利用されている。この授業では、各種最先端テクノロジーの概要や応用事例を取り上げ、最先端テクノロジーによって、様々な問題がどのように改善されていくのかを知ることで、新たなシステムの構築やさらなるテクノロジーの発展について学ぶ。 (オムニバス／全8回) (30 佐藤賢二／4回) テクノロジーの基礎、バイオテクノロジー、ICT (69 藤生 慎／1回) IoT (64 唐島成苗／1回) 医工学 (3 飯山宏一／1回) ナノテクノロジー (105 西脇ゆり／1回) 環境テクノロジー	オムニバス方式
		ファイナンス基礎	本授業では、ファイナンスの基礎と概要を講義する。社会人にとって、ファイナンスの理論がビジネスの基礎になっている。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が必要であり、金融取引や証券取引、将来価値と現在価値の概念、債券と株式についてファイナンス関連の基礎として学ぶ。	
		ロボットイノベーション	科学技術の進展とともにロボットも進化し、その在り方も変わりつつある。この授業では、未来のロボティクスも見据えた現時点での最先端のロボットについて、人間の代わりに何ができるのか、生体機能の代用が可能になるのか、生物の機能をどこまで真似ることができるのか、ロボットとのコミュニケーションはできるのかなどの観点からさまざまなロボットについて、たとえば、レスキューロボット、ロボット手術、昆虫ロボット、生物模倣ロボット、技能伝承ロボットなどを概観する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 基盤科目	スマート創成化学とバイオロジー	<p>化学分野での数理学や計算科学との融合に基礎的な知識を概観するとともに、スマートシティの構築、地域のカーボンニュートラル実現のために必要となる炭素を使用しない材料創成や、3Dプリンターを利用した材料の新規製造プロセスなどに代表される、高分子化学をはじめとする化学の知識、実例を学ぶ。また、ゲノム解読やゲノム編集における技術革新や、バイオテクノロジーとAIなどの情報技術の融合により、急激に進展したバイオロジーについて人間の生活に直結するものを中心に実例を交え概説する。</p> <p>(オムニバス/全8回)</p> <p>(6 瀧健太郎/4回) 材料創成やエネルギー等のスマートシティ構築に関連する化学</p> <p>(13 野村章洋/4回) 近年のバイオロジーの進展</p>	オムニバス方式
	技術社会と倫理	<p>本授業では、技術の社会的意義を捉え、技術を社会の中で活かすしくみや社会倫理を考えていく。まず技術発展とともに社会の仕組みや人間の価値観がどのように変わってきたか、具体的には産業革命に伴う封建制度から産業振興と民主主義システムへの歴史的な進展と現代の課題について産業社会学の視点も踏まえて考える。技術の内容という側面からでなく、法、経済及び社会学の側面から、さらに新しいものやシステムを作っていく設計思考法やイノベーションの考え方について、技術の社会における責任を考え、技術を扱う社会や人間の倫理および技術者の倫理について学ぶ。その上で、設計思考法を基にしながら、社会の制度・構造・地球環境保全を考えた社会の設計、情報システムを活用した社会の設計、平和社会の設計について考える。</p>	
	フィンテック基礎とビジネス応用	<p>FinTech とは、「Finance (金融)」と「Technology (技術)」を融合させた造語で、IT (情報技術) を駆使した新しい金融サービスである。「モバイル端末での決済サービス」「資産運用アドバイス」「膨大なビッグデータの解析」「人工知能を使った自動対応」「家計簿の自動作成」などの金融イノベーションについて理解する。日本のフィンテックの動きについて、具体的な事例を通して、企業会計、資金調達、決済、金融機関での活用方法を理解する。</p>	
	マーケティング論	<p>マーケティングとは、単なる販売活動のことではない。その目的は「顧客に幸せになってもらうこと」である。この授業においては、「マーケティングとは何か」ということを中心に、マーケティングの概念と基礎理論、市場構造・競争要因の概念など、企業のマーケティング行動を理解するための基礎的な知識について習得する。</p>	
	北陸技術経営論	<p>技術経営 (MOT) とは何か、その必要性、その背景、構成する基礎分野、応用などを事例も交えて学修する。さらに、北陸を代表する産業分野について、国内外の競合関係の中でどのような変容を遂げてきたかを理解するとともに、MOT の観点から今後の産業発展に向けた戦略を討論し、経営社会学への展開も見据えて学修する。</p>	
	AI と未来の社会学	<p>本授業では、まず、社会学に関する基礎的な知識を学ぶ。その上で、社会の様々な場面でAIを導入することで問題が解決・改善された事例を紹介し、その後各自が、現在運用されているシステムを調査し、その問題点とAIを利用することでどのように問題解決が図れるか、社会にどのような変化が起こるか、また、AIを利用するために必要な情報やその取得方法などを考察し、プレゼンテーションを学ぶ。</p> <p>併せて、社会学の視点も踏まえて、都市としての課題、地域社会としての問題、その双方が共通的に抱える問題について、各々に最適な解決方法を探る。</p>	共同
	社会変動と労働生産性	<p>新しい科学や技術は社会を変え、以前できなかったことをできるようにする一方で、それは予期せぬリスクに転化する可能性もあり、その過程で全く新しい変化を生じさせる。この社会変動のダイナミクスの中で、現代は工業社会という一つの時代全体の創造的破壊の過程にある。労働、生産、価値といった概念も、従来とは全く異なる考え方や基準で評価しなければならなくなっている。そのような社会的変化の影響について、主に労働社会学や経済・経営社会学、さらに科学技術のアプローチから展開を学び、現代社会を生き抜く視点を養う。</p>	
	未来エネルギー創成	<p>太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスなどの再生可能エネルギーに代表される分散電源の仕組みとそれらが未来社会に与える影響について、また、燃料電池と水素エネルギーを利活用する社会 (水素社会) についても学ぶ。特にこれらのエネルギーを作る技術、送る技術、貯める技術、使う技術についても概観する。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	基盤 科目	超スマートシティと Society 5.0	我が国が目指すべき未来社会である Society 5.0 を踏まえて、超スマートな都市（スマートシティ）やそれを支える社会システム、テクノロジーについて学ぶ。このような未来都市や未来の生活、そのための社会制度、組織の役割やテクノロジーを学ぶことで、未来に必要なとされる社会構造、サービスやモノについて考えることができるとともに、それらについて先駆けてサービス化や商品化を進めることができるよう、知識社会学の知見も踏まえて学修する。	
			世界の課題と技術トレンド	本授業では、現在どのような技術や手法が研究・開発されているかを知り、将来技術が実用化されることで現在問題となっている課題がどのように解決されていくかを予測・考察する。これらの考察を通して、産業社会学の視点も持って課題に対して必要な技術と実現方法を考えることができるようになることを目的とする。	
			SDGs基礎	社会学を学ぶに当たり、本授業ではSDGsについて基礎的に理解する。SDGs達成のためには、企業・政府・市民の能動的な取り組みが必要であり、SDGsの本質的な理解が喫緊の課題となっている。自身の現代社会への問題意識を起点に、SDGsが目指す「持続可能な社会」の本質をとらえ、その社会の構築のために有効なアクションを学修する。	
			IoT技術	家電やインフラなどに設置されたセンサ情報を、ネットワークを通して収集し活用するIoT(Internet of Things)が広く普及しつつある。IoTの変遷、仕組みやIoTを取り巻く技術を解説し、さらに人々の暮らしや社会への応用事例を知ることで、IoTを利活用するための基礎的な知識を学修する。	
			金融工学	近年の金融や証券の分野では工学的知見が不可欠であり、特に投資ではリスクを理解して回避する必要がある。統計学からポートフォリオ理論を丁寧に学ぶことで、金融資産の組合せによる期待収益や将来の不確定な収益の取り扱いを理解する。その後、ファイナンスのための確率論にも言及し、産業創出のデザインや価格予測にも展開を図る。	
			情報科学応用	コンピュータを用いた問題解決の際に必要なとなる情報科学の基礎概念（アルゴリズム論、グラフ理論、予測、待ち行列論）を理解するとともに、それらが実世界の問題にどのように応用できるのかを学修する。この授業ではプログラミング技術を学ぶのではなく、良いプログラムを書くために必要となる情報科学の概念や考え方に力点をおき、情報科学の基礎概念を知らずにプログラムを書く場合に生じる悲劇についても実感できる学修を行う。	
			最適デザインとシステム思考	互いに影響を及ぼしあう複数・多数の要素をシステムとして捉え、要素間の因果関係、つながりや全体構造や問題が発生するメカニズムを特定し、解決するための思考法（システム思考）について学び、客観的・論理的にシステムや問題の構造を分析するとともに、それらを解決することができる力を養う。それらを踏まえて、システムを最適化するため理論やデザイン手法について学ぶ。	
			数理行動モデル基礎	人々の行動に関連するデータから、その内容を理解して予測などを行う際には、適切な「数理モデル」を組み合わせて使うことが求められるので、その基本的な考え方を学んでいく。具体的には、観光客を例とし、数理モデルの主な7つの使われ方（推論、説明、デザイン、コミュニケーション、行動、予測、探索）を学修する。そのうえで、人の行動を記述することを目的とした、代表的な数理モデル（正規線形モデル、ゲーム理論、離散選択モデル）を学修し、その活用方法を習得する。	
			スマートシステム制御	システムの振る舞いを望ましいものとするフィードバック制御の基本概念を習得する。フィードバック制御系を構成する手法として、対象システムの数式モデルを用いる方法と用いない方法があり、それらの利点と欠点を理解する。特に、対象システムを数式モデルとして表現する方法や数式モデルに基づいて制御器を構成する方法についても理解する。さらに対象システムをスマートに制御する様々な手法を俯瞰的に概観する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基盤科目	北陸の都市・農村・文化	社会学の中心の一つである「地域社会学・農村社会学・都市社会学」を有機的に学ぶため、北陸地域の都市・農村の多様な地域性並びに両者の関係性を、自然・地理・歴史・文化の成り立ちから理解する。各自治体が行っている政策の実例等を通じ、地方都市や農村の実情が直面する課題に対する理解を深めるとともに、地域特性に応じた課題解決のための新たな取組みを学修する。	共同
		北陸の農林水産・製造業	社会学の立場から農村社会学・産業社会学の知見を活かし、北陸地域における代表的な農林水産業や製造業の特色に加え、直面している課題の理解を深め、地域特性に応じた課題解決や産業振興等のためにどのように関わっていけばよいのかをスマート技術が及ぼす影響など地方創生も見据えて学修する。	共同
		消費生活論	社会経済環境の変化の中での消費生活の変容や消費者問題の発生など、消費生活と社会に関わる基礎的な知識を学ぶ。そのうえで日常の暮らしの中の身近なテーマを取り上げ検討し、消費者の視点から暮らしと社会を分析する力を養う。	共同
		コンピュータとデジタル回路	コンピュータなどのデジタル信号処理システムの設計に必要なとなる、論理回路を記述する2進数の数学、論理回路の設計法、部品となる基本的な各種論理回路の構成と動作に関する知識を獲得し、数理・データサイエンス・AIも見据えた応用力を身に付ける。	
		イノベーション・マネジメント	ITを中心とした経済社会、特に経営の分野においてイノベーションの役割はますます大きくなっている。新しい製品やサービス、新しい経営手法、新しい組織やプロセスなどを創り出すことで、イノベーションは企業や自治体、国の成長を支えている。そこで、新製品/新サービス開発・普及、顧客創造、新市場開拓、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。その上で、各受講者が展望する将来像に対し、どのようなシナジーが必要で、またどのように実現していくかについて、「経営デザインシート」等の多様なフレームワークを活用することで体得する。また、マネジメントという観点から、ビジョン・メイキングや組織作り、人材育成まで踏み込んだ実践的な内容も盛り込み学修を進める。	
専門教育科目	スマートライフコアエリア 学知科目	先端医学	私たちの身体は、驚くほどに精巧にできている。本授業では、医学類で使われている資料も用いて、医学を理解するために必要となる素養を作る。また身の回りの親しみやすい題材を使って、身体とその病気の不思議を考えていく。さらに革新的な治療法の開発や新たな科学的イノベーションを起こすために、当時の人々が何を考え何を悩んだか理解することを通じて、新たなイノベーションを引き起こすためのヒントを得る。最新の医学の立ち位置と限界を理解し、今後克服すべき課題を理解することを目指して学修する。	
		未来医科学	AI、ロボット手術、ゲノム医療・再生医療、VR/AR、ICTを用いたデジタル治療、PHR(パーソナルヘルスレコード)などの最先端医療技術の知識を修得したうえで、技術的、生命倫理的、法律的、経済的な多面から、社会変革をおこすようなプロジェクトを学ぶと共に、医療社会学の視点も涵養する。	
		QOLとWell-being	より良い生活を送りたいとの思いは皆共通にあるが、より良い生活とはどのような生活を指すのかその尺度はさまざまである。本授業では、まず社会福祉学を学ぶ上で必要となるQOL(Quality of life)・Well-beingについて、概念や現状の課題を学修する。その後、これからの社会においてテクノロジーなどの技術の発展と生活の質向上の双方を進めるための方策について生活者の視点を踏まえて議論・検討することにより、社会福祉学を実践する能力を身に付ける。	
		人間拡張とライフ	人間の能力をテクノロジーによって自由に増強・拡張させる技術である人間拡張(Augmented Human)の発展が急速に進んでいる。本授業では、ロボット、センサ、通信などを組み合わせたテクノロジーにより人の能力を高める仕組みである人間拡張について学修し、生産性の向上や自立した生活の支援など生活に及ぼす影響を考察する。 (オムニバス/全8回) (7 田中志信/4回) 人間拡張技術の生産性向上の実用例と理論 (13 野村章洋/4回) 人間拡張技術を利用した生活支援と応用例	オムニバス方式
		地域の居住空間デザイン	IoT技術の活用によりエネルギーをマネジメントできるスマートハウスや、同じくIoT技術の活用により家庭の設備や家電をコントロールできるスマートホームなどについて学び、知識をつける。また、生活者の視点からはどのような暮らしが必要であるのかを検討し、議論して学修する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学知科目	ヒューマンインターフェース	人間と機械を活用する技術であり、機械を使いやすくするためのソフトウェアやハードウェア全般をさすことが多いヒューマンインターフェースについて、それらの知識を学び、システムを理解する。また、使いやすい機械などを検討することで、実践的なヒューマンインターフェースの学びとする。	
		生活デザイン論	生活デザインという行為は、社会の体制、進展、変革と大きく関わっている。生活者の立場に立って様々なモノ・コトをデザインする力を養う。具体的には自身のライフデザイン（生活設計）、居住デザイン、服飾デザインなど生活に身近なものや、普段使用する道具のデザインなど、生活に関わるさまざまなレベルのデザインを学び次世代の社会に活かせる能力を養う。	
		超高齢社会と科学技術	少子高齢化が進む我が国では、単なる健康・医療のみだけでなく、社会構造、経済にわたるあらゆる領域での問題が起こっている。一方で、AI、IoT、診断キット、VR/AR（仮想現実空間）、5G、ロボットなどの科学技術に代表される第4次産業革命が起こっている。これらの科学技術を駆使し、社会的にマッチさせ、超高齢化社会の問題を解決する必要がある。本授業では、超高齢化社会時代の課題を設定し、主として科学技術を駆使した解決法を創出、社会実装する能力を習得する。	
		地域包括ケアと地方創生	少子高齢化や人口減少が進むなか、人々が住みなれた地域で自分らしく暮らしていくための総合的なまちづくりとして地域包括ケアシステムが注目されている。社会福祉学において、「医療・介護福祉」の視点を中心に、地域包括ケアシステムが地域の活性化に寄与する点について学修する。各地の先進的な事例を調査し、新しい地方創生の在り方やこれに関連した起業について、産業、交通、住宅やコミュニティの視点も含めて議論して学修する。	共同
		生活行動とアクティビティ	人の生活スタイルを検討するために人の行動を把握することが必要となるが、人の行動を予測するためには時間や空間等複数の要因が絡んでおり、予測は単純ではない。そこで本授業では、行動を予測するためにアクティビティ・アプローチを用い、その方法について学修する。	
		未来型ヘルスケアシステム	WHOで世界一と評価される日本の医療制度も、少子高齢化が進む我が国では、医療経済をはじめ社会的な大きな問題となり、大変革が求められている。社会福祉学において、「社会保障」、「福祉社会」、「医療・介護福祉」の領域を中心として基礎的に学び、何が問題か、解決すべき課題を設定し、政治・経済的、法的、倫理的、科学技術的の多方面からの検討から解決法であるヘルスケアシステムを創出し、その実効性を検討して学修する。	共同
		人間工学	人間と機器や作業との関係を、人間の基本的な機能と特性に沿って考察しながら、人間にとって使いやすく、快適で、疲労の少ない、安全な機器や環境を作り出すための知識や考え方を習得する。人間工学とは、人間の身体機能、感覚特性を考慮して、人間の特性により適合した機器や作業環境を作り出すための学問であり、高度技術化社会、高齢化社会、人間尊重社会を背景に、人間と機械との結びつきが重要となる中で、機器・道具や人間を取り巻く環境を、人間にとって受け入れやすいものに設計・改善するための知識・考え方を学ぶ。	
		健康スポーツ栄養学	これからの社会において健康の維持・増進はますます重要な課題として挙げられる。健康な生活を続けるためには食事と運動は大切であるとされているが、人の健康に必要な栄養素とは何か、またどのようなスポーツを取り入れることが重要であるのかについてスポーツ社会学の視点も持って学修し、スマート技術を用いた展開につなげる。	
		スマートウエルネス	高齢になっても地域で元気に暮らせる社会であるスマートシティを実現するために、個人の健康（身体の健康・心の健康）に焦点を当てて学修する。スマート技術を用いた健康の維持・増進についての知識を学び、実践的な展開方法を検討して学修する。	
		レギュラトリーサイエンス	医薬品、医療機器の開発・評価に関して必要な臨床研究倫理、法規制の知識を学び、生物統計学を用いた臨床研究デザインの能力を習得し、模擬臨床プロトコル作成や模擬倫理委員会を経験し、実践能力を身に付ける。	
AI・IoT健康福祉学	この授業を通して、健康増進・社会福祉に使用されているAI及びIoT技術を理解しながら、リハビリテーション、介護福祉、栄養、休息・睡眠、運動・活動などにおけるAIとIoTの利用法について学ぶ。そして社会福祉における近未来のAIとIoTの様々な活用法や限界と課題に関して討議し学修する。	共同		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学知科目	スマートライフコアエリア	フィジカル・ブレイン接続	脳は、驚くほどに精巧にできている。この授業では身の回りの親しみやすい題材を使って、脳とその病気の不思議を考えていく。さらに、脳の仕組みの理解、病気の診断技術や治療法の開発に日本人がどのように貢献してきたかも紹介する。またiPS細胞を用いた再生医療などの最新のトピックも紹介する。将来的には、自閉症などの脳疾患に関する医療系アプリ作成、健康に関する会社の起業、医療機器や治療法開発など様々な場面で必要となる素養を身につける。	
		ヘルステック	医療分野の課題を解決するために、AIやウェアラブルデバイスなど最新のICTの活用によるテクノロジー技術を用いた医療サービスの創造が重要になっている。本授業では、ヘルステックの概念や現状についての知識を習得し、今後の超高齢社会において病気の治療のみならず予防も含めた健康の維持に関する新たなサービスを検討して学修すると共に、社会福祉学や医療社会学との接続も見据える。		
		スマート産業論	農業、畜産業、林業、漁業、鉱業、工業などにおけるAI、ビッグデータ、IoT技術などの活用事例や社会システムにおける将来展望を学修し、各種産業での数理・データサイエンス・AIや産業DX、スマート技術の活用について考察すると共に、産業社会学の知見も学ぶ。		
		消費者行動と社会	個々の消費者の最適化行動のモデル化に関する消費者理論や消費者行動論の考え方、顧客との関係を構築して顧客の生涯価値を最大化するマーケティング手法であるリレーションシップマーケティングについて理解する。さらに、社会学の知見も活かし、消費者行動に影響を与える社会的要因、スマート技術的要因について考察する。		
		実践データサイエンス	「数理・データサイエンス基礎及び演習」の学びを基に数理・データサイエンス・AIの知見を更に深めるように、実世界のデータを扱う際に注意すべき事項を学修する。特に、解析の対象となるデータに不適切なものが含まれていないかの判定や、データの量が多すぎる場合や少なすぎる場合の取り扱い、得られた結果に対する評価法など、実践的なデータサイエンスの理解をより深める。		
		画像認識と機械学習	色変換、(拡大・縮小・回転などの)幾何変換、しきい値処理、平滑化、モルフォロジー変換などの画像処理や画像中の様々なものを検出・認識する基本について学修するとともに機械学習や深層学習を用いた物体検知、顔認識、文字認識、画像診断の方法を概観する。		
		スマート産業コアエリア	スマートセンシング	IoT技術をロボットや医療に応用するためには、周囲の情報を取得するセンサが不可欠である。本授業では、身近なセンサとして、温度センサ、光センサ、ひずみセンサなどの原理と使い方を説明する。また、コンピュータによるデータ処理法についても学修する。	
		カーボンニュートラル技術	CO2の排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするカーボンニュートラルは喫緊の課題となっている。カーボンニュートラルを実現する技術として、再生可能エネルギー、水素、二酸化炭素回収・貯留、電動化などが有力視されている。この授業では、CO2を吸い込むコンクリートや人工光合成、液体アンモニア100%燃焼によるCO2フリーガスタービンなどの最新技術の具体例とともに、産業界でのカーボンニュートラルの取り組みを概観する。		
		統計的学習理論	実世界のデータが何を意味しているのかを理解するためのデータからの学習としての統計的学習理論の基礎として、回帰、分類、クラスタリング、ニューラルネットワークなどを学ぶ。また、統計的学習理論が産業にどのように用いられているのかを実例を通して学ぶ。		
		デジタル生産工学	本授業では、生産技術の概要と生産加工に関わる力学を理解した上で、世界における生産システムの状況を知り、今後のITを活用した生産の将来を展望する。まず生産加工および生産機械の概要とそのベースとなる機械工学の基礎を学ぶ。生産加工にかかわる力学や科学を理解することは生産技術のイノベーションをはかるために不可欠である。また生産過程を包括的に捉えるために、設計から生産までのプロセスおよびデジタル技術を活用した生産システムの変化について学ぶ。さらに生産過程をグローバルな視点でとらえ、世界における資源→生産→消費→廃棄までの流れを理解する。これらの知見を基に、ITやデジタル技術を活用した今後の生産システムについて考える。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート産業コアエリア	知的財産法	物理的実体を有しない無体物（＝情報）を保護対象とする知的財産法という制度を学修し、情報を産業等の経済活動に活かす方法を自ら見つけ出すことができるようになる基礎を身に付けるため、特許法と産業財産法を中心に、知的財産法を通して「なぜ」と自分で問いかけることができ、その問いかけを自分の力で解決できるように、アクティブラーニングによる学修を行う。また、小レポートを数多く作成することで知識の定着と応用力の養成を図り、アウトプットの重要性を認識させる。	
				スマートシステム制御応用	システムの振る舞いを望ましいものとするフィードバック制御の様々な手法を俯瞰的に学修し、直面する制御問題にどのようにアプローチすればよいのかを見極める能力を身に付けさせる。そのために、特に、システム同定法、カルマンフィルタ、最適制御法、モデル予測制御法などの自動車分野や航空宇宙分野や産業オートメーション分野への応用を想定し、業界標準であるMATLABやSimulinkなどを用いて、具体例の数値シミュレーションを通して学修する。	
				スマート資金とビジネス応用	仮想取引の記録をブロックと呼ばれる記録の塊に格納し、過去からの取引履歴を1本の鎖のようにつなげて分散的に処理・記録し、暗号技術によって改ざんを防ぐブロックチェーンと仮想通貨の仕組みについて学修する。加えて、認証と暗号の技術についての基本や、ビジネスの活用事例についても学ぶ。	
				自律ロボット	人間による明示的な指示なしにタスクを実行する自律ロボットの概要について、その構造と制御、ロボットの強化学習、ロボットの移動方法、位置推定とマッピング、ナビゲーションなどの基本を学修する。	
				産業とユニバーサルデザイン	健常者・障がい者・高齢者の生理・心理特性や行動・動作特性の違いによるユニバーサルデザインの必要性を理解する。また、家電製品、自動車などのユニバーサルデザインの具体的事例について学び、自らユニバーサルデザインを考案する。	
				拡張・リアリティ空間デザイン	従来のICT活用のみならず、より高度なICTを活用する取り組みが広がりつつあり、スマートシティや産業におけるDX・XRの活用の現状について学修した後、設定された課題のもとで、現実社会と仮想空間を融合させた新社会を形成するためにはどのようなXRの活用することが可能かを探求し、実際にXR技術を用いたアプリの作成などを学修する。	
				次世代情報通信	デジタルトランスフォーメーションやIoTなどでは、情報通信が不可欠である。この授業では、情報通信ネットワークの階層化の概念と各階層における仕組みをOSI(Open Systems Interconnection)により理解する。また、WAN、LANやインターネットや第5世代移动通信システム(5G)などの通信方式やプロトコルの仕組みを概観し理解する。	
				エネルギーハーベスティング	身の回りの熱や振動などの微弱なエネルギーを収穫して、電気エネルギーに変換する技術であるエネルギーハーベスティング技術は、ミリワットからナノワットやピコワット単位で動作するデバイスが無線によるIoTによって繋がることにより、様々な産業分野への展開が期待される。この授業では、代表的なエネルギーハーベスティングの基礎技術となる、圧電体、熱電素子やエレクトレット材料による発電、色素の酸化還元反応による発電などについて学修する。	
				コンピュータと電子回路	電子回路を扱う上での基礎となる考え方・物理量などを習得する。その後、オペアンプの特性とその応用回路について学ぶ。さらにオペアンプの内部構造を理解するために必要なトランジスタ等の扱い方を理解した後、オペアンプの内部構造の理解について学修する。	
				生産者の社会的責任	本授業では、生産者の社会的責任について、具体的な諸問題を取り上げながら、その内容と課題について学び、考えていく。生産にはハードの生産だけでなく、システムやサービスもあるが、本講義では、ハードとそれを含めたシステムを主な対象として考える。まず製造物の安全の基礎は、壊れない物をつくることであり、そのために必要な強度について学ぶ。そして設計思考法として、フェイルセーフとフルブルーフについて学ぶ。さらに生産物の社会的責任として、製造物責任や消費生活用製品安全、リコールについて学ぶ。さらに地球環境問題を踏まえた資源循環、リサイクル、脱炭素技術について学ぶ。またIT技術を活用した自動機械や自動運転システムの安全について考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学知科目	SDGs実践	SDGs達成に向け、効果的な問題解決のためには、どのような知識・スキル・ツールを身につける必要があるかを各自が認識することを目的とする。また、問題の当事者や解決のため社会調査の手法を用い、より現場のニーズに沿った解決方法を提示していく問題解決スキルの向上を学修し、知識社会学への展開も考察する。	
		実践スマートシティ論	都市への集中と並行して少子高齢化が進展し、環境負荷の低減が求められるとともに、交通渋滞など都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）を行い、都市OS（都市オペレーションシステム）の上で全体最適化が図られる持続可能な都市や地域とも言えるスマートシティについての理解を深めるとともに、国内外の実践例について学ぶ。 （オムニバス／全8回） （5 菅沼直樹／3回）自動車の自動運転技術を中心に、スマート技術を用いた高度モビリティのマネジメントの技術と実践例 （17 白石英巨／5回）スマート技術を用いたまちづくりの全体的なマネジメントや都市OSの最適化についてその理論と実践例	オムニバス方式
		ナショナルレジリエンス	コロナ、東日本大震災、気候変動、ウクライナ危機など様々な想定外の出来事が発生する不安定で、不確実な情勢下では、しなやかで強靱な社会や国家を構築することが必要である。レジリエンスやリスクについてを学び、国土強靱化、安全保障、しなやかで強靱な社会の仕組みづくりなどについて学ぶ。	
		Web・クチコミ社会動向分析	ソーシャルメディアやクチコミなどのメディア特性を理解した上で、それらのメディアを、テキストマイニング技術(主としてR言語)を用いて分析するスキルを身に付け、社会動向分析に用いられている技術についても理解できるよう学修する。	
		デジタルエコノミーと地域展開	ネットショッピングが当たり前となり、デジタル空間での商取引やeコマースの普及が進むとともに、Fintechなど金融のテクノロジーも深化しつつある。デジタル空間における新しい経済について学ぶとともに、それらを現実空間と融合させて、地域へ展開する手法について学ぶ。	
		都市・地域工学	用途地域など都市計画制度を中心とする従前の都市計画では、局的にはエリア制御はできるものの、それは硬直的であり、都市や地域全体をマネジメントすることは困難である。従前の都市計画制度の限界や課題を理解し、法制度だけではなく、工学の視点と社会学の視点を併せ持ち、都市や地域の数理特性・メカニズムやそのマネジメントなどについて学ぶ。	
		スマートモビリティと自動運転	近年、高度道路交通システム（ITS）、自動運転技術、MaaS（mobility as a service）、ウーバーなどライドシェアなど移動や交通についての様々な技術やサービスが展開・進展している。これらの技術やサービスの考え方や特徴、それらの社会実装についての理解を深め、スマートモビリティのあり方などについて学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート社会コアエリア	都市・交通デザイン	都市や交通システムのしくみ、それをデザインするための考え方や、観光地としての金沢のまちづくりを学ぶ。さらに、高度道路交通システムや道路の維持管理などについても学ぶ。	
				社会システム工学	社会工学は、社会経済、経営工学、都市計画等を要素に持つが、これからの課題発見・解決には文理融合+システム設計の知見が不可欠であり、社会的要請の変化も速い。重要な社会インフラである電力をテーマに、モデル化手法やデータ分析を学修し、工学的な予測を理解する。その後、実践的な取引や環境・エネルギー分野での活用にも展開を図って学修する。	
				エビデンスベース政策論	少子高齢化が進み社会の生産性向上が求められるなか、政府や自治体において、限りある財源や人的資本を最大限有効活用して、透明性・信頼性の高い効果的な政策を行う必要性が高まっている。公共政策や社会政策などについて、統計データや各種指標など、客観的エビデンス（根拠や証拠）を基にして、政策の決定や実行を効果的・効率的に行うための理論・モデル・方法やそれらの実社会への適用について学ぶ。	
				ソーシャルイノベーション	革新的な技術やテクノロジーが重要であることは言うまでもないが、それらを社会実装することもまた非常に重要なことである。社会のメカニズムを踏まえて、新しい技術やテクノロジーの社会実装の仕組みや方法、社会貢献、社会を変えるために必要な考え方や手法などについて学んだ上で、社会の変え方のイノベーションについて修得する。	
				社会的合意形成論	社会の中で政策を立案し、それを実現するためには、関係者間で合意形成を図ることが必要である。多様な価値観を持ち、様々な利害関係がある関係者間で合意を形成することは容易ではないことも多く、組織社会学上の課題でもある。合意とは何か、合意形成のプロセスについて社会学的観点から学ぶ。	
				デジタルツインと危機管理	気象など物理的な現象や都市や自然など現実世界から収集した様々なデータをデジタル空間上にコピーし再現するデジタルツインを活用して、防災など危機管理、安全・安心な社会、快適なまちづくりを目指すために、データ同化・データサイエンス、数理モデルやシミュレーションの基本についての理解を深め、それらの危機管理、安全・安心な社会、快適なまちづくりへの適用について学ぶ。	
				低炭素社会	地球温暖化や気候変動問題等への対応の重要性がますます高まっており、持続可能な社会の構築が急がれる。社会や地域の温室効果ガスの排出・エネルギー問題などの基本について学び、それらを制御して温室効果ガス排出を減らす社会の仕組みづくりや排出権取引、サーキュラーエコノミー、持続型まちづくりや自然との共生のあり方などカーボンニュートラルを見据えた新しい社会システムについて学ぶ。	
				スマートサプライチェーン	少子高齢化や人口減少による人手不足や労務コストの上昇し、物流・流通の課題がますます大きくなっている。コロナ禍や東日本大震災など災害でのサプライチェーンの寸断が社会・経済的な大きな損失を生む。交通ビッグデータの活用やAI（人工知能）・高度情報科学の活用によって、物流・流通、ロジスティクスの効率化や最適化を実現するための理論や手法について学ぶとともに、サプライチェーンのスマート化についての理解を深める学修を行う。	
スマートインフラマネジメント	上下水道、道路、電気・ガスなどインフラストラクチャー（社会基盤）は私たちの生活になくてはならないものであるが、その整備、点検・維持管理には多大な社会コストが必要となる。IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）・高度情報科学の活用によって、インフラストラクチャーの整備、点検・維持管理の効率化や最適化を実現するための理論や技術・手法、社会実装について学ぶ。					

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート社会コアエリア ネットワーク・メカニズムデザイン	社会には様々なルール・慣習があり、それらの中で我々は様々な意思決定を行うとともに、制度や仕組みの設計やデザインを行っている。交換される情報や人々のインセンティブを踏まえて、社会の制度や仕組みをデザインするために、マッチング理論、ネットワーク制御、非分割財配分などについての理解を深め、学校選択・就活問題・臓器移植マッチング・周波数割り当てなどの応用例について学ぶ。	共同
			スマート社会コアエリア フューチャーデザイン	現在や将来の人々がどのように行動するのかによって未来は変わり得るものであり、それを確実に予測することは本質的には不可能で、未来は現在・将来の人々によって創造されるものである。未来や将来世代の社会をデザインするための過去のとらわれない自由な構想力、将来世代への責任、フューチャープロトタイプینگ、これらを多くの人々と共有する方法など未来の社会構造や社会組織、社会制度をデザインするための考え方や手法について学ぶとともに、実際にフューチャーデザインを試行的に実践する学修を行う。	共同
	専門科目	鍛練科目	北陸産業インターンシップ I	学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。アプローチや取組形態は問わないが、受入組織と履修者の間で取組課題が明確であり、学修内容及び到達度評価等が明確であることを必須とする。 学生は教員に対し、本授業科目履修前に本学が課す書類を提出する。また実施後には、本学が定める実施報告書、日誌等を提出すると共に評価試験を課す。これにより、産業界等の実態を理解すること、目的意識を持つこと、受入組織との取組を振り返り、自己評価できることを目標とする。実学修時間が30時間以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			北陸産業インターンシップ II	学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。アプローチや取組形態は問わないが、受入組織と履修者の間で取組課題が明確であり、学修内容及び到達度評価等が明確であることを必須とする。 学生は教員に対し、本授業科目履修前に本学が課す書類を提出する。また実施後には、本学が定める実施報告書、日誌等を提出すると共に評価試験を課す。これにより、産業界等の実態を理解すること、目的意識を持つこと、受入組織との取組を振り返り、自己評価できることを目標とする。実学修時間が「北陸産業インターンシップ I」における実学修時間に加え（或いは別に）、更に30時間以上の実習を行った場合を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			スマート創成プロジェクト鍛練 I	Project Based Learningを通して、自ら課題を設定しその課題を自らスマート技術で解決する能力を強化する。チームに分かれ、教員が行う研究活動に実際に参加するなどし、自ら課題を設定し、大学院学生や学外者とも協働し、最新のスマート技術に関する知見や動向調査も含め、課題解決の実習に取り組む。実学修時間が30時間以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			スマート創成プロジェクト鍛練 II	Project Based Learningを通して、自ら課題を設定しその課題を自らスマート技術で解決する能力を強化する。チームに分かれ、教員が行う研究活動に実際に参加するなどし、自ら課題を設定し、大学院学生や学外者とも協働し、最新のスマート技術に関する知見や動向調査も含め、課題解決の実習に取り組む。実学修時間が「スマート創成プロジェクト鍛練 I」における実学修時間に加え（或いは別に）、更に30時間以上の実習を行った場合を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			海外実践留学	国際的かつ俯瞰的な視野を獲得し、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学生が計画したプログラムに加え、学生自身の興味関心や研究分野に関連した留学目的を自ら設定し、短期留学を実施する。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか、授業やワークショップ、現地の学生とのディスカッション、教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める学修を実践する。授業は必要に応じて英語で実施する。 自国の文化を伝え、文化の違いを受け入れること、新しい環境に適応し、課題に取り組むこと、多様な人々と交流することを目標とする。実学修時間が30時間（5日間）以上の留学を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	鍛練科目	国際インターンシップ	国内外を通じた地域の文化と先端的な取組の融合を、国際水準で理解することで、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学類が整備した派遣先だけでなく、学生自身の興味関心や研究分野に関連した企業や機関を自ら探索し、国際インターンシップを実施する。国際インターンシップ先の情報収集や応募書類の書き方、目標設定など実践的な教育効果も重視する。授業の3分の2は英語で実施する。 国際企業や国際機関の実態及び課題を理解し、課題解決法を考えること、明確な目的意識を持ち、具体的な計画を立てること、国際インターンシップを振り返り、自己評価し、改善実践結果を提示することを目標とする。実学修時間が30時間（5日間）以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
		数理・データサイエンス・AI鍛練	数理・データサイエンス・AIの実践的な応用力養成を前提として、機械学習を活用した最適設計法の実践など実データを用いた最適設計問題を解く手法等を学修する。また、これからのスマートシティの各界における、未来の科学の創成への展開性にも言及する。	
	確立科目	融合研究	学生自身が設定した課題に対する解決策について、主にこれまで修得してきた多分野に渡る知見を用い、指導教員の下で実証実験的な研究を進め、将来の社会展開を見据えた形で論文としてまとめる。なお、成績評価にあたり、複数の科学分野に渡る教員による論文審査会を開催する。	
		融合演習	学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取組みを通じ、実際の社会への展開法を立案する。その形態は、インターンシップ先を始めとする企業等において業務の改善や事業展開に関与する実践的アントレプレナー演習のほか、自ら起業する際的设计や実践的な課題研究等を含む。なお、成績評価にあたり、演習等のプロセスシート、及び長期的かつ高度なインターンシップ先からの評価シート等を基にした審査会を開催する。	
		融合試験	学生自身が設定した課題に対する探求の中で、長期的展望に立つて取り組むべき課題であり、大学院における専門的知見を修得する必要があると判断される場合は、大学院への進学を要件とするQEを実施する。融合試験受験者には、大学院で必要となる知見をより広範囲に修得させるため、バックキャストニング学修等による補遺的な授業科目（6単位）の計画的な履修を課す。成績評価にあたり、大学院への進学が決定した後に審査会を開催し、複数のコアプログラムに係る専門的知見と実践力を問う筆記試験、大学院課程で取り組む課題設定と研究計画の立案に基づく発表と試問を行い、修士研究基礎力を確認する。	

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部/学科の設置								
フリガナ設置者	コリウガクカクホジン カザワガク								
フリガナ大学の名称	カザワガク								
大学本部の位置	金沢大学 (Kanazawa University)								
大学の目的	石川県金沢市角間町								
新設学部等の目的	金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。 文理融合型のカリキュラム編成の下、プログラミング、制御工学等における基礎的な技術と、Society5.0に代表される現代社会における数理・データサイエンスや産業、金融などに係る知見により、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	融合学域 [College of Transdisciplinary Sciences for Innovation] スマート創成科学類 [School of Smart Technology and Innovation] 計	年	人	年次人	人	学士(学術) [Bachelor of Arts and Sciences]	令和5年4月 第1年次 令和7年4月 第3年次	石川県金沢市角間町	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>【学士課程】</p> <p>融合学域 観光デザイン学類 (入学定員5) (令和5年4月)</p> <p>人間社会学域 地域創造学類 (入学定員△5) (令和5年4月)</p> <p>理工学域 <u>数物科学類 [定員減] (入学定員△4) (令和5年4月)</u> <u>物質化学類 [定員減] (入学定員△1) (令和5年4月)</u> <u>機械工学類 [定員減] (入学定員△3) (令和5年4月)</u> <u>フロンティア工学類 [定員減] (入学定員△4) (令和5年4月)</u> <u>電子情報通信学類 [定員減] (入学定員△2) (令和5年4月)</u> <u>地球社会基盤学類 [定員減] (入学定員△4) (令和5年4月)</u> <u>生命理工学類 [定員減] (入学定員△2) (令和5年4月)</u></p> <p>医薬保健学域 医学類 (収容定員変更) (臨時定員増(12名)を維持) (令和4年9月意見伺い) 保健学類 <u>看護学専攻 [定員減] (3年次編入学定員△4) (令和5年4月)</u> <u>診療放射線技術学専攻 [定員減] (3年次編入学定員△3) (令和5年4月)</u> <u>検査技術科学専攻 [定員減] (3年次編入学定員△3) (令和5年4月)</u></p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	融合学域スマート創成科学類	講義	演習	実験・実習	計				
		215科目	95科目	23科目	333科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	融合学域 スマート創成科学類	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
			11 (11)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	99 (99)
			計	11 (11)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	21 (21)	0 (0)
学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
既設	融合学域 先導学類	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
		14 (14)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	90 (90)	
		8 (9)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	16 (17)	0 (0)	110 (110)	

教 員 組 織 の 概 要	既 員	人間社会学域								
		人文学類	26 (26)	15 (15)	3 (3)	3 (3)	47 (47)	0 (0)	83 (83)	
		法学類	12 (12)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	74 (74)	
		経済学類	11 (11)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	86 (86)	
		学校教育学類共同教員養成課程	26 (26)	20 (20)	2 (2)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	108 (108)	
		地域創造学類	7 (7)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	81 (81)	
	設 分	理工学域	国際学類	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	95 (95)
			数物科学類	21 (21)	12 (12)	1 (1)	12 (12)	46 (46)	0 (0)	78 (78)
			物質化学類	14 (14)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	35 (35)	0 (0)	87 (87)
			機械工学類	15 (15)	16 (16)	1 (1)	6 (6)	38 (38)	0 (0)	227 (227)
			フロンティア工学類	11 (11)	9 (9)	1 (1)	11 (11)	32 (32)	0 (0)	190 (190)
			電子情報通信学類	13 (13)	16 (16)	1 (1)	1 (1)	31 (31)	0 (0)	207 (207)
			地球社会基盤学類	15 (15)	14 (14)	1 (1)	7 (7)	37 (37)	0 (0)	101 (101)
		医薬保健学域	生命理工学類	8 (8)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	26 (26)	0 (0)	227 (227)
			医学類	53 (53)	48 (48)	9 (9)	46 (46)	156 (156)	0 (0)	151 (151)
			薬学類	12 (12)	13 (13)	0 (0)	16 (16)	41 (41)	0 (0)	81 (81)
			医薬科学類	4 (4)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	192 (192)
			保健学類	32 (32)	20 (20)	0 (0)	31 (31)	83 (83)	0 (0)	77 (77)
			計	312 (312)	239 (239)	26 (26)	157 (157)	734 (734)	1 (1)	— (—)
			合計	329 (329)	248 (248)	28 (28)	163 (163)	768 (768)	1 (1)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		431 (431)	437 (437)	868 (868)					
	技 術 職 員		1,107 (1,107)	186 (186)	1,293 (1,293)					
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)	3 (3)	13 (13)					
	そ の 他 の 職 員		5 (5)	539 (539)	544 (544)					
計		1,553 (1,553)	1,165 (1,165)	2,718 (2,718)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	730,408 m ²	0 m ²	0 m ²	730,408 m ²					
	運 動 場 用 地	115,740 m ²	0 m ²	0 m ²	115,740 m ²					
	小 計	846,148 m ²	0 m ²	0 m ²	846,148 m ²					
	そ の 他	1,717,530 m ²	0 m ²	0 m ²	1,717,530 m ²					
合 計	2,563,678 m ²	0 m ²	0 m ²	2,563,678 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		284,135 m ² (284,135 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	284,135 m ² (284,135 m ²)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	162室	208室	1,180室	11室 (補助職員0人)	8室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		融合学域 スマート創成科学類		21 室						

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学類単位で特定不能のため、大学全体の数量	
	融合学域 スマート創成科学類	1,928,196〔680,849〕 (1,928,196〔680,849〕)	34,760〔12,152〕 (34,760〔12,152〕)	10,888〔9,388〕 (10,888〔9,388〕)	8,372 (8,372)	9,633 (9,633)	212 (212)		
	計	1,928,196〔680,849〕 (1,928,196〔680,849〕)	34,760〔12,152〕 (34,760〔12,152〕)	10,888〔9,388〕 (10,888〔9,388〕)	8,372 (8,372)	9,633 (9,633)	212 (212)		
図書館	面積	19,794 m ²		閲覧座席数	2,185		収納可能冊数	1,640,536	
	体育館	面積	6,295 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要		可動屋根付プール(1,193m ²) 弓道場(162m ²)		
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	図書購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		－							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	金沢大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	融合学域						1.08		石川県金沢市角間町
	先導学類	4	55	—	110	学士(学術)	1.06	令和3年度	
	観光デザイン科学類	4	15	—	15	学士(学術)	1.20	令和4年度	
	人間社会学域						1.02		石川県金沢市角間町
	人文学類	4	138	—	569	学士(文学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△4)
	法学類	4	150	3年次10	670	学士(法学)	1.01	平成20年度	令和4年度入学定員減(△3) 令和3年度入学定員減(△10)
	経済学類	4	131	—	532	学士(経済学)	1.01	平成20年度	令和4年度入学定員減(△10)
	学校教育学類共同教員養成課程	4	85	—	85	学士(教育学)	1.02	令和4年度	令和3年度入学定員減(△4)
	地域創造学類	4	88	—	356	学士(地域創造学)	1.03	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
	国際学類	4	81	—	330	学士(国際学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)
	学校教育学類	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成20年度	令和4年度より学生募集停止
	理工学域						1.02		石川県金沢市角間町
数物科学類	4	82	3年次5	342	学士(理学)	1.02	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)	
物質化学類	4	79	3年次4	328	学士(理学又は工学)	1.04	平成20年度	令和3年度入学定員減(△2)	
機械工学類	4	97	3年次10	414	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
フロンティア工学類	4	107	3年次5	444	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△3)	
電子情報通信学類	4	78	3年次7	330	学士(工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
地球社会基盤学類	4	98	3年次7	410	学士(理学又は工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△2)	
生命理工学類	4	58	3年次2	238	学士(理学又は工学)	1.02	平成30年度	令和3年度入学定員減(△1)	
機械工学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
電子情報学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	
環境デザイン学類	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度	平成30年度より学生募集停止	

既 設 大 学 の 状 況	医薬保健学域						1.01				
	医学類	6	112	2年次 5	697	学士（医学）	1.00	平成20年度	石川県金沢市宝町13-1	令和3年度入学生定員増（30）	
	薬学類	6	65	—	270	学士（薬学）	1.04	平成20年度	石川県金沢市角間町		
	医薬科学類	4	18	—	36	学士（生命医科学又は創薬科学）	1.05	令和3年度	同上		
	保健学類						1.01	平成20年度	石川県金沢市小立野5-11-80		
	看護学専攻	4	79	3年次 4	338	学士（看護学）	1.00				令和3年度入学生定員減（△1）
	診療放射線技術学専攻	4	40	3年次 3	170	学士（保健学）	1.01				
	検査技術科学専攻	4	40	3年次 3	170	学士（保健学）	1.01				
	理学療法学専攻	4	15	3年次 5	80	学士（保健学）	1.09				令和3年度入学生定員減（△5）
	作業療法学専攻	4	15	3年次 5	80	学士（保健学）	1.05				令和3年度入学生定員減（△5）
	創薬科学類	4	—	—	—	学士（創薬科学）	—			令和3年度より学生募集停止	
	人間社会環境研究科								石川県金沢市角間町		
	人文学専攻 （博士前期課程）	2	23	—	46	修士（文学又は学術）	0.82	平成24年度			
	経済学専攻 （博士前期課程）	2	6	—	12	修士（経済学、経営学又は学術）	1.50	平成24年度			
	地域創造学専攻 （博士前期課程）	2	14	—	28	修士（地域創造学又は学術）	1.28	平成24年度			
	国際学専攻 （博士前期課程）	2	10	—	20	修士（国際学又は学術）	0.55	平成24年度			
	人間社会環境学専攻 （博士後期課程）	3	12	—	36	博士（社会環境学、文学、法学、政治学、経済学又は学術）	1.08	平成18年度			
	法学・政治学専攻 （博士前期課程）	2	—	—	—	修士（法学又は政治学）	—	平成24年度		令和2年度より学生募集停止	

既 設 大 学 等 の 状 況	自然科学研究科								石川県金沢市角間町	
	数物科学専攻									
	(博士前期課程)	2	59	—	115	修士(理学又は学術)	1.04	平成24年度		令和4年度入学定員増(3)
	(博士後期課程)	3	15	—	45	博士(理学又は学術)	0.57	平成16年度		
	物質化学専攻									
	(博士前期課程)	2	63	—	120	修士(理学,工学又は学術)	1.04	平成24年度		令和4年度入学定員増(6)
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士(理学,工学又は学術)	0.44	平成26年度		
	機械科学専攻									
	(博士前期課程)	2	72	—	72	修士(工学又は学術)	0.90	平成24年度		
	フロンティア工学専攻									
	(博士前期課程)	2	83	—	83	修士(工学又は学術)	1.08	平成24年度		
	電子情報通信学専攻									
	(博士前期課程)	2	63	—	63	修士(工学又は学術)	1.03	平成24年度		
	地球社会基盤学専攻									
	(博士前期課程)	2	69	—	69	修士(工学又は学術)	0.81	平成24年度		
	生命理工学専攻									
	(博士前期課程)	2	41	—	41	修士(工学又は学術)	0.92	平成24年度		
	機械科学専攻									
	(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士(工学又は学術)	0.44	平成26年度		
電子情報科学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	18	—	54	博士(工学又は学術)	0.42	平成16年度			
環境デザイン学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士(工学又は学術)	0.83	平成26年度			
自然システム学専攻										
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(理学,工学又は学術)	—	平成24年度		令和4年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	21	—	63	博士(理学,工学又は学術)	0.44	平成26年度			
	医薬保健学総合研究科									
	医科学専攻									
	(修士課程)	2	15	—	30	修士(医科学)	0.93	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	
	医学専攻									
	(博士課程)	4	64	—	256	博士(医学)	1.02	平成28年度	同上	
	薬学専攻									
	(博士課程)	4	4	—	16	博士(薬学又は学術)	0.81	平成24年度	石川県金沢市角間町	
	創薬科学専攻									
	(博士前期課程)	2	38	—	76	修士(創薬科学)	0.99	平成24年度	同上	
	(博士後期課程)	3	11	—	33	博士(創薬科学又は学術)	1.06	平成24年度		

既 設 大 学 の 状 況	保健学専攻 (博士前期課程)	2	70	—	140	修士 (保健学)	0.75	平成24年度	石川県金沢市小立野5-11-80	
	(博士後期課程)	3	25	—	75	博士 (保健学)	0.81	平成24年度		
	脳医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成24年度	石川県金沢市宝町13-1	平成28年度より学生募集停止
	がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	循環医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	環境医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成24年度	同上	平成28年度より学生募集停止
	医学系研究科 がん医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成13年度	石川県金沢市宝町13-1	平成24年度より学生募集停止
	循環医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学, 医薬学又は学術)	—	平成13年度		平成24年度より学生募集停止
	環境医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士 (医学又は学術)	—	平成13年度		平成24年度より学生募集停止
	先進予防医学研究科 先進予防医学共同専攻 (博士課程)	4	12	—	48	博士 (医学)	0.95	平成28年度	石川県金沢市宝町13-1	
新 学 術 創 成 研 究 科	融合科学共同専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (融合科学)	1.03	平成30年度	石川県金沢市角間町	
	(博士後期課程)	3	14	—	42	博士 (融合科学, 理学又は工学)	0.18	令和2年度		
	ナノ生命科学専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (ナノ科学)	1.66	令和2年度		
	(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (ナノ科学)	1.44	令和2年度		
法 学 研 究 科	法学・政治学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士 (法学又は政治学)	0.45	令和2年度	石川県金沢市角間町	
	法務専攻 (専門職学位課程)	3	15	—	45	法務博士 (専門職)	0.73	平成16年度		
教 職 実 践 研 究 科	教職実践高度化専攻 (専門職学位課程)	2	15	—	30	教職修士 (専門職)	0.96	平成28年度	石川県金沢市角間町	

附属施設の概要	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、幼稚園教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地3,717㎡ 建物925㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、小学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,757㎡ 建物7,545㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、中学校教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地26,470㎡ 建物7,524㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、高等普通教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、本学学生で高等学校教員となることを志望するものに教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市平和町1-1-15 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地24,932㎡ 建物6,273㎡</p>
	<p>名称：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校 目的：教育基本法及び学校教育法に則り、特別支援学校の教育を施すとともに、これに関する研究及び実証を行い、かつ、学類学生に教育実習を行わせる。 所在地：石川県金沢市東兼六町2-10 設置年月：昭和39年4月 規模等：土地10,517㎡ 建物4,813㎡</p>
	<p>名称：金沢大学附属病院 目的：医学の教育、研究及び診療を行う。 所在地：石川県金沢市宝町13-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地68,957㎡ 建物89,936㎡</p>
	<p>名称：金沢大学附属図書館 目的：教育、研究及び学習に必要な図書館資料を収集、整理、保存し、主として金沢大学の教職員及び学生の利用に供するとともに、一般利用者にも必要な学術情報を提供する。 所在地：石川県金沢市角間町（中央図書館及び自然科学系図書館） 石川県金沢市宝町13-1（医学図書館） 石川県金沢市小立野5-11-80（保健学類図書館） 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地12,302㎡ 建物19,793㎡</p>
	<p>名称：金沢大学がん進展制御研究所 目的：全国共同利用・共同研究拠点として唯一のがん研究に特化した拠点としての活動を推進するとともに、大学院医薬保健学総合研究科大学院生の研究指導の協力をを行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地3,353㎡ 建物5,035㎡</p>
	<p>名称：金沢大学医薬保健学域薬学類附属薬用植物園 目的：薬学生教育の場として、生薬や薬用植物に対する知識を深めるため、薬用植物の観察、栽培、収穫などの実習を行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：昭和44年4月 規模等：土地21,766㎡ 建物150㎡</p>
	<p>名称：金沢大学ナノ生命科学研究所 目的：革新的ナノ計測技術を発展させるための技術開発と、それらの技術を用いた様々な生命現象の根本的な理解を目指す新学問領域「ナノプローブ生命科学」を創出するとともに、大学院新学術創成研究科大学院生の研究指導の協力をを行う。 所在地：石川県金沢市角間町 設置年月：平成29年10月 規模等：土地2,938㎡ 建物6,840㎡</p>

名 称	：金沢大学理工学域能登海洋水産センター
目 的	：海洋生物資源の基礎及び応用研究を行う学生及び研究者の拠点として、 海に隣接した滞在型の教育研究環境を提供するとともに、水産資源確保 技術の高度化のための研究を推進する。
所 在 地	：石川県鳳珠郡能都町字越坂11-4-1
設置年月	：平成31年4月
規 模 等	：土地6,822㎡ 建物2,300㎡

金沢大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	転学 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	転学 定員	変更の事由
金沢大学				金沢大学				
融合学域				融合学域				
先導学類	55	3年次25	270	先導学類	55	3年次25	270	
観光デザイン学類	15	3年次15	90	観光デザイン学類	20	3年次15	110	定員変更(入学定員5)
				スマート創成科学類	20	3年次20	120	
人間社会学域				人間社会学域				
人文学類	138	-	552	人文学類	138	-	552	
法学類	150	-	600	法学類	150	-	600	
経済学類	131	-	524	経済学類	131	-	524	
学校教育学類共同教員養成課程	85	-	340	学校教育学類共同教員養成課程	85	-	340	
地域創造学類	88	-	352	地域創造学類	83	-	332	定員変更(入学定員Δ5)
国際学類	81	-	324	国際学類	81	-	324	
理工学域				理工学域				
数物科学類	82	3年次5	338	数物科学類	78	3年次5	322	定員変更(入学定員Δ4)
物質化学類	79	3年次4	324	物質化学類	78	3年次4	320	定員変更(入学定員Δ1)
機械工学類	97	3年次10	408	機械工学類	94	3年次10	396	定員変更(入学定員Δ3)
フロンティア工学類	107	3年次5	438	フロンティア工学類	103	3年次5	422	定員変更(入学定員Δ4)
電子情報通信学類	78	3年次7	326	電子情報通信学類	76	3年次7	318	定員変更(入学定員Δ2)
地球社会基盤学類	98	3年次7	406	地球社会基盤学類	94	3年次7	390	定員変更(入学定員Δ4)
生命理工学類	58	3年次2	236	生命理工学類	56	3年次2	228	定員変更(入学定員Δ2)
医薬保健学域				医薬保健学域				
医学類	112	2年次5	637	医学類	112	2年次5	637	収容定員変更(意見伺い予定) (臨時定員増(12名)を維持(令和5年度))
薬学類	65	-	390	薬学類	65	-	390	
医薬科学類	18	-	72	医薬科学類	18	-	72	
保健学類	189	3年次20	796	保健学類	189	3年次10	776	
看護学専攻	79	3年次4	324	看護学専攻	79	-	316	定員変更(編入学定員Δ4)
診療放射線技術学専攻	40	3年次3	166	診療放射線技術学専攻	40	-	160	定員変更(編入学定員Δ3)
検査技術科学専攻	40	3年次3	166	検査技術科学専攻	40	-	160	定員変更(編入学定員Δ3)
理学療法学専攻	15	3年次5	70	理学療法学専攻	15	3年次5	70	
作業療法学専攻	15	3年次5	70	作業療法学専攻	15	3年次5	70	
計	1,726	2年次5 3年次100	7,423	計	1,726	2年次5 3年次110	7,443	
人間社会環境研究科				人間社会環境研究科				
人文学専攻(M)	23	-	46	人文学専攻(M)	23	-	46	
経済学専攻(M)	6	-	12	経済学専攻(M)	6	-	12	
地域創造学専攻(M)	14	-	28	地域創造学専攻(M)	14	-	28	
国際学専攻(M)	10	-	20	国際学専攻(M)	10	-	20	
人間社会環境学専攻(D)	12	-	36	人間社会環境学専攻(D)	12	-	36	
自然科学研究科				自然科学研究科				
数物科学専攻(M)	59	-	118	数物科学専攻(M)	59	-	118	
数物科学専攻(D)	15	-	45	数物科学専攻(D)	15	-	45	
物質化学専攻(M)	63	-	126	物質化学専攻(M)	63	-	126	
物質化学専攻(D)	14	-	42	物質化学専攻(D)	14	-	42	
機械科学専攻(D)	25	-	75	機械科学専攻(D)	25	-	75	
電子情報科学専攻(D)	18	-	54	電子情報科学専攻(D)	18	-	54	
環境デザイン学専攻(D)	10	-	30	環境デザイン学専攻(D)	10	-	30	
自然システム学専攻(D)	21	-	63	自然システム学専攻(D)	21	-	63	
機械科学専攻(M)	72	-	144	機械科学専攻(M)	72	-	144	
フロンティア工学専攻(M)	83	-	166	フロンティア工学専攻(M)	83	-	166	
電子情報通信学専攻(M)	63	-	126	電子情報通信学専攻(M)	63	-	126	
地球社会基盤学専攻(M)	69	-	138	地球社会基盤学専攻(M)	69	-	138	
生命理工学専攻(M)	41	-	82	生命理工学専攻(M)	41	-	82	
医薬保健学総合研究科				医薬保健学総合研究科				
医科学専攻(M)	15	-	30	医科学専攻(M)	15	-	30	
医学専攻(D)	64	-	256	医学専攻(D)	64	-	256	
薬学専攻(D)	4	-	16	薬学専攻(D)	4	-	16	
創薬科学専攻(M)	38	-	76	創薬科学専攻(M)	38	-	76	
創薬科学専攻(D)	11	-	33	創薬科学専攻(D)	11	-	33	
保健学専攻(M)	70	-	140	保健学専攻(M)	70	-	140	
保健学専攻(D)	25	-	75	保健学専攻(D)	25	-	75	
新学術創成研究科				新学術創成研究科				
融合科学共同専攻(M)	14	-	28	融合科学共同専攻(M)	14	-	28	
融合科学共同専攻(D)	14	-	42	融合科学共同専攻(D)	14	-	42	
ナノ生命科学専攻(M)	6	-	12	ナノ生命科学専攻(M)	6	-	12	
ナノ生命科学専攻(D)	6	-	18	ナノ生命科学専攻(D)	6	-	18	
先進予防医学研究科				先進予防医学研究科				
先進予防医学共同専攻(D)	12	-	48	先進予防医学共同専攻(D)	12	-	48	
法学研究科				法学研究科				
法学・政治学専攻(M)	8	-	16	法学・政治学専攻(M)	8	-	16	
法務専攻(P)	15	-	45	法務専攻(P)	15	-	45	
教職実践研究科				教職実践研究科				
教職実践高度化専攻(P)	15	-	30	教職実践高度化専攻(P)	15	-	30	
計	935	-	2,216	計	935	-	2,216	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設了学部等の学年進行情況								
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員				
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授			
融合学域 先導学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係 工学関係 保健衛生学関係	融合学域先導学類	23	14	融合学域 スマート創成科学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 工学関係	融合学域観光デザイン学類	1	1			
									人間社会学域地域創造学類	2	1			
									理工学域機械工学類	1	1			
									理工学域フロンティア工学類	6	5			
									医薬保健学域保健学類	1	0			
			計						23	14	計			10
融合学域 観光デザイン学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係	融合学域観光デザイン学類	16	8	融合学域 先導学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係 工学関係 保健衛生学関係	融合学域先導学類	23	14			
			計						17	9	計			23
人間社会学域 地域創造学類	学士 (地域創造学)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係	人間社会学域地域創造学類	16	7	融合学域 観光デザイン学類	学士 (学術)	社会学・社会福祉学関係	融合学域観光デザイン学類	17	9			
			計						2	1	計			17
理工学域 機械工学類	学士 (工学)	工学関係	理工学域機械工学類	38	15	人間社会学域 地域創造学類	学士 (地域創造学)	社会学・社会福祉学関係 経済学関係	人間社会学域地域創造学類	16	7			
			計						1	1	計			16
理工学域 フロンティア工学類	学士 (医学)	工学関係	理工学域機械工学類	32	11	理工学域 機械工学類	学士 (工学)	工学関係	理工学域機械工学類	38	15			
			計						6	5	計			38
医薬保健学域 保健学類	学士 (看護学, 保健学)	保健衛生学関係	医薬保健学域保健学類	83	32	理工学域 フロンティア工学類	学士 (医学)	工学関係	理工学域機械工学類	32	11			
			計						1	0	計			32
(以下、設置後の状況を示すため、この欄は斜線が入ります)						医薬保健学域 保健学類	学士 (看護学, 保健学)	保健衛生学関係	医薬保健学域保健学類	83	32			
									計			83	32	

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和24年5月	法文学部法学科・文学科 設置	法学, 文学	設置認可(学部)
	工学部機械工学科, 電気工学科 設置	工学	設置認可(学部)
昭和40年4月	法文学部経済学科 設置	経済学	設置認可(学科)
昭和55年4月	文学部行動科学科・史学科・文学科, 法学部法学科, 経済学部経済学科 設置	文学, 法学, 経済学	設置認可(学部)
平成8年4月	工学部機能機械工学科, 人間・機械工学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成12年4月	工学部電気電子システム工学科, 情報システム工学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成20年4月	人間社会学域経済学類, 地域創造学類 設置	文学, 法学, 経済学, 社会学・社会福祉学, 体育	設置届出(学部)
	理工学域機械工学類, 電子情報学類 設置	工学	設置届出(学部)
平成30年4月	理工学域フロンティア工学類 設置	工学	設置届出(学科)
令和3年4月	融合学域先導学類 設置	経済学, 社会学・社会福祉学, 工学, 保健衛生学	認可届出(学部)
令和4年4月	融合学域観光デザイン学類 設置	社会学・社会福祉学	設置届出(学科)
令和5年4月	融合学域スマート創成科学類 設置	社会学・社会福祉学, 工学	設置届出(学科)

教育課程等の概要														
(融合学域スマート創成科学類)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					
	データサイエンス基礎	1①	1			○						1		
	地域概論	1②	1			○							兼2 共同	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	1	0	0	1	0	兼2 —
GS科目 共通教育科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○							兼1
	2群(自己を知り、自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○							兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○							兼2 共同
	3群(考え・価値観を表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1		○		○					兼1
			クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○						兼1
			価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○						兼1
			芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○						兼1
	4群(世界とつながる)	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
			金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○						兼1
			日本史・日本文化	1②・③・④		1		○						兼3
			異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○						兼1
			異文化体験A	1②・④		1				○				兼1 集中
			異文化体験B	1②・④		2				○				兼1 集中
			異文化体験C	1②・④		3				○				兼1 集中
			異文化体験D	1②・④		4				○				兼1 集中
			異文化体験E	1②・④		5				○				兼1 集中
			異文化体験F	1②・④		6				○				兼1 集中
			異文化体験G	1②・④		7				○				兼1 集中
	異文化体験H	1②・④		8				○				兼1 集中		
	5群(未来の課題に取り組む)	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1		○							兼1
		科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○							兼1
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○							兼1
		環境学とESD	1①・②・③・④		1		○							兼1
	6群(新しい社会を生きる)	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○					1		兼1
		現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○							兼1
		インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		AI入門	1①・②・③・④		1		○				1			兼1
		情報の科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○							兼1
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○							兼1	
小計(38科目)	—	—	0	66	0	—	—	—	0	0	1	1	0	兼32 —
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
GS言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○									兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○									兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○									兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○									兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1	
	上級読解 I A	1①		1		○									兼1	
	上級読解 I B	1②		1		○									兼1	
	上級読解 II A	1③		1		○									兼1	
	上級読解 II B	1④		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1	
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1	
	小計(26科目)		—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7
基礎科目	微分積分学 I A	1①		1		○									兼1	
	微分積分学 I B	1②		1		○									兼1	
	微分積分学 II A	1③		1		○									兼1	
	微分積分学 II B	1④		1		○									兼1	
	線形代数学 I A	1①		1		○									兼1	
	線形代数学 I B	1②		1		○									兼1	
	線形代数学 II A	1③		1		○									兼1	
	線形代数学 II B	1④		1		○									兼1	
	統計数学A	1③		1		○									兼1	
	統計数学B	1④		1		○									兼1	
	物理学 I A	1①		1		○									兼1	
	物理学 I B	1②		1		○									兼1	
	物理学 II A	1③		1		○									兼1	
	物理学 II B	1④		1		○									兼1	
	化学 I A	1①		1		○									兼1	
	化学 I B	1②		1		○									兼1	
	化学 II A	1③		1		○									兼1	
化学 II B	1④		1		○									兼1		
小計(18科目)		—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—
初習言語科目	ドイツ語 A 1-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 1-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 2-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 2-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 3-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 3-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 4-1	1①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 A 4-2	1②・④		1			○								兼1	
	ドイツ語 B-1	2①		1			○								兼1	
	ドイツ語 B-2	2②		1			○								兼1	
	ドイツ語 C-1	2①・③		1			○								兼1	
	ドイツ語 C-2	2②・④		1			○								兼1	
	フランス語 A 1-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語 A 1-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語 A 2-1	1①		1			○								兼1	
	フランス語 A 2-2	1②		1			○								兼1	
	フランス語 A 3-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語 A 3-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語 A 4-1	1③		1			○								兼1	
	フランス語 A 4-2	1④		1			○								兼1	
	フランス語 B-1	2①・③		1			○								兼1	
	フランス語 B-2	2②・④		1			○								兼1	
フランス語 C-1	2③		1			○								兼1		
フランス語 C-2	2④		1			○								兼1		
ロシア語 A 1-1	1①		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A1-2		1			○							兼1		
		ロシア語A2-1		1			○							兼1		
		ロシア語A2-2		1			○							兼1		
		ロシア語A3-1		1			○							兼1		
		ロシア語A3-2		1			○							兼1		
		ロシア語A4-1		1			○							兼1		
		ロシア語A4-2		1			○							兼1		
		ロシア語B-1		2①・③		1		○							兼1	
		ロシア語B-2		2②・④		1		○							兼1	
		ロシア語C-1		2①・③		1		○							兼1	
		ロシア語C-2		2②・④		1		○							兼1	
		中国語A1-1		1①		1		○							兼1	
		中国語A1-2		1②		1		○							兼1	
		中国語A2-1		1①		1		○							兼1	
		中国語A2-2		1②		1		○							兼1	
		中国語A3-1		1③		1		○							兼1	
		中国語A3-2		1④		1		○							兼1	
		中国語A4-1		1③		1		○							兼1	
		中国語A4-2		1④		1		○							兼1	
		中国語B-1		2①・③		1		○							兼1	
		中国語B-2		2②・④		1		○							兼1	
		中国語C-1		2③		1		○							兼1	
		中国語C-2		2④		1		○							兼1	
		スペイン語A1-1		1①		1		○							兼1	
		スペイン語A1-2		1②		1		○							兼1	
		スペイン語A2-1		1①		1		○							兼1	
		スペイン語A2-2		1②		1		○							兼1	
		スペイン語A3-1		1③		1		○							兼1	
		スペイン語A3-2		1④		1		○							兼1	
		スペイン語A4-1		1③		1		○							兼1	
		スペイン語A4-2		1④		1		○							兼1	
		スペイン語B-1		2①		1		○							兼1	
		スペイン語B-2		2②		1		○							兼1	
	スペイン語C-1		2③		1		○							兼1		
	スペイン語C-2		2④		1		○							兼1		
	日本語A1-1		1①		1		○							兼1		
	日本語A1-2		1②		1		○							兼1		
	日本語A2-1		1①		1		○							兼1		
	日本語A2-2		1②		1		○							兼1		
	日本語A3-1		1③		1		○							兼1		
	日本語A3-2		1④		1		○							兼1		
	日本語A4-1		1③		1		○							兼1		
	日本語A4-2		1④		1		○							兼1		
	小計(68科目)		—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
	自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2		○								兼1	
		石川県の市町	1①～②		2		○								兼1	
		健康論実践D	1④		1				○						兼1	
		健康論実践E	1④		1				○						兼1	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1		○								兼1	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1		○								兼1	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○								兼1	
		シェルスクリプト言語論1	1①～②		2		○								兼1	
		シェルスクリプト言語論2	1③～④		2		○								兼1	
		地元学A(地域資源調査)	1①		1		○								兼1	
		地元学B(聞き書き)	1②		1		○								兼1	
		シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○							兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1		○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	自由履修科目	香りと日本文化	1③	1		○									兼1	集中		
		心と体の健康A	1③	1		○									兼1			
		心と体の健康B	1④	1		○									兼1			
		未来デザインプラクティス	1①・②・④	1				○							兼1			
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1		○									兼1			
		金沢の歴史と文化	1③～④	2		○									兼1			
		日本の伝統芸能	1②	1		○									兼1			
		地域創造学特別講義C	1③	1		○									兼1			
		地域創造学特別講義D	1④	1		○									兼1			
		日本国憲法概説	1③	2		○									兼1			
		日本史要説	2①～②	2		○									兼1			
		東洋史要説	2③～④	2		○									兼1			
		ソーシャルビジネス概論	1①	1		○									兼1			
		行政学の基礎	1①	2		○									兼1			
		ゼミ／角間の里山づくり 春編	1①	1				○							兼1			
		ゼミ／角間の里山づくり 秋編	1③	1				○							兼1			
		コーヒーと社会	1③	1		○									兼1			
		コーヒーと科学	1④	1		○									兼1			
		能登・地域活性化演習Ⅰ	1②	1		○									兼1			
		能登・地域活性化演習Ⅱ	1②	1		○									兼1			
		地学実験	1②～③	2				○							兼1			
		生物学実験	1①～②	2				○							兼1			
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1		集中	
		地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①	1		○									兼1			
		地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②	1		○									兼1			
		ローカルキャリアデザインⅠ	1②	1		○									兼1			
		ローカルキャリアデザインⅡ	1③	1		○									兼1			
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1		○									兼1			
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1		○									兼1			
		Pythonデータ分析入門	1②	1		○									兼1			
		プレゼンテーション演習A	1③	1		○									兼1			
		プレゼンテーション演習B	1④	1		○									兼1			
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1				○							兼1			
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1				○							兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1		○									兼1			
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1		○									兼1			
		Society 5.0 概論A	1①	1		○									兼1			
		Society 5.0 概論B	1②	1		○									兼1			
		英語セミナー	1①・②・③・④	1		○									兼1			
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1			
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○							兼1			
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○							兼1			
		小計(67科目)	—	0	80	0	—				0	0	0	0	0	兼33		—
		共通教育科目計(220科目)		—	13	248	0	—			1	0	1	1	0	兼78	—	
		専門教育科目	学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1			○		1							
				プレゼン・ディベート論	1②	1			○		1							
				デザイン思考	1②	1		○					1					
				イノベーション基礎	1③	1		○									兼1	
				数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2				○					1		兼1	共同
				小計(5科目)	—	6	0	0	—			2	0	1	1	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
語G学 科S域 目言	学域GS言語科目Ⅰ／海外実践英語	2①・②	1			○									兼1	
	学域GS言語科目Ⅱ／時事・学術英語	3①・②	1			○									兼1	
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		兼1	
実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1			○			1							
	アントレプレナー演習Ⅰ	2①	1				○		1							
	産業DX・PBL演習Ⅰ	2①	1					○				1				
	社会調査法	2①		1			○		1						兼1	
	数理科学探求	2①		1			○								兼1	
	アントレプレナー演習Ⅱ	2②	1					○	1							
	産業DX・PBL演習Ⅱ	2②	1					○				1				
	データ解析演習	2②		1				○							兼2	
	地方創生に見る社会課題	2②		1				○			1					
	スマートデバイス演習	2③		1				○		1						
	北陸地域創生と社会学	2③		1				○		1					兼1	
	数理・データサイエンス・AI実践	2③		1				○				1				
	プログラミングスキル	2③		1				○							兼1	
	Webサイト設計基礎	2④		1				○							兼1	
	データ駆動型社会と産業	2④		1				○				1			兼1	
	プログラミングスキル実践	3①		1				○		1						
	アプリ開発	3②		1				○							兼1	
小計(17科目)	—	5	12	0	—			4	1	1	2	0		兼7		
専門基礎科目	テクノロジー基礎	1④		1			○		1						兼4	
	ファイナンス基礎	1④		1			○								兼1	
	ロボットイノベーション	2①		1				○			1					
	スマート創成化学とバイオロジー	2①		1				○		1	1				オムニバス	
	技術社会と倫理	2①		1				○		1						
	フィンテック基礎とビジネス応用	2①		1				○							兼1	
	マーケティング論	2①		2				○			1					
	北陸技術経営論	2①		1				○				1				
	AIと未来の社会学	2②		1				○		1			1		共同	
	未来エネルギー創成	2②		1				○				1			兼1	
	超スマートシティとSociety 5.0	2②		1				○		1					共同	
	社会変動と労働生産性	2③		1				○							兼1	
	世界の課題と技術トレンド	2③		1				○		1						
	SDGs基礎	2③		1				○							兼1	
	IoT技術	2③		1				○							兼1	
	金融工学	2③		1				○							兼1	
	情報科学応用	2③		1				○		1						
	社会と工学における最適化	2③		1				○							兼1	
	数理行動モデル基礎	2④		1				○			1					
	スマートシステム制御	2④		1				○		1						
北陸の都市・農村・文化	2④		1				○		1					兼1		
北陸の農林水産・製造業	2④		1				○		1					兼1		
消費生活論	2④		1				○		2							
コンピュータとデジタル回路	3①		1				○							兼1		
イノベーション・マネジメント	3④		1				○							兼1		
小計(25科目)	—	4	22	0	—			7	2	2	2	0		兼10		
専門科目	学知科目	先端医学	2④		1			○								兼1
		未来医科学	2④		1			○								兼1
		QOLとWell-being	2④		1				○		1					
		人間拡張とライフ	3①		1				○		1	1				オムニバス
		地域の居住空間デザイン	3①		1				○			1				
		ヒューマンインターフェース	3①		1				○							兼2
		生活デザイン論	3②		1				○							兼1
		超高齢社会と科学技術	3②		1				○		1					
		地域包括ケアと地方創生	3②		1				○				1			兼1
		生活行動とアクティビティ	3②		1				○		1					
		未来型ヘルスケアシステム	3③		1				○				1			兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	スマートライフコアエリア	人間工学	3③	1		○				1						兼1 共同
		健康スポーツ栄養学	3③	1		○			1							
		スマートウエルネス	3③	1		○				1						
		レギュラトリーサイエンス	3④	1		○				1						
		AI・IoT健康福祉学	3④	1		○						1				
		フィジカル・ブレイン接続	3④	1		○							1			
	ヘルステック	3④	1		○					1						
	スマート産業コアエリア	スマート産業論	2③		1		○			1						兼1
		消費者行動と社会	2③		1		○					1				
		実践データサイエンス	2④		1		○									
		画像認識と機械学習	3①		1		○				1					
		スマートセンシング	3①		1		○			1						
		カーボンニュートラル技術	3①		1		○			1						
		統計的学習理論	3②		1		○				1					
		デジタル生産工学	3②		1		○			1						
		知的財産法	3②		2		○									
		スマートシステム制御応用	3③		1		○			1						
		スマート資金とビジネス応用	3③		1		○									
		自律ロボット	3③		1		○				1					
		産業とユニバーサルデザイン	3③		1		○					1				
		拡張・リアリティ空間デザイン	3③		1		○									
	次世代情報通信	3④		1		○			1							
	エナジーハーベスティング	3④		1		○			1							
	コンピュータと電子回路	3④		1		○										
	生産者の社会責任	4①		1		○			1							
	スマート社会コアエリア	SDGs実践	2④		1		○			1						兼1 オムニバス
		実践スマートシティ論	2④		1		○			1		1				
		ナショナルレジリエンス	3①		1		○						1			
		Web・クチコミ社会動向分析	3①		1		○									
		デジタルエコノミーと地域展開	3①		1		○									
		都市・地域工学	3②		1		○									
		スマートモビリティと自動運転	3②		1		○			1						
		都市・交通デザイン	3②		1		○					1				
		社会システム工学	3②		1		○									
		エビデンスベース政策論	3②		1		○						1			
		ソーシャルイノベーション	3③		1		○									
		社会的合意形成論	3③		1		○			1						
		デジタルツインと危機管理	3③		1		○						1			
		低炭素社会	3④		1		○			1						
	スマートサプライチェーン	3④		1		○				1						
	スマートインフラマネジメント	3④		1		○										
	ネットワーク・メカニズムデザイン	3④		1		○										
	フューチャーデザイン	3④		1		○			1		1					
	小計 (54科目)	—	0	55	0	—				10	4	3	3	0	兼19	
	鍛錬科目	北陸産業インターンシップ I	3②～③	1					○	1						兼1 兼1 兼1
北陸産業インターンシップ II		3②～③		1				○	1							
スマート創成プロジェクト鍛錬 I		4①～②		1				○	11	4	3	3				
スマート創成プロジェクト鍛錬 II		4①～②		1				○	11	4	3	3				
海外実践留学		3③～④		1				○								
国際インターンシップ		3③～④		1				○								
数理・データサイエンス・AI鍛錬		4①		1				○								
小計 (7科目)	—	1	6	0	—				11	4	3	3	0	兼3		
確立科目	融合研究	4①～④		8				○	1							
	融合演習	4①～④		8				○	1							
	融合試験	4①～④		8				○	1							
	小計 (3科目)	—	0	24	0	—				3	0	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
合計 (333科目)		—	31	367	0	—			11	4	3	3	0	兼99
学位又は称号		学士 (学術)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係, 工学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>【卒業要件】 以下の要件を満たし、合計124単位以上（融合試験履修者は130単位以上）を修得した者。 ・共通教育科目において導入科目から3単位、GS科目に配置する1群から5群の各群から2単位以上、6群から3単位を含む計15単位、GS言語科目から8単位、基礎科目から8単位を含め、計36単位以上を修得。 ・専門教育科目において学域GS科目6単位、学域GS言語科目2単位、実践科目から必修5単位を含め13単位、基盤科目から必修4単位を含め19単位、学知科目から26単位（同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む）、鍛練科目から必修1単位を含め4単位、確立科目から8単位を含め、計88単位以上（融合試験履修者は94単位以上）を修得。</p> <p>【履修方法】 本学類では、学生が取り組む未来の科学を創成するための課題は多様、かつ、広範囲となることから、学生は自らが設定する社会課題に必要な知見、技術を偏りなく学ぶようにするため、卒業要件を科目区分ごとに工学と社会学の両方の授業科目を必ず履修するよう設定しており、学生は工学及び社会学の両方から体系的に履修する仕組みとなっている。また、複数回、指導教員と面談し、「学びの計画書」を作成しながら授業科目を履修する。具体的には、共通教育科目の履修を終え、実践科目や基盤科目の履修を開始する1年次第4クォーターから2年次第2クォーターの段階で、自らの課題設定にあった基礎的な科目を工学、社会学の両方を偏りなく学ぶことができるように「学びの計画書Ⅰ」を作成し、授業科目を履修する。その後、2年次の第4クォーターから3年次の第1クォーターにかけ、より専門的な授業科目である、学知科目及び鍛練科目を学ぶにあたり、履修指導を受けて「学びの計画書Ⅱ」を作成し、必要に応じて、新たな分野の基礎的な知見を養うバックキャスト型学修等の指導を受け、必要な授業科目を履修する。3年次第4クォーターから4年次第2クォーターにかけて卒業研究・演習に関する指導を受けるとともに、異なる分野の専門家や起業家からの指導も受ける。</p>						1 学年の学期区分		4 期						
						1 学期の授業期間		8 週						
						1 時限の授業時間		90 分						

教育課程等の概要														
(【既設】融合学域先導学類)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1					
	データサイエンス基礎	1①	1			○			1					
	地域概論	1②	1			○			2					
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			4	0	0	0	0	オムニバス
共通教育科目 GS科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○			1				
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○							兼1
	2群(自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○							兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○			1				兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○							兼2
		細胞・分子生物学 エクササイズ&スポーツ実技	1①・②・③・④		1		○		○					兼1
	3群(表現・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○							兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○							兼1
		スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○							兼1
	4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○							兼1
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○							兼3
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○					1		兼1
		異文化体験A	1②・④		1				○					兼1
		異文化体験B	1②・④		2				○					兼1
		異文化体験C	1②・④		3				○					兼1
		異文化体験D	1②・④		4				○					兼1
		異文化体験E	1②・④		5				○					兼1
		異文化体験F	1②・④		6				○					兼1
		異文化体験G	1②・④		7				○					兼1
		異文化体験H	1②・④		8				○					兼1
		グローバル時代の国際協力 グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④ 1①・②・③・④		1 1			○ ○						
	5群(未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○							兼1
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○							兼1
環境学とESD		1①・②・③・④		1		○			1					
生活と社会保障		1①・②・③・④		1		○							兼1	
現代社会と人権		1①・②・③・④		1		○							兼1	
6群(新しい社会を生きる)	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	AI入門	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○					1		兼2	
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○							兼1	
	小計(38科目)	—	0	66	0	—			1	2	0	1	0	兼32
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○							兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○							兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○							兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○							兼1	
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○							兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○							兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-1	1③		1			○								兼1	
	中国語A4-2	1④		1			○								兼1	
	中国語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	中国語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	中国語C-1	2③		1			○								兼1	
	中国語C-2	2④		1			○								兼1	
	朝鮮語A1-1	1①		1			○								兼1	
	朝鮮語A1-2	1②		1			○								兼1	
	朝鮮語A2-1	1①		1			○								兼1	
	朝鮮語A2-2	1②		1			○								兼1	
	朝鮮語A3-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A3-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-1	1③		1			○								兼1	
	朝鮮語A4-2	1④		1			○								兼1	
	朝鮮語B-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語B-2	2②・④		1			○								兼1	
	朝鮮語C-1	2①・③		1			○								兼1	
	朝鮮語C-2	2②・④		1			○								兼1	
	スペイン語A1-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A1-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A2-1	1①		1			○								兼1	
	スペイン語A2-2	1②		1			○								兼1	
	スペイン語A3-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A3-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語A4-1	1③		1			○								兼1	
	スペイン語A4-2	1④		1			○								兼1	
	スペイン語B-1	2①		1			○								兼1	
	スペイン語B-2	2②		1			○								兼1	
	スペイン語C-1	2③		1			○								兼1	
	スペイン語C-2	2④		1			○								兼1	
	日本語A1-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A1-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A2-1	1①		1			○								兼1	
	日本語A2-2	1②		1			○								兼1	
	日本語A3-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A3-2	1④		1			○								兼1	
	日本語A4-1	1③		1			○								兼1	
	日本語A4-2	1④		1			○								兼1	
	小計(80科目)		—	0	80	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2		○									兼1
	石川県の市町	1①～②		2		○									兼1
	健康論実践D	1④		1				○							兼1
	健康論実践E	1④		1				○							兼1
	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1		○									兼1
	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1		○									兼1
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論 1	1①～②		2		○									兼1
	シェルスクリプト言語論 2	1③～④		2		○									兼1
	地元学A (地域資源調査)	1①		1		○									兼1
	地元学B (聞き書き)	1②		1		○									兼1
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1			○								兼1
	イノベーションを起こして、起業家になろう 1	1①		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 2	1②		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 3	1③		1		○				1					
	イノベーションを起こして、起業家になろう 4	1④		1		○				1					
	香りと日本文化	1③		1		○									兼1
	心と体の健康A	1③		1		○									兼1
	心と体の健康B	1④		1		○									兼1
	未来デザインプラクティス	1①・②・④		1				○							兼1 集中
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1		○									兼1
	金沢の歴史と文化	1③～④		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1②		1		○									兼1
	地域創造学特別講義C	1③		1		○									兼1
	地域創造学特別講義D	1④		1		○									兼1
	日本国憲法概説	1③		2		○									兼1
	日本史要説	2①～②		2		○									兼1
	東洋史要説	2③～④		2		○									兼1
	ソーシャルビジネス概論	1①		1		○									兼1
	行政学の基礎	1①		2		○									兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1			○								兼1
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1			○								兼1
	コーヒーと社会	1③		1		○									兼1
	コーヒーと科学	1④		1		○									兼1
	能登・地域活性化演習Ⅰ	1②		1		○									兼1
	能登・地域活性化演習Ⅱ	1②		1		○									兼1
	地学実験	1②～③		2				○							兼1
	生物学実験	1①～②		2				○							兼1
	海洋生化学演習	1①		2			○								兼1 集中
	地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①		1		○									兼1
	地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②		1		○									兼1
	ローカルキャリアデザインⅠ	1②		1		○									兼1
	ローカルキャリアデザインⅡ	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説Ⅰ	1③		1		○									兼1
	環境動態学概説Ⅱ	1④		1		○									兼1
	Pythonデータ分析入門	1②		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習A	1③		1		○									兼1
	プレゼンテーション演習B	1④		1		○									兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③		1				○							兼1
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④		1				○							兼1
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①		1		○									兼1
	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②		1		○									兼1
	Society 5.0 概論A	1①		1		○									兼1
	Society 5.0 概論B	1②		1		○									兼1
	英語セミナー	1①・②・③・④		1		○									兼1
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 1	1③		1			○								兼1
	ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界 2	1④		1			○								兼1
	ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③		1			○								兼1
	ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1④		1			○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1			○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○								兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○								兼1	
		小計(67科目)	—	0	80	0	—			2	0	0	0	0	兼31	—
		共通教育科目計(230科目)	—	13	258	0	—			6	2	0	1	0	兼76	—
専門教育科目	学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1			○		2	1					共同	
		ブレゼン・ディベート論	1②	1			○		2	1					共同	
		イノベーション基礎	1③	1			○		1							
		数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2				○	2						オムニバス	
		デザイン思考	1②	1			○		1			1			共同	
		小計(5科目)	—	6	0	0	—		6	1	0	1	0	—		
	語学	学域GS科目	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	2①・②	1			○			1					
			学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語	3①・②	1			○			1					
			小計(2科目)	—	2	0	0	—		0	1	0	0	0	—	
	実践科目		アントレプレナー基礎	1①	1			○		1						
			アントレプレナー演習Ⅰ	2①	2				○	1			1			共同
			アントレプレナー演習Ⅱ	2②	2				○	1			1			共同
			デザイン思考演習	1③	1				○	1			1			共同
			アントレプレナーインターンシップ	2④	2					1			1			共同
			アントレプレナーコンテスト/リーダー養成	3②	1				○							兼1
			アントレプレナーコンテスト/実践リーダー	4②	1				○							兼1
	小計(7科目)	—	10	0	0	—		3	0	0	1	0	兼1			
	コア科目	社会循環コアエリア	AIと未来社会	2②	1			○			1					
			シェアリングエコノミー	2④	1			○								兼1
			現代社会を知る	2①	1			○		3			1			兼1
			社会変動と労働生産性	2②	1			○		1	1		1			兼4
			フィンテック基礎とビジネス応用	2①	1			○								兼1
			超スマートシティと Society5.0	2②	1			○		1						兼2
			消費生活論	2④	1			○		1						
			倫理学	2③	1			○			1					
			ファイナンス基礎	1④	1			○								兼1
		世界共創コアエリア	異文化理解とキャリア開発	2③	1			○					1			
国際世界と特許			2③	1			○		1							
グローバルイノベーション			2④	1			○			1		1			オムニバス	
ダイバーシティ促進			2①	1			○					1			兼1	
国際協力体制			2②	1			○			1					兼4	
科学創発コアエリア	人の流動と定着	2②	1			○								兼1		
	ビジネスと政治	2④	1			○		1								
	SDGs基礎	2③	1			○			1							
	マーケティング基礎	2①	1			○		1								
	社会的な視点から見る医療	2③	1			○		3						オムニバス		
	生命科学的な視点から見る医療	2④	1			○		3						オムニバス		
	未来医科学	2④	1			○		1								
	人工知能	2①	1			○			1							
世界の課題と技術トレンド	2③	1			○			1								
社会基盤コアエリア	IoT技術	2③	1			○			1							
	数理統計学基礎	2③	1			○								兼1		
	世界変革技術論	2①	1			○		1	1					兼1		
	テクノロジー基礎	1④	1			○		1	1		2			兼1		
	小計(27科目)	—	0	27	0	—		10	6	0	3	0	兼16			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 専門科目	マーケティング論	3①		2		○			1								
	経営管理論	3①		2		○										兼1	
	国際経営論	3③		2		○										兼1	
	管理会計論	3③		2		○										兼1	
	ESG投資	3②		1		○										兼1	
	生活デザイン論	3②		1		○			1								
	創業支援論	3①		1		○			1								
	知的財産法	3②		2		○			1								
	イノベーション・マネジメント	3④		1		○			1								
	需要予測	3①		1		○			2								オムニバス
	情報ネットワーク	3①		1		○											兼1
	データベース論	3③		1		○				1							兼1
	プレジジョンメディシン	3③		1		○											兼1
	テクノロジーと医療・健康・介護	3③		1		○			1								兼1
	ブランニング最適化	3③		1		○											兼1
	比較制度論	3③		1		○			1								
	地域政策論	3③		1		○			1								
	生活環境学	3②		1		○			1								
	心理学概論	3①		1		○											兼1
	公共政策論	3①		2		○											兼1
	レギュラトリーサイエンス	3④		1		○			1				1				共同
	未来型ヘルスケアシステム	3③		1		○			1								
	都市・交通デザイン	3②		1		○			1								
	プロジェクト・マネジメント	3①		1		○			1								
	超高齢化社会と科学技術	3②		1		○			1								
	地域包括ケアと地方創生	3②		1		○			1								
	経営戦略論	3②		2		○											兼1
	医療制度改革と医療経済	3①		2		○			2				1				オムニバス
	アプリ開発	3②		1		○				1							
	機械学習	3③		1		○			1								
	先導数学	2④		2		○											兼1
	データサイエンス実践	2④		1		○											兼1
	先端医学	2④		1		○			1								
	AI・IoT健康福祉学	3④		1		○			1								
	センシング論	3①		2		○											兼1
	マテリアル科学	3②		1		○							1				兼1
	光学技術論	3③		1		○											兼1
	フィジカル・ブレイン接続	3④		1		○			1								
	コンピュータとデジタル回路	3①		1		○			1								
	コンピュータと電子回路	3④		1		○			1								
	地球環境論	3③		1		○											兼1
	環境基礎科学	3④		1		○			1				1				オムニバス
	プログラミングスキル	2④		1		○			1								
	SDGs実践	2④		1		○				1							
小計 (44科目)	—		0	54	0	—			13	2	0	2	0			兼14	
鍛練科目	学術考究	4①		1		○			2	1						共同	
	潜在課題探査分析	4①		1			○			1		1				共同	
	先導プロジェクト演習	3①～③	2				○		14	5							
	海外実践留学	3③～④		1				○		1							
	国際インターンシップ	3③～④		1				○	1								
小計 (5科目)	—		2	4	0	—			14	6	0	1	0			—	
確立科目	先導研究	4①～④		8				○	2							共同	
	先導演習	4①～④		8				○	1								
	先導試験	4①～④		8				○	1								
	小計 (3科目)	—		0	24	0	—		4	0	0	0	0			—	
合計 (323科目)		—	33	367	0	—			14	6	0	3	0			兼97	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（学術）		学位又は学科の分野			経済学関係，社会学・社会福祉学関係，工学関係，保健衛生学関係（看護関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の要件を満たし，合計124単位以上（先導試験履修者は130単位以上）を修得した者。 ・ 共通教育科目において導入科目から3単位，GS科目に配置する1～5群の科目群から各2単位以上及び6群の科目群から3単位を含む15単位，GS言語科目から8単位，基礎科目又は初習言語科目から8単位を含め，計36単位以上を修得。 ・ 専門教育科目において学域GS科目から6単位，学域GS言語科目から2単位，実践科目から10単位，コア科目に配置する3コアエリアのうち，同一エリアからの8単位以上かつ残る2コアエリアから各1単位以上を含む18単位，学知科目から30単位，鍛練科目から4単位，確立科目から8単位を含め，計88単位以上を修得（先導試験履修者は94単位以上）。						1 学年の学期区分			4 期					
						1 学期の授業期間			8 週					
						1 時限の授業時間			90 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(【既設】融合学域観光デザイン学類)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○				1					兼2 共同
	データサイエンス基礎	1①	1			○						1			
	地域概論	1②	1			○									
	小計 (3科目)	—	3	0	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼2 —	
GS科目 共通教育科目	1群 (自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○				1				兼1
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1
	2群 (自己を鍛える)	哲学 (自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2 共同
	3群 (親を表現する)	エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④		1				○						兼2
		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1
	4群 (世界とつながる)	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○								兼1
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○								兼3
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○								兼1
		異文化体験A	1②・④		1				○						兼1 集中
		異文化体験B	1②・④		2				○						兼1 集中
		異文化体験C	1②・④		3				○						兼1 集中
		異文化体験D	1②・④		4				○						兼1 集中
		異文化体験E	1②・④		5				○						兼1 集中
		異文化体験F	1②・④		6				○						兼1 集中
		異文化体験G	1②・④		7				○						兼1 集中
		異文化体験H	1②・④		8				○						兼1 集中
		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1			○							兼1
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1			○							兼1	
	5群 (未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1
		統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○								兼1
		環境学とESD	1①・②・③・④		1		○								兼1
		生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○								兼1
		現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○								兼1
	6群 (新しい社会を生きる)	インテグレート科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		A I 入門	1①・②・③・④		1		○								兼1
		情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
		デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼1
		論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1
小計 (38科目)	—	—	0	66	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼33 —	
GS言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1	
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1	
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1	
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1	
	TOEIC準備 (演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1	
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1	
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
G S 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○										兼1	
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○										兼1	
	講義の聴解A	1①・③		1		○										兼1	
	講義の聴解B	1②・④		1		○										兼1	
	口頭発表A	1①・③		1		○										兼1	
	口頭発表B	1②・④		1		○										兼1	
	上級読解 I A	1①		1		○										兼1	
	上級読解 I B	1②		1		○										兼1	
	上級読解 II A	1③		1		○										兼1	
	上級読解 II B	1④		1		○										兼1	
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○										兼1	
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○										兼1	
	日本事情A	1①・③		1		○										兼1	
	日本事情B	1②・④		1		○										兼1	
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○										兼1	
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○										兼1	
	小計 (26科目)		—	10	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
	基礎科目	微分積分学 I A	1①		1		○										兼1
		微分積分学 I B	1②		1		○										兼1
		微分積分学 II A	1③		1		○										兼1
		微分積分学 II B	1④		1		○										兼1
		線形代数学 I A	1①		1		○										兼1
		線形代数学 I B	1②		1		○										兼1
		線形代数学 II A	1③		1		○										兼1
		線形代数学 II B	1④		1		○										兼1
		物理学 I A	1①		1		○										兼1
物理学 I B		1②		1		○										兼1	
物理学 II A		1③		1		○										兼1	
物理学 II B		1④		1		○										兼1	
化学 I A		1①		1		○										兼1	
化学 I B		1②		1		○										兼1	
化学 II A		1③		1		○										兼1	
化学 II B		1④		1		○										兼1	
小計 (16科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—	
初習言語科目	ドイツ語 A 1-1	1①・③		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 1-2	1②・④		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 2-1	1①・③		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 2-2	1②・④		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 3-1	1①・③		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 3-2	1②・④		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 4-1	1①・③		1			○									兼1	
	ドイツ語 A 4-2	1②・④		1			○									兼1	
	ドイツ語 B-1	2①		1			○									兼1	
	ドイツ語 B-2	2②		1			○									兼1	
	ドイツ語 C-1	2①・③		1			○									兼1	
	ドイツ語 C-2	2②・④		1			○									兼1	
	フランス語 A 1-1	1①		1			○									兼1	
	フランス語 A 1-2	1②		1			○									兼1	
	フランス語 A 2-1	1①		1			○									兼1	
	フランス語 A 2-2	1②		1			○									兼1	
	フランス語 A 3-1	1③		1			○									兼1	
	フランス語 A 3-2	1④		1			○									兼1	
	フランス語 A 4-1	1③		1			○									兼1	
	フランス語 A 4-2	1④		1			○									兼1	
	フランス語 B-1	2①・③		1			○									兼1	
	フランス語 B-2	2②・④		1			○									兼1	
	フランス語 C-1	2③		1			○									兼1	
	フランス語 C-2	2④		1			○									兼1	
ロシア語 A 1-1	1①		1			○									兼1		
ロシア語 A 1-2	1②		1			○									兼1		
ロシア語 A 2-1	1①		1			○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	初習言語科目	ロシア語A2-2	1②	1			○								兼1	
		ロシア語A3-1	1③	1			○								兼1	
		ロシア語A3-2	1④	1			○								兼1	
		ロシア語A4-1	1③	1			○								兼1	
		ロシア語A4-2	1④	1			○								兼1	
		ロシア語B-1	2①・③	1			○								兼1	
		ロシア語B-2	2②・④	1			○								兼1	
		ロシア語C-1	2①・③	1			○								兼1	
		ロシア語C-2	2②・④	1			○								兼1	
		中国語A1-1	1①	1			○								兼1	
		中国語A1-2	1②	1			○								兼1	
		中国語A2-1	1①	1			○								兼1	
		中国語A2-2	1②	1			○								兼1	
		中国語A3-1	1③	1			○								兼1	
		中国語A3-2	1④	1			○								兼1	
		中国語A4-1	1③	1			○								兼1	
		中国語A4-2	1④	1			○								兼1	
		中国語B-1	2①・③	1			○								兼1	
		中国語B-2	2②・④	1			○								兼1	
		中国語C-1	2③	1			○								兼1	
		中国語C-2	2④	1			○								兼1	
		朝鮮語A1-1	1①	1			○								兼1	
		朝鮮語A1-2	1②	1			○								兼1	
		朝鮮語A2-1	1①	1			○								兼1	
		朝鮮語A2-2	1②	1			○								兼1	
		朝鮮語A3-1	1③	1			○								兼1	
		朝鮮語A3-2	1④	1			○								兼1	
		朝鮮語A4-1	1③	1			○								兼1	
		朝鮮語A4-2	1④	1			○								兼1	
		朝鮮語B-1	2①・③	1			○								兼1	
		朝鮮語B-2	2②・④	1			○								兼1	
		朝鮮語C-1	2①・③	1			○								兼1	
		朝鮮語C-2	2②・④	1			○								兼1	
		スペイン語A1-1	1①	1			○								兼1	
		スペイン語A1-2	1②	1			○								兼1	
		スペイン語A2-1	1①	1			○								兼1	
		スペイン語A2-2	1②	1			○								兼1	
		スペイン語A3-1	1③	1			○								兼1	
		スペイン語A3-2	1④	1			○								兼1	
		スペイン語A4-1	1③	1			○								兼1	
		スペイン語A4-2	1④	1			○								兼1	
		スペイン語B-1	2①	1			○								兼1	
		スペイン語B-2	2②	1			○								兼1	
		スペイン語C-1	2③	1			○								兼1	
		スペイン語C-2	2④	1			○								兼1	
		日本語A1-1	1①	1			○				1					兼1
		日本語A1-2	1②	1			○				1					兼1
		日本語A2-1	1①	1			○				1					兼1
		日本語A2-2	1②	1			○				1					兼1
		日本語A3-1	1③	1			○				1					兼1
日本語A3-2	1④	1			○				1					兼1		
日本語A4-1	1③	1			○				1					兼1		
日本語A4-2	1④	1			○				1					兼1		
小計(80科目)		—	0	80	0	—			1	0	0	0	0	兼9	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	自由履修科目	石川県の行政		2		○									兼1
		石川県の市町	1①～②	2		○									兼1
		健康論実践D	1④	1				○							兼1
		健康論実践E	1④	1					○						兼1
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③	1			○								兼1
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④	1			○								兼1
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④	2			○								兼1
		シュルスクリプト言語論 1	1①～②	2			○								兼1
		シュルスクリプト言語論 2	1③～④	2			○								兼1
		地元学A (地域資源調査)	1①	1			○								兼1
		地元学B (聞き書き)	1②	1			○								兼1
		シュルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	1				○							兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	1			○								兼1
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	1			○								兼1
		香りと日本文化	1③	1			○								兼1
		心と体の健康A	1③	1			○								兼1
		心と体の健康B	1④	1			○								兼1
		未来デザインプラクティス	1⑩・②・④	1					○						兼1
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1			○								兼1
		金沢の歴史と文化	1③～④	2			○								兼1
		日本の伝統芸能	1②	1			○								兼1
		地域創造学特別講義C	1③	1			○								兼1
		地域創造学特別講義D	1④	1			○								兼1
		日本国憲法概説	1③	2			○								兼1
		日本史要説	2①～②	2			○								兼1
		東洋史要説	2③～④	2			○								兼1
		ソーシャルビジネス概論	1①	1			○								兼1
		行政学の基礎	1①	2			○								兼1
		ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	1				○							兼1
		ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	1				○							兼1
		コーヒーと社会	1③	1			○								兼1
		コーヒーと科学	1④	1			○								兼1
		能登・地域活性化演習Ⅰ	1②	1			○								兼1
		能登・地域活性化演習Ⅱ	1②	1			○								兼1
		地学実験	1②～③	2					○						兼1
		生物学実験	1①～②	2					○						兼1
		海洋生化学演習	1①	2				○							兼1
		地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①	1			○								兼1
		地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②	1			○								兼1
		ローカルキャリアデザインⅠ	1②	1			○								兼1
		ローカルキャリアデザインⅡ	1③	1			○								兼1
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○								兼1
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○								兼1
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○								兼1
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○								兼1
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○								兼1
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○						兼1
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○						兼1
動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○								兼1		
動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○								兼1		
Society 5.0 概論A	1①	1			○								兼1		
Society 5.0 概論B	1②	1			○								兼1		
英語セミナー	1⑩・②・③・④	1			○								兼1		
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1				○							兼1		
ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1				○							兼1		
ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③	1				○							兼1		

集中

集中

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○							兼1	
		ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1			○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1			○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○							兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1			○							兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1			○							兼1	
	小計(67科目)	—	0	80	0		—		0	0	0	0	0	兼32	—
共通教育科目計(230科目)		—	13	258	0		—	1	1	0	0	0	兼80	—	
専門教育科目	学域GS科目	アカデミックスキル	1①	1						1	2			兼1	共同
		プレゼン・ディベート論	1②	1			○			1	2			兼1	共同
		イノベーション基礎	1③	1			○						1	兼1	共同
		数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2				○						兼2	共同
		デザイン思考	1④	1			○							兼2	共同
	小計(5科目)	—	6	0	0		—	1	2	0	1	0	兼4		
	語GS学域科目	学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語	2①・②	1			○							兼1	
		学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語	3①・②	1			○							兼1	
	小計(2科目)	—	2	0	0		—	0	0	0	0	0	兼1		
	実践科目	アントレプレナー基礎	1①	1			○			1				兼1	共同
アントレプレナー演習Ⅰ		2①	1			○			1				兼1	共同	
アントレプレナー演習Ⅱ		2②	1			○			1				兼1	共同	
観光DX・PBL演習Ⅰ		2①	1			○							兼1		
観光DX・PBL演習Ⅱ		2②	1			○						1	兼1		
観光調査法		2②		1		○						1	兼1		
ワークショップデザイン演習		2②		2			○		1				兼1	共同	
観光データ解析演習		2③		1			○					2	兼1	共同	
形態・色彩デザイン論		2③		1			○						兼1		
ビジネスプラン作成演習		2③		1			○		1				兼1		
地理情報システム演習		2④		1			○						兼1		
プログラミングスキル		2④		1			○		1						
アプリ開発		3②		1			○		1						
創生インターンシップ		2③・④		1				○			1				
観光プロジェクト演習Ⅰ		2①~②		1				○	9	5				兼1	共同
観光プロジェクト演習Ⅱ		2③~④		1				○	9	5				兼1	共同
観光プロジェクト演習Ⅲ		3①~②		1				○	9	5				兼1	共同
観光プロジェクト演習Ⅳ		3③~④		1				○	9	5				兼1	共同
小計(18科目)		—	5	14	0		—	9	5	0	2	0	兼4		
基礎科目		ホスピタリティ概論	1④		1			○						兼1	
		ファイナンス基礎	1④		1			○			1			兼5	オムニバス
	テクノロジー基礎	1④		1			○						兼3	オムニバス	
	観光デザイン学基礎	2①		2			○		4	3		3	兼2	オムニバス	
	世界変革技術論	2①		1			○					1	兼1		
	人工知能	2①		1			○						兼1		
	フィンテック基礎とビジネス応用	2①		1			○			1			兼1		
	マーケティング基礎	2①		1			○						兼1		
	超スマートシティとSociety 5.0	2②		1			○			1			兼2	オムニバス	
	観光倫理学	2②		1			○						兼1		
	観光の公衆衛生学	2②		1			○		1				兼1		
	観光法制度論	2②		1			○						兼1		
	異文化理解とキャリア開発	2③		1			○						兼1		
	SDGs基礎	2③		1			○						兼1		
	数理統計学基礎	2③		1			○				1				
	北陸観光産業論	2③		1			○			2			兼1	共同	
	日本の工芸とデザイン	2③		1			○		1						
	金融工学	2③		1			○			1					
	交流ネットワーク工学	2④		1			○						兼1		
	ダイバーシティ促進	2④		1			○					1			
	北陸の都市・農村・文化	2④		1			○						兼1		
	北陸の農林水産・製造業	2④		1			○						兼1		
	シェアリングエコノミー	2④		1			○		1						
	観光地域ビジネス論	2④		1			○		1						
数理行動モデル基礎	2④		1			○					1				
小計(25科目)	—	2	24	0		—	5	4	0	3	0	兼14			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	共感デザインコアエリア	エンタテインメントマネジメント論	2③	1		○									兼1
		SDGs実践	2④	1		○									兼1
		文化観光論	2④	1		○									兼1
		文化と消費社会	2④	1		○									兼1
		持続的な観光	3①	1		○				1					
		伝統文化変容論	3①	1		○									兼1
		比較地域発展論	3①	1		○									兼1
		グローバルブランディング論	3①	1		○				1					
		ヘリテージ・インタープリテーション	3①	2		○					1				
		無形文化遺産論	3②	1		○					1				
		文化と地域経済	3②	1		○									兼1
		生活デザイン論	3②	1		○									兼1
		国際プロジェクトマネジメント・評価法	3②	1		○					1				
		自然観光論	3②	1		○									兼1
		観光資源開発論	3③	1		○					1				
		資源活用と環境共生	3③	2		○									兼1
		人間工学	3③	1		○									兼1
		観光資源マネジメント論	3④	1		○					1				
		実践ブランディング	3④	2		○									兼1
	関係デザインコアエリア	IoT技術	2③	1		○									兼1
		データサイエンス実践	2④	1		○									
		行動経済学	2④	1		○					1			1	
		Web・クチコミ社会動向分析	3①	1		○					1				
		観光データ解析応用	3①	1		○							2		共同
		観光産業DX発展	3①	1		○					1				
		情報政策論	3①	2		○									兼1
		グローバル・アクセシビリティ論	3②	1		○					1				
		都市・交通デザイン	3②	1		○									兼1
		時空間データ解析	3②	1		○									兼1
		知的財産法	3②	2		○									兼1
		統計的意思決定論	3②	2		○									兼1
		交通工学	3③	1		○									兼1
		観光VR・XR	3③	1		○					1				
		国際メディア分析論	3③	1		○					1				
		国際コンフリクト・マネジメント	3③	1		○					1				
	ブランニング最適化	3③	1		○									兼1	
	データベース論	3③	1		○									兼1	
	需要予測	3④	1		○								1		
	共創デザインコアエリア	観光地経営論	2③	1		○					1				兼1
		地域観光政策論	2④	1		○									
		環境と観光	2④	1		○					1				
		観光開発・計画論	2④	1		○					1				
		地域社会学	2④	1		○					1				
		景観デザイン学	3①	1		○					1				
		工業デザイン	3①	1		○									兼1
		イベント経営論	3①	1		○									兼1
		地域マネジメント論	3①	1		○									兼1
		コミュニティ・デザイン論	3①	1		○					1				
		リノベーション論	3②	1		○									兼1
		社会システム工学	3②	1		○					1				
		都市計画	3②	1		○					1				
		ソーシャル・ビジネス論	3②	2		○									兼1
		パブリックスペース論	3②	1		○					1				
	計画プロセス	3③	1		○					1					
	観光社会学	3③	1		○					1					
	地域居住論	3④	1		○									兼1	
	ホスピタリティ・マネジメント	3④	1		○									兼1	
小計(57科目)	—	0	64	0	—				8	5	0	3	0	兼21	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	鍛練科目	観光ビジネス実践A	3①～④	1				○	1						
		観光ビジネス実践B	3①～④	2				○	1						
		観光ビジネス実践C	3①～④	4					○	1					
		観光実践留学A	3①～④	1				○	1						
		観光実践留学B	3①～④	2				○	1						
		観光実践留学C	3①～④	4				○	1						
		国際インターンシップA	3①～④	1				○		1					
		国際インターンシップB	3①～④	2				○		1					
		国際インターンシップC	3①～④	4				○		1					
	小計(9科目)	—	0	21	0	—			2	1	0	0	0	兼0	
	確立科目	融合研究	4①～④		8			○			1				
		融合演習	4①～④		8			○			1				
		融合試験	4①～④		8			○		1					
		小計(3科目)	—	0	24	0	—			1	2	0	0	0	兼0
合計(349科目)		—	28	405	0	—			9	5	0	3	0	兼108	
学位又は称号		学士(学術)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
以下の要件を満たし、合計124単位以上(融合試験履修者は130単位以上)を修得した者。 ・共通教育科目において導入科目から3単位、GS科目に配置する1群から5群の各群から2単位以上、6群から3単位を含む計15単位、GS言語科目から8単位(日本人学生の場合は日本語を除く必修8単位、留学生の場合は日本語の必修2単位を含む8単位)、基礎科目又は初習言語科目(1言語)から8単位を含め、計36単位以上を修得。 ・専門教育科目において学域GS科目6単位、学域GS言語科目2単位、実践科目から必修5単位を含め13単位、基盤科目から必修2単位を含め19単位、学知科目から26単位(同一のコアエリアから13単位以上、かつ、残る2コアエリアから各1単位以上を含む)、鍛練科目から4単位、確立科目から8単位を含め、計88単位以上(融合試験履修者は94単位以上)を修得。							1学年の学期区分		4期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要														
〔〔既設〕人間社会学域地域創造学類〕														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○				1				
	データサイエンス基礎	1①	1			○				1				
	地域概論	1①	1			○			1					
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			1	2	0	0	0	—
共通教育科目 GS科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史的アプローチ	1①・②・③・④		1		○							兼1
	グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1
	2群(自己を知り、自分を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○							兼1
	パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2
	エクササイズ&スポーツ実技	1①・②・③・④		1				○						兼2
	3群(考え・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○							兼1
	価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1
	スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1
	4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○							兼1
	日本史・日本文化	1②・③・④		1		○								兼3
	異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○								兼1
	異文化体験A	1②・④		1				○						兼1
	異文化体験B	1②・④		2				○						兼1
	異文化体験C	1②・④		3				○						兼1
	異文化体験D	1②・④		4				○						兼1
	異文化体験E	1②・④		5				○						兼1
	異文化体験F	1②・④		6				○						兼1
	異文化体験G	1②・④		7				○						兼1
	異文化体験H	1②・④		8				○						兼1
	グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1			○							兼1
	グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1			○							兼1
5群(未来に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○							兼1	
統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1			○							兼1	
環境学とESD	1①・②・③・④		1			○							兼1	
生活と社会保障	1①・②・③・④		1			○							兼1	
現代社会と人権	1①・②・③・④		1			○							兼1	
6群(新しい社会を生きる)	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○							兼1	
AI入門	1①・②・③・④		1			○							兼1	
情報の科学	1①・②・③・④		1			○							兼1	
デザイン思考入門	1①・②・③・④		1			○							兼2	
論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1			○							兼1	
小計(38科目)	—	—	0	66	0	—			0	0	0	0	0	兼34
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1
	English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
G S 言語科目 (日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○										兼1
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○										兼1
	講義の聴解A	1①・③		1		○										兼1
	講義の聴解B	1②・④		1		○										兼1
	口頭発表A	1①・③		1		○										兼1
	口頭発表B	1②・④		1		○										兼1
	上級読解I A	1①		1		○										兼1
	上級読解I B	1②		1		○										兼1
	上級読解II A	1③		1		○										兼1
	上級読解II B	1④		1		○										兼1
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○										兼1
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○										兼1
	日本事情A	1①・③		1		○										兼1
	日本事情B	1②・④		1		○										兼1
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○										兼1
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○										兼1
	小計(26科目)	—	—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1			○									兼1
	ドイツ語A1-2	1②・④		1			○									兼1
	ドイツ語A2-1	1①・③		1			○									兼1
	ドイツ語A2-2	1②・④		1			○									兼1
	ドイツ語A3-1	1①・③		1			○									兼1
	ドイツ語A3-2	1②・④		1			○									兼1
	ドイツ語A4-1	1①・③		1			○									兼1
	ドイツ語A4-2	1②・④		1			○									兼1
	ドイツ語B-1	2①		1			○									兼1
	ドイツ語B-2	2②		1			○									兼1
	ドイツ語C-1	2①・③		1			○									兼1
	ドイツ語C-2	2②・④		1			○									兼1
	フランス語A1-1	1①		1			○									兼1
	フランス語A1-2	1②		1			○									兼1
	フランス語A2-1	1①		1			○									兼1
	フランス語A2-2	1②		1			○									兼1
	フランス語A3-1	1③		1			○									兼1
	フランス語A3-2	1④		1			○									兼1
	フランス語A4-1	1③		1			○									兼1
	フランス語A4-2	1④		1			○									兼1
	フランス語B-1	2①・③		1			○									兼1
	フランス語B-2	2②・④		1			○									兼1
	フランス語C-1	2③		1			○									兼1
	フランス語C-2	2④		1			○									兼1
	ロシア語A1-1	1①		1			○									兼1
	ロシア語A1-2	1②		1			○									兼1
	ロシア語A2-1	1①		1			○									兼1
	ロシア語A2-2	1②		1			○									兼1
	ロシア語A3-1	1③		1			○									兼1
	ロシア語A3-2	1④		1			○									兼1
	ロシア語A4-1	1③		1			○									兼1
	ロシア語A4-2	1④		1			○									兼1
	ロシア語B-1	2①・③		1			○									兼1
	ロシア語B-2	2②・④		1			○									兼1
ロシア語C-1	2①・③		1			○									兼1	
ロシア語C-2	2②・④		1			○									兼1	
中国語A1-1	1①		1			○									兼1	
中国語A1-2	1②		1			○									兼1	
中国語A2-1	1①		1			○									兼1	
中国語A2-2	1②		1			○									兼1	
中国語A3-1	1③		1			○									兼1	
中国語A3-2	1④		1			○									兼1	
中国語A4-1	1③		1			○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	初習言語科目	中国語A 4-2	1④	1				○								兼1	
		中国語B-1	2①・③	1					○							兼1	
		中国語B-2	2②・④	1					○							兼1	
		中国語C-1	2③	1					○							兼1	
		中国語C-2	2④	1					○							兼1	
		朝鮮語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		朝鮮語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		朝鮮語A 2-1	1①	1					○							兼1	
		朝鮮語A 2-2	1②	1					○							兼1	
		朝鮮語A 3-1	1③	1					○							兼1	
		朝鮮語A 3-2	1④	1					○							兼1	
		朝鮮語A 4-1	1③	1					○							兼1	
		朝鮮語A 4-2	1④	1					○							兼1	
		朝鮮語B-1	2①・③	1					○							兼1	
		朝鮮語B-2	2②・④	1					○							兼1	
		朝鮮語C-1	2①・③	1					○							兼1	
		朝鮮語C-2	2②・④	1					○							兼1	
		ギリシア語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		ギリシア語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		ギリシア語A 2-1	1③	1					○							兼1	
		ギリシア語A 2-2	1④	1					○							兼1	
		ギリシア語A 3-1	2①	1					○							兼1	
		ギリシア語A 3-2	2②	1					○							兼1	
		ギリシア語A 4-1	2③	1					○							兼1	
		ギリシア語A 4-2	2④	1					○							兼1	
		ギリシア語B-1	3①	1					○							兼1	
		ギリシア語B-2	3②	1					○							兼1	
		ギリシア語C-1	3③	1					○							兼1	
		ギリシア語C-2	3④	1					○							兼1	
		ラテン語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		ラテン語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		ラテン語A 2-1	1③	1					○							兼1	
		ラテン語A 2-2	1④	1					○							兼1	
		ラテン語A 3-1	2①	1					○							兼1	
		ラテン語A 3-2	2②	1					○							兼1	
		ラテン語A 4-1	2③	1					○							兼1	
		ラテン語A 4-2	2④	1					○							兼1	
		ラテン語B-1	3①	1					○							兼1	
		ラテン語B-2	3②	1					○							兼1	
		ラテン語C-1	3③	1					○							兼1	
		ラテン語C-2	3④	1					○							兼1	
		スペイン語A 1-1	1①	1					○							兼1	
		スペイン語A 1-2	1②	1					○							兼1	
		スペイン語A 2-1	1①	1					○							兼1	
		スペイン語A 2-2	1②	1					○							兼1	
		スペイン語A 3-1	1③	1					○							兼1	
スペイン語A 3-2	1④	1					○							兼1			
スペイン語A 4-1	1③	1					○							兼1			
スペイン語A 4-2	1④	1					○							兼1			
スペイン語B-1	2①	1					○							兼1			
スペイン語B-2	2②	1					○							兼1			
スペイン語C-1	2③	1					○							兼1			
スペイン語C-2	2④	1					○							兼1			
	小計 (96科目)	—	0	96	0		—			0	0	0	0	0	兼11	—	
自由履修科目	アントレプレナーシップ I	1③		1			○								兼1		
	石川県の行政	1③~④		2			○								兼1		
	石川県の市町	1①~②		2			○								兼1		
	健康論実践D	1④		1					○						兼1		
	健康論実践E	1④		1					○						兼1		
	現代社会における保険の制度と役割 I	1③		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	自由履修科目	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④	1		○										兼1	集中
		実践アントレプレナー学	1③	1		○										兼1	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④	2		○										兼1	
		シェルスクリプト言語論	1③～④	2		○										兼1	
		地元学A（地域資源調査）	1①	1		○				1						兼1	
		地元学B（聞き書き）	1②	1		○										兼1	
		シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①	1				○								兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	1			○									兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	1			○									兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	1			○									兼1	
		イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	1			○									兼1	
		香りと日本文化	1③	1			○									兼1	
		心と体の健康A	1③	1			○									兼1	
		心と体の健康B	1④	1			○									兼1	
		地域「超」体験プログラム	1①・②・④	1					○							兼1	
		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1			○									兼1	
		金沢の歴史と文化	1③～④	2			○									兼1	
		日本の伝統芸能	1②	1			○									兼1	
		地域創造学特別講義C	1③	1			○					1				兼1	
		地域創造学特別講義D	1④	1			○									兼1	
		日本国憲法概説	1③	2			○									兼1	
		日本史要説	2①～②	2			○									兼1	
		東洋史要説	2③～④	2			○									兼1	
		異文化理解のためのビデオ会議ディスカッション	1③	1			○									兼1	
		行政学の基礎	1①	2			○									兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 春編	1①	1					○							兼1	
		ゼミ／角間の里山づくり 秋編	1③	1					○							兼1	
		コーヒーと社会	1③	1			○									兼1	
		コーヒーと科学	1④	1			○									兼1	
		地学実験	1②～③	2					○							兼1	
		生物学実験	1①～②	2					○							兼1	
		海洋生化学演習	1①	2					○							兼1	
		英国諸島の地史Ⅰ	1②	1			○									兼1	
		英国諸島の地史Ⅱ	1③	1			○									兼1	
		環境動態学概説Ⅰ	1③	1			○									兼1	
		環境動態学概説Ⅱ	1④	1			○									兼1	
		Pythonデータ分析入門	1②	1			○									兼1	
		プレゼンテーション演習A	1③	1			○									兼1	
		プレゼンテーション演習B	1④	1			○									兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	1③	1					○							兼1	
		コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1④	1					○							兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1			○									兼1	
		動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1			○									兼1	
		プログラミング演習Ⅰ	1③	1					○							兼1	
		プログラミング演習Ⅱ	1④	1					○							兼1	
		Society 5.0概論	1③～④	2			○									兼1	
		英語セミナー	1①・②・③・④	1			○									兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1					○							兼1	
		ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1					○							兼1	
		ドイツ語A（充実クラスⅠ-1）	1③	1					○							兼1	
		ドイツ語A（充実クラスⅠ-2）	1④	1					○							兼1	
		ドイツ語A（充実クラスⅡ-1）	1③	1					○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	自由履修科目	ドイツ語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-1)	1③	1				○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅠ-2)	1④	1				○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○								兼1	
		フランス語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○								兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-1)	1③	1				○								兼1	
		中国語A(充実クラスⅡ-2)	1④	1				○								兼1	
		小計(65科目)	—	0	78	0			—		2	0	0	0	0	兼30	—
共通教育科目計(228科目)		—	13	256	0			—	2	2	0	0	0	兼72	—		
専門教育科目	初學者科目	アカデミックスキル	1①・②・③	1				○		2	2						
		プレゼン・ディベート論	1②・③・④	1					○	2	2						
	学域俯瞰科目	大学・学問論	1③		1			○								兼1	
		ジェンダーと教育	1③・④		1			○								兼3 オムニバス	
		異文化理解1	1③		1			○								兼2 オムニバス	
		異文化理解2	1④		1			○								兼2 オムニバス	
		文学概論1	1③		1			○								兼2 オムニバス	
		文学概論2	1④		1			○								兼2 オムニバス	
		世界遺産学	1④		1			○								兼6 オムニバス	
		ルールリテラシー	1③		1			○								兼1	
		人文社会科学における法	1④		1			○								兼4 オムニバス	
		イメージの比較文化学	1③		1			○								兼1	
		防災学入門	1①		2			○			1					兼1 オムニバス	
		現代日本の文化と社会	2①		1			○								兼1	
	教育の制度と経営	3①		2			○								兼1		
	生徒の生活と進路の指導論	3③		2			○								兼1		
	学域GS科目	データサイエンス応用系科目	データサイエンスの技術	1③		1		○								兼1	
			国際経済の理論とデータ	2①		1		○								兼1	
			国際貿易の理論とデータ	2①		1		○								兼1	
			データの活用に向けた線形代数学入門	2①		2		○								兼1	
			情報処理	2④		1		○									兼1
			計量政治分析実習	3③		2				○							兼1
			ビジネス・データ分析 (ビジネス・データ・サイエンス)	1①		1		○									兼1
			統計データ分析の基本(多変量解析)	1②		1		○									兼1
			データで考える日本の未来(データサイエンス)	1③		1		○									兼1
			統計ソフトRによるビッグデータ分析	1③		1		○									兼1
	金融リテラシー	1④		1		○									兼1		
	白書の講読と議論	1④		1		○									兼1		
	地域課題解決と政策立案のための統計データ分析:EBPM(根拠に基づく政策立案)	1④		1		○									兼1		
統計学技能I	1・2・3・4 ①・②・③・④		2			○			1								
統計学技能II	1・2・3・4 ①・②・③・④		3			○			1								
小計(31科目)		—	2	37	0			—	3	3	0	0	0	兼27			
語学領域	学域GS言語科目Ⅰ	2・3・4①・③	1				○			1	3						
	学域GS言語科目Ⅱ	2・3・4③・④	1				○			1	2	1					
小計(2科目)		—	2	0	0			—	2	5	1	0	0				
専門基礎科目	地域創造学Ⅰ	1①		1			○			3	3	1			オムニバス		
	地域創造学Ⅱ	1②		1			○			3	2	1			オムニバス		
	地域創造学Ⅲ	1③		1			○			3	3	1			オムニバス		
	地域創造学Ⅳ	1④		1			○			4	1	2			オムニバス		
	学類英語演習	2①		1				○		1							
	地域創造体験実習A	1①			1				○	1							
	地域創造体験実習B	1③			1				○	1							
	地域創造体験実習C	1④			1				○	1							
	地域創造学特別講義A	1①			1			○		1							
	地域創造学特別講義B	1②			1			○		1							
	地域創造学特別講義C	1③			1			○		1							
地域創造学特別講義D	1④			1			○		1								
地域創造インターンシップ	1①・②・③・④			1				○	1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	地域創造インターンシップ	1①・2②・3③・4④		2				○	1							
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		1				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		2				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		3				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		4				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		5				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		6				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		7				○	1							集中
	異文化体験(海外) I	1①・2②・3③・4④		8				○	1							集中
	小計(22科目)	—	5	46	0		—		10	9	2	0	0			
専門教育科目	福祉マネジメントコース	社会保障論	2①～②		2			○				1				
		地域福祉論	2①～②		2			○		5	1	1				オムニバス
		高齢者福祉論	2①～②		2			○				1				
		介護保険制度論	2③～④		2			○		1						
		障害者福祉論	2①		2			○								兼1
		現代社会と貧困	2④		2			○		1	1	1				オムニバス
		保健医療論	2③～④		2			○		1						
		社会福祉行政論	2③		1			○				1				
		福祉計画論	2④		1			○				1				
		雇用政策論	2②		1			○			1					
		権利擁護と成年後見制度	2①～②		2			○		1						
		家族支援論	2④		2			○								兼1
		人権論 I	2①		1			○		1						
		人権論 II	2②		1			○		1						
		現代社会学 A I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 A II	2②		1			○		1						隔年
		現代社会学 B I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 B II	2②		1			○		1						隔年
		現代社会学 C I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 C II	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 D I	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 D II	2①		1			○		1						隔年
		現代社会学 E I	2③		1			○		1						隔年
		現代社会学 E II	2④		1			○		1						隔年
		社会システム論	2①		1			○		1						
		現代社会論	2②		1			○		1						
		コミュニティ論	2④		1			○		1						
		社会政策論	2③～④		2			○				1				
		基礎社会統計学 I	2①		1			○								兼1
		基礎社会統計学 II	2②		1			○								兼1
		発展社会統計学 I	2③		1			○								兼1
		発展社会統計学 II	2④		1			○								兼1
		労使関係法	3①		2			○								兼1
		対人コミュニケーション演習 I	2①		1				○		1					
		対人コミュニケーション演習 II	2②		1				○		1					
		社会政策論基礎演習	2④		1				○			1				
		医療・福祉社会学基礎演習	2①		1				○		1					
		公共社会学基礎演習	2①		1				○		1					
		国際障害学基礎演習	2②		1				○		1					
		地域社会学基礎演習	2②		1				○		1					
		社会保障論基礎演習	2②		1				○			1				
		社会福祉学基礎演習	2②		1				○		1					
		福祉マネジメント演習	3①～④		4				○		4	1	1			
	小計(43科目)	—	4	53	0		—		5	1	1	0	0	兼4		
環境共生コース	環境共生基礎実習 A	2①	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 B	2②	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 C	2③	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎実習 D	2②	1					○	2	5					共同	
	環境共生基礎論	2①	2				○		2	5					共同	
	環境共生応用演習	3①～④	4					○	2	4					兼2	
	環境共生応用実習	3①～④	4					○	2	4					兼1	
	環境と経済基礎演習 I	2③		1				○	1						共同	
環境と経済基礎演習 II	2④		1				○	1						共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	専門科目 環境共生コース	食環境文献講読Ⅰ	2③	1		○			1								
		食環境文献講読Ⅱ	2④	1		○			1								
		自然環境文献講読Ⅰ	2③	1		○				1							
		自然環境文献講読Ⅱ	2④	1		○				1							
		資源活用・流通文献講読Ⅰ	2①	1		○				1							
		資源活用・流通文献講読Ⅱ	2②	1		○				1							
		生態系サービス英語文献講読Ⅰ	2③	1		○				1							
		生態系サービス英語文献講読Ⅱ	2④	1		○				1							
		環境政策論基礎演習Ⅰ	2①	1				○			1						
		環境政策論基礎演習Ⅱ	2②	1				○			1						
		コミュニケーション理論	2②	2			○				1						
		地誌学演習Ⅰ	2③	1					○							兼1	
		地誌学演習Ⅱ	2④	1					○							兼1	
		環境経済論Ⅰ	2・3①	1			○				1						隔年
		環境経済論Ⅱ	2・3②	1			○				1						隔年
		農業経済論Ⅰ	2・3①	1			○				1						隔年
		農業経済論Ⅱ	2・3②	1			○				1						隔年
		環境経済政策論Ⅰ	2・3③	1			○				1						隔年
		環境経済政策論Ⅱ	2・3④	1			○				1						隔年
		農業政策論Ⅰ	2・3③	1			○				1						隔年
		農業政策論Ⅱ	2・3④	1			○				1						隔年
		栄養生理学	3①	2			○				1						
		食環境学	2③	2			○				1						
		自然環境基礎論	2②	2			○					1					
		自然環境と社会	2④	2			○					1					
		自然環境論A	2③	1			○					1					
		自然環境論B	2③	1			○					1					
		自然地理学A	2①	1			○					1					
		自然地理学B	2②	1			○					1					
		自然地理学C	2③	1			○					1					
		自然地理学D	2④	1			○					1					
		防災・減災と地理学	2③	2			○					1					
		流通・消費論	2②	2			○					1					
		地域資源活用論	2③	2			○					1					
		農村計画論Ⅰ	2①	1			○					1					
		農村計画論Ⅱ	2②	1			○					1					
		生態系サービス基礎論	2②	2			○					1					
		環境形成戦略論	2③	2			○					1					
		環境思想Ⅰ	2③	1			○					1					
		環境思想Ⅱ	2④	1			○					1					
		環境政策論Ⅰ	2②	1			○									兼1	
		環境政策論Ⅱ	2②	1			○									兼1	
		環境教育	2①	2			○					1					
		環境コミュニケーション	2③	2			○					1					
		社会環境論Ⅰ	2①	1			○									兼1	
		社会環境論Ⅱ	2②	1			○									兼1	
		地域マネジメント論 (ローカル・コモンズ創生論)	2④	2			○									兼1	
		ソーシャル・ビジネス論	2②	2			○					1					
		ソーシャル・ビジネス論演習	2④	2					○			1					
		地域体験実習A	2④	1						○		1					
		地域体験実習B	2④	1						○		1					
		地域体験実習C	2④	1						○		1					
		地域体験実習D	2④	1						○		1					
		小計(62科目)		—	14	70	0			—	2	6	0	0	0	兼5	
		地域プランニングコース	地域学原論	2①	2			○			1						
			地域計画論Ⅰ	2②	1			○				1					
			地域計画論Ⅱ	2②	1			○				1					
			地域居住論	2③	1			○									兼1
			景観論	2④	1			○									兼1
			地域スポーツ論Ⅰ	2①	1			○				1					
			地域スポーツ論Ⅱ	2①	1			○				1					
			地域政策論AⅠ	2①	1			○						1			
地域政策論AⅡ	2②		1			○						1					
比較地域経済論	2③		2			○									兼1		
地域経済学	2④	2			○									兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門教育科目	地域プランニングコース	地方財政論	2①	2		○										兼1			
		地方財政分析論	3②	2		○										兼1			
		人口地理学Ⅰ	2③	1		○				1									
		人口地理学Ⅱ	2④	1		○				1									
		都市地理学A	2・3③	2		○				1						隔年			
		都市地理学B	2・3③	2		○				1						隔年			
		農村地理学	2・3④	2		○										隔年			
		地域地理学	2③	2		○											兼1		
		スポーツ社会学A	2③	1		○					1								
		スポーツ社会学B	2④	1		○					1								
		スポーツ経営学Ⅰ	2②	1		○					1								
		スポーツ経営学Ⅱ	2③	1		○					1								
		地域政策論BⅠ	2③	1		○						1							
		地域政策論BⅡ	2④	1		○						1							
		リスクコミュニケーション	2②	2		○						1							
		地域社会のリスクガバナンス	2①	2		○						1							
		都市計画A	3①	1		○											兼2		
		都市計画B	3②	1		○											兼2		
		景観デザイン学A	3①	1		○											兼2		
		景観デザイン学B	3②	1		○											兼2		
		交通計画	3①	1		○											兼2		
		道路政策論	3②	1		○											兼2		
		ミクロ経済学基礎	3③	1		○											兼1		
		都市経済学	3④	1		○											兼1		
		地域分析実習Ⅰ	2①	1						○							兼2		
		地域分析実習Ⅱ	2②	1						○							兼2		
		まちづくりインターンシップ	2①～④	4	4					○		2		1			共同		
		地域計画論演習	2③	1						○			1						
		地域居住論演習	2④	1						○			1						
		スポーツ政策論演習	2③	1						○		1							
		スポーツ産業論演習	2④	1						○		1							
		地域政策論演習	2②	1						○			1						
		リスクコミュニケーション演習	2④	1						○			1						
		海外地域プランニング演習	2④	1						○		1							
		地域プランニング演習	3①～④	4	4					○		2		1			兼3		
		小計(46科目)	—	—	18	45	0			—		3	3	1	0	0	兼11		
		専門教育科目	観光学・文化継承コース	観光論Ⅰ	2①	1		○					1						
				観光論Ⅱ	2②	1		○					1						
				観光調査・研究法概説Ⅰ	2①	1		○					3						オムニバス
				観光調査・研究法概説Ⅱ	2②	1		○					3						オムニバス
				北陸観光産業論	2③	1		○					2						共同
				観光政策論Ⅰ	2③	1		○					1						
				観光政策論Ⅱ	2④	1		○					1						
				地域経営論Ⅰ	2①	1		○					1						
				地域経営論Ⅱ	2②	1		○					1						
				地域文化論Ⅰ	2③	1		○					1						
地域文化論Ⅱ	2④			1		○					1								
観光地域論Ⅰ	2③			1		○					1								
観光地域論Ⅱ	2④			1		○					1								
コミュニティ・デザイン論Ⅰ	2①			1		○					1								
コミュニティ・デザイン論Ⅱ	2②			1		○					1								
都市計画A	3①			1		○											兼2		
都市計画B	3②			1		○											兼2		
景観デザイン学A	3①			1		○											兼2		
景観デザイン学B	3②			1		○											兼2		
交通計画	3①			1		○											兼2		
道路政策論	3②			1		○											兼2		
ミクロ経済学基礎	3③			1		○											兼1		
都市経済学	3④			1		○											兼1		
地域資源活用論	2③	2		○						1									
環境コミュニケーション	2③	2		○						1									
自然環境基礎論	2②	2		○						1									
国際経済学1E	2③	1		○											兼1				
国際経済学2E	2④	1		○											兼1				
国際貿易論1E	2③	1		○											兼1				
国際貿易論2E	2④	1		○											兼1				
国際開発論1E	2①	1		○											兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	観光学・文化継承コース	国際開発論 2 E	2②		1		○								兼1
		地域経営論演習 I	2③	1				○			1				
		地域経営論演習 II	2④	1				○			1				
		地域文化論演習 I	2③	1				○			1				
		地域文化論演習 II	2④	1				○			1				
		コミュニティ・デザイン演習 I	2③	1				○			1				
		コミュニティ・デザイン演習 II	2④	1				○			1				
		観光学・文化継承論演習	3①～④	4				○			3				
		観光学インターンシップ	2①～④	4							3				
		文化人類学実習	3①～④		4					○	1				
		コミュニティ・デザイン実習	3①～④		4					○	1				
	地域経営論実習	3①～④		4					○	1					
	小計 (43科目)	—	20	41	0		—		0	6	0	0	0	兼8	
	全コース	卒業演習	4①～④	4				○		8	7	3			
卒業研究		4①～④	6				○		8	7	3				
小計 (2科目)		—	10	0	0		8		8	7	3	0	0		
合計 (479科目)		—	88	548	0		—		8	7	3	0	0	兼114	
学位又は称号		学士 (地域創造学)			学位又は学科の分野			社会学・社会学関係, 経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>卒業要件:</p> <p>共通教育科目36単位以上 (共通教育科目には、導入科目:3単位, G S 科目:1群から5群の各群から2単位を含む12単位及び6群の科目群から3単位, G S 言語科目:8単位, 初修言語科目:1言語8単位を含む。), 専門教育科目88単位以上 (専門教育科目には、学域G S 科目:8単位, 学域G S 言語科目:2単位, 専門基礎科目:5単位, 専門科目:68単位を含む。), 合計124単位以上を修得しなければならない。</p> <p>専門教育科目のうち、学域G S 科目は、初学者科目2単位, データサイエンス応用系科目から2単位を含み、学域俯瞰科目及びデータサイエンス応用系科目から6単位以上, 合計8単位以上を含まなければならない。</p> <p>加えて、専門科目68単位のうち、学類コア科目として、人権論I, 人権論II, 環境思想I, 環境思想II, 地域学原論から4単位, 自然環境基礎論, 地域文化論I, 地域文化論II, 社会保障論から4単位, 環境経済論I, 環境経済論II, 農業経済論I, 農業経済論II, 地域福祉論, 地域計画論I, 地域計画論IIから4単位, 農村計画論I, 農村計画論II, 保健医療論, 地域経営論I, 地域経営論II, コミュニティ・デザイン論I, コミュニティ・デザイン論II, 地域居住論, 地域スポーツ論I, 地域スポーツ論II, 地域政策論A I, 地域政策論A IIから4単位, 合計16単位以上を含まなければならない。</p> <p>さらに福祉マネジメントコースにおいては、上記の福祉マネジメントコースの必修科目すべてと社会保障論, 地域福祉論, 高齢者福祉論, 介護保険制度論, 障害者福祉論, 現代社会と貧困, 保健医療論, 社会福祉行政論, 福祉計画論, 雇用政策論, 権利擁護と成年後見制度, 家族支援論, 人権論I, 人権論II, 現代社会学A I, 現代社会学A II, 現代社会学B I, 現代社会学B II, 現代社会学C I, 現代社会学C II, 現代社会学D I, 現代社会学D II, 現代社会学E I, 現代社会学E II, 社会システム論, 現代社会学論, コミュニティ論, 社会政策論から17単位以上, 社会政策論基礎演習, 医療・福祉社会学基礎演習, 公共社会学基礎演習, 国際障害学基礎演習, 地域社会学基礎演習, 社会保障論基礎演習, 社会学基礎演習から3単位以上を修得しなければならない。</p> <p>環境共生コースにおいては、上記の環境共生コースの必修科目すべてと環境と経済基礎演習I, 環境と経済基礎演習II, 食環境文献講読I, 食環境文献講読II, 自然環境文献講読I, 自然環境文献講読II, 資源活用・流通文献講読I, 資源活用・流通文献講読II, 生態系サービス英語文献講読I, 生態系サービス英語文献講読II, 環境政策論基礎演習I, 環境政策論基礎演習II, コミュニケーション理論, 地誌学演習I, 地誌学演習II, 環境経済論I, 環境経済論II, 農業経済論I, 農業経済論II, 環境経済政策論I, 環境経済政策論II, 農業政策論I, 農業政策論II, 栄養生理学, 食環境学, 自然環境基礎論, 自然環境と社会, 自然環境論A, 自然環境論B, 自然地理学A, 自然地理学B, 自然地理学C, 自然地理学D, 防災・減災と地理学, 流通・消費論, 地域資源活用論, 農村計画論I, 農村計画論II, 生態系サービス基礎論, 環境形成戦略論, 環境思想I, 環境思想II, 環境政策論I, 環境政策論II, 環境教育, 環境コミュニケーション, 社会環境論I, 社会環境論II, 地域マネジメント論(ローカル・コモンズ創生論), ソーシャル・ビジネス論, ソーシャル・ビジネス論演習, 地域体験実習A, 地域体験実習B, 地域体験実習C, 地域体験実習Dから14単位以上を修得しなければならない。</p> <p>地域プランニングコースにおいては、上記の地域プランニングコースの必修科目すべてと比較地域経済論, 地域経済学, 地方財政論, 地方財政分析論, 人口地理学I, 人口地理学II, 都市地理学A, 都市地理学B, 農村地理学, 地域地理学, スポーツ社会学A, スポーツ社会学B, スポーツ経営学I, スポーツ経営学II, 地域政策論B I, 地域政策論B II, リスクコミュニケーション, 地域社会のリスクガバナンス, 都市計画A, 都市計画B, 景観デザイン学A, 景観デザイン学B, 交通計画, 道路政策論, ミクロ経済学基礎, 都市経済学, 地域分析実習I, 地域分析実習IIから8単位以上, 地域計画論演習, 地域居住論演習, スポーツ政策論演習, スポーツ産業論演習, 地域政策論演習, リスクコミュニケーション演習から2単位以上を修得しなければならない。</p> <p>観光学・文化継承コースにおいては、上記の観光学・文化継承コースの必修科目すべてと文化人類学実習, コミュニティ・デザイン実習, 地域経営論実習から4単位以上を修得しなければならない。</p>							1 学年の学期区分		4 期						
							1 学期の授業期間		8 週						
							1 時限の授業時間		90 分						
履修科目の登録の上限:12単位 (クォーター)															

教育課程等の概要																
〔【既設】理工学域フロンティア工学類〕																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
導入科目	大学・社会生活論	1①	1			○			1	1				兼8	オムニバス 共同	
	データサイエンス基礎	1①	1			○				1				兼2		
	地域概論	1②	1			○				1				兼1	共同	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—			1	3	0	0	0	兼11	—	
共通教育科目	1群(自己の立ち位置を知る)	現代世界への歴史学的アプローチ	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		地球生物圏と人間	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	2群(自己を鍛える)	哲学(自我論)	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル時代の文学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		健康科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		細胞・分子生物学	1①・②・③・④		1		○								兼2	共同
		エクササイズ&スポーツ実技	1①・②・③・④		1				○						兼1	
	3群(価値観を表現・する)	クリティカル・シンキング	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		芸術と自己表現	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		スポーツ科学	1①・②・③・④		1		○								兼1	
	4群(世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④		1		○								兼1	
		日本史・日本文化	1②・③・④		1		○								兼3	共同
		異文化間コミュニケーション	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		異文化体験A	1②・④		1				○						兼1	集中
		異文化体験B	1②・④		2				○						兼1	集中
		異文化体験C	1②・④		3				○						兼1	集中
		異文化体験D	1②・④		4				○						兼1	集中
		異文化体験E	1②・④		5				○						兼1	集中
		異文化体験F	1②・④		6				○						兼1	集中
		異文化体験G	1②・④		7				○						兼1	集中
		異文化体験H	1②・④		8				○						兼1	集中
		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④		1		○								兼1	
		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④		1		○								兼1	
5群(未来の課題に取り組む)	科学技術と科学方法論	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	統計学から未来を見る	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	環境学とESD	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	生活と社会保障	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	現代社会と人権	1①・②・③・④		1		○								兼1		
6群(新しい社会を生きる)	インテグレートド科学	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	AI入門	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	情報の科学	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	デザイン思考入門	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	論理学と数学の基礎	1①・②・③・④		1		○								兼1		
	小計(38科目)	—	0	66	0	—			0	0	0	0	0	兼34	—	
GS言語科目(英語)	TOEIC準備 I	1①	1			○								兼1		
	TOEIC準備 II	1②	1			○								兼1		
	TOEIC準備 III	1③	1			○								兼1		
	TOEIC準備 IV	1④	1			○								兼1		
	TOEIC準備(演習)	2①・②・③・④		1		○								兼1		
	English for Academic Purposes I	1①	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes II	1②	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes III	1③	1			○								兼1		
	English for Academic Purposes IV	1④	1			○								兼1		
English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・③・④		1		○								兼1			
GS言語科目(日本語)	アカデミック基礎日本語A	1①	1			○								兼1		
	アカデミック基礎日本語B	1②	1			○								兼1		
	講義の聴解A	1①・③		1		○								兼1		
	講義の聴解B	1②・④		1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
GS言語科目 (日本語)	口頭発表A	1①・③		1		○									兼1		
	口頭発表B	1②・④		1		○									兼1		
	上級読解ⅠA	1①		1		○									兼1		
	上級読解ⅠB	1②		1		○									兼1		
	上級読解ⅡA	1③		1		○									兼1		
	上級読解ⅡB	1④		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理A	1①・③		1		○									兼1		
	日本語で学ぶ論理B	1②・④		1		○									兼1		
	日本事情A	1①・③		1		○									兼1		
	日本事情B	1②・④		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングA	1①・③		1		○									兼1		
	アカデミック・ライティングB	1②・④		1		○									兼1		
	小計(26科目)	—	—	10	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
	基礎科目	微分積分学ⅠA	1①		1		○									兼1	
		微分積分学ⅠB	1②		1		○									兼1	
		微分積分学ⅡA	1③		1		○									兼1	
微分積分学ⅡB		1④		1		○									兼1		
線形代数学ⅠA		1①		1		○									兼1		
線形代数学ⅠB		1②		1		○									兼1		
線形代数学ⅡA		1③		1		○									兼1		
線形代数学ⅡB		1④		1		○									兼1		
物理学ⅠA		1①		1		○									兼1		
物理学ⅠB		1②		1		○									兼1		
物理学ⅡA		1③		1		○									兼1		
物理学ⅡB		1④		1		○									兼1		
化学ⅠA		1①		1		○									兼2	オムニバス	
化学ⅠB		1②		1		○				1					兼1	オムニバス	
化学ⅡA		1③		1		○									兼1	オムニバス	
化学ⅡB		1④		1		○				1					兼1	オムニバス	
小計(16科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼7	—		
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A1-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A1-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A2-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A2-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A3-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A3-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語A4-1	1①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語A4-2	1②・④		1				○							兼1		
	ドイツ語B-1	2①		1				○							兼1		
	ドイツ語B-2	2②		1				○							兼1		
	ドイツ語C-1	2①・③		1				○							兼1		
	ドイツ語C-2	2②・④		1				○							兼1		
	フランス語A1-1	1①		1				○							兼1		
	フランス語A1-2	1②		1				○							兼1		
	フランス語A2-1	1①		1				○							兼1		
	フランス語A2-2	1②		1				○							兼1		
	フランス語A3-1	1③		1				○							兼1		
	フランス語A3-2	1④		1				○							兼1		
	フランス語A4-1	1③		1				○							兼1		
	フランス語A4-2	1④		1				○							兼1		
	フランス語B-1	2①・③		1				○							兼1		
	フランス語B-2	2②・④		1				○							兼1		
	フランス語C-1	2③		1				○							兼1		
	フランス語C-2	2④		1				○							兼1		
	ロシア語A1-1	1①		1				○							兼1		
	ロシア語A1-2	1②		1				○							兼1		
	ロシア語A2-1	1①		1				○							兼1		
	ロシア語A2-2	1②		1				○							兼1		
ロシア語A3-1	1③		1				○							兼1			
ロシア語A3-2	1④		1				○							兼1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A4-1	1③		1				○							兼1
	ロシア語A4-2	1④		1				○							兼1
	ロシア語B-1	2①・③		1				○							兼1
	ロシア語B-2	2②・④		1				○							兼1
	ロシア語C-1	2①・③		1				○							兼1
	ロシア語C-2	2②・④		1				○							兼1
	中国語A1-1	1①		1				○							兼1
	中国語A1-2	1②		1				○							兼1
	中国語A2-1	1①		1				○							兼1
	中国語A2-2	1②		1				○							兼1
	中国語A3-1	1③		1				○							兼1
	中国語A3-2	1④		1				○							兼1
	中国語A4-1	1③		1				○							兼1
	中国語A4-2	1④		1				○							兼1
	中国語B-1	2①・③		1				○							兼1
	中国語B-2	2②・④		1				○							兼1
	中国語C-1	2③		1				○							兼1
	中国語C-2	2④		1				○							兼1
	朝鮮語A1-1	1①		1				○							兼1
	朝鮮語A1-2	1②		1				○							兼1
	朝鮮語A2-1	1①		1				○							兼1
	朝鮮語A2-2	1②		1				○							兼1
	朝鮮語A3-1	1③		1				○							兼1
	朝鮮語A3-2	1④		1				○							兼1
	朝鮮語A4-1	1③		1				○							兼1
	朝鮮語A4-2	1④		1				○							兼1
	朝鮮語B-1	2①・③		1				○							兼1
	朝鮮語B-2	2②・④		1				○							兼1
	朝鮮語C-1	2①・③		1				○							兼1
	朝鮮語C-2	2②・④		1				○							兼1
	ギリシア語A1-1	1①		1				○							兼1
	ギリシア語A1-2	1②		1				○							兼1
	ギリシア語A2-1	1③		1				○							兼1
	ギリシア語A2-2	1④		1				○							兼1
	ギリシア語A3-1	2①		1				○							兼1
	ギリシア語A3-2	2②		1				○							兼1
	ギリシア語A4-1	2③		1				○							兼1
	ギリシア語A4-2	2④		1				○							兼1
	ギリシア語B-1	3①		1				○							兼1
	ギリシア語B-2	3②		1				○							兼1
	ギリシア語C-1	3③		1				○							兼1
	ギリシア語C-2	3④		1				○							兼1
	ラテン語A1-1	1①		1				○							兼1
	ラテン語A1-2	1②		1				○							兼1
	ラテン語A2-1	1③		1				○							兼1
	ラテン語A2-2	1④		1				○							兼1
	ラテン語A3-1	2①		1				○							兼1
	ラテン語A3-2	2②		1				○							兼1
	ラテン語A4-1	2③		1				○							兼1
	ラテン語A4-2	2④		1				○							兼1
	ラテン語B-1	3①		1				○							兼1
	ラテン語B-2	3②		1				○							兼1
	ラテン語C-1	3③		1				○							兼1
	ラテン語C-2	3④		1				○							兼1
	スペイン語A1-1	1①		1				○							兼1
	スペイン語A1-2	1②		1				○							兼1
スペイン語A2-1	1①		1				○							兼1	
スペイン語A2-2	1②		1				○							兼1	
スペイン語A3-1	1③		1				○							兼1	
スペイン語A3-2	1④		1				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習言語科目	スペイン語A 4-1	1③		1				○							兼1	
	スペイン語A 4-2	1④		1				○							兼1	
	スペイン語B-1	2①		1				○							兼1	
	スペイン語B-2	2②		1				○							兼1	
	スペイン語C-1	2③		1				○							兼1	
	スペイン語C-2	2④		1				○							兼1	
	日本語A 1-1	1①		1				○							兼1	
	日本語A 1-2	1②		1				○							兼1	
	日本語A 2-1	1①		1				○							兼1	
	日本語A 2-2	1②		1				○							兼1	
	日本語A 3-1	1③		1				○							兼1	
	日本語A 3-2	1④		1				○							兼1	
	日本語A 4-1	1③		1				○							兼1	
	日本語A 4-2	1④		1				○							兼1	
小計 (104科目)	—	—	0	104	0		—		0	0	0	0	0	0	兼12	—
共通教育科目 自由履修科目	石川県の行政	1③～④		2				○							兼1	
	石川県の市町	1①～②		2				○							兼1	
	健康論実践D	1④		1						○					兼1	
	健康論実践E	1④		1						○					兼1	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③		1			○								兼1	
	現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④		1			○								兼1	
	クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③～④		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論1	1①～②		2			○								兼1	
	シェルスクリプト言語論2	1③～④		2			○								兼1	
	地元学A (地域資源調査)	1①		1			○								兼1	
	地元学B (聞き書き)	1②		1			○								兼1	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	1①		1				○							兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③		1			○								兼1	
	イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④		1			○								兼1	
	香りと日本文化	1③		1			○								兼1	
	心と体の健康A	1③		1			○								兼1	
	心と体の健康B	1④		1			○								兼1	
	未来デザインプラクティス	1①・②・④		1					○						兼1	集中
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④		1			○								兼1	
	金沢の歴史と文化	1③～④		2			○								兼1	
	日本の伝統芸能	1②		1			○								兼1	
	地域創造学特別講義C	1③		1			○								兼1	
	地域創造学特別講義D	1④		1			○								兼1	
	日本国憲法概説	1③		2			○								兼1	
	日本史要説	2①～②		2			○								兼1	
	東洋史要説	2③～④		2			○								兼1	
	ソーシャルビジネス概論	1		1											兼1	
	行政学の基礎	1①		2			○								兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①		1					○						兼1	
	ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③		1					○						兼1	
	コーヒーと社会	1③		1			○								兼1	
	コーヒーと科学	1④		1			○								兼1	
	能登・地域活性化演習Ⅰ	1②		1			○								兼1	
	能登・地域活性化演習Ⅱ	1②		1			○								兼1	
地学実験	1②～③		2					○						兼1		
生物学実験	1①～②		2					○						兼1		
海洋生化学演習	1①		2					○						兼1	集中	
地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①		1			○								兼1		
地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②		1			○								兼1		
ローカルキャリアデザインⅠ	1②		1			○								兼1		
ローカルキャリアデザインⅡ	1③		1			○								兼1		
環境動態学概説Ⅰ	1③		1			○								兼1		
環境動態学概説Ⅱ	1④		1			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	自由履修科目	Pythonデータ分析入門	1②		1		○									兼1		
		プレゼンテーション演習A	1③		1		○									兼1		
		プレゼンテーション演習B	1④		1		○									兼1		
		コンピュータグラフィクス演習 I	1③		1				○							兼1		
		コンピュータグラフィクス演習 II	1④		1				○							兼1		
		動画配信サービスを用いた情報発信演習 A	1①		1			○								兼1		
		動画配信サービスを用いた情報発信演習 B	1②		1			○								兼1		
		Society 5.0 概論A	1①		1			○								兼1		
		Society 5.0 概論B	1②		1			○								兼1		
		英語セミナー	1①・②・③・④		1			○								兼1		
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③		1				○							兼1		
		ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④		1				○	○						兼1		
		ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③		1				○	○						兼1		
		ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1④		1				○	○						兼1		
		ドイツ語A (充実クラスⅡ-1)	1③		1				○	○						兼1		
		ドイツ語A (充実クラスⅡ-2)	1④		1				○	○						兼1		
		フランス語A (充実クラスⅠ-1)	1③		1				○	○						兼1		
		フランス語A (充実クラスⅠ-2)	1④		1				○	○						兼1		
		フランス語A (充実クラスⅡ-1)	1③		1				○	○						兼1		
		フランス語A (充実クラスⅡ-2)	1④		1				○	○						兼1		
		中国語A (充実クラスⅡ-1)	1③		1				○	○						兼1		
		中国語A (充実クラスⅡ-2)	1④		1				○	○						兼1		
		小計 (67科目)		—	0	80	0		—			0	0	0	0	0	兼34	—
		共通教育科目計 (254科目)		—	13	282	0		—			2	3	0	0	0	兼93	—
		専門科目	学域俯瞰科目	アントレプレナーシップ論	1①~④	1			○						1			
数学物理学基礎演習A	1③				1			○							兼3	共同		
数学物理学基礎演習B	1④				1				○						兼3	共同		
物質化学概論A	2①				1			○							兼3	共同		
物質化学概論B	2②				1			○							兼4	共同		
先端テクノロジー概論A	1③				1			○				1		1	兼4	オムニバス		
先端テクノロジー概論B	1④				1			○				1		1	兼5	共同		
数学物理基礎リテラシー	2①~②				1			○							兼3	オムニバス		
インフラストラクチャー概論	2①				1				○						兼1			
地球の科学	2②				1				○						兼1			
生物科学概論A	1①				1			○							兼8	オムニバス		
生物科学概論B	1②				1			○							兼8	オムニバス		
学域GS科目	データサイエンス応用系科目			情報・計算科学基礎	1③		2			○							兼4	共同
			データサイエンス演習	2②		1			○							兼3	オムニバス	
			ケモインフォマティクス演習	1③		1				○						兼3	オムニバス	
			確率・統計解析A	3③		1			○							兼1		
			確率・統計解析B	3④		1			○							兼1		
			信頼性工学A	2③		1			○					1				
			信頼性工学B	2④		1			○					1				
			プログラミング演習	2①~②		1				○				1				
			確率・統計及び演習	2③~④		1				○							兼1	
			確率・統計学基礎	2③		1				○							兼1	
			データサイエンス実践	2④		1				○							兼1	
			地球惑星データ解析A	2③		1				○							兼1	
地球惑星データ解析B	2④			1				○							兼1			
者初科学	アカデミックスキル	アカデミックスキル	1①		1			○					1		兼3	共同		
		プレゼン・ディベート論	1②		1			○					1		兼3	共同		
小計 (31科目)		—	3	29	0		—			0	0	1	3	0	兼48			
学域GS科目	言語科目	学域GS言語科目Ⅰ (理工系英語Ⅰ)	2①		1			○							兼1			
		学域GS言語科目Ⅱ (理工系英語Ⅱ)	2②		1			○							兼1			
小計 (2科目)		—	2	0	0		—			0	0	0	0	0	兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	学域共通科目	計算科学	1④	2		○									兼3 共同	
		工業力学	2①～②	2		○									兼1 共同	
		計算機リテラシーA	2①	1		○									兼2 共同	
		計算機リテラシーB	2②	1		○									兼2 共同	
		生命理工学概論A	1③	1		○									兼7 オムニバス	
		生命理工学概論B	1④	1		○									兼7 オムニバス	
		国際研修A	1・2・3・4①②③④	1					○	1						集中
		国際研修B	1・2・3・4①②③④	2					○	1						集中
	小計(8科目)	—	0	11	0				1	0	0	0	0		兼20	
	専門基礎科目Ⅰ	微分方程式及び演習	1③～④		2		○								兼4	
		フーリエ解析及び演習	2①～②		2		○								兼1	
		ベクトル解析及び演習	2①～②		2				○						兼1	
		複素解析及び演習	2③～④		2				○						兼4	
	小計(4科目)	—	0	8	0				0	0	0	0	0		兼5	
	専門基礎科目Ⅱ	電気回路A	2①		1		○						1		共同	
		電気回路B	2②		1		○						1			
		材料力学Ⅰ及び演習	2①～②		2		○			2	1					
		プロセス工学A	2①		1		○			1						
		プロセス工学B	2②		1		○			1						
	小計(5科目)	—	0	6	0				3	1	0	2	0			
コアプログラム(電子機械)	科実目ア実践	機械工学設計製図基礎(ME)	2③	2			○								兼1	
		小計(1科目)	—	2	0	0				0	0	0	0	0	兼1	
	コア科目Ⅰ	材料力学ⅡA(ME)	2③		1			○							兼1	
		材料力学ⅡB(ME)	2④		1			○							兼1	
		振動工学Ⅰ及び演習(ME)	2③～④		2				○	1					兼1	
		流れ学Ⅰ及び演習(ME)	2③～④		2				○						兼1	
		熱力学Ⅰ及び演習(ME)	2③～④		2				○						兼1	
	小計(5科目)	—	0	8	0				1	0	0	0	0		兼4	
	コア科目Ⅱ	基礎加工学A	2③		1				○						兼1	
		基礎加工学B	2④		1				○						兼1	
		制御工学ⅠA(ME)	2③		1		○			1						
		制御工学ⅠB(ME)	2④		1		○			1						
		数値解析A	2③		1		○								兼1	
数値解析B		2④		1		○								兼1		
メカトロニクスA		3①		1		○				1						
メカトロニクスB		3②		1		○				1						
電子回路概論A		3①		1		○			1							
電子回路概論B		3②		1		○			1							
電気回路C	3③		1		○					1						
電気回路D	3④		1		○					1						
技術社会と倫理	4③		1		○								兼1			
小計(13科目)	—	0	13	0				2	1	0	1	0		兼4		
コアプログラム(機械)	科実目ア実践	機械工学設計製図基礎(BH)	2③～④	2			○								兼1	
		小計(1科目)	—	2	0	0				0	0	0	0	0	兼1	
	コア科目Ⅰ	振動工学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○				1				兼1	
		流れ学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○								兼1	
		熱力学Ⅰ及び演習(BH)	2③～④		2		○								兼1	
		材料力学ⅡA(BH)	2③		1		○			1						
		材料力学ⅡB(BH)	2④		1		○			1						
		信頼性工学A	2③		1		○					1				
		信頼性工学B	2④		1		○		○			1				
	小計(7科目)	—	0	10	0				1	1	0	1	0		兼2	
	コア科目Ⅱ	材料工学A(BH)	2③		1				○						兼1	
		材料工学B(BH)	2④		1				○						兼1	
		加工学A	2③		1				○						兼1	
加工学B		2④		1				○						兼1		
制御工学ⅠA(BH)		2③		1				○		1						
制御工学ⅠB(BH)		2④		1				○		1						
機械設計工学A	2③		1		○			1								
機械設計工学B	2④		1		○			1								
技術社会と倫理	4③		1		○								兼1			
小計(9科目)	—	0	9	0				1	1	0	0	0		兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
実践科目	プロセス工学実験	2③～④	1			○				1					
	プロセス工学演習	2③～④	1			○				1					
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			0	2	0	0	0		
コアプログラム (化学工学)	統計解析A	2③		1		○				1					
	統計解析B	2④		1		○				1					
	プロセス工学数学A	2③		1						1					
	プロセス工学数学B	2④		1						1					
	伝熱工学A	2③		1					1						
	伝熱工学B	2④		1					1						
	流体工学A	2③		1											兼1
	流体工学B	2④		1											兼1
	熱力学A	2③		1											兼1
	熱力学B	2④		1						1					
	物理化学A	2③		1					1						
	物理化学B	2④		1					1						
	化学反応速度論A	2③		1					1						
	化学反応速度論B	2④		1					1						
	プロセス工学量論A	2③		1		○						1			
	プロセス工学量論B	2④		1		○			1						
	プロセス制御A	2③		1		○			1						
	プロセス制御B	2④		1		○			1						
	単位操作A	2③		1		○			1						
	単位操作B	2④		1		○			1						
	工学における倫理と法	4①～②			2			○							
小計 (21科目)	—	0	22	0	—			4	3	0	1	0		兼3	
実践科目	電子情報基礎実験	2③～④	2			○			1			2			共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	2	0		
コアプログラム (電子情報)	統計解析A	2③		1		○				1					
	統計解析B	2④		1		○				1					
	パターン認識A	2③		1		○						1			
	パターン認識B	2④		1		○						1			
	電気回路C	2③		1		○						1			
	電気回路D	2④		1		○						1			
	電子回路 I	2③		2			○		1						
	電子回路 II	2④		2			○		1						
	電気磁気学及び演習A	3①		1				○							兼1
	電気磁気学及び演習B	3②		1				○							兼1
	電気磁気学及び演習C	3③		1				○							兼1
	電気磁気学及び演習D	3④		1				○							兼1
	論理回路A	2③		1							1				
	論理回路B	2④		1				○			1				
	通信工学A	2③		1		○			1						
	通信工学B	2④		1		○			1						
	システム制御基礎A	2③		1		○				1					
	システム制御基礎B	2④		1		○				1					
	振動工学	2③～④		2		○			1						
	工学における倫理と法	4①～②			2		○								
小計 (20科目)	—	0	24	0	—			3	2	1	2	0		兼3	
実践科目	知能ロボティクス基礎実験	3①～②	1			○			1						兼3 共同
	機械工作実習 (ME)	3①～②	1												兼4 共同
	機械設計演習A	3①～②	1						1	1		1			兼4 共同
	機械設計演習B	3②		1					1	1		1			兼4 共同
	応用プログラミング技術	3③～④		2					2	2		1			兼1 共同
小計 (5科目)	—	3	3	0	—			3	3	0	1	0		兼8	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
実践科目	マテリアルプロセス実験	3①～②	1					○	1			2		共同
	マテリアルプロセス創成	3①～②	1					○	4	4				共同
	小計 (2科目)	—	2	0	0			—	4	4	0	2	0	
専門科目 フロンティアプログラム（マテリアルデザイン）	無機材料	3①～②		2				○						兼2 共同
	生体材料工学A	3①		1				○	1					
	生体材料工学B	3②		1				○	1					
	プラスチック成形加工A	3③		1				○						兼1
	プラスチック成形加工B	3④		1				○						兼1
	反応工学A	3①		1				○		1				
	反応工学B	3②		1				○		1				
	結晶工学A	3①		1				○	1					
	結晶工学B	3②		1		○		○	1					
	微粒子工学A	3①		1				○	1					
	微粒子工学B	3②		1				○	1					
	マテリアルシミュレーションA	3①		1				○	1					
	マテリアルシミュレーションB	3②		1				○	1					
	環境安全工学A	3①		1				○						兼1
	環境安全工学B	3②		1				○		1				
	分離工学A	3①		1				○		1				
	分離工学B	3②		1				○		1				
	有機化学	3①～②		2				○						兼1
	表面科学A	3③		1				○	1	1				共同・集中
	表面科学B	3④		1				○	1	1				共同・集中
	ナノ粒子工学A	3③		1				○	1					
	ナノ粒子工学B	3④		1				○	1					
	高分子材料物性A	3③		1				○	1					
	高分子材料物性B	3④		1				○	1					
	プラズマ工学A	3③		1				○						兼1
	プラズマ工学B	3④		1				○						兼1
	金属材料A	3③		1			○							兼1
	金属材料B	3④		1			○							兼1
	小計 (28科目)	—	0	30	0			—	5	3	0	0	0	兼7
科実目録	計測制御実験	3①～②	2				○		1	1	1			共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0			—	1	1	1	0	0	
専門科目 フロンティアプログラム（計測制御システムデザイン）	電気電子計測A	3①		1			○		1					
	電気電子計測B	3②		1			○		1					
	システム制御A	3①		1				○		1				
	システム制御B	3②		1				○		1				
	システム制御C	3③		1			○		1					
	システム制御D	3④		1			○		1					
	デジタル制御A	3③		1			○		1					
	デジタル制御B	3④		1			○		1					
	システム最適化A	3①		1			○		1					
	システム最適化B	3②		1			○		1					
	数値シミュレーションA	3①		1			○							兼1
	数値シミュレーションB	3②		1			○							兼1
	信号処理A	3①		1			○				1			
	信号処理B	3②		1			○				1			
	計算機アーキテクチャA	3①		1			○				1			
	計算機アーキテクチャB	3②		1			○				1			
	アルゴリズムとデータ構造A	3①		1				○						兼1
	アルゴリズムとデータ構造B	3②		1				○						兼1
	画像処理A	3③		1			○					1		
	画像処理B	3④		1			○					1		
	オペレーティングシステムA	3①		1			○							兼1
	オペレーティングシステムB	3②		1				○						兼1
	情報ネットワークA	3①		1				○						兼1
	情報ネットワークB	3②		1				○						兼1
	小計 (24科目)	—	0	24	0			—	2	1	1	1	0	兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	フロンティアプログラム（ヒューマン・エコシステム） 専門科目	材料設計学A	3①	1		○										兼1	
		材料設計学B	3②	1		○										兼1	
		人間工学A	3③	1		○				1							
		人間工学B	3④	1		○				1							
		生体計測A	3③	1		○				1							
		生体計測B	3④	1		○				1							
		生物工学A	3③	1		○				1							
		生物工学B	3④	1		○				1							
		熱力学ⅡA(BH)	3①	1		○										兼1	
		熱力学ⅡB(BH)	3②	1		○										兼1	
		物質循環工学A	3③	1		○										兼1	
		物質循環工学B	3④	1		○										兼1	
		エネルギー・環境工学A	3③	1		○										兼1	
		エネルギー・環境工学B	3④	1		○										兼1	
		エネルギー変換工学A	3③	1		○										兼1	
		エネルギー変換工学B	3④	1		○										兼1	
		バイオテクノロジーA	3③	1		○					1						
		バイオテクノロジーB	3④	1		○					1						
		環境安全工学A	3①	1		○										兼1	
		環境安全工学B	3②	1					○			1					
		高分子材料物性A	3③	1				○			1						
		高分子材料物性B	3④	1				○			1						
		電気化学	3③～④	2				○									兼1
		工業デザインA	4①	1				○									兼1
		工業デザインB	4②	1				○									兼1
	小計（25科目）	—	0	26	0		—			3	4	0	0	0		兼9	
	専門科目	科実 目 践	計測プログラミング及び演習	3③～④	2			○				1					
小計（1科目）			—	2	0	0		—		0	1	0	0	0			
専門科目	フロンティアプログラム（ナノセンシング） 専門科目	電気電子計測A	3①	1		○			1								
		電気電子計測B	3②	1		○			1								
		分離工学A	3①	1		○					1						
		分離工学B	3②	1		○					1						
		量子物理学	3①～②	2		○										兼1	
		計測標準学A	3③	1		○					1						
		計測標準学B	3④	1							1						
		マイクロSCOPIE A	3③	1									1				
		マイクロSCOPIE B	3④	1									1				
		スペクトロSCOPIE A	3③	1							1						
		スペクトロSCOPIE B	3④	1							1						
		バイオアナリシスA	3③	1							1						
		バイオアナリシスB	3④	1							1						
		ナノ粒子工学A	3③	1				○			1						
		ナノ粒子工学B	3④	1				○			1						
		センサ工学A	3③	1				○			1						
		センサ工学B	3④	1				○			1						
		環境計測A	3③	1				○				1					
		環境計測B	3④	1				○				1					
		表面科学A	3③	1				○				1					
		表面科学B	3④	1				○				1					
小計（21科目）	—	0	22	0		—			3	4	0	1	0		兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
発展科目Ⅰ	材料工学A(ME)	2③			1			○							兼1
	材料工学B(ME)	2④			1			○							兼1
	機構運動学A	2③			1	○									兼1
	機構運動学B	2④			1	○									兼1
	伝熱工学A	3③			1	○									兼1
	伝熱工学B	3④			1	○									兼1
	応用数理解析A	3③			1	○									兼1
	応用数理解析B	3④			1	○									兼1
	レーザー工学A	3③			1	○									兼1
	レーザー工学B	3④			1	○									兼1
	機械材料学ⅠA	3①			1	○									兼1
	機械材料学ⅠB	3②			1	○									兼1
	企業開放講義	3③～④			1	○									兼1
小計(13科目)	—	0	0	13	—			0	0	0	0	0		兼9	
発展科目Ⅱ	材料設計学A	3①			1										兼1
	材料設計学B	3②			1										兼1
	熱力学ⅡA(BH)	3①			1										兼1
	熱力学ⅡB(BH)	3②			1										兼1
	生物工学A	3③			1				1						
	生物工学B	3④			1				1						
	企業開放講義	3③～④			1										兼1
	物質循環工学A	3③			1										兼1
	物質循環工学B	3④			1										兼1
	応用伝熱学A	3③			1										兼1
	応用伝熱学B	3④			1										兼1
	エネルギー・環境工学A	3③			1				1						兼1 共同
	エネルギー・環境工学B	3④			1				1						兼1 共同
小計(13科目)	—	0	0	13	—			2	0	0	0	0		兼6	
発展科目Ⅲ	人体科学A	3①			1				1						
	人体科学B	3②			1				1						
	振動工学ⅡA(BH)	3①			1				1						
	振動工学ⅡB(BH)	3②			1				1						
	流れ学ⅡA(BH)	3①			1										兼1
	流れ学ⅡB(BH)	3②			1										兼1
	伝熱学A	3①			1										兼1
	伝熱学B	3②			1										兼1
	制御工学ⅡA(BH)	3①			1					1					
	制御工学ⅡB(BH)	3②			1					1					
	企業開放講義	3③～④			1										兼1
	応用伝熱学A	3③			1										兼1
	応用伝熱学B	3④			1										兼1
小計(13科目)	—	0	0	13	—			3	1	0	0	0		兼3	
フロンティア総合科目	フロンティアプロジェクトA	3③		1					16	10	1	11			兼3 共同
	フロンティアプロジェクトB	3④		1					16	10	1	11			兼3 共同
	学外技術体験実習A	3①～②・③～④		1					3	1					共同
	学外技術体験実習B	3①～②・③～④		2					3	1					共同
	海外技術体験実習	3①～②・③～④		2					1						
	卒業プロジェクト	4通	8						16	10	1	11			兼3 共同
	小計(6科目)	—	8	7	0	—			16	10	1	11	0		兼3
教職科目	工業概論	4①～②		2						1					兼12 オムニバス
	職業指導第1	3③～④		2											兼1
	職業指導第2	4①～②		2											兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	1	0	0	0		兼13
合計(347科目)		—	49	598	39	—			16	10	1	11	0		兼190

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業要件：卒業に必要な単位数124単位以上 共通教育科目46単位以上（導入科目：4単位，GS科目：各群から3単位計15単位，GS言語科目：8単位，自由履修科目3単位以上，基礎科目16単位） 専門基礎科目および専門科目あわせて78単位以上 コアプログラム1つとフロンティアプログラム1つ※を修得しなければならない ※コアプログラム修了要件 16単位以上 フロンティアプログラム修了要件 18単位以上 ※卒業プロジェクト着手要件 全修得単位数 108単位以上 うち，共通教育科目 46単位以上 専門教育科目 62単位以上							1 学年の学期区分			4 期				
							1 学期の授業期間			8 週				
							1 時限の授業時間			90 分				

授 業 科 目 の 概 要 (融合学域スマート創成科学類)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
導入科目	大学・社会生活論	<p>本授業では、大学における学習方法・目的や社会的責任を果たす上で必要な常識・知識などを学んで早期に大学生活のありようを体得すること、さらに大学のなかに自己発見・自己開発の契機が多々存在することに気づき、それらを利用しながら将来イメージをより明確にできるようにすることを通じて、以下を学修目標として取り組む。</p> <p>①できるだけ早く大学に慣れ、大学生らしい学修態度・学習技術・生活態度及び自己管理能力を身につける。</p> <p>②これからの人権・共生の時代に必要とされる知識・教養に触れ、その基本を理解する。</p> <p>③留学・就職・進学・ボランティア活動などについての知識を身につけ、修学期間の過ごし方やその後の将来のあり方を自ら設計できるようにする。</p>		
	データサイエンス基礎	<p>データサイエンスの産業利用が活発な状況で、データサイエンスに関わる基本的知識の習得は重要である。本授業では、これに加え、データサイエンスの学習に必要な学内ネットワークの適切利用、セキュリティ、コンプライアンス・モラル、および基礎的情報リテラシー等を学修する。</p>		
	地域概論	<p>本授業の目標は、本学の各学類の専門分野を社会との繋がり、地域への貢献という視点から理解し、学生としての決意を持って、修学期間の学修をデザインできるようにすることを通じて、次の学修成果の獲得を目指す。</p> <p>①学類の専門分野を、地域との繋がりや社会への貢献の視点から理解し、地域の感性を育むこと。</p> <p>②自分の将来の目標を明確化し、専門分野と地域社会への関わり方を見つけること。</p> <p>③将来の働く姿を描きつつ、大学4年間の学修を主体的にデザインできるようにすること。</p> <p>④石川県を一例として、地域の自然、文化、歴史、産業等を理解すること。</p>	共同	
共通教育科目	1群（自己の立ち位置を知る） GS科目	現代世界への歴史学的アプローチ	<p>現代世界で発生しているさまざまな問題の多くは、そこに至る歴史的な経緯が大きく関係しており、それを正しく把握できなければ、問題も正しく理解できない。したがって、現代世界の理解のためには、世界史の基本的な知識と歴史学的な発想法・分析視角の獲得が必須である。本授業では前提となる知識を再確認しつつ、歴史学的発想法・分析視角を学ぶ。</p> <p>獲得した知識と発想法・分析視角を使って、自己の置かれた歴史的状况を正しく認識し、現代世界の問題を読み解くことができるようになることを学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の政治経済学	<p>グローバル化が進行する現代社会において、政治や経済の仕組みも大きく変容しつつある。そうしたなかにあって、学生はグローバルな政治経済に関する具体的な事例に則しながら、いかにして国際社会に平和を構築していけばいいのかという、人類共通の課題解決に向けた科学的思考を習得する。</p> <p>秩序ある国際社会の構築という、人類共通の課題解決に資する問題発見と問題解決のための科学的思考基盤の習得を学修目標とする。</p>	
		グローバル時代の社会学	<p>身の回りとその背後にある社会に批判的思考を働かせてみる、社会学という学問的世界に触れる。この授業においては、各回に具体的事例に即しながら、グローバル化する社会や社会学の知識を活かして、社会の中で協働しつつ生きていくあり方を学ぶ。具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学の重要な語句や視点について説明できる。 社会学の基本的な見方、考え方を理解している。 日常生活の中での経験を、社会的な視点から分析できる。 新しい社会のできごとについて、自ら探求し様々な可能性を考えることができる。 	
		ケーススタディによる応用倫理学	<p>個人と社会の実践的な倫理的問題を、客観的に分析し道徳的に判断する、という応用倫理学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、医療倫理、工学倫理、企業倫理、環境倫理などの領域において、いくつかの事例を手がかりにして、倫理的問題に対するこのような取り組み方を学ぶ。</p> <p>応用倫理学を事例を通して学ぶことによって、自ら直面する倫理的問題に対して、事実認識と価値判断を区別し、自らの道徳的感覚に自覚的になる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	GS科目	1群 (自己の立ち位置を知る)	地球生物圏と人間 地球はその内部、表層から気圏に至るまで常に動的であり、私たちを含む生物は、その変動する地球の上に暮らしている。本授業では、地球の一員としてのヒトの立ち位置を理解するのに必要な、地球・生物の成り立ちや生物と地球環境との関わりについての知識を学ぶ。 具体的には、以下について学ぶ。 ・地球システムにおける人類の位置づけ ・地球での様々な出来事とプレートテクトニクスとの関連 ・地球のダイナミクスと人間社会への影響（特に災害） ・水と大気の動きをと人間社会への影響 ・地球生命史の概略と生命と地球の相互作用 ・種の共存と生物群集の成立のしくみ ・生物集団の進化の仕組み及び種の形成 ・遺伝情報学、分子系統学	
		哲学（自我論）	〈私〉とは何かといった自己をめぐる問いは、日常生活の中で改めて問われることはあまりないが、いざ答えようとしても容易には答えられない難問であり、しかも実は人にとってきわめて切実な問いである。 本授業では自己をめぐる形而上学的、存在論的、認識論的な問題を、代表的な哲学者たちの見解を批判的に検討しながら考察し、自己の本質を探究することで、哲学がどのような学問であるかを知ること、自己の存在と様態、自己同一性、独我論、心身問題など自己をめぐるさまざまな哲学的問題の所在を理解すること、哲学文献の批判的な分析と解釈の方法を学ぶことを目的とする。	
		パーソナリティ心理学	パーソナリティ心理学は、人間の性格に関するさまざまな問題を科学的に研究することを目的とする分野で、現代心理学のもっとも重要な研究領域の一つである。本授業ではパーソナリティとは何か、パーソナリティと性格、気質など他の類似概念との違いや、パーソナリティを客観的に測定するために開発されてきた心理学的査定の方法、パーソナリティの機能（はたらき）と構造（しくみ）に関する主要なパーソナリティ理論等について解説するとともに、パーソナリティを記述するために提唱されてきた類型論と特性論の特色について考察する等、パーソナリティ心理学の主要な理論とパーソナリティの研究方法について概観する。 本授業では、パーソナリティに対する知識・理解を深め、科学的に考える能力を養うとともに、得た知見を基に、自己理解、他者理解を深め、人間関係の発展を目指す。	
		グローバル時代の文学	グローバル時代においては、様々な文学体験をすることで、自己を知り、自己を鍛えることが可能となる。世界各地域の文学作品を直に読む文学体験を実践して、批判的な思考を可能にし、豊かな想像力を養うとともに、世界各地域の文学作品を読解するための方法や物事を他者の視点で見ること＝自己を相対化することを学ぶ。 具体的な学修目標は以下のとおり。 ①作られた小説を読み、フィクション世界を自らの「心」の内部に構築できる、豊かな想像力を身に着ける。 ②世界各地域の文学作品を読み、それら作品の背後（深層）にある意味（社会・文化・思想）を理解するために必要な知識と能力を獲得する。 ③文学解釈という行為を通して、物理的な対象ではない人間の「心」についての思索を深め、自己を知り、他者を知るための経験的な基盤を構築する。	
		健康科学	我々を取り巻く環境・生活習慣は、健康にとって危険な要素を含んでいる。健康に生活するためには、これらの危険な要素と対処法を知らねばならない。WHOは、健康は「肉体的、精神的及び社会に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と示し、「計画的な努力によって得られる状態であり、よりバランスの取れた健康的な生活を得ようとする行動そのもの」と定義している。 本授業では、健康を守る身体のメカニズムと社会の仕組みを学ぶと共に、健康的な生活を送るために必要な知識を身に着け、日常生活の中に取り入れて、実践していくことを目指す。健康を守りさらに積極的に増進するために必要な社会全体としての目標・取組から、個人として実践可能な正しい食事、運動や休養の知識、日常活動、メンタルヘルスに関する知識について学ぶ。	
		細胞・分子生物学	私たち人間は細胞からできている。その細胞内に存在するタンパク質や核酸などの分子レベルの振る舞いや、細胞の構造と機能、その多様性を解説することにより、細胞の構造と機能制御のメカニズムを分子レベルで学習するとともに、生命科学の基礎知識を理解することを目的とする。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS科目	2群 自己を知り鍛え、自己鍛え、自己鍛え	エクササイズ&スポーツ実技 心身の鍛錬は自律の基本である。本授業では、運動を通して、身体形成の必要性を知り、体力づくりや運動技能習得のための原理・原則を理解し実践することによって、自己を知り自己を鍛えるための能力を高めることを目的とする。	
	3群 (考え・価値観を表現する)	クリティカル・シンキング 日本語は、他の言語と同様に、もちろん十分に論理的である。しかし、その論理性は日本語という文法構造によって具体化されているため、＜日本語を用いて＞論理的な表現を行うためには、英語やスワヒリ語とは別の規則を知らなければならない。 本授業では、受講者間の文化的背景と価値観の多様性についての相互理解を深めた上で、批判的思考の方法や、関係する新しい概念や理論、方法を身につけ、実践的課題に取り組むことにより各人の問題解決能力の向上をめざし、クリティカル・シンキングの概念だけでなく、それを実践すること、つまり批判的に考えるとはどういうことかを学び、論理的なく思考・表現の能力を高めることを目的とする。	
		価値と情動の認知科学 行動や表現を引き起こすのは、最終的には理性というより、行為者の価値観や態度や情動である。しかもそれらは、往々にして非合理的な要素を多く含み、しかも行為者本人からは隠されている。自己の行動や表現を適切にコントロールし、他者の行動や表現を適切に理解するためには、価値や情動に関する＜認知・行動＞の仕組みに関する理解が必要となる。 本授業では、人間の認知能力の様々な観点から、ヒトの認知能力には、私たちが常識的にとらえているのとは異なる意外な側面があるのだということについて、自分で考えながら、整理し、ヒトという動物である自分の認知能力についての、より深い理解を確立すること、さらに、以上のことを自分自身の言葉で説明し、表現できるようになることを目的とする。	
		芸術と自己表現 人間の最も根源的で洗練された自己表現は、絵画、音楽、演劇、舞踏などの芸術であろう。それらは人間の諸能力のシンプルな表出であると同時に、人間存在の繊細で奥深い次元に根ざすものである。芸術においては、鑑賞するにせよ創作するにせよ、自己と表現との愚直な関係が求められる。 本授業においては、様々な芸術の実際を体験することによって、自己表現の真摯なあり方を知ることを目的とする。	
	スポーツ科学	本授業では、保健体育の意義や、身体の理(ことわり)と自然・生活様式などとの関係についての理解を深めるとともに、これらの活動を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	
	4群 (世界とつながる)	金沢・能登と世界の地域文化 グローバル化は国家の枠組を超えてローカルな枠組と結びやすく、また現実の国際化は国家総体よりも個々の地域の枠組のなかで進行する。グローバル化に対応するためには、地域とその文化に対する正確な理解は欠かせない。 本授業では、私たちの住む金沢・能登および世界の文化を事例に地域文化の豊かさや変容を学ぶとともに、それらの地域について自ら調査する。 自らの暮らす地域の文化とその世界との結びつきに対する理解を深め、その内容を情報発信するとともに、それらを相対化する視点を獲得することを目的とする。	
		日本史・日本文化 現代社会では、人は必ず国家に帰属することが求められ、海外に出ればその帰属した国家を代表する存在として見られがちである。一方、国家の歴史や文化についての一般的言説には誤りが含まれているものもあり、時としてそれは誤解・トラブルの原因となる。 本授業では、日本の古代から近現代に至る歴史と文化について、各時代ごとの重要トピックを取り上げ、それを「世界の中の日本」という視点で考察することを通じて概観することにより、日本の歴史・文化の特色を理解するのみならず、世界の他地域との差異と共通性を理解する。加えて日本の古代から近現代に至る政治・社会・文化の、変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	GS科目	4群（世界とつながる）	異文化間コミュニケーション	グローバル化した社会では、自らの育った文化を知り、その特徴を自覚した上で、自らの特殊性を認め、さらに、自らと異なる文化、人種、民族への理解を深めることが重要である。 本授業では、「①異文化と自文化に関する知識」「②異文化に対する態度」「③コミュニケーション・スキル」の異文化間コミュニケーションで特に重要視される3つの概念についての理解を深める。①の知識については、文化的価値観と非言語行動における異文化と日本文化との類似点と相違点を理解する。②の態度については、偏見や自民族中心主義に陥らないで、異文化に対する寛容で柔軟な姿勢を持つことの重要性について学ぶ。③のスキルについては、傾聴力の必要性について学習する。 偏見・差別をなくし文化的差異を認めることの必要性を認識することによって、他者への深い共感に基づいて異文化を受け入れ、異質な他者と共生する能力を身につけることを目的とする。	
			異文化体験A	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外における短期のボランティア等を通し、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 45時間相当の留学を対象とする。	
			異文化体験B	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の語学学校等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 90時間相当の留学を対象とする。	
			異文化体験C	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の研究機関等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 135時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験D	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学等での短期留学を通し、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 180時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験E	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 225時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験F	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 270時間相当の留学対象とする。	
			異文化体験G	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。 本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 315時間相当の留学対象とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	4群 (世界とつながる)	異文化体験H	異文化理解には異文化の実体験が重要である。しかし体験から何かを学ぶには、事前・事後指導や、体験後の発表等も必要である。本授業では、海外の大学や研究機関、語学学校、NPO・NGO等のボランティア組織、民間企業など、異文化環境での生活体験を通して、異文化の理解を深め、海外での就業・活動経験を積み、外国語運用能力を向上させることを目的とする。 360時間相当の留学対象とする。		
		グローバル時代の国際協力	ボーダーレス化が進む国際社会では、ボランティアのネットワークも国境を越えて広がる。本授業では、貧困や紛争、災害など、国際社会が直面する様々なグローバル・イシューの解決に向けて活動を展開する様々な「ボランティア」の形を知り、その独自性や課題に対する理解を深めることにより、日本を含む世界の各地でどのようなボランティアのニーズがあるのか、国際社会・地域社会における共生のためにボランティアに何ができるのか等を、実践例に基づきながら理解することを目的とする。		
		グローバル社会と地域の課題	学生はいま学生として、あるいは将来地域社会を担っていく者として、グローバルな視野に立ちつつ、地域の様々な課題に取り組んでいかなければならない。そこで求められるのは地域の課題を的確に見抜く力であり、他者と協力しながらそれに取り組む力である。本授業では、グローバル化が進行する現代社会において、どのような地域課題が発生しているのか、どのように解決をしていくべきか、そして自らどのように関わっていくのかを考え、地域社会の現状と課題を総合的に学びながら、地域の課題解決と活性化の理論と実践について理解を深めることを目的とする。		
	5群 (未来の課題に取り組む)	GS科目	科学技術と科学方法論	人類の未来は、希望も絶望も、科学技術がそのカギを握っている。したがって、科学という「世界の捉え方」、技術という「ものの作り方・使い方」を知らずしては、人類の課題も解決も見えてこない。また、科学は、私達の住む世界を記述・説明する世界共通語のひとつである。この言語を操る能力、すなわち「科学的思考力・科学的表現力」は、私達の自然や社会に対する深い理解をもたらす。 本授業では、科学の方法を構成するコアとなる考え方について、議論や実験など実践的な活動を通して理解し、活用できるスキルを修得することを目的とする。	
			統計学から未来を見る	世界の人口問題とそれに伴う食料や資源、エネルギーの問題、また国内における少子高齢化とそれに伴う医療福祉・教育・労働・経済・産業に関する問題など、私たちを取り巻く現状を数値化して分析し、それに基づいて未来を予測するために、統計学はすべての学問分野において必要とされている。 本授業では、統計データに基づいて現状・将来を分析し、その分析から浮かび上がる諸課題の解決に向けてアイデアを提案できるようになることを目的とする。	
		環境学とESD	気候変動等、現代社会が直面する地球環境問題の現状を把握するとともに、その解決方法と「持続可能な社会」のあり方及び実現方法を多角的に学ぶ。 本授業では、わが国における公害問題の発生と克服、環境政策の展開について学ぶとともに、近年の地球環境の危機とグローバル・コミュニティの対応、今後取り組むべき対策などを理解することによって、地球環境問題の解決と「持続可能な社会」の実現を達成するために必要な肯定的な未来志向性および環境リテラシー（環境知識、論理的・多面的・総合的思考力、創造的・実践的問題解決能力等）の向上を図ることを目的とする。		
		生活と社会保障	日本を含む世界の少なからぬ国々は今、人口減少、人口分布の地域的偏在、及び高齢化という局面を迎えながら、社会保障の一層の拡充という困難な課題に直面している。 本授業では、少子・高齢化など人口変動やグローバル化に伴う社会経済の変動のなかで、社会保障が果たす役割と課題について、国民生活の視点から検討することで、世界・日本・地方という複眼的な視点からこの課題を捉えるとともに、社会保障のあゆみ、制度の概要、直面する問題、少子・高齢化のもとでの社会保障の課題について考えるための基礎知識を身につけることで、有効な解決策に向けた議論を展開することを目的とする。		
	現代社会と人権	未来を平和で豊かな持続可能な社会にしていこうと、人権の思想とジェンダー学の視点は不可欠とされるが、現実の国際社会・日本社会は未だその理想からは遠い状況にある。 本授業では、人権・ジェンダーについての基本的な知識を踏まえつつ、これらの視点から現代社会の問題を分析・考察する。学生は、その理解を通して、未来を構築するうえで必要な視点と問題意識を得ることを目的とする。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 科目 6 群 (新しい社会を生きる)	インテグレート科学	物質の構成要素となる元素を対象とした科学の世界は、その構造、性質及び反応を究明することで目覚ましい進歩を遂げてきた。では、人類の物質に関する理解はどの様に進歩して、現代化学における物質観につながってきたのか。 本授業では、科学的に考えるための基礎として、物質の成り立ちや基本事項について概観し、巨視的な現象と原子・分子・イオンなどの微視的な粒子の挙動との関係や、暮らしの中の色、味、匂いを題材とし、感覚発生のメカニズムや分子構造との関係について学ぶ。化学の世界に関するこうした理解を通して、多種多様な世界観が存在する現代において、客観的かつ科学的な視点で物事を捉えることを目的とする。	
	A I 入門	Artificial Intelligence (AI, 人工知能) とは何かをその歴史と実例を調査して学ぶ。AIを支える技術 (コンピュータの性能、機械学習・ディープラーニング、パターン認識、自然言語処理) の進歩について理解する。AIを利用することの利点や問題点を理解し、AIの普及により変化する未来社会、AIの限界とシンギュラリティについて考察する。	
	情報の科学	世の中には多くの情報が溢れている。現状を理解し、今後の展望を見極めるためには、情報に踊らされることなく、正しい情報を見極めて、それを収集し発信していく必要がある。 本授業では、情報とは何か、情報収集・発信の有効性と危険性、情報のモラル、セキュリティなどを学ぶことによって、情報を制御するために不可欠の知識と能力を習得し、研究や生活・仕事において問題発見・問題解決に役立てる情報の科学の幅広い知識を身につけることを目的とする。	
	デザイン思考入門	高度化・複雑化する現代社会では、狭い分野の専門知識や技術では解決できない課題に対する有効なアプローチ法が、デザイン思考 (Design Thinking) である。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くという意味ではなく、課題解決のプロセスとその設計を意味している。デザイン思考の基本的なプロセス (共感、問題定義、アイデア創造、試作、テスト) について、その概念を理解し、実例を検証しながら修得する。	
	論理学と数学の基礎	数学は多くの学問分野において、その法則を適切に表現するための言葉として用いられ、文系、理系を問わず必要なリテラシーとされている。 本授業では、数学を活用する事例を通して、数学の基礎概念のいくつかを学ぶ。具体的には、統計を活用する例として、平均や分散と数ベクトルと内積の関連の基礎を学び、また整数を活用する例として、情報化社会に欠かせない暗号理論の基礎を学ぶ。 学生は、数学の基本的技法に加えて応用的方法を学ぶことによって、数学の思考方法を習得し、根拠の確かな判断能力や生活の中で数学を活用する能力を身に付けることを目的とする。	
G S 言語科目 (英語)	TOEIC準備 I	授業は英語で行われる。 TOEICのリスニングセクションで高得点を得るための基本的な聞き取りのテクニックを学び、リスニング能力の向上を図る。 TOEICリスニングパート セクション1, 2, 3 及び4対応。 様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用句の理解力等、文法力等の英語力をつけることを、学習目標とする。	
	TOEIC準備 II	授業は英語で行われる。 TOEICのリスニングセクションで高得点を得るための基本的な英文読解のテクニックを学び、読解能力の向上を図る。 TOEICリーディングパート セクション5, 6, 及び7対応。 読解力を磨くためのトレーニングを通じて、リーディングパートの対策を学び解答テクニックを身に付けるだけでなく、語彙や慣用句を増やすし、英文読解力をつけることを、学習目標とする。	
	TOEIC準備 III	授業は英語で行われる。 TOEIC準備 I, II で伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。 TOEIC準備 I, II で学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 GS言語科目(英語)	TOEIC準備 IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIを通して伸ばした「リスニング力」「読解力」「解答テクニック」の更なる開発と、それら能力を生かし、TOEIC L&Rテストに実際に取り組む。</p> <p>TOEIC準備 I～IIIで学んだことをさらにブラッシュアップさせ、リスニングとリーディングの力をさらに伸ばし、TOEICハイスコアにつながる対策を学ぶ。特に、集中的なリスニング、穴埋め問題の練習、文法的正確さを獲得し、文章の黙読と音読を実施する。</p>	
	TOEIC準備 (演習)	<p>TOEIC L&Rテストにおけるハイスコア獲得のために必要なリスニング能力、リーディング能力、解答テクニック向上を目指し、実際のテストで実践できる力を育てる。基本的な試験対策と、TOEICハイスコアを獲得するために必要な言語能力を開発する。</p> <p>様々なタイプのTOEICリスニングパートの問題を授業の中で大量に解いていくトレーニングを通じて、対策と解答テクニックを学び、聞き取り能力だけでなく、語彙力、慣用語の理解力等、文法力等の英語力を身につけることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes I	<p>このアクティブラーニングコースでは、自分のアイデアを論理的に書いて表現する方法を学ぶ。具体的には、英語で文章を書き、的確な文章構造と構成を学ぶ。</p> <p>文章の構成要素に焦点を当てることで、文章の形式を考察し、書くための構想を練る。コースの後半では、理由と例えを用いることに焦点を当て、洗練された文章を作ることを、学習目標とする。</p>	
	English for Academic Purposes II	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、プレゼンテーションの計画、実施、評価を学習することで、人前で話す際に必要な自信を育てる。</p> <p>学生に英語で全クラスメイトの前で発表する機会を十分に与え、口頭でのコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの両方を学ぶことにより、英語での発表能力を向上させる。</p> <p>有益なプレゼンテーションを計画し発表する能力の開発やプレゼンテーションのカギとなる技術に気付き、評価することができるようになるほか、批判的思考を獲得する。</p>	
	English for Academic Purposes III	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、EAP IとEAP IIで学んだスキルを統合し、その統合したスキルを用いて学術的課題や現代の社会問題を分析する。</p> <p>このコースは主にサマリーライティング(要約文章の作成)と、授業内で読んだ教材に対して分析的な反応に焦点を当てる。</p> <p>学術論文の正確な要約ができる能力、評価分析、対照分析または相対分析等の分析手法を学ぶことで、分析的な視点を培う。</p> <p>ディスカッションの質問に対し口頭で答えることで、コミュニケーションにおける相互作用的な能力を伸ばす。</p>	
	English for Academic Purposes IV	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、先のEAPの授業で学んだ能力・技術を用いながらさらに発展させ、学術的テーマが現代社会の課題について小論文を書く。</p> <p>与えられたトピック、要約された様々な意見について、批判的立場で議論を交わし、系統立てて自分の意見を表現する。</p> <p>与えられたトピックについて、論文や要約及び口頭で、詳しい見解を述べるようになる。</p> <p>書かれている文章の内容のみならず、根底にある関心や視点に目を向けるようにする。</p> <p>アカデミックな環境で英語を使えるようにすることが期待される。</p>	
	English for Academic Purposes (Retake)	<p>授業は英語で行われる。</p> <p>このアクティブラーニングコースでは、学術的な文章を読む練習と、グループディスカッションや発表という形で、学術文書への対処の仕方を学ぶ。</p> <p>学術論文を読むことに重点を置き、より難しい論文に取り組んでもらう。グループワークで論文の内容を把握し、ディスカッションをする。題材を探求するための基礎として論文を使い、発表をする。その中で、リスニング・スピーキング能力を伸ばし、自信を得ることが期待され、リサーチ能力を伸ばし、学術的語彙の知識を増やすことを求める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 言語科目（日本語） 共通教育科目	アカデミック基礎日本語A	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、ノートの取り方や情報検索等、複合的な能力を養成することを目的とする。	
	アカデミック基礎日本語B	外国人留学生が、日本の大学での学習や研究に必要な日本語力（アカデミック日本語）を獲得するため、論理的な内容の読解を中心に、レジュメの作成やプレゼンテーションなど、さらに高度で複合的な能力を養成することを目的とする。	
	講義の聴解A	大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーを習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	講義の聴解B	「講義の聴解A」に引き続き行うことで、大学の講義を日本語で聞き取り可能な聴解ストラテジーをさらに高いレベルで習得するとともに、今まで身につけてきた知識を活性化させて大学での研究・学習生活に支障のない聴解能力を養うことを目的とする。	
	口頭発表A	本授業では、留学生に向け、日常で使用する可能性のある内容について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議することにより、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントの理解を深めることを目的とする。	
	口頭発表B	本授業では、留学生に向け、大学での発表に関する内容等について、実際に自分でスピーチを用意し、発表した後、その内容について共に討議する。「口頭発表A」からさらにアカデミックなスピーチ内容を検討することで、様々な日本語でのスピーチについてその特徴や作成上のポイントを共に討議しさらに理解を深めることを目的とする。	
	上級読解 I A	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、わかりやすく説明できるようになることを目的とする。	
	上級読解 I B	本授業では、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深めるとともに、読んだ内容について、説明できるのみならず、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解する等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。	
	上級読解 II A	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解することを目的とする。	
上級読解 II B	本授業では、日本語テストFクラスの学生に向け、日本語で書かれた一般書や専門図書を読み、自分の考えや意見をまとめて口頭および文章で表現することにより、専門性の高い文章を精読し、考察を深め、読んだ内容について、自分の考えや意見を述べたり、他の人の考えや意見を理解したりする等、アカデミックな場面に必要な能力を高めることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G S 言語科目 (日本語)	日本語で学ぶ論理A	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。そして、実際に日本語で書かれた文章の読解を行いながら、論理の展開と構成について学ぶことにより、論理トレーニング(論証と演繹)を通じて、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力を日本語で修得することを目的とする。	
	日本語で学ぶ論理B	本授業では、留学生を対象に、論理的な文章の組み立て方である、論証と演繹の練習を日本語の文章を通じて行う。「日本語で学ぶ論理A」の内容を発展させ、否定、条件構造、推論の技術(存在文の扱い方、消去法、背理法)について学び、最後に形式論理学の基礎についても学ぶことにより、日本の大学での学習や研究に必要な論理的思考力をさらに高度なレベルで日本語で修得することを目的とする。	
	日本事情A	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を歴史や地理等を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識を増やし、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	日本事情B	本授業では、留学生を対象に、日本人が常識として持っている様々な日本に関する基礎知識を宗教や文化、季節感等特に日本人の内面を形成している部分を通して学び、それによって日本語読解能力の向上を図ることで、日本の様々な面についての知識をより深め、さらに主体的に、かつ積極的に知識を求めようとする姿勢を養うことを目的とする。	
	アカデミック・ライティングA	日本の大学で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、レポート作成にかかる適切な資料の引用方法や、図表の説明の仕方を学び、自分の興味関心に従ってレポートを作成することで、資料探索や、図表の適切な説明方法とともに、レポートの基本的な表現と構成を身に付けることを目的とする。	
	アカデミック・ライティングB	日本の大学で専門教育を受ける留学生は、レポートや論文など、書く能力、いわゆる「アカデミック・ライティング」に関する能力が求められる。 本授業では、留学生を対象に、資料等に対し考察や分析を述べたり、要約を書くことにより、文章の主となる部分を見つけ出す力を身に付けるとともに、文章を適切に引用し、考えと理由をレポートとして論理的に書けることを目的とする。	
基礎科目	微分積分学ⅠA	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。求積法や多変数関数の微分法などいくつかの基本的な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	微分積分学ⅠB	本授業では、微分積分の基礎から学び、例題を通してその理解を深める。グリーン定理やガウスの発散公式等さらに高度な方程式を学ぶ。 これらを通し偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができるようになる。重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができるようになることを目的とする。	
	微分積分学ⅡA	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 偏微分や全微分概念を理解し、合成関数の微分や多変数関数の極値等の基本的な計算ができることを目的とする	
	微分積分学ⅡB	本授業では、多変数関数の微積分を解説する。偏微分や重積分の概念を理解し、それを用いて合成関数の微分公式や陰関数定理・逆関数定理、極値問題などを学ぶ。 重積分および変数変換公式について理解し、基本的な積分計算や面積・体積の計算ができることを目的とする。	
共通教育科目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	線形代数学ⅠA	線形代数学は複雑な自然現象を数学的に理解したり、多数の情報を同時に扱うための手段として大きな役割を果たしている。本授業では、行列とベクトルの基本概念の理解から始める。次に行列の計算と連立一次方程式を解く方法を学ぶ。線形代数学に対する理解を深めることを目的とする。	
		線形代数学ⅠB	連立一次方程式で表される関係は、日常生活から高度の学問的議論の対象に至るまで、現象を数理的にとらえようとする時、最も基本的なものとして普遍的に現れる。連立一次方程式がいつ解けるのか、そのために必要な階数や行列式や逆行列について学ぶ。線形代数学に対する理解をさらに深めることを目的とする。	
		線形代数学ⅡA	本授業では、連立一次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探求する。鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本的概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。ベクトルの学びを中心に論理的な思考法を涵養することを目的とする。	
		線形代数学ⅡB	本授業では、連立一次方程式で表される関係のより深い数学的構造を探求する。鍵となるのは行列の固有値と固有ベクトルの概念である。固有値と固有ベクトルは物理や経済など多くの分野に現れる概念で、ここでの学習は応用上も重要である。それらの実用的な概念を線型性、計量、同型といった数学の基本的概念、およびそこから派生する概念によって整理し、それらの準備のもとに対角化条件および正規行列、実対称行列の対角化定理を導く。ベクトルや行列を発展させた学びにより、具体的な計算方法の習熟や論理的な思考法を涵養することを目的とする。	
		統計数学A	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。本授業では、統計学の基本的部分である確率分布や正規分布、母平均などの理論を講義することで、統計の考え方を理解し、統計的方法を修得することを目的とする。	
		統計数学B	実験・観察を通じてデータを採集し、そのデータから導き出された法則性に対する理論の体系が統計学である。統計的方法は、自然科学、人文社会科学のあらゆる分野に浸透し、この方法を理解し応用する能力は社会の多くの分野で必要とされている。本授業では、統計学のカイ二乗検定や多重比較の方法を講義することで、統計の実践的スキルや発展的な統計的方法を修得することを目的とする。	
		物理学ⅠA	本授業では、ニュートンの運動の法則や運動量の保存等古典力学的現象について学ぶことにより、それらの現象を支配している法則に関する知見を修得することを目的とする。	
		物理学ⅠB	本授業では、空間とベクトルや力学的エネルギーの保存等について学ぶことで、ベクトルや微分・積分などの数学的手法を用いて現象を記述・解析する手法を修得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	物理学ⅡA	<p>数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。</p> <p>本授業では、力学・電磁気学と並び重要な分野である熱力学・統計力学について講義することで、気体の熱力学、分子運動論や気相・液相間の転移等について、基本的な理解を得ることを目的とする。</p>	
	物理学ⅡB	<p>数学と物理学は密接な関係を持ちつつ発展してきた。現在では「計算科学」という学問を共有することで新たな局面を迎えている。数物科学の習得に欠かせない基礎の物理学（力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学、相対性理論）とそのために必要な数学をじっくりと学ぶ必要がある。その基礎の上に、現在の研究の最先端につながる物性物理学、生物物理学、素粒子物理学、プラズマ物理学、分子物理学、計算科学の様々な分野などの学問に取り組むことができる。</p> <p>本授業では、20世紀に革新を遂げた現代物理学の基礎、相対性理論と量子力学の理解に必要な数学的知識を、振動と波動を通して授け、それらについての基礎的知識を学ぶことで、振動と波動の基本概念や量子力学の基礎的知識を得ることを目的とする。</p>	
	化学ⅠA	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>気体や分子といった身近なものを題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。</p>	
	化学ⅠB	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学結合やエントロピーといった発展的な原理を題材に化学に対する興味を深めながら、化学的なものの見方、考え方を習得することを目的とする。</p>	
	化学ⅡA	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業では、平衡、動力学等を学ぶとともに、新素材、生体物質、測定法などの最新の基礎知識も修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。</p>	
	化学ⅡB	<p>本授業では、初めて化学を学ぶ学生を対象として書かれた米国のテキストを教材として用い、身のまわりの物質がもつさまざまな性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方、考え方を学習する。</p> <p>化学Ⅰで学習した物質の構造や性質を化学的視点から理解するために必要となる基本的なものの見方をもとに、本授業で典型元素や核化学等の知識を修得することで将来どの専門に進んでも対処できる化学の知識と学力を獲得することを目的とする。</p>	
初習言語科目	ドイツ語A1-1	<p>文法を中心としてドイツ語の基礎を学ぶ。</p> <p>文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じてドイツ語の文や表現に触れることで、ドイツ語初級文法の基本的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語A1-2	<p>本授業では、ドイツ語の初歩的な文法を学んでいく。ドイツ語の文法は、英文法に多くの点で類似しているため、英語の知識が活用できるような方式で授業を進めていく。</p> <p>最終的には、ドイツ語の基礎単語の発音ができ、辞書があれば、ドイツ語で書かれた簡単な新聞や雑誌の文章が読める程度のミニマルな文法知識を習得することを旨とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語A 2-1	<p>初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。</p> <p>基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。</p> <p>授業で取り上げる内容は下記の通り。</p> <p>ドイツ語のアルファベットと発音、基本構文、自己紹介</p>	
	ドイツ語A 2-2	<p>初級文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使えるドイツ語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えずドイツ語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。</p> <p>基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、ドイツ語圏に出かけた時に、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。</p> <p>本授業で取り上げる内容は下記の通り。</p> <p>趣味に関する表現、将来の目標に関する表現（人称変化、前置詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-1	<p>ドイツ語初級文法の最初舗段階の修得を目指す。</p> <p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>自己紹介、趣味について（動詞の現在人称変化と語順）／生活の描写・持ち物について（名詞の性と格変化等）／動詞の活用・格変化／曜日・時間・年齢の表現（前置詞、再帰代名詞、再帰動詞等）／用事・希望・過去のことを話す（過去形、現在完了形、zu不定詞等）</p>	
	ドイツ語A 3-2	<p>ドイツ語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつドイツ語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>好みについて話す（形容詞の格変化、比較級、最上級）／部屋にある物について話す（関係代名詞、命令形）／仮定の話をする（接続法）等</p>	
	ドイツ語A 4-1	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、趣味、家族、職業、自分にできる事できない事等、自分の身の回りのことを表現することについて学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	
	ドイツ語A 4-2	<p>本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。ドイツ語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、映像や音声教材を通して、英語圏とは異なるドイツ文化圏の違いを知り、視野を広げる。</p> <p>主に、買い物での場面、欲しいものの表現、気持ちの表現、指示・依頼の表現等、自分の考えを伝える表現について学習する。</p> <p>ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、ドイツ語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、ドイツ語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ドイツ語B-1	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、挨拶について、バス・駅・鉄道、地図、レストラン、買い物、ホテルなど日常生活や旅行に役立つ表現を学習する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話で自己紹介をしたり、質問に答えたりすることができる。 ・辞書を用いて平易なドイツ語の文章を読むことができる。 ・日常生活の場面での簡単な質問や指示、話、アナウンスや短い会話を理解できる。 	
	ドイツ語B-2	<p>ドイツ語の短いテキストを精読しながら、初級文法をしっかりと身につけ、日常生活で使えるドイツ語運用能力を身につける。</p> <p>主に、ドイツ語圏に関する文章を読み、旅行計画を立て、プレゼンとディスカッションを実施する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い広告などから、自分にとって大切な情報を取り出せる。 ・簡単なものであれば、所定の用紙に記入することができる。 ・短い個人的な文章を書くことができる。 	
	ドイツ語C-1	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングを行う。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、個人ワーク、プレゼンテーションなどを通して、日常的なコミュニケーションを簡単なドイツ語でできることを目標とする。</p>	
	ドイツ語C-2	<p>既に持っているドイツ語の知識を、さらに発展させていく。</p> <p>授業は主にオーラルコミュニケーションと、語彙の学習、リーディングとリスニングを行う。併せて、日本とドイツの文化について説明する。</p> <p>街での案内や過去の出来事等について、ドイツ語を使用したコミュニケーションを学ぶことで、ドイツ語圏の文化に関心を持ち、ドイツ語のコミュニケーション能力を養成することを目的とする。</p>	
	フランス語A1-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、発音、綴り字と音声の対応、er動詞、etre, avoir, 数字、名詞のジェンダー等基本的な文法事項を学ぶ。</p>	
	フランス語A1-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。ヨーロッパ文化の一番面白いところを正確に理解し、楽しむためにもフランス語は有益なツールとなるだろう。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、ir動詞、動詞の活用、過去分詞、指示代名詞、単純未来等の文法事項を学ぶ。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	フランス語A 2-1	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、名前を言う・尋ねる・綴りを言う、職業・身分・国籍について、家族について、年齢の言い方、好みについて等、自分の事を話し、相手について尋ねる方法を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の発音ルールを身につけ、文字を見て発音できる。 ・基本語彙、基本表現及び文法を学習し応用することで、フランス語で身近な話題について会話ができる力を養う。 	
	フランス語A 2-2	<p>初歩的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に学習する。</p> <p>主に、用紙や服装について、交通手段について、時刻や値段の尋ね方、食習慣について等、コミュニケーションをとるために必要な表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ初歩的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 ・フランスとフランス語圏について紹介する。 	
	フランス語A 3-1	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、代名動詞、動詞の活用、強調構文、非人称構文、疑問形容詞、半過去、大過去等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 3-2	<p>フランス語は国際的コミュニケーション言語として重要な存在である。国連の作業語が英語とフランス語の二つだけであることから分かる通り、多くの場で重要性をもっている。また元々が英語の姉妹のような言葉であるため、フランス語の学習は英語のしっかりした理解にも役立つ。</p> <p>このような言葉であるフランス語の基礎を固めることが、この科目の目標である。</p> <p>国際的コミュニケーションのためのフランス語の基礎知識、初級文法、発音のルール、初歩的な語彙を使用した作文を学ぶ。将来のフランス語検定試験（仏検）や留学時に必要なDELFDALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。</p> <p>主に、指示代名詞、関係代名詞、現在分詞、比較級・最上級、条件法、接続法等の文法事項を習得する。</p>	
	フランス語A 4-1	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、習慣、日常の活動について、過去のこと・過去の習慣についてトピックを立て、学習する。</p>	
	フランス語A 4-2	<p>基本的なコミュニケーションに必要な、文法項目、語彙表現などを導入し、豊富な練習を通して初歩的なコミュニケーション能力の養成を目指す。授業は、コミュニケーションパターンを身につけるため、ペア、グループによる会話練習や、聞き取りの練習を中心に進める。</p> <p>本授業では主に、許可や禁止について、未来について、願望、比較、条件・仮定についてトピックを立て、学習する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	フランス語B-1	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、満潮時のみ島になるモン・サン・ミッシェルに関する論説文や、「よつば」などの日本の漫画のフランス語訳をとりあげ、初級文法を復習しながら、相手の言いたいことを的確に理解し、自分の言いたいことを的確に表現する自然なフランス語が基本的にどのようなものが体得することを目指す。	
	フランス語B-2	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、エッフェル塔やルーブル美術館について書かれた平易な論説文などをとりあげ、フランス語話者の書いていることの真意が実感をもって分かること、こちらからフランス語話者へ効果的に意思を通じさせられるような書き方（話し方）を身につける。	
	フランス語C-1	フランス語による国際コミュニケーションの実践への導入。フランス語による少し高度な日常的表現に挑戦する。 本授業では、ラグビーにおける国籍や観光地におけるフランス等の論説文などをとりあげ、ネットを使わなくても、ある程度の難易度を持ったフランス語の文章を読み聞きし、理解できるようにすること。フランス語話者とコミュニケーションし、ガイドできることを目指す。また、フランス語と英語の知識を結び付け、両言語でのレベルアップを目指す。 将来のフランス語検定試験（仏検）やフランス語圏（フランス、カナダ等）留学時に必要なDELF/DALF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の受験にスムーズに繋がるようなやり方で学習する。	
	フランス語C-2	総合的なフランス語力の一応の完成を目指す。フランス語でEメールを書き、ホットなラジオ・ニュースを聞き、論説文を読み、必要な文法知識の完成を目標とする。 フランス語による国際的コミュニケーション力を磨くため、また大学卒業後も少しずつフランス語力を自力で高めるようにするための体制を整えていく。フランス語と英語の知識が有機的に結びつき、両方のレベルが向上することを目指す。フランス語圏での勉強、仕事に必要なDELF/DALFの上の級に合格する態勢についても考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・読む、書く、聞く能力を伸ばし、話された言葉、書かれたテキストからできるだけ情報がとれるノウハウを体得する。 ・フランス語の基礎知識をしっかりと固め、生涯のスパンでのフランス語学習の展望を得る ・国際的コミュニケーションの言葉としてのフランス語の広がりを知る。 ・フランス語の知識と英語の知識を有機的に結びつけて、両方のレベルを向上させる。	
	ロシア語A1-1	ロシア語ネイティブの教員が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、ロシア語のアルファベットと発音、文法性、ロシア人の名前、簡単な現在形の肯定・否定・疑問文、形容詞、副詞、人称代名詞等、基礎的な知識や文法事項を学ぶ。	
	ロシア語A1-2	ロシア語ネイティブの教員が担当するA2-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考える。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 本授業では、名詞の複数形、現在形の動詞の人称変化、重要な不規則動詞、方向の表現、数字等、基礎的な文法事項を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	ロシア語A2-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 <p>本授業では、ロシア語の発音とアルファベット、挨拶、自己紹介、「これは何/誰ですか」「誰のものですか」等基本的な知識と表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A2-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、位置・場所の表現、時間についての表現、好みや能力の表現等基本的な会話表現を学ぶ。</p>	
	ロシア語A3-1	<p>ロシア語ネイティブの教員が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>名詞、人称代名詞の単数・複数、命令形、重要な不規則動詞、形容詞・名詞・代名詞の格変化、順序数詞等</p>	
	ロシア語A3-2	<p>ロシア語ネイティブの先生が担当するA4-1の授業と連携し、本授業ではロシア語初級文法と、ロシア文化についての知識の習得を目指す。映像や音楽などを通してロシア文化に触れる機会も、多くつくりたいと考えている。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリル文字を見て発音することができる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、書かれたロシア語を解釈できる。 ・最も基本的な語彙・表現の範囲内であれば、ロシア語で文を作ることができる。 <p>本授業では、下記の文法事項を学ぶ。</p> <p>重要な不規則動詞、再帰動詞、移動の動詞、時間表現、比較級・最上級、無人称文等</p>	
	ロシア語A4-1	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>金額を尋ねる、数字、好き嫌いについて、色の表現、所有物について等</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	ロシア語A 4-2	<p>ペアワークやロールプレイなど、インターアクティブな練習を繰り返し、基礎的な文法事項（ロシア語A1-1で学ぶ文法項目）を使った短い会話文を利用し、日常生活のなかで出会う表現を学んでいく。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を発音することができる。 ・日常会話でよく使われる初級ロシア語の表現や言い回しを理解し、使えるようにする。 ・以下のようなテーマに関し、教師やクラスメートと基本的なロシア語会話ができる。 <p>「あいさつと自己紹介」「物や人の場所を聞く／言う」「私の家族」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語に触れることによって、視野を広げる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>好き嫌いについて、方向・道案内、交通手段、天気や行動について過去形、未来形を用いた表現等</p>	
	ロシア語B-1	<p>ロシア語Aで学んだ文法の復習から、中級文法の習得を目指し、より高度な文法・表現の解説、その応用練習を行う。平易な会話の聞き取り能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の合間に、短く比較的簡単なテキストを読み、ロシア語の読解にも慣れる。 ・やや複雑な構文を使ったロシア語の文が読解できる。 ・基本語彙と平易な表現を用いてゆっくり話されるロシア語会話を、聞き取ることができる。 <p>本授業では、以下のような表現を学ぶ。</p> <p>時間の表現、数詞の格変化、仮定法、一般二人称、不定形の用法等</p>	
	ロシア語B-2	<p>実際にロシアに行ったら遭遇するであろうシチュエーションにおいて、ロシア語でどう表現すればよいか、実践的なロシア語の修得を目指す。</p> <p>シチュエーションごとの簡単な会話の聞き取り、ネイティブのナチュラル・スピードに耳を慣らす練習をし、会話内容の理解を通して、ロシア語Aの文法の復習・発展的学習を行う。</p> <p>実際にロシアに行った場合に最低限必要なフレーズや語彙を学び、自分の言いたいことを表現するにはどのような言葉を使ったらよいかを学ぶ。またこれを応用して、日本の状況についても説明できるようになる。</p> <p>日本と異なるロシアの生活・文化様式についても解説する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア旅行で最低限必要となる語彙・表現を用いて話すことができる。（空港・ホテル・両替所・ファストフード店等での場面で） ・ごく基本的な語彙・表現の範囲であれば、ナチュラル・スピードで話される内容を把握できる。 ・ロシア語でロシアに関する情報収集を自分で行える。 	
	ロシア語C-1	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは新聞・雑誌記事、インターネット上の書き込み等を例にジャンル、テーマ等問わずに幅広い種類の文章を読むことで読解力を鍛える等、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題にも取り組むことにより、辞書を使えば新聞レベルのロシア語テキストが読解できることを目指す。</p>	
	ロシア語C-2	<p>本授業では、ロシアの社会や文化に関する理解を深め、ロシア語AやBで学んだ内容を復習・応用しながら、読解力・聴解力を高めることを目標とする。</p> <p>授業では短めのロシア語テキストを数回ずつかけて読む。テキストは学術論文、文学などから、ジャンル、テーマ、書かれた時期を問わず、幅広く扱う予定である。</p> <p>複雑な構文を把握できるように、語学的な訓練を重ね、毎回少しずつ、ロシア語検定試験（ロシア連邦の国家試験TRKIなど）の聞き取り問題に取り組む。ナチュラル・スピードのロシア語の聞き取り能力を高め、また聞き取った文を自分で言えるようになることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語A1-1	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。 発音練習、常用表現、”是”構文、動詞述語文、完了表現他</p>	
	中国語A1-2	<p>中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得し、中国語の構文を理解した上で、正確な読解や表現ができる力を養うことを目標とする。</p> <p>まずピンインと呼ばれる発音記号にもとづき、声調を含めて正確な発音の方法を学習する。ついで基本文型に習熟するとともに、語法・文法の基本事項を学習し、平易な会話文や筆記文を理解する能力を身につける。読解力の向上を主眼とするものの、発音ができなければ外国語の勉強はつまらないし、中国語の場合、ピンインがわからないと辞書を引くこともおぼつかない。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・基本文型を理解し、500語レベルの基本語彙を使った文章を解釈することができる。 ・簡単な構文を理解し、500語レベルの基本語彙を使って文を作ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業の内容は下記の通り。 疑問視疑問文、形容詞述語文、近未来表現、方位詞、名詞述語文、動量補語等。ディクテーションや作文も行う。</p>	
	中国語A2-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいかから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話をするすることができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本授業で学習する内容は以下の通り。 発音練習、常用表現、国籍を尋ねる トピック：「町にはホテルもお店も銀行もあます」「どこで食事をしますか」</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	中国語A2-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>自分の発音に自信を持てるように発音練習に力を入れる。ついでさまざまな場面におけるコミュニケーションの方法を学習し、とくに会話能力の養成を図る。語法・文法事項の説明はできるだけ少なくし、スピーキング、リスニングの練習に多くの時間を割きたい。中国語にかぎらず、自分の使う外国語がネイティブ・スピーカーに通じた喜びは学習意欲を増す。習いたての片言の中国語でよいかから、発音や文法の誤りを気にせず、積極的に担当教員に話しかけて欲しい。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て発音することができる。 ・身近な話題について、500語レベルの基本語彙を使って話することができる。 ・500語レベルの基本語彙の範囲であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができる。 ・中国語検定試験準4級合格程度の力を養成する。 <p>本学で学習する内容は以下の通り。 交通手段を尋ねる、距離を表現する、日にち・月の表現 「お箸どうぞ」、「疲れたら休もう」、「北京は人も車も多い」</p>	
	中国語A3-1	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習する内容は下記のとおり。 結果補語、助動詞、疑問視の応用表現、方向補語、進行表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A3-2	<p>中国語の構文を理解した上で、正確な読解と表現ができる力を養い、中国語検定試験4級合格程度の力を養成する。A1-1/A1-2で学んだ語法・文法事項をふまえ、さまざまな補語など、やや複雑な語法・文法事項を学習する。中国語を運用する上で必要な語法・文法を習得する。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>授業で学習する内容は下記のとおり。 可能補語、比較表現、受身表現、使役表現など。 ディクテーション、作文練習も行う。</p>	
	中国語A4-1	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り 「車で来たので飲めません」 「午後に病院へ行くつもりです」 「いつから腹痛が始まりましたか」 「彼女は何をしていますか」</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語A4-2	<p>正確で自然な発音による中国語のコミュニケーション能力を養う。</p> <p>A2で学んだ中国語の発音に磨きをかけ、より自然な発音による会話練習を中心に授業を進める。一語一語の発音の正確さはもとより、一文としての発音の仕方にも留意すること。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンイン（表音ローマ字）を見て正確に発音することができる。 ・基本的な文法事項を理解し、1000語レベルの日常語を使った文章を解釈することができる。 ・やや複雑な構文を理解し、1000語レベルの日常語を使って文を作ることができる。 <p>本授業で学習するトピックス・内容は以下の通り</p> <p>「財布が見つかりました」 「壁に古い写真が貼ってある」 「このパソコンはあれより重い」 「1月1日を元旦と呼びます」 「私に切符を買わせて」</p> <p>スピーチ、暗唱などの練習を行う。</p>	
	中国語B-1	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 レストランでの会話、買い物の時の会話、大学の授業について、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語B-2	<p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。身近なトピックについて会話練習及びスピーチ発表を行い、中国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1500語レベルの日常語彙の範囲で、明瞭な発音であれば、話題の主要な内容を聴き取ることができる。 ・具体的な話題について、1500語レベルの日常語彙を使用し、的確に情報を伝え、自分の考えを説明することができる。 ・中国語検定試験3級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げる内容・トピックは下記の通り。 インターネットについて、恋人に関して、転職について、日本と中国の文化・習慣比較等</p> <p>作文、個人発表、グループ発表の機会を設ける。</p>	
	中国語C-1	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。</p> <p>授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話力を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学ぶ。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 ・日中両国の国際交流がどのように行われるべきかについて、自分の意見を持つことができる。 <p>本授業で取り上げる内容。トピックは以下の通り。 中国国内でのニュース報道に関するHPや、動画を講読・視聴し、ディスカッションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	中国語C-2	<p>より高度な中国語コミュニケーション能力を養成する。 中国語とその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある中国文化に対する理解を深める。 授業で使用するプリントは中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話を向上させる内容で、日本にいながら、中国における外国人と同じ題材で学ぶ。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・2000語以上の語彙で、いろいろな話題について高度な内容を理解することができる。 ・2000語以上の語彙を使用し、流暢に、また自然に自己表現ができる。 ・中国語検定試験2級合格程度の聴解力を身につける。 本授業で取り上げる内容・トピックは以下の通り。 生活と健康について、男女平等、環境保護と資源節約、ビジネス中国語（財務・国際入札・待遇） 中国社会のそれぞれの側面に触れながら、会話を向上させる内容。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。</p>	
	スペイン語A1-1	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・発音、数字、名詞の性、冠詞、規則動詞、tener/haverの用法等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</p>	
	スペイン語A1-2	<p>スペイン語の大事な最初のステップは動詞の活用にあるため、活用練習を繰り返し行い、ペア練習や小テストで単語や表現を定着させる。 基本単語の習得、動詞の活用の原則を理解し基本的な文法事項を身につけ、単語から文章への組み立てを習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・不規則動詞、前置詞、動詞の変化等初級文法の修得 ・日常的表現、基本的な言い回しが理解できる。 ・基本的文型を理解し、出身、家族構成、日常生活などについての文章を理解することができる。 ・簡単な語句や構文を使って短い文を作ることができる。</p>	
	スペイン語A2-1	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、人物描写、家族についての表現を学び平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 スペイン語の発音・数字・スペル、国籍の言い方、程度を表す表現、人の描写、家族・親族、定冠詞・不定冠詞、estar、規則動詞等</p>	
	スペイン語A2-2	<p>スペイン語の運用能力を養うため、ペアワークやグループワークで練習をし、スペイン語の初級文法と基本語彙の習得を目指す。 スペイン語の基礎単語の発音、初級文法の基本的な枠組みを理解し、街中の描写や、位置関係、日常生活を表す描写を学び、平易な文で話すことができるようになることを目標とする。 本授業では下記の文法事項・表現を学習する。 位置関係、Haverの用法、mucho/poco、大学内や周辺の建物・場所を表す動詞、交通機関、街中の描写、月と季節、現在進行形等</p>	
	スペイン語A3-1	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習する。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・基本的な個人情報他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 ・学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 ・学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 初習言語科目	スペイン語A3-2	<p>前期スペイン語A1から継続する科目である。引き続き初級文法の基本事項を学習する。動詞の活用の原則を理解し、文法事項を修得し、聞く、話す、書く、読むの四技能をバランスよく習得することを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接的／間接的人称代名詞、比較表現等初級文法の修得。 基本的な個人情報の他に買い物、好み、体調などを表す文章を理解できる。 学歴、経験、居住条件を簡単な文を使って説明できる。 学習した構文を使い、個人的な手紙を書くことができる。 	
	スペイン語A4-1	<p>スペイン語を学ぶなかで、異文化に触れる。</p> <p>スペイン語の正しい発音及び初歩的な会話の修得を目標とし、ペアワークやグループワークを通じて会話の練習をしながら、単語や表現力を定着させる。</p> <p>スペイン語の文章を正しく発音することを目標とする。</p> <p>天気や住居のこと、料理のレシピ、レストランでの会話などについて学び、ゆっくり話される身近な話題についての簡単なことを尋ねたり、答えたりできるようになることを目指す。</p>	
	スペイン語A4-2	<p>A3での文法の授業の内容とも関連した実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。グループによるゲーム、オーラル練習を通して単語を増やし、DVD教材などでスペイン語の表現を学び会話をステップアップしていくことを目標とする。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> アルファベットを見て正しく発音することができる。 自分の背景や身の回りの状況を簡単な言葉で話すことができる。 短いはっきりとしたメッセージ、アナウンスの要点を聞き取ることができる。 	
	スペイン語B-1	<p>新しい文法事項を導入し一年次の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再帰動詞、関係詞、直接法現在完了等新しい文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語B-2	<p>新しい文法事項を導入し一年時の基本的な文法事項をもっと深く学習し、文法の定着をはかることを目標とする。</p> <p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接法過去完了、命令形、無人称表現等新しい文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	
	スペイン語C-1	<p>DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。</p> <p>聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 接続法現在、命令形、接続法現在完了等の文法事項の修得。 学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 経験や印象を書くことができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	初習言語科目	スペイン語C-2	DVD教材などでスペイン語の口語表現、慣用表現などを学び、スペイン語をツールとして、スペイン語圏の多様な文化について学ぶ。 聞く、話す、書く、読むの四技能をよりバランスよく習得できることを目指す。 具体的な学修目標は、以下のとおり。 ・接続法過去、条件文、接続法過去完了等の文法事項の修得。 ・学校、旅行、日常生活などで起こったこと、推測、希望が表現されている文を理解できる。 ・身近な話題についてつながりのある文を作ることができる。 ・経験や印象を書くことができる。	
		日本語A1-1	本授業は日本語レベルが初学者一初級前半の留学生対象の日本語科目で、日常生活で使われる日本語の基礎的な文法と語彙を学び、日本語で基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。	
		日本語A1-2	文法を中心として日本語の基礎を学ぶ。 文法に対応した練習問題のほかに、会話文のリスニング、少し長い文章のリーディングをペアワークやグループワークのなかで取り入れ、色々な練習を通じて日本語の文や表現に触れることで、日本語初級文法の基礎的な枠組みを理解し、平易な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A2-1	文法の授業で学んでいる知識を応用して、現実的な場面で使える日本語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、駅、銀行、食堂、百貨店などで最低限の会話ができるようになることを目指す。	
		日本語A2-2	これまでに学んだ知識を応用して、現実的な場面で使える日本語会話の基本的な表現を身につける。日常でよく使われる表現を中心に構成されたテキストを用いながら、比較的少数の語彙・文法的知識を駆使して簡単な会話をこなしていくテクニックを身につけていく。あまり細かい規則に拘らずに、取り敢えず日本語で“何が”言えるための実用的な表現法を紹介する。 基本的な語彙の範囲内であれば、ゆっくり話される内容を聞き取ることができ、研究室などで最低限の会話ができるようになることを目指す。	
		日本語A3-1	本授業は日本語レベルが初学者一初級前半の留学生対象の日本語科目で、日常生活で使われる日本語の基礎的な文法と語彙を学び、日本語で基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。	
		日本語A3-2	日本語の会話ができ、かつ日本語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A4-1	日本語の発音規則を理解し、単語を正しく発音でき、かつ日本語初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文を読んだり書いたりできることを学習目標とする。	
		日本語A4-2	本授業では、発音にはじまり、日常生活の場面で用いる会話表現を学ぶ。日本語の決まり文句、日常表現や旅行で使える会話表現を習得しながら、日本文化に触れ、視野を広げる。 ペア、グループ、クラスなどさまざまな作業形態で、日本語の話す、聞く、読む、書く能力をバランスよく養成し、日本語の基本語彙や表現を用いて口頭で表現できるようになり、基本語彙の範囲内であれば聞き取れるようになることを学習目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自由履修科目	石川県の行政	<p>本授業では、石川県の行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことにより、地方自治体が取り組む政策課題と、課題に対処するために政策が形成されて実施・評価されるプロセス（政策過程）についての理解を深めることや、地方自治・行政に関連する基礎的および実務的な知識を習得し、自ら地方自治や政策課題について深く考えることができるようになることを目的とする。</p> <p>また公務員志望の学生については、行政の現場で活躍する関係者の生の声を聞くことで、将来のキャリア形成の参考になることを期待する。</p>	
		石川県の市町	<p>本授業では、石川県の市町からのゲストスピーカーの話の聞くことで、石川県の市や町が抱える課題を理解し、その課題解決の方策や、今後の大学や学生と地域との連携のあり方を考え、各市町に提言を出せるようになることを目的とする。</p>	
		健康論実践D	<p>本授業では、調理実習等気づきをもたらすような様々な講義、実習を通して、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
		健康論実践E	<p>本授業では、角間の里において多彩なゲストスピーカーとの共同作業やグループワークを通して、教育実習や就職活動、日常の人間関係に役立つ内容を学ぶ。健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができることや社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神等を修得することを目的とする。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、損害保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、損害保険の種類（火災保険・地震保険・自賠責保険・自動車保険等）とその概要について学ぶ。</p>	
		現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	<p>さまざまなリスクに対処する保険の役割は、現代社会において不可欠なものとなっている。</p> <p>本授業では、生命保険や社会保険の仕組みを学び、「保険」というシステムの役割と課題について理解することを目的としている。具体的には、社会保険の種類（医療保険・年金保険・介護保険・雇用保険・労災保険等）とその概要と、生命保険におけるライフプランニング設計について学ぶ。</p>	
		クラウド時代の「ものグラミング」概論	<p>Society 5.0時代を迎えるにあたって、これまで個人が余暇に楽しんでいた「ものづくり」と、仕事や趣味などで行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではなくなる。それらは渾然一体となって、相互に連携し、利活用可能となる。このような社会で必要となる技法を、「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現している。</p> <p>この「ものグラミング」こそが、Society 5.0に向けた人材に必要な技法であると考え、この技法を、講義と実習を通じて学ぶことを本授業の主題に据える。</p> <p>本授業では、手元で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを講義と体験を通じて述べ、「ものグラミング」全体の理解を受講者に促すことを目的とする。</p>	
		シェルスクリプト言語論Ⅰ	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10, macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>「POSIX環境におけるシェルスクリプト」によるプログラミング手法を通して、パソコン操作の基本から、情報科学に関する基礎知識を学ぶとともに、シェルスクリプトを使った実習によって、ビッグデータ処理やIoT機器を操作などの作業ができるようになることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	シェルスクリプト言語論Ⅱ	<p>本授業では、古くから存在し、今もほとんど変わること無く使用できる「POSIX環境におけるシェルスクリプト」を使ったプログラミング手法について学習をしていく。シェルスクリプトは、UNIXやLinuxと呼ばれるOSにおいて、システム操作などにも使用されるもので、多くのコマンドから形成されるものであり、古くから変わらず存在するため、これから先も長く使用可能である。また、シェルスクリプトは、プログラミングに限らず、LinuxやWindows10, macOSなどをコマンドから操作するときに使用可能であり、シェルスクリプトを十全に使用できるようになると、研究活動を始めとする、さまざまな業務処理に、これまでとは違う視点からの作業環境を与えることができる。</p> <p>POSIX環境におけるシェルスクリプトについて新しい視点で学ぶとともに、「Win/Mac/UNIXすべてで25年後も動く普遍的なプログラム」を書く方法について会得し日頃の問題解決に適用できるようにすること目的とする。</p>	
	地元学A（地域資源調査）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークの基礎的な知識や技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	地元学B（聞き書き）	<p>この授業では、フィールドワークによる体験的学習を通じて、フィールドワークに最も重要である、聞き込みの知識と技術について学ぶ。金沢大学門前町をフィールドとした地域の宝探し調査によって、ヨソ者の視点からこの地域の魅力を発見し、地域住民に報告する。</p> <p>地元学調査手法について体験的に学習し、その知識と技術の習得及び地元学調査を通して、金沢大学門前町の地域資源を発見することを目的とする。</p>	
	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」演習	<p>近年では、インターネット上に大量の情報が集積され、これらを活用するサービスも用意されている。一方、小型のコンピュータ等が安価に普及し、これまでは手軽には手の届かなかった機器が当たり前のように利用できる。このような時代にあっては、従来なら個人が余暇に趣味で楽しんでいた「ものづくり」と、日常の仕事で行ってきた「パソコン上でのさまざまな操作」と、インターネット上で誰かが開発して提供している「さまざまな情報サービス」は別々のものではない。このような世界で必要となる技法を「ものづくり」と「プログラミング」をかけあわせた「ものグラミング」という言葉で表現する。</p> <p>本授業では、「ものグラミング」のもとで、手で動く小さな「モノ」が徐々に発展しクラウドと連携するまでと、クラウド上の大量の情報やサービスが手元の小さな「モノ」に影響を与えるまでを理解し、併せて、POSIX環境におけるシェルスクリプトを用いてプログラミングなどについて学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう1	<p>「イノベーション」を生み出すメソッドとして世界的に注目を浴びている「デザイン・シンキング」（前例の無い問題や未知の課題に対し、最適な解決を図るための思考法）を中心に、「イノベーション」の核となる「クリエイティビティ」について理解する。</p> <p>本授業では、「デザイン・シンキング」の基本的なプロセスを理解し、複数のワークショップを実施することで、クリエイティブな考えを生み出すということ等を体感的に理解し、習得することを目的とする。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう2	<p>本授業では、大学の内外で行われている起業に関連したイベント・研修紹介や起業家との対話を行い、イノベーションや起業、海外経験の重要性について学ぶ。また、身に付けるべきスキルや研修機会について理解した上で、キャリアアップを図ることを目的とする海外留学計画を実際に自身で立案することにより、長期的なキャリアの形成についても学ぶ。</p>	
	イノベーションを起こして、起業家になろう3	<p>情報産業（IT/ICT）は、近年は電子機器（ハードウェア）と密接に関連することで、IoT（モノのインターネット）やAIという形で、新たな産業の核となりつつある。これらの分野では、テクノロジーという理系的な視点だけでなく、価値あるサービスを見出し創造するという文系的な視点も重要になる。</p> <p>本授業では、ハードウェアの試作（プロトタイピング）の習得と、それを用いたアイデア出しと試作による具体化のサイクルを通じたデザイン・シンキングを実践し、その知見を積むことを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	イノベーションを起こして、起業家になろう4	<p>少子高齢社会となった先進諸国において、高齢者の生活を効果的に且つ低コストで支える仕組みづくりが多方面から求められている。中でも高齢者の健康問題は重要課題であり、健康寿命を延ばす医療の制度、技術、サービスの革新が期待されている。</p> <p>本授業では、現代日本における超高齢社会やそれを支える医療の現状と課題を理解し、課題解決方法の1つである医療機器・サービスの技術革新について学ぶことにより、高齢者医療を取り巻く社会的環境や多様な課題を理解し、グループワークを通して、課題解決に向けた新しい手法を主体的且つ具体的に導き出すことを目的とする。</p>	
	香りと日本文化	<p>日本三大芸道の一つである香道。香道は日本独自の香りを楽しむ芸術で、約1500年前にその歴史は始まり、約500年前には現存する形となった。</p> <p>本授業では、この香道を切り口に、日本文化への理解を深めていくことを目的とする。</p>	
	心と体の健康A	<p>社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体との関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。</p> <p>本授業では、一元論と二元論の考え方や認知等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。</p> <p>人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	心と体の健康B	<p>社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神とはそもそも何であるのか。心と体、脳と身体との関わり合いはどうなっているのか、外界を認識している「私」とは何であるのか。</p> <p>本授業では、音楽や神経経済学等をテーマに、体験的に科学的に理解を深めていく。</p> <p>人の意識と心の捉え方を科学的に再認識し、自分を見つめる力を養うとともに、これからの人間的成長の基盤を形成し、健康な心と身体があつてこそ、学業や学生生活を楽しむことができること、社会生活において重視される自己管理能力、コミュニケーション能力、他者援助精神を習得させることを目的とする。</p>	
	未来デザインプラクティス	<p>将来、地球温暖化などの全世界的な課題を解決するためのプロジェクトや、地域をより良くするための様々な取り組みに参加する際に、自ら自分たちの“未来をデザイン”し、効果的なプロジェクトを企画し、チームのリーダーやメンバーに提案（プレゼン）し、様々な背景を持つ仲間とコミュニケーションを取りながら、その実現に向けて進んでいくことが想定される。</p> <p>本授業は、その“プラクティス”（練習・実践）として、金沢大学の学生が参加できるプロジェクトやイベントを企画し提案することを主題とする。</p>	
	道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	<p>本授業では、日本の「特別の教科 道徳」、イングランドおよびデンマークでの「宗教」科目を対象として、各国の教育過程での位置づけ、教育内容、評価方法を紹介し、類似点、相違点を中心に討論を行うことで、学生の道徳教育、宗教教育の世界におけるあり方についての知識・理解を深め、そのことについて考えるきっかけを与えることを目標とする。</p>	
	金沢の歴史と文化	<p>金沢市内にはその歴史と文化を伝えるさまざまな石川県や金沢市の施設が存在し、観光施設としてだけではなくさまざまな役割を担っている。</p> <p>本授業では、そうした施設を訪ねてその担当者から直接に施設の概要・役割や職員の仕事内容等を聞き、また各施設やその所蔵品などを見たり、触れたり、体験したりすることで、金沢の歴史と文化を多面的に理解するとともに、こうした文化施設の有効性や今後の文化行政のあるべき姿等を考えることを目的とする。</p>	
	日本の伝統芸能	<p>本授業では、日本の伝統芸能の一つである能楽（能と狂言）を通して、日本の伝統文化について学ぶ。具体的には、三味線や篠笛等、伝統楽器の体験や、能や狂言の歴史的背景の学修により、日本文化への理解を深めることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	地域創造学特別講義C	労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、適正な労働時間や、行政から見た労働、ブラック企業等について講義する。	
	地域創造学特別講義D	本授業では、労働とは何か、労働者はどのような条件の下で働き、どのような権利を有するのか、また働いていくなかで直面する様々な現実的かつ具体的諸問題は何か、そうした諸問題を解決するのに資する労働者の連帯組織としての労働組合とは何であり、現在においてどのような意義と役割を有するのか、そして、こうした人々の労働と労働者の連帯組織である労働組合が、地域社会の創造においていかなる意味を持ちうるのか、などについて講義を通して、理解を深めることを目的とする。 本授業では、男女共同参画や労働組合の基礎知識等について講義する。	
	日本国憲法概説	本授業では、人としての基本的な権利や民主政治の講義を通して、日本国憲法の基本的な解釈・考え方を学ぶことにより、憲法の目的や人権、統治機構の基礎を理解することを目的とする。	
	日本史要説	本授業では、日本の歴史を古代から近現代に至るまで、政治・経済・社会・文化・宗教のみならず、民衆史、女性史などを含めて、相互の関連性に基づいて通観し、その過程において、周辺民族の歴史および関連性、東アジアおよび世界各地との関係性についても講義することで、日本の古代から近現代に至る、政治・社会・文化の変化の特徴と普遍性をどのように捉えたらよいか。また、世界史、特に東アジアとの関係における歴史的意義をどのように捉えればよいであろうかといった課題に対する理解を深めることを目的とする。	
	東洋史要説	本授業では、中国を中心にして東アジア文化圏の歴史を古代から現代までを通観し、東アジア文化圏の歴史的特質を明らかにすることにより、「東アジア、とりわけ中国や朝鮮半島における政治・社会・文化の特徴は何処に見いだせるであろうか」や「世界史のなかでの東アジアの歴史的特質と歴史的意義をどのように捉えればよいであろうか」といった課題に対し、本授業を通して理解を深めることを目的とする。	
	ソーシャルビジネス概論	本授業では、ソーシャルイノベーションの創出について体系的な理解を促進するとともに、ソーシャルビジネスの基礎知識を教授する。 ソーシャルビジネスとは、社会的な課題の解決をビジネスに結び付けて持続性を維持する事業である。ソーシャルビジネスの概要について理解するとともに、自身のキャリア形成のためにその意義を学修しながら、ソーシャルビジネスの実現可能性について議論する。	
	行政学の基礎	本授業では、行政とは何かや行政の範囲、国や地方の行政の違い等の講義を通じ、行政のしくみやはたらきについて学び、行政現象に関する基本的な事柄を、受講者に認識させ考えさせることを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり春編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、春の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	
	ゼミ／角間の里山づくり秋編	本授業は、創立五十周年記念館「角間の里」において行う講義と角間キャンパス内の里山で行う里山づくり体験から構成する。本授業における里山づくり活動は、秋の里山を対象とし、里山自然学校が取り組む里山活動のほか、受講学生のアイデアを生かした独自の里山づくり活動を行う。角間の里山自然学校の取り組みについて理解するとともに、里山保全活動や里山づくり活動を体験することによって、我が国における里山の独自性と持続可能な発展における里山の重要性について学習することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	コーヒーと社会	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、SDGsや社会・文化とのかかわり等について講義する。	
	コーヒーと科学	嗜好飲料として世界中で消費されているコーヒーを通じた世界の歴史と文化、さらに生産、流通やもとなるコーヒー豆の栽培など、コーヒーに関連する社会的状況を多様な角度で考える。 本授業では、コーヒーにかかる抽出や焙煎、化学や健康等について講義する。	
	能登・地域活性化演習Ⅰ	本授業では、能登地域における様々な社会課題についてフィールドワークを通じて学修し、里山里海を維持しつつ持続可能な社会構築の可能性を探求し、能登地域の里山里海の実態を把握するとともに、地域課題を解決すべくソーシャルイノベーション創出の実現性を教授することで、能登地域の里山里海の実態を理解し、持続可能な社会基盤の構築に向けて様々なステークホルダーからの視点を踏まえ、自分なりの考えを構築することを目的とする。	
	能登・地域活性化演習Ⅱ	本授業では、能登地域における様々な社会課題について学修し、課題解決に向けた自らの考えを構築することを主題とする。 能登地域における様々な社会課題について網羅的な理解を促進するとともに、解決に向けた基礎知識を教授することで、能登地域における様々な社会課題を理解し、その解決に向けた自分なりのアイデアを構築することを目的とする。	
	地学実験	わが国日本海側のほぼ中央に位置する金沢には、約2000万年前に始まる日本海の形成から現在にいたるまでの自然環境のうつりかわりが地層の中に記録として閉じこめられている。 本授業では、金沢の恵まれた地質資産を存分に活かし、これらの地層が分布する場所を実際に野外実習で訪れたり、自分で採集してきた岩石や化石を、実験室の中で顕微鏡を用いてさらに細かく観察したり、分析用試料を作成したりすることで、金沢の自然環境の地質学的なうつりかわりを理解するとともにいまの自然環境について考えることを目的とする。	
	生物学実験	本授業では、現在、生物がどのように分類されているか、それはどのような基準に基づいて行われているか等、細胞や動物・植物などの個体や組織・器官の観察、細胞が行う化学反応の観察、生態系や共生・寄生といった生物間の相互作用などを通して、生物の構造と機能の関係、生物集団の特性等を理解するとともに、さまざまな進化段階にいる生物を材料にすることで、授業で観察している材料が全生物界の中で、どのような進化的位置にいるのかを理解することを目的とする。	
	海洋生化学演習	生化学実験では、既存の操作方法を重視し、原理をあまり理解しないで実験を行う学生が多い。しかし卒業論文実験では、既存の方法だけでは成功しない例が多い。 本授業では、海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行うとともに、特に原理を重視した教育・指導を行い、実験の原理を理解し、実験を進めるといふ姿勢を習得させることを目的とする。	
	地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	地域の各界で活躍するリーダーの取り組み、考え方や見方を理解すること、現在社会で起きている問題等を理解し地方創生人材として活躍するイメージを形成すること、講師の活動を知る・覚えるだけの教育ではなく、主体として自ら学ぶ姿勢を育成することを目的とする。 本授業は、信州大学と富山大学、金沢大学との連携・交流型で実施し受講者をグループに分け、グループごとのワークショップ形式で授業を進める。	
	地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	地域社会を牽引しているトップリーダーの語りから地域の未来を理解し社会が求める人材像について考えること、地域の魅力、地域社会の今後の可能性について考え、地方創生に対する新たな視点を獲得すること、学生同士が意見を交換するワークショップを通じて、自らの社会との関わり方について考えることを目的とする。 本授業は、信州大学と富山大学、金沢大学との連携・交流型で実施し受講者をグループに分け、グループごとのワークショップ形式で授業を進める。	
	ローカルキャリアデザインⅠ	ローカルキャリアデザインは、「地域で働く」「地域に暮らす」ことに焦点を当て、地域にある人や組織に貢献する取り組みを体験的に学修することを通じて、どのように地域で働きたいか、生きたいかをデザインすることを授業目標としている。地域での働き方を理解しつつ、受講者の自己成長にも重点をおいて開講される演習科目であり、「ローカルキャリアデザインⅠ」では学生と地域を繋ぐ企画づくりを中心に学修する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	ローカルキャリアデザインⅡ	ローカルキャリアデザインは、「地域で働く」「地域に暮らす」ことに焦点を当て、地域にある人や組織に貢献する取り組みを体験的に学修することを通じて、どのように地域で働きたいか、生きたいかをデザインすることを授業目標としている。地域での働き方を理解しつつ、受講者の自己成長にも重点をおいて開講される演習科目であり、「ローカルキャリアデザインⅡ」では開講科目では学生と地域を繋ぐ企画運営を中心に学修する。	
	環境動態学概説Ⅰ	本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにもなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義とおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。 「環境動態学概説Ⅰ」ではプレート・テクトニクスとそれにもなう自然災害問題を主に扱う。	
	環境動態学概説Ⅱ	本授業では、地球環境とその動態、すなわち時間と空間のさまざまなスケールにおける地球環境の変動を理解するため、グローバルテクトニクスの基礎とそれに関連する地震、津波、火山噴火などの自然災害についてまず解説する。ひきつづいて地下資源や気候変動といった地球環境にとって喫緊となっている話題に触れる。さらに、人類を現在の地球生物圏を支配する一動物としてとらえ、その誕生から進化の過程を説明することで、プレート・テクトニクス理論とそれにもなうさまざまな地学現象や自然災害、地下資源、海洋環境変動、ヒトの進化と本質、などをこの講義とおしてまず理解し、そのうえで、その理解にもとづき、地球上に存在するさまざまな環境の時間と空間の中での動的変化の実態を考えることを目的とする。 「環境動態学概説Ⅱ」では地下資源とヒトの問題を主に扱う。	
	Pythonデータ分析入門	近年の情報化社会において、人工頭脳の発展もあり、一般社会においてもデータを分析する機会が増えている。日常生活にも、様々なシステムが利用されており、様々な多くのデータが蓄積されている。データ分析を行うことで、集まったデータをもとに推測したり予測を行い、物事の因果関係を分析したり、シミュレーションを行うことが可能になる。 解析した内容から、アイデアを生み出したり、ある仮説を立てたり、マーケティング等に利用することで、企業のビジネスに活かせることも多い。それに伴い、多くのデータから何かを導こうとするデータサイエンスの存在感が増してきている。 本授業では、プログラム言語としてPython言語を利用して、サンプルデータを用いて、データ分析の実習を行い、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることで、Python言語の基礎的な知識を理解し、データ分析を行うことが可能となり、ビッグデータの扱い方、データ分析手法、データサイエンティストの基礎的な知識を身につけることを目的とする。	
	プレゼンテーション演習A	現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。 本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となることを目的とする。	
プレゼンテーション演習B	現代社会では、自分の主張を分かりやすく表明し、人に伝えるプレゼンテーション技術は、必要不可欠なものである、社会全般の普遍的スキルといえる。 本授業では、プレゼンテーションを必要とされる様々なシチュエーションを課題として準備し、プレゼンテーションの準備と発表を学ぶことで、プレゼンテーションを行うための基礎的な理論・知識を獲得し、プレゼンテーションの準備・実践が可能となるとともに、PowerPoint等を使用したプレゼンテーション用資料の作成スキルの獲得や様々なシチュエーションに合わせたプレゼンテーションを準備・実践ができることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	コンピュータグラフィクス演習Ⅰ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィクス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィクスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>コンピュータグラフィクスの基礎やアピアランス、文字とフォント等について講義する。</p>	
	コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	<p>コンピュータで扱える所謂「画像ファイル」は、図表の形態としてポピュラーなものとなっている。</p> <p>本講義では、コンピュータで扱う画像「コンピュータグラフィクス」についての基礎知識を学習し、その作成・活用について学ぶ。</p> <p>コンピュータグラフィクスの作成実習は、Adobe Illustrator を使用し、テキストに掲載された作例を実際に製作してみることで操作の基本を習得し、その応用により独自の作品を制作する。</p> <p>プレゼンテーション等、図画を使用して他人との意思疎通を図る場面において、見やすく分かりやすく、かつ印象的な資料作成が行えるレベルを目指す。</p> <p>演習Ⅰで学んだ基礎を基に練習課題を行うほか、3DCADによる作画等を学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習A	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。</p>	
	動画配信サービスを用いた情報発信演習B	<p>近年、動画配信サービスを使った様々な番組が作られている。これが情報発信の新しい形として、定着しつつある。</p> <p>動画配信サービスを運営している事業者、情報メディア以外の各種企業、フリーランスの記者、芸能人、個人にいたるまで、このサービスを用いて、様々な情報を配信するようになった。</p> <p>本授業では、この動画配信サービスの仕組みを学び、多くの人に見てもらえる動画を作成、放送する。動画作成では、予め用意された企画書をもとに、コンテンツ作成、実際の撮影・配信をグループ活動で行う。</p> <p>なお、企画段階に視聴者数や評価に数値目標が設けられているので、それを越えることを目指す。</p> <p>この作業を通じて、新しい情報発信の方法とそれによって得られる影響について学ぶ。さらに、「単に動画を作れば良い」と言うのではなく、作業毎のアウトカム作成に重点をおき、社会・企業の中で求められている（であろう）、プロジェクト立案・推進の方法も学ぶ。</p>	
	Society 5.0概論A	<p>日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、Society 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety 5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。「Society 5.0概論A」では日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、説明できることを目標とする。</p>	
	Society 5.0概論B	<p>日本政府が謳っているSociety 5.0がどのようなものかを理解し、Society 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを考える。</p> <p>授業はSociety 5.0に向けた人材に必要とされる、さまざまな知識や技能について、紹介していく。「Society 5.0概論B」ではSociety 5.0に向けた人材になるために必要な知識や技能にどのようなものがあり、どのように身につけていくべきかを説明できることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	英語セミナー	<p>この授業は、英語の文法や語彙をよく理解し、実生活の中で英語を学ぶことに興味のある学生を対象とし、一般的なトピックについて英語で意見を交換できるようになることを目標とする。</p> <p>授業では、意見を伝えるためだけでなく、他者と同意したり反対したりするためのフレーズや表現を学び、学んだ表現等のテクニックを用いて、導入したトピックについて、ディスカッションする。</p> <p>題材には、配布物、記事、TEDプレゼンテーションを使用し、様々なトピック、例えば、幸せについて、環境、本、映画、健康とフィットネス、社会問題を取り上げる。</p> <p>ディスカッションは少人数のグループで行い、全て英語で進行する。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を主に、特にワールドミュージックとは何かから始め、カリブ海の歴史・現状とその音楽等の視点から、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ゼミ／アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	<p>音楽を聞いて楽しみながら、世界のアフリカ系人のありのままの姿に触れ、21世紀の日本の若者に必要な、アフリカについての知識を得、アフリカを総体的に理解する。</p> <p>たとえばアルジェリア西部に起源をもつポップ音楽「ライ」は民俗音楽という枠を遥かに越えて大変モダンな音楽となり、フランスをはじめとするヨーロッパ諸国でも人気を得、アラブの枠を越えた支持を得ている。日本ではフランス語情報を活用できる人が極端に少ないためにほとんど知られていないため、アラブ理解にもヨーロッパ理解にも支障がでている。</p> <p>本授業では音楽学的研究・分析は行わず、世界各地のアフリカ系の音楽を、特にコンゴとリンガラ・ポップやアフリカと日本の世界音楽について、世界音楽の問題等に主点を置き、現時点の世界の実情を多様な角度から観察していくことを目的とする。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-1）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、以下のような文法事項等を学習する。</p> <p>初級文法の確認、再帰代名詞、zu不定詞、形容詞の格変化、受動態、関係代名詞等</p>	
	ドイツ語A（充実クラスI-2）	<p>ドイツ語の初級文法の枠組みを理解し、やや複雑な文章を読み書きできるようになる。また、ドイツ語圏の文化の基礎知識を習得する。</p> <p>本授業では、主に以下の内容を学習する。</p> <p>文法事項の確認・練習、ドイツ語テキストの講読・読解</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-1）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（趣味、家族、職業、買い物等）を読み進めながら、その内容についてドイツ語で話し合い、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	
	ドイツ語A（充実クラスII-2）	<p>話す・聞く練習以外にドイツの生活に関するトピック（ほしい物、自分の部屋、家事、好きな食べ物等）を読み進めながら、その内容についてドイツ語で話し合い、自然なスピードで文章を聞き取る能力の向上を目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 自由履修科目	フランス語A（充実クラスI-1）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>フランス語の文字と発音、基本語彙、冠詞、etreとavoir、第一群規則助動詞とfaire、文型SVAとSVO、形容詞、prendre等</p>	
	フランス語A（充実クラスI-2）	<p>フランス語の運用能力を養うための、基礎知識の徹底理解と確実な定着を目指す。</p> <p>フランス語を習得するために、初級での学習項目のうちの最も重要な点に集中して、フランス語知識の基礎固めのための練習を行う。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 基本的な構文を理解し、それにのっとったフランス語文を作ることができる。 <p>本授業では、以下の文法事項等について学習する。</p> <p>第二群規則動詞、direと文型SVOO、代名詞、rendreと文型SVOA、直接他動詞と間接他動詞、複合過去等</p>	
	フランス語A（充実クラスII-1）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、職業・身分・国籍について、住んでいる所、アルバイト、交通手段、ペット、科目や教科等についてトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	
	フランス語A（充実クラスII-2）	<p>フランス語による初歩的なコミュニケーションの練習を行う。</p> <p>フランス語A1/A2の学習内容を復習し定着させることで、初歩的な口頭のコミュニケーション能力をしっかりと身につけることを目指す。授業では、各項目のコミュニケーションパターンや語彙を確認した後に、聞き取りやペアワークによる口頭練習を行う。また、フランスのコミュニケーション文化についても適宜説明する。</p> <p>本授業では、家事・余暇・習慣・週末/休暇の予定、地理について、過去について等をトピックとして取り上げる。</p> <p>具体的な学修目標は、以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綴り字と発音のルールを身につけ、文字を見て正確に発音できる。 基礎的な文法事項を応用し、身近な話題について、基礎的な語彙を使って話をするができる。 授業で学んだ基礎的な語彙の範囲であれば、ゆっくり、はっきりと話された内容を聞き取ることができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	中国語A（充実クラスⅡ－1）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。また、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課す。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 中国語の発音、キャンパス・学食での会話、コンビニや喫茶店での会話等</p>	
	中国語A（充実クラスⅡ－2）	<p>A1/A2で学習した文法事項と語彙を定着させ、中国語によるコミュニケーションの基礎能力の向上を目指し、中国語の学習を通して、言語運用の知識を身につけると共に、背景にある中国文化についての理解を深める</p> <p>身近なトピックについて会話練習を行い、それぞれのトピックに必要な単語と常用語句の予習を課する。一つのトピックについて二週間にわたってトレーニングを行う。テキスト及び配布資料を学習し、教員及び他の受講生からの質問を受けながら、会話練習を行う。話した内容を文章にまとめ、スピーチにて発表する。</p> <p>具体的な学習目標は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A1/A2で学習した語彙と文法を再確認し、確実にその内容を身につける。 ・1000語レベルの日常語彙の範囲で標準的な話し方であれば、話題の要点を理解できる。 ・身近な話題について、1000語レベルの日常語彙を使用し、情報や考えなど伝えたいことを話すことができる。 ・中国語検定試験4級合格程度の聴解力を身につける。 <p>本授業で取り上げるトピックは以下の通り。 居酒屋・中華料理屋での会話、タクシー乗り場、電車の中での会話、電話をかける、温泉旅行について等</p>	
専門教育科目	アカデミックスキル	<p>入学者に対し、大学で学ぶ上で欠かすことのできない主体的・自主的学修への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学修に導くことを目標とする。さらに、学生と教員及び学生相互のディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学修デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。</p> <p>①自ら課題を発見し、それを調べて、まとめることで、学修デザイン能力と論理的な思考力を向上させる。</p> <p>②ディスカッションやプレゼンテーションを学修することで、自己表現能力を向上させる。</p> <p>③他者とのディスカッション、レポートの作成等を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる。</p>	
	プレゼン・ディベート論	<p>アカデミックスキルの内容を踏まえ、調査・研究を展開するとともに、成果をいかに効果的に発表し議論するか、という視点を導入して演習を行う。学生は、本授業を通して、発表・討論に必要な技術・能力を習得出来ることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下の能力の向上を図る。</p> <p>①他者との議論やプレゼンテーションを通じて自己表現能力を向上させる。</p> <p>②ディスカッションやレポートの作成を通して、話す・聞く・書くなどの日本語能力を向上させる。</p> <p>③教員の指導や文献調査等を通じて、論理的な思考力や実証力を向上させる。</p>	
	イノベーション基礎	<p>「経済の発展は、経済の循環とは性質を異にするもので、そこには循環に見られる連続的な均衡状態はなく、非連続的・断絶的な様相を呈する」という前提のもと、いかに現在の社会経済においてイノベーション創出が重要であるかを受講者全員で認識する。その上で、顧客創造、新市場開拓、市場拡大、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	学域GS言語科目	数理・データサイエンス基礎及び演習	数理・データサイエンス・AIの基礎的な内容について修得するため、データサイエンス数理、アンケート調査設計とデータの集計、データの構造や要因の特定、統計的仮説検定等から学修する。 データサイエンス数理についてしっかりと学んだ上で、関心のある問題についてのアンケート調査及びその調査票を設計し、実際にアンケート調査を実施する。そして、Python もしくはエクセルなどを用いて、収集したデータを集計し、その構造を分析する。さらに、対象とした問題に関連する要因を特定したり、問題の仮説を統計的に検定したりすることで、データの総合的な分析を行う。その上で、分析結果をパワーポイントを用いて発表し、受講者同士で互いに議論し、AI等の最新知見にも触れる。	共同
		デザイン思考	現在の産業界のテクノロジー（情報・通信、材料等）を例に、設定する課題に対してのアプローチ法やコミュニティデザイン、情報デザインの基礎的な思考法や発想法を身につける。STEAM教育の概要やArtとの関係にも言及する。	
		学域GS言語科目Ⅰ／海外実践英語	The goal of this course is for students to improve general English skills including reading, writing, discussing, and presenting. This course will focus on group work and activities by analyzing and researching a topic in order to improve reading and writing. It will also focus on discussions in class in order to complete presentation assignments. 読む、書く、議論する、発表するなどの英語能力を伸ばすことを目標とする。授業では、グループワークとアクティビティを通じて、トピックを分析・調査し、リーディング、ライティングの能力を向上させる。また、プレゼンテーションの課題を完成させるために、授業の中でのディスカッションにも力を入れる。	
		学域GS言語科目Ⅱ／時事・学術英語	This course aims to provide students with the writing skills they need to write a dissertation. It is practical, providing students with the opportunity to develop drafts which they will then polish. We will explore the process of written communication across a range of genres in contexts with appropriate English grammar. 学術論文を書くために必要なライティングスキルを身に付けることを目標とする。実践的に学生に草稿を作成させ、それを磨き上げる。時事等、幅広いジャンルにわたる内容について、適切な英文法を用い、文章によるコミュニケーションのプロセスを探究する。所定の英語検定試験における単位認定要件のスコアクリアも課す。	
専門基礎科目	実践科目	アントレプレナー基礎	地域や企業の方々による話題提供を通して、「イノベーションとは」から始めて、産学官連携、知的財産と特許、さらにベンチャー育成と企業化等を理解し、大学におけるアントレプレナー精神の育成を目的とする。座学と集中型演習で構成し、座学においては「アントレプレナーの勧め」「アイデア、課題への気づき・見つけ方」「資金、財務、法務」等を学び、合宿では同じ志を有する他者との交流を図ると共に、地域住民との交流や社会活動を通じて地域社会の中における自身の在り方、就業観を養う。	
		アントレプレナー演習Ⅰ	アントレプレナーの基礎となる「課題発見・問題設定能力」の涵養について学ぶ。具体的には、身近な技術などの足元の課題を見つけ、その解決に向けた問題設定の能力構築を進めていく。そのため課題発見の方法や相互のピアレビューを通じた課題や問題の「挟り方」について各種手法を交えながら深掘する。さらに「伝える力」の涵養を通じて、今後のアントレプレナーとしての成長を目指した学修を行う。	
		産業DX・PBL演習Ⅰ	北陸の地域産業におけるDX化の検討を中心とする演習を行い、多人数が同時に討論やグループワークができるVR学習空間の作成や、空間スキャナーを用いて文化財や史跡等のデータを3Dコンテンツ化するVR教材の作成を行う。なお、3Dコンテンツ化の作成では、Unity Academic Alliance による Unity プラットフォームを用いる学修も行う。また、演習でも産業界の知見も伺い、我が国のデジタル化推進に資するデータ収集・理解等の実践も学ぶ。	
		アントレプレナー演習Ⅱ	複数の分野にわたるケーススタディを通じた演習を行う。アントレプレナー演習Ⅰで学んだ「課題発見・問題設定能力」を前提に、本演習では、「つなぐ力」と「システムメイキング」の涵養を目指し、具体的な事例を通じて方法論を体得するとともに、技術やノウハウの組合せ、持続可能なシステムメイキングについて、具体的な事例を演習のなかで活用しながら、その方法論の体得を目指す。アントレプレナーとして未来の科学を創成する力について、実践を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 実践科目	産業DX・PBL演習Ⅱ	TIMSAC（時系列データ解析プログラムパッケージ）とAIモデルを用いて、RESAS（地域経済分析システム）に集積されている出入国・地域間の人の流出入の時系列と経済指標のビッグデータによる動態予測を中心とする演習を行い、動態予測に用いるニューラルネットワークシミュレーターを開発する学修も行う。また、演習でも産業界の知見も伺い、社会のDXの急進に資するデータの関係性の読み取りや産業等の高付加価値化等の実践も学ぶ。	
	社会調査法	社会現象やヒトの行動モデルの分析にあたっては調査を行いデータを取得することが不可欠である。どのような調査法があるかを知り、それぞれについてデータを取得・分析する方法や、その際に留意すべき点は何かを学ぶ。調査法には、大きく分けて、質的調査と、量的調査がある。調査に用いられる方法を重点的に学び、併せて調査に不可欠なインフォームド・コンセントや個人情報保護についても学ぶ。	
	数理科学探求	スマート創成科学類で必要な数理科学の基本について、学生を主体とするアクティブラーニングの形式で探求する。スマートシティにおける数理科学、STEAM教育との関連、数理・データサイエンス・AIのスキルセット等についても学ぶ。	
	データ解析演習	一般に公開されているデータを用い、統計ソフトを使用してデータ解析を行う。分析結果を視覚化し、考察を加える。他の学生と、分析結果に基づいて議論する。 主に統計ソフト等を用いて社会学分野で使用される分析手法を学ぶ。また、アンケートで取得したデータについて、基本統計量の確認から、二変量の関係性、多変量解析まで学ぶ。標本と母集団、統計的仮説検定の考え方、バイアスや交絡、信頼性・妥当性についても学ぶ。	共同
	地方創生に見る社会課題	現代日本において「地方創生」が政策課題となってきた歴史的背景と政策動向について理解した上で、スマート技術を活用して地方創生の取り組みを深化させる多様な方向性について、国内外の先行事例を踏まえて検討する。地域の伝統、特性を伸長し、新たな取り組みによる社会変動、活性化施策を探る。	
	スマートデバイス演習	ThingSpeakなどのIoT向けのクラウドサービスを使って、デバイスから送られるセンサデータの収集やPythonやMATLABを用いたデータ解析や、スマートフォンなどのデバイスを動作させるなどの一連のプログラミングを行う演習を通して、クラウドコンピューティングを用いる通信機器やデジタル家電などのスマートデバイスの基礎を学ぶ。	
	北陸地域創生と社会学	北陸の地域的特質を踏まえ、各自自治体で取り組まれているまちづくりや地域プロジェクトの取り組み、社会現象や因果関係を踏まえた分析から学ぶ。 特にコンパクトシティや「小さな拠点」形成など、都市空間の再設計と多機能拠点構築の考え方、社会福祉政策等について、構造や機能も多角的に実例を交えて考察する。	共同
	数理・データサイエンス・AI実践	現実世界のデータが何を指し示しているのかを理解できるようになるために、数理・統計の基礎的理解とともに、データの処理と可視化、データ管理と加工、データのモデリングと評価（教師あり学習としての回帰分析や教師なし学習としてのクラスタリング、深層学習・ニューラルネットなど）の数理・データサイエンス・AIのスキルを身につける学修を行う。	
	プログラミングスキル	SNS やビッグデータだけでなく、今後IoT が広がることで、ビジネスにはこれまで以上にプログラミングスキルが求められる。プログラミングスキルはエンジニアだけでなく、ベンチャービジネスの立ち上げの際に自分でプログラミングを行う必要に迫られたり、マーケティングや営業担当者などもサービスを理解し、改善したりするうえでプログラミング知識が必要となる。Python によるプログラミングの基礎を習得するとともに、プログラミングスキルを身に付ける。そして、アプリ作成、機械学習・ディープラーニング、Web API やスクレイピングによるデータ収集のための基礎も学修する。	
	Webサイト設計基礎	現在、インターネットを介して情報を提示する際にWebサイトが欠かすことができない上に、情報の提示の仕方はより一層重要になっている。この授業では、Webサイトの仕組みを理解することとどのようにWebサイトを構築することが情報の伝達に効果的であるのかを学修する。加えて、検索エンジン最適化やページランクの仕組みについても理解し、HTML（ハイパーテキストマークアップランゲージ）やCSS（カスケードスタイルシート）の基本についても学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	実践科目	データ駆動型社会と産業	社会のあらゆる分野において様々なデータ（事実）を意思決定（駆動）に活用する動きが急進している。実世界（Physical）の多様なデータを収集し、サイバー空間（Cyber）の処理技術を駆使して分析し、創出した価値を社会や産業界に展開する連環（System）を学修する。また、製造業・農林水産業、モビリティ、スマートハウス、医療・健康、インフラ等へのIoTやビッグデータの実践的な活用、Society 5.0へのCPSの社会実装も学び、産業DXから地方創生への波及にも言及する。	共同
		プログラミングスキル実践	プログラミングスキルの活用を目指して、Python によるプログラミングの技術の習熟のために、アプリ作成、機械学習・ディープラーニング、Web API やスクレイピングによるデータ収集などを行うプログラムの実践を学修する。	
		アプリ開発	現在、スマホなしでは生活すること自体が難しいほどスマホは社会に深く浸透している。様々なビジネス、事業やプロジェクトでも、スマホを活用する場面は非常に多く、ビジネス展開においてスマホ活用は重要な要素であり、可能性を広げるカギとなりうる。スマホを活用したビジネスや事業展開、プロジェクト、さらには、研究などを今後行うことができるように、スマホのアプリのデザイン（設計・プログラミング）を行う。Python(QPython)をスマホにインストールし、簡単なアプリを作成できるよう学修する。	
	基盤科目	テクノロジー基礎	現在新たに普及しつつある新技術や最先端のシステム、また、現在研究中のものやプロトタイプが試験運用されているものの中では、数多くの最先端テクノロジーが利用されている。この授業では、各種最先端テクノロジーの概要や応用事例を取り上げ、最先端テクノロジーによって、様々な問題がどのように改善されていくのかを知ることで、新たなシステムの構築やさらなるテクノロジーの発展について学ぶ。 (オムニバス／全8回) (30 佐藤賢二／4回) テクノロジーの基礎、バイオテクノロジー、ICT (69 藤生 慎／1回) IoT (64 唐島成苗／1回) 医工学 (3 飯山宏一／1回) ナノテクノロジー (105 西脇ゆり／1回) 環境テクノロジー	オムニバス方式
		ファイナンス基礎	本授業では、ファイナンスの基礎と概要を講義する。社会人にとって、ファイナンスの理論がビジネスの基礎になっている。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が必要であり、金融取引や証券取引、将来価値と現在価値の概念、債券と株式についてファイナンス関連の基礎として学ぶ。	
		ロボットイノベーション	科学技術の進展とともにロボットも進化し、その在り方も変わりつつある。この授業では、未来のロボティクスも見据えた現時点での最先端のロボットについて、人間の代わりに何ができるのか、生体機能の代用が可能になるのか、生物の機能をどこまで真似ることができるのか、ロボットとのコミュニケーションはできるのかなどの観点からさまざまなロボットについて、たとえば、レスキューロボット、ロボット手術、昆虫ロボット、生物模倣ロボット、技能伝承ロボットなどを概観する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 基盤科目	スマート創成化学とバイオロジー	<p>化学分野での数理学や計算科学との融合に基礎的な知識を概観するとともに、スマートシティの構築、地域のカーボンニュートラル実現のために必要となる炭素を使用しない材料創成や、3Dプリンターを利用した材料の新規製造プロセスなどに代表される、高分子化学をはじめとする化学の知識、実例を学ぶ。また、ゲノム解読やゲノム編集における技術革新や、バイオテクノロジーとAIなどの情報技術の融合により、急激に進展したバイオロジーについて人間の生活に直結するものを中心に実例を交え概説する。</p> <p>(オムニバス/全8回)</p> <p>(6 瀧健太郎/4回) 材料創成やエネルギー等のスマートシティ構築に関連する化学</p> <p>(13 野村章洋/4回) 近年のバイオロジーの進展</p>	オムニバス方式
	技術社会と倫理	<p>本授業では、技術の社会的意義を捉え、技術を社会の中で活かすしくみや社会倫理を考えていく。まず技術発展とともに社会の仕組みや人間の価値観がどのように変わってきたか、具体的には産業革命に伴う封建制度から産業振興と民主主義システムへの歴史的な進展と現代の課題について産業社会学の視点も踏まえて考える。技術の内容という側面からでなく、法、経済及び社会学の側面から、さらに新しいものやシステムを作っていく設計思考法やイノベーションの考え方について、技術の社会における責任を考え、技術を扱う社会や人間の倫理および技術者の倫理について学ぶ。その上で、設計思考法を基にしながら、社会の制度・構造・地球環境保全を考えた社会の設計、情報システムを活用した社会の設計、平和社会の設計について考える。</p>	
	フィンテック基礎とビジネス応用	<p>FinTech とは、「Finance (金融)」と「Technology (技術)」を融合させた造語で、IT (情報技術) を駆使した新しい金融サービスである。「モバイル端末での決済サービス」「資産運用アドバイス」「膨大なビッグデータの解析」「人工知能を使った自動対応」「家計簿の自動作成」などの金融イノベーションについて理解する。日本のフィンテックの動きについて、具体的な事例を通して、企業会計、資金調達、決済、金融機関での活用方法を理解する。</p>	
	マーケティング論	<p>マーケティングとは、単なる販売活動のことではない。その目的は「顧客に幸せになってもらうこと」である。この授業においては、「マーケティングとは何か」ということを中心に、マーケティングの概念と基礎理論、市場構造・競争要因の概念など、企業のマーケティング行動を理解するための基礎的な知識について習得する。</p>	
	北陸技術経営論	<p>技術経営 (MOT) とは何か、その必要性、その背景、構成する基礎分野、応用などを事例も交えて学修する。さらに、北陸を代表する産業分野について、国内外の競合関係の中でどのような変容を遂げてきたかを理解するとともに、MOT の観点から今後の産業発展に向けた戦略を討論し、経営社会学への展開も見据えて学修する。</p>	
	AI と未来の社会学	<p>本授業では、まず、社会学に関する基礎的な知識を学ぶ。その上で、社会の様々な場面でAIを導入することで問題が解決・改善された事例を紹介し、その後各自が、現在運用されているシステムを調査し、その問題点とAIを利用することでどのように問題解決が図れるか、社会にどのような変化が起こるか、また、AIを利用するために必要な情報やその取得方法などを考察し、プレゼンテーションを学ぶ。</p> <p>併せて、社会学の視点も踏まえて、都市としての課題、地域社会としての問題、その双方が共通的に抱える問題について、各々に最適な解決方法を探る。</p>	共同
	社会変動と労働生産性	<p>新しい科学や技術は社会を変え、以前できなかったことをできるようにする一方で、それは予期せぬリスクに転化する可能性もあり、その過程で全く新しい変化を生じさせる。この社会変動のダイナミクスの中で、現代は工業社会という一つの時代全体の創造的破壊の過程にある。労働、生産、価値といった概念も、従来とは全く異なる考え方や基準で評価しなければならなくなっている。そのような社会的変化の影響について、主に労働社会学や経済・経営社会学、さらに科学技術のアプローチから展開を学び、現代社会を生き抜く視点を養う。</p>	
	未来エネルギー創成	<p>太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスなどの再生可能エネルギーに代表される分散電源の仕組みとそれらが未来社会に与える影響について、また、燃料電池と水素エネルギーを利活用する社会 (水素社会) についても学ぶ。特にこれらのエネルギーを作る技術、送る技術、貯める技術、使う技術についても概観する。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	基盤科目	超スマートシティと Society 5.0	我が国が目指すべき未来社会である Society 5.0 を踏まえて、超スマートな都市（スマートシティ）やそれを支える社会システム、テクノロジーについて学ぶ。このような未来都市や未来の生活、そのための社会制度、組織の役割やテクノロジーを学ぶことで、未来に必要なとされる社会構造、サービスやモノについて考えることができるとともに、それらについて先駆けてサービス化や商品化を進めることができるよう、知識社会学の知見も踏まえて学修する。	
			世界の課題と技術トレンド	本授業では、現在どのような技術や手法が研究・開発されているかを知り、将来技術が実用化されることで現在問題となっている課題がどのように解決されていくかを予測・考察する。これらの考察を通して、産業社会学の視点も持って課題に対して必要な技術と実現方法を考えることができるようになることを目的とする。	
			SDGs基礎	社会学を学ぶに当たり、本授業ではSDGsについて基礎的に理解する。SDGs達成のためには、企業・政府・市民の能動的な取り組みが必要であり、SDGsの本質的な理解が喫緊の課題となっている。自身の現代社会への問題意識を起点に、SDGsが目指す「持続可能な社会」の本質をとらえ、その社会の構築のために有効なアクションを学修する。	
			IoT技術	家電やインフラなどに設置されたセンサ情報を、ネットワークを通して収集し活用するIoT(Internet of Things)が広く普及しつつある。IoTの変遷、仕組みやIoTを取り巻く技術を解説し、さらに人々の暮らしや社会への応用事例を知ることで、IoTを利活用するための基礎的な知識を学修する。	
			金融工学	近年の金融や証券の分野では工学的知見が不可欠であり、特に投資ではリスクを理解して回避する必要がある。統計学からポートフォリオ理論を丁寧に学ぶことで、金融資産の組合せによる期待収益や将来の不確定な収益の取り扱いを理解する。その後、ファイナンスのための確率論にも言及し、産業創出のデザインや価格予測にも展開を図る。	
			情報科学応用	コンピュータを用いた問題解決の際に必要なとなる情報科学の基礎概念（アルゴリズム論、グラフ理論、予測、待ち行列論）を理解するとともに、それらが実世界の問題にどのように応用できるのかを学修する。この授業ではプログラミング技術を学ぶのではなく、良いプログラムを書くために必要となる情報科学の概念や考え方に力点をおき、情報科学の基礎概念を知らずにプログラムを書く場合に生じる悲劇についても実感できる学修を行う。	
			最適デザインとシステム思考	互いに影響を及ぼしあう複数・多数の要素をシステムとして捉え、要素間の因果関係、つながりや全体構造や問題が発生するメカニズムを特定し、解決するための思考法（システム思考）について学び、客観的・論理的にシステムや問題の構造を分析するとともに、それらを解決することができる力を養う。それらを踏まえて、システムを最適化するため理論やデザイン手法について学ぶ。	
			数理行動モデル基礎	人々の行動に関連するデータから、その内容を理解して予測などを行う際には、適切な「数理モデル」を組み合わせて使うことが求められるので、その基本的な考え方を学んでいく。具体的には、観光客を例とし、数理モデルの主な7つの使われ方（推論、説明、デザイン、コミュニケーション、行動、予測、探索）を学修する。そのうえで、人の行動を記述することを目的とした、代表的な数理モデル（正規線形モデル、ゲーム理論、離散選択モデル）を学修し、その活用方法を習得する。	
			スマートシステム制御	システムの振る舞いを望ましいものとするフィードバック制御の基本概念を習得する。フィードバック制御系を構成する手法として、対象システムの数式モデルを用いる方法と用いない方法があり、それらの利点と欠点を理解する。特に、対象システムを数式モデルとして表現する方法や数式モデルに基づいて制御器を構成する方法についても理解する。さらに対象システムをスマートに制御する様々な手法を俯瞰的に概観する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基盤科目	北陸の都市・農村・文化	社会学の中心の一つである「地域社会学・農村社会学・都市社会学」を有機的に学ぶため、北陸地域の都市・農村の多様な地域性並びに両者の関係性を、自然・地理・歴史・文化の成り立ちから理解する。各自治体が行っている政策の実例等を通じ、地方都市や農村の実情が直面する課題に対する理解を深めるとともに、地域特性に応じた課題解決のための新たな取組みを学修する。	共同
		北陸の農林水産・製造業	社会学の立場から農村社会学・産業社会学の知見を活かし、北陸地域における代表的な農林水産業や製造業の特色に加え、直面している課題の理解を深め、地域特性に応じた課題解決や産業振興等のためにどのように関わっていけばよいのかをスマート技術が及ぼす影響など地方創生も見据えて学修する。	共同
		消費生活論	社会経済環境の変化の中での消費生活の変容や消費者問題の発生など、消費生活と社会に関わる基礎的な知識を学ぶ。そのうえで日常の暮らしの中の身近なテーマを取り上げ検討し、消費者の視点から暮らしと社会を分析する力を養う。	共同
		コンピュータとデジタル回路	コンピュータなどのデジタル信号処理システムの設計に必要なとなる、論理回路を記述する2進数の数学、論理回路の設計法、部品となる基本的な各種論理回路の構成と動作に関する知識を獲得し、数理・データサイエンス・AIも見据えた応用力を身に付ける。	
		イノベーション・マネジメント	ITを中心とした経済社会、特に経営の分野においてイノベーションの役割はますます大きくなっている。新しい製品やサービス、新しい経営手法、新しい組織やプロセスなどを創り出すことで、イノベーションは企業や自治体、国の成長を支えている。そこで、新製品/新サービス開発・普及、顧客創造、新市場開拓、異業種参入など、複数の事例をもとにイノベーション創出の概念や仕組みを理解する。その上で、各受講者が展望する将来像に対し、どのようなシナジーが必要で、またどのように実現していくかについて、「経営デザインシート」等の多様なフレームワークを活用することで体得する。また、マネジメントという観点から、ビジョン・メイキングや組織作り、人材育成まで踏み込んだ実践的な内容も盛り込み学修を進める。	
専門教育科目	スマートライフコアエリア 学知科目	先端医学	私たちの身体は、驚くほどに精巧にできている。本授業では、医学類で使われている資料も用いて、医学を理解するために必要となる素養を作る。また身の回りの親しみやすい題材を使って、身体とその病気の不思議を考えていく。さらに革新的な治療法の開発や新たな科学的イノベーションを起こすために、当時の人々が何を考え何を悩んだか理解することを通じて、新たなイノベーションを引き起こすためのヒントを得る。最新の医学の立ち位置と限界を理解し、今後克服すべき課題を理解することを目指して学修する。	
		未来医科学	AI、ロボット手術、ゲノム医療・再生医療、VR/AR、ICTを用いたデジタル治療、PHR(パーソナルヘルスレコード)などの最先端医療技術の知識を修得したうえで、技術的、生命倫理的、法律的、経済的な多面から、社会変革をおこすようなプロジェクトを学ぶと共に、医療社会学の視点も涵養する。	
		QOLとWell-being	より良い生活を送りたいとの思いは皆共通にあるが、より良い生活とはどのような生活を指すのかその尺度はさまざまである。本授業では、まず社会福祉学を学ぶ上で必要となるQOL(Quality of life)・Well-beingについて、概念や現状の課題を学修する。その後、これからの社会においてテクノロジーなどの技術の発展と生活の質向上の双方を進めるための方策について生活者の視点を踏まえて議論・検討することにより、社会福祉学を実践する能力を身に付ける。	
		人間拡張とライフ	人間の能力をテクノロジーによって自由に増強・拡張させる技術である人間拡張(Augmented Human)の発展が急速に進んでいる。本授業では、ロボット、センサ、通信などを組み合わせたテクノロジーにより人の能力を高める仕組みである人間拡張について学修し、生産性の向上や自立した生活の支援など生活に及ぼす影響を考察する。 (オムニバス/全8回) (7 田中志信/4回) 人間拡張技術の生産性向上の実用例と理論 (13 野村章洋/4回) 人間拡張技術を利用した生活支援と応用例	オムニバス方式
		地域の居住空間デザイン	IoT技術の活用によりエネルギーをマネジメントできるスマートハウスや、同じくIoT技術の活用により家庭の設備や家電をコントロールできるスマートホームなどについて学び、知識をつける。また、生活者の視点からはどのような暮らしが必要であるのかを検討し、議論して学修する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学知科目	ヒューマンインターフェース	人間と機械を活用する技術であり、機械を使いやすくするためのソフトウェアやハードウェア全般をさすことが多いヒューマンインターフェースについて、それらの知識を学び、システムを理解する。また、使いやすい機械などを検討することで、実践的なヒューマンインターフェースの学びとする。	
		生活デザイン論	生活デザインという行為は、社会の体制、進展、変革と大きく関わっている。生活者の立場に立って様々なモノ・コトをデザインする力を養う。具体的には自身のライフデザイン（生活設計）、居住デザイン、服飾デザインなど生活に身近なものや、普段使用する道具のデザインなど、生活に関わるさまざまなレベルのデザインを学び次世代の社会に活かせる能力を養う。	
		超高齢社会と科学技術	少子高齢化が進む我が国では、単なる健康・医療のみだけでなく、社会構造、経済にわたるあらゆる領域での問題が起こっている。一方で、AI、IoT、診断キット、VR/AR（仮想現実空間）、5G、ロボットなどの科学技術に代表される第4次産業革命が起こっている。これらの科学技術を駆使し、社会的にマッチさせ、超高齢化社会の問題を解決する必要がある。本授業では、超高齢化社会時代の課題を設定し、主として科学技術を駆使した解決法を創出、社会実装する能力を習得する。	
		地域包括ケアと地方創生	少子高齢化や人口減少が進むなか、人々が住みなれた地域で自分らしく暮らしていくための総合的なまちづくりとして地域包括ケアシステムが注目されている。社会福祉学において、「医療・介護福祉」の視点を中心に、地域包括ケアシステムが地域の活性化に寄与する点について学修する。各地の先進的な事例を調査し、新しい地方創生の在り方やこれに関連した起業について、産業、交通、住宅やコミュニティの視点も含めて議論して学修する。	共同
		生活行動とアクティビティ	人の生活スタイルを検討するために人の行動を把握することが必要となるが、人の行動を予測するためには時間や空間等複数の要因が絡んでおり、予測は単純ではない。そこで本授業では、行動を予測するためにアクティビティ・アプローチを用い、その方法について学修する。	
		未来型ヘルスケアシステム	WHOで世界一と評価される日本の医療制度も、少子高齢化が進む我が国では、医療経済をはじめ社会的な大きな問題となり、大変革が求められている。社会福祉学において、「社会保障」、「福祉社会」、「医療・介護福祉」の領域を中心として基礎的に学び、何が問題か、解決すべき課題を設定し、政治・経済的、法的、倫理的、科学技術的の多方面からの検討から解決法であるヘルスケアシステムを創出し、その実効性を検討して学修する。	共同
		人間工学	人間と機器や作業との関係を、人間の基本的な機能と特性に沿って考察しながら、人間にとって使いやすく、快適で、疲労の少ない、安全な機器や環境を作り出すための知識や考え方を習得する。人間工学とは、人間の身体機能、感覚特性を考慮して、人間の特性により適合した機器や作業環境を作り出すための学問であり、高度技術化社会、高齢化社会、人間尊重社会を背景に、人間と機械との結びつきが重要となる中で、機器・道具や人間を取り巻く環境を、人間にとって受け入れやすいものに設計・改善するための知識・考え方を学ぶ。	
		健康スポーツ栄養学	これからの社会において健康の維持・増進はますます重要な課題として挙げられる。健康な生活を続けるためには食事と運動は大切であるとされているが、人の健康に必要な栄養素とは何か、またどのようなスポーツを取り入れることが重要であるのかについてスポーツ社会学の視点も持って学修し、スマート技術を用いた展開につなげる。	
		スマートウエルネス	高齢になっても地域で元気に暮らせる社会であるスマートシティを実現するために、個人の健康（身体の健康・心の健康）に焦点を当てて学修する。スマート技術を用いた健康の維持・増進についての知識を学び、実践的な展開方法を検討して学修する。	
		レギュラトリーサイエンス	医薬品、医療機器の開発・評価に関して必要な臨床研究倫理、法規制の知識を学び、生物統計学を用いた臨床研究デザインの能力を習得し、模擬臨床プロトコル作成や模擬倫理委員会を経験し、実践能力を身に付ける。	
AI・IoT健康福祉学	この授業を通して、健康増進・社会福祉に使用されているAI及びIoT技術を理解しながら、リハビリテーション、介護福祉、栄養、休息・睡眠、運動・活動などにおけるAIとIoTの利用法について学ぶ。そして社会福祉における近未来のAIとIoTの様々な活用法や限界と課題に関して討議し学修する。	共同		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学知科目 スマート産業コアエリア	スマートライフコアエリア フィジカル・ブレイン接続	脳は、驚くほどに精巧にできている。この授業では身の回りの親しみやすい題材を使って、脳とその病気の不思議を考えていく。さらに、脳の仕組みの理解、病気の診断技術や治療法の開発に日本人がどのように貢献してきたかも紹介する。またiPS細胞を用いた再生医療などの最新のトピックも紹介する。将来的には、自閉症などの脳疾患に関する医療系アプリ作成、健康に関する会社の起業、医療機器や治療法開発など様々な場面で必要となる素養を身につける。	
		ヘルステック	医療分野の課題を解決するために、AIやウェアラブルデバイスなど最新のICTの活用によるテクノロジー技術を用いた医療サービスの創造が重要になっている。本授業では、ヘルステックの概念や現状についての知識を習得し、今後の超高齢社会において病気の治療のみならず予防も含めた健康の維持に関する新たなサービスを検討して学修すると共に、社会福祉学や医療社会学との接続も見据える。	
		スマート産業論	農業、畜産業、林業、漁業、鉱業、工業などにおけるAI、ビッグデータ、IoT技術などの活用事例や社会システムにおける将来展望を学修し、各種産業での数理・データサイエンス・AIや産業DX、スマート技術の活用について考察すると共に、産業社会学の知見も学ぶ。	
		消費者行動と社会	個々の消費者の最適化行動のモデル化に関する消費者理論や消費者行動論の考え方、顧客との関係を構築して顧客の生涯価値を最大化するマーケティング手法であるリレーションシップマーケティングについて理解する。さらに、社会学の知見も活かし、消費者行動に影響を与える社会的要因、スマート技術的要因について考察する。	
		実践データサイエンス	「数理・データサイエンス基礎及び演習」の学びを基に数理・データサイエンス・AIの知見を更に深めるように、実世界のデータを扱う際に注意すべき事項を学修する。特に、解析の対象となるデータに不適切なものが含まれていないかの判定や、データの量が多すぎる場合や少なすぎる場合の取り扱い、得られた結果に対する評価法など、実践的なデータサイエンスの理解をより深める。	
		画像認識と機械学習	色変換、(拡大・縮小・回転などの)幾何変換、しきい値処理、平滑化、モルフォロジー変換などの画像処理や画像中の様々なものを検出・認識する基本について学修するとともに機械学習や深層学習を用いた物体検知、顔認識、文字認識、画像診断の方法を概観する。	
		スマートセンシング	IoT技術をロボットや医療に応用するためには、周囲の情報を取得するセンサが不可欠である。本授業では、身近なセンサとして、温度センサ、光センサ、ひずみセンサなどの原理と使い方を説明する。また、コンピュータによるデータ処理法についても学修する。	
		カーボンニュートラル技術	CO2の排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするカーボンニュートラルは喫緊の課題となっている。カーボンニュートラルを実現する技術として、再生可能エネルギー、水素、二酸化炭素回収・貯留、電動化などが有力視されている。この授業では、CO2を吸い込むコンクリートや人工光合成、液体アンモニア100%燃焼によるCO2フリーガスタービンなどの最新技術の具体例とともに、産業界でのカーボンニュートラルの取り組みを概観する。	
		統計的学習理論	実世界のデータが何を意味しているのかを理解するためのデータからの学習としての統計的学習理論の基礎として、回帰、分類、クラスタリング、ニューラルネットワークなどを学ぶ。また、統計的学習理論が産業にどのように用いられているのかを実例を通して学ぶ。	
		デジタル生産工学	本授業では、生産技術の概要と生産加工に関わる力学を理解した上で、世界における生産システムの状況を知り、今後のITを活用した生産の将来を展望する。まず生産加工および生産機械の概要とそのベースとなる機械工学の基礎を学ぶ。生産加工にかかわる力学や科学を理解することは生産技術のイノベーションをはかるために不可欠である。また生産過程を包括的に捉えるために、設計から生産までのプロセスおよびデジタル技術を活用した生産システムの変化について学ぶ。さらに生産過程をグローバルな視点でとらえ、世界における資源→生産→消費→廃棄までの流れを理解する。これらの知見を基に、ITやデジタル技術を活用した今後の生産システムについて考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート産業コアエリア	知的財産法	物理的実体を有しない無体物（＝情報）を保護対象とする知的財産法という制度を学修し、情報を産業等の経済活動に活かす方法を自ら見つけ出すことができるようになる基礎を身に付けるため、特許法と産業財産法を中心に、知的財産法を通して「なぜ」と自分で問いかけることができ、その問いかけを自分の力で解決できるように、アクティブラーニングによる学修を行う。また、小レポートを数多く作成することで知識の定着と応用力の養成を図り、アウトプットの重要性を認識させる。	
				スマートシステム制御応用	システムの振る舞いを望ましいものとするフィードバック制御の様々な手法を俯瞰的に学修し、直面する制御問題にどのようにアプローチすればよいのかを見極める能力を身に付けさせる。そのために、特に、システム同定法、カルマンフィルタ、最適制御法、モデル予測制御法などの自動車分野や航空宇宙分野や産業オートメーション分野への応用を想定し、業界標準であるMATLABやSimulinkなどを用いて、具体例の数値シミュレーションを通して学修する。	
				スマート資金とビジネス応用	仮想取引の記録をブロックと呼ばれる記録の塊に格納し、過去からの取引履歴を1本の鎖のようにつなげて分散的に処理・記録し、暗号技術によって改ざんを防ぐブロックチェーンと仮想通貨の仕組みについて学修する。加えて、認証と暗号の技術についての基本や、ビジネスの活用事例についても学ぶ。	
				自律ロボット	人間による明示的な指示なしにタスクを実行する自律ロボットの概要について、その構造と制御、ロボットの強化学習、ロボットの移動方法、位置推定とマッピング、ナビゲーションなどの基本を学修する。	
				産業とユニバーサルデザイン	健常者・障がい者・高齢者の生理・心理特性や行動・動作特性の違いによるユニバーサルデザインの必要性を理解する。また、家電製品、自動車などのユニバーサルデザインの具体的事例について学び、自らユニバーサルデザインを考案する。	
				拡張・リアリティ空間デザイン	従来のICT活用のみならず、より高度なICTを活用する取り組みが広がりつつあり、スマートシティや産業におけるDX・XRの活用の現状について学修した後、設定された課題のもとで、現実社会と仮想空間を融合させた新社会を形成するためにはどのようなXRの活用することが可能かを探求し、実際にXR技術を用いたアプリの作成などを学修する。	
				次世代情報通信	デジタルトランスフォーメーションやIoTなどでは、情報通信が不可欠である。この授業では、情報通信ネットワークの階層化の概念と各階層における仕組みをOSI(Open Systems Interconnection)により理解する。また、WAN、LANやインターネットや第5世代移动通信システム(5G)などの通信方式やプロトコルの仕組みを概観し理解する。	
				エネルギーハーベスティング	身の回りの熱や振動などの微弱なエネルギーを収穫して、電気エネルギーに変換する技術であるエネルギーハーベスティング技術は、ミリワットからナノワットやピコワット単位で動作するデバイスが無線によるIoTによって繋がることにより、様々な産業分野への展開が期待される。この授業では、代表的なエネルギーハーベスティングの基礎技術となる、圧電体、熱電素子やエレクトレット材料による発電、色素の酸化還元反応による発電などについて学修する。	
				コンピュータと電子回路	電子回路を扱う上での基礎となる考え方・物理量などを習得する。その後、オペアンプの特性とその応用回路について学ぶ。さらにオペアンプの内部構造を理解するために必要なトランジスタ等の扱い方を理解した後、オペアンプの内部構造の理解について学修する。	
				生産者の社会的責任	本授業では、生産者の社会的責任について、具体的な諸問題を取り上げながら、その内容と課題について学び、考えていく。生産にはハードの生産だけでなく、システムやサービスもあるが、本講義では、ハードとそれを含めたシステムを主な対象として考える。まず製造物の安全の基礎は、壊れない物をつくることであり、そのために必要な強度について学ぶ。そして設計思考法として、フェイルセーフとフルブルーフについて学ぶ。さらに生産物の社会的責任として、製造物責任や消費生活用製品安全、リコールについて学ぶ。さらに地球環境問題を踏まえた資源循環、リサイクル、脱炭素技術について学ぶ。またIT技術を活用した自動機械や自動運転システムの安全について考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学知科目	SDGs実践	SDGs達成に向け、効果的な問題解決のためには、どのような知識・スキル・ツールを身につける必要があるかを各自が認識することを目的とする。また、問題の当事者や解決のため社会調査の手法を用い、より現場のニーズに沿った解決方法を提示していく問題解決スキルの向上を学修し、知識社会学への展開も考察する。	
		実践スマートシティ論	都市への集中と並行して少子高齢化が進展し、環境負荷の低減が求められるとともに、交通渋滞など都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）を行い、都市OS（都市オペレーションシステム）の上で全体最適化が図られる持続可能な都市や地域とも言えるスマートシティについての理解を深めるとともに、国内外の実践例について学ぶ。 （オムニバス／全8回） （5 菅沼直樹／3回）自動車の自動運転技術を中心に、スマート技術を用いた高度モビリティのマネジメントの技術と実践例 （17 白石英巨／5回）スマート技術を用いたまちづくりの全体的なマネジメントや都市OSの最適化についてその理論と実践例	オムニバス方式
		ナショナルレジリエンス	コロナ、東日本大震災、気候変動、ウクライナ危機など様々な想定外の出来事が発生する不安定で、不確実な情勢下では、しなやかで強靱な社会や国家を構築することが必要である。レジリエンスやリスクについてを学び、国土強靱化、安全保障、しなやかで強靱な社会の仕組みづくりなどについて学ぶ。	
		Web・クチコミ社会動向分析	ソーシャルメディアやクチコミなどのメディア特性を理解した上で、それらのメディアを、テキストマイニング技術(主としてR言語)を用いて分析するスキルを身に付け、社会動向分析に用いられている技術についても理解できるよう学修する。	
		デジタルエコノミーと地域展開	ネットショッピングが当たり前となり、デジタル空間での商取引やeコマースの普及が進むとともに、Fintechなど金融のテクノロジーも深化しつつある。デジタル空間における新しい経済について学ぶとともに、それらを現実空間と融合させて、地域へ展開する手法について学ぶ。	
		都市・地域工学	用途地域など都市計画制度を中心とする従前の都市計画では、局的にはエリア制御はできるものの、それは硬直的であり、都市や地域全体をマネジメントすることは困難である。従前の都市計画制度の限界や課題を理解し、法制度だけではなく、工学の視点と社会学の視点を併せ持ち、都市や地域の数理特性・メカニズムやそのマネジメントなどについて学ぶ。	
		スマートモビリティと自動運転	近年、高度道路交通システム（ITS）、自動運転技術、MaaS（mobility as a service）、ウーバーなどライドシェアなど移動や交通についての様々な技術やサービスが展開・進展している。これらの技術やサービスの考え方や特徴、それらの社会実装についての理解を深め、スマートモビリティのあり方などについて学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート社会コアエリア	都市・交通デザイン	都市や交通システムのしくみ、それをデザインするための考え方や、観光地としての金沢のまちづくりを学ぶ。さらに、高度道路交通システムや道路の維持管理などについても学ぶ。	
				社会システム工学	社会工学は、社会経済、経営工学、都市計画等を要素に持つが、これからの課題発見・解決には文理融合+システム設計の知見が不可欠であり、社会的要請の変化も速い。重要な社会インフラである電力をテーマに、モデル化手法やデータ分析を学修し、工学的な予測を理解する。その後、実践的な取引や環境・エネルギー分野での活用にも展開を図って学修する。	
				エビデンスベース政策論	少子高齢化が進み社会の生産性向上が求められるなか、政府や自治体において、限りある財源や人的資本を最大限有効活用して、透明性・信頼性の高い効果的な政策を行う必要性が高まっている。公共政策や社会政策などについて、統計データや各種指標など、客観的エビデンス（根拠や証拠）を基にして、政策の決定や実行を効果的・効率的に行うための理論・モデル・方法やそれらの実社会への適用について学ぶ。	
				ソーシャルイノベーション	革新的な技術やテクノロジーが重要であることは言うまでもないが、それらを社会実装することもまた非常に重要なことである。社会のメカニズムを踏まえて、新しい技術やテクノロジーの社会実装の仕組みや方法、社会貢献、社会を変えるために必要な考え方や手法などについて学んだ上で、社会の変え方のイノベーションについて修得する。	
				社会的合意形成論	社会の中で政策を立案し、それを実現するためには、関係者間で合意形成を図ることが必要である。多様な価値観を持ち、様々な利害関係がある関係者間で合意を形成することは容易ではないことも多く、組織社会学上の課題でもある。合意とは何か、合意形成のプロセスについて社会学的観点から学ぶ。	
				デジタルツインと危機管理	気象など物理的な現象や都市や自然など現実世界から収集した様々なデータをデジタル空間上にコピーし再現するデジタルツインを活用して、防災など危機管理、安全・安心な社会、快適なまちづくりを目指すために、データ同化・データサイエンス、数理モデルやシミュレーションの基本についての理解を深め、それらの危機管理、安全・安心な社会、快適なまちづくりへの適用について学ぶ。	
				低炭素社会	地球温暖化や気候変動問題等への対応の重要性がますます高まっており、持続可能な社会の構築が急がれる。社会や地域の温室効果ガスの排出・エネルギー問題などの基本について学び、それらを制御して温室効果ガス排出を減らす社会の仕組みづくりや排出権取引、サーキュラーエコノミー、持続型まちづくりや自然との共生のあり方などカーボンニュートラルを見据えた新しい社会システムについて学ぶ。	
				スマートサプライチェーン	少子高齢化や人口減少による人手不足や労務コストの上昇し、物流・流通の課題がますます大きくなっている。コロナ禍や東日本大震災など災害でのサプライチェーンの寸断が社会・経済的な大きな損失を生む。交通ビッグデータの活用やAI（人工知能）・高度情報科学の活用によって、物流・流通、ロジスティクスの効率化や最適化を実現するための理論や手法について学ぶとともに、サプライチェーンのスマート化についての理解を深める学修を行う。	
スマートインフラマネジメント	上下水道、道路、電気・ガスなどインフラストラクチャー（社会基盤）は私たちの生活になくてはならないものであるが、その整備、点検・維持管理には多大な社会コストが必要となる。IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）・高度情報科学の活用によって、インフラストラクチャーの整備、点検・維持管理の効率化や最適化を実現するための理論や技術・手法、社会実装について学ぶ。					

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門科目	学知科目	スマート社会コアエリア ネットワーク・メカニズムデザイン	社会には様々なルール・慣習があり、それらの中で我々は様々な意思決定を行うとともに、制度や仕組みの設計やデザインを行っている。交換される情報や人々のインセンティブを踏まえて、社会の制度や仕組みをデザインするために、マッチング理論、ネットワーク制御、非分割財配分などについての理解を深め、学校選択・就活問題・臓器移植マッチング・周波数割り当てなどの応用例について学ぶ。	共同
			スマート社会コアエリア フューチャーデザイン	現在や将来の人々がどのように行動するのかによって未来は変わり得るものであり、それを確実に予測することは本質的には不可能で、未来は現在・将来の人々によって創造されるものである。未来や将来世代の社会をデザインするための過去のとらわれない自由な構想力、将来世代への責任、フューチャープロトタイプینگ、これらを多くの人々と共有する方法など未来の社会構造や社会組織、社会制度をデザインするための考え方や手法について学ぶとともに、実際にフューチャーデザインを試行的に実践する学修を行う。	共同
	専門科目	鍛練科目	北陸産業インターンシップ I	学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。アプローチや取組形態は問わないが、受入組織と履修者の間で取組課題が明確であり、学修内容及び到達度評価等が明確であることを必須とする。 学生は教員に対し、本授業科目履修前に本学が課す書類を提出する。また実施後には、本学が定める実施報告書、日誌等を提出すると共に評価試験を課す。これにより、産業界等の実態を理解すること、目的意識を持つこと、受入組織との取組を振り返り、自己評価できることを目標とする。実学修時間が30時間以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			北陸産業インターンシップ II	学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。アプローチや取組形態は問わないが、受入組織と履修者の間で取組課題が明確であり、学修内容及び到達度評価等が明確であることを必須とする。 学生は教員に対し、本授業科目履修前に本学が課す書類を提出する。また実施後には、本学が定める実施報告書、日誌等を提出すると共に評価試験を課す。これにより、産業界等の実態を理解すること、目的意識を持つこと、受入組織との取組を振り返り、自己評価できることを目標とする。実学修時間が「北陸産業インターンシップ I」における実学修時間に加え（或いは別に）、更に30時間以上の実習を行った場合を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			スマート創成プロジェクト鍛練 I	Project Based Learningを通して、自ら課題を設定しその課題を自らスマート技術で解決する能力を強化する。チームに分かれ、教員が行う研究活動に実際に参加するなどし、自ら課題を設定し、大学院学生や学外者とも協働し、最新のスマート技術に関する知見や動向調査も含め、課題解決の実習に取り組む。実学修時間が30時間以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			スマート創成プロジェクト鍛練 II	Project Based Learningを通して、自ら課題を設定しその課題を自らスマート技術で解決する能力を強化する。チームに分かれ、教員が行う研究活動に実際に参加するなどし、自ら課題を設定し、大学院学生や学外者とも協働し、最新のスマート技術に関する知見や動向調査も含め、課題解決の実習に取り組む。実学修時間が「スマート創成プロジェクト鍛練 I」における実学修時間に加え（或いは別に）、更に30時間以上の実習を行った場合を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
			海外実践留学	国際的かつ俯瞰的な視野を獲得し、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学生が計画したプログラムに加え、学生自身の興味関心や研究分野に関連した留学目的を自ら設定し、短期留学を実施する。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか、授業やワークショップ、現地の学生とのディスカッション、教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める学修を実践する。授業は必要に応じて英語で実施する。 自国の文化を伝え、文化の違いを受け入れること、新しい環境に適応し、課題に取り組むこと、多様な人々と交流することを目標とする。実学修時間が30時間（5日間）以上の留学を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	鍛練科目	国際インターンシップ	国内外を通じた地域の文化と先端的な取組の融合を、国際水準で理解することで、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学類が整備した派遣先だけでなく、学生自身の興味関心や研究分野に関連した企業や機関を自ら探索し、国際インターンシップを実施する。国際インターンシップ先の情報収集や応募書類の書き方、目標設定など実践的な教育効果も重視する。授業の3分の2は英語で実施する。 国際企業や国際機関の実態及び課題を理解し、課題解決法を考えること、明確な目的意識を持ち、具体的な計画を立てること、国際インターンシップを振り返り、自己評価し、改善実践結果を提示することを目標とする。実学修時間が30時間（5日間）以上の実習を対象とし、事前及び事後の指導を加味して45時間の学修に対して成績評価を行う。	
		数理・データサイエンス・AI鍛練	数理・データサイエンス・AIの実践的な応用力養成を前提として、機械学習を活用した最適設計法の実践など実データを用いた最適設計問題を解く手法等を学修する。また、これからのスマートシティの各界における、未来の科学の創成への展開性にも言及する。	
	確立科目	融合研究	学生自身が設定した課題に対する解決策について、主にこれまで修得してきた多分野に渡る知見を用い、指導教員の下で実証実験的な研究を進め、将来の社会展開を見据えた形で論文としてまとめる。なお、成績評価にあたり、複数の科学分野に渡る教員による論文審査会を開催する。	
		融合演習	学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取組みを通じ、実際の社会への展開法を立案する。その形態は、インターンシップ先を始めとする企業等において業務の改善や事業展開に関与する実践的アントレプレナー演習のほか、自ら起業する際の設計や実践的な課題研究等を含む。なお、成績評価にあたり、演習等のプロセスシート、及び長期的かつ高度なインターンシップ先からの評価シート等を基にした審査会を開催する。	
		融合試験	学生自身が設定した課題に対する探求の中で、長期的展望に立つて取り組むべき課題であり、大学院における専門的知見を修得する必要があると判断される場合は、大学院への進学を要件とするQEを実施する。融合試験受験者には、大学院で必要となる知見をより広範囲に修得させるため、バックキャスト学修等による補遺的な授業科目（6単位）の計画的な履修を課す。成績評価にあたり、大学院への進学が決定した後に審査会を開催し、複数のコアプログラムに係る専門的知見と実践力を問う筆記試験、大学院課程で取り組む課題設定と研究計画の立案に基づく発表と試問を行い、修士研究基礎力を確認する。	

(1) 都道府県内における位置関係の図面

キャンパス位置図

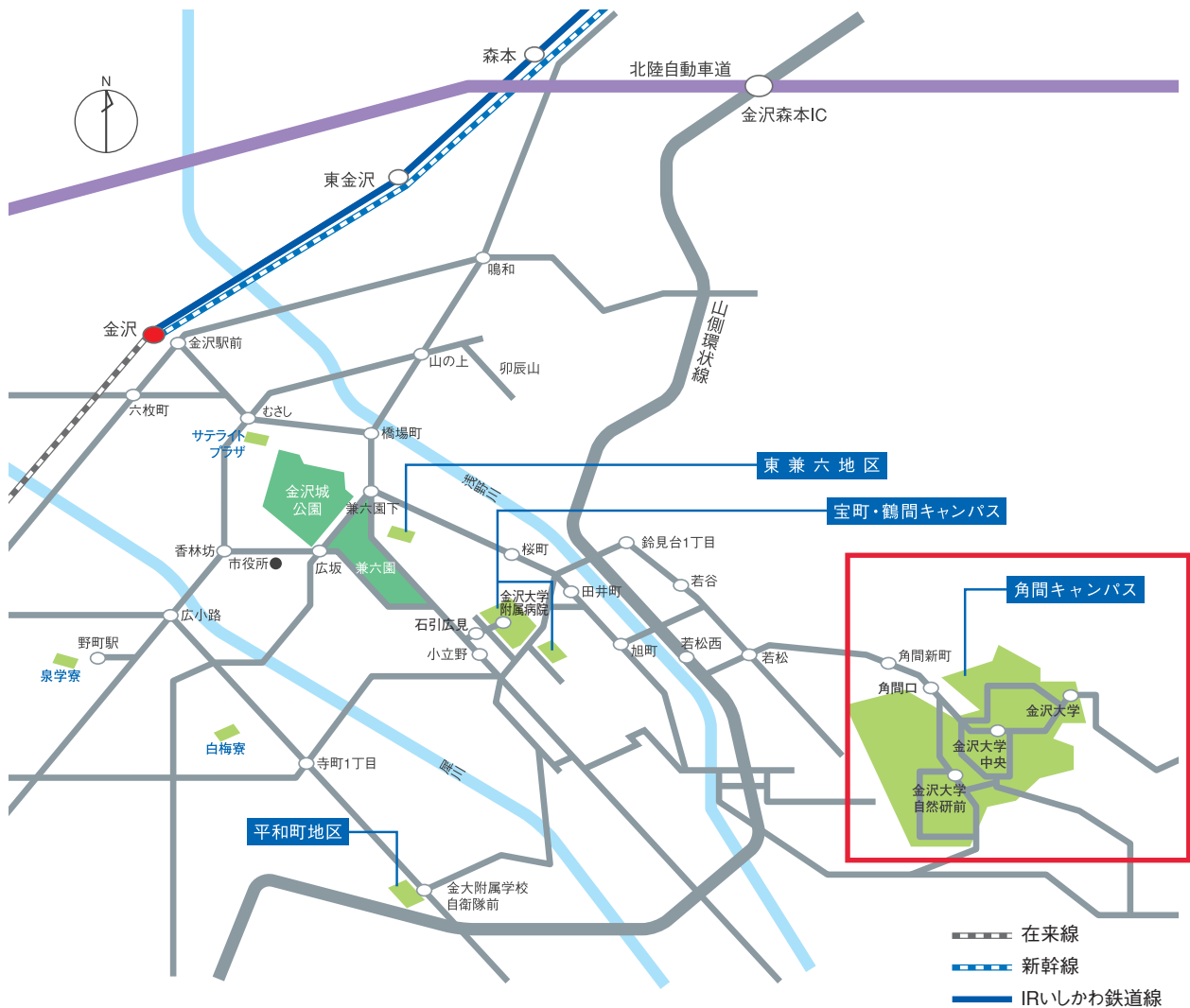
石川県・金沢市の位置 Location of Ishikawa Pref. and Kanazawa



(2) 最寄り駅からの距離, 交通機関及び所要時間がわかる図面

キャンパス位置図

金沢市内

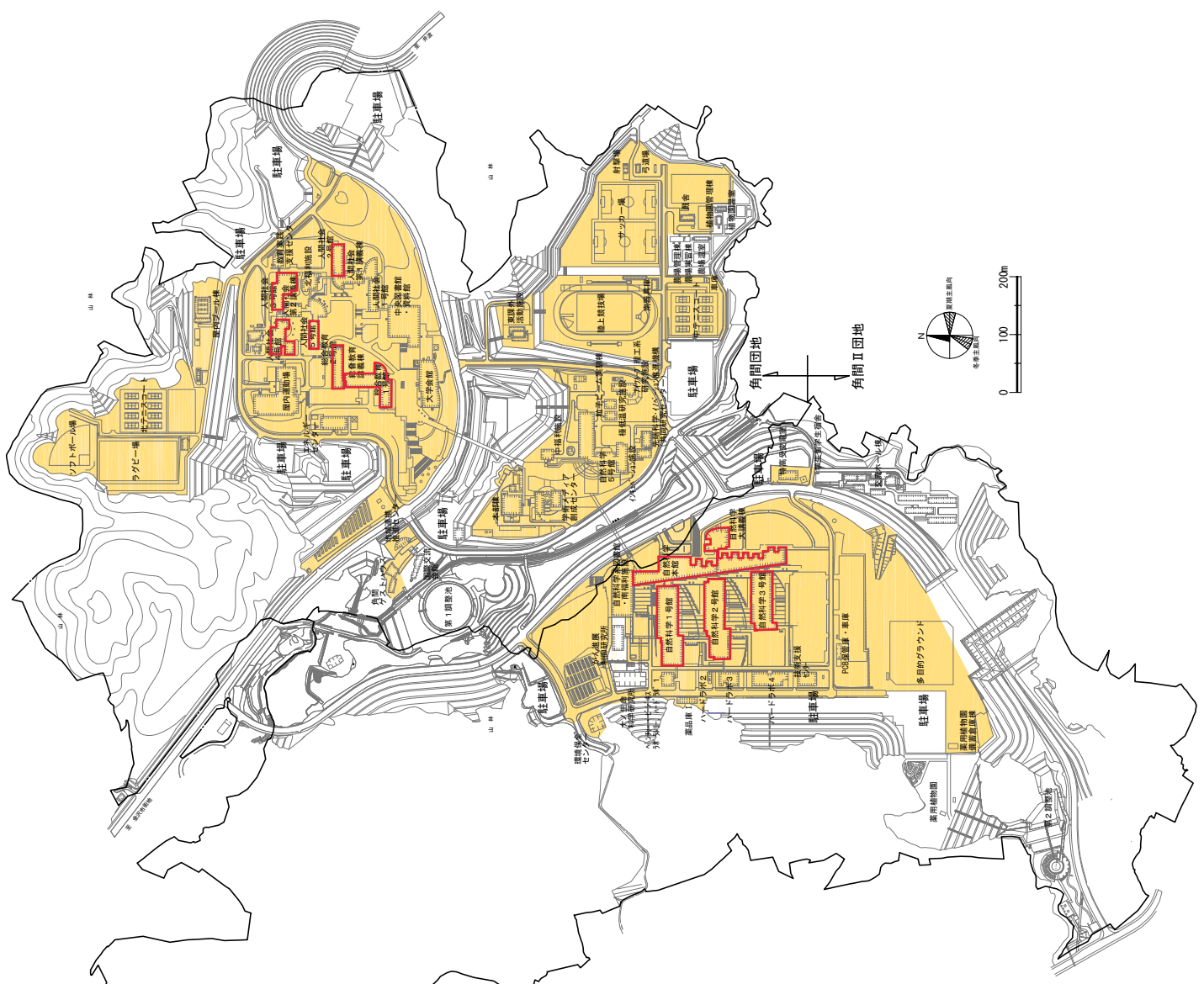


- 東京方面から金沢へのアクセス**
- 航空機利用
羽田空港→小松空港 所要約1時間
(小松空港→金沢駅は北陸鉄道バスで約1時間)
 - JR利用
東京→金沢 新幹線かがやき 所要約2時間30分
新幹線はくたか 所要約3時間
- 名古屋方面から金沢へのアクセス**
- JR利用
名古屋→金沢 新幹線,特急しらさぎ 所要約2時間40分
- 大阪・京都方面から金沢へのアクセス**
- JR利用
大阪→京都→金沢 特急サンダーバード 所要約2時間40分
- 金沢駅から主要キャンパスへのアクセス (北陸鉄道バス利用の場合)**
- 角間キャンパス
<「金沢大学自然研前」,「金沢大学中央」,「金沢大学(角間)」>まで
所要約35分
金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→93,94,97「金沢大学(角間)」行
 - 宝町・鶴間キャンパス<「小立野」バス停下車>まで 所要約20分
金沢駅兼六園口(東口)⑥乗場→⑪「東部車庫」行など
金沢駅兼六園口(東口)⑦乗場→⑬「湯谷原・医王山」行など
金沢駅金沢港口(西口)⑤乗場→⑩「東部車庫」行など





(3) 校舎, 運動場等の配置図

金沢大学角間キャンパス配置図



凡例

	申請建物 校舎面積 : 124,385㎡
	校地面積 : 538,869㎡

(4) 校舎の平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

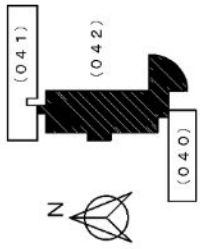
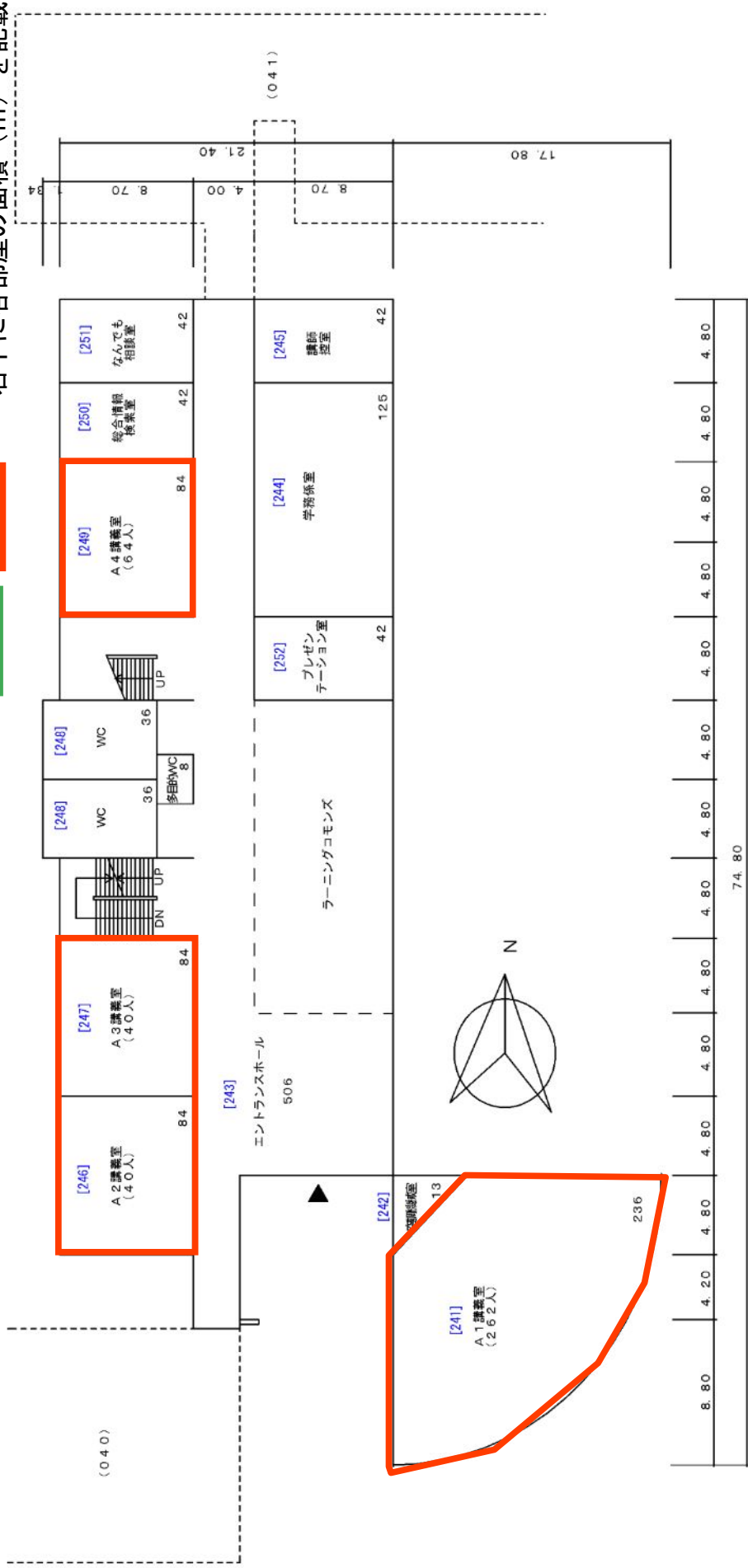
棟別平面図

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	036	団地名	角間	棟番号	042
------	------	-----	------	------	-----	-----	----	-----	-----

専用室

共用室

申請に係る学類が使用する部屋
右下に各部屋の面積（㎡）を記載



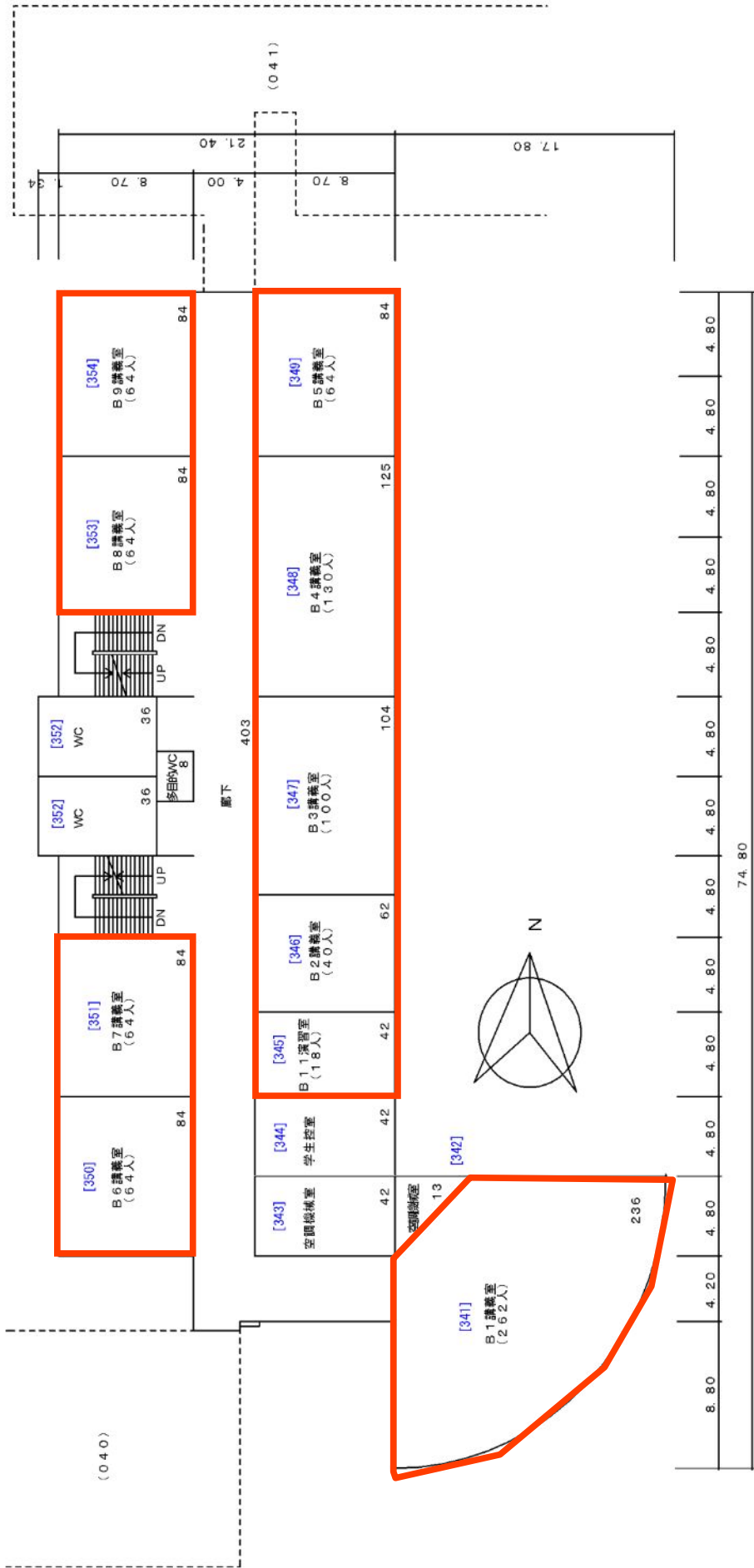
2階平面図 S=1/400 1,380㎡
(042) 総合教育講義棟 R5 6,416㎡

共用室面積：488㎡

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	036	角間	042

棟別平面図

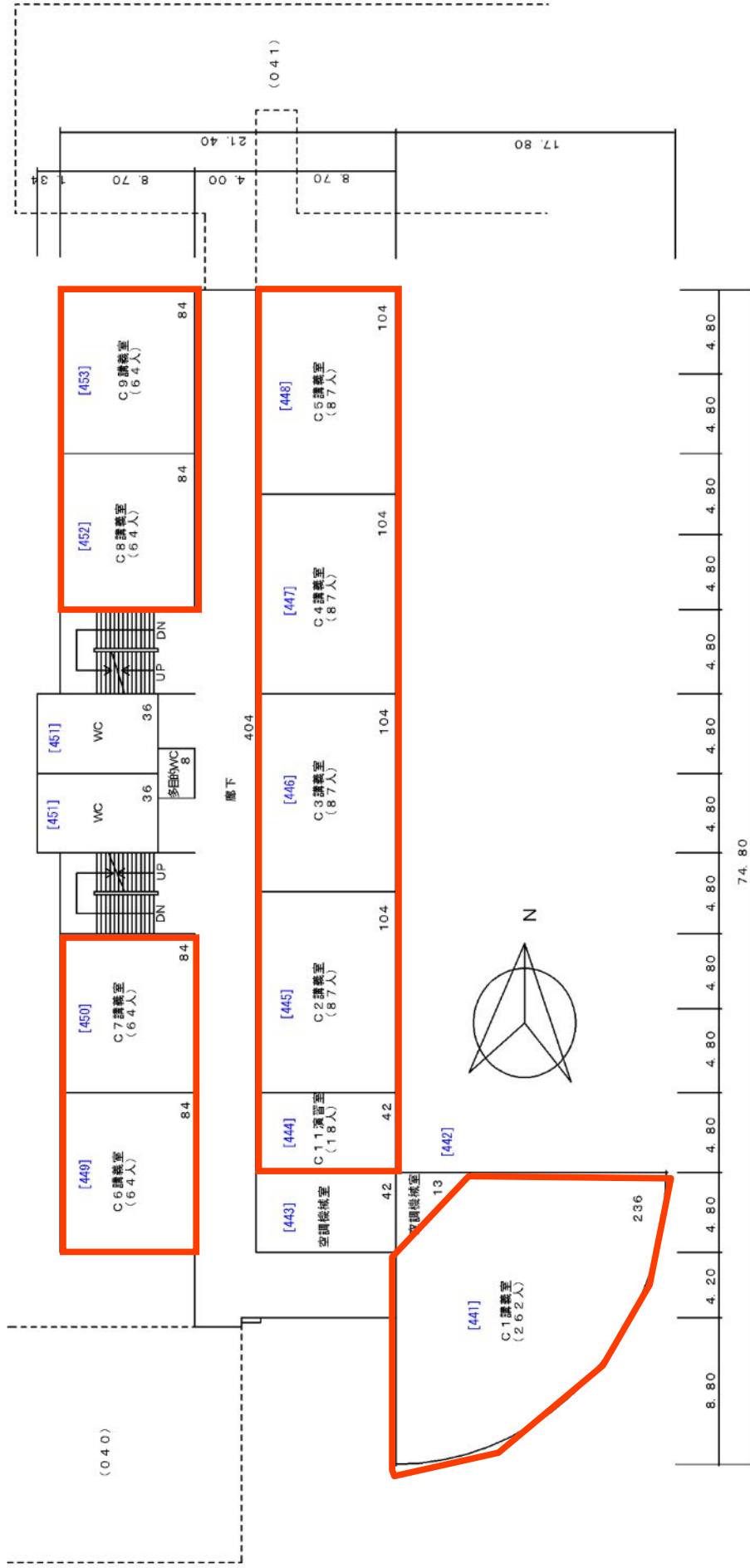
国立大学法人等施設実態調査（様式3）



棟別平面図

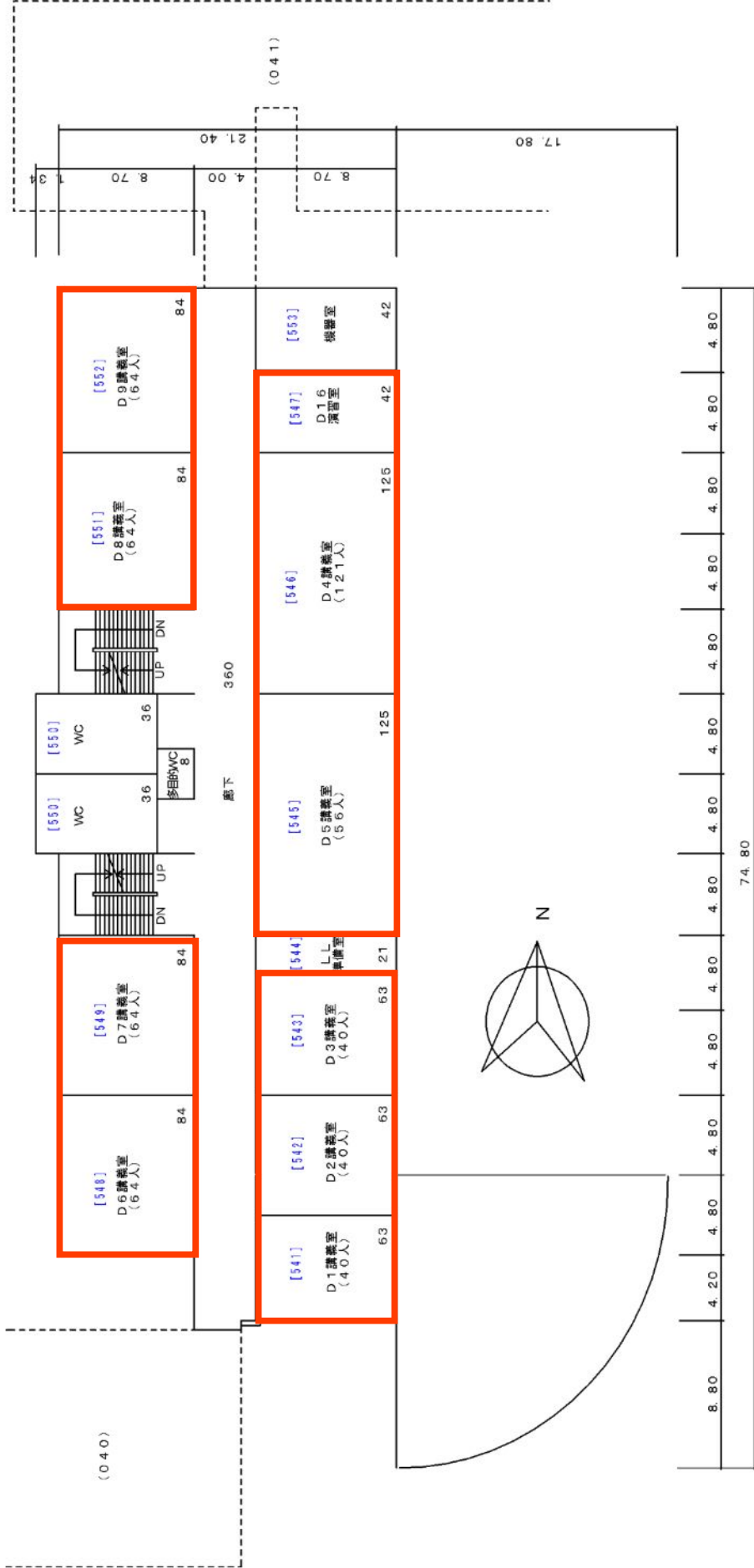
国立大学法人等施設実態調査（様式3）

学校番号 0236	学校名 金沢大学	団地番号 036	団地名 角間	棟番号 042
--------------	-------------	-------------	-----------	------------



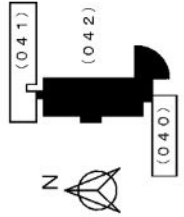
棟別平面図

学校番号 0236	学校名 金沢大学	団地番号 036	団地名 角間	棟番号 042
--------------	-------------	-------------	-----------	------------



共用室面積：817㎡

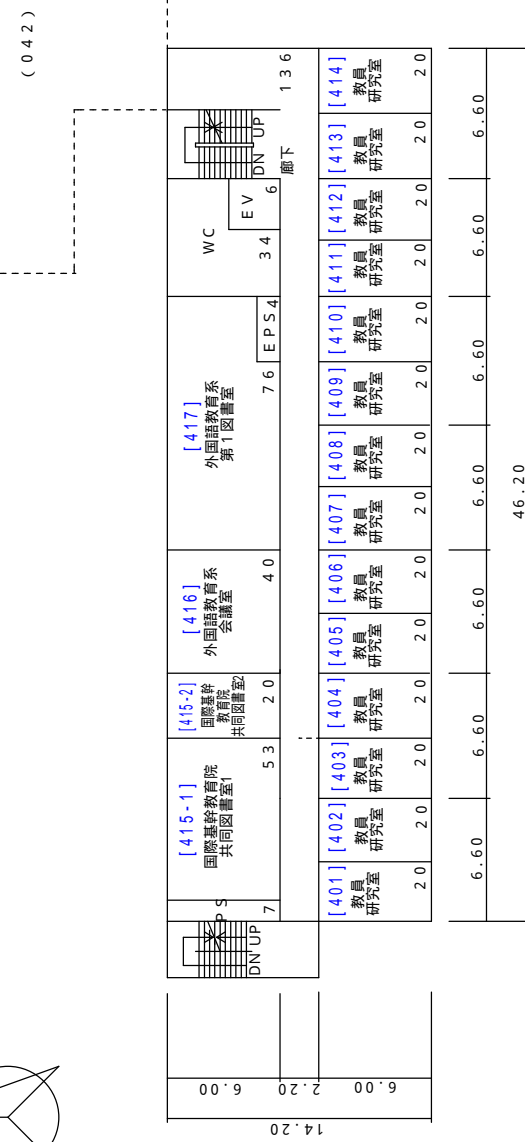
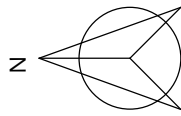
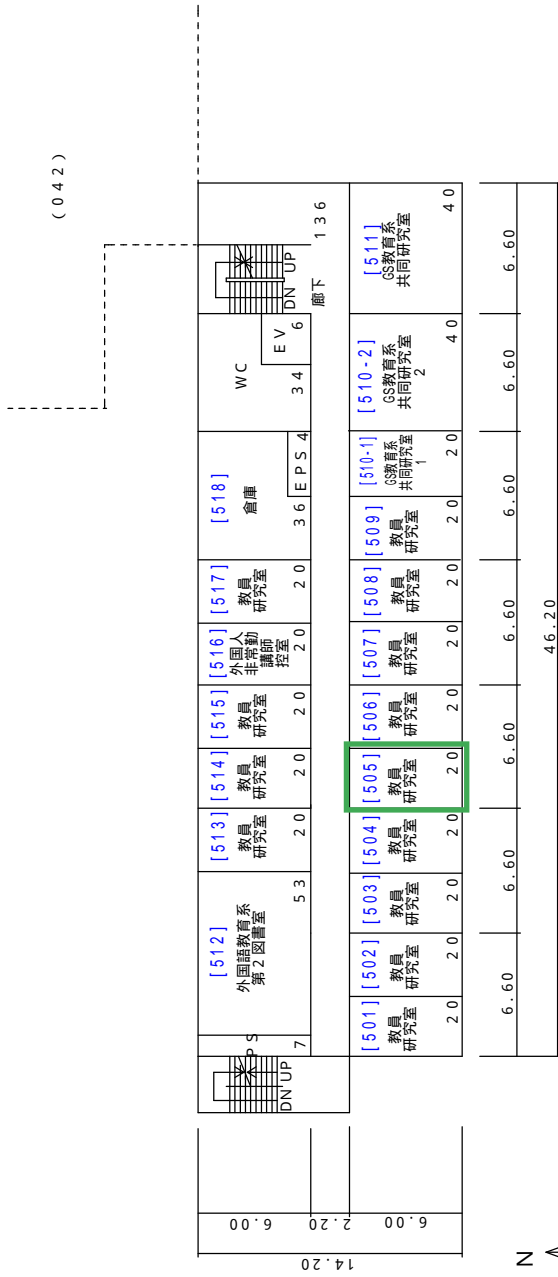
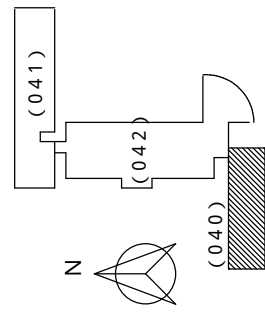
5階平面図 $S = 1 / 400$ 1, 320㎡
(042) 総合教育講義棟 R5 6, 416㎡



学校番号	0 2 3 6	学校名	金沢大学	団地番号	0 3 6	団地名	角間	棟番号	0 4 0
------	---------	-----	------	------	-------	-----	----	-----	-------

棟別平面図

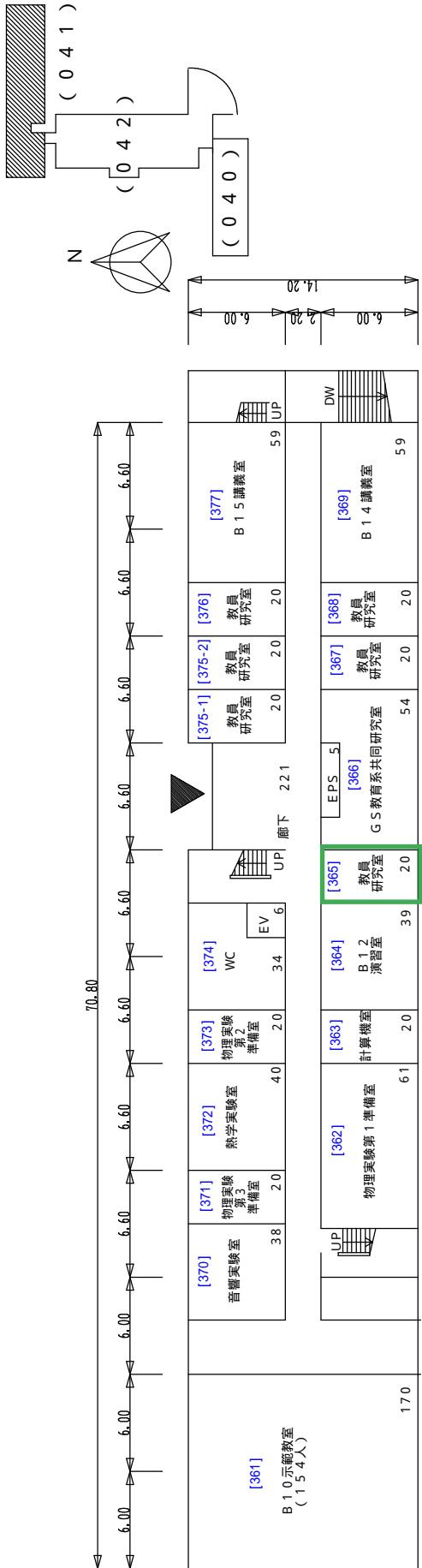
国立大学法人等施設実態調査（様式 3）



専有室面積：20m²

棟別平面図

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	036	団地名	角間	棟番号	041
------	------	-----	------	------	-----	-----	----	-----	-----

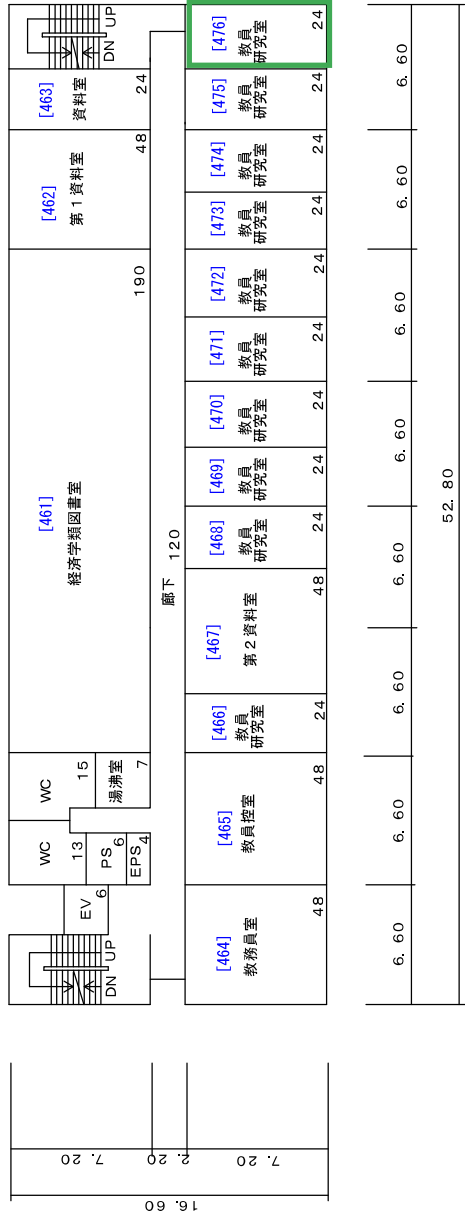
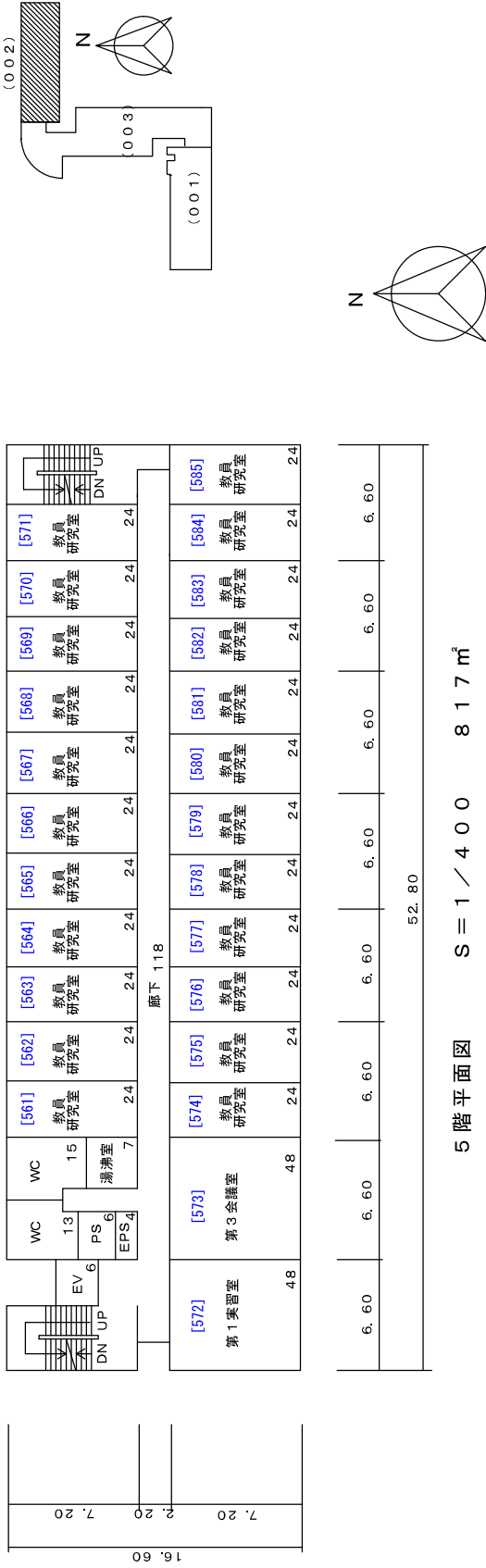


棟名称	建築年	構造・階数	面積区分		施設調査単位		面積
			番号	名称	番号	名称	
総合教育2号館	H5	R5	01	大学教育 研究施設	1920	共通教育	4,861
					3725	留学生センター	20
			09	大学 設備室等	6920	学部等設備室	189
				合計面積			5,070

整理番号	3-0236-036-041-1
------	------------------

棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	036	角間	002

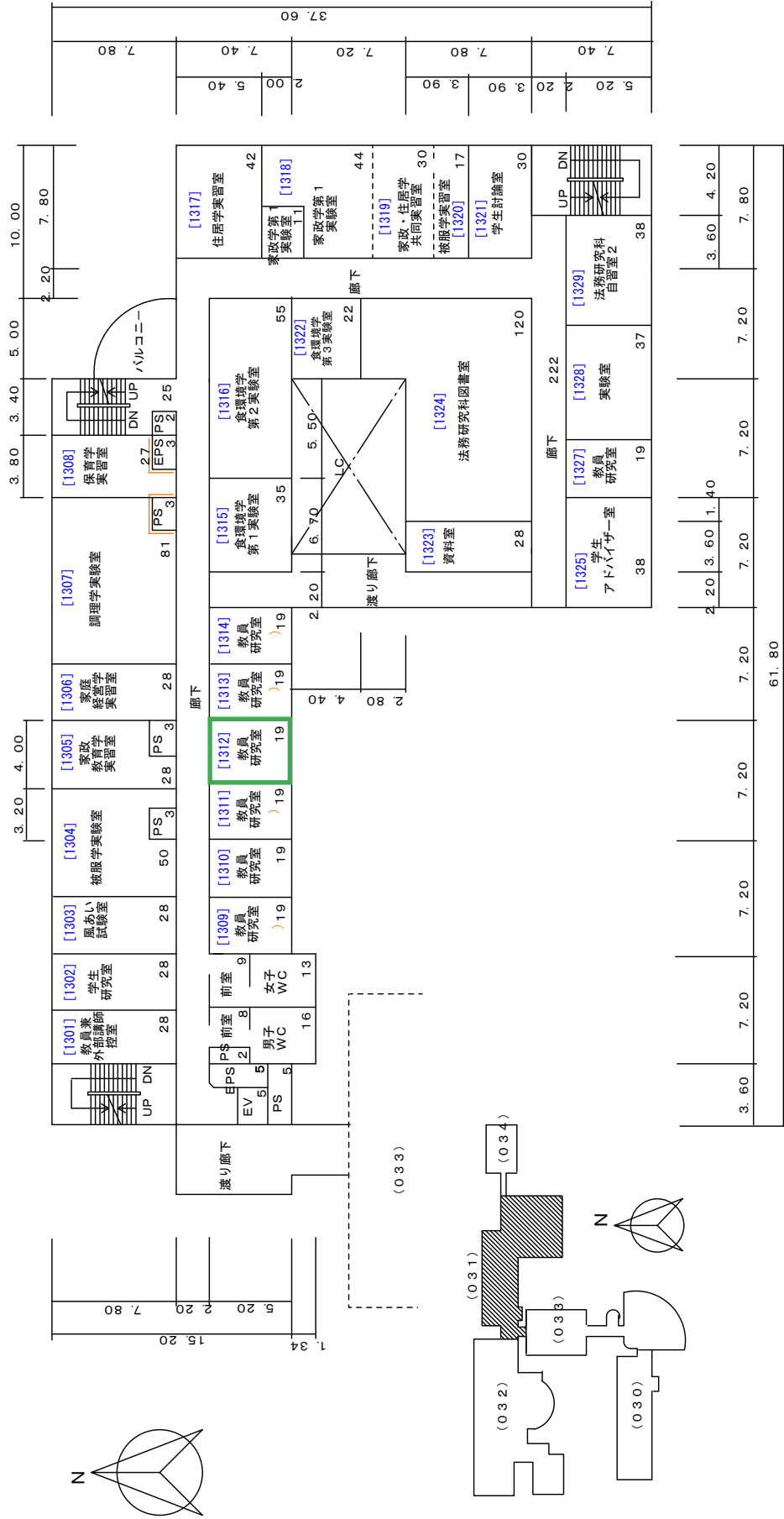


専用室面積：24 m^2

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	036	角間	031

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

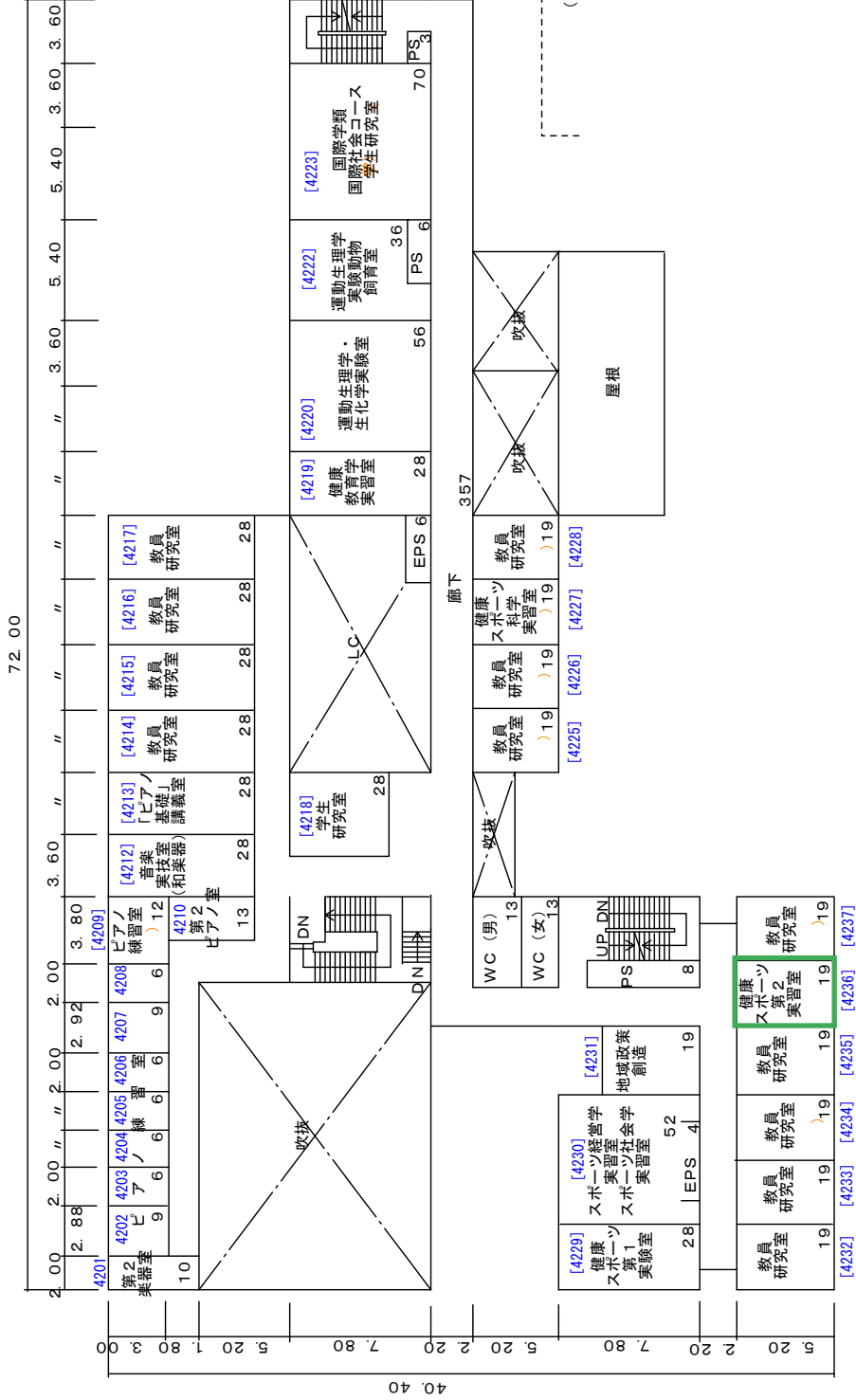
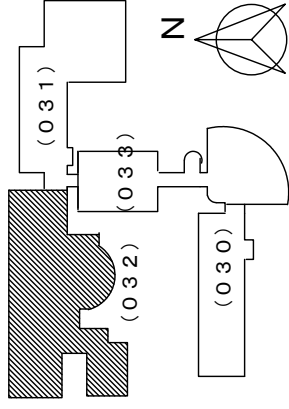


専用室面積：19m²

(031) 人間社会3号館 3階平面図 S = 1 / 400 1, 302 m²

棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	036	角間	032



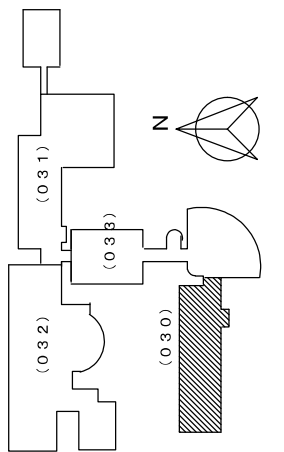
専用室面積：19㎡

2階平面図 S = 1 / 400 1, 168㎡
(032) 人間社会4号館 R3 3, 690㎡

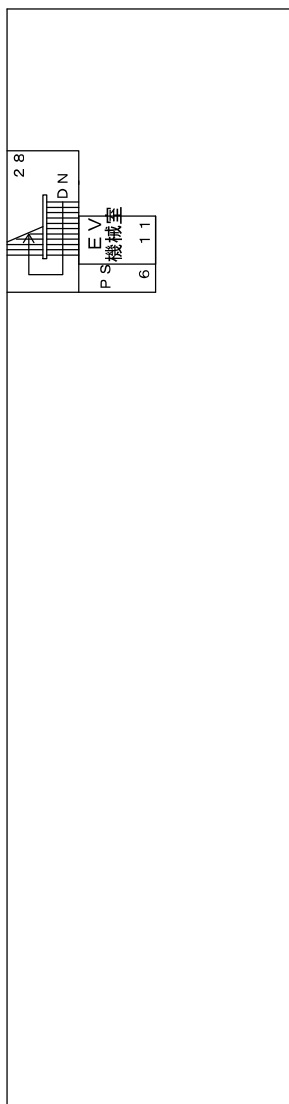
学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	036	団地名	角間	棟番号	030
------	------	-----	------	------	-----	-----	----	-----	-----

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

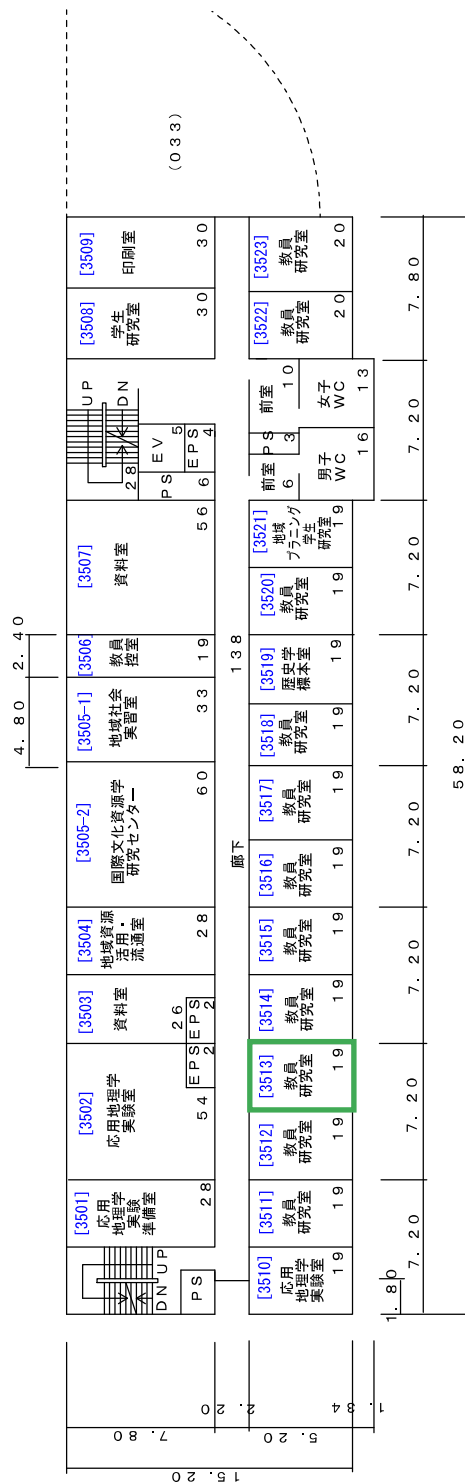


0	9	0	7.80
0	6	0	
0	6	0	
0	6	0	



4.38	2.82
7.20	

PH階平面図 S = 1 / 400 45㎡



5階平面図 S = 1 / 400 865㎡
(030) 人間社会5号館 R5-1 4,422㎡

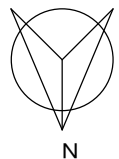
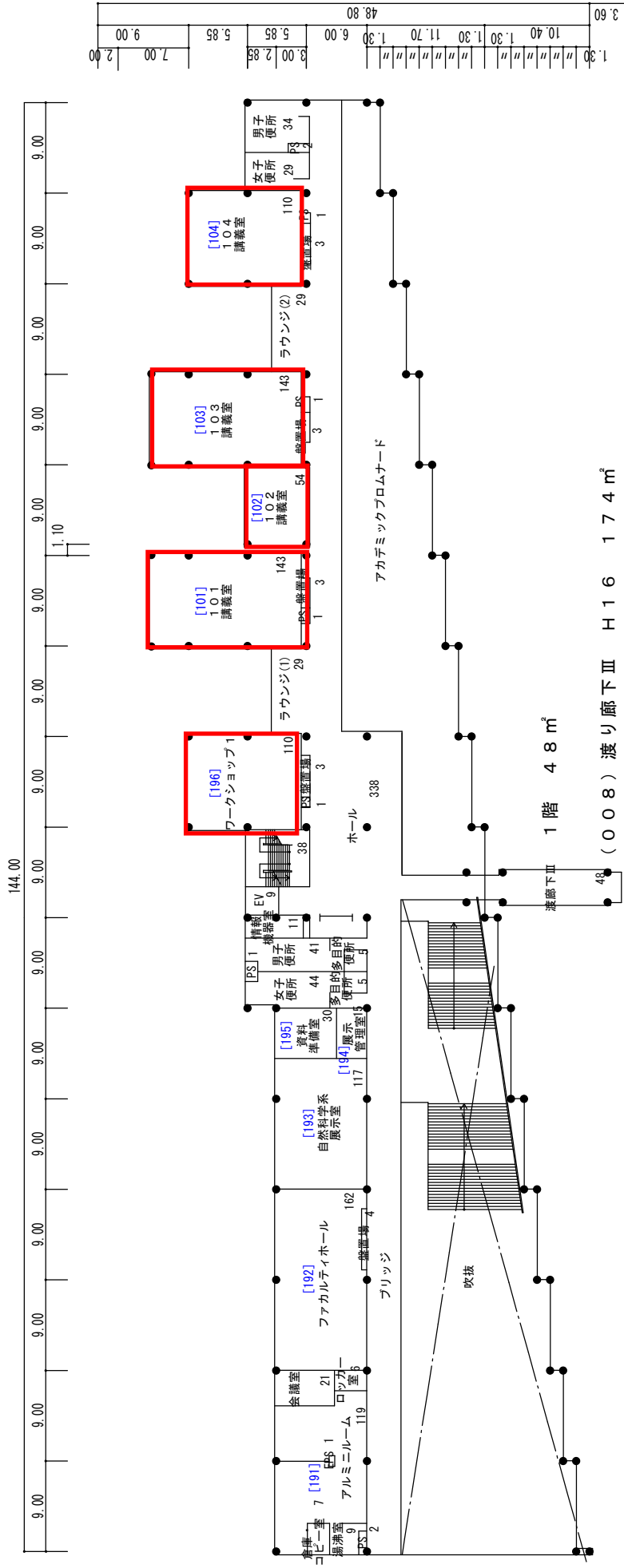
専用室面積：19㎡

(4) 校舎の平面図

棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間Ⅱ	007 008

国立大学法人等施設実態調査(様式3)



共有室面積：560㎡

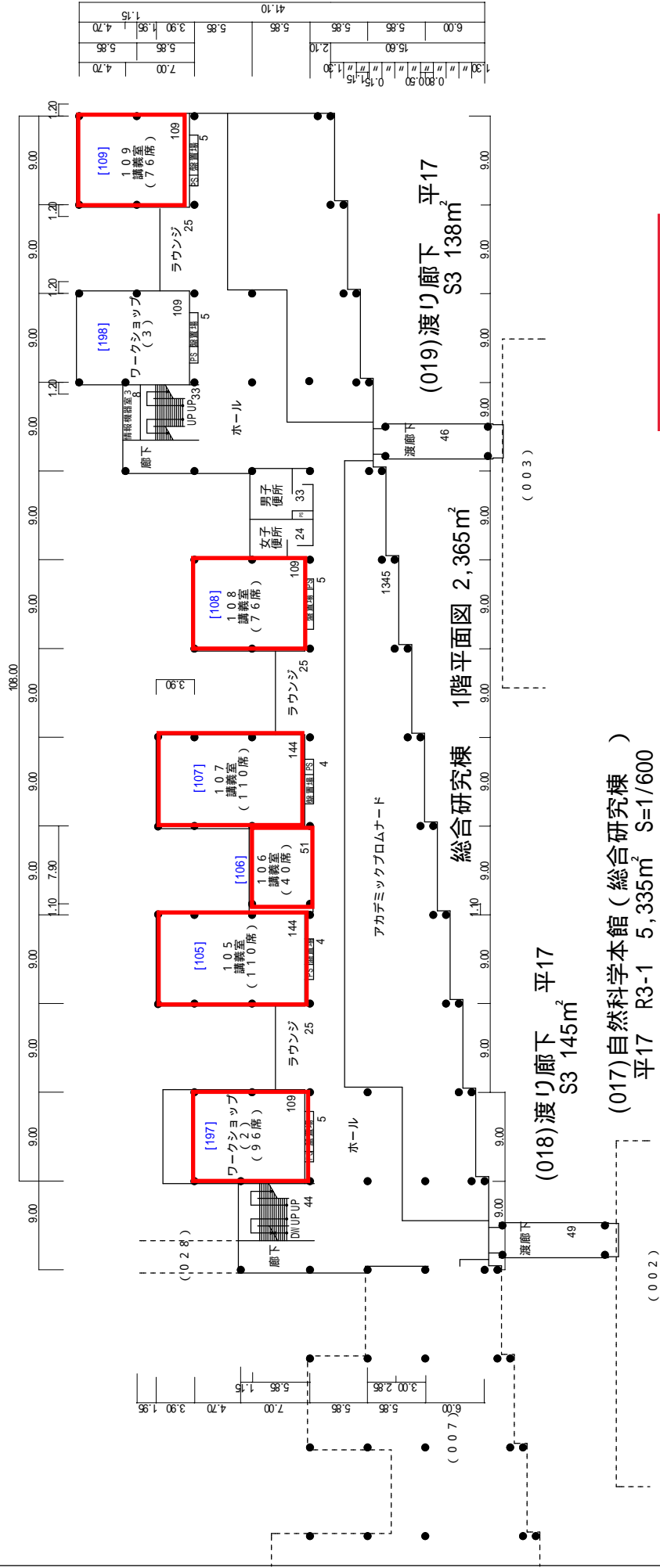
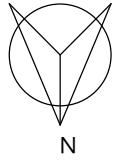
1階平面図 1,683㎡ S=1/600

(007) 自然科学本館(総合研究棟Ⅳ)
H16 R5 7,259㎡

1階 4.8㎡
(008) 渡り廊下Ⅲ H16 174㎡

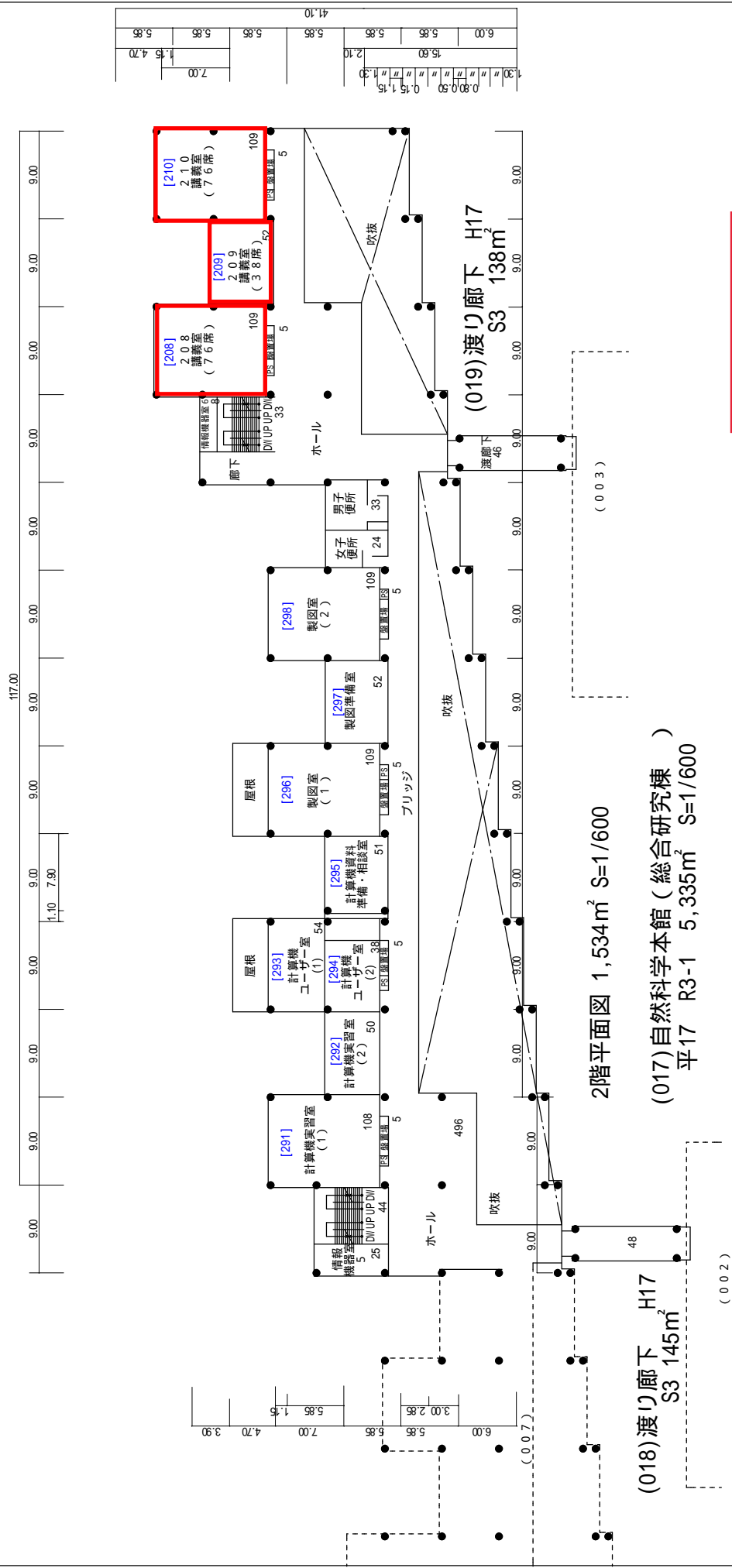
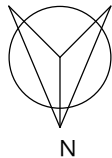
棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間	017018019



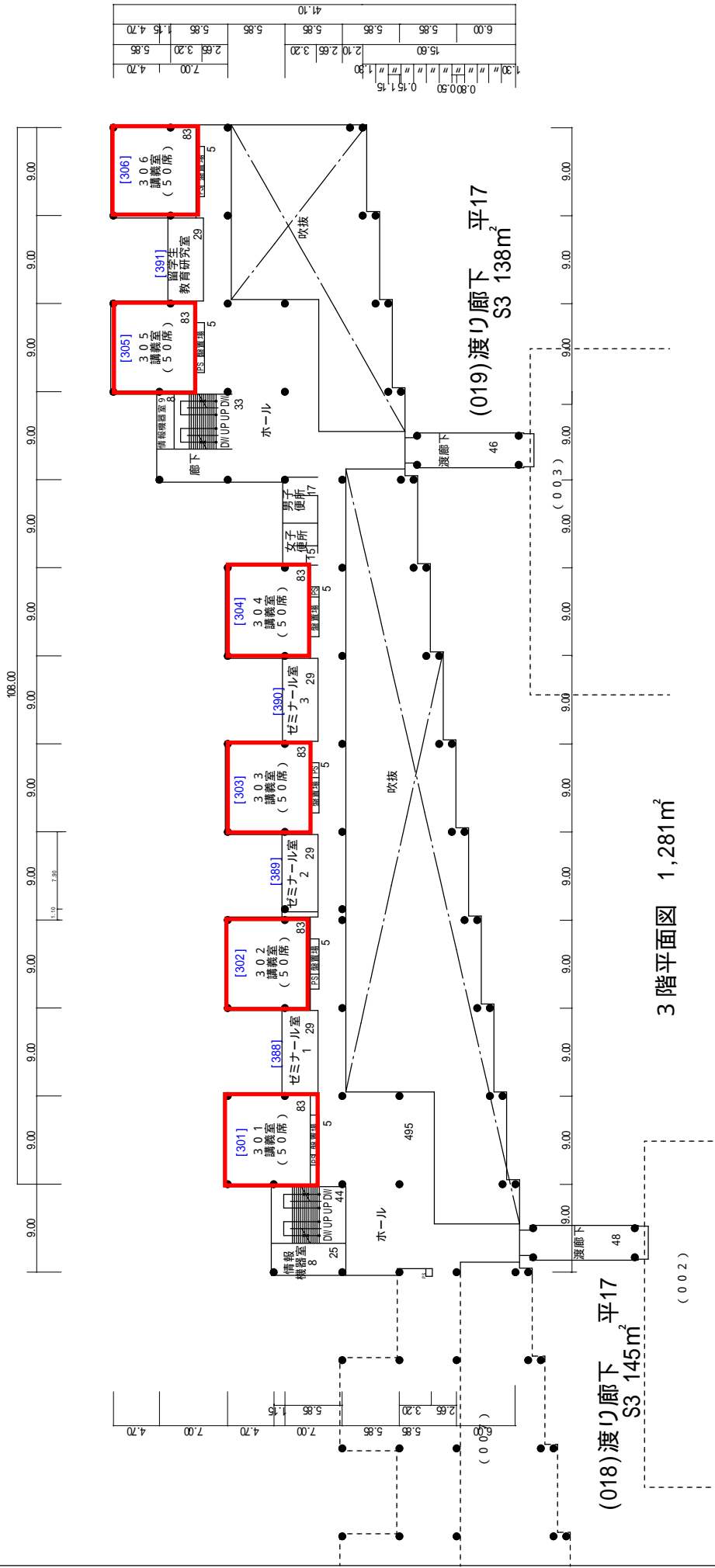
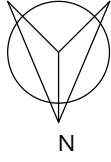
棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間	017018019



棟別平面図

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間	017018019



共有室面積：498m²

(017)自然科学本館（総合研究棟）
平17 R3-1 5,335m² S=1/600

3階平面図 1,281m²

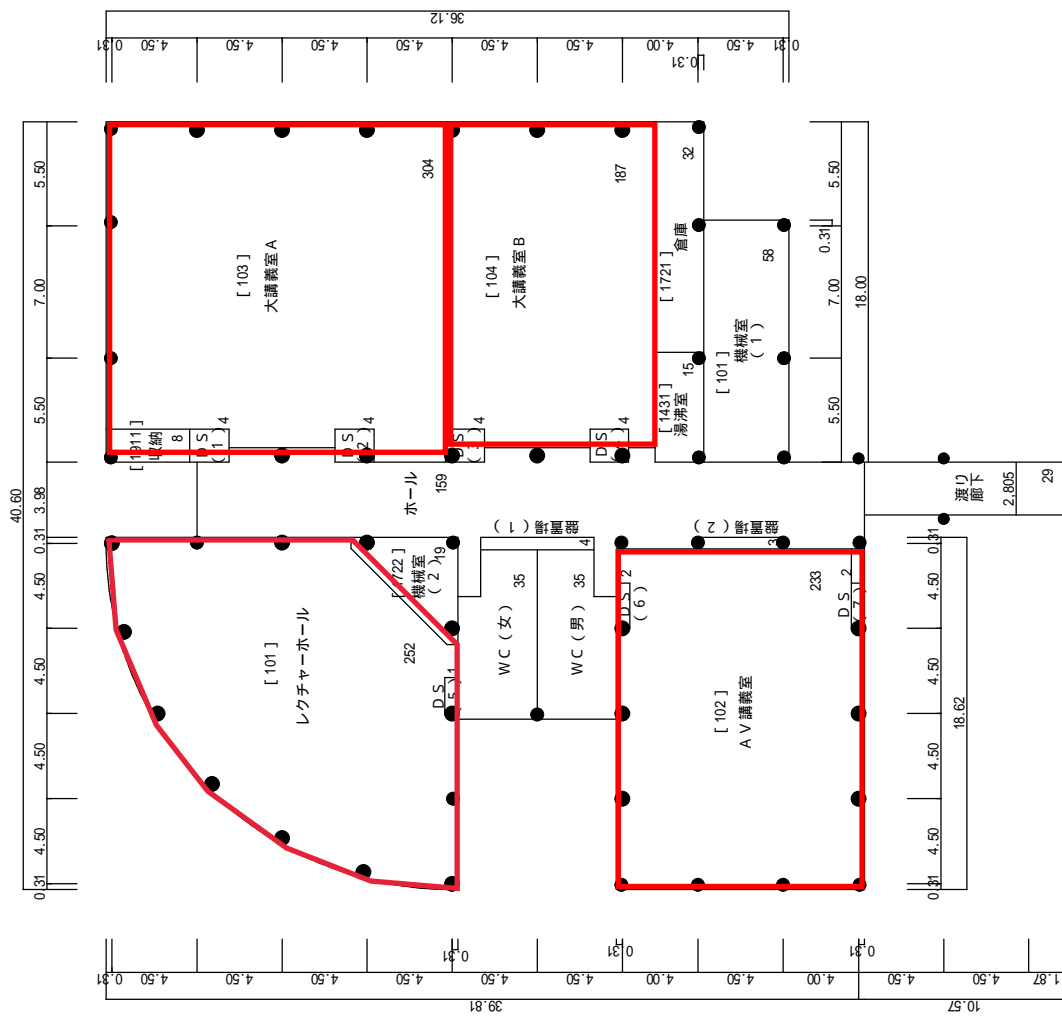
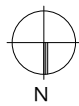
(018) 渡り廊下 平17
S3 145m²

(019) 渡り廊下 平17
S3 138m²

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間	028

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

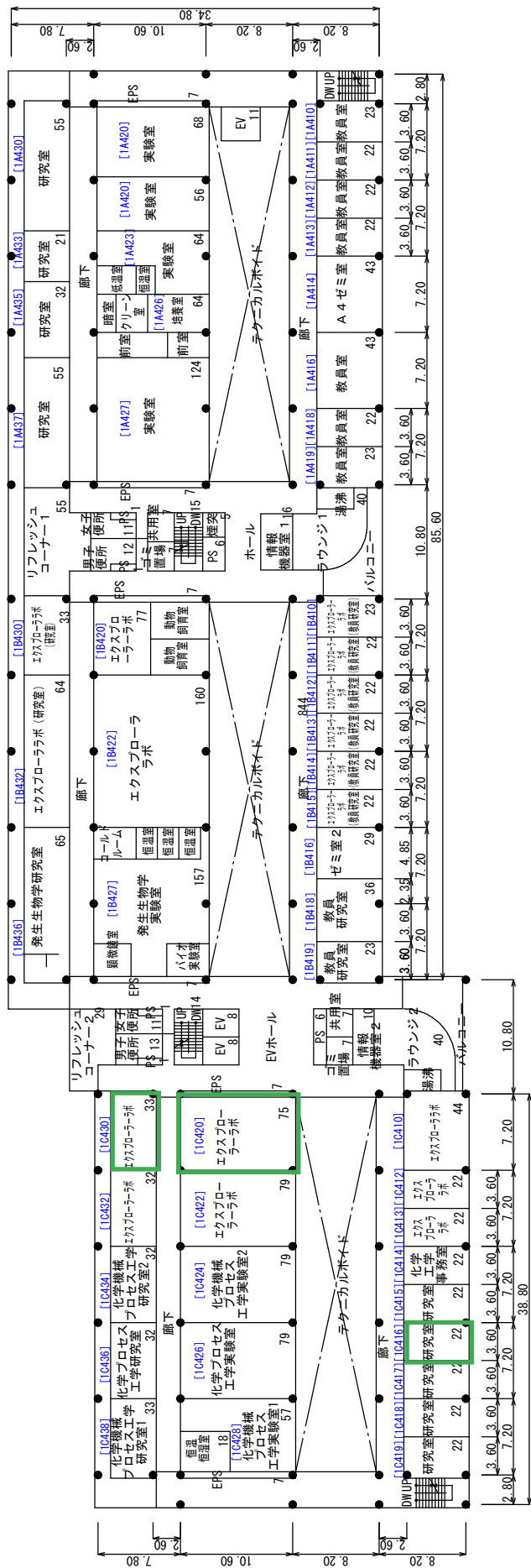


共有室面積：976㎡

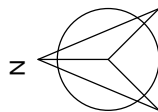
学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間Ⅱ	001

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



4階平面図 3,532㎡ S=1/600



専用室面積：130㎡

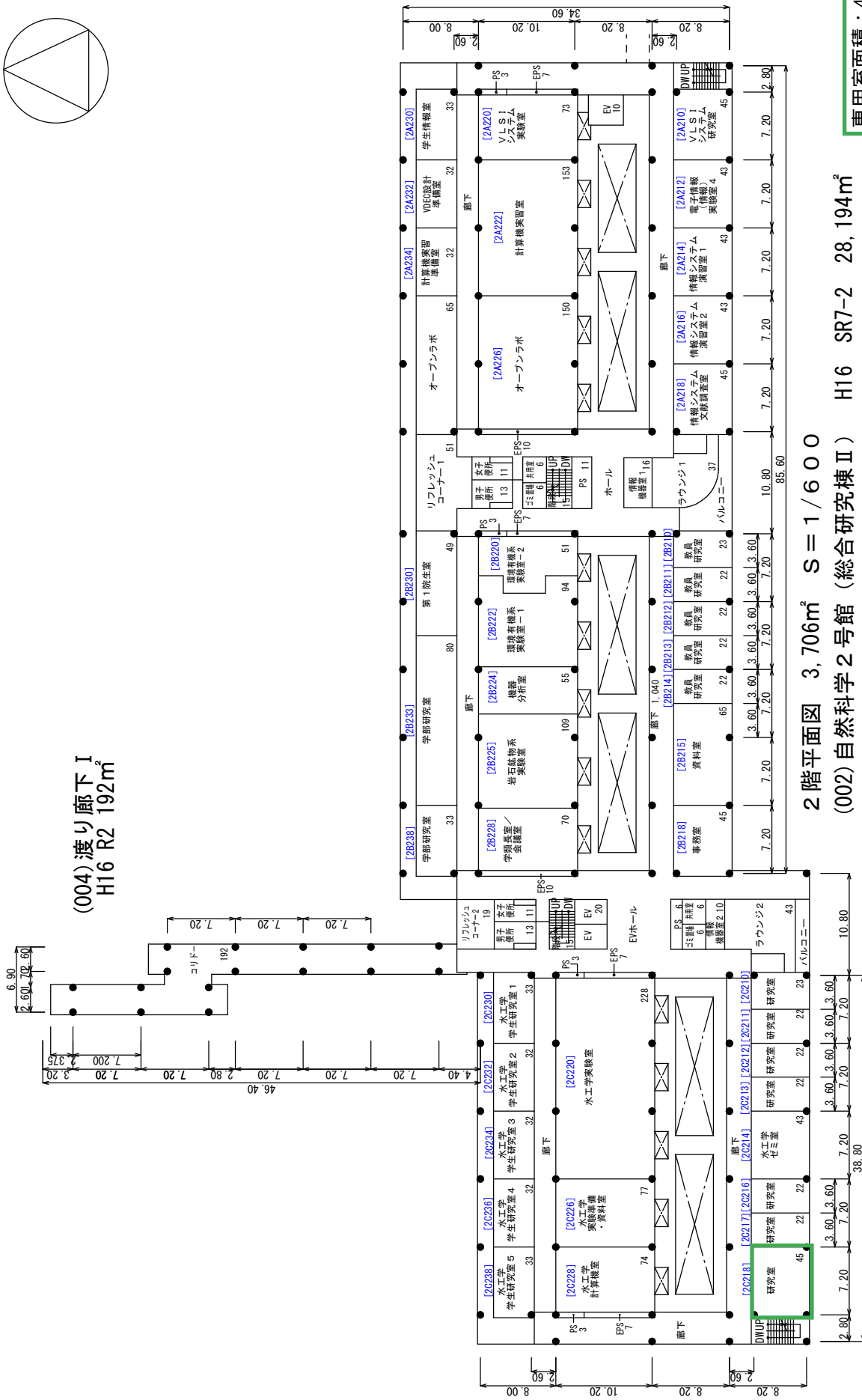
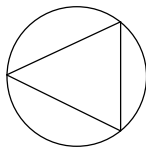
(001) 自然科学1号館 H15 SR7-1 21,001㎡
(総合研究棟Ⅰ) H16 SR7-1 6,656㎡

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	002 004
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	---------

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）

N



2階平面図 3,706m² S = 1 / 600
(002) 自然科学2号館 (総合研究棟Ⅱ) H16 SR7-2 28,194m²

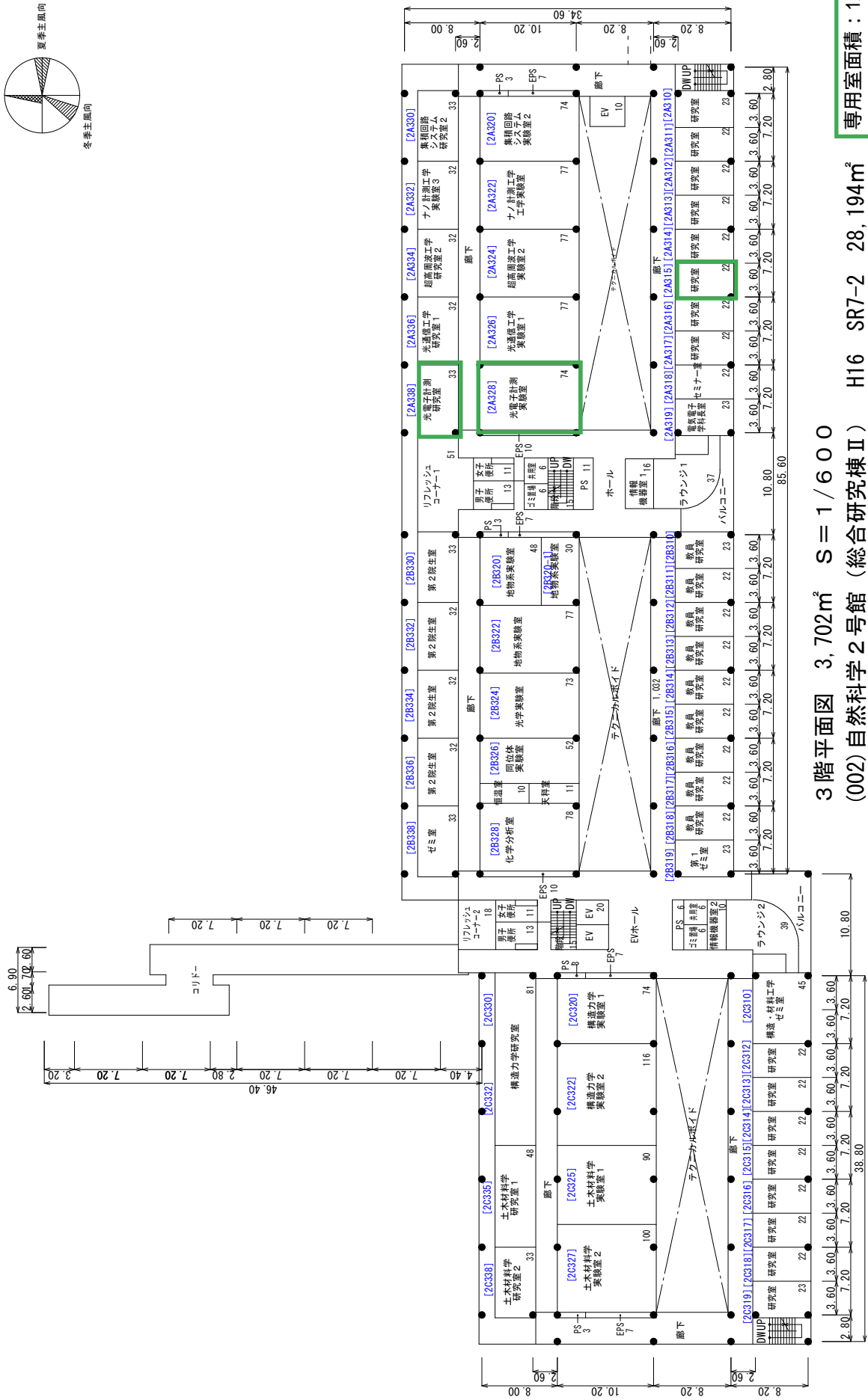
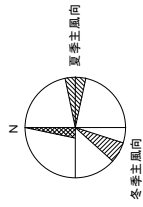
専用室面積：45m²

整理番号	3-0236-037-002-4 3-0236-037-004-3
------	--------------------------------------

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	002 004
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	---------

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



3階平面図 3,702㎡ S = 1/600
 (002)自然科学2号館 (総合研究棟Ⅱ) H16 SR7-2 28,194㎡

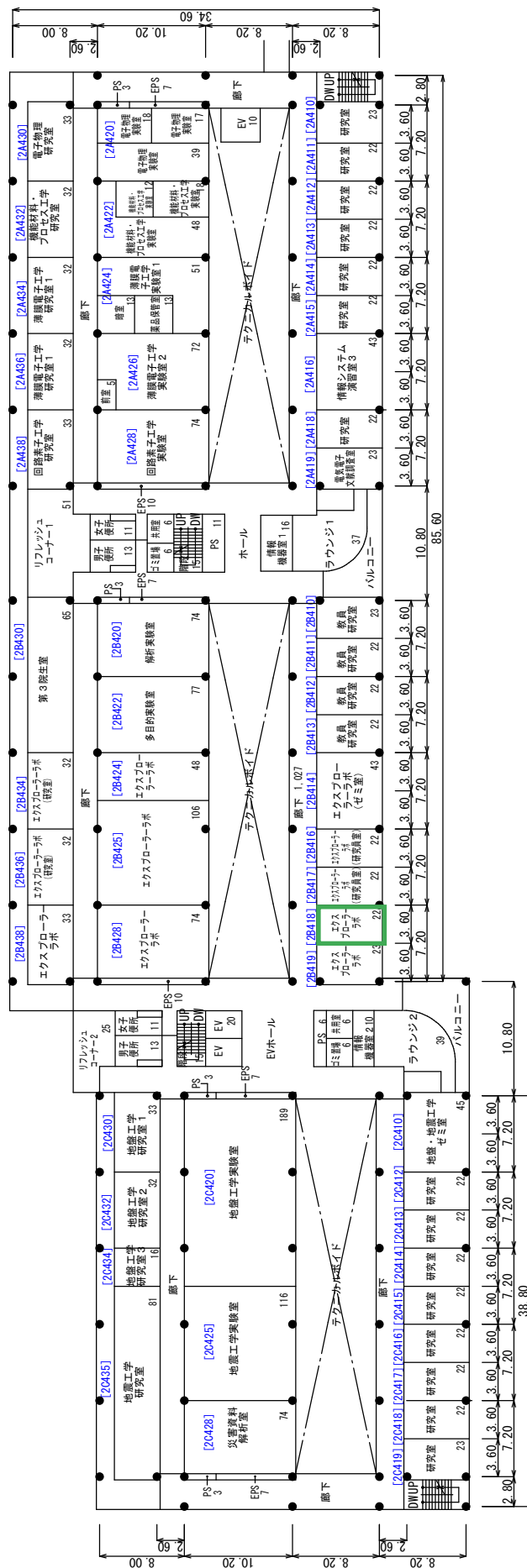
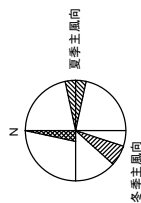
専用室面積：129㎡

整理番号	3-0236-037-002-5
	3-0236-037-004-4

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間Ⅱ	002

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



専有室面積：22㎡

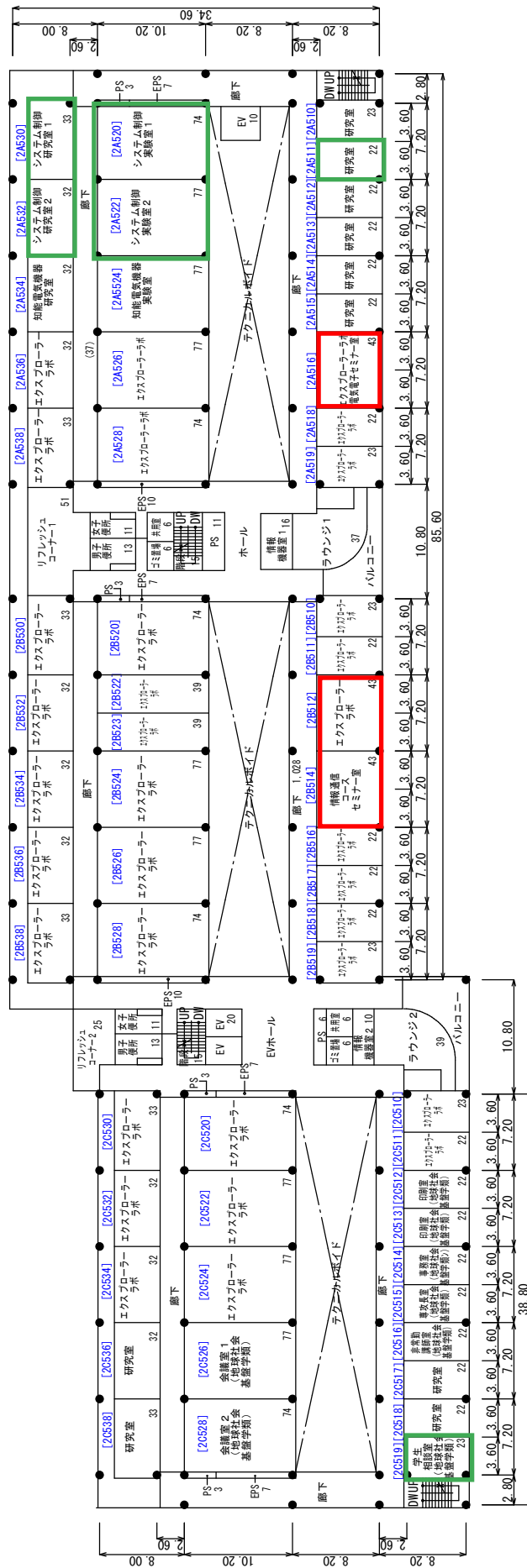
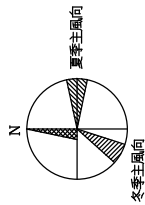
4階平面図 3,702㎡ S = 1 / 600

(002) 自然科学2号館 (総合研究棟Ⅱ) H16 SR7-2 28,194㎡

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間Ⅱ	002

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



5階平面図 3,702㎡ S = 1 / 600

(002) 自然科学2号館 (総合研究棟Ⅱ) H16 SR7-2 28,194㎡

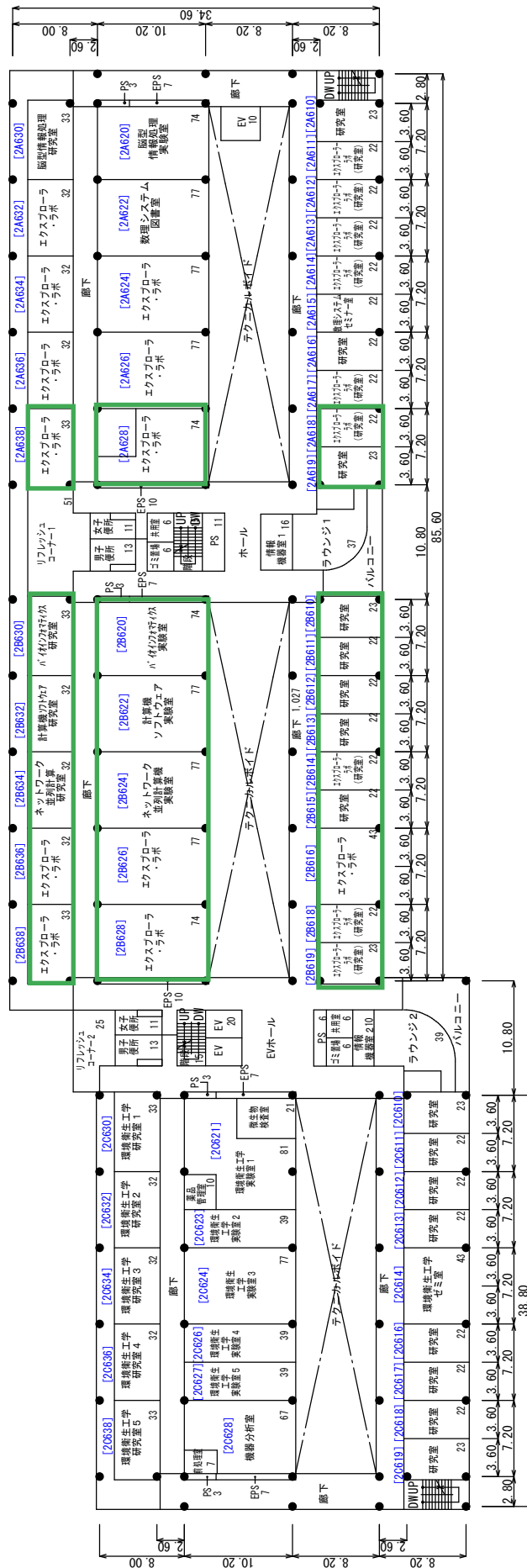
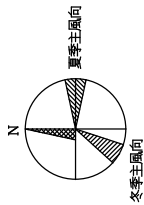
専用室面積 : 238㎡

共有室面積 : 129㎡

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
0236	金沢大学	037	角間Ⅱ	002

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



専用室面積：914㎡

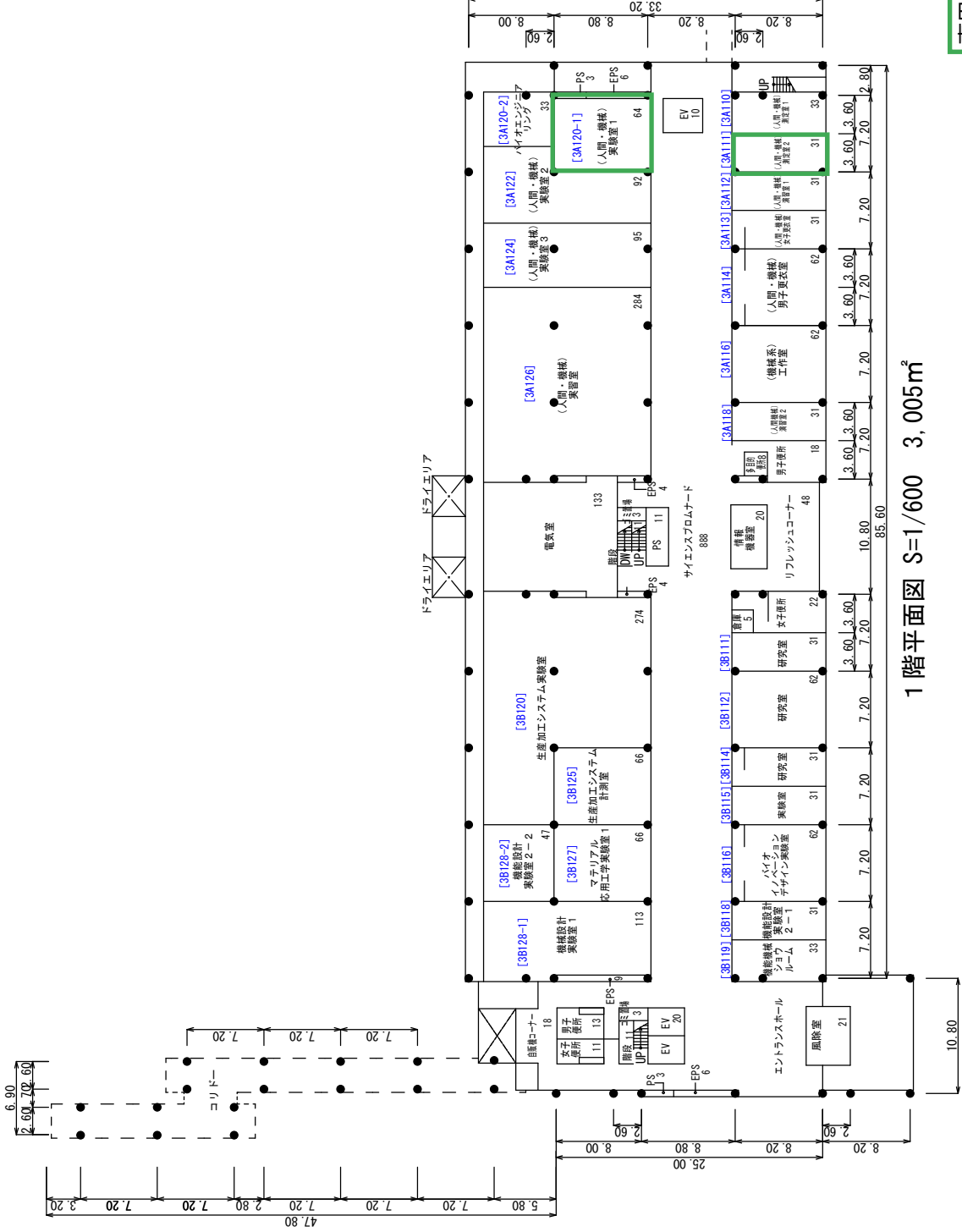
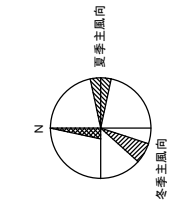
6階平面図 3,702㎡ S = 1 / 600

(002) 自然科学2号館（総合研究棟Ⅱ） H16 SR7-2 28,194㎡

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	003 005
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	---------

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



1階平面図 S=1/600 3,005㎡

専用室面積：95㎡

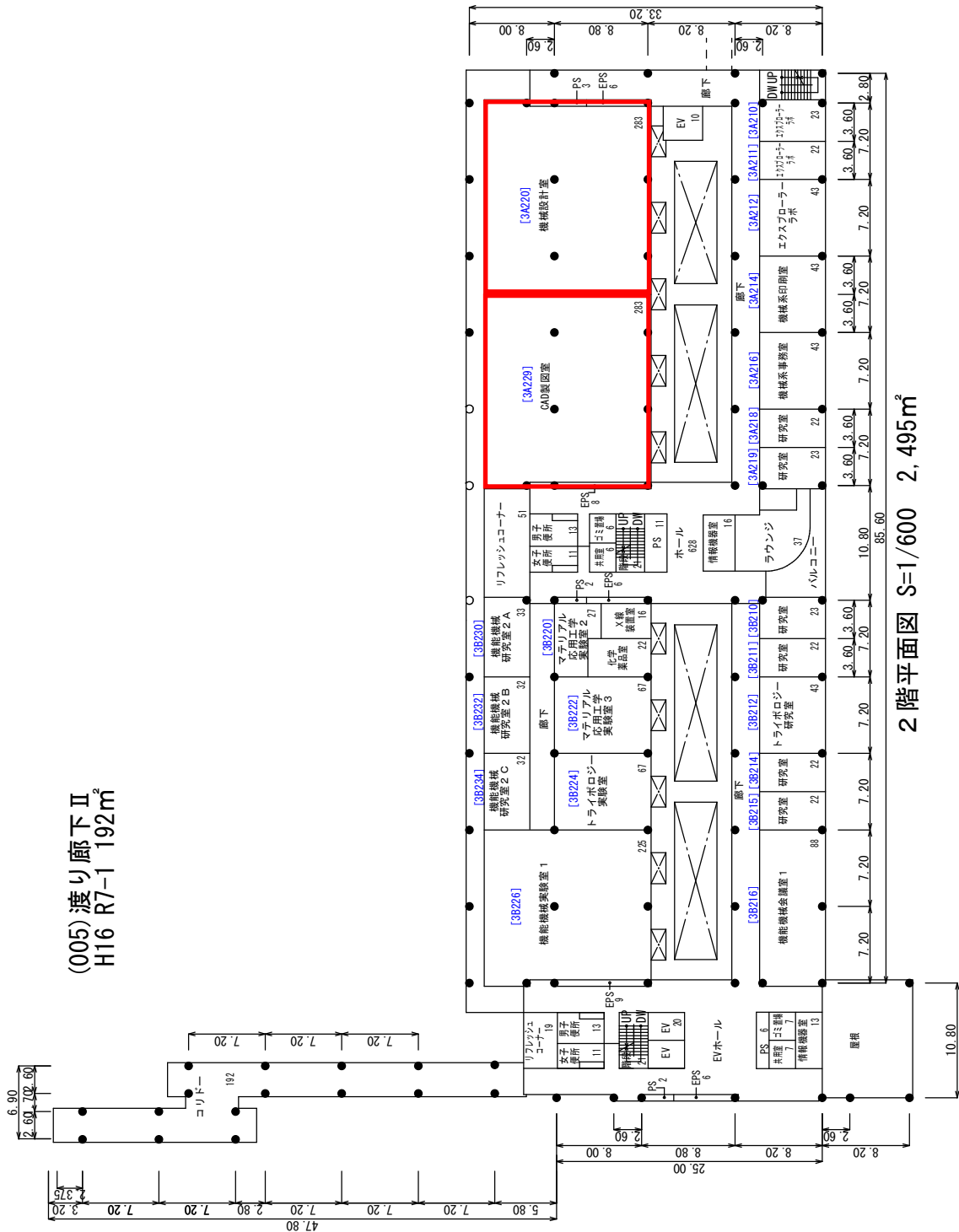
(003) 自然科学3号館 (総合研究棟Ⅲ) H16 SR7-1 18,201㎡

整理番号	3-0236-037-003-2
	3-0236-037-005-1

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	003 005
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	---------

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



(005) 渡り廊下Ⅱ
H16 R7-1 192㎡

2階平面図 S=1/600 2,495㎡

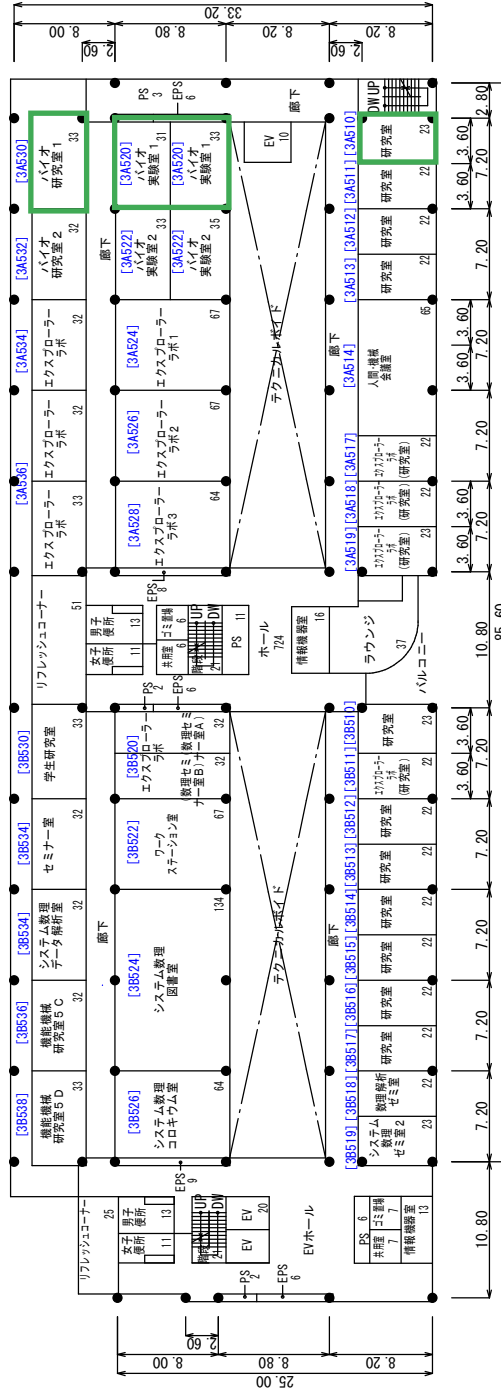
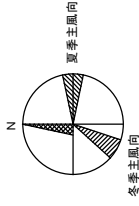
共有室面積：566㎡

(003) 自然科学3号館（総合研究棟Ⅲ） H16 SR7-1 18,201㎡

整理番号	3-0236-037-003-3
	3-0236-037-005-2

棟別平面図

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	003
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----



5 階平面図 S-1/600 2,497m²

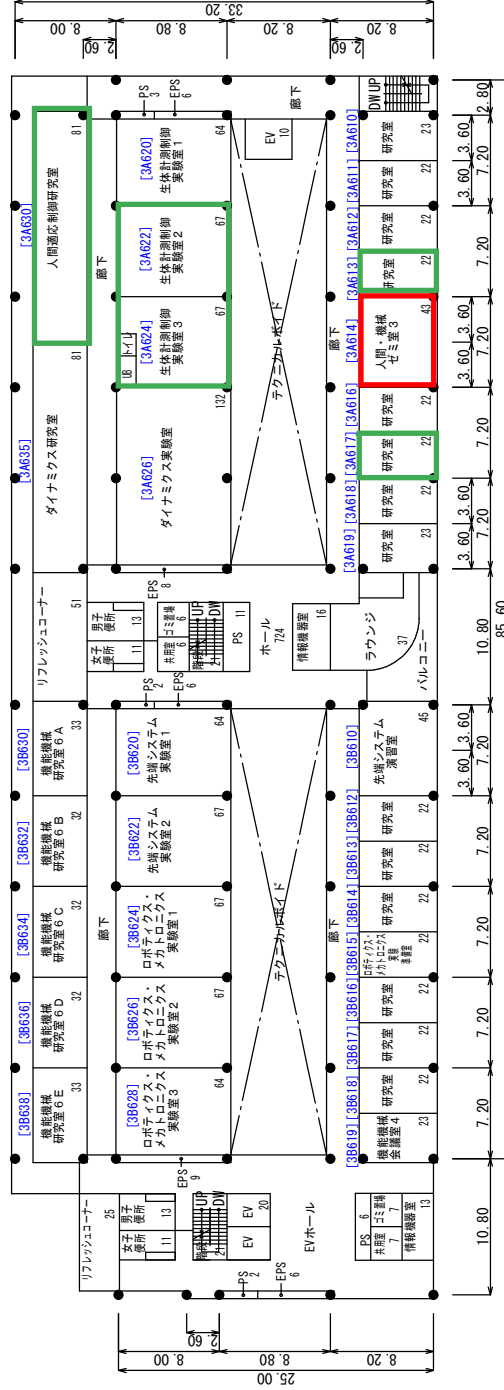
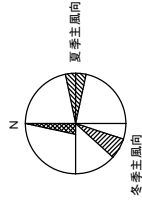
(003) 自然科学 3 号館 (総合研究棟Ⅲ) H16 SR7-1 18,201m²

専用室面積: 120m²

学校番号	0236	学校名	金沢大学	団地番号	037	団地名	角間Ⅱ	棟番号	003
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----

棟別平面図

国立大学法人等施設実態調査（様式3）



専用室面積：259㎡

共有室面積：43㎡

6階平面図 S=1/600 2,497㎡

(003) 自然科学3号館（総合研究棟Ⅲ） H16 SR7-1 18,201㎡

(改正案)

○金沢大学学則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 2 号)

改正

目次

第 1 章 総則(第 1 条—第 4 条)

第 2 章 組織

第 1 節 教育研究組織(第 5 条—第 18 条)

第 2 節 職員等(第 19 条—第 26 条)

第 3 節 教授会等(第 27 条—第 34 条)

第 4 節 事務組織(第 35 条)

第 5 節 技術支援組織(第 35 条の 2)

第 3 章 学生

第 1 節 学年等及び休業日(第 36 条・第 37 条)

第 2 節 修業年限及び在学年限(第 38 条—第 40 条)

第 3 節 入学(第 41 条—第 47 条)

第 4 節 教育課程, 履修方法等(第 48 条—第 58 条)

第 5 節 卒業要件及び学位授与(第 59 条—第 61 条)

第 6 節 休学, 復学, 転学, 留学, 退学及び除籍(第 62 条—第 68 条)

第 7 節 賞罰(第 69 条・第 70 条)

第 8 節 検定料, 入学料及び授業料(第 71 条—第 82 条)

第 4 章 研究生, 科目等履修生, 特別聴講学生及び外国人留学生(第 83 条—第 87 条)

第 5 章 学生寄宿舍(第 88 条)

第 6 章 共同教育課程(第 89 条)

第 7 章 特別の課程(第 90 条)

第 8 章 公開講座(第 91 条)

附則

第 1 章 総則

(目的)

第1条 金沢大学(以下「本学」という。)は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この学則において「学域」とは、学校教育法第85条ただし書の規定に基づく、教育上の目的を達成するための組織をいう。

2 この学則において「学類」とは、学域において学生の受入れと専門教育実施の基本的な単位をいう。

3 この学則において「コース」とは、学類において個別の学問領域に基礎を置く専門教育に係るカリキュラムの基本単位及びその履修の体系をいう。

4 この学則において「研究域」とは、研究上の目的を達成するための組織をいう。

5 この学則において「系」とは、研究域及び第5条の3に定める国際基幹教育院に所属する教員の専門領域に基づいて分類した所属の単位をいう。

6 この学則において「附属教育研究施設」とは、特定の学類の教育及び当該分野の研究に必要な施設をいう。

7 この学則において「学内共同教育研究施設」とは、教員その他の者が共同して教育若しくは研究を行う施設又は教育若しくは研究のため共用する施設をいう。

8 この学則において「学内共同利用施設」とは、教員その他の者が共同して利用する施設をいう。

9 この学則において「部局」とは、教員が所属又は関与し、教育、研究、診療その他の大学運営に重要な事項を実施するための組織をいう。

(自己点検評価及び研修等)

第3条 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)並びに授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行うものとする。

2 自己点検評価及び研修等については、別に定める。

(情報の積極的な提供)

第4条 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 組織

第1節 教育研究組織

(未来創成教育環)

第5条 本学に、未来創成教育環を置く。

2 未来創成教育環に関し必要な事項は、別に定める。

(学域、学類並びに課程、コース及び専攻)

第5条の2 本学に、次に掲げる学域、学類並びに課程、コース及び専攻を置く。

融合学域

先導学類

観光デザイン学類

スマート創成科学類

人間社会学域

人文学類

法学類 公共法政策コース，企業関係法コース，総合法学コース

経済学類 エコノミクスコース，グローバル・マネジメントコース

学校教育学類 共同教員養成課程

地域創造学類

国際学類

理工学域

数物科学類

物質化学類

機械工学類 機械創造コース，機械数理コース，エネルギー機械コース

フロンティア工学類

電子情報通信学類 電気電子コース，情報通信コース

地球社会基盤学類 地球惑星科学コース，土木防災コース，環境都市コース

生命理工学類 生物科学コース，海洋生物資源コース，バイオ工学コース

医薬保健学域

医学類

薬学類

医薬科学類 生命医科学コース，創薬科学コース

保健学類 看護学専攻，診療放射線技術学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻

2 各学域の入学定員及び収容定員は、別表第一のとおりとする。

3 学域及び学類の人材の養成に関する目的その他の教育上の目的並びに運営に必要な事項は、別に定める。

4 次の学類に、次に掲げる附属教育研究施設を置く。

人間社会学域学校教育学類

附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属高等学校及び附属特別支援学校(以下「附属学校」という。)

医薬保健学域薬学類

附属薬用植物園

5 附属特別支援学校は、知的障害者に対する教育を行うことを目的とする。

6 附属教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(国際基幹教育院)

第5条の3 本学に、国際基幹教育院を置く。

2 国際基幹教育院に、次に掲げる部及び系を置く。

総合教育部

GS教育系、外国語教育系

3 前条第2項の規定にかかわらず、前項の総合教育部に、文系又は理系の区分のみを定めて行う本学の入学者を選抜するための試験により入学した者を学類へ移行するまでの間、所属させる。

4 国際基幹教育院に関し必要な事項は、別に定める。

(大学院)

第6条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に、次に掲げる研究科及び専攻を置く。

人間社会環境研究科

(前期2年の博士課程)

人文学専攻、経済学専攻、地域創造学専攻、国際学専攻

(後期3年の博士課程)

人間社会環境学専攻

自然科学研究科

(前期2年の博士課程)

数物科学専攻、物質化学専攻、機械科学専攻、フロンティア工学専攻、電子情報通信学専攻、地球社会基盤学専攻、生命理工学専攻

(後期3年の博士課程)

数物科学専攻、物質化学専攻、機械科学専攻、電子情報科学専攻、環境デザイン学専攻、自然システム学専攻

医薬保健学総合研究科

(修士課程)

医科学専攻

(博士課程)

医学専攻、薬学専攻

(前期2年の博士課程)

創薬科学専攻、保健学専攻

(後期3年の博士課程)

創薬科学専攻、保健学専攻

先進予防医学研究科

(博士課程)

先進予防医学共同専攻

新学術創成研究科

(前期2年の博士課程)

融合科学共同専攻, ナノ生命科学専攻

(後期3年の博士課程)

融合科学共同専攻, ナノ生命科学専攻

法学研究科

(修士課程)

法学・政治学専攻

(専門職学位課程)

法務専攻

教職実践研究科

(専門職学位課程)

教職実践高度化専攻

3 大学院(連合大学院を含む。)に関し必要な事項は, 別に定める。

第6条の2 削除

(別科)

第7条 本学に, 養護教諭特別別科を置く。

2 別科に関し必要な事項は, 別に定める。

(研究域及び系)

第8条 本学に, 次に掲げる研究域及び系を置く。

融合研究域

融合科学系

人間社会研究域

人間科学系, 歴史言語文化学系, 法学系, 経済学経営学系, 学校教育系
理工研究域

数物科学系, 物質化学系, 機械工学系, フロンティア工学系, 電子情報通信学系,
地球社会基盤学系, 生命理工学系

医薬保健研究域

医学系, 薬学系, 保健学系

2 研究域に附属研究センターを置くことができる。

3 研究域, 研究域に置く系及び附属研究センターに関し必要な事項は, 別に定める。

(附属病院)

第9条 本学に, 附属病院を置く。

2 附属病院は, 医薬保健学域のための教育研究施設とする。

3 附属病院に関し必要な事項は, 別に定める。

(統合創成研究環)

第10条 本学に, 統合創成研究環を置く。

2 統合創成研究環に関し必要な事項は別に定める。

(附置研究所等)

第10条の2 本学に、次に掲げる附置研究所等を置く。

がん進展制御研究所
ナノ生命科学研究所
ナノマテリアル研究所
設計製造技術研究所
高度モビリティ研究所
古代文明・文化資源学研究所

2 附置研究所等に関し必要な事項は、別に定める。ただし、ナノ生命科学研究所については、自主独立した拠点形成の推進を図るため、その運営に関して特例措置を適用することができるものとする。

(附属図書館)

第11条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館に、中央図書館(自然科学系図書館を含む。)及び医学系分館を置く。
3 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第12条 本学に、次に掲げる学内共同教育研究施設を置く。

学術メディア創成センター
環日本海域環境研究センター
疾患モデル総合研究センター
子どものこころの発達研究センター
先進予防医学研究センター
環境保全センター

2 学内共同教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(保健管理センター)

第13条 本学に、保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関し必要な事項は、別に定める。

(グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構)

第14条 本学に、グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構を置く。

2 グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構に関し必要な事項は、別に定める。

(学内共同利用施設)

第15条 本学に、次に掲げる学内共同利用施設を置く。

極低温研究室

資料館

技術支援センター

2 学内共同利用施設に関し必要な事項は、別に定める。

(その他の組織)

第16条 本学に、前条までに定めるもののほか、別に定めるところによりその他の組織を置くことができる。

(研究プログラム等)

第17条 がん進展制御研究所に、研究プログラムを置く。

2 ナノ生命科学研究所，ナノマテリアル研究所，設計製造技術研究所，高度モビリティ研究所，古代文明・文化資源学研究所，学内共同教育研究施設，保健管理センター及び先端科学・社会共創推進機構に、研究部門を置くことができる。

3 研究プログラム及び研究部門に関し必要な事項は、別に定める。

(連携講座等)

第18条 大学院に、連携講座，寄附講座及び共同研究講座を置くことができる。

2 国際基幹教育院，附置研究所等，学内共同教育研究施設，保健管理センター，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に、寄附研究部門を置くことができる。

3 国際基幹教育院，附属病院，附置研究所等，学内共同教育研究施設，保健管理センター，新学術創成研究機構，先端科学・社会共創推進機構及び国際機構に、共同研究部門を置くことができる。

4 連携講座，寄附講座及び寄附研究部門並びに共同研究講座及び共同研究部門に関し必要な事項は、別に定める。

第2節 職員等

(学長及び副学長)

第19条 本学に、学長を置く。

2 本学に、別に定めるところにより副学長を置く。

(教授，准教授等)

第20条 本学に、教授，准教授，講師，助教及び助手(以下「教員」という。)を置く。

2 本学に、事務職員，技術職員，医療職員その他の職員を置く。

3 附属学校に、校長，園長，教頭，教諭，養護教諭，栄養教諭その他の職員を置く。

4 附属学校に、副校長，副園長，主幹教諭及び指導教諭を置くことができる。

5 職員に関し必要な事項は、別に定める。

(顧問，学長特別補佐及び学長補佐)

第21条 本学に、本学の業務の運営に関する事項について、学長の諮問に応じて意見を述べ、又は助言を行うため、別に定めるところにより顧問を若干人置くことができる。

- 2 本学に、学長の職務のうち特に必要と認める事項に関し、学長を補佐するため、別に定めるところにより学長補佐及び学長特別補佐を若干人置くことができる。

(部局及び部局長等)

第22条 学域、国際基幹教育院、研究科、研究域、附属病院、附置研究所等、附属図書館、学内共同教育研究施設、保健管理センター、グローバル人材育成推進機構、新学術創成研究機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構を部局とし、それぞれ学域長、国際基幹教育院長、研究科長、研究域長、附属病院長、附置研究所等の長、附属図書館長、学内共同教育研究施設の長、保健管理センター長、グローバル人材育成推進機構長、新学術創成研究機構長、先端科学・社会共創推進機構長、国際機構長及びダイバーシティ推進機構長(以下「部局長」という。)を置く。

- 2 研究域長は対応する学域の学域長を兼ねるものとする。
- 3 学域に置く学類及び研究域に置く系に、それぞれ学類長及び系長を置き、国際基幹教育院に置く系に系長を置く。ただし、研究域長は学類長又は系長を、国際基幹教育院長は系長を兼ねることができない。
- 4 附属薬用植物園に、附属薬用植物園長を置く。
- 5 附属図書館に置かれる医学系分館に、分館長を置く。
- 6 学内共同利用施設に、学内共同利用施設の長を置く。
- 7 人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、新学術創成研究科及び法学研究科の各専攻に、専攻長を置く。
- 8 第1項に定める部局に、部局長を補佐するため、副部局長を置くことができる。
- 9 第1項から前項までに定める部局長等(以下「部局長等」という。)の任期は、2年とする。ただし、補欠の部局長等の任期は、前任者の残任期間とする。
- 10 部局長等は、再任されることができる。
- 11 部局長等は、教授(常勤の特任教授を含む。以下この項において同じ。)をもって充てる。ただし、学長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。
- 12 部局長等の選考に関し必要な事項は、学長又は部局長が別に定める。

(部局長の解任)

第23条 学長は、部局長(学類長及び系長を含み、附属図書館長を除く。以下この条において同じ。)が、次の各号のいずれかに該当するときは、解任することができる。この場合において、学長は、第27条に定める会議(第31条の5に定めるナノマテリアル研究所会議、第31条の6に定める設計製造技術研究所会議、第31条の7に定める高度モビリティ研究所会議、第31条の8に定める古代文明・文化資源学研究所会議、第32条第1項に定める教員会議及び第33条に定めるセンター会議等を含む。)の申出に基づき行うものとする。

- (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。

- (2) 職務上の義務違反があるとき。
- (3) その他部局長たるに適しないと認められるとき。
- 2 前項に定めるもののほか、学長は、部局長の職務の執行が適当でないため当該部局の業務の実績が悪化した場合であって、当該部局長に引き続き職務を行わせることが適当でないとき、解任することができる。
- 3 前項の規定により、研究科長、国際基幹教育院長、研究域長、附属病院長、がん進展制御研究所長、学類長及び系長を解任するときは、第27条に定める会議の申出に基づき行うものとする。

(附属学校統括長)

第24条 本学に、附属学校の運営及び改革を統括するため、附属学校統括長を置く。

- 2 附属学校統括長は、学長が指名する者をもって充てる。
- 3 附属学校統括長の任期は2年とする。ただし、補欠の附属学校統括長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 附属学校統括長は、再任されることができる。

(名誉教授、客員教授等)

第25条 本学の学長、副学長又は教授として勤務した者に、名誉教授の称号を付与することができる。

- 2 本学の常時勤務の教員以外の職員に、客員教授又は客員准教授の称号を付与することができる。
- 3 名誉教授、客員教授等に関し必要な事項は、別に定める。

第26条 削除

第3節 教授会等

(教育研究会議、学類会議、研究科会議及び系会議並びに教授会議)

第27条 教授会として、融合学域及び融合研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、融合系教育研究会議を置き、その下に、学類会議及び系会議を置く。

- 2 教授会として、人間社会学域、人間社会環境研究科、法学研究科、教職実践研究科及び人間社会研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、人間社会系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 3 教授会として、理工学域、自然科学研究科及び理工研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、理工系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 4 教授会として、医薬保健学域、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科及び医薬保健研究域の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、医薬保健系教育研究会議を置き、その下に、学類会議、研究科会議、系会議を置く。
- 5 教授会として、国際基幹教育院の教育及び研究に関する重要事項を審議するため、国際基幹教育院教授会議を置き、その下に系会議を置く。

6 教授会として、がん進展制御研究所の研究に関する重要事項を審議するため、がん進展制御研究所教授会議を置く。

7 教授会として、ナノ生命科学研究soの研究に関する重要事項を審議するため、ナノ生命科学研究so教授会議を置く。

(組織)

第 28 条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究so教授会議は，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究soの教授をもって組織する。

2 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究so教授会議には，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究soの准教授，講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

3 医薬保健系教育研究会議には，附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。) ，附属病院の教授，准教授，講師(常時勤務の者に限る。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

4 ナノ生命科学研究so教授会議には，ナノ生命科学研究soリサーチプロフェッサー(極めて顕著な研究業績を有する国内外の教育機関から招へいする教員に限る。)を加えることができる。ただし，学長が特に必要と認めた場合，ナノ生命科学研究so以外の教授を加えることができる。

(議長)

第 29 条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究so教授会議に議長を置き，当該研究域，国際基幹教育院，がん進展制御研究所及びナノ生命科学研究soの長をもって充てる。

2 議長は，会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは，議長があらかじめ指名する者が，議長の職務を行う。

(審議事項)

第 30 条 教育研究会議，国際基幹教育院教授会議，がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究so教授会議は，学校教育法第 93 条第 2 項及び第 3 項に基づき，次に掲げる事項を審議し，学長又は教授会を置く組織の長に意見を述べるものとする。

(1) 当該研究域長，国際基幹教育院長，がん進展制御研究所長及びナノ生命科学研究so長の候補者の選考に関する事項

(2) 教員の人事及び選考に関する事項

(3) 中期目標・中期計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項

(4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項

- (6) 教育課程の編成に関する事項
 - (7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
 - (8) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
 - (9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
 - (10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項
 - (11) その他当該部局の教育及び研究に関する重要事項
- 2 学類会議、研究科会議及び系会議は、前項の事項のうち、教育研究会議が付託した事項を審議する。
- 3 教育研究会議は、学類会議、研究科会議及び系会議の議決をもって、教育研究会議の議決とすることができる。
- (代議員会等)

第 31 条 教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は、構成員のうちの一部の者をもって組織する代議員会、専門委員会等(以下「代議員会等」という。)を置くことができる。

- 2 教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議は、代議員会等の議決をもって、教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議及びナノ生命科学研究所教授会議の議決とすることができる。
- (基幹教育管理運営委員会)

第 31 条の 2 本学に、「金沢大学<グローバル>スタンダード」を基軸とした、全学的な基幹教育(学士課程、修士課程及び博士課程それぞれの教育の基盤をなす教養的教育をいう。)について、基本的な方針を審議し決定するため、基幹教育管理運営委員会を置く。

(附属学校運営協議会)

第 31 条の 3 本学に、附属学校の将来構想、学校教育学類及び大学院教職実践研究科との連携について、基本的な方針を審議し決定するため、附属学校運営協議会を置く。

(新学術創成研究科会議)

- 第 31 条の 4 新学術創成研究科の教育に関する重要事項を審議するため、新学術創成研究科会議を置く。
- 2 新学術創成研究科会議は、学校教育法第 93 条第 2 項及び第 3 項に基づき、教育研究会議に準じて、別に定める事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。
- (ナノマテリアル研究所会議)

第 31 条の 5 ナノマテリアル研究所に、ナノマテリアル研究所会議を置く。

(設計製造技術研究所会議)

第 31 条の 6 設計製造技術研究所に、設計製造技術研究所会議を置く。

(高度モビリティ研究所会議)

第 31 条の 7 高度モビリティ研究所に、高度モビリティ研究所会議を置く。

(古代文明・文化資源学研究所会議)

第 31 条の 8 古代文明・文化資源学研究所に、古代文明・文化資源学研究所会議を置く。

(教員会議等)

第 32 条 学術メディア創成センター、環日本海域環境研究センター、疾患モデル総合研究センター、子どものこころの発達研究センター、保健管理センター及び新学術創成研究機構に、教員会議を置く。

2 前項に定めるもののほか、新学術創成研究機構に運営委員会を置く。

(センター会議等)

第 33 条 先進予防医学研究センター、環境保全センター、グローバル人材育成推進機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構に、必要に応じて、センター会議(グローバル人材育成推進機構、先端科学・社会共創推進機構、国際機構及びダイバーシティ推進機構にあつては機構運営会議、以下「センター会議等」という。)を置く。

(組織及び運営等)

第 34 条 第 28 条から前条までに定めるもののほか、教育研究会議、国際基幹教育院教授会議、がん進展制御研究所教授会議、ナノ生命科学研究所教授会議、学類会議、研究科会議、系会議、基幹教育管理運営委員会、附属学校運営協議会、新学術創成研究科会議、ナノマテリアル研究所会議、設計製造技術研究所会議、高度モビリティ研究所会議、古代文明・文化資源学研究所会議、教員会議、運営委員会及びセンター会議等の組織及び運営等に関し必要な事項は別に定める。

第 4 節 事務組織

(事務局)

第 35 条 本学に、事務局を置き、その事務を分掌させるため、次に掲げる部を置く。

- (1) 総務部
- (2) 財務部
- (3) 施設部
- (4) 研究・社会共創推進部
- (5) 学務部
- (6) 国際部
- (7) 情報部
- (8) 融合系事務部
- (9) 人間社会系事務部

- (10) 理工系事務部
- (11) 医薬保健系事務部
- (12) 病院部

2 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 技術支援組織

(総合技術部)

第35条の2 本学に、総合技術部を置く。

2 総合技術部に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 学生

第1節 学年等及び休業日

(学年等)

第36条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期4クォーターに分ける。

学期	クォーター	期 間
前期	第1クォーター	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
	第2クォーター	
後期	第3クォーター	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
	第4クォーター	

3 各学期の授業実施日等は、別に定める。

(休業日)

第37条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日にも登学を課することができる。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 別に定める夏季休業、冬季休業及び春季休業

2 前項に定めるもののほか、臨時に休業日を定めることができる。

第2節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第38条 修業年限は、4年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては、6年とする。

(修業年限の通算)

第39条 第84条に定める科目等履修生として、本学において一定の単位を修得した者が、本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して、修業年限の2分の1を超えない範囲内の期間を修業年限に通算することができる。

(在学年限)

第40条 在学年限は、8年とする。ただし、医薬保健学域の医学類及び薬学類にあっては、12年の範囲内で医薬保健学域において別に定める。

第3節 入学

(入学時期)

第41条 入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(入学資格)

第42条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修学年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他の大学に入学した者であって、その後、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の出願)

第43条 本学に入学を志願する者は、所定の出願書類に別表第二に定める検定料及び別に定める書類を添えて、願い出なければならない。

(入学者の選抜)

第44条 前条の入学を志願する者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続及び入学許可)

第45条 前条の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、別表第二に定める入学料を納付しなければならない。ただし、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、入学料に代えてその免除又は徴収猶予の申請書を提出しなければならない。

2 学長は、入学の手続を完了した者(入学料に関しては、その免除又は徴収猶予の申請書を受理された者を含む。)に、入学を許可する。

(再入学、転入学及び編入学)

第46条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 本学を退学した者(第70条に定める退学者を除く。)又は除籍された者で、再び同一の学域又は国際基幹教育院総合教育部へ再入学を志願するもの
 - (2) 他大学に在学している者で、本学(国際基幹教育院総合教育部を除く。以下第3号から第7号において同じ。)へ転入学を志願するもの
 - (3) 他大学を卒業した者又は退学した者で、本学へ編入学を志願するもの
 - (4) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの
 - (5) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの
 - (6) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第90条第1項に定めるものに限る。)で、本学へ編入学を志願するもの
 - (7) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者で、本学へ編入学を志願するもの
- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教育研究会議又は国際基幹教育院教授会議の議を経て、学域長又は国際基幹教育院長が決定する。
- 3 第1項の規定により入学した者の在学年限は、その者が属する年次に対応する残余の修業年限の2倍の年数を超えることができない。
- 4 前3条の規定は、第1項の規定により入学する場合に準用する。
- 5 再入学、転入学及び編入学に関し必要な事項は、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

(宣誓)

第47条 入学を許可された者は、別に定めるところにより、宣誓をしなければならない。

第4節 教育課程、履修方法等

(教育課程の編成方針等)

第48条 教育課程は、本学、学域、学類並びに課程、コース及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当たっては、学域、学類並びに課程、コース及び専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。
- 3 授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画を学生に対してあらかじめ明示するものとする。
- 4 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育課程の編成及び履修方法等)

第49条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

- 2 教育課程については、金沢大学共通教育科目に関する規程及び各学域において別に定める。
- 3 授業科目の履修に関する事項については、金沢大学履修規程において別に定める。

(単位の計算方法)

第50条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学域が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(授業の方法)

第51条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(単位の授与)

第52条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、第50条第2項に定める授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(成績の評価)

第53条 成績の評価については、金沢大学履修規程において別に定める。

(履修科目の登録の上限)

第54条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1学期又は1クォーターに履修科目として登録することができる単位数の上限を学域及び国際基幹教育院において定めるものとする。

(大学院授業科目の履修)

第54条の2 学生は、本学大学院へ入学を希望するときは、所属の学域長及び希望する大学院の研究科長の許可を得て、当該研究科の授業科目を履修することができる。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第55条 学生は、学域長又は国際基幹教育院長の許可を得て、本学が定める他の大学又は短期大学において、当該大学又は短期大学の所定の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により履修した授業科目についての修得した単位は、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、合計60単位を超えない範囲で、これを本学の単位として認定する。

3 前項の規定は、第66条の規定による留学及び外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第56条 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第2項及び第3項により本学の単位として認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(休学期間中の他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学における学修)

第56条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に他の大学若しくは短期大学(以下「大学等」という。)又は外国の大学等において学修した成果について、

本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、第55条第2項及び第3項並びに前条第1項により本学の単位として認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第57条 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に大学等又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に行った前条第1項に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学域又は国際基幹教育院の定めるところに基づき、単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、再入学、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第55条第2項及び第3項、第56条第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第58条 学生が職業を有している等の事情により、当該学生に係る修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、教育研究会議の議を経て、学長は、その計画的な履修を許可することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 卒業要件及び学位授与

(卒業要件)

第59条 本学に4年以上(医薬保健学域の医学類及び薬学類にあつては6年以上)在学し、学域ごとに定める授業科目を履修し、124単位以上(医薬保健学域の医学類にあつては188単位以上、薬学類にあつては186単位以上)で学域の定める単位数を修得し、かつ、本学が別に定める英語能力の基準を満たす者については、当該教育研究会議の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 前項の規定により卒業要件として修得すべき単位のうち、第51条第2項に定める授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

(早期卒業)

第60条 前条の規定にかかわらず、本学に3年以上在学し、卒業要件として修得すべき単位を優秀な成績で修得した学生が、学校教育法第89条に定める卒業を希望する場合は、前条の規定にかかわらず、学長はこれを認定することができる。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する学生は在学期間を短縮することができない。ただし、学長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。

(1) 金沢大学学生懲戒規程第4条に規定する懲戒処分を受けた者

(2) 休学期間を有する者

3 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

(学位の授与)

第61条 本学を卒業した者には、金沢大学学位規程の定めるところにより学士の学位を授与する。

第6節 休学、復学、転学、留学、退学及び除籍

(休学等)

第62条 疾病又はその他の事由により、1月以上修学を中止しようとする者は、学域長又は国際基幹教育院長に届け出て、休学することができる。

2 前項に定める休学のほか、学域長又は国際基幹教育院長は、疾病のため修学に適しないと認められる者に対しては、学長の承認を得て、休学を命じ、又は登学を停止させることができる。

3 休学の期間は、休学の開始日から、その年次の各クォーター、各学期又は学年の終わりまでとする。ただし、前項の休学の期間は、この限りでない。

4 休学期間は、在学年限に算入しない。

5 休学期間は、通算4年（国際基幹教育院総合教育部に所属する期間においては通算2年とする。）を超えることができない。ただし、第2項の休学の期間は、この限りでない。

(復学)

第63条 休学期間中に復学しようとする者(前条第2項により休学を命じられた者を除く。)は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長に届け出るものとする。

2 復学の時期は、クォーター又は学期の始めとする。

(転学類)

第64条 転学類(学生が所属する学域以外への転学類も含む。)を志願する者があるときは、別に定めるところにより選考の上、転学類を許可することができる。

2 転学類を志願する者は、所定の出願書類に志望の学類(保健学類にあつては専攻も含む。)及び志望の事由を記し、所属の学域長に願い出なければならない。

3 第1項の規定により転学類を許可された者の在学年限の取扱いについては、別に定める。

4 第1項の規定により転学類を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱いについては、学域において決する。

(転学)

第 65 条 他の大学へ転学を志願する者(懲戒対象行為を行った者は除く。)は、所定の願書に志望の大学、学部、学科及び志望の事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

(留学)

第 66 条 学生は、外国の大学等で学修するため、学長に届け出て、留学することができる。

2 前項の留学期間は、修業年限に含まれるものとする。

(退学)

第 67 条 退学しようとする者は、事由を記し、学域長又は国際基幹教育院長を経て、学長に届け出るものとする。

2 前項の規定にかかわらず、懲戒対象行為を行った者が当該処分決定前に退学を届けた場合等、特別の事由がある場合については、別に定めるところにより学長、学域長又は国際基幹教育院長は当該届出を受理しないことがある。

(除籍)

第 68 条 学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、これを除籍する。

(1) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は減免若しくは徴収猶予を許可された者(入学料の全額を免除された者を除く。)であって、納付すべき入学料を納付しない者

(2) 所定の年限に達して、なお卒業の認定を得られない者

(3) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない者

(4) 疾病その他の事由により、成業の見込がないと認められる者

2 前項第 1 号及び第 3 号の規定により除籍した者については、除籍となった日の属する学期の成績を無効とする。

第 7 節 賞罰

(表彰)

第 69 条 学長は、本学在学中の学業の成績、課外活動等の成績に優れた者又は本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対して、卒業時又はその都度、表彰を行うことができる。

2 表彰については、別に定める。

(懲戒)

第 70 条 学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した行為をなしたときは、学長は、教育研究評議会の議を経て懲戒する。

2 懲戒は、学長の命を受け、学域長又は国際基幹教育院長が行う。

3 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

第 8 節 検定料、入学料及び授業料

(検定料等)

第71条 検定料、入学料及び授業料(以下「検定料等」という。)の額は、別表第二のとおりとする。

(入学料の免除又は徴収猶予)

第72条 学長は、特別の事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除し、又は徴収猶予することができる。

2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める者に対しては、別に定めるところにより、入学料を免除することができる。

(入学料及び検定料の不返付)

第73条 既納の入学料及び検定料は、返付しない。ただし、大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号。以下「修学支援法」という。)及び関係法令に基づき、別に定めるところにより入学料の全額及び一部を返付することがある。

2 前項の規定にかかわらず、検定料について、次の各号のいずれかに該当する者があるときは、その者の申出により次項に定める額を返付する。

(1) 入学者選抜における第2次の学力検査等を2段階の選抜方法で実施する場合において、第1段階目の選抜に合格しなかった者(推薦入学及びA0入試等において第1次選考として書類選考を行う場合における不合格者を含む。)

(2) 個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者

(3) 学長が特に必要があると認めた者

3 前項の規定により返付する額は、前項第1号の場合における第2段階目の選抜に係る額に相当する額とする。

(授業料の徴収方法等)

第74条 授業料の徴収は、各年度に係る授業料について、第1クォーター、第2クォーター、第3クォーター及び第4クォーターの4クォーターに区分して行うものとし、それぞれのクォーターにおいて徴収する額は、年額の4分の1に相当する額とする。

2 前項の授業料は、本学が指定する方法により、第1クォーター及び第2クォーターにあつては5月、第3クォーター及び第4クォーターにあつては11月に徴収するものとし、納付期限はそれぞれ当該月末日とする。

3 前2項の規定にかかわらず、学生から申し出があつたときは、第1クォーター及び第2クォーターに係る授業料を徴収するときに、当該年度の第3クォーター及び第4クォーターに係る授業料を併せて徴収するものとする。

4 第2項の納付期限後に入学した者は、入学の日の属する月に、そのクォーターに属する授業料を納付しなければならない。

(既納の授業料)

第75条 既納の授業料は返付しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、既納の授業料のうち、休学又は退学したクォーターに係るもの並びに修学支援法及び関係法令に基づき減免されたものは、別に定めるところにより、当該授業料の全額又は一部を返付することがある。

(授業料の免除、月割分納及び徴収猶予)

第76条 学長は、学費の支弁が困難な学生に対しては、別に定めるところにより授業料を免除し、又は月割分納若しくは徴収猶予を認めることができる。

- 2 前項に定めるもののほか、学長が特に必要があると認める学生に対しては、別に定めるところにより、授業料を免除することができる。
- 3 授業料の免除又は月割分納若しくは徴収猶予(以下「免除等」という。)は、各期ごとにこれを認める。
- 4 免除等を認められた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、別に定めるところにより免除等を取り消すことができる。
 - (1) 申請に係る事由が消滅したと認められるとき。
 - (2) 申請について虚偽の事実が判明したとき。
 - (3) 第70条の規定により懲戒を受けたとき。

(休学中及び復学の場合の授業料)

第77条 休学の場合には、別に定めるところにより、休学中の授業料は、これを徴収しない(第75条第2項に定める既納の授業料の全額又は一部の返付を含む。)ことがある。

- 2 復学したときは、復学した日の属するクォーターから授業料を徴収する。この場合において、第2クォーター又は第4クォーターから復学したときは、復学日の属する月に当該クォーターに係る授業料を、第3クォーターから復学したときは、11月に第3クォーター及び第4クォーターに係る授業料を、それぞれ徴収する。

(免除等の取消しの場合の授業料)

第78条 第76条第4項第1号の規定に該当し授業料の免除を取り消されたとき、その期の授業料は、その月分から月割額(年額の12分の1)により、免除を取り消された日の属する月に徴収する。

- 2 第76条第4項第2号及び第3号の規定に該当し免除等を取り消されたときは、免除等に係る授業料の金額をその月に徴収する。

(再入学等の場合の授業料)

第79条 学期の途中において、再入学、転入学又は編入学した場合には、再入学、転入学又は編入学した日の属するクォーターから次の徴収の時期前までの期間に応じた額を本学の指定する月に徴収する。

(退学等の場合の授業料)

第80条 クォーターの途中において、退学又は他大学へ転学した場合には、当該クォーターの授業料はこれを徴収する。

2 停学中の授業料は徴収する。

(死亡等の場合の授業料)

第 81 条 死亡又は行方不明により除籍した場合には、未納の授業料の全額を免除することができる。

(学年中途の卒業等の場合の授業料)

第 82 条 学年の中途において、卒業又は修了する場合には、月割計算により在学予定期間に応じた額を徴収する。

第 4 章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生)

第 83 条 本学の学生以外の者で、特定の研究課題について研究することを志願する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生の入学資格、選考方法等については、学域において別に定める。

3 研究生の入学の時期は、月の初めとする。ただし、学長が特別の事情があると判断した場合は、この限りではない。

4 研究生の研究期間は、1 年以内とする。ただし、必要があると認められるときは、その期間を更新することができる。

5 研究生の授業料の徴収は、本学が指定する方法により、前期及び後期の 2 学期に区分して行うものとする。

6 前項の授業料は、前期にあつては 5 月、後期にあつては 11 月に徴収するものとし、納付期限はそれぞれ当該月末日とする。

7 前項の規定にかかわらず、納付期限後に入学した者又は在学期間が 2 か月未満の者にあつては、入学の日の属する月に、その学期に属する授業料を納付しなければならない。

8 既納の授業料は返付しない。

9 前項の規定にかかわらず、学期の途中において、退学した場合には、既納の授業料のうち、退学の日属する月の翌月以降に係る授業料を返付する。

10 第 37 条、第 43 条、第 44 条、第 45 条、第 67 条、第 68 条、第 70 条、第 73 条及び第 81 条の規定は、研究生に準用する。

(科目等履修生)

第 84 条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を選んで履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生の入学資格、選考方法等については、学域及び国際基幹教育院において別に定める。

3 授業科目を履修し、その試験に合格した科目等履修生に対し単位を与える。

- 4 第36条, 第37条, 第41条, 第43条, 第44条, 第45条, 第49条第2項, 第68条, 第70条, 第73条, 第74条, 第75条及び第81条の規定は, 科目等履修生に準用する。

(特別聴講学生)

第85条 本学において, 特定の授業科目を履修することを希望する他の大学等又は外国の大学等の学生があるときは, 学域又は国際基幹教育院の定めるところにより, 当該他の大学等又は外国の大学等との協議に基づき, 所定の手続を経て特別聴講学生として入学を許可することができる。

- 2 授業科目を履修し, その試験に合格した特別聴講学生に対し単位を与える。
- 3 第36条, 第37条, 第44条, 第68条, 第70条, 第74条, 第75条及び第81条の規定は, 特別聴講学生に準用する。
- 4 特別聴講学生の入学の時期は, 学期の始めとする。ただし, 学域又は国際基幹教育院の定めるところにより, 特別の事情があると判断される場合は, この限りでない。

(外国人留学生)

第86条 外国人で, 大学において教育を受ける目的をもって入国し, 本学に入学を志願する者があるときは, 特別に選考の上, 外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生に関し必要な事項は, 別に定める。

(授業料等)

第87条 研究生, 科目等履修生及び特別聴講学生に係る授業料等の額は, 別表第二のとおりとする。

- 2 前項の規定にかかわらず, 特別聴講学生が, 国立大学の学生, 単位互換協定に基づく公立若しくは私立の大学の学生, 交流協定に基づく外国人留学生又は教育研究評議会の議を経て学長が特に必要と認める学生であるときは, 授業料を徴収しない。
- 3 科目等履修生の授業料等の取扱いに関し必要な事項は, 別に定める。

第5章 学生寄宿舍

(学生寄宿舍)

第88条 本学に, 学生寄宿舍として泉学寮, 白梅寮, 国際交流会館及び学生留学生宿舍を置く。

- 2 学生寄宿舍に関し必要な事項は, 別に定める。

第6章 共同教育課程

(共同教育課程)

第89条 本学及び富山大学を構成大学とする共同教員養成課程の教育の実施について, 本学は, 富山大学と協力するものとする。

第7章 特別の課程

(特別の課程)

第90条 本学の学生以外の者を対象として、学校教育法第105条に規定する特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 前項の実施に関し、必要な事項は、別に定める。

第8章 公開講座

(公開講座)

第91条 本学に、公開講座を設ける。

2 公開講座の受講料の額は、別表第三のとおりとする。

3 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この学則の施行の際現に旧国立学校設置法第3条第1項の表に掲げる金沢大学の学生である者は、この学則の施行の日に国立大学法人金沢大学が設置する金沢大学の学生の身分を取得するものとする。

3 第4条第1項の規定にかかわらず、旧金沢大学通則による法学部法学科及び公共システム学科、薬学部薬学科及び製薬化学科並びに工学部電気・情報工学科は、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 別表第一の規定にかかわらず、法学部、理学部、薬学部及び工学部並びに合計欄の収容定員については、平成16年度から平成18年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等		平成16年度	平成17年度	平成18年度
			収容定員(人)	収容定員(人)	収容定員(人)
法学部	法政学科		180	360	540
	従前の学科	法学科	480	320	160
		公共システム学科	165	110	55
	(学科共通)		20	20	20
	計		845	810	775
理学部	数学科		99	98	97
	物理学科		131	130	129
	化学科		154	152	150
	生物学科		98	96	94
	地球学科		110	108	106
	計算科学科		118	116	114
	(学科共通)		20	20	20
	計		730	720	710
薬学部	総合薬学科		235	310	305

	従前の学科	薬学科	40	—	—
		製薬化学科	40	—	—
	計		315	310	305
工学部		土木建設工学科	331	318	313
		機能機械工学科	304	296	292
		物質化学工学科	382	372	366
		電気電子システム工学科	197	194	191
		人間・機械工学科	304	296	292
		情報システム工学科	256	252	248
		(学科共通)	60	60	60
		計	1,834	1,788	1,762
合計			7,454	7,358	7,282

- 5 この規程の施行の日の前日に部局長である者のうち、施行の日以後において任期を有するものは、施行の日に部局長に選任されたものとみなし、その任期については、第20条第7項の規定にかかわらず、施行の日以後において当該部局長の有する任期と同一の期間とする。
- 6 前項に規定する者の次期部局長に係る任期については、第20条第7項の規定にかかわらず、当該部局の定めるところによる。
- 7 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額については、第71条の規定にかかわらず、なお、従前の額とする。

附 則

この学則は、平成17年2月3日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額については、改正後の別表第二の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、薬学部総合薬学科は、平成 18 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、薬学部の合計欄の収容定員については、平成 18 年度から平成 23 年度までは、次の表のとおりとする。

学部	学科等	平成 18 年 度	平成 19 年 度	平成 20 年 度	平成 21 年 度	平成 22 年 度	平成 23 年 度
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)
薬学 部	薬学科	35	70	105	140	175	210
	創薬科学科	40	80	120	160	160	160
	従前の 学科	230	150	75			
	総合薬 学科						
	計	305	300	300	300	335	370

附 則

この学則は、平成 18 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 19 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条第 1 項の規定にかかわらず、次の表に記載する学部、学科等は、平成 20 年 3 月 31 日に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 学域・学類の収容定員、存続する学部及び学科等に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会並びにその収容定員については、第 27 条及び別表第一の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。
- 4 存続する学部及び学科(法学部及び経済学部を除く。)の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成 20 年 3 月 31 日に在学する者(平成 20 年 4 月 1 日以降に従前の学部、学科等編入学する者を含む。)については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。
- 6 前項に規定する者については、別表第二中「学域」とあるのは「学部」とする。

学域・学類の収容定員

学域	学類	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
		収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	収容定員 (人)	
人間社会 学域	人文学類	145	290	435	580	580	
	法学類	170	340	510	680	680	
	(編入学定員 10)			10	20	20	
	経済学類	185	370	555	740	740	
	学校教育学類	100	200	300	400	400	
	地域創造学類	80	160	240	320	320	
	国際学類	70	140	210	280	280	
	計	750	1500	2260	3020	3020	
理工学域	数物科学類	84	168	252	336	336	
	物質化学類	81	162	243	324	324	
	機械工学類	140	280	420	560	560	
	電子情報学類	108	216	324	432	432	
	環境デザイン学類	74	148	222	296	296	
	自然システム学類	102	204	306	408	408	
	(学域共通編入学定員 40)			40	80	80	
	計	589	1178	1807	2436	2436	
医薬保健 学域	医学類	95	190	285	380	475	
	(編入学定員 5)			5	10	15	
	薬学類	35	70	105	140	175	
	創薬科学類	40	80	120	160	160	
	保健学 類	看護学専攻	80	160	240	320	320
		(編入学定員 10)			10	20	20
		放射線技術科学専攻	40	80	120	160	160
		(編入学定員 5)			5	10	10
		検査技術科学専攻	40	80	120	160	160
(編入学定員 5)				5	10	10	
理学療法学専攻	20	40	60	80	80		

	(編入学定員 5)			5	10	10
	作業療法学専攻	20	40	60	80	80
	(編入学定員 5)			5	10	10
	小計	200	400	630	860	860
	計	370	740	1145	1550	1685
合計		1709	3418	5212	7006	7141

存続する学部・学科等の収容定員

学部	学科等	教授会	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24
			年度	年度	年度	年度	年度
			収容定員	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
			(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
文学部	人間学科	人間社会系教育研究会議	165	110	55		
	史学科		150	100	50		
	文学科		195	130	65		
	計		510	340	170		
教育学部	学校教育教員養成課程		240	160	80		
	障害児教育教員養成課程		60	40	20		
	人間環境課程		180	120	60		
	スポーツ科学課程		105	70	35		
	計		585	390	195		
法学部	法政学科		540	360	180		
	(編入学定員 10)		20	20	10		
	計		560	380	190		
経済学部	経済学科		615	410	205		
	計		615	410	205		
理学部	数学科	理工系教育研究会議	72	48	24		
	物理学科		96	64	32		
	化学科		111	74	37		
	生物学科		69	46	23		
	地球学科		78	52	26		
	計算科学科		84	56	28		
	(学科共通編入学定員 10)		20	20	10		
	計		530	360	180		

医学部	医学科		医薬保健系教育研究会議	475	380	285	190	95	
	(編入学定員 5)			20	20	15	10	5	
	(小計)			495	400	300	200	100	
	保健学科	看護学専攻			240	160	80		
				(編入学定員 10)	20	20	10		
		放射線技術科学専攻			120	80	40		
				(編入学定員 5)	10	10	5		
		検査技術科学専攻			120	80	40		
				(編入学定員 5)	10	10	5		
		理学療法学専攻			60	40	20		
				(編入学定員 5)	10	10	5		
		作業療法学専攻			60	40	20		
				(編入学定員 5)	10	10	5		
	(小計)			660	460	230			
計		1155	860	530	200	100			
薬学部	薬学科		70	70	70	70	35		
	創薬科学科		80	80	40				
	従前の	総合薬科学科	75						
	計		225	150	110	70	35		
工学部	土木建設工学科		理工系教育研究会議	231	154	77			
	機能機械工学科			216	144	72			
	物質化学工学科			270	180	90			
	電気電子システム工学科			141	94	47			
	人間・機械工学科			216	144	72			
	情報システム工学科			183	122	61			
	(学科共通編入学定員 30)			60	60	30			

	計		1317	898	449		
合計			5497	3788	2029	270	135

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成21年度から平成29年度の入学定員については105人とし、その収容定員については、平成21年度から平成34年度までは、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	105	200	105	305	105	410	105	515	105	620	105	630	105	630
	(編入学定員5)	—		—	5	—	10	—	15	—	20	—	20	—	20
	計	380	750	380	1165	380	1580	380	1725	380	1870	380	1880	380	1880
	大学合計	1719	3428	1719	5232	1719	7036	1719	7181	1719	7326	1719	7336	1719	7336

学域	学類	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	105	630	105	630	100	625	100	620	100	615	100	610	100	605
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	380	1880	380	1880	375	1875	375	1870	375	1865	375	1860	375	1855
	大学合計	1719	7336	1719	7336	1714	7331	1714	7326	1714	7321	1714	7316	1714	7311

附 則

この学則は、平成21年11月20日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 別表第一の規定にかかわらず、医薬保健学域医学類における、平成22年度から平成36年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	312	112	424	112	536	112	648	112	665
	(編入学定員5)	—	5	—	10	—	15	—	20	—	20
	計	387	1172	387	1594	387	1746	387	1898	387	1915
	大学合計	1726	5239	1726	7050	1726	7202	1726	7354	1726	7371

学域	学類	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	112	672	112	672	107	667	107	662
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	387	1922	387	1922	387	1922	382	1917	382	1912
	大学合計	1726	7378	1726	7378	1726	7378	1721	7373	1721	7368

学域	学類	平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	100	650	100	638	100	626	100	614	100	607
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	20	—	20	—	20
	計	375	1900	375	1888	375	1876	375	1864	375	1857

	大学合 計	1714	7356	1714	7344	1714	7332	1714	7320	1714	7313
--	----------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

附 則

この学則は、平成22年7月16日から施行する。

附 則

- この学則は、平成22年10月1日から施行する。
- 平成23年4月1日に選任される自然科学研究科長及び自然科学研究科副研究科長の任期は、第22条第9項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第一の規定にかかわらず、平成23年度における医薬保健学域医学類の編入学定員は、第2年次編入学5人、第3年次編入学5人とし、平成23年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	424	112	536	112	648	112	665	112	672
	(編入学)	—	15	—	20	—	25	—	25	—	25
	計	387	1599	387	1751	387	1903	387	1920	387	1927
	大学合計	1726	7055	1726	7207	1726	7359	1726	7376	1726	7383

学域	学類	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
	医学類	112	672	112	672	112	672	112	672	112	672

医薬保健学域	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927	387	1927
	大学合計	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383	1726	7383

学域	学類	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	112	672	100	660	100	648	100	636
	(編入学)	—	25	—	25	—	25	—	25
	計	384	1924	372	1909	372	1884	372	1859
	大学合計	1726	7383	1714	7371	1714	7369	1714	7367

学域	学類	令和7年度		令和8年度	
		入学定員(人)	収容定員(人)	入学定員(人)	収容定員(人)
医薬保健学域	医学類	100	624	100	612
	(編入学)	—	25	—	25
	計	372	1877	372	1895
	大学合計	1714	7385	1714	7403

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 第6条第2項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科人間文化専攻、社会システム専攻及び公共経営政策専攻、自然科学研究科電子情報工学専攻、機能機械科学専攻、人間・機械科学専攻、物質工学専攻、地球環境学専攻、社会基盤工学専攻、及び生物科学専攻並びに医学系研究科医科学専攻、脳医科学専攻、がん医科学専攻、循環医科学専攻、環境医科学専攻、創薬科学専攻及び保健学専攻は、平成24年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 存続する研究科及び専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 存続する研究科及び専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。

- 5 平成24年3月31日に在学する者については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月31日に国際交流会館に入居している者の寄宿料については、別表第三の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成25年7月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第6条第2項の規定にかかわらず、自然科学研究科システム創成科学専攻、物質科学専攻、環境科学専攻及び生命科学専攻は、平成26年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成26年3月31日に在学する者については、別表第二の規定を除き、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成26年9月25日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年11月20日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

- 2 第6条第2項の規定にかかわらず，教育学研究科教育実践高度化専攻並びに医薬保健学総合研究科脳医科学専攻，がん医科学専攻，循環医科学専攻及び環境医科学専攻は，平成28年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については，第27条の規定にかかわらず，従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については，前項に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 5 平成28年3月31日に在学する者については，第63条第1項，第74条第2項に規定する納付期限及び別表第二の規定を除き，なお，従前の例による。

附 則

この学則は，平成28年8月9日から施行する。

附 則

この学則は，平成28年11月29日から施行する。

附 則

この学則は，平成29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は，平成29年6月1日から施行する。

附 則

この学則は，平成29年10月6日から施行する。

附 則

この学則は，平成30年1月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は，平成30年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず，人間社会学域経済学類経済理論・経済政策コース，経営・情報コース及び比較社会経済コース並びに地域創造学類健康スポーツコース並びに理工学域電子情報学類，環境デザイン学類及び自然システム学類は，平成30年3月31日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず，人間社会学域及び理工学域における平成30年度から令和2年度の入学定員及び収容定員については，次の表のおりとする。

学域	学類	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	
人間 社会 学域	経済学類	135	690	135	640	135	590	
	地域創造学類	90	330	90	340	90	350	
	国際学類	85	295	85	310	85	325	
	計	725	2995	725	2970	725	2945	
理工 学域	数物科学類	84	336	84	336	84	336	
	(編入学定員 5)	-		-		-	5	
	物質化学類	81	324	81	324	81	324	
	(編入学定員 4)	-		-		-	4	
	機械工学類	100	100	100	200	100	300	
	(編入学定員 1 0)	-		-		-	10	
	フロンティア工学 類	110	110	110	220	110	330	
	(編入学定員 5)	-		-		-	5	
	電子情報通信学類	80	80	80	160	80	240	
	(編入学定員 7)	-		-		-	7	
	地球社会基盤学類	100	100	100	200	100	300	
	(編入学定員 7)	-		-		-	7	
	生命理工学類	59	59	59	118	59	177	
	(編入学定員 2)	-		-		-	2	
	従前 の学 類	機械工学類		420		280		140
		電子情報学 類		324		216		108
		環境デザイ ン学類		222		148		74
		自然システ ム学類		306		204		102
		(学域共通 編入学定員 40)	-	80	-	80	-	40

	計	614	2461	614	2486	614	2511
--	---	-----	------	-----	------	-----	------

- 4 存続する学類に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会については、第 27 条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。
- 6 平成 30 年 3 月 31 日に在学する者(平成 30 年 4 月 1 日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、なお、従前の例による。

附 則

この学則は、平成 30 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 31 年 2 月 1 日から施行する。ただし、第 12 条及び第 33 条の地域連携推進センターに係る改正規定は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この学則の施行の際、現に附属学校統括長である者の任期については、第 24 条第 3 項の規定にかかわらず、2020 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、令和元年 6 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 6 条第 2 項の規定にかかわらず、人間社会環境研究科法学・政治学専攻は、令和 2 年 3 月 31 日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 存続する専攻に係る第 30 条に規定する事項を審議する教授会については、第 27 条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 4 存続する専攻の長については、前項に規定する教授会が別に定めるものとする。

- 5 令和2年3月31日に在学する者については、なお、従前の例による。この場合において、「法務研究科」とあるのは「法学研究科」と読み替えるものとする。
- 6 第22条の規定にかかわらず、当分の間、融合研究域長については、学長が指名する理事をもって充て、融合科学系長については、当該系に所属する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 7 前項に定めるもののほか、融合研究域に係る特例については、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、医薬保健学域創薬科学類は、令和3年3月31日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、学域・学類（医薬保健学域医学類を除く。）における令和3年度から令和8年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
融合学域	先導学類	55	55	55	110	55	165
	(編入学定員25)	—		—		—	25
	計	55	55	55	110	55	190
人間社会学域	人文学類	141	576	141	572	141	568
	法学類	160	670	160	660	160	650
	(編入学定員5)	—	20	—	20	—	15
	経済学類	131	536	131	532	131	528
	学校教育学類	85	385	85	370	85	355
	地域創造学類	88	358	88	356	88	354
	国際学類	83	338	83	336	83	334
	計	688	2883	688	2846	688	2804
理工学域	数物科学類	82	334	82	332	82	330
	(編入学定員5)	—	10	—	10	—	10
	物質化学類	79	322	79	320	79	318
	(編入学定員4)	—	8	—	8	—	8
	機械工学類	97	397	97	394	97	391

	(編入学定員 10)	—	20	—	20	—	20	
	フロンティア工学類	107	437	107	434	107	431	
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10	
	電子情報通信学類	78	318	78	316	78	314	
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14	
	地球社会基盤学類	98	398	98	396	98	394	
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14	
	生命理工学類	58	235	58	234	58	233	
	(編入学定員 2)	—	4	—	4	—	4	
	計	599	2521	599	2506	599	2491	
医薬保健学域	薬学類	65	240	65	270	65	300	
	医薬科学類	18	18	18	36	18	54	
	保健学類	看護学専攻	79	319	79	318	79	317
		(編入学定員 4)	—	20	—	20	—	14
		放射線技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
		(編入学定員 3)	—	10	—	10	—	8
		検査技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
		(編入学定員 3)	—	10	—	10	—	8
		理学療法学専攻	15	75	15	70	15	65
		(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
作業療法学専攻	15	75	15	70	15	65		

	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	従前の学類		120		80		40
	計	384	1924	372	1909	372	1884
学域	学類	令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
融合学域	先導学類	55	220	55	220	55	220
	(編入学定員 2 5)	—	50	—	50	—	50
	計	55	270	55	270	55	270
人間社会学域	人文学類	141	564	141	564	141	564
	法学類	160	640	160	640	160	640
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	経済学類	131	524	131	524	131	524
	学校教育学類	85	340	85	340	85	340
	地域創造学類	88	352	88	352	88	352
	国際学類	83	332	83	332	83	332
	計	688	2762	688	2762	688	2762
理工学域	数物科学類	82	328	82	328	82	328
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	物質化学類	79	316	79	316	79	316
	(編入学定員 4)	—	8	—	8	—	8
	機械工学類	97	388	97	388	97	388
	(編入学定員 1 0)	—	20	—	20	—	20
	フロンティア工学類	107	428	107	428	107	428
	(編入学定員 5)	—	10	—	10	—	10
	電子情報通信学類	78	312	78	312	78	312
	(編入学定員 7)	—	14	—	14	—	14

	地球社会基盤学類	98	392	98	392	98	392	
	(編入学定員7)	—	14	—	14	—	14	
	生命理工学類	58	232	58	232	58	232	
	(編入学定員2)	—	4	—	4	—	4	
	計	599	2476	599	2476	599	2476	
医薬保健学域	薬学類	65	330	65	360	65	390	
	医薬科学類	18	72	18	72	18	72	
	保健学類	看護学専攻	79	316	79	316	79	316
		(編入学定員4)	—	8	—	8	—	8
		放射線技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
		(編入学定員3)	—	6	—	6	—	6
		検査技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
		(編入学定員3)	—	6	—	6	—	6
		理学療法学専攻	15	60	15	60	15	60
		(編入学定員5)	—	10	—	10	—	10
		作業療法学専攻	15	60	15	60	15	60
	(編入学定員5)	—	10	—	10	—	10	
	従前の学類	創薬科学類						
	計		372	1859	372	1877	372	1895

- 4 存続する学類に係る第30条に規定する事項を審議する教授会については、第27条の規定にかかわらず、従前のおりとする。
- 5 存続する学類の長については、前項に規定する教授会が別に定める。

- 6 令和3年3月31日に在学する者(令和3年4月1日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については、第68条第2項、第74条第2項及び第4項並びに第83条第5項から第10項までの規定を除き、なお、従前の例による。
- 7 第22条の規定にかかわらず、令和3年4月1日に選任される融合学域先導学類長については、当該学類を担当する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 8 令和3年4月1日に選任される融合学域先導学類長及び医薬保健学域医薬科学類長の任期は、第22条第9項の規定にかかわらず、令和6年3月31日までとし、再任を妨げない。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、第64条第3項の改正規定は、令和4年3月31日までに転学類を許可され、令和4年4月1日以後に転学類をした者にも適用する。
- 2 第5条の2第1項の規定にかかわらず、人間社会学域学校教育学類教育科学コース及び教科教育学コース並びに理工学域生命理工学類生命システムコースは、令和4年3月31日に当該学類に在学する者が当該学類に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 別表第一の規定にかかわらず、融合学域、人間社会学域及び医薬保健学域における令和4年度から令和9年度の入学定員及び収容定員については、次の表のとおりとする。

学域	学類	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
融合学域	観光デザイン学類	15	15	15	30	15	45
	(編入学定員15)						15
	計	70	125	70	220	70	330
人間社会学域	人文学類	138	569	138	562	138	555
	法学類	150	650	150	630	150	610
	(編入学定員0)		20		15		5
	国際学類	81	334	81	330	81	326
	計	673	2831	673	2774	673	2712
医薬保健学域	医学類	112	672	100	660	100	648
	(編入学定員5)		25		25		25

	計	384	1921	372	1896	372	1871
学域	学類	令和7年度		令和8年度		令和9年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)
融合学域	観光デザイン学類	15	60	15	60	15	60
	(編入学定員15)		30		30		30
	計	70	360	70	360	70	360
人間社会学域	人文学類	138	552	138	552	138	552
	法学類	150	600	150	600	150	600
	(編入学定員0)						
	国際学類	81	324	81	324	81	324
	計	673	2692	673	2692	673	2692
医薬保健学域	医学類	100	636	100	624	100	612
	(編入学定員5)		25		25		25
	計	372	1889	372	1907	372	1895

- 4 第6条第2項の規定にかかわらず，自然科学研究科（博士前期課程に限る。）電子情報科学専攻，環境デザイン学専攻及び自然システム学専攻は，令和4年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
- 5 存続する専攻の長については，第30条に規定する教授会が別に定めるものとする。
- 6 第22条の規定にかかわらず，令和4年4月1日に選任される融合学域観光デザイン学類長については，当該学類を担当する教授のうち，学長が指名する者をもって充てるものとする。
- 7 令和4年3月31日に在学する者(令和4年4月1日以降に従前の学類に編入学する者を含む。)については，なお，従前の例による。この場合において，「放射線技術科学専攻」とあるのは「診療放射線技術学専攻」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この学則は，令和5年4月1日から施行する。
- 2 別表第一の規定にかかわらず，学域・学類における令和5年度から令和7年度の入学定員及び収容定員については，次の表のとおりとする。

学域	学類	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	入学定員 (人)	収容定員 (人)

融合 学域	観光デザイン学 類	20	35	20	55	20	75	
	(編入学定員 1 5)		-		15		30	
	スマート創成科 学類	20	20	20	40	20	60	
	(編入学定員 2 0)		-		-		20	
	計	95	245	95	380	95	455	
人間 社会 学域	地域創造学類	83	349	83	342	83	337	
	計	668	2769	668	2702	668	2677	
理工 学域	数物科学類	78	326	78	320	78	316	
	(編入学定員 5)		10		10		10	
	物質化学類	78	317	78	314	78	313	
	(編入学定員 4)		8		8		8	
	機械工学類	94	388	94	382	94	379	
	(編入学定員 1 0)		20		20		20	
	フロンティア工 学類	103	427	103	420	103	416	
	(編入学定員 5)		10		10		10	
	電子情報通信学 類	76	312	76	308	76	306	
	(編入学定員 7)		14		14		14	
	地球社会基盤学 類	94	390	94	384	94	380	
	(編入学定員 7)		14		14		14	
	生命理工学類	56	231	56	228	56	226	
	(編入学定員 2)		4		4		4	
計	579	2471	579	2436	579	2416		
医薬 保健 学域	保健 学類	看護学専攻	79	316	79	316	79	316
		(編入学定 員 0)		14		8		4
		放射線技術 科学専攻	40	160	40	160	40	160
		(編入学定 員 0)		8		6		3

	検査技術科学専攻	40	160	40	160	40	160
	(編入学定員0)		8		6		3
		372	1896	372	1871	372	1879

- 3 第22条の規定にかかわらず、令和5年4月1日に選任される融合学域スマート創成科学類長については、当該学類を担当する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。

別表第一

入学定員及び収容定員

学域	学類	入学定員(人)	第2年次編入学定員(人)	第3年次編入学定員(人)	収容定員(人)
融合学域	先導学類	55		25	270
	観光デザイン学類	20		15	110
	スマート創成科学類	20		20	120
	計	95		60	500
人間社会学域	人文学類	138			552
	法学類	150			600
	経済学類	131			524
	学校教育学類	85			340
	地域創造学類	83			332
	国際学類	81			324
	計	668			2672
理工学域	数物科学類	78		5	322
	物質化学類	78		4	320
	機械工学類	94		10	396
	フロンティア工学類	103		5	422
	電子情報通信学類	76		7	318
	地球社会基盤学類	94		7	390
	生命理工学類	56		2	228
	計	579		40	2396
医薬保健学域	医学類	100	5		625
	薬学類	65			390
	医薬科学類	18			72
	看護学専攻	79			316

	保健 学類	診療放射線技 術学専攻	40			160
		検査技術科学 専攻	40			160
		理学療法学専 攻	15		5	70
		作業療法学専 攻	15		5	70
		小計	189		10	776
	計	372	5	10	1863	
	合計	1714	5	110	7431	

別表第二

検定料等の額

区分	検定料(円)	入学料 (円)	授業料(円)
学域・国際基幹教育院総合 教育部	17,000	282,000	年額 535,8 00
	再入学, 転入学, 編入学に係るもの 30,000		
研究生	9,800	84,600	月額 29,70 0
科目等履修生	9,800	28,200	1単位 14, 800
特別聴講学生	/	/	1単位 14, 800

備考 第73条第3項に規定する第1段階目の選抜及び第2段階目の選抜に係る検定料の額は、第1段階目の選抜にあつては4,000円、第2段階目の選抜にあつては13,000円とする。

別表第三

公開講座受講料の額

区分	受講料(円)
一般	1時間 500
高校生以下	1時間 200
別に定める公開講座の受講料については、別に定める額とする。	

【金沢大学学則（案）】変更事項を記載した書類

(1) 変更事由

令和5年4月1日付けの融合学域スマート創成科学類の設置に伴う所要の改正

(2) 変更点

第5条第1項

- ・「融合学域スマート創成科学類」を加える。

附則

- ・融合学域，理工学域及び医薬保健学類における令和5年度から令和7年度までの間（学年進行期間）の入学定員及び収容定員を定める。
- ・第22条の規定にかかわらず，令和5年4月1日に選任される融合学域スマート創成科学類長については，当該学類を担当する教授のうち，学長が指名する者をもって充てるものとことを定める。

別表第一

- ・学域・学類の入学定員及び収容定員を，別表第一のとおり改める。

(3) 施行日

令和5年4月1日

金沢大学学則新旧対照表

新	旧																				
<p>第1条～第4条 (略)</p> <p>第2章 組織</p> <p>第1節 教育研究組織</p> <p>(学域, 学類並びにコース, プログラム及び専攻)</p> <p>第5条 本学に, 次に掲げる学域, 学類並びにコース, 課程及び専攻を置く。</p> <p>融合学域 先導学類 観光デザイン学類 スマート創成科学類</p> <p>人間社会学域 (略) 理工学域 (略) 医薬保健学域 (略)</p> <p>2～6 (略)</p> <p>第6条～第91条 (略)</p> <p>附則 (略)</p> <p>附則</p> <p>1 この学則は, 令和5年4月1日から施行する。</p> <p>2 別表第一の規定にかかわらず, <u>学域・学類</u>における令和5年度から令和7年度の入学定員及び収容定員については, 次の表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1348 127 1511 1120"> <thead> <tr> <th>学域</th> <th>学類</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学域	学類	令和5年度	令和6年度	令和7年度						<p>第1条～第4条 (略)</p> <p>第2章 組織</p> <p>第1節 教育研究組織</p> <p>(学域, 学類並びにコース, プログラム及び専攻)</p> <p>第5条 本学に, 次に掲げる学域, 学類並びにコース, 課程及び専攻を置く。</p> <p>融合学域 先導学類 観光デザイン学類</p> <p>人間社会学域 (略) 理工学域 (略) 医薬保健学域 (略)</p> <p>2～6 (略)</p> <p>第6条～第91条 (略)</p> <p>附則 (略)</p> <p>附則</p> <p>1 この学則は, 令和5年4月1日から施行する。</p> <p>2 別表第一の規定にかかわらず, <u>融合学域及び人間社会学域</u>における令和5年度から令和7年度の入学定員及び収容定員については, 次の表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1348 1120 1511 2121"> <thead> <tr> <th>学域</th> <th>学類</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	学域	学類	令和5年度	令和6年度	令和7年度					
学域	学類	令和5年度	令和6年度	令和7年度																	
学域	学類	令和5年度	令和6年度	令和7年度																	

	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)
融合 学域	観光デザイン学類	20	35	20	55	20	75	
	(編入学定員15)		-	15			30	
	スマート創成科学 類	20	20	20	40	20	60	
	(編入学定員20)		-				20	
計	95	245	95	380	95	455		
人間 社会 学域	地域創同学類	83	349	83	342	83	337	
	計	668	2769	668	2702	668	2677	
	数物科学類	78	326	78	320	78	316	
	(編入学定員5)		10	10			10	
理工 学域	物質化学類	78	317	78	314	78	313	
	(編入学定員4)		8		8		8	
	機械工学類	94	388	94	382	94	379	
	(編入学定員10)		20	20			20	
	フロンティア工学 類	103	427	103	420	103	416	
	(編入学定員5)		10	10			10	
	電子情報通信学類	76	312	76	308	76	306	
	(編入学定員7)		14	14	14		14	
地球社会基盤学類	地球社会基盤学類	94	390	94	384	94	380	
	(編入学定員7)		14	14	14		14	
	生命理工学類	56	231	56	228	56	226	

	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)
融合 学域	観光デザイン学類	20	35	20	55	20
	(編入学定員15)		-		15	
人間 社会 学域	計	75	225	75	340	75
	地域創同学類	83	349	83	342	83
	計	668	2769	668	2702	668

医薬保健学域	(編入学定員2)	4	4	4	4	4
	計	579	2471	579	2436	579
	保健学	79	317	79	316	79
	看護学専攻	-	14	-	8	-
	(編入学定員4)	40	160	40	160	40
	診療放射線技術学専攻	-	8	-	6	-
	(編入学定員3)	40	160	40	160	40
	検査技術科学専攻	-	8	-	6	-
	(編入学定員3)	372	1896	372	1871	372
	計					1879

3 第22条の規定にかかわらず、令和5年4月1日に選任される融合学域スマート創成学類長については、当該学類を担当する教授のうち、学長が指名する者をもって充てるものとする。

別表第一

入学定員及び収容定員

学域	入学定員(人)	第2年次編入学定員(人)	第3年次編入学定員	収容定員(人)
先導学類	55		25	270

別表第一					
入学定員及び収容定員					
学域	学類	入学定員(人)	第2年次編入学定員(人)	第3年次編入学定員	収容定員(人)
	先導学類	55		25	270

融合 学域	観光デザイン学類	20	15	110	融合 学域	観光デザイン学類	20	15	110
	スマート創成科学類	20	20	120		計	75	40	380
	人文学類	95	60	500		人文学類	138		552
	法学類	138		552		法学類	150		600
	経済学類	150		600		経済学類	131		524
	学校教育学類	131		524		学校教育学類	85		340
	地域創造学類	85		340		地域創造学類	83		332
	国際学類	83		332		国際学類	81		324
	計	81		324		計	673	5	2692
	計	668		2672		数物科学類	82	5	338
理工 学域	数物科学類	78	5	322	理工 学域	数物科学類	82	5	338
	物質化学類	78	4	320		物質化学類	79	4	324
	機械工学類	94	10	396		機械工学類	97	10	408
	フロンティア工学類	103	5	422		フロンティア工学類	107	5	438
	電子情報通信学類	76	7	318		電子情報通信学類	78	7	326
	地球社会基盤学類	94	7	390		地球社会基盤学類	98	7	406
	生命理工学類	56	2	228		生命理工学類	58	2	236
	計	579	40	2396		計	599	40	2476
	医学類	100	5	625		医学類	100	5	625
	薬学類	65		390		薬学類	65		390
医薬 保健 学域	医薬科学類	18		72	医薬 保健 学域	医薬科学類	18		72
	看護学専攻	79		316		看護学専攻	79	4	324
	診療放射線 技術学専攻	40		160		診療放射線 技術学専攻	40	3	166
	保健 学類					保健 学類			
	計					計	40	3	166

	検査技術科 学専攻	40			160
	理学療法学 専攻	15	5		70
	作業療法学 専攻	15	5		70
	小計	189	10		776
計		372	5	10	1863
合計		1714	5	110	7431

別表第二～第三 (略)

	理学療法学 専攻	15		5	70
	作業療法学 専攻	15		5	70
	小計	189		20	796
計		372	5	20	1883
合計		1714	5	100	7411

別表第二～第三 (略)

(改正案)

金沢大学教育研究会議規程

(平成 20 年 4 月 1 日規程第 1089 号)

改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則(以下「学則」という。)第 34 条の規定に基づき、教育研究会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 会議は、別表に掲げる各研究域に所属する教授をもって組織する。

2 会議には、当該研究域に所属する准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

3 医薬保健系教育研究会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)、附属病院に所属する教授、准教授、講師及び助教並びに常勤の特任教員を加えることができる。

(審議事項)

第 3 条 会議は、学則第 30 条第 1 項に基づき、次の事項について審議し、学長又は研究域長に意見を述べるものとする。

(1) 研究域長の候補者の選考に関する事項

(2) 教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教員」という。)の人事及び選考に関する事項

(3) 中期目標・中期計画(法人の経営に関するものを除く。)に関する事項

(4) 規程(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育及び研究に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(5) 教育及び研究に係る予算の執行に関する事項

(6) 教育課程の編成に関する事項

(7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(8) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(9) 教育及び研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(10) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(11) その他学域、研究科及び研究域の教育及び研究に関する重要事項

(議長)

第4条 会議に議長を置き、研究域長をもって充てる。

2 議長は、会議を主宰する。

3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事及び議決)

第5条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条 会議は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第7条 会議に、第3条第2号から第11号に掲げる事項を審議するため、教育研究会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置く。

2 代議員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究域長

(2) 各学類長

(3) 各研究科長

(4) 各系長

(5) その他会議が必要と認めたる者

3 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。

4 第4条、第5条及び第6条の規定は、代議員会に準用する。

(学類会議)

第8条 会議の下に、会議が付託した事項その他学類に関する事項について審議するため、別表に掲げる学類にそれぞれ学類会議を置く。

2 学類会議に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科会議)

第9条 会議の下に、会議が付託した事項その他研究科に関する事項について審議するため、別表に掲げる研究科にそれぞれ研究科会議を置く。

2 研究科会議に関し必要な事項は、別に定める。

(系会議)

第10条 会議の下に、会議が付託した事項その他系に関する事項について審議するため、別表に掲げる系にそれぞれ系会議を置く。

2 系会議に関し必要な事項は，別に定める。

(学類会議，研究科会議及び系会議の議決)

第 11 条 会議は，次に掲げる事項を除き，学類会議，研究科会議及び系会議の議決をもつて，会議の議決とすることができる。

(1) 学士課程の入学者選抜に関する事項

(2) 学生の懲戒に関する事項

(3) 教員の人事に関する事項

(4) その他会議が必要と認めた事項

2 議決は，電子的書面によりできるものとする。

3 学類会議，研究科会議及び系会議は，会議から付託された事項，その他当該学類，研究科及び系に関する重要事項についての議決結果を，会議に報告するものとする。

(委員会)

第 12 条 会議の下に，専門的事項を審議するため，委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は，別に定める。

(事務)

第 13 条 会議に関する事務は，融合系教育研究会議は融合系事務部，人間社会系教育研究会議は人間社会系事務部，理工系教育研究会議は理工系事務部，医薬保健系教育研究会議は医薬保健系事務部において処理する。

(雑則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか，会議に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

この規程は，平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は，平成 21 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

この規程は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

別表

会議名	学域・学類名	研究科名	研究域・系名
融合系教育研究会議	融合学域 先導学類 観光デザイン学類 スマート創成科学類		融合研究域 融合科学系
人間社会系教育研究会議	人間社会学域 人文学類 法学類 経済学類 学校教育学類 地域創造学類 国際学類	人間社会環境研究科 法学研究科 教職実践研究科	人間社会研究域 人間科学系 歴史言語文化学系 法学系 経済学経営学系 学校教育系
理工系教育研究会議	理工学域 数物科学類 物質化学類 機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類 地球社会基盤学類 生命理工学類	自然科学研究科	理工研究域 数物科学系 物質化学系 機械工学系 フロンティア工学系 電子情報通信学系 地球社会基盤学系 生命理工学系
医薬保健系教育研究会議	医薬保健学域 医学類 薬学類 医薬科学類 保健学類	医薬保健学総合研究科 先進予防医学研究科	医薬保健研究域 医学系 薬学系 保健学系

(趣旨)

第 1 条 この規程は、金沢大学学則第 34 条及び金沢大学教育研究会議規程第 8 条第 2 項の規定に基づき、学類会議(以下「会議」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 会議は、当該学類を担当する教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。以下同じ。)及び助教並びに常勤の特任教員をもって組織する。

2 会議には、前項に掲げる者のほか、他の学類、研究科等を担当する教授、准教授、講師若しくは助教又は常勤の特任教員で、兼ねて当該学類の教育を担当する者を加えることができる。

3 医薬保健学域に置かれている学類の学類会議には、附属病院長(第 1 項に該当しない者に限る。)を加えることができる。

(審議事項)

第 3 条 会議は、教育研究会議から付託された当該学類に係る次の事項について審議する。

(1) 中期目標・中期計画に関する事項

(2) 規程その他の教育に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項

(3) 教育に係る予算の執行に関する事項

(4) 教育課程の編成に関する事項

(5) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項

(6) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項

(7) 教育の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項

(8) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項

(9) その他教育に関する重要事項

2 会議は、前項に定めるほか、次の事項について審議する。

(1) 学類長の候補者の選考に関する事項

(2) その他当該学類に関する重要事項

(議長)

第 4 条 会議に議長を置き、当該学類長をもって充てる。

- 2 議長は、会議を主宰する。
- 3 議長に事故又は特別な事由があるときは、議長があらかじめ指名する者が、議長の職務を行う。

(議事及び議決)

第5条 会議は、構成員(海外渡航者及び休職者を除く。)の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の出席を必要とすることができる。

- 2 議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、特別の必要があると認められるときは、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(付託及び専決)

第6条 会議は、第3条に定める審議事項のうち、別に定める事項を除き、その議長に付託することができる。

- 2 議長は、会議から付託された事項については、専決することができる。

(構成員以外の者の出席)

第7条 会議は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(代議員会)

第8条 会議に、特定の事項を審議するため、学類会議代議員会(以下「代議員会」という。)を置くことができる。

- 2 会議は、代議員会の議決をもって、会議の議決とすることができる。
- 3 代議員会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会)

第9条 会議の下に、専門的事項を審議するため、委員会を置くことができる。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年11月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類（本文）

目 次

① 設置の趣旨及び必要性	2
② 学部・学科等の特色	9
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	12
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	15
⑤ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件	24
⑥ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場 合の具体的計画	31
⑦ 入学者選抜の概要	36
⑧ 教員組織の編成の考え方及び特色	40
⑨ 施設、設備等の整備計画	42
⑩ 管理運営	44
⑪ 自己点検評価	45
⑫ 情報の公表	47
⑬ 教育内容等の改善のための組織的な研修等	48
⑭ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	49

① 設置の趣旨及び必要性

① -1 社会的な背景

我が国は高度成長期を経て、世界を先導する科学技術立国としての立場を長年維持してきたところであるが、グローバル化や市場変化の対応の遅れなどにより、その世界的な立場が著しく低下している。例えば International Institute for Management Development (IMD) が作成する「世界競争力年鑑」において、平成元年度に世界 1 位であった国際競争力が、令和元年度には世界 30 位まで下落した後、令和 3 年度版では 31 位となる等、低迷が続いている。この調査における日本の評価を詳細に分析すると、「科学インフラ」に含まれる研究開発支出額で 3 位、GDP 比で 5 位、研究開発人材総数で 2 位、企業内研究開発人材数は 3 位、論文数は 5 位、特許総数は 3 位、人口当たりの特許数は 4 位、ノーベル賞受賞者数は 5 位といった項目はいずれも 10 位以内であるにもかかわらず、それを活かす分野である、変化に対する柔軟性や適応性は 61 位、企業におけるデジタルトランスフォーメーションは 60 位などと最下位に近く、教育面では、経済の要請に見合った大学教育は 54 位、ビジネスニーズに見合った経営者教育は 55 位等と評価が低い。三菱総合研究所は、「日本の強みである蓄積された知識資本は、必ずしも競争力の向上に結び付いていない。主因としては、市場の的確な認識と迅速な判断により幅広い分野の知識資本を最適に組み合わせる事業化する組織資本が不十分なことや、デジタル人材や熟練人材、有能な管理職などの知識資本を使いこなす人的資本に問題があることが考えられる。さらに今回のコロナ禍の下で DX の遅れが露呈した日本では、これらの弱点をなかなか克服できないと危惧される。」と指摘している。(MRI エコノミックレビュー「IMD「世界競争力年鑑 2021」からみる日本の競争力 第 2 回：個別項目からみた「強み」「弱み」と競争力強化の方向性」2021.10)

令和 2 年 6 月に科学技術基本法が「科学技術・イノベーション基本法」に改正され、イノベーションを「科学的な発見又は発明、新商品又は新役務の開発その他の創造的活動を通じて新たな価値を生み出し、これを普及することにより、経済社会の大きな変化を創出すること」と改めて定義し、人文・社会科学の振興とイノベーションの創出が法の振興対象に加えられ、科学技術の振興のみならず、社会的価値を生み出す人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する政策へと再編された。また、その改正を受け、令和 3 年 3 月に制定された第 6 期科学技術・イノベーション基本計画においては、目指す社会 (Society 5.0) が、国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会で、一人ひとりの多様な幸せ (well-being) が実現できる社会であることを述べ、その実現に必要なものは「①サイバー空間とフィジカル空間の融合による持続可能で強靱な社会への変革、②新たな社会を設計し、価値創造の源泉となる「知」の創造、③新たな社会を支える人材の育成」の 3 点とし、社会のニーズ

を原動力として課題の解決に挑むスタートアップを次々と生み出し、企業、大学、公的研究機関等の多様な主体が連携して価値を共創する新たな産業基盤を構築することとされている。

令和3年6月の「経済財政運営と改革の基本方針2021」においても、中山間地域等を含めた生産基盤の確保・強化に向け、スマート農林水産業の実装加速化や、地域が抱える課題の解決を図り、Society 5.0を先行的に実現する多様で持続可能な都市・地域（スマートシティ）を全国へ、そして世界へ展開することを提言する等、様々な分野でのデジタル化の進展を進めようとしている。また、現在、地方からデジタルの実装を進め、地方と都市の差を縮め、都市の活力と地方のゆとりの両方を享受できる「デジタル田園都市国家構想」の議論が進んでおり、令和4年6月に「デジタル田園都市国家構想基本方針」が取りまとめられ、地方の課題を解決するためのデジタル実装がこれまで以上に求められている。

このように、我が国の強みである科学技術のインフラと人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」により社会課題の解決を行う人材の養成が急務である。

① -2 設置する理由・必要性

これまで述べてきたような現状認識に立ち、本学では、様々な分野で進んでいく「サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合」を軸に未来の科学を創成するイノベーション人材の育成が必要であると考えた。特に、デジタル化を中心とした最新の科学技術の基礎を理解した上で、人文科学、社会科学の知も融合させ、社会課題の解決に科学技術の面から取り組む人材育成が必要である。

そのため、本学の文理融合型教育を中心的に担う融合学域に「スマート創成科学類」を設置する。理由は以下の通りである。

第1に、第6期科学技術・イノベーション基本計画では、「工業社会（Society 3.0）から情報社会（Society 4.0）への移行において、生活スタイルや産業構造まで含めた社会構造が変化し、従来の延長線ではなかったという経験を踏まえ、Society 5.0への移行においては社会の変革を断行しなければならないという強い意識をもって具体化していくことが重要」とあるように、Society 5.0時代における必要な科学技術や技能、思考法は、従来の延長線上ではないと考える。また、社会課題の解決には、豊かで持続可能な社会を実現するために、人間や社会の多様な側面を総合的に理解することが必須である。このことは、科学技術振興機構の研究開発の俯瞰報告書（2021年版）においても、「AI、ビッグデータ、ゲノム編集といった、人類の生存と日々の生活に直接インパクトを与える新しいフロンティア技術の開発と利用、将来方向の検討に当たって、一人ひとりの政策担当者、研究者も世界観と歴史観を身に付けて活動することが求められる。世界水準の研究開発を実施する上で

も、そうした思考の枠組みと素養が必要」としていることとも一致する。これらのことから、これからの新たな社会を切り拓くためには、自然科学のみならず社会科学の知見を活かした研究開発が必要不可欠であり、そのためには、分野融合による技能、思考が必須である。また、今後もあらゆる分野が関連し、新たな発見が生まれ得ることを考えると、科学技術も1つの分野を掘り下げるだけでは狭く、必須となるスキルを身に付けた上で、社会科学的な知見により産業を理解し、課題の認識を明確に持ち、様々な科学技術の融合により新たな技術の開発を行うことが必要となる。従来の特長を体系的に深める教育課程は、細分化されていく科学技術を進展させるためには有効である。しかし、社会課題を明確にした未来の科学技術の開発・活用を行う人材を養成するためには、大前提として文理融合であり、IoTを踏まえ、xRを見据えたスマート技術を取り入れた教育課程であるべきという結論に至った。

第2に、ポストコロナ時代の社会の変革に対応するため、北陸の地域を挙げて様々な産業でのデジタル化の進展、生産性の向上などが求められている。例えば、石川県は、令和4年1月に「石川県デジタル化推進計画」を制定し、『加速する』、『広げる』、『連携する』、『まもる』の4つをテーマにデジタルで創る、誰もがより安心して豊かさを実感できる「いしかわ」を目指している。経済界においても、北陸経済連合会では、「Society 5.0の実現によりSDGsを達成し、少子高齢・人口減少社会を克服し、人々が豊かで幸せに暮らす北陸」を目指して「スマート・リージョン北陸」を目指した取り組みを進めている。また、石川県情報システム工業会などは、AI、5G、xR、DX、Society 5.0等、IoTリテラシーのある人材の育成と地域への人材定着が必要と提唱している。本学においても、令和3年10月に本学が中心となり産学官金連携のプラットフォームである「北陸未来共創フォーラム」を設立したところであり、地域に必要な人材養成の在り方を産学官金で検討する取り組みを進めている。

これまでも本学は、新たな知の創出に向けた分野融合型の教育研究の重要性について早くから認識し、教員組織と教育組織を分離した上で、学士課程の教育改革として、平成20年度に学域学類制を導入し、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域の3学域体制に再編した。この教員組織と教育組織を分離する教育改革により、柔軟な教員配置が可能となり、それぞれの分野において“専門性の高い教育による深い知識修得”と“学問領域の連携による総合的知見の醸成”を行ってきた。平成27年度には、本学に優位性のある研究の更なる強化と分野融合型研究の推進、国際頭脳循環の拡充を一体的に推し進めるため、新学術創成研究機構を設置し、その成果として平成29年度にはWPI事業に採択され、ナノ生命科学研究所の新設に至っている。こうした実績を基に、新たな教育改革として、“地球規模で急速に起こっている社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導す

る人材の養成”に向け、学士課程において、人文・社会科学等にまで裾野を広げ、分野融合型教育に特化した融合学域を令和3年度に設置し、同年度に先導学類を、令和4年度に観光デザイン学類を相次いで新設した。デジタル化を中心としたスマート技術を中心に据え、文理融合による仮想と現実の高度な融合を活用して未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成は、このような土壌のある本学融合学域に設置することが適切である。

融合学域では、広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・解決の知を展開することで、地域と世界に貢献することを理念とし、知識集約型社会で中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材を養成することを目標に掲げ、これまで先導学類と観光デザイン学類を設置してきた。

先導学類は、地球規模で急速に起こっている社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材の養成を目的とし、起業家・アントレプレナー等を出口として意識している。そのため、アントレプレナーシップ教育を重視し、社会課題の発見や、その解決に向けた実践的な教育を展開している。

観光デザイン学類は、地球規模で急速に起こっている社会の変容や価値の共感を的確に踏まえた上で、我が国の観光産業の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、Society 5.0 や新たな日常に対応し、多核連携型の国際観光立国を見据えた新たな観光価値をデザインする人材の養成を目的とし、グローバルな共創的環境を理解し我が国の観光を発展させる観光プロジェクトの企画人材やアナリスト等を出口として意識している。また、観光を出口として明確に位置付け、人の流動を起し、観光という切り口で社会課題を解決できることを重視している。

前述のとおり、本学類では、数理・データサイエンス・AIなどのスマート技術を用いて仮想と現実を融合させて社会課題の解決を実践できる人材を養成する。それに対し、先導学類は、他の2学類に比べ、アントレプレナーシップの涵養をより重視し、様々な社会課題を発見・認識し、他者との協調を重視しながら、解決の方向を模索することのできる人材を養成する。また、観光デザイン学類は、新たな観光価値をデザインする出口を意識した教育を行うことにより、観光に力点を置いた又は観光に接続する社会課題を解決できる人材を養成するものであり、いずれの学類も、スマート技術を用いて社会課題を解決できる人材の養成を行う本学類とは目的が異なる。

本学類のカリキュラム構成は、スマート技術の修得と社会課題の解決を重視したものとなっている。例えば、実践科目において、融合学域の他の学類と比べ、プログラミング、Web言語の実習やアプリ開発、スマートデバイスの制御、データ収集や社会調査法などの実践的スキルの修得に力を入れている。これは、学生が卒業後に実社会へ出た際に、科学

技術を用いた解決法を実際に提示しながら社会や地域の理解を得て共創していくことが社会実装に必要不可欠となるためである。また、本学類では、まず専門的な事項や原理を理解するため、基礎的知識を広範に学び、そのあと、社会課題を解決する未来の科学技術の創成に向け、学知科目のコアエリアに配置された科目を横断的に学修する教育課程としている。加えて、専門的な事項や原理を理解するためには、数学や物理学、化学等の理解が必須であるため、全員がその前提的知識を持てるように、共通教育科目における基礎科目の履修を8単位必修としている。一方、課題の発見や認識に重点を置いた先導学類では、まず専門基礎科目としてコア科目を置き、その履修を通じて未来課題の発見・認識を行った後、その解決に向けた専門的な事項や原理の解明に向けて学知科目に配置する科目を履修する教育課程としている。なお、学生個人の設定する課題に応じた履修とするため、共通教育科目における基礎科目は選択必修としている。このようにカリキュラムにおいても、それぞれの養成する人材像に合わせて学ぶ内容、授業科目の体系に濃淡がある。

また、本学類では、社会実装を重視した未来の科学を創成するために、現代社会学等の視点により、地域や社会について理解した上で、社会課題の解決における科学技術の使用に力点を置いている。その総合的・統合的な融合に資する新たな技術を生み出す人材を養成することから、理学や工学の分野において、専門性を究めることを目指す既存の理工学域とは、養成する人材が異なる。人材養成の目的に対応した教育課程を編成するため、別の組織として設置することが適切である。

①-3 教育上の目的及び養成する人材像

本学類においては、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を目指していく。その具体的な出口としては、

- ・技術創発により人々の活動範囲の変革を行うデジタルイノベーター
- ・高い創造性と学術をもって機能革新を行う企業内開発者・テクノロジスト
- ・グローバルな科学の進展を理解し人間中心の未来社会を拡充し続けるシステム制度設計者・エバンジェリスト
- ・農林水産業を含む全業界からスマート・リージョンを推進する地方創生者・アーキテクト等

である。

以上のような理念の下、スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するxR技術等を活用し、未来の科学を創成する人材を養成するため、以下のとおりディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを設定する。【資料1】

《ディプロマ・ポリシー》

未来の科学を創成するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得する。

その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士 (学術) の学位を授与する。

- ・未来の科学を創成するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力
- ・未来課題を理解し、ひと・もの・ことに関する多様な情報を収集・分析する力
- ・総合知を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力
- ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力
- ・スマート創成等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力

《カリキュラム・ポリシー》

卒業時に学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成する。専門教育科目には以下の科目群を設ける。

- ・ひと・もの・ことに関する転用・応用可能な知見を修得するために「学域G S 科目」を設け、総合知に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。
- ・国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域G S 言語科目」を設け、到達目標を定めて学修するEMI (English-Medium Instruction) 科目を配置する。
- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けたスキルや発想力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、さらに3つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う実習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

《アドミッション・ポリシー》

あらゆる意味で社会が変容し、従来の知識、制度、方法等が国力の維持や強化に耐えられなくなりつつある。

多様な脅威にさらされるこれからの社会では、人文・社会・自然等の科学分野を往還し、融合的な学知と他者との共創を通じて、社会の各界で『未踏のイノベーションの創成をリードする中核的リーダー』となる人材が不可欠である。

そこで、学類の目的を見据え、卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できる資質を有し、次のような意欲ある入学者を求める。

- ・ 様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・ 多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・ 最先端の学知を連携・融合し、未来に資する新たな科学創成に挑戦したい人

② 学部・学科等の特色

本学類は、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を目指す。また、その特色を最大限に活かすため、融合学域に設置する。本学類の主な特色は次の3点である。

(i) 3つのコアエリアとバックキャスト学修による文理融合の柔軟な学び

本学類では、スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するXR技術等を活用し、未来の科学を創成するために共通して必要となる知識及び技術を学ぶための科目を専門基礎科目に配置する。その後、専門科目として主に各コアエリアに配置された科目群を横断的に学修する。オーダーメイド型の履修指導により、各々の学生が自ら学びを深める内容を見出し、その内容に応じ、真に必要な科目を決定する。また、3年次、4年次の高学年に課題の解決に改めて新たな分野の学びが必要となった際には、バックキャスト学修により、立ち戻って基礎的な知見を学修し、また、特定の分野の更なる先鋭化・高度化が求められる際も同様に、他学類・他学域開講科目を履修することを可能とする等、柔軟な教育設計としている。

非連続なイノベーションを創出し社会変革を起こすためには、飛躍知を産み出すことが欠かせない。そして、そのためには複数の科学分野を往還し、それらの知見を柔軟な発想法によって統合、あるいは融合することが不可欠である。複数の知見を用い、統合・融合することによって、その解決策の多様性は無限の広がりを見せることとなる。本学類においては、①分野を問わない科目の履修（基盤科目、学知科目）②企業家等、自らとは異なる視点に立った指導（実践科目）③異なる分野の教員からの指導（鍛練科目）④社会実装を見据えた指導（全科目）を実現する。さらに、必修科目として「イノベーション基礎」や「デザイン思考」を配置し、学問分野の壁を越えた柔軟な発想力を養成する。

また、科学技術イノベーションの創出と社会変革は、実際に学んだ知見を社会へ展開・実装することによって初めてなされるものである。スマート創成科学を社会実装するにあたり、必要な自主性や実践力の根源となるマインドセットがアントレプレナーシップである。融合学域全学類では、実践科目としてアントレプレナー基礎、アントレプレナー演習等を必修として配置し、アントレプレナーシップ教育を行う。加えて本学類においては、実践科目において、仮想と現実を繋ぐためのスキルである、プログラミングやアプリ開発、デバイス等に関するスキルのほか、社会調査法などのスキルを身につける。

鍛練科目における「北陸産業インターンシップⅠ、Ⅱ」をはじめ、常に社会との関わり

を意識しながら自らの課題解決に向けた学修を行うものである。また、学知科目においても、例えば、カーボンニュートラルについては、カーボンニュートラルを実現するための技術と社会システムの構築からその解決を取り上げる科目をそれぞれ配置するなど、思考・発想・実践を多面的に捉えられるように科目の体系的な配置を行っている。

本学類のコアエリアは、学生が所属するものではなく、スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するxR技術等を活用し、未来の科学を創成するため、学修のフィールドである次の3つのコアエリア（専門分野の科目群）を設ける。

【資料2】

- スマートライフコアエリア：ヘルスケアや生活の質の向上に焦点をあてた高機能なツール開発等の科学進展に必要な科目群
- スマート産業コアエリア：技術や機能の社会実装に焦点をあてた高機能な産業DX化等の科学進展に必要な科目群
- スマート社会コアエリア：インフラや制度の発達に焦点をあてた高機能な都市開発等の科学進展に必要な科目群

学生が学びを固定される、いわゆる「プログラム制」とは異なることから、受入人数や前提条件の制約という考え方は用いない。

学生は、自身が認識する未来の科学の創成に向けた課題を設定し、課題の解決に必要な知見や技術等を効果的に修得できるよう、人文科学、社会科学、自然科学の各分野を鳥瞰する仕組みや理論と実践を往還する仕組みを取り入れたバックキャスティング型教育方法により学修を進める。その中心となるのは、「2種類の学びの計画書」と「指導教員漸次増員制度」を用いた手厚い履修指導であり、1年次に履修した授業科目の履修状況や学修進度、さらに、2年次を中心に履修する基礎的な科目群の履修状況や学修進度を踏まえ、自らの興味や教員等のアドバイスを参考に中心となるエリアを定めるとともに、文系や理系等の分野にとらわれず、柔軟な発想力をもって未来の科学を創成するため、他のエリアの科目を横断的に履修する。その履修にあたっては、多層的なガイダンスにおいて学生の面談を実施し、「学びの計画書I・II」を作成し、履修する科目を具体化させる。

(ii) 社会との共創を見据えた教育課程編成

1年次には本学が定める「学士課程〈グローバル〉スタンダード」を体現する共通教育科目を履修した後、主に2年次から専門教育科目を履修する。

本学類では、多分野の科学を往還しながら学ぶことにより、修得した知見や手法等を連携・融合させ、社会変革を起こす未来の科学を創成できる人材の養成を目的としており、産学官金連携による社会との共創も見据えた教育課程を編成する。

実践科目においては、「アントレプレナー演習」、「産業DX・PBL演習」などを配置し、低学年からグループ毎に身近な大学生活など足元の課題を見つけ、その解決に向けた

問題設定の構築能力などを地域や社会の課題解決を通じた学びを展開する。

学生が広範な科学技術をベースとして、社会課題を意識して自ら設定する未来の科学の創成を目指し、専門知を基軸としながら、様々な知を組み合わせるとともに、自由な発想でバックキャストにより学ぶことのできる教育課程を編成している。

これらにより、学生一人ひとりが多様で広範な技術を端緒にどの業界においても産業DXを志向し、スマートシティの構築を担うことができる。

(iii) 地方創生を考える教育課程

本学のこれまでの異分野融合の取組みや最先端の設計製造技術、ニッチトップ企業を多数擁する北陸地域の産業や人の流動性の高い地域性のシナジー効果を見据え、多分野におけるスマート化により地方創生に資する人材養成を目指す。そのために、鍛練科目「北陸産業インターンシップⅠ」を必修科目とする。この科目では、学生全員が北陸の産業界等でのインターンシップを通じ、スマート技術を用いた社会課題の解決を実際に社会へ展開する方法を立案する。この科目によって、地域の産業、企業に関する理解を深め、教育課程の中で地方創生に第一線で関わることを必ず体験させることができる。なお、より広く深い実践や長期的な学修にも「北陸産業インターンシップⅡ」や「融合演習」を正課教育で高学年に配置することなどで対応し、地域や産業界のニーズに学生が貢献できる機会を設計してある。

また、本学が中心となり産学官金が連携して運営している「北陸未来共創フォーラム」を活用し、地元産業界のニーズの掘り起こしやインターンシップ先の開拓なども行う。本フォーラムには、農林水産業やヘルスケア、製造業などの分科会を設けており、ここでの議論を通じて、漁業を含むスマート農林水産業の発展や疾病・介護の予防を含む次世代ヘルスケア開発等の教育内容へと還元し、地方創生人材の養成と実践を両輪とした教育活動を推進できる。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

③-1 学部・学科等の名称及び理由

学域名称：融合学域/ College of Transdisciplinary Sciences for Innovation

学類名称：スマート創成科学類/ School of Smart Technology and Innovation

本学は昭和24年の設置以降、人文社会科学系・自然科学系・医薬保健学系を兼ね備えた総合大学として、それぞれの学問分野を深く追求し、専門人材を輩出してきた。また、新たな知の創出に向けた分野融合型の教育研究の重要性について早くから認識し、平成20年度には、教員組織と教育組織を分離した上で、既存の学問分野の壁を壊し、従前8学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、医学部、薬学部）であった教育組織を、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域の3つの大きな分野で括った教育組織に再編し、学生や社会の変化に柔軟に対応できる教育体制を実現した。この教員組織と教育組織を分離する教育改革により、柔軟な教員配置が可能となり、これまで、それぞれの分野において“専門性の高い教育による深い知識修得”と“近接した学問領域の連携による総合的知見の醸成”を行ってきたところである。

しかし、Society 5.0時代の到来に伴い、益々変容し複雑化する社会の中、“科学技術イノベーションを先導する人材の養成に向けた新たな教育システムの構築”が求められており、その教育システムにおける学問分野を考察すると、このシステムには、文理を問わない幅広い学問分野の修得が求められていると捉えることができる。また、国立大学改革方針（令和元年6月18日文科科学省）においては、国立大学法人には、高度で良質な人材育成拠点として、「文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成を実現する教育組織改革とカリキュラム編成」により、社会を変革する力と意欲を持った人材を輩出することが求められていることが示されている。さらに、令和2年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020」においても、「世界が今、大きな変化に直面する中で、我が国は新たな時代を見据え未来を先取りする社会変革に取り組まねばならない。さもなくば、将来にわたり日本が世界から取り残されて埋没してしまいかねないとの切迫した危機意識を共有し、政府・企業・個人等それぞれの立場で変革への取組を始めることが不可欠である。」と述べられており、「新たな日常」の実現に向けた社会変革の推進力となる人材が従来に増して必要となっており、課題設定・解決力や想像力を発揮できる人材育成の推進が急務となっている。

この新たな教育システムは、一つの学域内での知識修得だけでは十分とは言えないことから、本学は、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域の3つの学域で有している学問領域を複合的・横断的に有する教育組織として、新たに令和3年度に「融合学域」を創設した。本学域においては、広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・

解決の知を展開することで、地域と世界に貢献することを理念とし、知識集約型社会で中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材の養成を目的としており、その理念の下、スマート技術の活用により Society 5.0 を牽引する人材養成に向け、スマート創成科学類を設置するものである。

本学類においては、デジタル化をはじめとしたスマート技術を中心に据え、文理融合による仮想と現実の高度な融合を活用して未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を目標とする。この人材養成に向け、以下のとおりディプロマ・ポリシーを設定する。

《ディプロマ・ポリシー》

未来の科学を創成するために必要となる多様な知見を身に付けた上で、その知見を活用した思考力・発想力・実践力を獲得する。

その成果として、本学類が掲げる人材養成目標及び金沢大学〈グローバル〉スタンダード (KUGS) を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(学術)の学位を授与する。

- ・未来の科学を創成するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力
- ・未来課題を理解し、ひと・もの・ことに関する多様な情報を収集・分析する力
- ・総合知を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力
- ・語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力
- ・スマート創成等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力

生活、産業、社会等、あらゆる事象のスマート化を図り、社会を切り拓く人材の養成に向けた本学類の特色を踏まえ、学類名称を「スマート創成科学類」(英語名称を“School of Smart Technology and Innovation”)とする。“Smart Technology”は一般的な名詞として広く普及しており、2020年以降“Smart Technology”がタイトル、抄録、キーワードに含まれる論文は1,000編を超え、分野も Computer Science, Social Sciences, Economics 等多岐に及ぶ (Scopus 2022.8 時点)。また、広島大学や北海道大学をはじめ、「スマートイノベーション」を掲げるプログラム等は国内の教育機関に複数存在し、海外においても Keele University (イギリス) の“SMART INNOVATION HUB”をはじめ、その使用例は多い。“Smart Innovation”をキーワードとする論文や書籍も増加傾向にあり、例えば 2022 年に Springer Nature 社より“Smart Innovation, Systems and Technologies”が出版されている。本学類の英語名称は国際的に通用しているものと考えている。

③-2 学位の名称及び理由

学位の名称並びにその英語名称は、次のとおりとする。

学位名称：学士（学術） / Bachelor of Arts and Sciences

本学類での学修は、多様な分野やシステムを融合的・総合的に捉え、アントレプレナーシップを醸成しつつ、人文科学・社会科学・自然科学の分野を往還しながら、あらゆる事象のスマート化による社会イノベーションの実現に向けた学術的探求を行い、領域横断的な知識と発想力を修得させる履修体系としているため、学位に付記する専攻分野の名称を「学術」とし、授与する学位の名称を「学士（学術）」とする。このことから、英語名称については Bachelor of Arts and Sciences とする。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学は養成する人材像として金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を策定し、その人材像を念頭に置いた基礎的な科目を共通教育科目として編成している。本学類においてもこうした本学の基本的な理念の上に立脚し、専門教育科目においては未来の科学を創成できる人材の養成に向け、社会との共創を目指す分野融合型の科目編成を行い、文系・理系等の分野にとらわれず、多分野にわたる専門知識を基に思考力・想像力・実践力を涵養する教育課程を編成する。

教育目的としている人材の養成にあたり、数理・データサイエンス、AI、人間拡張技術、仮想現実、自動運転、予測シミュレーション、ブロックチェーンなどの技術を「スマート技術」と位置づけ、これを中心に、未来の科学の創成に必要であるデータサイエンスや地域における産業構造、金融工学、ファイナンス、社会学、経営学をはじめ、アントレプレナーシップの醸成に向けた社会科学等も含む多様なアプローチによる分野融合型教育が必要であり、体系的に知識・経験・技能・素養を修得させる必要がある。

そのため、主に2年次に学修する基盤科目では、それらの幅広い分野の基礎を徹底して学ぶこととし、その後自らが目指す未来の科学の創成に向けて、スマートライフ、スマート産業、スマート社会に特化したコアエリアを横断的に学修する教育としている。

主に3年次に学修する学知科目では、根幹となるコアエリアとして、前述のとおりヘルスケアや生活の質の向上に焦点をあてた「スマートライフ」、技術や機能の社会実装に焦点をあてた「スマート産業」、インフラや制度の発達に焦点をあてた「スマート社会」の3つを設定し、いずれかを核としつつ、全てのコアエリアの科目を履修する仕組みとしている。

加えて、知識や技能を身に付ける上で、より深い学びを実現するため、主に3年次に鍛錬科目として、製造業や様々なニッチトップ企業など、北陸の産業の特色や産業界でのDXの進展に向けた課題解決に取り組み、体感するために北陸地域でのインターンシップを必修にするほか、より長い北陸産業インターンシップ、短期留学、国際インターンシップ等も選択させる仕組みとしている。

また、持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学には様々な分野が対象となりえるため、「学びの計画書Ⅰ及びⅡ」により体系的に学修を進めるオーダーメイド型の個別最適な教育を行う。

《カリキュラム・ポリシー》

卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できるよう、課題発見・解決・展開モデル型の階層化した教育課程を編成する。専門教育科目には以下の科目群を設ける。

- ・ひと・もの・ことに関する転用・応用可能な知見を修得するために「学域GS科目」を設け、総合知に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。
- ・国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域GS言語科目」を設け、到達目標を定めて学修するEMI（English-Medium Instruction）科目を配置する。
- ・アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けたスキルや発想力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。
- ・知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。
- ・未来課題の解決に資する知見を獲得するために「学知科目」を設け、さらに3つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。
- ・国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う演習等を中心とした科目を配置する。
- ・修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

共通教育科目

本学は金沢大学憲章を始めとする本学の理念に基づき、人間力と国際通用性を備えた金沢大学ブランドの学生を育成するため、平成26年度に、本学が育成する人材の具体的な姿を「金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）」として定め、さらに平成28年度にはKUGSの涵養を目指す、共通教育科目の刷新を行った。

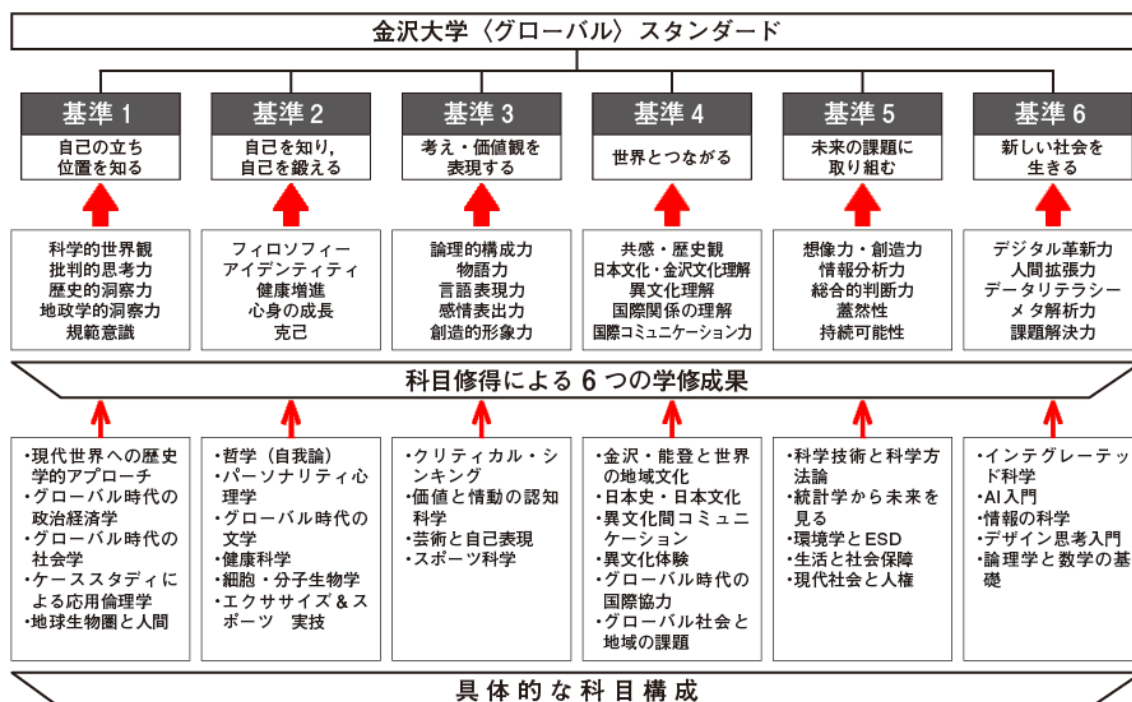
共通教育科目は、導入科目、GS科目、GS言語科目、基礎科目、初習言語科目、自由履修科目で構成している。

導入科目は「大学・社会生活論」「データサイエンス基礎」「地域概論」から成る科目群であり、全学類共通の必修科目である。導入科目を通じ、大学生としての学修技術や生活態度、自己管理能力等を身に付けるとともに、地域・社会に対する関心を高める等、将来の目標を意識しつつ、今後の大学生活をいかに送るかを考えさせる。

GS科目は、KUGSを涵養するために設定された科目群である。当初はKUGSに基づき、KUGS1からKUGS5の5群であったが、令和2年度に本学が採択された「知識集約型社会を支える人材育成事業」を契機に、6群へと再編された。GS科目群は各4～6科目により構成され、1群から5群までは各2単位、6群からは3単位を含む合計15単位の修得を必要とする。

KUGS1は、「自己の立ち位置を知る」として、鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能

力を養う科目を設置する。その中には、「グローバル時代の社会学」を設け、社会学の基礎理論を学修させる。



さらに、英語能力（日本語力を求めない入学者選抜によって入学した留学生は日本語）の向上に向けた GS 言語科目、数学や物理、化学の基礎を学ぶ基礎科目等の履修により、本学類では合計 36 単位以上を修得することとしている。特に、基礎科目で扱う数学、物理学、化学は、スマート技術を理解する上で本学類の学生全員が一定水準の知識を持つ必要がある。本学類は入学時にも文系、理系を問わず学生を受入れることから、融合学域の他の学類とは違い、基礎科目から 8 単位を選択必修とする。さらに、融合学域の他学類や理工学域では開講していない統計数学も履修できるように設計している。

なお、本学の共通教育科目は完全クォーター制のもと、1 単位での開講を基本とした全学類共通のものとしている。

KUGS4 は、「世界とつながる」をテーマに、他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力を涵養する。この中で、「異文化体験」は、海外修学期間により修得できる単位が 1 単位から 8 単位まで分かれている。異文化体験で修得した単位は、1 単位まで GS 科目の修得すべき単位数に算入し、1 単位を超える修得単位は、自由履修科目に算入する。また、「異文化体験」と鍛錬科目の「国際インターンシップ」及び「海外実践留学」は、前者は異文

化体験を主眼とし、後者は学生自身の課題探求を通じて真に必要な海外実習先を、ガイダンスを通じて教員等と協働しながら選択し、設定した課題やその解決に向けた知見を深めるために実施される実践的な海外実習であり、その両者は目的が異なり、両方とも履修できる。

全学類学生の必修科目である「地域概論」においては、識者や企業家、職人、自治体職員、地域のリーダーなどのインタビュー映像を交え、石川の自然・文化・歴史・産業、地域創生の取組み等をまとめた ICT 教材の活用を盛り込む。ICT 教材を活用することにより、石川で活躍する多様な人材の意見や石川の実態を把握することができるとともに、繰り返し視聴することも可能で、石川をより深く理解することができる。

1 年次には以上のような履修に加え、後述の専門教育科目として、学域の基礎を学ぶ学域 GS 科目や、アントレプレナー基礎等 8 科目 9 単位（うち 6 科目 7 単位必修）を開講する。これは既存の他学類と比しても同程度であり、過剰に負担を課すものではない。

専門教育科目

共通教育科目を通じて KUGS を体現する科目を履修した後、専門教育科目においては、カリキュラム・ポリシーに基づき、本学類の養成する人材像に沿った専門的な科目を履修する編成としている。

持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学の創成というテーマは広範囲に及び、様々な知見が必要となる。本学類では、数理・データサイエンス、AI、人間拡張技術、仮想現実、自動運転、予測シミュレーション、ブロックチェーン等を「スマート技術」と位置づける。スマート技術の理論や原理のほか、社会学、経済学・経営学の観点から、特に産業構造や地域システムに焦点を当てる社会科学的アプローチ、ヘルスケアや医療等の生命科学的アプローチを用い、社会課題とそれを解決するための科学技術を各学問領域の知見や手法の統合・融合によって創造する人材を養成する。

教育課程の編成にあたっては、学域 GS 科目においてアントレプレナーシップ等本学域における共通的な基礎を、学域 GS 言語科目において実践的な英語をそれぞれ必修として修得するほか、2 年次から 4 年次にかけて、持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学の創造に向けた分野融合型の科目編成を行っている。主に 2 年次には、専門基礎科目として基盤科目と実践科目の各科目を設ける。基盤科目では、スマート技術を始めとする今後の学修に必要な基礎的な科目や、実践科目として必要なスキルの修得やアントレプレナーシップの醸成に係る科目、北陸の産業界をフィールドとした地域との共創による課題解決型のプロジェクトを実践する科目を配置する。主に 3 年次には、学知科目に「スマートライフ」「スマート産業」「スマート社会」の 3 つを本学類の定めるコアエリアとして構築し、各エリアに科目を配置する。学生はそれらのコアエリアを横断的に学修しながら、学生自身が目指す未来の科学に向けた科学技術を学修する。主として 2 年次から 3 年

次にわたる基盤科目及び学知科目には、学問分野を問わず、課題の解決に繋がる科目や、地域の課題、産業構造に関する科目等も配置しており、学生はそれらの科学分野を往還しながら自らの課題発見と解決、新たな科学技術の創成に向け、複合的・融合的な学びを行う。

なお、コアエリアごとの履修モデルは、【資料3-1～3-3】のとおりである。

(i) 学域 GS 科目

《主に1年次・学修の始期に修得が必要な専門基礎を学ぶ》

本学域においては、広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・解決の知を展開する事で、地域と世界に貢献することを理念とし、知識集約社会で中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材の養成を目標としており、そのために学修の始期に修得が必要な「アカデミックスキル」(1単位)、「プレゼン・ディベート論」(1単位)「イノベーション基礎」(1単位)、「数理・データサイエンス基礎及び演習」(2単位)、「デザイン思考」(1単位)を学域共通の必修科目として開講する。

(ii) 学域 GS 言語科目

《2年次～3年次・学修の強化に必要な英語を学ぶ》

本学類においては、国際社会の中で積極的に発信する力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げており、そのため、多様な入試形態によるダイバーシティ教育環境の構築と共に、海外での実習として、「海外実践留学」、「国際インターンシップ」を鍛練科目に配置している。これからの社会で不可欠な実践的な英語を学ぶため、「学域 GS 言語科目 I / 海外実践英語」(1単位)、「学域 GS 言語科目 II / 時事・学術英語」(1単位)を必修科目として開講する。

(iii) 実践科目

《主に2年次～3年次・スキルの修得や社会共創等の実践を学ぶ》

本学類においては、アントレプレナーシップの醸成や社会との共創によって学修成果の「社会展開」を重視しており、そのために、「アントレプレナー基礎」(1単位)「アントレプレナー演習 I・II」(各1単位)、「産業 DX・PBL 演習 I・II」(各1単位)を必修科目として配置する。

スマート創成科学を学ぶ上で、必要となるスキルを学ぶ科目も設ける。例えば、python 等のプログラミングスキルを修得する「プログラミングスキル」「プログラミングスキル実践」(各1単位)やスマートフォンのアプリ開発を行う「アプリ開発」(1単位)、Web サイトの制作や稼働に必要なスキルの修得を目的とした「Web サイト設

計基礎」(1 単位), IoT デバイスの動作や解析を行う「スマートデバイス演習」(1 単位)等の演習科目を配置する。

また、本学類では、社会や地域の課題を科学や技術で解決することを目的とするため、地域課題の発見や解決を体験する「地方創生に見る社会課題」「北陸地域創生と社会学」(各 1 単位)や、アンケート調査等の社会科学的なアプローチやビッグデータの扱いに関するスキルを学ぶ「社会調査法」「データ解析演習」(各 1 単位)等の科目により、分野を問わず、様々なアプローチのスキルを身に付ける。

(iv) 基盤科目

《主に 2 年次・スマート技術と社会、地域学等各分野の基礎を学ぶ》

持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材の養成に向け、専門教育科目が本格的に開始する 2 年次にスマート技術を始めとする基礎的な知識、理論を修得する。先述したとおり、本学類においては自然科学以外に、社会科学的アプローチや、生命科学的アプローチを加えた 3 方向から捉え直すことにより、未来の科学の創成を実現する教育課程であり、その基礎的な知見の醸成に向けて従来の工学の範囲にとどまらない多様な分野の科目を配置する。

必修科目として、スマートシティやそれを支えるテクノロジーを学ぶ「超スマートシティと Society 5.0」(1 単位), IoT の変遷、仕組みや IoT を取り巻く技術、応用例を学ぶ「IoT 技術」(1 単位), AI の導入事例やシステムを学ぶ「AI と未来の社会学」(1 単位)に加え、地方創生を念頭に北陸の産業を実例に技術経営を学ぶ「北陸技術経営論」(1 単位)の 4 科目 4 単位を必修科目とする。

さらに、選択科目として、スマート技術に関する知識や理論の基礎を学ぶ、「ロボットイノベーション」「スマートシステム制御」「情報科学応用」(各 1 単位)等の科目の他に、スマート技術の応用先となる科学分野を学ぶため、「テクノロジー基礎」「スマート創成化学とバイオロジー」「未来エネルギー創成」「ファイナンス基礎」「北陸の農林水産・製造業」「消費生活論」(各 1 単位)等の多様で階層的な分野の科目を配置し、学生個人が目指す未来の科学の創成に向けた基礎的な知見を醸成する。

(v) 学知科目

《主に 3 年次・コアエリアと関連する知識を体系的に学ぶ》

専門基礎科目において多様な分野の基礎的な知見を学修した後、スマートシティの実現や新たな科学技術の創成に向け、学知科目を 3 つのコアエリアに分けて配置し、それらを横断的に学修する。

本学類においては、生活、産業、社会のあらゆる場面でスマート技術を活用し、「国民の安全・安心を守る持続的で強靱な社会」と「一人ひとりの多様な幸せ (well-being)

を実現する社会」の両立に向け、社会変革に繋がる3つのコアエリアを設定する。

- ① スマートライフコアエリア：本コアエリアにおいては、ヘルスケアや生活の質の向上に焦点をあてた高機能なツール等の科学進展に必要な科目を18科目配置する。

授業科目 (18科目)	先端医学，未来医科学，QOL と Well-being，人間拡張とライフ，地域の居住空間デザイン，ヒューマンインターフェース，生活デザイン論，超高齢社会と科学技術，地域包括ケアと地方創生，生活行動とアクティビティ，未来型ヘルスケアシステム，人間工学，健康スポーツ栄養学，スマートウエルネス，レギュラトリーサイエンス，AI・IoT 健康福祉学，フィジカル・ブレイン接続，ヘルステック
----------------	--

- ② スマート産業コアエリア：本コアエリアにおいては、技術や機能の社会実装に焦点をあてた高機能な産業DX等の科学進展に必要な科目を配置に向けた科目を18科目配置する。

授業科目 (18科目)	スマート産業論，消費者行動と社会，実践データサイエンス，画像認識と機械学習，スマートセンシング，カーボンニュートラル技術，統計的学習理論，デジタル生産工学，知的財産法，スマートシステム制御応用，スマート資金とビジネス応用，自律ロボット，産業とユニバーサルデザイン，拡張・リアリティ空間デザイン，次世代情報通信，エネルギーハーベスティング，コンピュータと電子回路，生産者の社会責任
----------------	---

- ③ スマート社会コアエリア：本コアエリアにおいては、インフラや制度の発達に焦点をあてた高機能な都市等の科学進展に必要な科目を18科目配置する。

授業科目 (18科目)	SDGs 実践，実践スマートシティ論，ナショナルレジリエンス，Web・クチコミ社会動向分析，デジタルエコノミーと地域展開，都市・地域工学，スマートモビリティと自動運転，都市・交通デザイン，社会システム工学，エビデンスベース政策論，ソーシャルイノベーション，社会的合意形成論，デジタルツインと危機管理，低炭素社会，スマートサプライチェーン，スマートインフラマネジメント，ネットワーク・メカニズムデザイン，フューチャーデザイン
----------------	---

また、学生自身が解決を目指す課題に対し、その探求を進める上で、これまでの学修とは全く異なる分野を修得する必要性が生じることも十分予想される。その際はバックキャスト学修による、当該分野の基礎的な科目の履修を指導する。さらに、各人の志向に合わせた課題の探求のためには、配置した科目のみではなく、さらに専門性の高い学修が必要である場合や、科目の履修に向けて基礎的な学修が必要である場合も想定されるため、他学域、他学類において開講している科目の単位も10単位を上限に算入できることとし、全学を横断した学修を実現させる。

(vi) 鍛練科目

《主に3年次～4年次・多様な条件下で最新の知見や他者との共創を学ぶ》

上述した通り、(i)～(v)にかけて多様な科目を配置し、多分野を往還しながら持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学の創成に向けた学修とアントレプレナーシップの醸成を行い、それらの学びを基に多様な背景を持つ者から助言・指導を得ることで、より実践的なものとして深化させる。様々な学びを連携・融合させる教育手法として、海外における実践例や、融合学域の他の2学類における実践例を参考としながら、「異なる分野を専門とする指導者や企業人等から指導を受ける科目」を配置する。

「北陸産業インターンシップ」(I：必修1単位、II：選択1単位)

学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。

「スマート創成プロジェクト鍛練」(I、II：各1単位)

Project Based Learningを通して、自ら課題を設定しその課題を自らスマート技術で解決する能力を強化する。チームに分かれ、教員が行う研究活動に実際に参加するなどし、自ら課題を設定し、大学院学生や学外者とも協働し、最新のスマート技術に関する知見や動向調査も含め、課題解決の実習に取り組む。

「海外実践留学」(1単位)

本学の海外協定締結校等を活用し、学生が設定した課題や研究分野に関し、海外の研究者から指導・助言を受けるとともに、多様な人々との交流を通じて多様性を理解し、課題に対して意欲的に取り組むことにより、グローバル人材としての素地を醸成する。

「国際インターンシップ」(1単位)

本学の海外事務所等を活用し、学生が設定した課題や研究分野に関し、海外の企業家等から指導・助言を受けるとともに、多様な人々との交流を通じて多様性を理解し、課題に対して意欲的に取り組むことにより、グローバル人材としての素地を醸成する。

「数理・データサイエンス・AI鍛練」(1単位)

「数理・データサイエンス・AI実践」で学んだ内容を前提として、機械学習を活用した最適設計法の実践など実データを用いた最適設計問題を解くことを体験する。

(vii) 確立科目

《主に 4 年次・課題解決を計画的に進め、

結果を収束し未来の科学の創成につなぐ手法を学ぶ》

学修のまとめとして「融合研究」、「融合演習」、「融合試験」（各 8 単位）を配置し、いずれか 1 科目を選択必修とする。

「融合研究」

学生自身が設定した課題に対する解決策について、主にこれまで修得してきた多分野に渡る知見を用い、指導教員の下で実証実験的な研究を進め、将来の社会展開を見据えた形で論文としてまとめる。なお、成績評価にあたり、複数の科学分野に渡る教員による論文審査会を開催する。

「融合演習」

学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取組みを通じ、実際の社会への展開法を立案する。その形態は、インターンシップ先を始めとする企業等において業務の改善や事業展開に関与する実践的アントレプレナー演習のほか、自ら起業する際の設計や実践的な課題研究等を含む。なお、成績評価にあたり、演習等のプロセスシート、及び長期的かつ高度なインターンシップ先からの評価シート等を基にした審査会を開催する。

「融合試験」

学生自身が設定した課題に対する探求の中で、長期的展望に立って取り組むべき課題であり、大学院における専門的知見を修得する必要があると判断される場合は、大学院への進学を要件とする QE（Qualifying Examination）を実施する。融合試験受験者には、大学院で必要となる知見をより広範囲に修得させるため、バックキャスト学修等による補遺的な授業科目（6 単位）の計画的な履修を課す。成績評価にあたり、審査会を開催し、複数のコアエリアに係る専門的知見と実践力を問う筆記試験、大学院課程で取り組む課題設定と研究計画の立案に基づく発表と試問を行い、修士研究基礎力を確認する。

なお、「融合試験」は大学院設置基準第 16 条の 2 に規定される「専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関する分野の基礎的素養であって当該前期において修得し、又は涵養すべきものについての試験」及び「博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期の課程において修得すべきものについての審査」に準じた内容を学士レベルで行う、意欲的な学士力の検証である。

⑤ 教育方法、履修指導の方法及び卒業要件

⑤-1 履修指導に関する基本的な考え方

本学類は、人文科学、社会科学、自然科学の各分野を往還しながら、学生自身が志向する持続可能なスマートシティを見据えた社会課題の設定と自身の将来像を見据えた履修を行うものではあるが、本学類においては設定した課題に応じてバックキャスト学修等を取り入れ、さらに他学類における開講科目の履修も加えた全学体制による指導を行うこととしており、その履修科目は学生個人によって異なるものと考えている。履修にあたっては学生個人の趣味嗜好によらず、その課題解決に向けて真に必要な科目を学生と教員とが協働して選定するオーダーメイドの履修指導を行うことにより、学びの核を形成する。さらに、スマートシティを見据えた未来の科学の創成を見据えたプロジェクト演習科目の実践、「北陸産業インターンシップⅠ」の必修化、選択科目による留学やインターンシップ等、学生に対するきめ細かなサポートが必要であるため、専任教員を中心としながら本学域に専属として配置する UEA や教務アドバイザーも参画し、4年次の確立ガイダンスにおいては1人の学生に対して最大5名の履修指導アドバイザーや指導教員による指導体制とする。そうした学生と教員等との協働の場として、毎年次ガイダンスを置き、その中で学生の出口志向等を見据えたオーダーメイド型の「学びの計画書」を作成する。

（【資料4】参照）

「学びの計画書」策定においては、学生本人が考える未来課題の方向性、現時点で目指すべき将来像を提出し、その内容を踏まえ、履修指導アドバイザーが所見を提示した上で面談により、課題（学びの計画書Ⅰにおいては、課題の方向性）に応じた履修計画をまとめることとしている。特に、学びの計画書Ⅱ策定時には、課題や将来像に応じた、インターンシップや留学先となる機関、実施時期等についても設定する等、将来を見据えた履修計画を策定する。さらに、その内容に不備等がないか教務・学生生活委員会の下に設置する専任教員7名程度で構成する履修計画審議会において確認し、補正が必要な場合には、それを指示する等により、教育の質を担保したオーダーメイド型の履修計画を策定する。

入学ガイダンス

本学類入学者（1年後に学類に所属する文系一括／理系一括入試入学者2名を除く計18名）を対象に、副学長、学域長、学類長がオリエンテーションを行う。ここで、2年次以降に学生自身が設定する課題を見据え、最新の見解・技術に触れるため、新しいトピックを扱った学術雑誌や基礎資料等について案内する等、学生個人との面談を通じて、新しいトピックを学ぶ機会を推奨する。

基盤ガイダンス

本学類だけを対象に 1 名の担当教員を配置する。本学類における履修方法や正課内外での活動を含む教務・学生生活全般にわたる指導教員とする。

融合ガイダンス

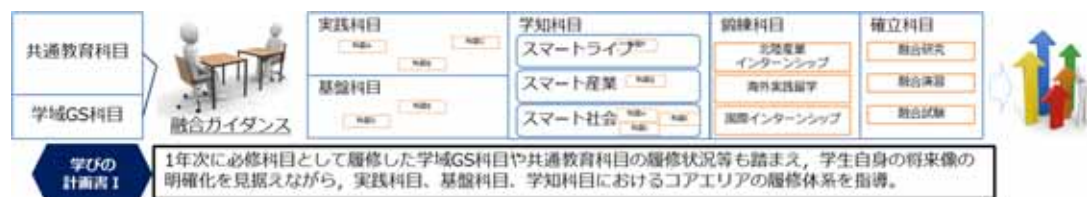
1 年次の第 4 クォーターから 2 年次の第 2 クォーターにかけ、主に基盤科目における体系的な履修に向け、各学生の共通教育科目における履修状況や学修進度等を踏まえ、オーダーメイド型の「学びの計画書 I」を作成し、学びの方向性を示す。作成にあたっては、クラス担当教員に加え、履修指導アドバイザーが参画し、学生からのヒアリングを含めて行う。これにより、学生自身の課題設定に向けた学びの体系化を担保すると共に、学生自身の将来像を明確化する道順を誘導する。

「学びの計画書 I」の記載内容は、以下のとおり。

学修履歴：これまでに履修した選択科目の授業名及び成績、学修ポートフォリオ（情報・知識の獲得、知識の表出・創造、自己の目標に対する達成度、他者との協働等）等

学びの方向性：未来課題の方向性、進路及び将来像、履修計画の概要の各項目について学生の希望、履修指導アドバイザー等の所見、合意内容、履修指導の経過・関与者（責任者）名（クラス担任、責任教員、履修指導アドバイザー）・指導内容の概要 等

具体的な履修計画：実践科目、基盤科目、学知科目等の選択科目名、学修分野の分布等



探求ガイダンス

2 年次の第 4 クォーターから 3 年次の第 1 クォーターにかけ、コアエリアにおける各学生の履修状況や学修進度、未来課題設定に向けた方向性等を踏まえ、主に 3 年次における「学知科目」や「鍛練科目」の履修に向けた「学びの計画書 II」を作成する。作成にあたっては、担当する専任教員及び履修・指導アドバイザーが、学生からのヒアリングを含めて指導を行う。「学びの計画書 II」については、必要に応じ、他学類開講科目の履修や、新たな分野の基礎的な知見を養うバックキャスト学修等を視野に入れながら作成し、

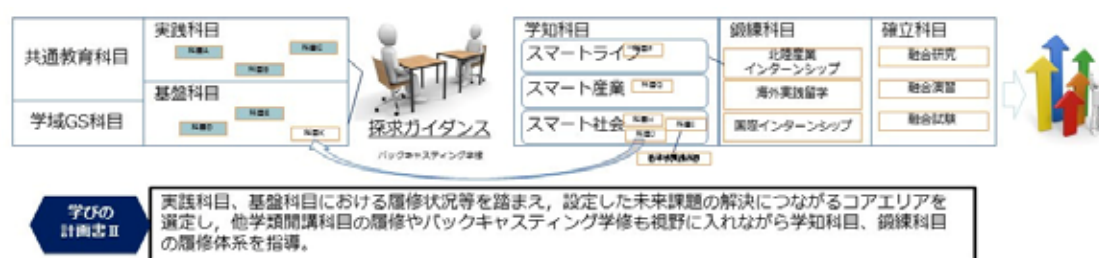
取り組む課題が長期的な展望に立ち、大学院での専門的知見が必要であると判断される場合は、確立科目において「融合試験」を選択することを見据え、補遺的な授業科目（6単位）の履修を計画する。これにより、課題解決に必要な核となる知見を深化させると共に、附帯する多様な分野の学びの体系化を担保する。

「学びの計画書Ⅱ」の記載内容は、以下のとおり。

学修履歴：これまでに履修した選択科目の授業名及び成績，学修ポートフォリオ（情報・知識の獲得，知識の表出・創造，自己の目標に対する達成度，他者との協働等），学修分野の分布 等

設定課題：課題，進路および将来像，履修計画の概要の各項目について学生の希望，履修指導アドバイザー等の所見，合意内容，履修指導の経過・関与者（責任者）名（指導教員，履修指導アドバイザー（増員者の時期を含む），海外派遣コーディネーター）・指導内容の概要 等

具体的な履修計画：学知科目等の選択科目名，鍛練科目（北陸産業インターンシップⅠ・Ⅱ，海外実践留学，国際インターンシップ等）での実習予定機関・時期，学修分野の分布 等

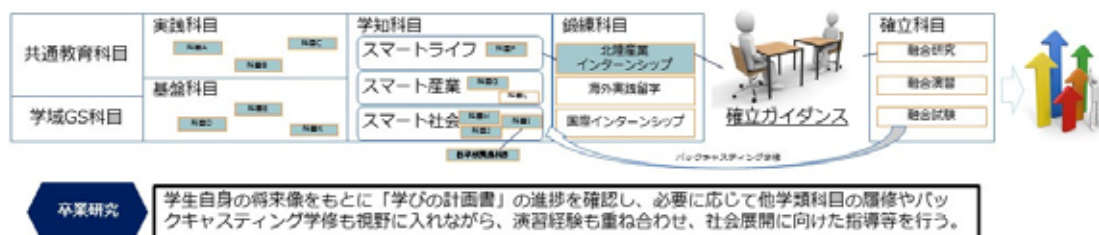


確立ガイダンス

3年次の第4クォーターから4年次の第2クォーターにかけて、専任教員が「学びの計画書Ⅰ・Ⅱ」の進捗を確認すると共に、必要に応じてバックキャスト学修や他学類開講科目の履修を指導する。さらに、学生の卒業研究・演習に関し、担当する専任教員とは異なる分野の専門家や企業家からの指導を受けるよう指導する。異なる分野の専門家や企業家による指導を持続的に行うため、令和3年10月に設立した産学官金連携プラットフォームである「北陸未来共創フォーラム」（参加企業・自治体 約140団体）や、これまでも本学の産学連携等に関して組織的な連携を行ってきた「金沢大学産学連携協力会」（加盟企業106社）、産学連携、インターンシップ等の教育支援、共同プロジェクトの展開等の連携を行ってきた「北陸経済連合会」等と組織的に連携し、必要な分野の実務者や有識者等を確保する。特に学生が設定する課題が多種多様であることから、一定期間ごとに、想定される必要な分野における実務内容や有識者に提供してもらう内容を想定し整理した上で、関係する機関において、提供可能な内容と実務者、企業家、専門家をリストアップ

いただき、人材バンクを構築する。

また、異なる分野の専門家や企業家による指導の質を担保するため、人材バンクに登録している者を定期的に更新するとともに、従事している業務内容やその他の実績を調査しつつ、課題に応じたマッチングを行う。企業家から実践的な指導を受けるに際しても、本学類の専任教員に加え、本学の専門分野の教員が指導内容や指導時に使用する資料等を事前に確認した上で参画することにより、指導の質を担保する。



なお、学びの計画書 I を作成する以前に履修する 1 年次の履修科目は、主として共通教育科目であり、その構成は、導入科目、GS 科目（人間力と国際通用性を持つ金沢大学ブランド人材が備える素養の涵養を目指す科目群）、言語科目、基礎科目等で構成され、いずれの科目もいわゆる一般教養に関する科目となっている。これは、養成する人材像に鑑み、専門基礎科目や専門科目を履修する前段階として、教養的素養を身に付けるためのものであり、この科目群の配置を含め、4 年間の体系的な学びを構築している。

本学における共通教育科目のうち、主となる科目については、これまで、数千の科目から学生が選択する仕組みであったものを、備える素養を 6 つに明確化した上で GS 科目として 31 科目に集約し、各素養に応じ 4~6 科目からなる 5 つの科目群から各 2 単位、STEAM 教育等を含む 6 群から 3 単位含む計 15 単位を修得する仕組みであり、いずれの科目を選択しても、設定した素養を獲得することが可能となっている。また、導入科目は、全て必修であり、言語科目は、基本的に第一言語を英語とした上で、多言語も学ぶことができる仕組みとしている。基礎科目は、数学、物理学、化学から 8 単位の選択必修である。

このような科目構成であることから、1 年次の科目選択において特別な履修指導を要するものではないが、入学時のガイダンス等により、早期から将来像や設定する課題を意識させた上で、クラス担任やアカデミック・アドバイザー等を中心に、学生の学びに応じた履修指導を行う。

特に、1 年次の学生は、大学生活に不慣れな状況下で科目選択を行うこととなるため、そのサポートとして、入学時のガイダンスやクラス担任、アカデミック・アドバイザー等による逐次指導に加え、共通教育科目履修ガイダンスのオンデマンド配信、Web による履修ガイダンス資料の公開、共通教育科目履修案内の作成・配布等、必要に応じた情報を必要な時に得ることができる仕組みを構築している。

⑤-2 教育方法に関する基本的な考え方

本学類においては、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材の養成を目的としている。そのため、1年次後半から2年次にかけて、アントレプレナーシップの涵養やプログラミング、Webサイト構築、アプリ開発、各種調査、データ分析等の演習科目により、多様なスキルを学ぶ「実践科目」、及び知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するための「基盤科目」を配置する。実践科目及び基盤科目により基礎的かつ広範的に知見、スキル等を学んだ後に、2年次後半から3年次にかけて学生の課題設定にあわせて学知科目によりその知見を深める。学知科目には、3つのコアエリアを配置し、学生はそれらを横断的に学修しながら未来の科学の創成に繋げる課程編成としている。また、その履修に当たっては、上述した通り徹底したガイダンスを行い、学生と教員等との協働によりその学びのルートを決定する。

各授業においては、当該分野における最新の見解や技術を理解することができるよう設計しており、その内容に応じ、テキストや参考資料として、新しいトピックを扱った図書や基礎資料をシラバスにも明記している。

なお、本学類においては、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材の養成を目指しており、就職先としては技術創発により人々の活動範囲の変革を行うデジタルイノベーター、高い創造性と学術をもって機能革新を行う企業内開発者・テクノロジスト、グローバルな科学の進展を理解し人間中心の未来社会を拡充し続けるシステム制度設計者・エバンジェリスト、農林水産業を含む全業界からスマート・リージョンを推進する地方創生者・アーキテクト等を想定しており、併せて学びの深度や進度に応じ、大学院へ進学した後にこれらの職に就くことも想定している。なお、進学先としては、初年度入学者の卒業時期に合わせて大学院の設置を視野に入れるとともに、本学の新学術創成研究科、人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科等も想定している。

また、本学類においては、社会の変容や科学の進展をより理解し、実践的な能力を身に付けることができるよう、授業内容を構成している。例えば、アプリにおける画像認識の導入にあたっては、技術的な理論に関する理解も必要となることから、「画像認識と機械学習」で画像認識や機械学習の理論や利用例を学修するとともに、他学類の画像処理技術に関する科目を履修することで、高度な画像処理技術の開発に際して必要な知見を得ることができる。

なお、学生の十分な学修時間を確保し、単位の実質化を図るため、履修科目の年間登録上限（CAP制）を設定し、1クォーターあたり12単位（年間48単位）とする。

3 年次編入学者に対する教育・指導方法

本学類の人材養成目的に鑑み、3 年次編入学者については定員を 20 名とする。編入学に際しては、1～2 年次に学ぶ内容に準じた基礎的な学力・能力が備わっているかを入学者選抜において評価し、編入学後は、既修得単位による共通教育科目の一括認定を行うとともに、専門教育科目の一部の単位認定を行う。

未来の科学技術の開発・活用を行う人材を養成するためには、学生自身が解決を見据える未来課題にあわせ、多面的な知識やスキルを修得するとともに、アントレプレナーシップに係る知見を醸成する必要があることから、専門教育科目における単位認定については、本学類が必修科目としている「アントレプレナー基礎」等の科目を対象から除外し、その上限を 24 単位とする。

なお、養成する人材像に鑑み、学ぶべき分野が多岐にわたることから、3 年次編入学者のこれまでの学修だけでは不足している専門知識や分野がある場合、他学類の科目の履修も含め早期に必要な科目を履修することとする。さらに、確立科目の選択必修科目である融合研究、融合演習、融合試験については、いずれも多様な形態での学修となることに鑑み、履修登録許可単位数の上限（CAP）から除外しつつも、予習、復習の授業外学修の時間を確保する等、適切な履修を行う体制を整えている。

本学類においては、「学びの計画書」の作成・実行により教育の質を担保する仕組みとなっており、3 年次編入学者に対しては、探求ガイダンスにおいて編入学試験時において提出する志望理由書等の内容を踏まえた「学びの計画書Ⅱ」を作成することとしている。その作成にあたっては、指導教員や履修指導アドバイザーにより、編入学前の学修内容・修得単位数を示す、成績証明書やシラバス、使用したテキストなど学修内容の詳細が分かる資料をもとに、学生のこれまでの学修内容を把握した上で、課題設定や海外インターシップ先を含めた今後の履修計画を策定する。

なお、3 年次編入学者における履修モデルは【資料 3-4】のとおりである。

厳格な成績評価

本学は「厳格・公正な成績評価の基本方針（平成 30 年 12 月 21 日 教育研究評議会決定）」に基づいた成績評価を行っており、本学類においてもこの方針に基づいた成績評価を行う。

- (1) 本学類が開講する科目について、科目ごとに絶対評価基準を定めた「科目ルーブリック」を作成し、シラバスに掲載。当該科目で修めるべき成果を、評価に直結する形で可視化する。
- (2) 評価の妥当性を客観的に確認するため、「原則として全教員が全教員の成績評価を知る」ことが出来るよう、「成績分布公開システム」を作成し、導入する。例えば成績分布に著しい偏りがあれば、「当該科目で修めるべき成果」がルーブリック上で正しく設定されていない、等の原因によるものであるため、その改善に努める。

- (3) 学修者に対しては、「学修ポートフォリオ」を導入し、授業で提出したレポートの成果や各科目の成績等を集約する。自身の学修状況を記録することで、達成したこと、未達成であることを視覚的に確認でき、それに対する指導教員からのコメント等の入力も可能としている。

これらは全て Web 上で行う事ができ、(1)～(3)を相互に連携させて活用することにより、学修状況を多面的に把握することが可能である。なお、本学類において指導教員漸次増員制度を導入するが、本システムを用いることにより、詳細な情報共有を行う。

⑤-3 卒業要件

以下の要件を満たし、合計 124 単位以上を修得した者。

- ・ 共通教育科目において導入科目から 3 単位、GS 科目に配置する 1 群から 5 群の各群から 2 単位以上、6 群から 3 単位を含む計 15 単位、GS 言語科目から 8 単位（日本人学生の場合は日本語を除く必修 8 単位、留学生の場合は日本語の必修 2 単位を含む 8 単位）、基礎科目から 8 単位を含め、計 36 単位以上を修得。
- ・ 専門教育科目において学域 GS 科目 6 単位、学域 GS 言語科目 2 単位、実践科目から必修 5 単位を含め 13 単位、基盤科目から必修 4 単位を含め 19 単位、学知科目から 26 単位（同一のコアエリアから 13 単位以上、かつ、残る 2 コアエリアから各 1 単位以上を含む）、鍛練科目から必修 1 単位を含め 4 単位、確立科目から 8 単位を含め、計 88 単位以上（融合試験履修者は 94 単位以上）を修得。

⑤-4 履修モデル

各コアエリアに対応した履修モデル及び 3 年次編入学生の履修モデルは、【資料 3】のとおりである。（再掲）

⑥ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

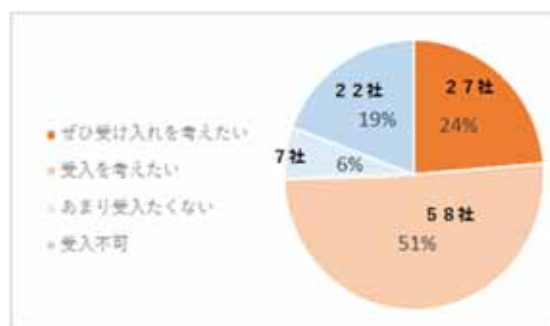
本学類においては、多様な機関と協働した教育プログラムを構築するため、学修段階に応じたインターンシップ、留学等の実習を教育課程に組み込んでいる。具体的には、3年次には、国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために、「鍛練科目」を科目区分として設け、北陸にある企業等での就業実践を行う「北陸産業インターンシップⅠ」を必修科目として開講する。加えて、「北陸産業インターンシップⅠ」に引き続き、長期のインターンシップを行う学生には、「北陸産業インターンシップⅡ」を開講する。また、「海外実践留学」及び「国際インターンシップ」を設け、それぞれ海外大学等への短期留学又は国際企業や国際機関でのインターンシップを行う。この鍛練科目から、4単位の修得を卒業要件とする。また、4年次に開講する確立科目のうち、「融合演習」では、インターンシップを行う。なお、特に、鍛練科目の履修時期にあたる、3年次における必修科目は2科目にとどめることで、インターンシップ及び海外留学を短期、長期を問わず実施できる開講編成としている。

《インターンシップ》

本学における主に国内のインターンシップは、キャリア支援室が担っている。インターンシップ開始前にキャリア支援室が主催する「インターンシップガイダンス」等を受講するとともに、「インターンシップ届出書兼誓約書」の提出と災害傷害・賠償責任保険への加入を義務付けている。

また、本学類の設置を構想するにあたり、本学と求人・求職において関連する企業等114社にアンケートを行ったところ、75%の企業が受入れに前向きな回答を得た。

さらに、「北陸未来共創フォーラム」の人材育成・地元定着に関する分科会等の場を活用し、新たなインターンシップ受け入れ先を開拓できる仕組みを担保している。



・「北陸産業インターンシップⅠ・Ⅱ」（鍛練科目）

派遣先：北陸銀行や三谷産業（株）等の金沢大学産学連携協力会や北陸未来共創フォーラム参加企業をはじめ、本学のインターンシップ受入実績のある北陸の企業、自治体、NPO法人等から、科目担当教員と相談しながら、派遣先を決定する。

目的及び概要：学生自身が設定した課題に対する成果について、北陸の産業界等での取組

を通じ、実際の社会への展開法を立案する。アプローチや取組形態は問わないが、受入組織と履修者の間で取組課題が明確であり、学修内容及び到達度評価等が明確であることを必須とする。学生は教員に対し、本授業科目履修前に本学が課す書類を提出する。また実施後には、本学が定める実施報告書、日誌等を提出すると共に評価試験を課す。これにより、産業団体等の実態を理解すること、目的意識を持つこと、受入組織との取組を振り返り、自己評価できることを目標とする。

履修年次 : 3年次

・「融合演習」(確立科目)

派遣先 : 学生自身の課題の方向性と照らし合わせて、スマート技術による業務の改善DX、事業展開、技術開発等を行っている、国内企業、NPO、各種団体や、地域政策の企画立案を行う地方自治体等を派遣先とする。例えば、次のような派遣先を予定している。

- ・ E I Z O (石川県白山市)
- ・ NEC ソリューションイノベータ北陸支社 (旧 北陸日本電気ソフトウェア) (石川県金沢市)
- ・ 中村留精密工業 (石川県白山市)
- ・ P F U (石川県かほく市)
- ・ 旧富士通北陸システムズ (石川県金沢市 ※現在は富士通に統合)
- ・ イオンアグリ創造 (千葉県千葉市)
- ・ 小松製作所 (東京都港区)
- ・ 北陸電力 (富山県富山市)
- ・ 北國銀行 (石川県金沢市)

目的及び概要 : 学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取組を通じ、実際の社会への展開法を立案する。学生自身が設定した課題に対する成果について、産業界等での取組みを通じ、実際の社会への展開法を立案する。その形態は、インターンシップ先を始めとする企業等において業務の改善や事業展開に関与する実践的アントレプレナー演習のほか、自ら起業する際の設計や実践的な課題研究等を含む。なお、成績評価にあたり、演習等のプロセスシート、及び長期的かつ高度なインターンシップ先からの評価シート等を基にした審査会を開催する。

履修年次 : 4年次

《海外派遣》

本学の海外留学等については、国際部を中心とした全学体制による事前教育から始まる。毎年6月～7月、10～11月にかけて年2回行われる全学の「危機管理オリエンテーション」により、派遣先の国情理解、情報収集の徹底、予防接種等の案内が行われ、海外における危機管理の重要性について理解する。派遣開始前には大学に対する渡航届提出や海外旅行保険、危機管理サービスへの加入を義務付けており、渡航中の大学との連絡体制や、指導教員、担当教員との相談体制を構築する。

本学類においては「海外実践留学」、「国際インターンシップ」を選択必修として配置し、事前講義を行い、海外留学又はインターンシップにおける目的等の徹底を行うとともに、海外実習中であっても、オンラインで指導教員に相談できる体制を構築する。また、海外派遣後には、その研修内容の報告会を行うとともに、大学へ帰国届を提出する。

・「海外実践留学」(鍛練科目)

派遣先 : 履修モデルに掲げたアールト大学(フィンランド)等をはじめとする協定校を中心に、課題特性に応じて履修指導の中で決定する。

目的及び概要 : 国際的かつ俯瞰的な視野を獲得し、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学生が計画したプログラムに加え、学生自身の興味関心や研究分野に関連した留学目的を自ら設定し、短期留学を実施する。英語によるコミュニケーションの向上を図るほか、授業やワークショップ、現地の学生とのディスカッション、教員からの指導を受けることにより自身の課題に対する理解を深める学修を実践する。授業は必要に応じて英語で実施する。自国の文化を伝え、文化の違いを受け入れること、新しい環境に適応し、課題に取り組むこと、多様な人々と交流することを目標とする。

・「国際インターンシップ」(鍛練科目)

派遣先 : シリコンバレー事務所等本学の海外事務所と連携する現地企業、金沢大学産学連携協力会や北陸未来共創フォーラム参加企業の海外連携企業・海外支店等をはじめ、「北陸産業インターンシップ」におけるインターンシップ先の海外連携企業・海外支店等を中心に、課題特性に応じて履修指導の中で決定する。

目的及び概要 : 国内外を通じた地域の文化と先端的な取組の融合を、国際水準で理解することで、グローバル人材としての素地を身に付けるため、国際的知見の豊かな教員の指導の下、学類が整備した派遣先だけでなく、学生自身の興味関心や研究分野に関連した企業や機関を自ら探索し、国際インターンシップを実施する。国際インターンシップ先の情報収集や応募書類の書き方、目標設定など実践的な教育効果も重視する。国際企業や国際機関の実態及

び課題を理解し、課題解決法を考えること、明確な目的意識を持ち、具体的な計画を立てること、国際インターンシップを振り返り、自己評価し、改善実践結果を提示することを目標とする。

「海外実践留学」及び「国際インターンシップ」を行うにあたっては、全学の海外留学や海外インターンシップの窓口となる国際機構及び国際部の指導の下に行う。ただし、その留学先の選定にあたっては、本学類が学生個人の定める課題解決に向けたオーダーメイドの教育を行うことに鑑み、「学びの計画書Ⅱ」の中において指導教員、履修指導アドバイザーや科目担当教員に加え、学類独自に雇用する海外派遣コーディネーター等も参画して決定する。

留学先は、例えばデジタル技術とスマートシティ先進事例に関する留学であれば上述したアールト大学（フィンランド）の他、バルセロナ自治大学（スペイン）や ICT 関連のスピノフ企業を有するゲント大学（ベルギー）をはじめとする本学の海外協定校（291 機関（47 各国・1 地域））等を中心に、学生本人の課題の方向性に沿って決定する。また、国際インターンシップについては、本学が提供するインターンシッププログラムのほか、例えば将来の起業に向けたインターンシップであれば、シリコンバレー事務所と連携する現地企業、国際的な健康福祉システムを実践的に学びたい場合には WHO、地方自治体における海外の先進的な事例を学びたい場合には、金沢市と協定を締結しているゲント市（ベルギー）等の海外地方自治体において実施する。さらに金沢大学産学連携協力会、北陸未来共創フォーラム、北陸経済連合会等に参加する企業の海外事務所や海外連携企業等、多様な業種におけるインターンシップを実現させる。

また、3 年次編入学者についても、編入学直後において自身の未来課題の設定と将来像等を確認し、それに向けて同様の教育体制をとり、編入学ガイダンスや探求ガイダンス等を通じて、その海外実習先を決定する。ただし、社会人特別選抜により、企業からの派遣により編入学する社会人学生に対しては、その教育効果や教育的な負担を考慮し、自社における国際担当部署での研修を国際インターンシップに代えることも認める。

ただし、昨今のコロナ禍に見られるとおり、海外における実習が困難となる場合も当然想定される。その際は、金沢大学産学連携協力会等の会員企業のうち海外との取引を行っている企業や海外に支店等がある企業、外国企業・多国籍企業、海外の機関、海外との連携活動を行っている機関等から、指導教員の指導により、学生が設定した課題に応じた組織を選定し、国内での国際活動関連部署等における現地実習や海外とのオンライン実習等を行う。また、実習においては、外国人実務者や海外在留の実務者、海外との取引等を行う部署の実務者、外国人研究者等とともに設定した課題に係る現状理解、解決仮説の検証、その他に考えられる手法等の検討等を行い、海外での現地実習と同等の知見を修得させる。

危機管理体制等

本学類においては、前述した海外インターンシップ・海外留学を正課の授業として海外研修を行うことに鑑み、学生の経済的負担を軽減するため、「トビタテ留学 JAPAN」等の公的な派遣資金を推奨することに加え、本学独自のサポートとして金沢大学基金を用いた援助や企業等と連携した支援を行う。本学においては、スーパーグローバル大学創成支援の採択を機に、学生の海外派遣を推進しており、コロナ禍前の令和元年度においては、海外派遣による単位修得者は645名にのぼり、そのうち、金沢大学基金により563名へ支援している。また、海外の金融機関をインターンシップ先とする場合、これまでも北陸銀行や北國銀行と連携し、同行の海外支店を活用するとともに、滞在期間における支援も得ている。なお、海外渡航費用においては、渡航先や期間により差異はあるが、これまでの実績からアジア圏で約20万円程度、ヨーロッパ圏で約40万円程度の費用を要しており、本学の基金からは、他の学類学生と同様に、月額10万円程度を支援することとしている。

渡航するにあたり、必要となるビザ及び電子渡航認証の申請については、学生が主体的に行うことを基本とするが、必要に応じて、科目担当教員等がサポートを行う。渡航及び滞在先に係る手続きについては、学生の申請を科目担当教員がとりまとめて完了させる。派遣中は学生と科目担当教員等との密な連絡指導を通じ、学生の状況について学業面だけでなく安全・健康状況についても把握し、問題を未然に防ぐ。なお、万が一問題が発生した場合、科目担当教員は、必要に応じて派遣先大学のスタッフと連携して迅速に対応する。

また、科目担当教員のみならず、大学として学生の安全管理体制を確立するため、国際機構が事前指導として、派遣先の国情理解、情報収集の徹底、予防接種等の案内、健康管理の方法、危機発生時の連絡体制と基本的対処・対応等について情報提供を行い、指示・指導を徹底する。さらに学生は、本学が指定する海外危機管理サービスへの登録や海外旅行保険への登録等を遺漏なく行うとともに、海外渡航届を提出させ、研修中の連絡体制を構築する。また、有事の際は、本学における規程やマニュアル等に従い、即時に危機管理対応を図り、併せて、学生の受入機関、在外公館、その他関係機関等の協力を得ながら必要な対応を図る。

成績評価体制及び単位認定方法

前述の科目については、報告会を開催し、報告会におけるプレゼンテーション（40%）、報告の内容に関する評価（30%）、演習における貢献度（30%）を総合的に評価する。

その他特記事項

- 留学生が国際インターンシップ及び海外留学を行う場合、自国への留学等は原則として認めない。
- 社会人学生が国際インターンシップを行う場合、自身の所属している企業が海外展開をしている場合は、当該企業の国際担当部署へのインターンシップをもってこれに代えることも認める。

○本学は全学生に対して入学・編入学時に災害傷害及び賠償責任保険への加入を義務付けており、それに加えて旅行保険等への加入も指導する。

⑦ 入学者選抜の概要

⑦-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

あらゆる意味で社会が変容し、従来の知識、制度、方法等が国力の維持や強化に耐えられなくなりつつある。多様な脅威にさらされるこれからの社会では、人文・社会・自然等の科学分野を往還し、融合的な学知と他者との共創を通じて、社会の各界で『未踏のイノベーションの創成をリードする中核的リーダー』となる人材が不可欠である。

そこで、学類の目的を見据え、卒業時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を修得できる資質を有し、次のような意欲ある入学者を求める。

- ・ 様々な分野の知識を学び、それらを統合して課題発見・解決を率先したい人
- ・ 多様な制度・慣習等に知的関心を有し、より良い未来社会づくりに貢献したい人
- ・ 最先端の学知を連携・融合し、未来に資する新たな科学創成に挑戦したい人

なお、入学までに様々な教科・科目について偏りなく学習し、到達度を高めておくことが必要である。また、上記のいずれかの意欲を有した社会人や卒業後、地域定着を希望する留学生等も受け入れる。

⑦-2 選抜の方法・体制・基準

本学類においては、留学生や社会人を含めたダイバーシティ環境の下でグループワークを行い、多様な背景を持つ他者との共創を通じた人材の養成を行うものである。本学の入試は、平成 30 年度入試より導入されたレイトスペシャリゼーションを可能とする文系一括、理系一括入試を含めた一般選抜の他、令和 3 年度より導入した KUGS 特別入試や超然特別入試等、主体性を重んじ、多様性を確保する入試形態をとっており、それらの入試制度を活用しながら、アドミッション・ポリシーに基づき、学生を受け入れる。なお、入学時期はいずれの入試形態においても 4 月とする。

学類名称	入学定員	3 年次編入学定員	収容定員
スマート創成 科学類	20 名 (うち留学生若干名) (うち社会人若干名)	20 名 (うち留学生・社会人 若干名)	120 名

【一般選抜】

一般選抜においては、文系・理系を問わずイノベーションの創成に挑戦したい学生を受け入れるため、文系傾斜、理系傾斜の入試形態を設けるほか、全学で実施している文系一括入試、理系一括入試を活用する。

文系傾斜では、主として高校で文系の学習をした者を対象に 6 名程度を想定しており、共通テストにおいて 5 教科又は 6 教科を課し、基礎学力を問うとともに、個別学力検査においては外国語・数学・国語又は総合問題を必須とし、国語又は総合問題と外国語については得点を比較して高い方の満点を 250 点、低い方の満点を 200 点として換算する。また、理系傾斜では、主として高校で理系の学習をした者を対象に 12 名程度を想定しており、共通テストにおいて 5 教科を課し、基礎学力を問うとともに、個別学力検査においては数学、理科、外国語を必須として課す。

文系一括では、主として高校で文系の学習をした者を対象に 1 名程度を想定しており、基礎学力に加え、英語の学力と総合的な課題（総合問題）の理解力・論理的思考力・表現力等を、理系一括では、主として高校で理系の学習をした者を対象に 1 名程度を想定しており、数学及び英語の基礎学力に加え、物理又は化学の学力をそれぞれ重視し、本学での学修に必要な基礎学力を問うとともに、国際基幹教育院総合教育部に 1 年間所属し、2 年進級時に本人の志望や学業成績等を考慮の上、移行学類を決定する。

【特別選抜】

特別選抜については、本学が行う多様な入試形態を活用しながら、多様な背景を持つ他者との共創やグローバルな観点で課題探求に取り組む姿勢や思考及び基礎的な知見を確認する。

(i) KUGS 特別入試（募集人員：若干名）

「基礎的知識・技能を修得し、それらを活用して自ら課題を発見し、探究する能力を備えている人」、「将来に明確な目標を持っており、主体的に行動し、他者と協働しながら、自身の夢を実現しようとする強い意欲を持っている人」を受け入れて育成するために、口述試験や小論文により、志願者の能力・資質・意欲を多面的・総合的に評価する。本学の特別プログラムを受講し、大学での学び、高校での学びについてレポートを提出し、KUGS に基づく評価基準で評価を受け、基準を満たした場合又は国立研究開発法人科学技術振興機構のグローバルサイエンスキャンパス事業の第一段階を修了した場合に出願資格を与える。主として高校生を対象としており、その規模は若干名を想定している。

(ii) 超然特別入試（募集人員：若干名）

「①数学的に特異な才能を持ち、その才能を生かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人」又は「②文学的に特異な才能を持ち、その才能を活かして将来専門的分野で社会的な課題の解決に取り組む強い意欲を持っている人」を受け入れて育成するために、口述試験や小論文により、志願者の能力・資質・意欲を多面的・総合的に評価する。本学が開催する、主として高校生を対象とし

た「日本数学 A-lympiad」又は「超然文学賞」に応募し、指定する入賞実績を上げた場合に出願資格を与える。

(iii) 在外留学生推薦入試（募集人員：若干名）

英語外部試験（ケンブリッジ英語検定（リングスキル含む）、IELTS、TOEFL iBT のいずれか）の成績、推薦書、志願理由書の評価及びそれを参考にした口述試験（プレゼンテーションを含む。）で「知識・技能」「主体性・協働性」を評価して、総合的に選抜を行う。口述試験（プレゼンテーションを含む。）は英語による受験を認め、日本語能力は必須としない。また、状況に応じ Web コミュニケーションツール等を活用する。

なお、本学との国際交流協定締結校等による推薦書を必要とする。

(iv) 私費外国人留学生入試（募集人員：若干名）

私費外国人留学生入試では、日本留学試験及び英語外部試験（ケンブリッジ英語検定（リングスキル含む）、IELTS、TOEFL iBT のいずれか）を課し、基礎学力を重視する。日本留学試験は、出題言語を英語とすることも認め、日本語能力は必須としない。更に口述試験（プレゼンテーションを含む）を課し、コミュニケーション能力、志向・意欲・学力を、多面的・総合的に評価する。

(v) 社会人入試（募集人員：若干名）

大学入学資格を有する社会人で、社会人経験を3年以上有し、入学年度の4月1日時点で満21歳以上の者を対象とした選抜を行う。大学入学共通テストは課さず、選抜は小論文、口述試験（プレゼンテーションを含む。）の結果、調査書及び志願理由書により総合的に行う。

なお、このほか、本学において実施する多様な入試制度を活用し、帰国生徒選抜、国際バカロレア入試を実施する。いずれの入試においても基礎学力を重視するとともに、口述試験（プレゼンテーションを含む。）を含めて行うこととしており、その規模は若干名を想定している。

上述した入試の中で行う小論文や口述試験（プレゼンテーションを含む。）を通じ、本学類のアドミッション・ポリシーに係る素養、すなわち、アントレプレナーシップにも直結する、課題解決やイノベーションを主体的に、率先して実現させようとする意欲を確認する。

【3 年次編入学】

(i) 一般選抜

高専・短大卒業者を中心に、学士の学位を有する者も対象として 3 年次編入学の選抜を行う。選抜は、自身のこれまでの学修履歴等から解決を見据える未来課題について記述した小論文、及び口述試験により、本学類の 1～2 年次に学ぶ内容に準じた基礎的な学力・能力が備わっているかを確認するとともに、志望理由書等により総合的に行う。

(ii) 外国人留学生選抜（募集人員：社会人選抜と合わせ若干名）

大学編入学の資格及び留学の在留資格を有する者（いずれも取得見込者を含む。）を対象として、本学が指定する外部試験の成績、自身のこれまでの学修履歴等から解決を見据える未来課題について記述した小論文、及び口述試験により、本学類の 1～2 年次に学ぶ内容に準じた基礎的な学力・能力が備わっているかを確認するとともに、志望理由書等により総合的に選抜を行う。

なお、選抜に用いる言語は日本語とするが、志願者の希望により英語でも対応する（ただし、外国人留学生地域定着プログラム希望者は日本語指定）。

(iii) 社会人選抜（募集人員：外国人留学生選抜と合わせ若干名）

大学編入学の資格を有する社会人（学士の学位を有する者を含む。）を対象として選抜を行う。選抜は、自身のこれまでの学修履歴や就業経験等から解決を見据える未来課題について記述した小論文、及び口述試験（プレゼンテーションを含む。）により、本学類の 1～2 年次に学ぶ内容に準じた基礎的な学力・能力が備わっているかを確認するとともに、志望理由書等により総合的に行う。

なお、現在職業を有しており、勤務先から派遣されて本学類へ編入学し、卒業後には継続して勤務する社会人については、編入学ガイダンス等において就業状況や勤務先との連携体制の有無を把握し、その状況を踏まえた履修指導を行う。

⑦-3 出願資格

出願資格については、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）、学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）、その他関係する法令等及び告示等に基づき、定めるものとする。なお、関係法令等が改正された場合には、速やかに修正を行う。

⑧ 教員組織の編成の考え方及び特色

⑧-1 教員組織の編成と基本的考え方及び特色

本学類は、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を目指していく。そのために、数理・データサイエンス・AI、人間拡張技術、仮想現実、自動運転、予測シミュレーション、ブロックチェーンなどの技術の自然科学的アプローチ、地域における産業構造、金融工学、ファイナンス、社会学、経営学をはじめ、アントレプレナーシップの醸成に向けた社会学等の多様なアプローチ等を有機的に連携させながら、異分野融合型の教育を行うことを基軸としている。そうした教育を行うに当たり、既存の人間社会学域、理工学域、医薬保健学域をはじめとする本学の学域における教育の知を結集し、全学を挙げて行うものである。

本学類の専門性を踏まえ教員組織の編成にあたっては、スマート技術、データサイエンス、社会学を専門とする教員を中心に、21名の専任教員を配置する。本学類の養成する人材像を踏まえ、人工知能、制御理論、計測技術、自動運転技術、先端設計・加工技術等を専門とする教員を10名、医療・医療診断技術を専門とする教員を2名、社会学・まちづくり・経営学・経済分析・思考法を専門とする教員を9名とするなど、多様な分野に渡る教員を配置し編成する。

なお、上記21名の専任教員の中には、工学、社会学、経営学、地域科学、医学を専門とする教員を含んでおり、文理融合型のスマート創成科学教育に必要な教員体制を編成している。

また、本学類においては、養成する人材像に鑑み、留学生や社会人等を受け入れることとしており、その結果として、グローバルな観点で課題探求に取り組むことのできるダイバーシティ教育環境が構築される。さらに、地域での課題解決プロジェクトへの参画や国内外でのインターンシップ等の科目を多数配置すると共に、学生の設定する課題と将来像を見据えてオーダーメイド型の学びの計画書を作成する等、教員に係る負担が増大することとなる。

そこで、専任教員を中心とした履修指導教員を配置するとともに、学生が設定する課題に応じた専任教員以外の教員やUEA、アカデミック・アドバイザー、教務系専任事務職員を履修指導アドバイザーとして配置し、学生の学修の深度に応じ、漸次増加させる体制を構築し、さらに、学外派遣コーディネーター、キャリア・就職指導員を本学類の専属として配置することにより、教員の負担軽減を図る。また、一人の教員が多数の学生の履修指導アドバイザーにならないよう配置する。さらに、一人の学生に対し、複数のアドバイザー等を配置することで学生に対して正課内外を問わず指導・支援を行う体制を構築する。

⑧-2 教員の年齢構成

本学類の教育課程を担当する専任教員 21 名の内訳は、令和 5 年 4 月の開設時において教授 11 名、准教授 4 名、講師 3 名、助教 3 名である。1 名を除く全ての専任教員が博士の学位を有している。その内訳は、博士（工学）の者が 10 名、博士（学術）又は学術博士の者が 3 名、博士（文学）の者が 1 名、博士（情報科学）の者が 1 名、博士（医学）の者が 1 名、博士（保健学）の者が 1 名、博士（経済学）の者が 1 名、博士（マネジメント）の者が 1 名、博士（社会福祉学）の者が 1 名である。また、現在博士の学位を取得していない教員 1 名も、現在博士後期課程在籍中であり、本学類設置までには博士の学位を取得する見込みである。年齢構成については、学年進行完成年度末時点で 30 歳代 2 名、40 歳代 8 名、50 歳代 3 名、60 歳代以上 8 名であり、教育研究水準の維持向上及び活性化に相応しく、バランスのとれた構成となっている。

また、本学における教員の定年年齢は、国立大学法人金沢大学職員就業規則において 65 歳と規定されている。（【資料 5】参照）

⑨ 施設、設備等の整備計画

⑨-1 校地、運動場の整備計画

本学類の教育・研究については、金沢大学角間キャンパスにおいて実施する。全学類学生が履修する共通教育科目や、既存の融合学域、人間社会学域、理工学域及び医薬保健学域の専門教育科目の授業科目を実施しており、教養教育から専門教育までの一貫した教育が可能である。

角間キャンパス内には、学生が休息するためのスペースとして、食堂、購買等の福利厚生施設や課外活動共用施設（サークル棟）が設置されているとともに、各棟にはラウンジ等の休憩スペースが整備されている。

運動場については、体育館のほか、陸上競技場、サッカー場、テニスコート、ソフトボール場、プール等、十分な施設や設備が整備されている。

⑨-2 校舎等施設の整備計画

ア 教室等

本学類の授業等に必要な講義室や演習室については、総合教育講義棟に34室、自然科学本館に32室に8室等、多数の既設の施設設備が整備されており、十分に対応可能である。加えて、自然科学系図書館棟の会議室や学術メディア創成センターの演習室等も講義室として利用することが可能となっている。

また、総合教育2号館及び自然科学2号館、3号館には各種実験室も整備されている。

なお、建物内には有線、無線のLAN環境を整備しており、常時インターネットに接続することができる（学生・留学生宿舍等を含む）。

イ 教員研究室

専任教員は自らの研究室（約20㎡～）を有し、学生の研究指導を行うには十分なスペースを確保している。

⑨-3 図書等の資料及び図書館の整備計画

ア 図書等の資料

金沢大学の全蔵書数については、図書約191万冊、雑誌等約36,000種、視聴覚資料約8,200点を数え、その内、図書については、角間キャンパスにある、中央図書館に約120万冊、自然科学系図書館に約42万冊、宝町キャンパスにある、医学図書館に約24万冊、保健学類図書館に約4万冊を所蔵している。そのほかにも、ネットワーク対応のデータベース20種や約9,900タイトルの電子ジャーナルを提供しており、これら

の電子媒体を含めた所有の蔵書を一括で検索できるよう、検索システムについても整備している（附属図書館蔵書検索 OPAC plus）。

なお、附属図書館では、金沢大学の教職員が教育・研究活動の結果として生み出した学術的な情報（コンテンツ）を電子的な形態で保存し、インターネット上で公開するシステムである金沢大学学術情報リポジトリ（KURA：Kanazawa University Repository for Academic Resources）を構築し、教育・研究成果の公開や学術情報の発信に努めている。

イ 図書館の整備

金沢大学には、角間キャンパスに中央図書館、自然科学系図書館、宝町キャンパスに医学図書館、保健学類図書館と合計4つの附属図書館を設置している。

各図書館の総建物面積は19,794 m²、総閲覧席数は2,185席を有しており、加えて中央図書館には、利用者へ知識を「伝達」することはもとより、利用者の自律的な学習によって知識の「創造」を目指すラーニングコモンズのコンセプトを導入し、ブックラウンジ（飲食も可能なコミュニケーションスペース）、インフォスクエア（PCを設置し、図書館の各種情報へのアクセスポイントとなるスペース）、コラボスタジオ（グループ討議、学習のためのスペース）をゾーニングすることにより、多様な学修形態を支援している。

⑩ 管理運営

教授会として、融合学域の教育及び管理運営に関する重要事項を審議するために融合系教育研究会議が設置されており、その下にスマート創成科学類会議を置き、同教育研究会議から付託された次の事項を審議することとしている。なお、スマート創成科学類会議は、スマート創成科学類を担当する教員をもって組織し、月1回以上開催することとしている。

【金沢大学学類規程（抜粋）】

（審議事項）

第3条 会議は、教育研究会議から付託された当該学類に係る次の事項について審議する。

- (1) 中期目標・中期計画に関する事項
- (2) 規程その他の教育に係る重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (3) 教育に係る予算の執行に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する事項
- (5) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
- (6) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (7) 教育の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
- (8) 授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事項
- (9) その他教育に関する重要事項

2 会議は、前項に定めるほか、次の事項について審議する。

- (1) 学類長の候補者の選考に関する事項
- (2) その他当該学類に関する重要事項

また、スマート創成科学類会議の下に、学類における教育全般に関する事項を審議するため、教務・学生生活委員会（仮称）を置くこととしている。同委員会は、学類長が指名するスマート創成科学類会議の委員をもって構成し、月1回程度開催し、専門教育に係る教育課程、履修等の必要な事項について審議することとしている。

⑪ 自己点検評価

⑪-1 全学的実施体制

本学では、学校教育法第109条第1項の規定に基づく自己点検・評価について、「国立大学法人金沢大学自己点検評価規程」及び「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」を定めている。

また、この自己点検評価及び認証評価並びに中期目標・中期計画等の企画立案及びそれらの目標・計画に係る評価を担当する組織として、全ての理事及び研究域長並びに各センター長の代表者等から構成する企画評価会議を設置している。

さらに、自己点検評価等の任務を円滑かつ効率的に行うため、同会議の下に企画部会、評価部会及び認証評価部会を設置している。

また、平成27年度から、地域、産業界、在学者、保護者・家族、卒業者等のステークホルダーと本学教職員が一堂に会し、本学の教育活動等に対する意見を聴取する場として「金沢大学ステークホルダー協議会」を開催している。

本学類においても、スマート創成科学類会議が主体となり、本学における自己点検・評価の実施体制に基づき、継続的に自己点検・評価を実施する体制を整えていくこととしている。

⑪-2 実施方法、結果の活用、公表及び評価項目等

本学では、「国立大学法人金沢大学における全学の自己点検評価実施要項」に基づき、「基本データ分析による自己点検評価」を毎年実施するとともに、令和2年度においては、「機関別認証評価基準による自己点検評価」を実施した。

これらの自己点検評価については、企画評価会議において、自己点検評価書（案）を作成し、教育研究評議会の議を経て、Webサイトで公表している。

また、自己点検評価の結果、改善すべき事項が認められる場合、企画評価会議議長から当該事項を所掌する理事、部局長に改善計画の提出を求めるとともに、企画評価会議において、次年度にその進捗状況を確認している。

評価の結果、改善すべき事項が認められる場合は、学長から当該事項を所掌する理事、副学長又は部局長に対し改善点等を指示するとともに、改善報告を求めることにより教育研究の水準及び質の向上に努めている。

また、平成27年度から、地域、産業界、在学者、保護者・家族、卒業者等のステークホルダーと本学教職員が一堂に会し、本学の教育活動等に対する意見を聴取する場として「金沢大学ステークホルダー協議会」を毎年開催し、そこで得られた意見を踏まえ、自己改善を行い、教育水準及び質の向上に努めている。

本学類における自己点検・評価については、大学に設置する自己点検・評価に係る組織

とも連携して実施するとともに、卒業者の社会における諸課題の解決に向けた取組等の状況について、アンケート等により、卒業者への追跡評価や、就職先からの外部評価を行い、組織活動や教育研究活動の点検と改善に取り組むこととしている。

⑫ 情報の公表

金沢大学公式 Web サイトにおいて、大学の理念と中期目標・中期計画等の大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス等の教育情報、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数等の大学の基本情報を公表している。具体的には以下のとおりである。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
- ③ 教員組織及び教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦ 校地、校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

(①～⑨に関する Web サイト)

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukukai/kyoiku>

⑩ その他

金沢大学学則等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/kiteishu/aggregate/catalog/index.htm>)

設置計画書・設置計画履行状況報告書等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/jyouhoukukai/disclosure/secchi>)

自己点検・評価等

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/evaluation>)

⑬ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

金沢大学では、教育企画会議（議長：教育担当理事）の下に、全学の FD 委員会を置き、授業の内容、方法の改善等による教育の質の向上並びに学生の心身の保護とキャリア形成を促進する等の学生支援を組織的に行えるよう体制を整備している。この FD 委員会の下、全学における FD 活動について、年度ごとに報告書を作成・公開し情報の共有にも取り組んでいる。また、令和 3 年度に本学の教学マネジメントを一元管理する「教学マネジメントセンター」を設置し、大学全体、学域・研究科等における学位プログラム及び授業科目レベルでの内部質保証システムをより強化し、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むこととしている。さらに、同センターは、令和 4 年度に、学生自身が「自ら学び、自ら育む」教育環境の構築を目的として設置した「未来創成教育環」と協働して業務を行っている。このほか、教員評価委員会において教員評価大綱を策定し、毎年、教員の業績評価を実施し、教員が自ら点検・評価を行うとともに、ピアレビュー形式での評価や、部局長・学長等による階層化された評価を行い、教員資質の維持向上を図っている。

職員研修においては、コンプライアンス研修（情報セキュリティ、研究の不正防止を含む。）や職員ビジネス英語研修、職員パソコン研修、ハラスメント防止研修、民間派遣研修、海外派遣研修等のほか、役職に応じて必要な識見を得るための階層別職員研修や、担当職務を円滑に遂行するための実務研修を実施している。また、東海・北陸・近畿地区学生指導研修会や、国立六大学事務職員研修会等に職員が参加する機会を設け、積極的な参加を奨励している。

また、本学類は、社会との共創を見据えた実践的教育を行うことや、地方創生に向けた人材育成を行うことから、地元経済界や地方自治体と共創の場である、「北陸未来共創フォーラム」において、インターンシップ受け入れ先の開拓や地元人材育成や地方国立大学の定員増に関する検討、地域課題の汲み上げなどを組織的に行う。

⑭ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

⑭-1 教育課程内の取組

本学は金沢大学憲章において「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を理念とし、教育面においては「多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施」及び「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本」とし、「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成」することを掲げている。

こうした教育目標の実現に向け、平成26年度には「学士課程〈グローバル〉スタンダード (KUGS)」を策定し、本学が育成する人材像として「人類の一員として自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材」を掲げ、5つのスタンダードとして整理した。令和3年度からは、来たるべき Society 5.0 時代に向けて必要となる能力である「新しい社会を生きる」を追加した。

共通教育科目においては「GS 科目」及び「GS 言語科目」を、専門教育科目においては「学域 GS 科目」及び「学域 GS 言語科目」を配置しており、共通教育から専門教育までの一連の学修の中で KUGS を修得していくこととしている。

- 1.自己の立ち位置を知る
- 2.自己を知り、自己を鍛える
- 3.考え・価値観を表現する
- 4.世界とつながる
- 5.未来の課題に取り組む
- 6.新しい社会を生きる

⑭-2 教育課程外の取組

本学では、学士課程から大学院課程の全学生が自律的な就職活動を行うため、就職担当教員及び指導教員と連携し、徹底的に学生の就職活動を支援する組織として、学務部にキャリア支援室を設置している。同室では、就職活動にタイムリーに対応した就職ガイダンス等の開催をはじめ、求人情報や OB・OG 情報の提供等を行っている。また、キャリア・産業カウンセラー及び企業人事経験者による就職相談、エントリーシートの添削、面接練習により、学生が就職活動に意欲的に取り組めるよう指導を行っている。

具体的な就職支援プログラムとして、全学生を対象とする「共通プログラム」において、「進路ガイダンス」、「インターンシップガイダンス」、「OB・OG 交流会」及び「キャリア支援イベント」を実施している。さらに、「民間企業志望者向けプログラム」、「公務員志望者対象プログラム」及び「教員志望者対象プログラム」において、各種ガイダンスや面接練習会を実施し、学生の進路選択に応じた支援体制を整えている。

これら大学全体の就職指導と連動しつつ、本学類においては、毎年開催するガイダンスにおいて「学生自身の将来像を見据えた履修指導」を行うことにより、1年次から大学院

修了までを見通した指導を行う。さらに、本学類には専属のキャリア・就職指導員を配置する予定としている。キャリア・就職指導員は、全学的に就職活動を支援するキャリア支援室と連携を取りながら学生の進学・就職活動をサポートすると共に、起業する学生に対してのサポートも行う。

地域定着を目指す留学生に対しては、徹底した日本語教育を行うと共に、必修科目であるインターンシップを地元企業中心に行うなど、地域定着を前提とした学修を行う。さらに、キャリア・就職指導員は、文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」に採択された「留学生・キャリア形成地域定着プロジェクト」とも連動しながら、地域定着に向けた就職活動をサポートする。

⑭-3 適切な体制の整備

本学ではキャリア支援室を中心とした就職支援体制を構築し、キャリア・産業カウンセラーによる指導を行っている。さらに、留学生に対しては生活全般に渡るアドバイスやカウンセリングを行う「留学生教育部」が中心となり、その地域定着に向けて留学生キャリアカウンセラーを配置する等、徹底したサポートを行っている。

本学類では地域での就職を目指す留学生、起業を志す学生、キャリアアップを目指す社会人等、その将来像も多岐に渡る。そのため、上述した全学体制による就職支援に加え、独自にキャリア・就職指導員を配置し、全学とも連動しながら学生個人にあわせた進学・就職支援を行うものである。

金沢大学 融合学域 スマート創成科学類

設置の趣旨等を記載した書類（別添資料）

目 次

資料 1	スマート創成科学類カリキュラムマップ	・・・	2
資料 2	コアエリア	・・・	3
資料 3 - 1	履修モデル ～スマートライフコアエリア中心の学修～	・・・	4
資料 3 - 2	履修モデル ～スマート産業コアエリア中心の学修～	・・・	5
資料 3 - 3	履修モデル ～スマート社会コアエリア中心の学修～	・・・	6
資料 3 - 4	履修モデル ～3年次編入学生の学修～	・・・	7
資料 4	学びの計画書	・・・	8
資料 5	国立大学法人金沢大学就業規則	・・・	9

ディプロマ・ポリシー

未来の科学を創成するための多面的な最新の知見を学び、それを理解する力

未来課題を理解し、ひと・もの・ことに関する多様な情報を収集・分析する力

2025年度版

総論を背景に課題解決や社会展開に向けて論理的に考える力

語学や異文化に関する知見を有し、自己の使命を果たすべく、国際社会で積極的に発信する力

スマート創成等に高い意欲を持ち、主体的・積極的に挑戦していく姿勢や発想、行動する力

カリキュラム・ポリシー

ひと・もの・ことに関する転用・応用可能な知見を修得するために「学域GS科目」を設け、総合的に資する多様な専門スキルを学修する科目を配置する。

国際社会で積極的に発信する力を修得するために「学域GS言語科目」を設け、到達目標を定めて学修するEMI (English-Medium Instruction) 科目を配置する。

アントレプレナーシップを醸成し、社会展開に向けたスキルや発想力を獲得するために「実践科目」を設け、演習等を中心とした科目を配置する。

知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得するために「基盤科目」を設け、科目を配置する。

未来課題の解決に資する知見を獲得するため「学知科目」を設け、さらに3つのコアエリアに区分し、多様な分野の科目を配置する。

国際社会における最新の知見や他者との共創による新たな知見の獲得のために「鍛練科目」を設け、海外留学や国際インターンシップ、プロジェクト開発を行う実習等を中心とした科目を配置する。

修得した多分野に渡る知見を基に課題発見・解決や事業創造を含めた社会展開を主体的・計画的に行うために「確立科目」を設け、手法や理論を体系的にまとめる科目を配置する。

科目体系

必修6	デザイン思考 イノベーション基礎、 数理・データサイエンス基礎及び演習 他
必修2	学域GS言語科目 I /海外実践英語、 学域GS言語科目 II /時事・学術英語
必修5 を含む 13	アントレプレナー基礎、アントレプレナー演習 I・II、 産業DX・PBL演習 I・II、社会調査法 他
必修4 を含む 19	テクノロジー基礎、ファイナンス基礎、マーケティング論、 スマート創成化学とバイオロジー、AIと未来の社会学 他
選択 必修26	スマートライフコアエリア QOLとWell-being、人間拡張とライフ、 スマート産業コアエリア スマート産業論、実践データサイエンス、 スマート社会コアエリア SDGs実践、スマートモビリティと自動運転 他
必修1 を含む 4	北陸産業インターンシップ I・II、スマート創成プロジェクト鍛練 I・II 海外実践留学、国際インターンシップ、 数理・データサイエンス・AI鍛練
選択 必修8	融合研究 又は 融合演習 又は 融合試験

スマート創成科学 ▲ スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するXR技術等を活用し、未来の科学を創成

スマート創成科学類では、国等の要請及び地方の要望を踏まえ、科学で人間生活・社会の新たな豊かさを創成する人材を養成



特徴 学知科目に3つのコアエリアを設定

第6期 科学技術・イノベーション基本計画（2021年3月）

工業社会（Society 3.0）から情報社会（Society 4.0）への移行において、生活スタイルや産業構造まで含めた社会構造が変化し、従来の延長戦ではなかったという経験を踏まえ、Society 5.0への移行においては社会の変革を遂行しなければならぬという強い意識をもって具体化していくことが重要

生活、産業、社会のあらゆる場面でスマート技術を活用し、「国民の安全・安心を守る持続的で強靱な社会」と「二人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現する社会」の両立に向け、社会変革に繋がるコアエリアを設定



スマートライフ

Well-beingの実現

スマート技術を活用して、ヘルスケアや生活の質の向上に焦点をあてた高機能なツール開発等の科学進展を目指す。

スマート産業

産業界の革新

スマート技術を活用して、技術や機能の社会実装に焦点をあてた高機能な産業DX化等の科学進展により、産業界での課題解決や新産業の創出を目指す。

スマート社会

持続的で強靱な社会の実現

スマート技術を活用して、インフラや制度の発達に焦点をあてた高機能な都市開発等の科学進展を目指す。

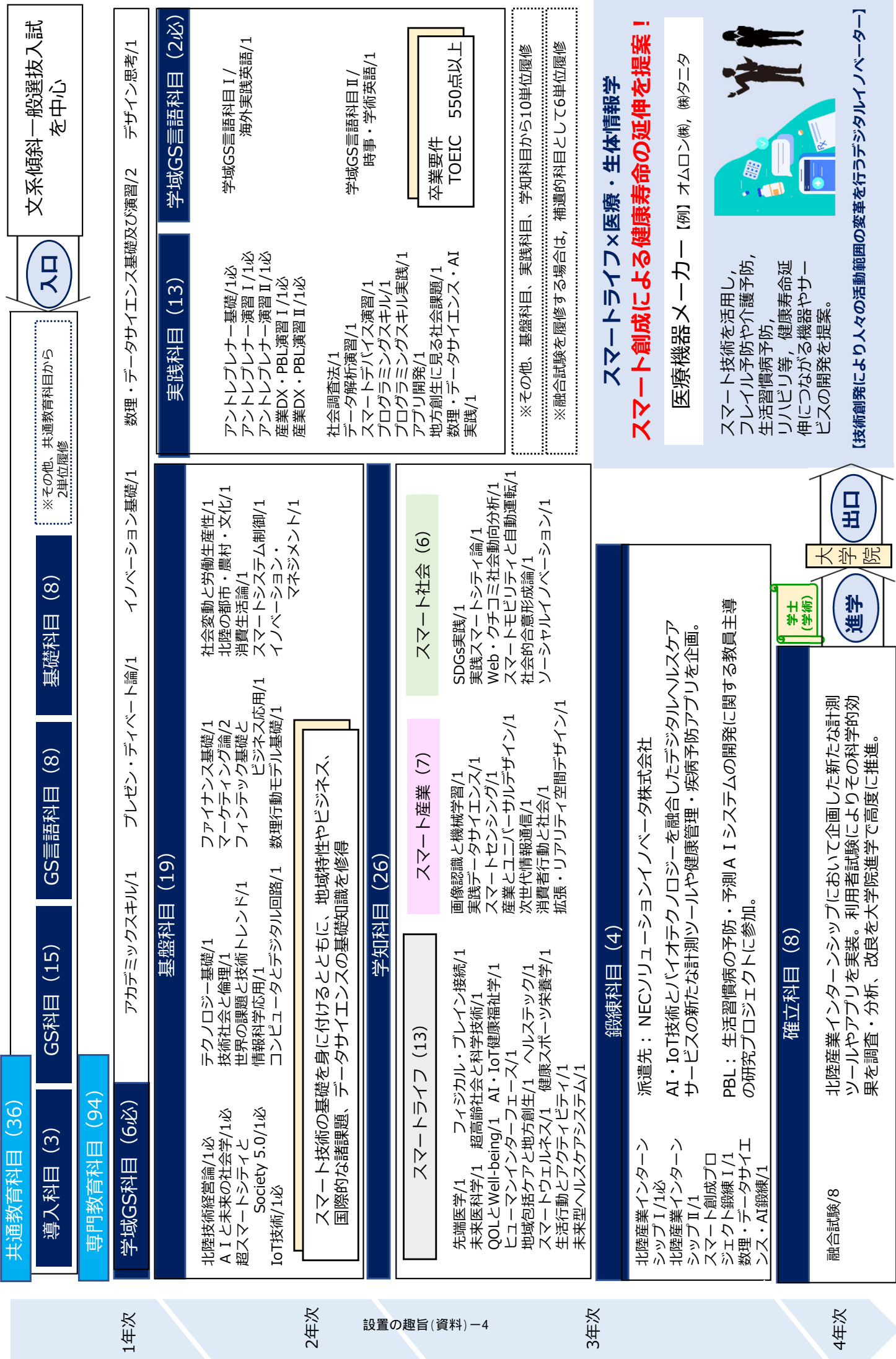
スマート技術

AI・数理データサイエンス、人間拡張技術、仮想現実、自動運転、予測シミュレーション、ブロックチェーン

3つのコアエリアの中から集中的に学ぶ領域を定めつつ、他の領域も横断的に学修

履修モデル① ～スマートライフコアエリア中心の学修～

【資料3-1-1】



1年次

2年次

学域GS (学術) 1-4

3年次

4年次

共通教育科目 (36)

導入科目 (3)

GS科目 (15)

GS言語科目 (8)

基礎科目 (8)

専門教育科目 (94)

学域GS科目 (6必)

アカデミックスキル/1

プレゼン・ディベート論/1

イノベーション基礎/1

基礎科目 (19)

北陸技術経営論/1必
AIと未来の社会学/1必
超スマートシティと
Society 5.0/1必
IoT技術/1必

テクノロジ-基礎/1
技術社会と倫理/1
世界の課題と技術トレンド/1
情報科学応用/1
コンピュータとデジタル回路/1

ファイナンス基礎/1
マーケティング論/2
フィンテック基礎と
ビジネス応用/1
数理解動モデル基礎/1

社会変動と労働生産性/1
北陸の都市・農村・文化/1
消費生活論/1
スマートシステム制御/1
イノベーション・
マネジメント/1

スマート技術の基礎を身に付けるとともに、地域特性やビジネス、国際的な諸課題、データサイエンスの基礎知識を修得

実践科目 (13)

アントレプレナー基礎/1必
アントレプレナー演習 I/1必
アントレプレナー演習 II/1必
産業DX・PBL演習 I/1必
産業DX・PBL演習 II/1必

社会調査法/1
データ解析演習/1
スマートデバイス演習/1
プログラミングスキル/1
プログラミングスキル実践/1
アプリ開発/1
地方創生に見る社会課題/1
数理・データサイエンス・AI
実践/1

スマートライフ (13)

先端医学/1
未来医学/1
QOLとWell-being/1
ヒューマンインターフェース/1
地域包括ケアと地方創生/1
スマートウェルネス/1
生活行動とアクティビティ/1
未来型ヘルスケアシステム/1

画像認識と機械学習/1
実践データサイエンス/1
スマートセンシング/1
産業とユビバーサルデザイン/1
次世代情報通信/1
消費者行動と社会/1
拡張・リアリティ空間デザイン/1

スマート産業 (7)

SDGs実践/1
実践スマートシティ論/1
Web・クチコミ社会動向分析/1
スマートモビリティと自動運転/1
社会的合意形成論/1
ソーシャルイノベーション/1

スマート社会 (6)

スマート社会 (6)

学知科目 (26)

スマートライフ (13)

スマート産業 (7)

スマート社会 (6)

鍛練科目 (4)

北陸産業インターン
シップ I/1必
北陸産業インターン
シップ II/1
スマート創成プロ
ジェクト鍛練 I/1
数理・データサイエ
ンス・AI鍛練/1

派遣先： NECソリューションイノバータ株式会社
AI・IoT技術とバイオテクノロジーを融合したデジタルヘルスケア
サービスの新たな計測ツールや健康管理・疾病予防アプリを企画。
PBL： 生活習慣病の予防・予測 AI システムの開発に関する教員主導
の研究プロジェクトに参加。

確立科目 (8)

融合試験/8

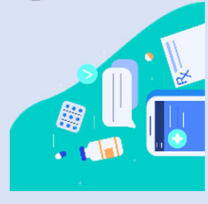
北陸産業インターンシップにおいて企画した新たな計測
ツールやアプリを実装。利用者試験によりその科学的効
果を調査・分析、改良を大学院進学で高度に推進。

学士
(学術)

進学

大学院

出口



スマート技術を活用し、
フレイル予防や介護予防、
生活習慣病予防、
リハビリ等、健康寿命延
伸につながる機器やサー
ビスの開発を提案。

スマートライフ×医療・生体情報学
スマート創成による健康寿命の延伸を提案!

医療機器メーカー【例】オムロン(株)、(株)タニタ

【技術創成により人々の活動範囲の変革を行うデジタルイノベーター】

入口

※その他、共通教育科目から
2単位履修

数理・データサイエンス基礎及び演習/2 デザイン思考/1

学域GS言語科目 (2必)

学域GS言語科目 I/
海外実践英語/1

学域GS言語科目 II/
時事・学術英語/1

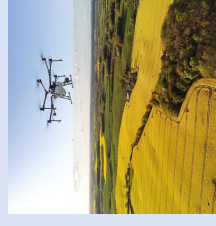
卒業要件
TOEIC 550点以上

※その他、基礎科目、実践科目、学知科目から10単位履修
※融合試験を履修する場合は、補選的科目として6単位履修

履修モデル② ～スマート産業コアエリア中心の学修～

【資料3-2】

1年次	<p>共通教育科目 (36)</p> <p>導入科目 (3) GS科目 (15) GS言語科目 (8) 基礎科目 (8)</p> <p>専門教育科目 (88)</p> <p>学域GS科目 (6必) アカデミックスキル/1 プレゼン・ディベート論/1 イノベーション基礎/1</p>	<p>※その他、共通教育科目から2単位履修</p> <p>入口</p> <p>理系傾斜一般選抜入試を中心</p>	
2年次	<p>基礎科目 (19)</p> <p>テクノロジ-基礎/1 未来エネルギー創成/1 ロボットイノベーション/1 マーケティング論/2 世界の課題と技術トレンド/1 フィンテック基礎と 情報科学応用/1 ビジネス応用/1 コンピュータとデジタル回路/1 数理解動モデル基礎/1</p> <p>スマート技術の基礎を身に付けるとともに、地域特性やビジネス、国際的な諸課題、データサイエンスの基礎知識を修得</p>	<p>実践科目 (13)</p> <p>アントレプレナー基礎/1必 アントレプレナー演習 I/1必 アントレプレナー演習 II/1必 産業DX・PBL演習 I/1必 産業DX・PBL演習 II/1必</p> <p>社会調査法/1 データ解析演習/1 スマートデバイス演習/1 プログラミングスキル/1 プログラミングスキル実践/1 アプリ開発/1 地方創生に見る社会課題/1 データ駆動型社会と産業/1</p> <p>学域GS言語科目 I/ 海外実践英語/1</p> <p>学域GS言語科目 II/ 時事・学術英語/1</p> <p>卒業要件 TOEIC 550点以上</p>	<p>学域GS言語科目 (2必)</p>
3年次	<p>学知科目 (26)</p> <p>スマート産業 (14)</p> <p>スマート産業論/1 画像認識と機械学習/1 実践データサイエンス/1 スマートセンシング/1 デジタル生産工学/1 コンピュータと電子回路/1 産業とユニバーサルデザイン/1 自律ロボット/1 次世代情報通信/1 スマートシステム制御応用/1 拡張・リアリティ空間デザイン/1 統計的学習理論/1 生産者の社会責任/1 エナジーハーベスティング/1</p> <p>スマートライフ (5)</p> <p>人間工学/1 人間拡張とライフ/1 ヒューマンインタラクション/1 超高齢社会と科学技術/1 フィジカル・ブレイン接続/1</p> <p>スマート社会 (7)</p> <p>実践スマートシティ論/1 スマートモビリティと自動運転/1 社会システム工学/1 ソーシャルイノベーション/1 デジタルツインと危機管理/1 スマートサブライチエーション/1 スマートインフラマネジメント/1</p>	<p>鍛練科目 (4)</p> <p>派遣先：北陸農政局 ICT、ロボット技術を活用した省力化・高品質生産を実現するスマート農業実証プロジェクトに参画。 PBL：ドローンを活用した広範囲データ収集・分析を行うプロジェクトに参加。</p>	<p>確立科目 (8)</p> <p>派遣先：イオンアグリ創造成 ドローンやAIを活用した圃場管理で生育状況を把握し、より正確な収量予測から安定供給につなげる実証実験を実施。</p>
4年次	<p>融合演習/8</p>	<p>農林水産機器メーカー 【例】クボタ(株)、井関機(株)</p> <p>クラウドコンピューティングや作業自動化等の先進技術を駆使するスマート農林水産漁業等の基盤を構築し、革新的産業へ育成。</p> <p>【AI・IoT等の高い技術と創造性を有した産業革新を行う開発者】</p>	<p>スマート産業×農林水産漁業 ICTを使い産業DXを実現！</p>



クラウドコンピューティングや作業自動化等の先進技術を駆使するスマート農林水産漁業等の基盤を構築し、革新的産業へ育成。

【AI・IoT等の高い技術と創造性を有した産業革新を行う開発者】

履修モデル③ ～スマート社会コアエリア中心の学修～

【資料3-3】



共通教育科目 (36)

導入科目 (3)

GS科目 (15)

GS言語科目 (8)

基礎科目 (8)

専門教育科目 (88)

学域GS科目 (6必)

アカデミックスキル/1

プレゼン・ディベート論/1

イノベーション基礎/1

数理・データサイエンス基礎及び演習/2

デザイン思考/1

基盤科目 (19)

北陸技術経営論/1必
AIと未来の社会学/1必
超スマートシティと
Society 5.0/1必
IoT技術/1必

テクノロジ-基礎/1
世界の課題と技術トレンド/1
情報科学応用/1
スマートシステム制御/1
コンピュータとデジタル回路/1

フィンテック基礎と
ビジネス応用/1
未来エネルギー創成/1
数理行動モデル基礎/1
SDGs基礎/1

社会変動と労働生産性/1
北陸の都市・農村・文化/1
消費生活論/1
社会と工学における最適化/1
スマート創成化学と
ハイオロジー/1
技術社会と倫理/1

スマート技術の基礎を身に付けるとともに、地域特性やビジネス、国際的な諸課題、データサイエンスの基礎知識を修得

学知科目 (26)

スマート社会 (14)

実践スマートシティ論/1
フューチャードザイン/1
ナショナルレジリエンス/1
社会システム工学/1
都市・地域工学/1
デジタルツインと危機管理/1
スマートモビリティと自動運転/1
低炭素社会/1
都市・交通デザイン/1
エビデンスベース政策論/1
社会的合意形成論/1
スマートサブプライチエーン/1
スマートインフラマネジメント/1
ソーシャルイノベーション/1

スマートライフ (5)

QOLとWell-being/1
地域の居住空間デザイン/1
地域包括ケアと地方創生/1
生活行動とアクティビティ/1
ヒューマンインタラクション/1

スマート産業 (7)

画像認識と機械学習/1
実践データサイエンス/1
統計的学習理論/1
スマートセンシング/1
カーボンニュートラル技術/1
次世代情報通信/1
スマートシステム制御応用/1

実践科目 (13)

アントレプレナー基礎/1必
アントレプレナー演習 I/1必
アントレプレナー演習 II/1必
産業DX・PBL演習 I/1必
産業DX・PBL演習 II/1必
社会調査法/1
データ解析演習/1
スマートデバイス演習/1
プログラミングスキル/1
プログラミングスキル実践/1
データ駆動型社会と産業/1
北陸地域創生と社会学/1
数理・データサイエンス・AI
実践/1

卒業要件
TOEIC 550点以上

※その他、基盤科目、実践科目、学知科目から10単位履修

学域GS言語科目 (2必)

学域GS言語科目 I/
海外実践英語/1
学域GS言語科目 II/
時事・学術英語/1

鍛練科目 (4)

北陸産業インターン
シップ I/1必
スマート創成プロ
ジェクト鍛練 I/1
スマート創成プロ
ジェクト鍛練 II/1
海外実践留学/1

派遣先：日本海コンサルタント
インフラ情報のデータを計測・解析し、その有効活用や地域の課題
解決に向けたシステムを企画・提案。

留学先：アールト大学 (ヘルシンキ)
スマートシティの先進事例と空間計画・交通工学を学び、カーボン
ニュートラルやモビリティシステムに関する技術と都市管理を学修。

確立科目 (8)

融合研究/8

都市OSによるデータ連携とビッグデータを活用したスマートシ
ティの構築を研究

スマート社会×応用情報学

スマートで安心・安全なまちづくりを推進！

情報通信業【例】NTTデータ、(株)アイ・オー・データ

カーボンニュートラルを
意識したスマートシティ
等のまちづくりに関わる
戦略立案やコンサルティ
ング、都市デザイン、イ
ンフラ強化等へ貢献。



【グローバルな科学の進展を理解し
人間中心の未来社会を拡充し続けるシステムア-キテクト】

学士
(学術)

出口

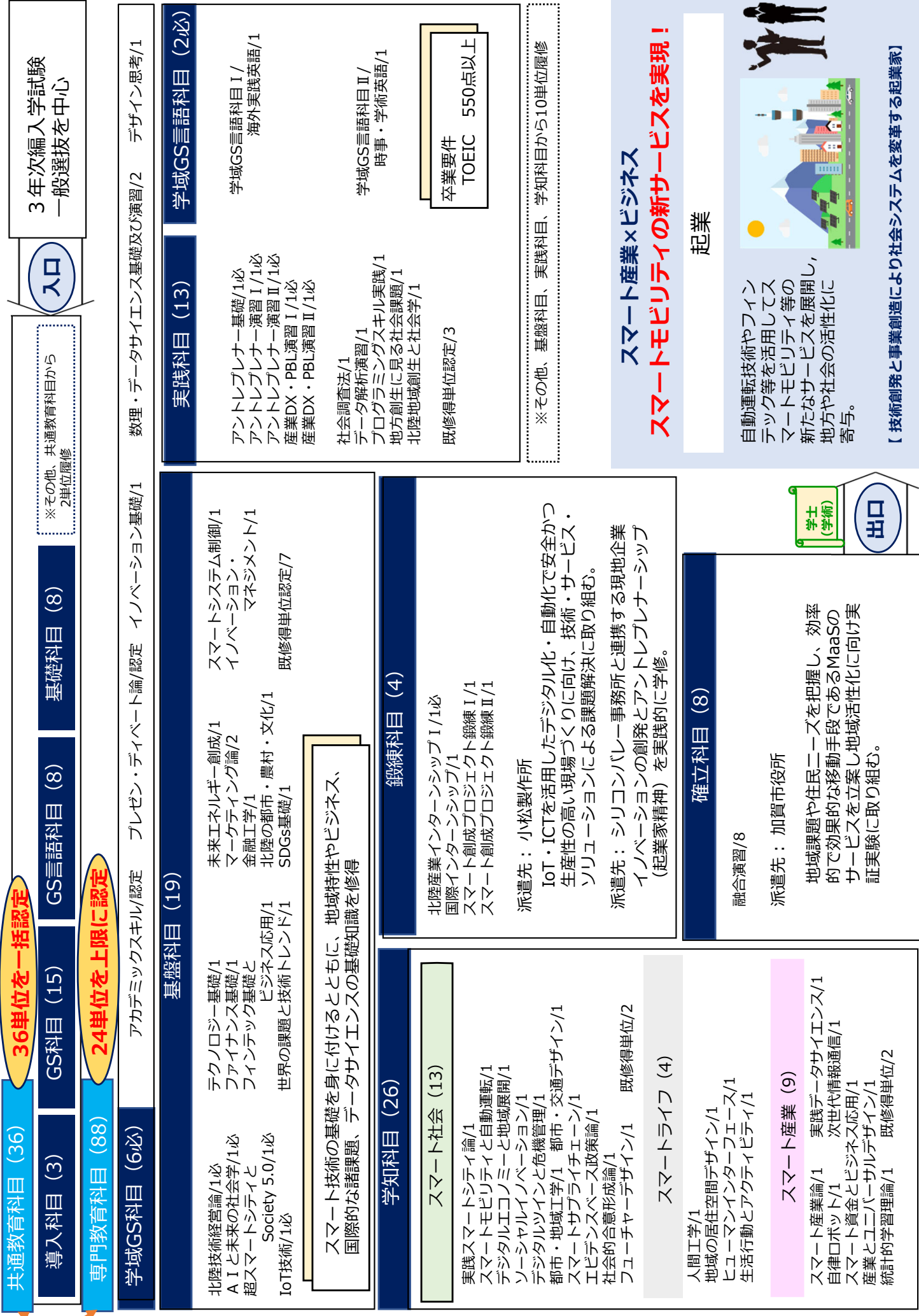
1年次

2年次

2025年度(平成37年度)

3年次

4年次



36単位を一括認定

24単位を上限に認定

既修60単位以上
取得単位認定

3年次
学域GS科目 (必修) 17

4年次

※その他、共通教育科目から
2単位履修

入口

3年次編入学試験
一般選抜を中心

数理・データサイエンス基礎及び演習/2 デザイン思考/1

実践科目 (13)

学域GS言語科目 (2必)

- アントレプレナー基礎/1必
- アントレプレナー演習 I/1必
- アントレプレナー演習 II/1必
- 産業DX・PBL演習 I/1必
- 産業DX・PBL演習 II/1必
- 社会調査法/1
- データ解析演習/1
- プログラミングスキム実践/1
- 地方創生に見る社会課題/1
- 北陸地域創生と社会学/1
- 既修得単位認定/3

卒業要件
TOEIC 550点以上

※その他、基礎科目、実践科目、学知科目から10単位履修

アカデミックスキル/認定 プレゼン・ディベート論/認定 イノベーション基礎/1

基礎科目 (19)

- 未来エネルギー創成/1
- マーケティング論/2
- 金融工学/1
- 北陸の都市・農村・文化/1
- SDGs基礎/1
- スマートシステム制御/1
- イノベーション・マネジメント/1
- 既修得単位認定/7

スマート技術の基礎を身に付けるとともに、地域特性やビジネス、国際的な諸課題、データサイエンスの基礎知識を修得

学知科目 (26)

スマート社会 (13)

- 実践スマートシティ論/1
- スマートモビリティと自動運転/1
- デジタルエコノミーと地域展開/1
- ソシヤルイノベーション/1
- デザインイノベーション/1
- 都市・地域工学/1
- 都市・交通デザイン/1
- スマートサプライズチェーン/1
- エビデンスベース政策論/1
- 社会的合意形成論/1
- フューチャードesign/1
- 既修得単位/2

スマートライフ (4)

- 人間工学/1
- 地域の居住空間デザイン/1
- ヒューマンインタラクション/1
- 生活行動とアクティビティ/1

スマート産業 (9)

- スマート産業論/1
- 実践データサイエンス/1
- 自律ロボット/1
- 次世代情報通信/1
- スマート資金とビジネス応用/1
- 産業とユニバーサルデザイン/1
- 統計的学習理論/1
- 既修得単位/2

鍛錬科目 (4)

- 北陸産業イノベーションシップ I/1必
- 国際イノベーションシップ/1
- スマート創成プロジェクト鍛練 I/1
- スマート創成プロジェクト鍛練 II/1

派遣先: 小松製作所

IoT・ICTを活用したデジタル化・自動化で安全かつ生産性の高い現場づくりに向け、技術・サービス・ソリューションによる課題解決に取り組む。

派遣先: シリコンバレー事務所と連携する現地企業イノベーションの創発とアントレプレナーシップ (起業家精神) を実践的に学修。

確立科目 (8)

融合演習/8

派遣先: 加賀市役所

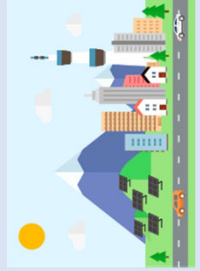
地域課題や住民ニーズを把握し、効果的で効果的な移動手段であるMaaSのサービス立案し地域活性化に向け実証実験に取り組む。

スマート産業 x ビジネス

スマートモビリティの新サービスを実現!

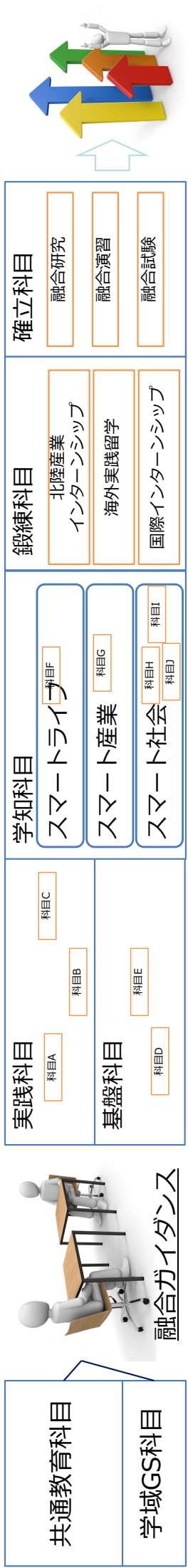
起業

自動運転技術やフィンテック等を活用してスマートモビリティ等の新たなサービスを展開し、地方や社会の活性化に寄与。



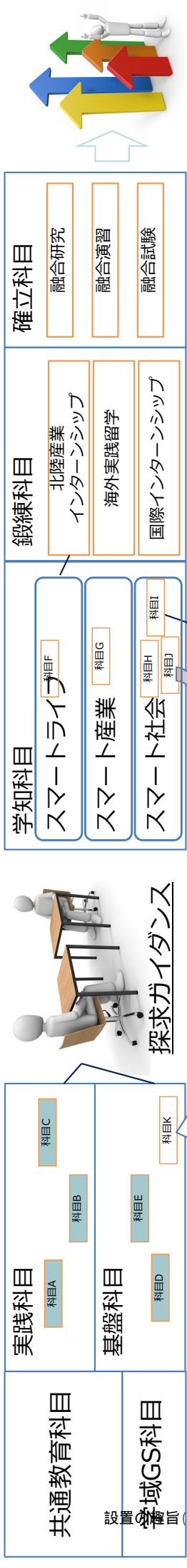
【技術創発と事業創造により社会システムを変革する起業家】

出口 (学術)



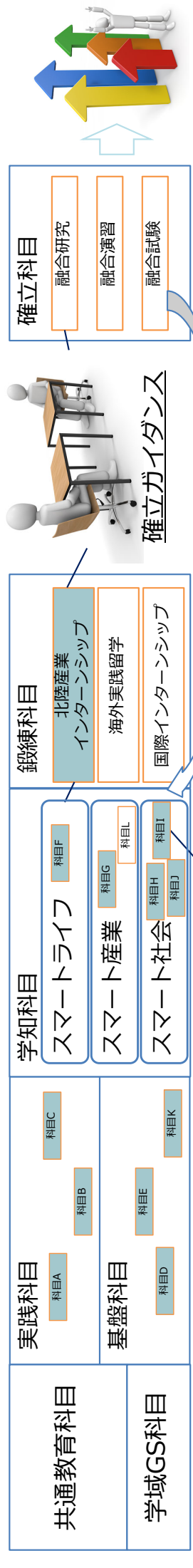
学びの計画書I

1年次に必修科目として履修した学域GS科目や共通教育科目の履修状況等も踏まえ、学生自身の将来像の明確化を見据えながら、実践科目、基盤科目、学知科目におけるコアエリアの履修体系を指導。



学びの計画書II

実践科目、基盤科目における履修状況等を踏まえ、設定した未来課題の解決につながるコアエリアを選定し、他学域開講科目の履修やバックキャストイング学修も視野に入れながら学知科目、鍛練科目の履修体系を指導。



卒業研究

学生自身の将来像をもとに「学びの計画書」の進捗を確認し、必要に応じて他学域科目の履修やバックキャストイング学修も視野に入れながら、演習経験も重ね合わせ、社会展開に向けた指導を行う。

【資料5】

○国立大学法人金沢大学職員就業規則

(平成16年4月1日規則第4号)

改正

目次

- 第1章 総則(第1条—第3条)
 - 第2章 人事
 - 第1節 教育職員の人事(第4条)
 - 第2節 採用(第5条—第7条)
 - 第3節 昇任・降任(第8条・第9条)
 - 第4節 人事異動等(第10条—第11条)
 - 第5節 休職(第12条—第15条)
 - 第6節 退職及び解雇(第16条—第24条)
 - 第3章 服務
 - 第1節 職員の責務・遵守事項(第25条—第28条)
 - 第2節 兼業(第29条—第32条)
 - 第4章 給与
 - 第1節 給与(第33条—第42条)
 - 第2節 退職手当(第43条—第45条)
 - 第5章 勤務時間, 休日・休暇, 休業等
 - 第1節 勤務時間(第46条—第58条)
 - 第2節 休暇等(第59条—第64条)
 - 第3節 休業(第65条—第66条の2)
 - 第6章 研修・出張, 知的財産権(第67条—第70条)
 - 第7章 表彰及び懲戒(第71条—第74条)
 - 第8章 安全衛生及び災害補償等(第75条—第78条)
 - 第9章 雑則(第79条—第81条)
- 附則

- 第1章 総則
- (目的)

第1条 この規則は、金沢大学(以下「本学」という。)の自主・自律的な運営を旨として職員の仕事、労働条件、サービス等について定め、もって本学における学術研究、教育、医療及び大学経営の諸活動が秩序をもって、闊達に展開されることを目的とする。

(定義)

第2条 この規則において「職員」とは、試験又は選考により採用された者をいい、日給又は時間給で雇用された職員を除く。

2 この規則において「教育職員」とは、職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務する者に限る。)、助教、助手、校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭及び外国人研究員の職にある者をいう。

3 任期を付して雇用する職員について、別段の定めを置くときは、それによる。

(適用範囲)

第3条 この規則は、前条の職員を適用対象とする。

第2章 人事

第1節 教育職員の人事

第4条 教育職員の人事に関し必要な事項は、この規則に定めるもののほか、国立大学法人金沢大学教育職員人事規程による。

第2節 採用

(職員の採用)

第5条 職員の採用は、試験又は選考による。

2 職員の採用について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員採用規程に定める。

(労働条件の通知)

第6条 学長は、職員の採用に際して、採用をしようとする職員に対し、あらかじめ次の事項を記載した労働条件を通知する。

(1) 給与に関する事項

(2) 就業の場所及び従事する業務に関する事項

(3) 労働契約の期間に関する事項

(4) 始業及び終業の時刻、所定労働時間を超える労働の有無、休憩時間、休日及び休暇に関する事項

(5) 交替制勤務をさせる場合は、就業時転換に関する事項

(6) 退職及び解雇に関する事項

(試用期間)

第7条 職員として採用された者は、採用の日から6か月の試用期間(外国人研究員を除く。)を設ける。ただし、国、地方自治体又はこれに準ずる関係機関の職員から引き続き本学の職員となった者については、この限りでない。

2 試用期間中又は試用期間満了時に職員として不適格と学長が認めるときは、解雇する。

3 試用期間は、勤続年数に通算する。

第3節 昇任・降任

(昇任)

第8条 職員の昇任は、選考による。

2 前項の選考は、職員の勤務成績等に基づいて行う。

(降任)

第9条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、降任することがある。

(1) 勤務実績がよくない場合

(2) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えられない場合

(3) その他必要な適格性を欠く場合

第4節 人事異動等

(配置換)

第10条 職員は、業務上の都合により職場の異動又は職務の変更等の配置換を命ぜられることがある。

2 前項の配置換は、原則として発令日の7日前までに内示し、本人事情等を十分勘案して実施する。

(在宅勤務)

第10条の2 職員は、業務その他の都合上必要と認められる場合には、一定期間、通常の勤務場所を離れて当該職員の自宅又はこれに準ずる場所における勤務（以下「在宅勤務」という。）を命ぜられることがある。

2 在宅勤務により発生する水道光熱費、情報通信機器を利用することに伴う通信費その他の経費については、原則として在宅勤務を行う職員の負担とする。

3 在宅勤務の実施方法等については、必要に応じて学長が定める。

(出向)

第11条 学長は、業務上必要な場合、職員に対して他の国立大学法人等において、一定の期間、勤務させることができる。

2 出向する職員は、発令の日から、次に掲げる期間内に出向先に赴任しなければならない。ただし、やむを得ない理由により定められた期間内に出向先に赴任できないときは、出向先の承認を得なければならない。

(1) 住居移転を伴わない赴任の場合 発令日

(2) 住居移転を伴う赴任の場合 7日以内

3 職員の出向について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員出向規程に定める。

第5節 休職

(休職)

第12条 職員(試用期間中の職員を除く。)が次の各号のいずれかに該当する場合は、休職とする。

- (1) 傷病により、病気休暇の期間が引き続き 90 日を超える場合。ただし、安全衛生管理規程第 28 条第 1 項第 2 号に基づく指導区分の決定に応じた事後措置によるもので、復職予定日までに 90 日を超える場合は、その間、病気休暇を取得することができるものとする。
 - (2) 刑事事件に関し起訴された場合
 - (3) 他の国立大学法人等に出向する場合
 - (4) 学校、研究所、病院その他本学が指定する公共的施設において、職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査、研究若しくは指導に従事し、又は本学が指定する国際事情の調査等の業務に従事する場合
 - (5) 科学技術に関する、国(独立行政法人を含む。以下同じ。)と共同して行われる研究又は国の委託を受けて行われる研究に係る業務であって、その職員の職務に関連があると認められるものに、前号に掲げる施設又は本学が当該研究に関し指定する施設において従事する場合
 - (6) 研究成果活用企業の役員(監査役を除く。)、顧問又は評議員(以下「役員等」という。)の職を兼ねる場合において、主として当該役員等の職務に従事する必要があり、本学の職務に従事することができない場合
 - (7) 日本が加盟している国際機関、外国政府の機関等からの要請に基づいて職員を派遣する場合
 - (8) 労働組合業務に専従する場合
 - (9) 水難、火災その他の災害により、生死不明又は所在不明となった場合
 - (10) その他特別の事由により休職にすることが適当と認められる場合
- 2 前項第 4 号から第 10 号の休職は、職員(第 9 号の場合はその家族)の申出により行うものとする。
 - 3 国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程(以下「安全衛生管理規程」という。)第 28 条の規定により同規程別表第 3 に定める生活規制の面の区分において B の指導区分の決定を受けた場合に、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減する期間が 6 か月を超える場合は、休職とすることができる。

(休職期間)

第 13 条 休職の期間は、休職事由に応じて別表第 1 に定める期間の範囲内とする。

- 2 前条第 1 項第 1 号の規定により休職となった職員が、第 15 条の規定により復職し、復職可能となった日から起算して 1 年に達するまでの間に、当該休職の原因となった傷病と同一若しくは類似の傷病(産業医が同一又は類似の傷病と認めるものに限る。)又は同一若しくは類似の傷病に起因すると認められる傷病(産業医が同一又は類似の傷病に起因すると認めるものに限る。)(以下「同一傷病」という。)により再度休職するときは、当該傷病に係る休職の期間は通算するものとする。

3 前項に規定する「1年」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。

(1) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてAの指導区分の決定を受けた期間及びBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間

(2) 第59条による休暇及び第50条から第52条による休日等により、連続30日以上
の勤務実績がない期間

(3) 前条第1項第1号(同一傷病によるものを除く。)から第10号までの規定による
休職期間

(休職中の給与等)

第14条 休職中の給与、在職期間調整等については、第12条第1項各号の事由に応じて別表第1及び国立大学法人金沢大学職員給与規程の定めるところによる。

2 休職者は、職員としての身分を保有し、職員として遵守すべき事項を守らなければならない。

(復職)

第15条 学長は、休職期間が満了するまでの間に休職事由が消滅したと認めた場合には、復職を命じる。この場合において、病気を理由とした休職については、職員が復職を申し出て、産業医が休職事由の消滅を認めた場合に限るものとする。

2 前項の場合において、学長は、原則として休職前の職務に復帰させる。ただし、心身の条件その他を考慮し、他の職務に就かせることがある。

第6節 退職及び解雇

(退職)

第16条 職員は、次の各号のいずれかに該当する場合は、退職となり、職員としての身分を失う。

(1) 自己都合により期日を定めて退職を申し出た場合

(2) 定年に達した場合

(3) 期間を定めて雇用されている場合は、その期間が満了したとき。

(4) 休職期間が満了した後も、休職事由がなお消滅しない場合

(5) 死亡した場合

2 職員は、自己都合により退職する場合は、退職予定日の30日前までに、学長に退職届を提出しなければならない。やむを得ない事由により30日前までに退職届を提出できない場合は、14日前までにこれを提出しなければならない。

3 職員は、退職届を提出しても、退職するまでは、職務に従事しなければならない。

(定年)

第17条 職員は、定年に達した日以後における最初の3月31日(以下「定年退職日」という。)に退職する。

- 2 定年は、年齢60年とする。ただし、教育職員(校長、園長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭及び栄養教諭を除く。)は、年齢65年とする。
- 3 労働契約法(平成19年法律第128号)第18条の規定に基づき、期間の定めのある労働契約から期間の定めのない労働契約に転換した職員については、前2項の規定を適用する。

(特例による定年の延長)

第18条 学長は、定年に達した職員(教育職員のうち、教授、准教授、講師(常時勤務の者に限る。)、助教及び助手を除く。)の職務の遂行上の特別の事情がある場合で、かつ、その退職により業務の運営に著しい支障が生ずると認められる十分な理由がある場合は、当該職員の意向を尊重の上、1年を超えない範囲で定年退職日を延長することができる。

- 2 前項による定年退職日の延長は、当初の定年退職日から3年を超えない範囲で更新することができる。

(再雇用)

第19条 定年退職者又は定年延長後退職した者が再雇用を希望するときは、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)第9条の規定に基づき、選考により雇用期間を定め採用することがある。

- 2 前項の規定による雇用期間の末日は、その者が年齢65年に達する日以後における最初の3月31日以前とする。
- 3 非常勤職員としての再雇用を希望する者は、国立大学法人金沢大学非常勤職員採用規程の定めるところによる。

(解雇)

第20条 職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、解雇する。

- (1) 勤務実績が著しくよくない場合
 - (2) 心身の故障のため職務の遂行に著しい支障がある場合、又はこれに堪えられない場合
 - (3) 前2号に規定する場合のほか、その職務に必要な適格性を欠く場合
 - (4) 試用期間中の者について、職員として不適格と認めた場合
 - (5) 禁錮以上の刑に処せられた場合
 - (6) 業務上の災害により、職場復帰できない場合で、傷病補償年金の給付を受けるに至り、療養開始3年以上を経過した場合
 - (7) その他前各号に準ずる事由が生じた場合
- 2 天災事変その他やむを得ない事由により本学の事業継続が困難となった場合には、解雇する。

(解雇制限)

第21条 次の各号のいずれかに該当する期間及び事由では解雇しない。ただし、労働基準法(以下「労基法」という。)第81条の規定により打切補償を支払う場合は、この限りでない。

- (1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間
 - (2) 産前産後の女性職員が、その特別休暇の期間及びその後30日間
- (解雇予告)

第22条 職員を解雇する場合は、少なくとも30日前に本人に予告をするか、平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、所轄労働基準監督署の認定を受けて第72条第2項第5号に定める懲戒解雇をする場合は、この限りでない。

- 2 予告日数は、平均賃金を支払った日数だけ短縮する。
- 3 次に該当する者は、前二項の規定は適用しない。

- (1) 2か月以内の期間を定めて雇用する者
 - (2) 試用期間中の者で14日以内の者
- (退職後の守秘義務)

第23条 退職又は解雇された者は、在職中に知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

(退職証明書)

第24条 学長は、退職又は解雇された者が、退職証明書の交付を請求した場合は、遅滞なくこれを交付する。

- 2 前項の証明書に記載する事項は、次のとおりとする。
 - (1) 雇用期間
 - (2) 業務の種類
 - (3) その事業における地位
 - (4) 給与
 - (5) 退職の事由(解雇の場合は、その理由)
- 3 証明書には前項の事項のうち、退職又は解雇された者が請求した事項のみを証明するものとする。

第3章 服務

第1節 職員の責務・遵守事項

(職員の責務)

第25条 職員は、職務上の責任を自覚して、勤務中は職務に専念し、本学がなすべき責を有する職務を誠実に遂行するとともに、職場の秩序の維持に努めなければならない。

- 2 役職者は、職員がその能力を十分に発揮して本学の教育・研究・医療等に専念できるよう、良好な職場環境の形成に努めなければならない。

(遵守事項)

第26条 職員は、次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 上司の指示に従い、職場の秩序を保持し、互いに協力してその職務を遂行すること。
- (2) 職場の内外を問わず、本学の信用を傷つけ、その利益を害し、又は職員全体の不名誉となるような行為をしないこと。
- (3) 職務上知ることのできた秘密を他に漏らさないこと。
- (4) その職権を濫用して、専らその職務の用以外の用に供する目的で個人の秘密に属する事項が記録された文書等を収集しないこと。
- (5) 常に公私の別を明らかにし、その職務や地位を私的に利用しないこと。
- (6) 本学の敷地及び施設内(以下「大学内」という。)で、喧騒その他の秩序及び風紀を乱す行為をしないこと。
- (7) 学長の許可なく、大学内で営利を目的とする金品の貸借をし、又は物品等の売買を行わないこと。

(倫理)

第 27 条 職員の倫理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員倫理規程に定める。

(ハラスメント防止)

第 28 条 ハラスメントの防止等について必要な事項は、国立大学法人金沢大学ハラスメント防止等に関する規程及び国立大学法人金沢大学ハラスメントの防止・対策に関する指針に定める。

第 2 節 兼業

(兼業の許可)

第 29 条 職員は、学長の許可を受けた場合でなければ、報酬を得て本学以外の法人又は団体の役職員の職を兼ねること、及び営利事業を営むことはできない。

2 無報酬であっても営利事業の役員を兼ねる場合は、同様とする。

(時間内兼業)

第 30 条 学長は、職員の本務と密接な関係があり、社会貢献上有益と判断される場合は、本学が委託された業務を遂行するため、職員をその勤務時間中に他の事業主の下で委託業務に従事させることがある。

2 職員が当該業務に従事したことに対する報酬は、本学に帰属するものとし、従事した職員に対してはその一定割合を手当、研究費等として還元する。

(時間外兼業)

第 31 条 学長は、本学の事業と競合することなく、かつ本務に支障がない場合は、職員が勤務時間外に本学以外の法人又は団体の役職員として業務に従事することを認める。

2 前項の業務に従事する場合における勤務時間の割振り変更の手続等は、申請者自らの負担において行うものとする。

(規程への委任)

第 32 条 職員の兼業について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員兼業規程に定める。

第 4 章 給与

第 1 節 給与

(給与の種類)

第 33 条 職員の給与については、国立大学法人金沢大学職員給与規程に定める。

第 34 条から第 42 条まで 削除

第 2 節 退職手当

(退職手当の支給)

第 43 条 職員が退職し、又は解雇された場合は、職員の勤続年数、退職事由及び解雇事由に応じて、退職手当を支給する。

2 勤続年数が 6 か月未満の職員及び第 19 条に基づき再雇用された職員には退職手当は支給しない。

(退職手当の減額・不支給)

第 44 条 職員が懲戒解雇された場合は、退職手当は支給しない。ただし、勤続年数が長期に及ぶ職員については、その懲戒事由によっては減額支給する場合がある。

(規程への委任)

第 45 条 職員の退職手当について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員退職手当規程に定める。

第 5 章 勤務時間、休日・休暇、休業等

第 1 節 勤務時間

(1 週間の勤務時間)

第 46 条 勤務時間は、休憩時間を除き、1 週間当たり 38 時間 45 分とする。

(勤務時間の割振り)

第 47 条 勤務時間は、原則として、月曜日から金曜日までの 5 日間において、1 日につき 7 時間 45 分を割り振るものとする。

(始業、終業)

第 48 条 始業時刻及び終業時刻は、次のとおりとする。

(1) 始業時刻 午前 8 時 30 分 終業時刻 午後 5 時 00 分

(2) 始業時刻 午前 9 時 30 分 終業時刻 午後 6 時 00 分

2 前項に定める始業時刻及び終業時刻は、勤務条件の特殊性、季節的事情等により変更することがある。

3 職員は、育児・介護等の家族的事情により第 1 項に定める始業時刻及び終業時刻の変更を請求することができる。

4 勤務を要する日に、通常勤務場所を離れて勤務する場合で、勤務時間を算定しがたいときは、割り振られた勤務時間を勤務したものとみなす。

(休憩)

第49条 休憩時間は、次のとおりとする。

- (1) 前条第1項第1号の時間帯に勤務する者 正午から午後0時45分まで
- (2) 前条第1項第2号の時間帯に勤務する者 午後1時15分から午後2時00分まで

2 業務のため必要なときは、休憩時間の時間帯を変更することがある。

(休日)

第50条 次の各号に掲げる日は、休日とし、勤務時間を割り振らない日とする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 12月29日から翌年の1月3日までの日(前号の休日は除く。)

(休日の振替)

第51条 休日とされた日において、職員に、業務の都合上勤務することを命ずる必要がある場合には、当該勤務を行う日を起算日とする4週間前の日から当該勤務を行う日を起算日とする8週間後の日までの期間内にある勤務時間が割り振られた日(以下「勤務日」という。)を休日として割り振ることがある。

2 前項によるもののほか、当該期間内にある勤務日の勤務時間のうち、4時間を当該勤務日に割り振ることをやめて当該4時間の勤務時間を当該勤務命令日に割り振ることがある。

(代休日)

第52条 職員に休日に勤務することを命じ、前条第1項の規定による振替を行うことができない場合には、事後に当該休日に代わる日(以下「代休日」という。)として、当該休日後の勤務日等(休日を除く。)を指定することがある。

(専門業務型裁量労働制)

第53条 労基法第38条の3の規定に基づく協定が締結された場合、教育職員(附属学校に勤務する者を除く。)のうち主として研究に従事する者は、労使協定に基づき、職務の遂行の手段及び労働時間の配分等を本人の裁量により行うことができる。

2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲、みなし労働時間など必要な事項は、前項に規定する協定において定める。

3 前項の規定にかかわらず、金沢大学学則第22条に規定する研究域長及び附属病院長については、これを適用しない。

(フレックスタイム制勤務)

第54条 労基法第32条の3の規定に基づく協定が締結された場合、職員は、第46条に規定する勤務時間について、1日7時間45分を標準として、当番日を除き、本人の選択する時間帯において勤務することができる。ただし、始業時間については午前8時00分から午前11時00分までの間に、終業時間は午後4時00分から午後8時00分までの間に設定するものとする。

2 前項の規定の実施につき対象となる職員の範囲，コアタイム，当番日の設定など必要な事項は，前項に規定する協定において定める。

(特別の形態による勤務・変形労働時間制度)

第54条の2 附属病院その他事業運営上の必要から，交替制勤務，変形労働時間制等特別の形態によって勤務する必要がある部局等における職員の休日及び勤務時間の割振りについては，別に定める。

(災害等臨時の必要がある場合の時間外・休日の勤務)

第55条 職員は，災害その他避けることのできない事由によって，臨時の必要がある場合においては，労基法第33条第1項の規定に基づきその必要の限度において，時間外又は休日に勤務することを命じられることがある。

(時間外，休日労働)

第56条 労基法第36条の規定に基づく協定が締結された場合において，本学は，業務上必要があるときは，関係する職員に対してその勤務時間を延長し，又は休日において職務に従事させることがある。

(妊産婦である職員の特例)

第57条 学長は，妊娠中及び産後1年を経過しない職員(以下「妊産婦」という。)が請求したときは，午後10時から翌日の午前5時までの間における勤務(以下「深夜勤務」という。)又は勤務時間外若しくは休日に勤務をさせてはならない。

(育児・介護を行う職員の特例)

第58条 学長は，3歳に満たない子を養育する職員又は負傷，疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員から請求があったときは，当該職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き，勤務時間外に勤務をさせてはならない。

2 学長は，小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員又は負傷，疾病若しくは身体上若しくは精神上の障害により2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族を介護する職員が請求したときは，本学の運営に支障がある場合を除き，深夜勤務をさせてはならない。

3 学長は，前項に掲げる職員から請求があったときは，当該職員の業務を処理するための措置を講ずることが著しく困難である場合を除き，1か月について24時間，1年について150時間を超えて勤務時間外に勤務をさせてはならない。

第2節 休暇等

(有給休暇)

第59条 有給休暇は，年次有給休暇，病気休暇及び特別休暇とする。

(年次有給休暇)

第60条 職員は，一の年ごとに20日の年次有給休暇を取得することができる。ただし，当該年の中途において新たに職員となった者(第3項から第5項までで定める者を除

く。)又は任期が満了することにより退職する者については、別表第2の左欄に掲げる在職期間に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる日数(以下この条において「基本日数」という。)とする。

- 2 年次有給休暇は、20日を限度として当該年の翌年に繰り越すことができる。
- 3 国家公務員、地方公務員等(以下「国家公務員等」という。)から引き続き本学の職員となった者(次項に掲げる者を除く。)については、20日に当該前年の年次有給休暇の残り(当該日数が20日を超える場合は20日)を加えた日数から、職員となった日の前日までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じた日数とする。ただし、当該日数が基本日数に満たない場合にあつては、基本日数とする。
- 4 当該年の中途において国家公務員等となり、その後引き続き本学の職員となった者については、国家公務員等となった日において新たに職員となったものとみなした場合におけるその者の在職期間に応じた基本日数から、引き続き職員となった日の前日までに使用した年次有給休暇に相当する休暇の日数を減じて得た日数とする。
- 5 非常勤職員(国立大学法人金沢大学非常勤就業規則の適用を受けていた者に限る。)から引き続き職員となった者の非常勤職員として付与された年次有給休暇の取扱いについては別に定める。
- 6 第65条第2項の育児短時間勤務の適用を受ける職員の年次有給休暇については一の年ごとに、当該年の在職期間及び1週間の勤務日数に応じ、別表第2の2に掲げる日数とする。
- 7 年次有給休暇は、原則として、日を単位として付与する。職員は、法定付与日数を超える年次有給休暇及び繰越分については、時間を単位として取得することができる。
- 8 第1項及び第3項から第6項までの規定に基づき、年次有給休暇が10日以上与えられた職員に対しては、付与日から1年以内に、当該職員の有する年次有給休暇日数のうち5日について、あらかじめ時季を指定して取得させるものとする。ただし、職員自らが日を単位として年次有給休暇を取得した場合においては、当該取得した日数分を時季を指定して取得させる年次有給休暇(以下「時季指定対象年次有給休暇」という。)の5日から控除するものとする。
- 9 当該年の中途において新たに職員となった者又は任期が満了することにより退職する者に係る時季指定対象年次有給休暇の日数等については、別に定める。

(病気休暇)

第61条 職員は、傷病のため療養する必要がある、勤務しないことがやむを得ないと認められる場合には、病気休暇を請求することができる。

- 2 病気休暇の期間は、療養のため勤務しないことがやむを得ないと認められる必要最小限度の期間とし、1日、1時間又は1分を単位として取り扱う。

- 3 病気休暇は、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし、やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかつた場合には、その事由を付して事後において承認を求めることができる。
 - 4 連続する8日以上の間（当該期間における休日、代休日以外の日数が4日以上である期間に限る。）の病気休暇（次の各号に掲げる事由による病気休暇を除く。以下「特定病気休暇」という。）を取得した職員が通常勤務可能となり、可能となった日から起算して6か月に達するまでの間（以下「同一通算期間」という。）に、同一傷病により再度特定病気休暇を取得した場合は、当該傷病に係る特定病気休暇の期間は連続しているものとみなす。
 - (1) 第63条の定めによるもの
 - (2) 業務上負傷し若しくは疾病にかかり又は通勤により負傷し若しくは疾病にかかったことによるもの
 - (3) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分におけるA又はBの指導区分の決定に応じた事後措置によるもの
 - 5 前項に規定する「6か月」の計算においては、次の各号に掲げる期間を除くものとする。
 - (1) 安全衛生管理規程第28条の規定により同規程別表第3に定める生活規制の面の区分においてAの指導区分の決定を受けた期間及びBの指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準で、休暇(日単位のものを除く。)の方法により勤務を軽減された期間
 - (2) 第59条による休暇及び第50条から第52条による休日等により、連続30日以上勤務実績がない期間
 - (3) 第12条第1項第1号から第10号までの規定による休職期間
 - 6 第4項に規定する同一通算期間に再度特定病気休暇を取得した場合は、当該再度の特定病気休暇から通常勤務可能となった日を当該特定病気休暇に係る同一通算期間の新たな起算日とする。
 - 7 療養期間中の休日等（第50条から第52条に定める休日等をいう。）及びその他の病気休暇の日以外の勤務しない日は、第4項及び前項の規定の適用については、特定病気休暇を使用した日とみなす。
 - 8 第4項から前項までの規定は、試用期間中の職員には適用しない。
(特別休暇)
- 第62条 職員は、別表第3の左欄に掲げる項目に該当する特別の事由により、勤務しないことが相当であると認められるときは、それぞれ同表右欄に掲げる期間を特別休暇として請求することができる。
- 2 特別休暇は、必要に応じて1日、1時間又は1分を単位とする。

3 特別休暇(別表第3第11号, 第12号, 第15号及び第16号に掲げるものを除く。)は, あらかじめ学長の承認を受けなければならない。ただし, やむを得ない事由によりあらかじめ請求できなかった場合には, その事由を付して事後において承認を求めることができる。

4 特別休暇(別表第3第11号, 第12号, 第15号及び第16号に掲げるものに限る。)の請求手続は別に定める。

(生理日の就業が著しく困難な場合)

第63条 生理日の就業が著しく困難な職員が休暇を請求した場合は, 学長は, その者を勤務させない。

2 前項の休暇は, 病気休暇とする。

(規程への委任)

第64条 勤務時間及び休暇等について必要な事項は, 国立大学法人金沢大学職員勤務時間規程に定める。

第3節 休業

(育児休業)

第65条 職員のうち, 3歳に満たない子の養育を必要とする者は, 学長に申し出て育児休業の適用を受けることができる。

2 職員のうち, 小学校就学の始期に達するまでの子の養育を必要とする者は, 学長に申し出て育児短時間勤務又は部分休業の適用を受けることができる。

3 前2項に規定する休業等について必要な事項は, 国立大学法人金沢大学職員の育児休業等に関する規程に定める。

(介護休業)

第66条 傷病のため介護を要する家族を有する職員は, 学長に申し出て介護休業又は介護部分休業(以下「介護休業等」という。)の適用を受けることができる。

2 介護休業等について必要な事項は, 国立大学法人金沢大学職員の介護休業等に関する規程に定める。

(自己啓発等休業)

第66条の2 職員のうち, 自発的な大学等における修学又は国際貢献活動のための休業を希望する者は, 学長に申し出て自己啓発等休業をすることができる。

2 自己啓発等休業について必要な事項は, 国立大学法人金沢大学職員の自己啓発等休業に関する規程に定める。

第6章 研修・出張, 知的財産権

(研修)

第67条 職員は, その職責を遂行するため, 絶えず研究と修養に努めなければならない。

2 職員には, 業務に関する必要な知識及び技能を向上させるため, 研修を受ける機会が与えられなければならない。

- 3 学長は、職員の研修について、研修を奨励するための方策その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。
- 4 教育職員は、本務に支障のない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
- 5 教育職員以外の職員は、業務に関連し、国・学協会等の主催する講習会等に参加する場合、本務に支障がない限り、所属長の承認を得て、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
- 6 職員の研修について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員研修規程に定める。
(出張と研修)

第 68 条 職員は、業務上必要がある場合は、出張を命ぜられる。出張を命ぜられた職員が帰任したときは、速やかに、復命しなければならない。

- 2 旅費に関する必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員旅費規程に定める。
- 3 前条第 4 項の研修にあつて、旅費が支給されない旅行は、研修出張として扱う。
- 4 前条第 5 項の研修にあつて、旅費が支給されない旅行は、自己啓発研修として扱う。
(サバティカル研修)

第 68 条の 2 教育職員は、学長の承認を得て、研究専念期間(以下「サバティカル研修」という。)を取得することができる。

- 2 サバティカル研修中に、研修場所を離れて調査研究をする場合は、必要に応じて出張又は研修の手続きを経るものとする。
- 3 サバティカル研修に関し必要な事項は、国立大学法人金沢大学サバティカル研修規程に定める。
(知的財産権)

第 69 条 本学は、職員がその性質上本学の業務範囲に属し、かつ、その発明をするに至った行為が本学における職員の現在又は過去の職務に属する発明について、特許を受ける権利を職員(以下「発明者」という。)から承継する。

- 2 本学は、前項の発明者の貢献を評価するとともに、利益を得たときは、発明者に対し相当の補償を行う。
- 3 その他知的財産権について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職務発明取扱規程に定める。
(研究成果有体物)

第 70 条 職員によって本学において職務上得られた研究成果有体物は、別段の定めがない限り、本学に帰属する。

- 2 本学は、前項の研究成果有体物について、有償で譲渡がなされた場合、開発した職員の貢献を評価するとともに、当該職員に対し相当の補償を行う。
- 3 その他研究成果有体物について必要な事項は、金沢大学研究成果有体物取扱規程に定める。

第7章 表彰及び懲戒

(表彰)

第71条 職員が、本学の業務等に関し特に功労があつて他の模範とするに足りると認められる場合又はこれに相当すると認められる場合は、表彰する。

2 表彰について必要な事項は、国立大学法人金沢大学表彰規程に定める。

(懲戒)

第72条 職員が、次の各号のいずれかに該当する場合は、所定の手続きの上、懲戒処分を行う。

- (1) この規則その他本学の定める諸規程に違反した場合
- (2) 職務上の義務に違反した場合
- (3) 故意又は重大な過失により本学に損害を与えた場合
- (4) 承認を受けずに遅刻、早退、欠勤する等勤務を怠った場合
- (5) 刑法上の犯罪に該当する行為があつた場合
- (6) 重大な経歴詐称をした場合
- (7) 本学の信用を失墜する行為を行つた場合
- (8) 職務上の地位を利用して、外部の者から金品等のもてなしを受けた場合
- (9) 前各号に準ずる行為があつた場合

2 懲戒の種類及び内容は、次のとおりとする。

- (1) 譴(けん)責 始末書を提出させ、将来を戒める。
- (2) 減給 始末書を提出させるほか、一定の期間給与を減額する。この場合において、減額は、1回の額が平均賃金の1日分の2分の1以内を、処分が2回以上にわたる場合においても、その総額が一給与支払期における10分の1以内で行う。
- (3) 出勤停止 始末書を提出させるほか、一定の期間を定めて出勤を停止し、職務に従事させず、その間の給与は支給しない。
- (4) 諭旨解雇 退職を勧告して解雇する。勧告に応じない場合は、懲戒解雇する。
- (5) 懲戒解雇 即時に解雇する。この場合、所轄労働基準監督署の認定を受けたときは労基法第20条に規定する手当を支給しない。

3 管理監督下にある職員が懲戒に該当する行為があつたときは、当該管理監督者は、監督責任により懲戒を受けることがある。

4 職員の懲戒について必要な事項は、国立大学法人金沢大学職員懲戒規程に定める。

(訓告等)

第73条 懲戒処分の必要がない職員についても、サービスを厳正にし、規律を保持する必要があるときは、訓告、嚴重注意又は注意を文書等により行う。

(損害賠償)

第74条 職員が故意又は重大な過失によって本学に損害を与えたときは、本学は、懲戒処分等を行うほか、その損害の全部又は一部を賠償させる。

第8章 安全衛生及び災害補償等

(安全衛生)

第75条 職員は、安全、衛生及び健康確保について、労働安全衛生法及びその他の関係法令のほか、学長の指示を守るとともに、本学が行う安全、衛生に関する措置に協力しなければならない。

- 2 学長は、職員の健康増進と危険防止のために必要な措置をとらなければならない。
- 3 角間地区事業場、宝町・鶴間地区事業場、宝町地区事業場(附属病院)、平和町地区事業場に安全衛生委員会を設置する。
- 4 職員の安全衛生管理について必要な事項は、国立大学法人金沢大学安全衛生管理規程に定める。

(災害補償)

第76条 職員の業務上の災害については、労基法及び労働者災害補償保険法(以下「労災保険法」という。)の定めるところにより、これらの各補償給付を受ける。

(通勤災害)

第77条 通勤途上における災害については、労災保険法の定めるところにより、同法の各給付を受ける。

(健康診断)

第78条 職員に対して採用時の健康診断及び毎年1回(労働安全衛生法等に定められた者については毎年2回以上)の定期健康診断を行う。

- 2 前項の健康診断のほか、法令で定められた有害業務に従事する職員に対しては、特別の項目について健康診断を行う。
- 3 職員は、正当な理由がなく本学が行う健康診断を拒んではならない。ただし、他の医師の健康診断を受け、その結果を証明する書類を提出した場合は、この限りでない。
- 4 健康診断の結果については、各職員に通知する。学長は、健康診断の結果により、必要があると認めるときは、職員に対し、就業時間の短縮、職務の変更その他健康保持上必要とする措置を命ずることがある。

第9章 雑則

(宿舍の利用)

第79条 職員の宿舍の利用については、国立大学法人法附則第13条及び関連する規定の定めるところによる。

(法令との関係)

第80条 この規則の定める労働条件等が法令の定める労働条件等の基準に達しない場合、この規則の当該部分は適用されず、法令の定めるところによる。

(労働協約との関係)

第81条 この規則と異なる労働協約の適用を受ける職員については、この規則の当該部分は適用せず、労働協約の定めるところによる。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則に基づく規程については、当該規程が整備されるまでの間、平成 16 年 4 月 1 日以前に本学に適用された、相当する規程の例による。
- 3 第 17 条第 2 項の規定にかかわらず、施行日の前日に行政職俸給表(二)の適用を受ける職員のうち、用務員の地位にあるものの定年は、63 歳とする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 16 年 12 月 2 日から施行する。
(寒冷地手当の廃止に伴う経過措置)
- 2 平成 16 年 12 月 1 日から引き続き在職する職員(第 2 条に定める職員をいい、外国人研究員及び第 19 条により再雇用された職員を除く。)のうち、平成 16 年から平成 19 年までの毎年 11 月から翌年 3 月までの各月の初日(以下「基準日」という。)において在職する者については、改正後の第 33 条の規定にかかわらず、国立大学法人金沢大学職員給与規程の一部を改正する規程(平成 16 年規程第 155 号)附則第 2 項の定めるところにより、寒冷地手当を支給する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成 16 年 10 月 29 日に在職する者及び平成 16 年 10 月 29 日の翌日から平成 16 年 12 月 1 日までに採用された者の平成 16 年度における寒冷地手当の支給は、従前のおりとする。
(支給日及び支給方法)
- 4 第 2 項による寒冷地手当は、基準日の属する月の給与支給日(第 34 条に定める給与の支給日をいう。)に支給する。ただし、前項が適用される職員の平成 16 年度の支給日は、12 月の給与支給日とする。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 6 月 30 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に本学の職員である者については、改正後の第 60 条第 2 項の規定は平成 25 年 1 月 1 日から適用する。
- 3 この規則による改正後の規則の適用を受ける職員が、労働契約法(平成 19 年法律第 12 号)第 18 条第 1 項の規定に基づき労務が提供される期間の定めのない労働契約の締結の申込みをしたときは、当該申込に係る期間の定めのない労働契約の内容である労働条件は、当該労働契約の締結の申込みを行った際に現に締結している有期労働契約の内容である労働条件(契約期間を除く。)と同一の労働条件(当該労働条件(契約期間を除く。))について別段の定めがある部分を除く。)とする。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 27 年 11 月 20 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 29 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 29 年 3 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 第 12 条第 4 項の規定は、この規則の施行日の前日に、安全衛生管理規程第 28 条の規定により同規程別表第 3 に定める生活規制の面の区分において B の指導区分の決定を受け、当該指導区分に応じた事後措置の基準により勤務時間を軽減されている職員の引き続き勤務時間を軽減する期間並びに第 12 条第 1 項第 1 号により休職とされた職員の当該休職及び病気休暇中である職員の当該病気休暇又は当該病気休暇に引き続き休職に伴う事後措置として勤務時間を軽減する期間について、同項中、「6 か月を超える場合」とあるのは、「1 年を超える場合」と読み替えるものとする。
- 3 第 13 条第 2 項の規定は、この規則の施行日の前日に、第 12 条第 1 項第 1 号により休職となっている職員及び特定病気休暇中である職員(引き続き病気休職の期間を含む。)の引き続き当該休職期間については、適用しない。
- 4 第 61 条第 4 項の規定は、この規則の施行日の前日に、特定病気休暇中である職員の引き続き当該休暇期間については、適用しない。

附 則

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 7 条の規定にかかわらず、教育職員以外の職員のうち、この規則の施行日の前日に在職する者及び規則の施行日から 2020 年 3 月 31 日までに採用された者の試用期間は、従前のおりとする。
- 3 第 60 条第 8 項及び第 9 項の規定は、平成 31 年 4 月 1 日以降に付与された年次有給休暇について適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和元年 7 月 1 日から施行する。
- 2 令和元年において、改正後の別表第 3 (特別休暇) の規定のうち 16 「職員が夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合」の「特別休暇付与日数」欄ただし書き中「一の

年における」とあるのは、「一の年の6月から12月までの期間内における」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年6月1日から施行する。ただし、第10条の2の改正規定は令和2年4月20日から適用する。

附 則

この規則は、令和3年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年10月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、令和4年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行日の前日に職員として在職し、施行日に引き続き在職する職員に令和4年1月1日に付与する年次有給休暇の日数については、第60条第1項の規定により付与される日数に、施行日の前日における年次有給休暇の残日数（当該残日数が30日以上るときは、30日とする。）を加えた日数とする。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

別表第1(規則第13条, 14条関係)

(休職)

休職事由	期間	給与支給率	在職期間調整
第12条第1項第1号 (傷病)	3年以内	業務上の場合 休職期間中 100/100以内	3/3
		私傷病 1年間 80/100以 内	1/3
		上記以外の期間 支給しな い	

第12条第1項第2号 (刑事事件)	事件が裁判所に係属する期間	60/100 以内	無罪判決の場合 3/3
第12条第1項第3号 (出向)	個別に応じて	100/100 以内	3/3
第12条第1項第4号 (研究)	3年以内 2年の更新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第5号 (共同)	5年以内	70/100 以内	3/3
第12条第1項第6号 (役員等)	3年以内 2年の更新が可能	支給しない	3/3
第12条第1項第7号 (派遣)	5年以内	70/100 以内	3/3
第12条第1項第8号 (専従)	5年以内	支給しない	2/3
第12条第1項第9号 (行方不明)	3年以内	業務上の場合 100/100 以内 上記以外の場合 70/100 以内	3/3 1/3
第12条第1項第10号 (特別事情)	事例に応じて個別に決定	事例に応じて個別に決定	事例に応じて個別に決定

別表第2(規則第60条関係)

(年次有給休暇)

在職期間	日数
1月に達するまでの期間	2日
1月を超え2月に達するまでの期間	3日
2月を超え3月に達するまでの期間	5日
3月を超え4月に達するまでの期間	7日
4月を超え5月に達するまでの期間	8日
5月を超え6月に達するまでの期間	10日
6月を超え7月に達するまでの期間	12日
7月を超え8月に達するまでの期間	13日
8月を超え9月に達するまでの期間	15日
9月を超え10月に達するまでの期間	17日
10月を超え11月に達するまでの期間	18日
11月を超え1年未満の期間	20日

別表第2の2(規則第60条関係)

(育児短時間勤務者の年次有給休暇)

在職期間	1 週間の勤務日数	日数
1 月に達するまでの期間	5 日	2 日
	3 日	1 日
1 月を超え 2 月に達するまでの期間	5 日	3 日
	3 日	2 日
2 月を超え 3 月に達するまでの期間	5 日	5 日
	3 日	3 日
3 月を超え 4 月に達するまでの期間	5 日	7 日
	3 日	4 日
4 月を超え 5 月に達するまでの期間	5 日	8 日
	3 日	5 日
5 月を超え 6 月に達するまでの期間	5 日	10 日
	3 日	6 日
6 月を超え 7 月に達するまでの期間	5 日	12 日
	3 日	7 日
7 月を超え 8 月に達するまでの期間	5 日	13 日
	3 日	8 日
8 月を超え 9 月に達するまでの期間	5 日	15 日
	3 日	9 日
9 月を超え 10 月に達するまでの期間	5 日	17 日
	3 日	10 日
10 月を超え 11 月に達するまでの期間	5 日	18 日
	3 日	11 日
11 月を超える期間	5 日	20 日
	3 日	12 日

別表第 3(規則第 62 条関係)

(特別休暇)

特別休暇の事由・期間	特別休暇付与日数
1 職員が公職選挙法(昭和 25 年法律第 100 号)に規定する選挙権のほか、最高裁判所の裁判官の国民審査及び普通地方公共団体の議会の議員又は長の解職の投票に係る権利等を行行使する場合で、勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。	必要と認められる期間
2 職員が裁判員、証人、鑑定人、参考人	必要と認められる期間

<p>等として国会，裁判所，地方公共団体の議会その他官公署へ出頭する場合で，その勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。</p>	
<p>3 職員が骨髄移植のための提供希望者としてその登録を実施する者に対して登録の申出を行い，又は骨髄移植のため配偶者，父母，子及び兄弟姉妹以外の者に骨髄液を提供する場合で，当該申出又は提供に伴い必要な検査，入院等のため勤務しないことがやむを得ないと認められるとき。</p>	<p>必要と認められる期間</p>
<p>4 職員が自発的に，かつ，報酬を得ないで次に掲げる社会に貢献する活動(専ら親族に対する支援となる活動を除く。)を行う場合で，その勤務しないことが相当であると認められるとき。</p> <p>(1) 地震，暴風雨，噴火等により災害救助法(昭和22年法律第118号)による救助が行われる程度の規模の災害が発生した市町村(特別区を含む。)又はその属する都道府県若しくはこれに隣接する都道府県における生活関連物資の配布，居宅の損壊，水道，電気，ガスの遮断等により日常生活を営むのに支障が生じている者に対して行う炊出し，避難場所での世話，がれきの撤去その他必要な援助作業等の被災者を支援する活動</p> <p>(2) 身体障害者療養施設，特別養護老人ホームその他主として身体上若しくは精神上的の障害がある者又は負傷し，若しくは疾病にかかった者に対して必要な措置を講ずることを目的とする施設における活動で学長が認める施設における活動</p> <p>(3) (1)及び(2)に掲げる活動のほか，身体上若しくは精神上的の障害，負傷又は疾病により常態として日常生活を営むのに支障がある者に対して行う調理，衣類の洗濯及び補修，慰問その他直接的な援助を行う活動</p>	<p>一の年において5日の範囲内の期間</p>
<p>5 職員が結婚の日の5日前から当該結婚の日後1年を経過するまでに，結婚式，旅行その他結婚に伴い必要と認められる行事</p>	<p>連続する5日の範囲内の期間</p>

等のために勤務しないことが相当であると認められるとき。	
6 分娩予定日から起算して8週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)以内に出産する予定である女性職員が申し出た場合	出産の日までの申し出た期間
7 女性職員が出産(妊娠満12週以後の分娩をいう。以下同じ。)した場合	出産の日の翌日から8週間を経過するまでの期間(産後6週間を経過した女性職員が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く。)
8 生後1年に達しない子を育てる職員が、その子の保育のために必要と認められる授乳、託児所への送迎等を行う場合	1日2回それぞれ30分以内の期間(その子の当該職員以外の親が当該職員がこの号の休暇を使用しようとする日におけるこの号の休暇(これに相当する休暇を含む。)を承認され、又は労基法第67条の規定により同日における育児時間を請求した場合は、1日2回それぞれ30分から当該承認又は請求に係る各回ごとの期間を差し引いた期間を超えない期間)
9 職員の妻(届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。次号において同じ。)が出産するために病院に入院する等の日から当該出産の日後2週間を経過する日までに、その出産に伴い勤務しないことが相当であると認められる場合	2日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)
10 職員の妻が出産する場合であって、その出産予定日の8週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)前の日から当該出産の日後8週間を経過する日までの期間において、当該出産に係る子又は小学校就学の始期に達するまでの子(妻の子を含む。)を養育する職員が、これらの子の養育のため勤務しないことが相当であると認められる場合	当該期間における5日の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)
11 小学校就学の始期に達するまでの子(配偶者の子を含む。)を養育する職員が、その子の看護(負傷し、若しくは疾病にかかったその子の世話又は疾病の予防を図るためにその子の世話を行うことをいう。)のため申し出た場合	一の年において5日(その養育する小学校就学の始期に達するまでの子が2人以上の場合にあっては、10日)の範囲内の期間(1日又は1時間単位で取得可能)
12 負傷、疾病若しくは老齢により2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支	一の年において5日(要介護家族が2人以上の場合にあっては、10日)の範囲内の期

障がある家族(以下この号において「要介護家族」という。)の介護, 要介護家族の付添い, 要介護家族が介護サービスを受けるために必要な手続きの代行その他の要介護家族の必要な世話をを行う職員が, 当該世話をを行うため申し出た場合	間(1日又は1時間単位で取得可能)
13 職員の親族(別表[1]の親族欄に掲げる親族に限る。)が死亡した場合で, 職員が葬儀, 服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	親族に応じ同表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては, 往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間
14 職員が父母の追悼のための特別な行事(父母の死亡後15年以内のものに限る。)のため勤務しないことが相当であると認められる場合	1日の範囲内の期間
15 職員の勤務する部局で夏季一斉休業が実施される場合	一の年の8月14日から8月16日までの期間(8月14日から8月16日のいずれかが休日と重なる場合にあっては, その重なる日数分を13日以前で直近の休日以外の日に振り替えるものとし, 8月14日が火曜日となる場合にあっては, 8月13日から8月15日までの期間とする。)。ただし, 学長が本学の運営上特に必要と認めた場合は, この期間を変更することができる。
16 職員が夏季における盆等の諸行事, 心身の健康の維持及び増進又は家庭生活の充実のため勤務しないことが相当であると認められる場合	一の年の7月から9月までの期間内における休日及び代休日を除く3日の範囲内の期間。ただし前号の夏季一斉休業の実施されない部局においては, 一の年における休日及び代休日を除く6日の範囲内の期間(いずれも1日単位で取得可能)
17 地震, 水害, 火災その他の災害により職員の現住居等が滅失し, 又は損壊した場合で, 職員が当該住居等の復旧作業等のため勤務しないことが相当であると認められるとき。	5日の範囲内の期間(1日単位で取得可能)
18 地震, 水害, 火災その他の災害又は交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められる場合	必要と認められる期間
19 地震, 水害, 火災その他の災害時において, 職員が通勤途上における身体の危険を回避するため勤務しないことがやむを得	必要と認められる期間

ないと認められる場合	
20 国立大学法人金沢大学表彰規程（以下「表彰規程」という。）第6条に該当する職員で、心身のリフレッシュを図るため勤務しないことが相当であると認められる場合	表彰規程第6条に規定する勤労感謝の日の翌日から翌年の勤労感謝の日の前日までの間の休日を除く連続する3暦日の範囲内の期間
21 職員が不妊治療を行う場合で、入院又は通院するため勤務しないことが相当であると認められる場合	一の年において5日（頻繁な通院等を要する場合にあっては、10日）の範囲内の期間（1日又は1時間単で取得可能）

別表 [1]

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母	3日（職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日）
孫	1日
兄弟姉妹	3日
おじ又はおば	1日（職員が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあっては7日）
父母の配偶者又は配偶者の父母	3日（職員と生計を一にしていた場合にあっては7日）
子の配偶者又は配偶者の子	1日（職員と生計を一にしていた場合にあっては5日）
祖父母の配偶者又は配偶者の祖父母	1日（職員と生計を一にしていた場合にあっては3日）
兄弟姉妹の配偶者又は配偶者の兄弟姉妹	
おじ又はおばの配偶者	1日

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
① 学生の確保の見通し.....	2
ア) 定員充足の見込み	2
イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
ウ) 学生納付金の設定の考え方.....	8
② 学生確保に向けた具体的な取組状況.....	8
(2) 人材需要の動向等社会の要請.....	9
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	9
② 上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠.....	10

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

金沢大学（以下、「本学」と表記。）は、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を養成する人材像として、既存の学域の知見を結集し、学士課程において融合学域スマート創成科学類（以下、「本学類」と表記。）を設置することとしている。

本学類では、文理融合型のオーダーメイドによる教育課程を編成し、学びの計画書を軸とした手厚い履修指導によるバックキャスト学修を行うことに鑑み、本学類の入学定員は、以下の表1のとおり、1年次20名、3年次編入学20名に設定する。

表1 入学定員

学類	区分	入学定員
融合学域スマート創成科学類	1年次	20名
	3年次編入学	20名

この入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、アンケート調査を以下のとおり実施した。

○「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」

（【資料1】参照）

調査方法：郵送調査

調査期間：2022年1月～2022年3月

調査対象：本学への志願者が多い全国の高等学校53校の2年次の生徒（2,538名）

※令和5年度入学予定者を想定

○「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」

（【資料2】参照）

調査方法：郵送及びWeb調査

調査期間：2022年1月～2022年3月

調査対象：全国の高等専門学校62校の2年次の学生（343名）

○「『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」（【資料3】参照）

調査方法：Web調査

調査期間：2022年3月

調査対象：本学類のWebサイト訪問者のうち、社会人（15名）

その結果、本学類において設定した入学定員については、適切な選抜がなされた上で、安定的に確保することが可能であり、十分な定員充足が見込まれると判断される。

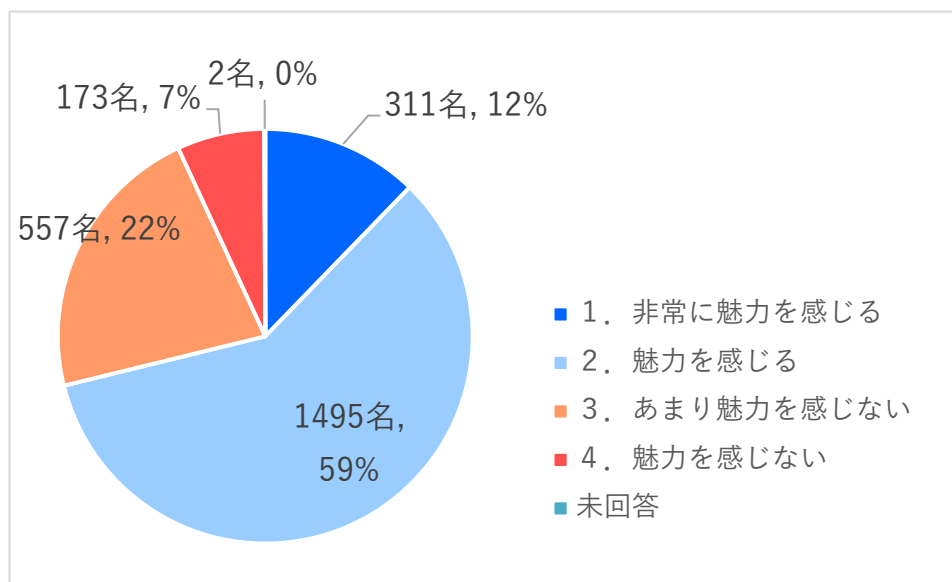
イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

○1 年次

令和5年度入学予定者を想定し、本学4年制学類への志願者が多い全国の高等学校53校の2年次の生徒2,538名を対象とする「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」（【資料1】参照）による調査の結果は、次のとおりである。

“超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」をどう思いますか？”について調査した結果、図1のとおり、「非常に魅力を感じる」又は「魅力を感じる」と回答し、本学類に対し関心を示した高校生は70%以上であった。

図1 “超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」をどう思いますか？”に対する回答
(単位：名)



また、“スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ等、地域社会や産業界と連携した実践的な教育についてどう思いますか？”について調査した結果、図2のとおり、「非常に魅力を感じる」又は「魅力を感じる」と回答し、本学類における実践的な教育に対し関心を示した高校生は70%以上であった。

図2“スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ等、地域社会や産業界と連携した実践的な教育についてどう思いますか？”に対する回答（単位：名）

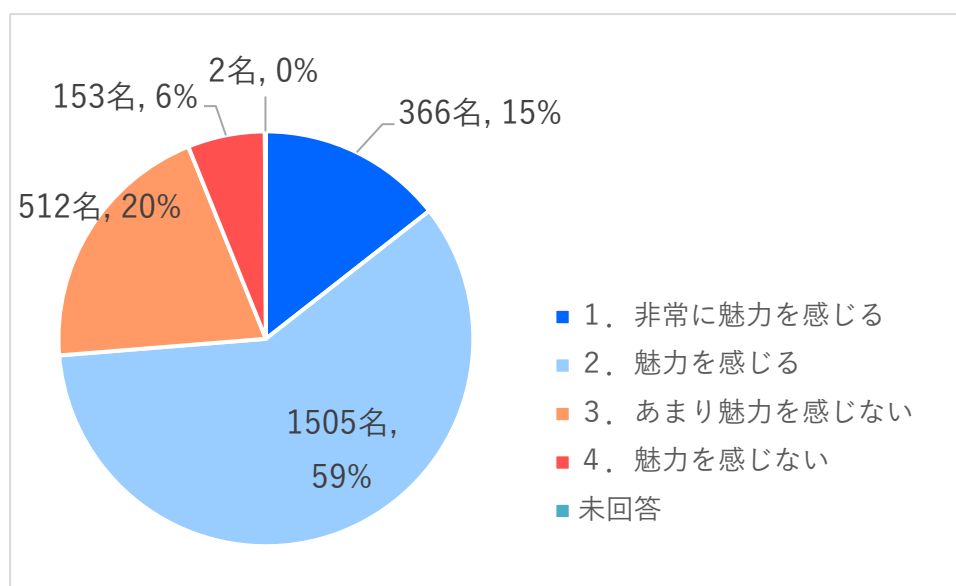
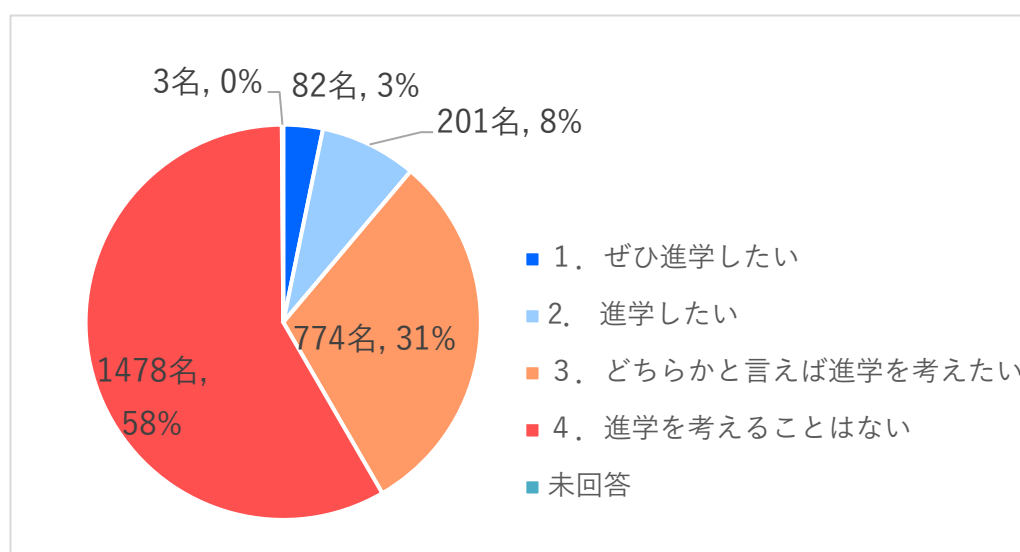


図1及び図2の調査結果から、本学類における文理融合型教育で学ぶ「スマート創成科学」や、スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ等の実践的な教育について、多くの高校生が肯定的な意見を有していることが伺える。

次に、“科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？”について調査した結果、本学類に「非常に魅力を感じる」と回答した高校生は341名（13.4%）であった。

また、“新学類「スマート創成科学類（仮称）」に“ぜひ進学したい”又は“進学したい”と進学
の意思を示す回答をした高校生は、図3のとおり、283名（11%）であった。

図3“文系・理系等、現在のご自身の学習を問わず、新学類「スマート創成科学類（仮称）」に進学したいと思いますか？”に対する回答（単位：名）



本アンケートは、本学4年制学類への志願者が多い全国の高等学校の2年次の生徒を対象としているものであり、その他の全国の高等学校においても潜在的な多数の志願者が想定されることから、本学類における入学定員の設定20名は、十分な競争性を担保した上で定員を充足できるものであると言える。

また、自由記述により「授業にあったらいいと思う分野やキーワード」等を質問した結果、表2のとおり、超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」に関心を示す回答を多く得ている。これらは本学類で扱うものが多く、学生の興味と合致するものといえることができる。

表2 自由記述“授業にあったらいいと思う分野やキーワード、知りたいこと等”に対する回答（抜粋）

アンケート設問	回答（抜粋）
“授業にあったらいいと思う分野やキーワード、知りたいこと等を自由に記入してください。”	スマート農業 国政投票 資産運用 AI VR IoT AIRを使った医療・医学 SDG s BMI（ブレイン・マシン・インターフェース） センサー ソフト開発 デザイン 商品開発 メタバース 仮想世界を利用した世界中の人とのコミュニケーション 住宅 自然 防災系 統計学 機械学習

なお、入学ニーズが多いことから、入学定員を大きく設定することも考えられるが、本学類において養成する人材、課程編成、教育方法等の特殊性や学生個人々人への手厚い学修指導体制の構築や、3年次編入学学生を含めたダイバーシティ環境の構築の観点等に鑑み、本学類の1年次入学定員を20名に設定し開設する。

○編入学

本学類においては、高等専門学校、社会人の3年次編入学を想定し、定員20名を設定している。この編入学のニーズを把握するために、全国の高等専門学校学生を対象に実施した郵送・Web調査「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」（【資料2】参照）の結果は、図4及び図5のとおりである。

図4“科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？”に対する回答（単位：名）

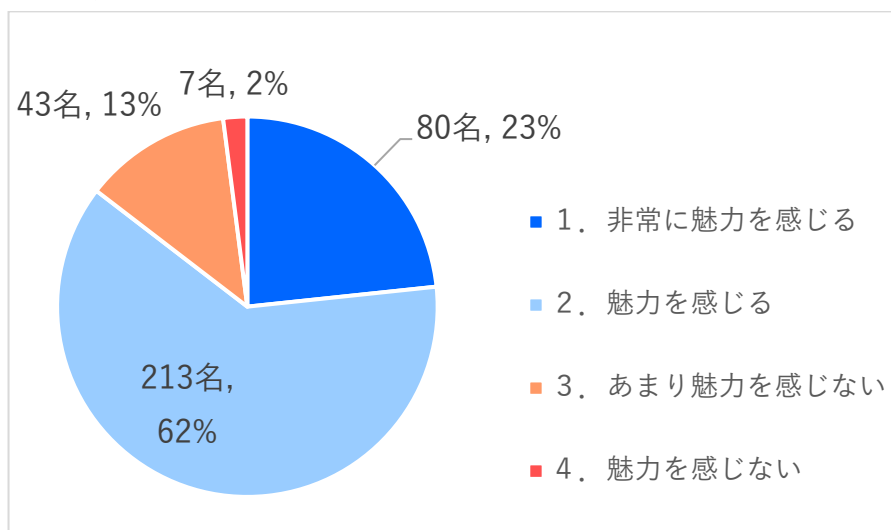
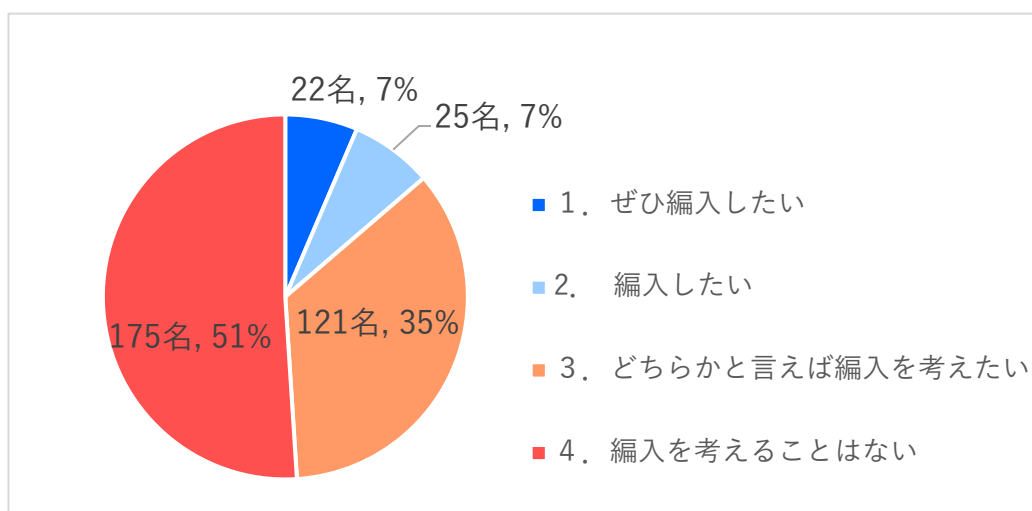


図5“新学類「融合学域スマート創成科学類(仮称)」に3年次編入学したいと思いますか？”に対する回答（単位：名）



上記アンケートによれば、本学類に「非常に魅力を感じる」又は「魅力を感じる」と回答した者は、図4のとおり、293名（85%）であり、また、“ぜひ編入学したい”又は“編入学したい”と本学類への3年次編入学に前向きな意思を示した者は、図5のとおり47名（14%）であった。

また、本学 Web サイトを訪れた社会人を対象に実施した Web 調査「『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」（【資料 3】参照）の結果は、図 6 及び図 7 のとおりである。

図 6 “科学技術の基礎から正確・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業 DX を主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？”に対する回答（単位：名）

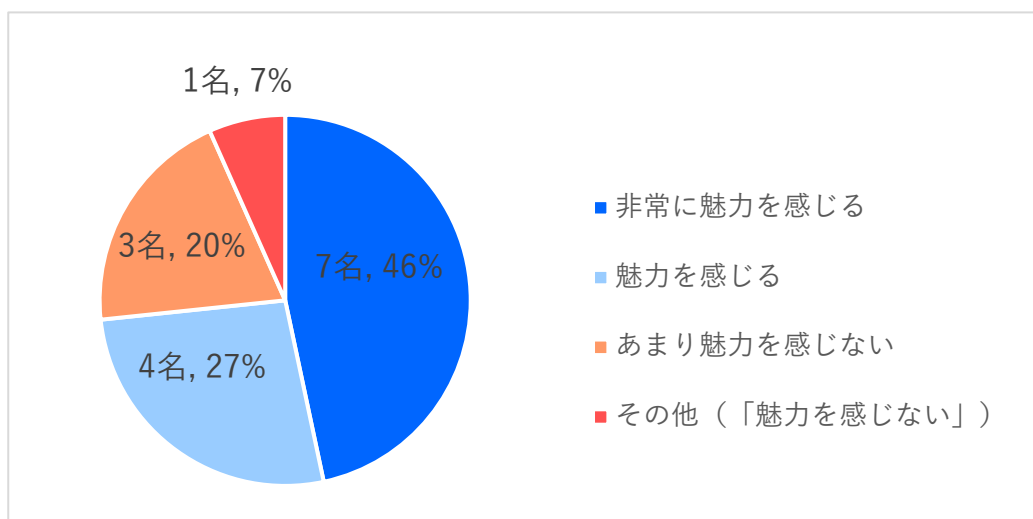
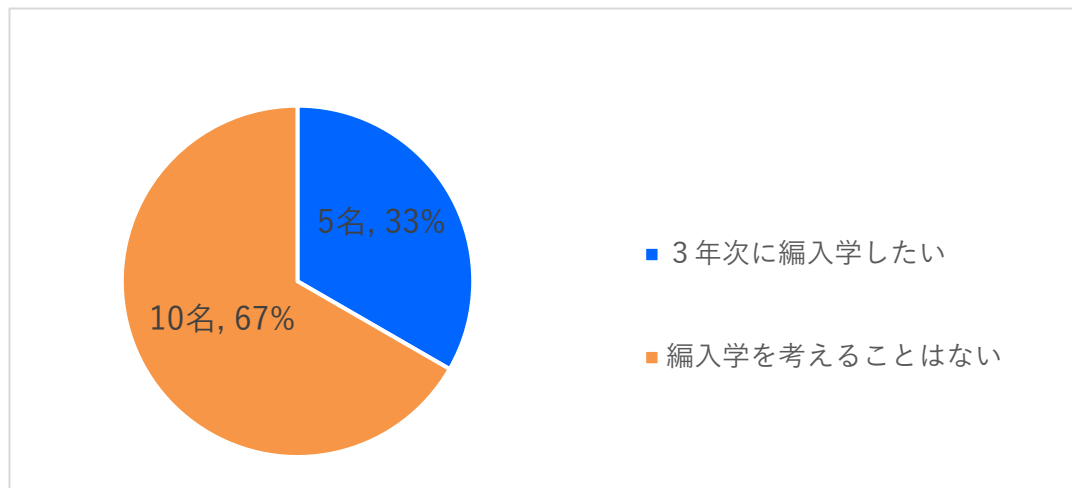


図 7 “新たな学類「融合学域スマート創成科学類（仮称）」に 3 年次編入学したいと思いましたが”に対する回答（単位：名）



上記アンケートによれば、本学類に「非常に魅力を感じる」又は「魅力を感じる」と回答した者は図 6 の通り 11 名であり、また、本学類への 3 年次編入学に前向きな意思を示した者は図 7 のとおり 5 名であった。

以上のアンケートから、設定した編入学定員 20 名は、十分に定員充足することが見込まれる。また、1 年次から入学する学生もあわせて、学類において養成する人材、課程編成、教育方法等の特殊性や学生個人々人への手厚い学修指導体制の構築等に鑑み、本学類の 3 年次編入学定員を 20 名に設定し開設する。

ウ) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16 年 3 月 31 日文科科学省令第 16 号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、本学において設定する。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、学生募集の専門部署として入試課を、広報の専門部署として広報室を設置し、全学の学生募集・広報活動を統括しているほか、個々の学域・学類においても委員会を設置し、広報活動を展開している。

なお、今後の広報活動として、入試課及び広報室の下、対象者のニーズ等を踏まえた広報行事を実施する予定であるほか、学生募集活動を担う学域独自の委員会を設置し、学生募集・広報活動に用いるパンフレットの作成や、Web サイトを構築することとしている。さらに、同委員会委員が北陸三県の高等学校へ出向き、本学類に関する説明を行う他、例年 8 月・10 月に開催している高校 2 年次以上の生徒を対象としたキャンパスビジットにおいて本学類の説明を行うことを予定しており、その認知度を高めるための取組みを行うこととしている。

さらに、留学生の確保に向け、本学と学生交流協定を締結している海外の大学への案内と周知を行うほか、高校生のリクルーティングと渡日前指導を行う教員を配置し、その確保に努める。

以上のとおり、本学類に関する広報活動を丁寧に行うことにより、十分な志願者及び入学者の確保が見込まれると判断される。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

我が国の強みである科学技術のインフラと人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」により社会課題の解決を行う人材の養成が急務であり、本学では、社会課題を認識した上で、デジタル化を中心とする科学技術を進展させる人材の養成を進める必要がある。

現状認識に立ち、本学では、様々な分野で進んでいく「サイバー空間とフィジカル空間の融合」を軸に未来の科学を創成するイノベーション人材の育成が必要と考えた。特に、デジタル化を中心とした最新の科学技術の基礎を理解した上で、人文科学、社会科学の知を融合させ、社会課題の解決に科学技術の面から取り組む人材育成が必要である。

「地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材」が必要であると考えた。その養成のために、「スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するXR技術等を活用し、未来の科学を創成」することを「スマート創成科学」と定義づけ、社会課題を学びながら、AI・数理データサイエンス、予測シミュレーション技術、人間拡張技術(HA)、仮想現実(VR・ARなど)、ブロックチェーン、自動運転、脳科学など必要となる技術を網羅的に学び、未来社会を切り拓く人材を養成するため、「融合学域スマート創成科学類」の設置が必要である。

これまでも本学は、新たな知の創出に向けた分野融合型の教育研究の重要性について早くから認識し、教員組織と教育組織を分離した上で、学士課程の教育改革として、平成20年度に学域学類制を導入し、人間社会学域、理工学域、医薬保健学域の3学域体制に再編した。この教員組織と教育組織を分離する教育改革により、柔軟な教員配置が可能となり、これまで、それぞれの分野において“専門性の高い教育による深い知識修得”と“学問領域の連携による総合的知見の醸成”を行ってきた。平成27年度には、本学に優位性のある研究の更なる強化と分野融合型研究の推進、国際頭脳循環の拡充を一体的に推し進めるため、新学術創成研究機構を設置しており、その成果として平成29年度にはWPI事業に採択され、新たにナノ生命科学研究所の設置に至っている。こうした実績を基に、新たな教育改革として、“地球規模で急速に起こっている社会の変容や科学の進展を的確に踏まえた上で、表出する複層的な諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、新たな「知」を社会へ展開する意欲と素養を身に付けた社会変革を先導する人材の養成”に向け、分野融合型教育に特化した融合学域先導学類を令和3年度に設置し、更に令和4年度には同学域に観光デザイン学類を新設した。

本学類においては、地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成し、社会を切り拓く人材の養成を目指していく。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

地域的な人材需要の動向を把握するため、「金沢大学融合学域『スマート創成科学類(仮称)』設置構想アンケート」を以下のとおり実施した。

○「金沢大学融合学域『スマート創成科学類(仮称)』設置構想アンケート」

(【資料4】参照)

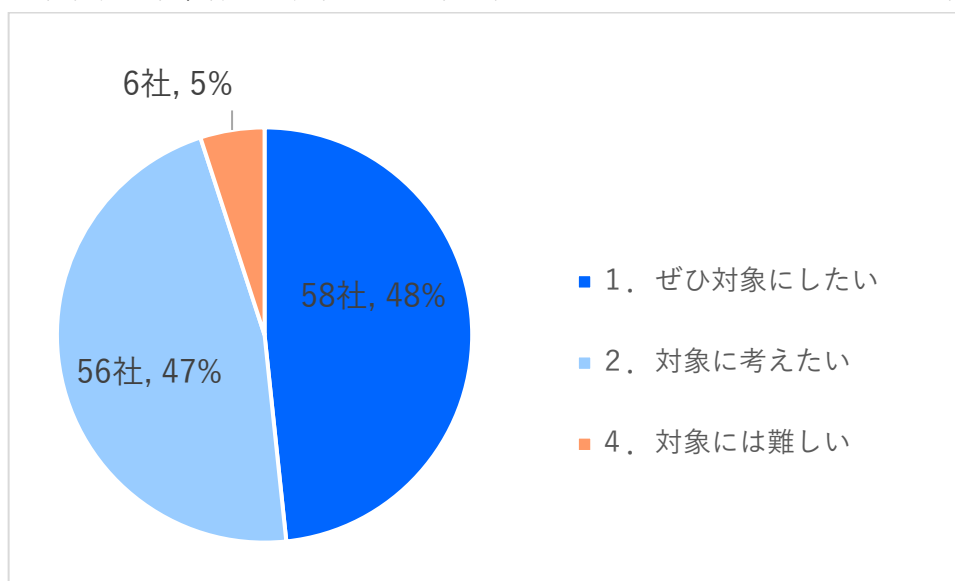
調査方法：郵送調査

調査期間：2022年2月～2022年4月

調査対象：求人・求職において本学と関連のある企業等 338社

その結果、図8のとおり、本学類の卒業生に対して、採用を考える(正規雇用の選考対象とする)企業は、回答のあった120社のうち95%の114社にも昇っていることから、高い需要が見込まれており、本学類における教育が社会的な人材需要の動向を十分に踏まえたものであると判断する。

図8 “本学類の卒業生を正規雇用で選考対象にさせていただきますか”に対する回答



※選択肢にある「あまり対象にしたくない」を選択した者はいなかった。

また、自由記述により「大学で教育が必要と思われるキーワード、求める人材像等」を質問したところ、「マーケティング」「統計学」「IT分野」「最先端の技術」「グローバル思考」等、本学類の養成する人材像とも合致する回答も多く得ている。

表3 自由記述“授業にあったらいいと思う分野やキーワード、知りたいこと等”に対する回答（抜粋）

アンケート設問	回答（抜粋）	
“大学で「教育が必要」と思われるキーワード、求める人材像等自由にご記入ください。”	キーワード	統計、データサイエンス ソフトウェア 自治体DXの推進 論理的思考・表現 広い分野 建設DX IT分野・ICT技術の利活用 MaaS
	人材像	ゴールまでのプロセス、スケジュールを自分の力で考え、実行（協力を得ることも含む）できる人材 あらゆる業界の現場の最前線を理解した上で、効率的・革新的な研究を行い、現場で実用化できる人材

上記の企業アンケートのほか、石川県の企業団体に聞き込み調査を行ったところ、中小企業の生産性の向上が必要、文理を問わず幅広い知識・視野をもつ人材が必要、AI,5G,xR,DX,Society 5.0等、IoTリテラシーのある人材の育成と地域への人材定着が必要等の望んでいる企業が多々存在することが確認された。

これらの聞き込み調査結果を踏まえると、年80名程度の人材需給が見込め、本学類における教育が社会的な人材需要の動向を十分に踏まえたものであると判断する。

以上のアンケート調査等の結果により、本学類において養成する人材は、社会的、地域的な人材需要のニーズを的確に踏まえたものであると判断される。

金沢大学 融合学域 スマート創成科学類

学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）

目 次

資料 1 「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」	2
調査方法：郵送調査	
調査期間：2022年1月～2022年3月	
調査対象：本学への志願者が多い全国の高等学校53校の2年次の生徒（2,538名） ※令和5年度入学予定者を想定	
資料 2 「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」	3
調査方法：郵送及びWeb調査	
調査期間：2022年1月～2022年3月	
調査対象：全国の高等専門学校62校の2年次の学生（343名）	
資料 3 「『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」	4
調査方法：Web調査	
調査期間：2022年3月	
調査対象：本学類のWebサイト訪問者のうち、社会人（15名）	
資料 4 「金沢大学融合学域『スマート創成科学類（仮称）』設置構想アンケート」	5
調査方法：郵送調査	
調査期間：2022年2月～2022年4月	
調査対象：求人・求職において本学と関連のある企業等338社	
資料 5 アンケート添付資料（資料1～4共通）	6

金沢大学は、広範な分野にわたる教養と文理融合の専門的知識を修め、**仮想と現実の高度な融合を活用して次代の科学を創成し、未来社会を切り拓く人材を養成する**ため、令和5（2023）年4月に新たな学類の設置を構想しています。その初年度入学者となる現在の高校2年次の皆様のご意見を、この構想に活かしたく思います。裏面の「スマート創成科学類（仮称）設置構想」を一読のうえ、ぜひアンケートにご協力ください。

【現時点での進路希望先等は気にせず回答してください】

【回答↓】

Q1. 現在のクラスの系統は？

1. 文系 2. 理系 3. 総合系 4. 職業系 5. その他

Q 1	
--------	--

Q2. 超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」をどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q 2	
--------	--

Q3. スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ等、地域社会や産業界と連携した実践的な教育についてどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q 3	
--------	--

Q4. 科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q 4	
--------	--

Q5. 文系・理系等、現在のご自身の学習を問わず、新学類「スマート創成科学類（仮称）」に進学したいと思いますか？

1. ぜひ進学したい 2. 進学したい 3. どちらかと言えば進学を考えたい 4. 進学を考えることはない

Q 5	
--------	--

Q6. 授業にあったらいいと思う分野やキーワード、知りたいこと等を自由に記入してください。

回 答	
--------	--

Webでの回答は
こちらから



アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。学校単位でご返送願います。

☆ 回答は統計的に処理します ☆

金沢大学は、広範な分野にわたる教養と文理融合の専門的知識を修め、**仮想と現実の高度な融合を活用して次代の科学を創成し、未来社会を切り拓く人材を養成する**ため、令和5（2023）年4月に新たな学類の設置を構想しています。設置の2年後には3年次編入学生の受入れも予定しており、皆様のご意見をこの構想に活かしたく思います。裏面の「スマート創成科学類（仮称）設置構想」を一読のうえ、ぜひアンケートにご協力ください。

【現時点での進路希望先等は気にせず回答してください】

【回答↓】

Q1. 現在の学科の系統は？

1. 機械・材料系 2. 電気・電子系 3. 情報系 4. 化学・生物系 5. 建設・建築系
6. その他工業（総合、複合等） 7. その他

Q	
1	

Q2. 超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」をどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q	
2	

Q3. スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ等、地域社会や産業界と連携した実践的な教育についてどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q	
3	

Q4. 科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q	
4	

Q5. 新学類「スマート創成科学類（仮称）」に3年次編入したいと思いませんか？

1. ぜひ編入したい 2. 編入したい 3. どちらかと言えば編入を考えたい 4. 編入を考えることはない

Q	
5	

Q6. 授業にあったらいいと思う分野やキーワード、知りたいこと等を自由に記入してください。

回	
答	

Webでの回答は
こちらから



アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。学校単位でご返送願います。

☆ 回答は統計的に処理します ☆

「スマート創成科学類（仮称）」設置構 想 アンケート

Webサイトをご覧いただきありがとうございます。金沢大学は、広範な分野にわたる教養と文理融合の専門的知識を修め、仮想と現実の高度な融合を活用して次代の科学を創成し、未来社会を切り拓く人材を養成するため、令和5（2023）年4月に新たな学類の設置を構想しています。この構想に当たり、編入学を設定しており、Webサイトをご覧になった社会人の皆様のご意見を、この構想に活かしたく思います。ぜひアンケートにご協力ください（個人情報収集しません）。

*必須

科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？。次から選択してください。

- 非常に魅力を感じる
- 魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- その他: _____

このWebサイトを見て、新たな学類「融合学域スマート創成科学類（仮称）」に3年次編入学したいと思いましたが。次から選んでください。

- 3年次に編入学したい
- 編入学を考慮することはない

送信

フォームをクリア

金沢大学は、広範な分野にわたる教養と文理融合の専門的知識を修め、**仮想と現実の高度な融合を活用して次代の科学を創成し、未来社会を切り拓く人材を養成**するため、令和5（2023）年4月に新たな学類の設置を構想しており、企業等の皆様のご意見を、この構想に活かしたいと思います。
裏面の「スマート創成科学類（仮称）設置構想」を一読のうえ、ぜひアンケートにご協力ください。

【回答↓】

Q1. 超スマートな未来社会の実現を目指し、最新知見や科学技術の活用を文理融合型教育で自らの志向に合わせて学ぶ「スマート創成科学」をどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q
1

Q2. スマート創成プロジェクト実践や地域創生インターンシップ 等、地域社会や産業界と連携した実践的な教育についてどう思いますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q
2

Q3. 科学技術の基礎から生活・産業・社会のデジタル化を広く学び、地域創生や産業DXを主導する人材育成を目指す新学類構想に、魅力を感じますか？

1. 非常に魅力を感じる 2. 魅力を感じる 3. あまり魅力を感じない 4. 魅力を感じない

Q
3

Q4. 御社で本学類の学生をインターンシップで受け入れていただけますか？

1. ぜひ受入を考えたい 2. 受入を考えたい 3. あまり受入たくない 4. 受入不可

Q
4

Q5. 御社において本学類の卒業者を正規雇用で選考対象にしていただけますか？

1. ぜひ対象にしたい 2. 対象に考えたい 3. あまり対象にしたいくない 4. 対象には難しい

Q
5

Q6. 大学で「教育が必要」と思われるキーワード、求める人材像等自由に記入してください。

回
答Webでの回答は
こちらから

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

☆ 回答は統計的に処理します ☆

科学技術の進展は、新たな産業や生活スタイルを創り出す源泉となり、社会や人々の活動に大きな変化をもたらします。人工知能（AI）やロボット、XR空間技術等の新技術が急速に発達する今、我が国が目指す未来社会 Society5.0 の実現には、デジタル化に対応した強靱な社会環境の整備が急務です。そして、複雑化する様々な社会課題に向き合い、仮想と現実を高度に融合する新技術を活用し、新たな価値を創出する人材が求められています。

令和5(2023)年4月、融合学域にスマート創成科学類（仮称）新設

文理融合型の多様な学びで、最新知見と科学技術（“スマート技術”）の活用を学ぶ！！
生活・産業・社会をデジタルで結ぶ未来社会を創造する！！

養成する
人材

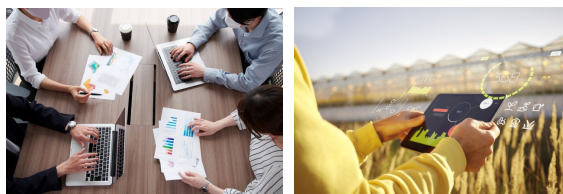
地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して次代の科学を創成し、未来社会を切り拓く人材の養成を目的とします。

“スマート技術”で創ろう“未来社会”



“イノベーション”を実践的に学ぶ

プロジェクト演習やインターンシップ等を通じ地域社会や産業界と連携し、社会との共創や実装力を実践的に学びます。



社会で実践

文理融合の「総合知」で“未来社会”を創造

生活・産業・社会のあらゆる場面で“スマート技術”を活用し「国民の安全・安心を守る持続的で強靱な社会」と「一人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現する社会」の両立に向け、社会変革に繋がる3つのコアエリアを設定し、往還的に学びます。

<p>基礎から応用へ</p> <p>コアエリア共通の基礎知識とスキル</p> <p>基盤科目</p> <p>【科目例】テクノロジー基礎、IoT技術、金融工学、マーケティング基礎、他</p> <p>実践科目</p> <p>【科目例】アプリ開発、プログラミングスキル、データ解析演習、社会調査演習、他</p>	<p>学</p> <p>知</p> <p>科</p> <p>目</p>	<p>スマートライフ・・Well-beingの実現</p> <p>スマート技術を利用して、「個人」として生活するために直面する課題解決や価値創造に向けて。</p> <p>【科目例】先端医学、未来型ヘルスケアシステム、AI・IoT健康福祉学、人間工学、フィジカル・ブレイン接続、健康・スポーツ生理学、安全工学、他</p>
	<p>3</p> <p>つ</p> <p>の</p> <p>コ</p> <p>ア</p>	<p>スマート産業・・第X次産業の革新</p> <p>スマート技術を活用して、産業界での課題解決や新産業の創出に向けて。</p> <p>【科目例】データサイエンス実践、リモートセンシング、カーボンニュートラル技術、スマート養殖テクノロジー、自律ロボット、知的財産法、他</p>
	<p>ア</p> <p>リ</p> <p>ア</p>	<p>スマート社会・・持続的で強靱な社会の実現</p> <p>スマート技術を活用して、社会、地域などでの課題解決や新たな仕組みづくりに向けて。</p> <p>【科目例】実践スマートシティ論、デジタルツインと危機管理、スマートモビリティと自動運転、スマートインフラマネジメント、デジタル金融経済圏、他</p>

多様な入試制度

新学類では文理融合型教育を行うため、**文系傾斜配点と理系傾斜配点で募集定員を分けて一般選抜（前期日程）を実施**するほか、多様な入試制度でダイバーシティ環境を実現！

- ・ KUGS特別入試（総合型）
- ・ 超然特別入試
- ・ 在外留学生推薦
- ・ 社会人選抜
- ・ 他

入試情報アプリ



卒業後の進路

様々な産業等において“スマート技術”を活用し、**産業DXを主導的に推進する人材**として活躍！
大学院進学も可能！

- ・ 技術創発により人々の活動範囲の変革を行う起業家
- ・ 高い創造性と学術をもって機能革新を行う企業内開発者
- ・ グローバルな科学の進展を創成し人間中心の未来社会を拡充し続けるシステム制度設計者
- ・ 全業界からスマート・リージョンを推進する地方創生者 等

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
	学長	ワダ タカシ 和田 隆志 <令和4年4月>	60	医学 博士	1,566	金沢大学 学長 (令和4.4~令和8.3)

教 員 の 氏 名 等														
(融合学域スマート創成科学類)														
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申大 職従 週平	請学 務事 当均	係等 務す たる 日数
1	専	教授	ヤマシマコ 山岸 雅子 <令和5年4月>		学術博士		大学・社会生活論	1①	1	1	金沢大学理事(企画 評価・ダイバーシティ 推進・広報戦略担 当)・副学長 (平3.5)			5日
							アカデミックスキル	1①	1	1				
							消費生活論	2④	1	1				
							生活行動とアクティビティ	3②	1	1				
							低炭素社会	3④	1	1				
							フューチャーデザイン	3④	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1											
2	専	教授	モリモト アキヒロ 森本 章治 <令和5年4月>		博士 (工学)		超スマートシティとSociety 5.0	2②	1	1	金沢大学理事(教育 ・高院院接続担当) ・副学長 (昭56.4)			5日
							世界の課題と技術トレンド	2③	1	1				
							スマート産業論	2③	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1											
3	専	教授	イヤマ コウイチ 飯山 宏一 <令和5年4月>		博士 (工学)		テクノロジー基礎※	1④	0.1	1	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 教授 (昭63.4)			5日
							スマートセンシング	3①	1	1				
							ユナジーハーベスティング	3④	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
融合試験	4①～④	8	1											
4	専	教授	サカモト ジョウロウ 坂本 二郎 <令和5年4月>		博士 (学術)		プログラミングスキル実践	3①	1	1	金沢大学 設計製造技術研究所 教授 (昭63.4)			5日
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
							融合演習	4①～④	8	1				
5	専	教授	スガモト ナツキ 菅沼 直樹 <令和5年4月>		博士 (工学)		次世代情報通信	3④	1	1	金沢大学 高度モビリティ 研究所 教授 (平14.12)			5日
							実践スマートシティ論※	2④	0.5	1				
							スマートモビリティと自動運転	3②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1											
6	専	教授	サキ ケンタロウ 瀧 健太郎 <令和5年4月>		博士 (工学)		スマート創成化学とバイオロジー※	2①	0.5	1	金沢大学 理工研究域 機械工学系 教授 (平26.11)			5日
							カーボンニュートラル技術	3①	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
7	専	教授	タカシノブ 田中 志信 <令和5年4月>		博士 (工学)		プレゼン・ディベート論	1②	1	1	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 教授 (平10.10)			5日
							人間拡張とライフ※	3①	0.5	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
8	専	教授	テラハナ オホコ 寺沢 なお子 <令和5年4月>		博士 (学術)		社会調査法	2①	1	1	金沢大学 人間科学研究域 人間科学系教授 (平7.4)			5日
							QOLとWell-being	2④	1	1				
							健康スポーツ栄養学	3③	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
9	専	教授	マハベ トモコ 眞鍋 知子 <令和5年4月>		博士 (文学)		北陸地域創生と社会学	2③	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平16.9)			5日
							北陸の都市・農村・文化	2④	1	1				
							北陸の農林水産・製造業	2④	1	1				
							消費生活論	2④	1	1				
							社会的合意形成論	3③	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1											
10	専	教授	ヤマモト シゲル 山本 茂 <令和5年4月>		博士 (工学)		情報科学応用	2③	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平19.4)			5日
							スマートシステム制御	2④	1	1				
							スマートシステム制御応用	3③	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1				
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1				
融合研究	4①～④	8	1											

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申大 職従 週平	請学 務事 平均	係等 すた 日	るの に り 数
11	専	教授	ヨネヤマ タクシ 米山 猛 <令和5年4月>		博士 (工学)		アントレプレナー基礎	1①	1	1	金沢大学 理工研究域 特任教授 (令2.9)			5日	
							アントレプレナー演習Ⅰ	2①	1	1					
							アントレプレナー演習Ⅱ	2②	1	1					
							技術社会と倫理	2①	1	1					
							デジタル生産工学	3②	1	1					
							生産者の社会責任	4①	1	1					
							北陸産業インターンシップⅠ	3②～③	1	1					
							北陸産業インターンシップⅡ	3②～③	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
12	専	准教授	ナカノ リエ 田中 利恵 <令和5年4月>		博士 (保健学)		超高齢社会と科学技術	3②	1	1	金沢大学医薬保健研究 域附属A1ホスピタ ル・マクロシグナルダ イナミクス研究開発セ ンター 准教授 (平15.4)			5日	
							画像認識と機械学習	3①	1	1					
							統計的学習理論	3②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1					
13	専	准教授	ノノ アキヒロ 野村 章洋 <令和5年4月>		博士 (医学)		スマート創成化学とバイオロジー※	2①	0.5	1	金沢大学 附属病院 特任准教授 (平28.12)			5日	
							人間拡張とライフ※	3①	0.5	1					
							スマートウエルネス	3③	1	1					
							ヘルステック	3④	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
14	専	准教授	ムラコシ ミチオ 村越 道生 <令和5年4月>		博士 (工学)		人間工学	3③	1	1	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 准教授 (平31.3)			5日	
							レギュラトリーサイエンス	3④	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1					
15	専	准教授	ヨネガキ ケイスケ 米陀 佳祐 <令和5年4月>		博士 (情報 科学)		スマートデバイス演習	2③	1	1	金沢大学 新学術創成研究機構 准教授 (平27.10)			5日	
							ロボットイノベーション	2①	1	1					
							AIと未来の社会学	2②	1	1					
							自律ロボット	3③	1	1					
							スマートサプライチェーン	3④	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
16	専	講師	アリガ ミツ 有賀 三夏 <令和5年4月>		Master of Arts (米国)		AⅠ入門	1①・②・ ③・④	1	4	金沢大学 融合研究域 融合科学系 講師 (令4.4)			5日	
							デザイン思考	1②	1	1					
							産業とユニバーサルデザイン	3③	1	1					
							フューチャーデザイン	3④	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
17	専	講師	シライ ヒデアオ 白石 英巨 <令和5年4月>		博士(工 学)		地方創生にみる社会課題	2②	1	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 講師 (令3.10)			5日	
							数理行動モデル基礎	2④	1	1					
							地域の居住空間デザイン	3①	1	1					
							実践スマートシティ論※	2④	0.5	1					
							都市・交通デザイン	3②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
18	専	講師	チョウ セイ ZHANG JING <令和5年4月>		博士(マネ ジメント)		マーケティング論	2①	2	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 講師 (令3.4)			5日	
							北陸技術経営論	2①	1	1					
							消費者行動と社会	2③	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1					
19	専	助教	コノ イチ 尹 一喜 <令和5年4月>		博士 (社会福祉 学)		生活と社会保障	1①・②・ ③・④	1	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平29.10)			5日	
							AIと未来の社会学	2②	1	1					
							地域包括ケアと地方創生	3②	1	1					
							未来型ヘルスケアシステム	3③	1	1					
							AI・IoT健康福祉学	3④	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 大 職 従 週 平	請 学 務 事 当 均	係 等 務 す た 日	る の に り 数
20	専	助教	ハラダ カケイ 原田 魁成 <令和5年4月>		博士 (経済学)		データサイエンス基礎	1①	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 特任助教 (令4.4)		5日		
							数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2	1					
							数理・データサイエンス・AI実践	2③	1	1					
							エビデンスベース政策論	3②	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
21	専	助教	モリタキ ユウマ 森崎 裕磨 <令和5年4月>		博士 (工学)		産業DX・PBL演習Ⅰ	2①	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 特任助教 (令4.4)		5日		
							産業DX・PBL演習Ⅱ	2②	1	1					
							データ駆動型社会と産業	2④	1	1					
							未来エネルギー創成	2②	1	1					
							ナショナルレジリエンス	3①	1	1					
							デジタルツインと危機管理	3③	1	1					
							スマート創成プロジェクト鍛練Ⅰ	4①～②	1	1					
スマート創成プロジェクト鍛練Ⅱ	4①～②	1	1												
22	兼任	教授	オオケ シゲキ 大竹 茂樹 <令和5年4月>		医学博士		地域包括ケアと地方創生	3②	1	1	金沢大学理事(総括・ 大学改革・附属病院 担当)・副学長 (昭58.4)		5日		
23	兼任	教授	アキタ ジュンイチ 秋田 純一 <令和5年4月>		博士 (工学)		イノベーションを起こして、起業家になろう1	1①	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平10.4)		5日		
							イノベーションを起こして、起業家になろう3	1③	1	1					
							Webサイト設計基礎	2④	1	1					
							コンピュータとデジタル回路	3①	1	1					
							ヒューマンインターフェース	3①	1	1					
コンピュータと電子回路	3④	1	1												
24	兼任	教授	オオモト ノブヒデ 大友 信秀 <令和5年4月>		博士 (法学)		知的財産法	3②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平16.4)		5日		
25	兼任	教授	オノノ マチカ 尾島 恭子 <令和5年4月>		修士 (家政学)		地域概論	1②	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平9.4)		5日		
							生活デザイン論	3②	1	1					
26	兼任	教授	カミダ イサク 金間 大介 <令和5年4月>		博士 (工学)		イノベーション基礎	1③	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平30.4)		5日		
							社会変動と労働生産性	2③	1	1					
							イノベーション・マネジメント	3④	1	1					
27	兼任	教授	カワサキ ヒロシ 河崎 洋志 <令和5年4月>		博士 (医学)		先端医学	2④	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 教授 (平25.1)		5日		
							フィジカル・ブレイン接続	3④	1	1					
28	兼任	教授	キタヤマ シロシ 北山 哲士 <令和5年4月>		博士 (工学)		IoT技術	2③	1	1	金沢大学 設計製造技術研究所 教授 (平14.4)		5日		
							社会と工学における最適化	2③	1	1					
							数理・データサイエンス・AI鍛練	4①	1	1					
29	兼任	教授	サカエ マサヒロ 寒河江 雅彦 <令和5年4月>		博士 (理学)		デジタルエコノミーと地域展開	3①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 経済学経営学系 教授 (平20.9)		5日		
30	兼任	教授	サトウ ケンジ 佐藤 賢二 <令和5年4月>		博士 (工学)		テクノロジー基礎※	1④	0.6	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平19.10)		5日		
31	兼任	教授	サトウ マサヒコ 佐藤 正英 <令和5年4月>		博士 (理学)		プログラミングスキル	2③	1	1	金沢大学 学術メディア創成 センター 教授 (平13.1)		5日		
							拡張・リアリティ空間デザイン	3③	1	1					
32	兼任	教授	サカタ ヒカル 佐無田 光 <令和5年4月>		博士 (経済学)		地域概論	1②	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平14.4)		5日		
							北陸地域創生と社会学	2③	1	1					
							北陸の都市・農村・文化	2④	1	1					
							北陸の農林水産・製造業	2④	1	1					
33	兼任	教授	シノヅカ 沈 振江 <令和5年4月>		博士 (工学)		都市・地域工学	3②	1	1	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系 教授 (平12.5)		5日		
34	兼任	教授	ナカヤマ ショウイチロウ 中山 晶一郎 <令和5年4月>		博士 (工学)		数理・データサイエンス基礎及び演習	1③	2	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平13.4)		5日		
							ネットワーク・メカニズムデザイン	3④	1	1					

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申 大 職 従 選 平	請 学 務 事 当 均	係 等 す た 日	の に る り 数
35	兼任	教授	マツダ マキコ 松田 真希子 <令和5年4月>		博士 (学術)		日本語A1-1	1①	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平22.4)				
							日本語A1-2	1②	1	1					
							日本語A2-1	1①	1	1					
							日本語A2-2	1②	1	1					
							日本語A3-1	1③	1	1					
							日本語A3-2	1④	1	1					
							日本語A4-1	1③	1	1					
							日本語A4-2	1④	1	1					
Web・クテコミ社会動向分析	3①	1	1												
36	兼任	教授	ミチ トリアキ 宮地 利明 <令和5年4月>		博士 (医学)		AI・IoT健康福祉学	3④	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 教授 (平12.4)			5日	
37	兼任	教授	ヨネタ ケイジ 米田 隆 <令和5年4月>		博士 (医学)		健康科学	1①・②・ ③・④	1	15	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授 (平29.10)				
							イノベーションを起こして、起業家になろう2	1②	1	1					
							イノベーションを起こして、起業家になろう4	1④	1	1					
							未来医科学	2④	1	1					
							未来型ヘルスケアシステム	3③	1	1					
							国際インターンシップ	3③~④	1	1					
38	兼任	教授	アサヒ ユミ 足立 由美 <令和5年4月>		博士 (医学)		健康論実践E	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平18.10)			5日	
39	兼任	教授	オオタ ケイ 大田 亨 <令和5年4月>		修士 (文学)		講義の聴解A	1①・③	1	2	金沢大学 国際機構 教授 (平10.4)				
							講義の聴解B	1②・④	1	2					
							日本語で学ぶ論理A	1①・③	1	1					
							日本語で学ぶ論理B	1②・④	1	1					
40	兼任	教授	オノ ヒロユキ 大野 浩之 <令和5年4月>		博士(理 学)		クラウド時代の「ものグラミング」概論	1③~④	2	1	金沢大学 学術メディア創成 センター 教授 (平18.4)				
							シュルスク립ト言語論1	1①~②	2	1					
							シュルスク립ト言語論2	1③~④	2	1					
							シュルスク립トを用いた「ものグラミング」演習	1①	1	1					
							Society5.0概論A	1①	1	1					
							Society5.0概論B	1②	1	1					
41	兼任	教授	オオバ カナ 大藪 加奈 <令和5年4月>		Ph. D. (英国)		English for Academic Purposes I	1①	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.3)				
							English for Academic Purposes II	1②	1	4					
							English for Academic Purposes III	1③	1	4					
							English for Academic Purposes IV	1④	1	4					
							English for Academic Purposes (Retake)	2①・②・ ③・④	1	4					
42	兼任	教授	カキチ ヤスカ 垣内 康孝 <令和5年4月>		博士 (学術)		科学技術と科学方法論	1①・②・ ③・④	1	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平27.11)			5日	
43	兼任	教授	カマダ ケイ 鎌田 啓一 <令和5年4月>		理学博士		物理学I A	1①	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任教授 (平30.2)				
							物理学I B	1②	1	1					
							物理学II A	1③	1	1					
							物理学II B	1④	1	1					
44	兼任	教授	コバヤシ エミコ 小林 恵美子 <令和5年4月>		Ph. D. (米国)		異文化間コミュニケーション	1①・②・ ③・④	1	13	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平17.10)			5日	
45	兼任	教授	サカミ ルリコ 阪上 るり子 <令和5年4月>		Docteur de l'universit e de paris- sorbonne (仏国)		フランス語C-1	2③	1	4	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平14.4)				
							フランス語C-2	2④	1	4					
							フランス語A(充実クラスI-1)	1③	1	1					
							フランス語A(充実クラスI-2)	1④	1	1					
46	兼任	教授	サカリ テツヤ 佐川 哲也 <令和5年4月>		修士 (教育学)		地元学A(地域資源調査)	1①	1	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平5.4)				
							地元学B(聞き書き)	1②	1	1					
							ゼミ/角間の里山づくり 春編	1①	1	1					
							ゼミ/角間の里山づくり 秋編	1③	1	1					
							ローカルキャリアデザインI	1②	1	1					
							ローカルキャリアデザインII	1③	1	1					
47	兼任	教授	サカイ タケシ 櫻井 武 <令和5年4月>		工学博士		化学I A	1①	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任教授 (平30.2)				
							化学I B	1②	1	2					
							化学II A	1③	1	1					
							化学II B	1④	1	1					
48	兼任	教授	サカタ シゲヤス 澤田 茂保 <令和5年4月>		博士 (情報科学)		TOEIC準備(演習)	2①・②・ ③・④	1	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平8.2)			5日	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申大職従週平均	請学務事当日	係等に属する日数	のるにり数
49	兼担	教授	スズキ ノブオ 鈴木 信雄 <令和5年4月>		博士(理学)		海洋生化学演習	1①	2	1	金沢大学 環日本海地域環境 研究センター 教授 (平7.4)		5日		
50	兼担	教授	タカヤマ トモアキ 高山 知明 <令和5年4月>		博士(言語学)		クリティカル・シンキング	1①・②・③・④	1	4	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平成11.4)		5日		
51	兼担	教授	タニノ タケヒサ 滝野 隆久 <令和5年4月>		博士(医学)		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	1	10	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平11.10)		5日		
52	兼担	教授	タナベ ヒロシ 田邊 浩 <令和5年4月>		文学修士		地域創造学特別講義C	1③	1	1	金沢大学 人間社会研究域 人間科学系 教授 (平9.4)		5日		
							地域創造学特別講義D	1④	1	1					
53	兼担	教授	タマイ イクミ 玉井 郁巳 <令和5年4月>		薬学博士		コーヒーと社会	1③	1	1	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 教授 (平20.4)		5日		
							コーヒーと科学	1④	1	1					
54	兼担	教授	チボウ セイ 趙 菁 <令和5年4月>		博士(文学)		中国語A1-1	1①	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 教授 (平14.4)		5日		
							中国語A1-2	1②	1	2					
							中国語A2-1	1①	1	2					
							中国語A2-2	1②	1	2					
							中国語A3-1	1③	1	2					
							中国語A3-2	1④	1	2					
							中国語A4-1	1③	1	2					
							中国語A4-2	1④	1	2					
							中国語B-1	2①・③	1	3					
							中国語B-2	2②・④	1	2					
							中国語C-1	2③	1	1					
55	兼担	教授	カガキ シンジ 塚脇 真二 <令和5年4月>		理学博士		地学実験	1②～③	2	2	金沢大学 環日本海地域環境 研究センター 教授 (平6.4)		5日		
							環境動態学概説I	1③	1	1					
							環境動態学概説II	1④	1	1					
56	兼担	教授	ハシ トオル 林 透 <令和5年4月>		博士(教育)		デザイン思考入門	1①・②・③・④	1	10	金沢大学 教学マネジメント センター 教授 (令3.4)		5日		
57	兼担	教授	ヒラセ ナオキ 平瀬 直樹 <令和5年4月>		博士(文学)		日本史要説	2①～②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平8.7)		5日		
58	兼担	教授	フルカワ トオル 古畑 徹 <令和5年4月>		文学修士※		石川県の市町	1①～②	2	1	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平2.4)		5日		
							金沢の歴史と文化	1③～④	2	1					
							東洋史要説	2③～④	2	1					
59	兼担	教授	オノイ コウスケ 堀井 祐介 <令和5年4月>		博士(言語文化学)		道徳教育および宗教教育をグローバルに考える	1④	1	1	金沢大学 教学マネジメント センター 教授 (平16.2)		5日		
60	兼担	教授	マツイ ミエ 松井 三枝 <令和5年4月>		博士(医学)		価値と情動の認知科学	1①・②・③・④	1	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (平28.9)		5日		
61	兼担	教授	ミヅ マサシ 峯 正志 <令和5年4月>		文学修士※		口頭発表A	1①・③	1	2	金沢大学 国際機構 教授 (平8.12)		5日		
							口頭発表B	1②・④	1	2					
							日本事情A	1①・③	1	2					
							日本事情B	1②・④	1	2					
62	兼担	教授	ヤマギキ トモヤ 山崎 友也 <令和5年4月>		法学修士※		日本国憲法概説	1③	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 教授 (平21.4)		5日		
63	兼担	教授	ヨシカワ ヒロアキ 吉川 弘明 <令和5年4月>		医学博士		健康論実践D	1④	1	1	金沢大学 保健管理センター 教授 (平7.4)		5日		
							心と体の健康A	1③	1	1					
							心と体の健康B	1④	1	1					
64	兼担	准教授	カシマ シノブ 唐島 成由 <令和5年4月>		博士(医学)		テクノロジー基礎※	1④	0.1	1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)		5日		

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	中大職従週平	申請事務平均	係等したるにり数
65	兼任	准教授	コチ イナ 河内 幾帆 <令和5年4月>		Doctor of Philosophy (米国)		環境学とESD SDGs基礎 SDGs実践	1①・②・③・④ 2③ 2④	1 1 1	17 1 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授 (平30.6)		5日	
66	兼任	准教授	ガガノ サガノ ダガン さがの <令和5年4月>		Master of Arts (新国)		学域GS言語科目Ⅰ/海外実践英語 学域GS言語科目Ⅱ/時事・学術英語 海外実践留学	2①・② 3①・② 3③~④	1 1 1	3 3 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授 (平27.4)		5日	
67	兼任	准教授	チハラ 崇徳 茅原 崇徳 <令和5年4月>		博士(工学)		ヒューマンインターフェース	3①	1	1	金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 准教授 (平29.4)		5日	
68	兼任	准教授	ナボ ヒデカ 南保 英孝 <令和5年4月>		博士(工学)		アプリ開発	3②	1	1	金沢大学 理工研究域 電子情報通信学系 准教授 (平11.3)		5日	
69	兼任	准教授	フジウ マコト 藤生 慎 <令和5年4月>		博士(学術情報学)		データ駆動型社会と産業 テクノロジー基礎※ スマートインフラマネジメント	2④ 1④ 3④	1 0.1 1	1 1 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授 (平26.3)		5日	
70	兼任	准教授	マツモト 拓史 松本 拓史 <令和5年4月>		博士(工学)		ファイナンス基礎 フィンテック基礎とビジネス応用 未来エネルギー創成 金融工学 スマート資金とビジネス応用 社会システム工学	1④ 2① 2② 2③ 3③ 3②	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授 (令4.4)		5日	
71	兼任	准教授	アサヒ アキコ 浅井 暁子 <令和5年4月>		修士(文学)		芸術と自己表現	1①・②・③・④	1	2	金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 准教授 (平19.5)		5日	
72	兼任	准教授	イノ アキラ 井出 明 <令和5年4月>		博士(情報学)		グローバル社会と地域の課題	1①・②・③・④	1	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)		5日	
73	兼任	准教授	イノ トモヒコ 井町 智彦 <令和5年4月>		博士(工学)		コンピュータグラフィクス演習Ⅰ コンピュータグラフィクス演習Ⅱ	1③ 1④	1 1	1 1	金沢大学 理工研究域先端宇宙理 工学研究センター 准教授 (平15.10)		5日	
74	兼任	准教授	ウエタ ヒサオ 上田 長生 <令和5年4月>		博士(文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	1	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平成25.7)		5日	
75	兼任	准教授	オガカ 勉 小高 敬寛 <令和5年4月>		博士(文学)		現代世界への歴史的アプローチ	1①・②・③・④	1	18	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令1.11)		5日	
76	兼任	准教授	オガネリ タク 小田桐 拓志 <令和5年4月>		Ph. D. (英国)		ケーススタディによる応用倫理学	1①・②・③・④	1	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.5)		5日	
77	兼任	准教授	カハ コイチ 河合 晃一 <令和5年4月>		博士(公共経営)		石川県の行政	1③~④	2	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平28.4)		5日	
78	兼任	准教授	キタノ マリコ 菊谷 まり子 <令和5年4月>		Ph. D. (Psychology) (英国)		パーソナリティ心理学	1①・②・③・④	1	12	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平31.4)		5日	
79	兼任	准教授	キタ タクシ 木矢 剛智 <令和5年4月>		博士(理学)		生物学実験	1①~②	2	1	金沢大学 理工研究域 生命理工学系 准教授 (平27.4)		5日	
80	兼任	准教授	キムラ 岳裕 木村 岳裕 <令和5年4月>		博士(医学)		エクササイズ&スポーツ 実技	1①・②・③・④	1	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平30.4)		5日	
81	兼任	准教授	グリュネベルグ パトリック GRUENEBERG PATRICK <令和5年4月>		Dr. phil. (独国)		哲学(自我論)	1①・②・③・④	1	11	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平29.4)		5日	
82	兼任	准教授	コジマ ツクシ 小島 莊一 <令和5年4月>		博士(学術)		上級読解ⅠA 上級読解ⅠB 上級読解ⅡA 上級読解ⅡB アカデミック・ライティングA アカデミック・ライティングB	1① 1② 1③ 1④ 1①・③ 1②・④	1 1 1 1 1 1	1 1 2 3 2 2	金沢大学 国際機構 特任准教授 (平27.4)		5日	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申大職従週平	請学務事均	に係等した日	のるにり数
83	兼任	准教授	サトウ トモ子 佐藤 朋子 <令和5年4月>		DOCTORAT (psychoses et etats limites) (仏国)		フランス語A 1-1	1①	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平30.4)				
							フランス語A 1-2	1②	1	2					
							フランス語A 2-1	1①	1	3					
							フランス語A 2-2	1②	1	3					
							フランス語A 3-1	1③	1	2					
							フランス語A 3-2	1④	1	2					
							フランス語A 4-1	1③	1	4					
							フランス語A 4-2	1④	1	4					
							フランス語A (充実クラスⅡ-1)	1③	1	1					
フランス語A (充実クラスⅡ-2)	1④	1	1												
84	兼任	准教授	サトウ トモ子 佐藤 智哉 <令和5年4月>		Ph. D. (米国)		未来デザインプラクティス	1①・②・④	1	4	金沢大学 国際機構 准教授 (平31.4)			5日	
85	兼任	准教授	サトウ マチ子 佐藤 文彦 <令和5年4月>		Dr. phil. (奥国)		グローバル時代の文学	1①・②・③・④	1	14	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平19.4)				
							ドイツ語A 1-1	1①・③	1	3					
							ドイツ語A 1-2	1②・④	1	3					
							ドイツ語A 3-1	1①・③	1	3					
							ドイツ語A 3-2	1②・④	1	3					
86	兼任	准教授	シノガキ カズキ 篠田 隆行 <令和5年4月>		修士 (教育学)		ソーシャルビジネス概論	1①	1	2	金沢大学 先端科学・社会共創 推進機構 准教授 (令3.4)				
							能登・地域活性化演習Ⅰ	1②	1	1					
							能登・地域活性化演習Ⅱ	1②	1	1					
87	兼任	准教授	タカガキ ヨシヒロ 高田 良宏 <令和5年4月>		博士 (工学)		情報の科学	1①・②・③・④	1	18	金沢大学 学術メディア創成 センター 准教授 (昭59.3)			5日	
88	兼任	准教授	ニシジマ ユウイチ 西嶋 倫一 <令和5年4月>		工学修士		TOEIC準備Ⅰ	1①	1	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平10.2)				
							TOEIC準備Ⅱ	1②	1	4					
							TOEIC準備Ⅲ	1③	1	4					
							TOEIC準備Ⅳ	1④	1	4					
							英語セミナー	1①・②・③・④	1	4					
89	兼任	准教授	ハヤカワ フミト 早川 文人 <令和5年4月>		博士 (文学)		ドイツ語A (充実クラスⅠ-1)	1③	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平25.10)				
							ドイツ語A (充実クラスⅠ-2)	1④	1	1					
90	兼任	准教授	ヒラマツ ジョウナ 平松 潤奈 <令和5年4月>		博士 (文学)		ロシア語A 1-1	1①	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 准教授 (平24.4)				
							ロシア語A 1-2	1②	1	2					
							ロシア語A 2-1	1①	1	2					
							ロシア語A 2-2	1②	1	2					
							ロシア語A 3-1	1③	1	2					
							ロシア語A 3-2	1④	1	2					
							ロシア語A 4-1	1③	1	2					
							ロシア語A 4-2	1④	1	2					
							ロシア語B-1	2①・③	1	2					
							ロシア語B-2	2②・④	1	2					
91	兼任	准教授	フカガキ ミサ 深川 美帆 <令和5年4月>		博士 (文学)		アカデミック基礎日本語A	1①	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平25.4)				
							アカデミック基礎日本語B	1②	1	1					
							日本の伝統芸能	1②	1	1					
92	兼任	准教授	ムラカミ ヒロシ 村上 裕 <令和5年4月>		修士 (地域政策)		現代社会における保険の制度と役割Ⅰ	1③	1	1	金沢大学 人間社会研究域 法学系 准教授 (平16.4)				
							現代社会における保険の制度と役割Ⅱ	1④	1	1					
93	兼任	准教授	ムラヤマ カズキ 村山 孝之 <令和5年4月>		博士 (学術)		スポーツ科学	1①・②・③・④	1	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平20.9)			5日	
94	兼任	准教授	ヤマノタ ハルカズ 山下 治和 <令和5年4月>		法学修士		行政学の基礎	1①	2	1	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平2.5)			5日	
95	兼任	准教授	ヤマモト ヒロシ 山本 洋 <令和5年4月>		博士 (学術)		香りと日本文化	1③	1	1	金沢大学 国際機構 准教授 (平22.4)			5日	
96	兼任	准教授	ヨシナガ マサヒコ 吉永 匡史 <令和5年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	1	3	金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 准教授 (平26.10)			5日	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申大職従週平均	請学務事当日	係等したるにり数
97	兼任	准教授	リナハ アヲコ 渡辺 敦子 <令和5年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		グローバル時代の国際協力	1①・②・③・④	1	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (令3.4)		5日	
98	兼任	准教授	リナハ タカ 渡辺 達雄 <令和5年4月>		修士 (教育学)		地域のトップリーダーを繋ぐⅠ	1①	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 准教授 (平18.3)		5日	
							地域のトップリーダーを繋ぐⅡ	1②	1	1				
99	兼任	講師	イバ レイコ 飯田 玲子 <令和5年4月>		博士 (地域研究)		現代社会と人権	1①・②・③・④	1	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令3.4)		5日	
100	兼任	講師	カゴエ ケンイチ 川越 謙一 <令和5年4月>		博士 (数理学)		論理学と数学の基礎	1①・②・③・④	1	6	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平9.6)		5日	
101	兼任	講師	ササキ ハツキ 佐々木 葉月 <令和5年4月>		博士 (国際公共政策)		グローバル時代の政治経済学	1①・②・③・④	1	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令2.3)		5日	
102	兼任	講師	サトウ ケイ 佐藤 圭 <令和5年4月>		博士 (理学)		地球生物圏と人間	1①・②・③・④	1	16	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (令4.1)		5日	
103	兼任	講師	マズミ コウスケ 眞住 優助 <令和5年4月>		Ph. D. (米国)		グローバル時代の社会学	1①・②・③・④	1	15	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平29.10)		5日	
104	兼任	講師	マツカワ ヨシアキ 松浦 義昭 <令和5年4月>		修士 (経営科学)		統計学から未来を見る	1①・②・③・④	1	20	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 講師 (平16.4)		5日	
105	兼任	助教	ニシノキ ユリ 西脇 ゆり <令和5年4月>		博士 (工学)		テクノロジー基礎※	1④	0.1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 助教 (平27.4)		5日	
106	兼任	助教	ヒビノ ユリ 日比野 由利 <令和5年4月>		博士 (保健学)		データ解析演習	2②	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 助教 (平15.8)		5日	
							ソーシャルイノベーション	3③	1	1				
107	兼任	助教	ヤマダチ ヒロシ 山口 裕通 <令和5年4月>		博士 (工学)		実践データサイエンス	2④	1	1	金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系 助教 (平30.10)		5日	
							ネットワーク・メカニズムデザイン	3④	1	1				
108	兼任	助教	ワカバ ケイゴ 和田 啓吾 <令和5年4月>		博士 (機能数理学)		数理学探求	2①	1	1	金沢大学 融合研究域 融合科学系 助教 (令2.8)		5日	
							データ解析演習	2②	1	1				
109	兼任	助教	エノモト フミコ 榎本 文彦 <令和5年4月>		博士 (理学)		微分積分学ⅠA	1①	1	1	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平30.4)		5日	
							微分積分学ⅠB	1②	1	1				
							微分積分学ⅡA	1③	1	1				
							微分積分学ⅡB	1④	1	1				
							線形代数学ⅠA	1①	1	1				
							線形代数学ⅠB	1②	1	1				
							線形代数学ⅡA	1③	1	1				
線形代数学ⅡB	1④	1	1											
110	兼任	助教	ワカサキ トモコ 小笠原 知子 <令和5年4月>		Master of Science (米国)		異文化体験A	1②・④	1	2	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (令2.11)		5日	
							異文化体験B	1②・④	2	2				
							異文化体験C	1②・④	3	2				
							異文化体験D	1②・④	4	2				
							異文化体験E	1②・④	5	2				
							異文化体験F	1②・④	6	2				
							異文化体験G	1②・④	7	2				
							異文化体験H	1②・④	8	2				
111	兼任	助教	キシタ ケン 木下 健 <令和5年4月>		医学博士		細胞・分子生物学	1①・②・③・④	1	10	金沢大学 がん進展制御研究所 助教 (平10.10)		5日	

調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係るの日に係る日数
112	兼任	助教	クラチンスカ ヤナ KLACANSKA JANA <令和5年4月>		Master of Arts (独国)		ドイツ語A2-1	1①・③	1	4	金沢大学 国際基幹教育院 外国語教育系 助教 (令1.10)	5日
							ドイツ語A2-2	1②・④	1	4		
							ドイツ語A4-1	1①・③	1	4		
							ドイツ語A4-2	1②・④	1	4		
							ドイツ語B-1	2①	1	2		
							ドイツ語B-2	2②	1	2		
							ドイツ語C-1	2①・③	1	3		
							ドイツ語C-2	2②・④	1	3		
							ドイツ語A(充実クラスII-1)	1③	1	1		
ドイツ語A(充実クラスII-2)	1④	1	1									
113	兼任	助教	ヒガシ アキカ 東 昭孝 <令和5年4月>		博士 (工学)		Pythonデータ分析入門	1②	1	1	金沢大学 学術メディア創成 センター 助教 (平27.5)	5日
114	兼任	助教	フィリップス ジェレミー デビッド PHILLIPPS JEREMY DAVID <令和5年4月>		博士 (文学)		日本史・日本文化	1②・③・④	1	4	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 特任助教 (平28.1)	5日
115	兼任	助教	ミツバ リョウジ 三橋 了爾 <令和5年4月>		博士 (理学)		インテグレート科学	1①・②・③・④	1	8	金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 助教 (平31.4)	5日
116	兼任	助教	モリ ヨシヒロ 森 祥寛 <令和5年4月>		博士 (理学)		プレゼンテーション演習A	1③	1	1	金沢大学 学術メディア創成 センター 助教 (平19.4)	5日
							プレゼンテーション演習B	1④	1	1		
							動画配信サービスを用いた情報発信演習A	1①	1	1		
							動画配信サービスを用いた情報発信演習B	1②	1	1		
117	兼任	講師	イノウエ カツミ 井上 克己 <令和5年4月>		理学博士		統計数学A	1③	1	2	元 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 准教授 (平29.3まで)	1日
							統計数学B	1④	1	2		
118	兼任	講師	オノ ソニア ケイコ 雄谷 ソニア 啓子 <令和5年4月>		マドリード 工芸大学大 学院建築学 専攻修了		スペイン語A1-1	1①	1	2	北國新聞文化センター 講師(スペイン語) (平17.10)	2日
							スペイン語A1-2	1②	1	2		
							スペイン語A2-1	1①	1	2		
							スペイン語A2-2	1②	1	2		
							スペイン語A3-1	1③	1	2		
							スペイン語A3-2	1④	1	2		
							スペイン語A4-1	1③	1	2		
							スペイン語A4-2	1④	1	2		
							スペイン語B-1	2①	1	2		
							スペイン語B-2	2②	1	2		
							スペイン語C-1	2③	1	2		
							スペイン語C-2	2④	1	2		
119	兼任	講師	カサチ ユウイチ 粕谷 雄一 <令和5年4月>		文学修士		フランス語B-1	2①・③	1	3	元金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系 教授 (平4.3まで)	2日
							フランス語B-2	2②・④	1	3		
							ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界1	1③	1	1		
							ゼミ/アフリカ系人の音楽を通じて知る現代の世界2	1④	1	1		
120	兼任	講師	ナム ケンヨン 南 相璽 <令和5年4月>		文学修士 ※		金沢・能登と世界の地域文化	1②・③・④	1	3	元金沢大学 国際基幹教育院 GS教育系 教授 (令4.3まで)	1日

第292回役員会議事概要

日 時 令和4年3月18日(金) 16時05分～16時20分
場 所 自然科学大講義棟大講義室
出席者 山崎, 大竹, 青木, 和田, 山岸, 大西, 黒本, (浅野), (村本)
欠席者 中沢

1 前回議事確認

第291回役員会(令和4年2月24日開催)[資料1]

2 協 議

- (1) 国立大学法人法の一部を改正する法律の施行に伴う本学関係規則等の改正
標記について、議長から資料2に基づき、令和4年4月1日から施行される国立大学法人法の一部を改正する法律の施行に伴い、本学関係規則を改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (2) 金沢大学学則等の改正
標記について、議長から資料3に基づき、教育研究組織及び事務組織の改編等に伴い、金沢大学学則等を改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (3) 国立大学法人金沢大学職員就業規則等の改正
標記について、議長から資料4に基づき、非常勤講師の契約形態の変更等及び救急救命士の新設等に伴い、国立大学法人金沢大学就業規則等を改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (4) 金沢大学ダイバーシティ推進会議及び金沢大学ダイバーシティ推進機構の設置
標記について、議長から資料5に基づき、包括的なダイバーシティ教育研究環境の整備を目的として、男女共同参画キャリアデザインラボラトリーを発展的に解消し、金沢大学ダイバーシティ推進会議及び金沢大学ダイバーシティ推進機構を設置すること並びに金沢大学ダイバーシティ推進会議規程等を制定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (5) 教職総合支援センターの設置
標記について、議長から資料6に基づき、富山大学との共同教員養成課程及び全学の教員養成の支援を一層充実させることを目的として、学校教育学類附属教育実践支援センターを発展的に解消し、教職総合支援センターを設置すること及び金沢大学教職総合支援センター設置要項等を制定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (6) 令和5年度教育組織改革
標記について、議長から資料7に基づき、「YAMAZAKI プラン2020 Next Stage」等の将来構想を踏まえた、令和5年度の教育組織改革について説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。
- (7) 令和4年度当初予算案
標記について、議長から資料8に基づき、令和4年度当初予算案について説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

(8) 外部資金に係る間接経費の取扱い

標記について、議長から資料9に基づき、外部資金に係る間接経費の取扱いについて、管理経費等の適切な経費負担の観点や教育研究支援体制の維持・充実のための経費確保の必要性から見直しを行い、令和5年度以降、寄附講座等の設置を目的とした寄附金を間接経費の積算対象とすることについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

(9) カーボンニュートラルに向けた取組計画 2022

標記について、議長から資料10-1～10-3に基づき、我が国の2050年のカーボンニュートラル実現に向け本学の取組計画をまとめた、「カーボンニュートラルに向けた取組計画 2022」を策定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

(10) 宝町・鶴間新キャンパス（仮称）整備計画基本構想

標記について、議長から資料11-1～11-4に基づき、宝町・鶴間キャンパスと金沢美術工芸大学移転後の跡地の整備に向けた基本計画を策定するための構想をとりまとめた、宝町・鶴間新キャンパス（仮称）整備計画基本構想について説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

(11) 職員懲戒規程に基づく懲戒処分の再審査

標記について、議長から回収資料に基づき、職員懲戒規程に基づく懲戒処分の再審査について説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

以上

令和5年度教育組織改革の概要

令和4年3月3日
教育担当理事
総務担当理事

事実関係

「YAMAZAKI プラン 2020 Next Stage」等の将来構想を踏まえ、本学の令和5年度における教育組織改革として、以下の改組等を予定している。

I. 学士課程

(1) 融合学域スマート創成科学類（仮称）設置

【養成する人材像】 地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、表出する多様な未来の諸課題に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材

【入学定員】80名 入学定員のうち60名を「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」として申請する。（定員純増が認められない場合、入学定員は20名）

【3年次編入学定員】20名（うち10名は医薬保健学域保健学類の編入学定員を移行（令和7年度）うち10名は純増を申請）

【学位】学士（学術）

(2) 既存学類の定員変更

① 入学定員

融合学域観光デザイン学類の定員変更

【入学定員】15名 → 55名 入学定員のうち40名を「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」として申請する。

理工学域7学類の定員変更

【入学定員】599名 → 579名

（内訳）数	物 科 学 類	82名 → 78名
	物 質 化 学 類	79名 → 78名
	機 械 工 学 類	97名 → 94名
	フロンティア工学類	107名 → 103名
	電子情報通信学類	78名 → 76名
	地球社会基盤学類	98名 → 94名
	生 命 理 工 学 類	58名 → 56名

② 3年次編入学定員

融合学域先導学類の編入学定員

【3年次編入学定員】25名（令和2年度に学内了承済）

人間社会学域法学類の編入学定員の変更

【3年次編入学定員】10名 → 5名（令和2年度に学内了承済）

医薬保健学域保健学類の編入学定員の変更

【3年次編入学定員】30名 → 20名（令和2年度に学内了承済）

（内訳）	看 護 学 専 攻	10名 → 4名
	診療放射線技術学専攻	5名 → 3名
	検査技術科学専攻	5名 → 3名

Ⅱ. 大学院

(1) 教職実践研究科教職実践高度化専攻改組

【養成する人材像】 多様な人や組織が共生できるような学校づくりや授業づくり、また、地域・社会と協働しつつ総合的な探究の学習を組織できる人材（養成する人材像の見直し）

【入学定員】 15名（変更なし）

【学位】 教職修士（専門職）（変更なし）

【コース制の廃止・専修の設置】 「学習デザインコース」「学校マネジメントコース」を廃止
→ 「共生教育学専修」と「探究教育学専修」を設置

※ 教職実践研究科に人間社会環境研究科地域創造学専攻教育支援開発学コースを組み入れ、令和6年度新専攻設置の方向で文科省と協議を進める。（学位：修士（教育学））

Ⅲ. 附属学校

(1) 附属幼稚園の学級編成の変更

【学級数・入学定員】 少子化、教育の早期化等に伴い、国立大学の附属幼稚園としての役割を踏まえ、満3歳児学級の新設等、学級編成を最適化する。

満3歳児	なし	→	1学級	学年定員	なし	→	12名
3歳児	1学級	→	1学級	学年定員	24名	（変更なし）	
4歳児	2学級	→	1学級	学年定員	48名	→	24名
5歳児	2学級	→	1学級	学年定員	48名	→	24名
総学級数	5学級	→	4学級	収容定員	120名	→	84名

各改組について、以下のとおり学内会議の審議を経て、I（1）について、文部科学省へ設置計画書等を提出する。また、I（1）以外の事項については、文部科学省と協議の上、概算要求等、必要な手続きを行う。

教育組織改革に係る学内会議の審議日程（予定）

令和4年3月	3日（金）	第142回	大学改革推進委員会
	3月17日（木）	第121回	経営協議会
	3月18日（金）	第227回	教育研究評議会
	3月18日（金）	第291回	役員会

設置計画書等受付期間

- ・融合学域スマート創成科学類（仮称）設置
→ 事前相談（設置届出）：令和4年4月中旬～下旬
- ・融合学域スマート創成科学類（仮称）及び観光デザイン学類の入学定員増
→ 申請期限：令和4年4月15日（金）

※ なお、設置計画書等の提出後、大学設置・学校法人審議会において審議が行われ、その審査結果については、令和4年6月中旬～下旬に本学へ伝達予定。

※ 上記について文科省から認可等を得た場合、第4期中期目標・中期計画における入学定員・収容定員等を変更する。

資料作成者：企画評価室 小島

融合系事務部総務課 各務

人間社会系事務部総務課 吉田

人間社会系事務部学生課 宮田

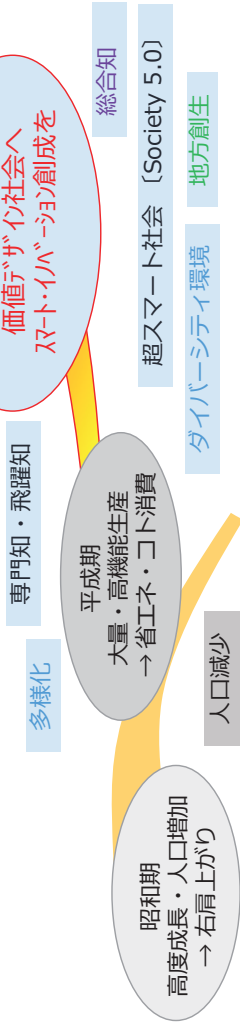
理工系事務部学生課 安田

医薬保健系事務部保健学支援課 川端

融合学域スマート創成科学類（仮称）の設置

我が国の状況

■ 我が国を「右肩下がりが」から「反転攻勢」させ、「世界で最もイノベーションに適した国」へ



■ あらゆる意味で社会が変容し、従来の知識、制度、方法等が国力の維持や強化に耐えられなくなっており、多様な脅威にさらされる立場となった。

融合学域スマート創成科学類（仮称） School for Smart Technology and Innovation

地球規模で急速に起こっている社会の変容や技術の飛躍を的確に踏まえた上で、**表出する多様な未来の諸課題**に関し、人文科学・社会科学・自然科学等の多様な知見を活用しながらその解決に取り組むとともに、**仮想と現実の高度な融合を活用して持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材**

教育課程の概要と特徴

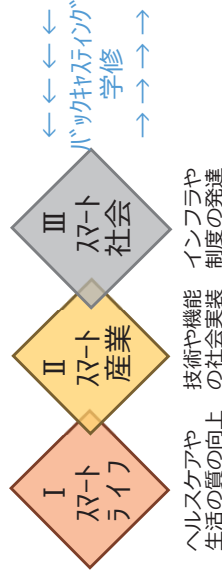
入学定員 **80名**
【3年次編入学定員 **20名**】

共通教育科目	基礎科目 知の飛躍に向けて必要となる科学技術の根幹と、未来課題に係る多面的な最新知見を修得	学知科目 未来の科学を創出するため、3つのコアエリアを学修	鍛錬科目 ・北陸産業インターンシップ等	4年
学域GS科目	実践科目 スマート創成科学に係る多様な演習科目を配置	学域GS言語科目	確立科目 ・融合研究等	3年
学域GS科目				2年
学域GS科目				1年

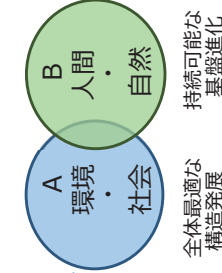
■ 1. 柔軟に学ぶ！
文理融合で基礎から応用まで
専門知識を身に付ける

- ・ 偏りのない文理融合プログラムのもと、自らの志向に合わせて最新知見や科学技術を広く深く学ぶことができる。
- ・ 3つのコアエリアと2つの探求エリアを往還的に学び、自己の「問い」を深化させる。

3つのコアエリア
【未来課題の方向性】



2つの探求エリア
【課題解決の糸口】



■ 2. 社会へ飛び出す！

- 多様なPBL（プロジェクト・ラーニング）学修で社会との共創や実装力を学ぶ
- ・ 実践科目や鍛錬科目を通じて社会との共創を学ぶ。
- ・ 多様なスマート技術を端緒に全業界での産業DXを志向し、スマートシティの構築を担う。

■ 3. 地方創生を考える！

- 魅力ある未来のスマート創成を地域での産業振興に活かす
- ・ 地域の資源、課題・知見を活かして、思考・発想・実践を多面的に捉え、脱炭素社会での経済活性化、産業創出・振興及び未来の科学を学ぶ。
- ・ 地域×本学×産業のシナジー効果を見据え、これからの地方創生をスマート化する。

- ・ 技術創発により人々の活動範囲の変革を行う**起業家**
- ・ 高い創造性と学術をもって機能革新を行う**企業内開発者**
- ・ グローバルな科学の進展を理解し人間中心の未来社会を拡充し続ける**システム制度設計者**
- ・ 農林水産業を含む全業界からスマート・リノベーションを推進する**地方創生者**等

